

図 面 目 録 1 / 2

| 図面番号 | 図 面 名 称 | 縮尺 | 図面番号 | 図 面 名 称 | 縮尺 |
|------|-----------------------|-------|------|-------------------|-------|
| D-1 | 特記仕様書（改修1）（令和4年版） | NON | D-34 | 1階平面・断面・展開詳細図（4） | 1/50 |
| D-2 | 特記仕様書（改修2）（令和4年版） | NON | D-35 | 1階平面・断面・展開詳細図（5） | 1/50 |
| D-3 | 特記仕様書（改修3）（令和4年版） | NON | D-36 | 1階平面・断面・展開詳細図（6） | 1/50 |
| D-4 | 特記仕様書（改修4）（令和4年版） | NON | D-37 | 2階平面・断面・展開詳細図（1） | 1/50 |
| D-5 | 特記仕様書（改修5）（令和4年版） | NON | D-38 | 2階平面・断面・展開詳細図（2） | 1/50 |
| D-6 | 特記仕様書（改修6）（令和4年版） | NON | D-39 | 3階平面・断面・展開詳細図（1） | 1/50 |
| D-7 | 位置図・一般平面図 | 1/250 | D-40 | 3階平面・断面・展開詳細図（2） | 1/50 |
| D-8 | 外部仕上表 | NON | D-41 | 3階平面・断面・展開詳細図（3） | 1/50 |
| D-9 | 内部仕上表（1） | NON | D-42 | 3階平面・断面・展開詳細図（4） | 1/50 |
| D-10 | 内部仕上表（2） | NON | D-43 | 3階平面・断面・展開詳細図（5） | 1/50 |
| D-11 | 改修前・後 沈砂池・ポンプ井 平面図 | 1/100 | D-44 | 4階平面・断面・展開詳細図（1） | 1/50 |
| D-12 | 改修前 1階平面図 | 1/100 | D-45 | 4階平面・断面・展開詳細図（2） | 1/50 |
| D-13 | 改修後 1階平面図 | 1/100 | D-46 | 改修前 1階天井伏図 | 1/100 |
| D-14 | 改修前 2階平面図 | 1/100 | D-47 | 改修後 1階天井伏図 | 1/100 |
| D-15 | 改修後 2階平面図 | 1/100 | D-48 | 改修前 2階天井伏図 | 1/100 |
| D-16 | 改修前 3階平面図 | 1/100 | D-49 | 改修後 2階天井伏図 | 1/100 |
| D-17 | 改修後 3階平面図 | 1/100 | D-50 | 改修前 3階天井伏図 | 1/100 |
| D-18 | 改修前 4階平面図 | 1/100 | D-51 | 改修後 3階天井伏図 | 1/100 |
| D-19 | 改修後 4階平面図 | 1/100 | D-52 | 改修前 4階天井伏図 | 1/100 |
| D-20 | 改修前・後 屋根伏図 | 1/100 | D-53 | 改修後 4階天井伏図 | 1/100 |
| D-21 | 改修前・後 東立面図 | 1/100 | D-54 | 撤去建具表 | 1/50 |
| D-22 | 改修前・後 西立面図 | 1/100 | D-55 | 新設建具表 | 1/50 |
| D-23 | 改修前・後 南立面図 | 1/100 | D-56 | 1階仮設計画平面図（参考図） | 1/100 |
| D-24 | 改修前・後 北立面図 | 1/100 | D-57 | 2階仮設計画平面図（参考図） | 1/100 |
| D-25 | 改修前 A-A断面図 | 1/100 | D-58 | 3階仮設計画平面図（参考図） | 1/100 |
| D-26 | 改修後 A-A断面図 | 1/100 | D-59 | 4階仮設計画平面図（参考図） | 1/100 |
| D-27 | 改修前 B-B断面図 | 1/100 | | | |
| D-28 | 改修後 B-B断面図 | 1/100 | S-1 | 構造細目共通図（複合構造物）（1） | NON |
| D-29 | 改修前 C-C断面図、改修前 D-D断面図 | 1/100 | S-2 | 構造細目共通図（複合構造物）（2） | NON |
| D-30 | 改修後 C-C断面図、改修後 D-D断面図 | 1/100 | S-3 | 構造細目共通図（複合構造物）（3） | NON |
| D-31 | 1階平面・断面・展開詳細図（1） | 1/50 | S-4 | 構造細目共通図（複合構造物）（4） | NON |
| D-32 | 1階平面・断面・展開詳細図（2） | 1/50 | S-5 | 構造細目共通図（複合構造物）（5） | NON |
| D-33 | 1階平面・断面・展開詳細図（3） | 1/50 | S-6 | 構造細目共通図（複合構造物）（6） | NON |

図 面 目 録 2 / 2

| 図面番号 | 図 面 名 称 | 縮尺 | 図面番号 | 図 面 名 称 | 縮尺 |
|------|--------------------|-------|-------|-----------------------------|-------|
| S-7 | 構造細目共通図（複合構造物）（7） | NON | AM-6 | 建築機械設備 改修後 B-B断面図 | 1/100 |
| S-8 | 構造細目共通図（複合構造物）（8） | NON | AM-7 | 建築機械設備 改修前 1階平面図 | 1/100 |
| S-9 | 構造細目共通図（複合構造物）（9） | NON | AM-8 | 建築機械設備 改修前 2階平面図 | 1/100 |
| S-10 | 構造細目共通図（複合構造物）（10） | NON | AM-9 | 建築機械設備 改修前 4階平面図 | 1/100 |
| S-11 | 構造細目共通図（複合構造物）（11） | NON | AM-10 | 建築機械設備 改修前 B-B断面図 | 1/100 |
| S-12 | 構造細目共通図（複合構造物）（12） | NON | | | |
| S-13 | 建築工事特記仕様書＜耐震関係＞ | NON | AE-1 | 建築電気設備 特記仕様書（1） | — |
| S-14 | ポンプ棟 補強範囲図（1） | 1/100 | AE-2 | 建築電気設備 特記仕様書（2） | — |
| S-15 | ポンプ棟 補強範囲図（2） | 1/100 | AE-3 | 建築電気設備 改修前 1階平面図 | 1/100 |
| S-16 | ポンプ棟 補強範囲図（3） | 1/100 | AE-4 | 建築電気設備 改修後 1階平面図 | 1/100 |
| S-17 | ポンプ棟 補強範囲軸組図（1） | 1/100 | AE-5 | 建築電気設備 改修前 2階平面図 | 1/100 |
| S-18 | ポンプ棟 補強範囲軸組図（2） | 1/100 | AE-6 | 建築電気設備 改修後 2階平面図 | 1/100 |
| S-19 | ポンプ棟 補強範囲軸組図（3） | 1/100 | AE-7 | 建築電気設備 改修前 3階平面図 | 1/100 |
| S-20 | ポンプ棟 補強部材リスト | 1/30 | AE-8 | 建築電気設備 改修後 3階平面図 | 1/100 |
| S-21 | ポンプ棟 補強配筋図（1） | 1/30 | AE-9 | 建築電気設備 改修前 4階平面図 | 1/100 |
| S-22 | ポンプ棟 補強配筋図（2） | 1/30 | AE-10 | 建築電気設備 改修後 4階平面図 | 1/100 |
| S-23 | ポンプ棟 補強配筋図（3） | 1/30 | AE-11 | 建築電気設備 改修前 電気室詳細図 | 1/50 |
| S-24 | ポンプ棟 補強配筋図（4） | 1/30 | AE-12 | 建築電気設備 工事期間中仮設設備・改修後 電気室詳細図 | 1/50 |
| S-25 | ポンプ棟 補強配筋図（5） | 1/30 | | | |
| S-26 | ポンプ棟 補強配筋図（6） | 1/30 | | | |
| S-27 | ポンプ棟 補強配筋図（7） | 1/30 | | | |
| S-28 | ポンプ棟 補強配筋図（8） | 1/30 | | | |
| S-29 | ポンプ棟 補強配筋図（9） | 1/30 | | | |
| S-30 | ポンプ棟 補強配筋図（10） | 1/30 | | | |
| S-31 | ポンプ棟 補強配筋図（11） | 1/30 | | | |
| S-32 | ポンプ棟 補強配筋図（12） | 1/30 | | | |
| S-33 | ポンプ棟 補強配筋図（13） | 1/30 | | | |
| | | | | | |
| AM-1 | 建築機械設備 特記仕様書（1） | — | | | |
| AM-2 | 建築機械設備 特記仕様書（2） | — | | | |
| AM-3 | 建築機械設備 改修後 1階平面図 | 1/100 | | | |
| AM-4 | 建築機械設備 改修後 2階平面図 | 1/100 | | | |
| AM-5 | 建築機械設備 改修後 4階平面図 | 1/100 | | | |

| 工事特記仕様書 | |
|--|--|
| <p>総 則</p> <p>工 事 概 要</p> <p>1. 工事場所 四日市市大字塩浜地内</p> <p>2. 工事種目 耐震・耐津波補強</p> <p>1. 共通仕様</p> <p>(1) 図面及び特記仕様に記載されてない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書(令和4年版)」(以下「改修標仕」という。)による。ただし、改修標仕に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(令和4年版)」(以下「標仕」という。)による。</p> <p>2. 特記仕様</p> <p>(1) 項目は、○印の付いたものを適用する。</p> <p>(2) 特記事項は、◎印の付いたものを適用する。</p> <p>◎印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。</p> <p>◎印と※印の付いた場合は、共に適用する。</p> <p>(3) 特記事項に記載の[. . .]内表示番号は、改修標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。</p> <p>(4) 特記事項に記載の(標 . . .)内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。</p> <p>部分完成 ○無 ・有 ()</p> <p>部分引渡し ○無 ・有 ()</p> <p>1) 保険及び保証 ○建設工事保険 (保険証の写しを提出)</p> <p>◎請負業者賠償責任保険 (保険証の写しを提出)</p> <p>(・管理財物担保特約に加入のこと)</p> <p>・任意にて加入</p> <p>2) 建設共済等 下記の制度について加入すること。</p> <p>◎法定外労災補償制度 (加入証明書の写しを提出)</p> <p>◎建設業退職金共済制度 当初の請負金額が500万円以上の場合は、掛金収納書を提出すること。また、増額の契約変更があった場合についても、その分を提出すること。 共済証紙購入額 請負金額の 1/1000以上</p> <p>なお、他の退職金制度に加入している等、共済証紙を購入する必要がない場合は、理由書の提出をもって共済証紙の購入を不要とする</p> <p>・任意にて加入</p> <p>※資材の購入及び下請け業者の選定に際しての留意事項</p> <p>資材の購入及び工事の一部を下請け業者にて施工する場合、業者の選定に際しては、出来る限り市内業者を優先させること。</p> | |

| 章 | 項 目 | 特 記 事 項 |
|--------------|------------|--|
| ①章 一般共通事項 | ①適用基準等 | ◎建築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 平成 28 年版) ※工事写真撮影ガイドブック 建築工事編及び解体工事編 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 平成 30 年版) |
| | ②工事実績情報の登録 | ※請負金額が 500万円以上の場合は、登録を行う。 [1. 1. 4] |
| | ③品質計画 | ※建築基準法に基づき定められる区分等の適用工事 ※風速 (Vo)=34 m毎秒 地表面粗度 ※Ⅲ(Zb=5 Zg=450 α=0.20) ・Ⅱ(Zb=5 Zg=350 α=0.15) 積雪区分 ※30 cm ・40 cm |
| | ④電気保安技術者 | ◎適用する。 ・適用しない。 [1. 3. 3] 事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、その電気工作物の工事に必要な電気主任技術者の資格を有する者又はこれと同等の知識及び経験を有する者とする。 一般電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする。 |
| | ⑤条件明示項目 | ◎工事用車両の駐車場及び資機材置場 ※敷地内 ・ [1. 3. 5] ◎工事着手前に周辺住民への工事説明会が開催される場合は資料作成等に協力すること。 ◎現場工事は月～金とし、土、日、祝日に作業を行う場合は、監督職員の承諾を得ること。 ◎施工作业時間は原則8:30～17:00とすること。 ◎施工に際しては、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行うこと。 ◎工事に関わる法令手続きは受注者にて行うこと。手続きに係る手数料は受注者の負担とする。 ・仮囲い等について周辺住民等の安全上、使用上支障がないように計画し、維持管理に努めること。 ◎工程計画については、関係者等と十分に調整を行った上で進めること。 ◎資機材の搬出入は第三者の安全に留意して、災害及び事故の防止に努めること。 ◎大型車両通行時には、誘導員等を配置し、安全確保に努めること。 ◎高さ10mを超える足場を60日以上設置する場合は、着手の30日前までに、設置届を所管官庁へ提出すること。 ◎道路の汚損がないように努めると共に、汚損した場合は直ちに清掃を行うこと。 ◎既設構造物を汚損した場合は、受注者負担にて補修等を行うこと。 ◎工事により発生する残土や廃材、汚泥等は適切処理を行うこと。また、必要に応じて釜場を設け、敷地外への泥水の流出を防止すること。 ◎工事期間中は、近隣住民の安全確保に努めること。 |

| | |
|---|--|
| ◎振動、騒音、ほこりのでる作業やその他について、事前に施設管理者及び近隣施設等と調整を行うこと。 | |
| ◎音の発生する工事は昼間の作業とし、早朝、夕方以降は作業を行わないこと。また、低騒音の建設重機を使用し周辺への影響に配慮すること。 | |
| ◎同一敷地内での別途工事について、協議に応じること。 | |
| ・2023/ / ~ / は工事を行わないこと。 | |
| ・工事期間は、 / ~ / とする。尚、 / ~工事担当確認後事前使用を行うこととする。 | |
| ◎高さ5mを超える箇所での作業を有する場合の墜落制止用器具はフルハーネス型を使用すること。 | |
| ◎工事施工中でも大雨等の緊急時は施設としての機能(排水)を優先するため一時中断する場合がある。 | |
| ⑥発生材の処理 | <p>・引渡しを要するもの() [1. 3. 12]</p> <p>◎特別管理産業廃棄物 ※無 ○有(アスベスト) 処理方法(最終処分(管理型))</p> <p>・特定建設資材の搬出 再資源化等を行う(再資源化が困難な場合には縮減)</p> <p>◎特定建設資材以外の搬出 ◎構外搬出適正処理</p> <p>※廃棄物管理票(マニフェスト)確認表を作成し、監督職員にA票及びD票もしくはE票の確認を受けるものとする。ただし、電子情報処理組織に登録(電子マニフェスト)により確認を行う場合は、この限りではない。</p> <p>※建設発生土を搬出する場合は、事前に書面にて処分地の報告(位置図等)を行い、処分地での処理状況が分かる写真を提出すること。また、処分地が民有地の場合、土地所有者からの建設発生土受入承諾書の写しを提出すること。</p> <p>交通安全員 ※配置する 名以上(大型車の出入は必ず) ◎配置しない [1. 3. 9]</p> <p>※本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又は同等のものとする。</p> <p>ただし、同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。</p> <p>・品質及び性能を試験により証明を求める材料は以下の物とする。 [1. 4. 5]</p> <p>()</p> <p>本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の 1) から 5) を満たすものとする。</p> <p>1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、パーティクルボード、MDF、その他木質建材、ユリア樹脂板及び仕上げ塗料は、ホルムアルデヒドを発生しないか、発生が極めて少ないものとする。</p> <p>2) 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びステレンを発生しないか、発生が極めて少ないものとする。</p> <p>3) 接着剤は、フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエンキシレン、エチルベンゼンを発生しないか、発生が極めて少ないものとする。</p> <p>4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発生しないか、発生が極めて少ないものとする。</p> <p>5) 1)及び 4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、突台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを発生しないか、発生が極めて少ないものとする。</p> <p>また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。</p> <p>規制対象外</p> <p>①J I S及びJ A SのF☆☆☆☆規格品</p> <p>②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品</p> <p>③下記表示のあるJ A S規格品</p> <p>a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用</p> <p>b. 接着剤等不使用</p> <p>c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用</p> <p>d. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用</p> <p>e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用</p> <p>f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用</p> <p>第三種</p> <p>①J I S及びJ A SのF☆☆☆☆規格品</p> <p>②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品</p> <p>③旧J I SのEo規格品</p> <p>④旧J A SのFco規格品</p> <p>改修標仕、欄仕に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。</p> <p>※適用する ・適用しない [1. 6. 2]</p> <p>◎鉄筋施工 ・型枠施工 ・鉄工 ・塗装 ・左官</p> <p>※防水施工 ・建築大工 ・サッシ施工 ・内装仕上げ施工</p> <p>施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン [1. 6. 9]</p> <p>エチルベンゼン、パラジクロロベンゼン、ステレンの濃度を測定し報告すること。</p> <p>測定は、パッシブ型採集機器により行う。</p> <p>着工前測定 ・行う ・行わない</p> <p>測定対象室 ・図示 ・</p> <p>測定箇所数 ・図示 ・</p> <p>採取方法 ・文部科学省の定めるところによる。 ・</p> <p>報告書の様式 濃度測定記録表の記載事項は、次のとおり</p> <p>1. 工事名 2. 測定年月日 3. 天候 4. 測定前の換気及び閉鎖時間</p> <p>5. 測定時間 6. 室名と測定時間 7. 測定器具</p> <p>8. 化学物質採取方法 9. 分析装置</p> |
| ⑦交通安全管理 | |
| 8 建築材料等 | |
| ⑨化学物質を発生する建築材料等 | |
| 10 特別な材料の工法 | |
| ⑪技能士 | |
| 12 化学物質の濃度測定 | |

| ⑬完成図 | <p>◎提出する ※提出しない</p> <p>※CADデータの提出 ※提出する ・提出しない</p> <p>◎電子ファイル(CD等) 2部</p> <p>◎電子データは厚さ10mm程度のケースに入れて提出すること。 電子データは、原則として、完成図書、工事写真とし、加工等が可能なデータ(図面データはDXF形式とする)とPDFデータを収録すること。</p> <p>※製本図面の提出 ※提出する ・提出しない</p> <p>◎部数 2部</p> <p>◎体裁 A4判製本(縮小版) 観音開き製本</p> <p>※表紙記入事項は下記の通りとする。</p> <p>発注者名 工事名 工事場所 工事年度 受注者名(商号または名称のみとする)</p> <p>工事記録については以下による。(A4版)</p> <p>※工事着手前写真 1部</p> <p>※工程写真 各工程毎 1部</p> <p>※竣工写真 ※内部、外部 1部</p> <p>※工事の各記録写真については、デジタル画像にて整備編集を行うよう努めること。</p> <p>※工事日報・納品伝票等の写しは、監督職員が提出を求めた場合は提出すること。</p> <p>施工範囲 ※図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の補強 ※図示した壁・天井の仕上材・下地材の切込み及び補強</p> <p>16 設計G L mm (現状地盤はB.M mm)</p> <p>⑰完成引渡し後の点検</p> <p>かし期間は、別に定めた特約(責任施工による保証期間など)を除き、四日市市工事請負契約書に準拠する。</p> <p>◎工事完成引渡し後、必要に応じて一年又は二年を超えない範囲の適当な時期に、双方立ち会いで工事目的物のかし点検を実施する。</p> <p>予定価格(税込)3000万円以上の工事は、四日市市検査規程第8条第6項の規定により、発注者が随時検査を求めた場合、監督職員の指示に従い受検すること</p> <p>公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律の定めにより、施工体制台帳の写しを提出すること。なお、営繕事業者についても記載すべき下請負の範囲に含むものとする。</p> <p>図中の縮尺はA1版表記である。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|---|------------------|-------|-----------|-----------------|------------------------------|-----|--------------------------|-------------|-------|--|-----|------|-------------------|-----|-----|----------------------------------|-------|--|------------|-----|------|-------------------|--|-----|-------------------------------|------|------------|------------------------|-----|--|------------|--|--|------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|---|--|--|------------------|--|--|
| ⑭記録 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑮設備工事との取合い | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 16 設計G L | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑰完成引渡し後の点検 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑱随時検査 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑲施工体制台帳の提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑳図面の縮尺 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ②章 仮設工事 | ①足場その他 | <p>内部足場 種別 ※きやつ、足場板等 ・ [2. 2. 1]</p> <p>外部足場 種別 ※くさび緊結式(手すり先行工法) ・ [2. 2. 1]</p> <p>防護シートによる養生 ・行わない ◎行う</p> <p>騒音・粉じん等の対策 ・行わない ◎行う(・防音パネル ◎防音シート) [2. 1. 3]</p> <p>材料、撤去材等の運搬 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・E種 [2. 2. 1][表2. 2. 1]</p> <p>既存部分の養生 ※ビニルシート、合板等 ・ [2. 3. 1]</p> <p>固定家具等の移動 ※行わない ・行う(図示)</p> <p>(a)設置箇所 ※図示 ・ [2. 3. 2][表2. 3. 1]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>下地</th> <th>仕上材(厚さmm)</th> <th>充てん材</th> <th>塗装</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・A種</td> <td>※軽量鉄骨</td> <td>・合板(※9.0 ・)</td> <td rowspan="2">厚さ mm</td> <td>※無し</td> </tr> <tr> <td>◎B種</td> <td>・木下地</td> <td>※せつこうボード(※9.5 ・)</td> <td>・片面</td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td>単管下地</td> <td>防炎シート</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>仮設扉</td> <td>※木製扉</td> <td>・合板張り程度</td> <td></td> <td>※無し</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・鋼製扉</td> <td>・片面フラッシュ程度</td> <td></td> <td>・有り</td> </tr> </tbody> </table> <p>・設ける 規模等は以下による ・既存施設の一部を使用する ※設けけない [2. 4. 1]</p> <p>(・規模 m程度 ・仕上げ; 床 ・壁 ・天井 程度)</p> <p>構内既存の施設 ※利用できる(・有償 ※無償) ・利用できない</p> <p>構内既存の施設 ※利用できる(・有償 ※無償) ・利用できない</p> | 種別 | 下地 | 仕上材(厚さmm) | 充てん材 | 塗装 | ・A種 | ※軽量鉄骨 | ・合板(※9.0 ・) | 厚さ mm | ※無し | ◎B種 | ・木下地 | ※せつこうボード(※9.5 ・) | ・片面 | ・C種 | 単管下地 | 防炎シート | | | 仮設扉 | ※木製扉 | ・合板張り程度 | | ※無し | | ・鋼製扉 | ・片面フラッシュ程度 | | ・有り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 種別 | 下地 | 仕上材(厚さmm) | 充てん材 | 塗装 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・A種 | ※軽量鉄骨 | ・合板(※9.0 ・) | 厚さ mm | ※無し | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ◎B種 | ・木下地 | ※せつこうボード(※9.5 ・) | | ・片面 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・C種 | 単管下地 | 防炎シート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 仮設扉 | ※木製扉 | ・合板張り程度 | | ※無し | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・鋼製扉 | ・片面フラッシュ程度 | | ・有り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ②養生その他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③仮設間仕切り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ④監督職員事務所 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤工事用水 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑥工事用電力 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③章 防水改修工事 | 1 既存下地の補修及び処置 | ※図示による [3. 2. 6] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 アスファルト防水 | ※図示による [3. 3. 2~3][表3. 1. 1][表3. 3. 3~10] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>防水改修工法の種類</th> <th>施工箇所</th> <th>新規防水層の種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アスファルトの種類 ※3種 ・</td> <td>押え金物 ※アルミニウム製(L-30x15x2.0程度)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>脱気装置 ・製造所の指定する製品 ・ステンレス製</td> <td>設置数量 ()箇所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>改修用ドレン ※設ける ()箇所 ※銅製 ・鉛製 ・設けけない [3. 2. 5]</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>屋根保護防水断熱工法に用いる断熱材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>材質 ※押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA(スキン層付き)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>厚さ(mm) ※35</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>材質 ※JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>厚さ(mm) ※35</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>乾式保護材 製造所の仕様による・</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防水保護のれんがの種類 ※市販品のレンガ又は市販品のレンガ形コンクリートブロック</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>保護コンクリート仕上り平たんき種別 ・a種 ・b種 ・c種 [3. 3. 5][B. 1. 4][表8. 1. 5]</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>仕上塗装(P2A, M3D, POD, P0D1, M3D1, M4D1, 工法) ※種類および使用量は製造所の仕様による</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>施工標識 ※設ける ・設けけない</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 防水改修工法の種類 | 施工箇所 | 新規防水層の種別 | アスファルトの種類 ※3種 ・ | 押え金物 ※アルミニウム製(L-30x15x2.0程度) | | 脱気装置 ・製造所の指定する製品 ・ステンレス製 | 設置数量 ()箇所 | | 改修用ドレン ※設ける ()箇所 ※銅製 ・鉛製 ・設けけない [3. 2. 5] | | | 屋根保護防水断熱工法に用いる断熱材 | | | 材質 ※押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA(スキン層付き) | | | 厚さ(mm) ※35 | | | 屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材 | | | 材質 ※JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 | | | ・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 | | | 厚さ(mm) ※35 | | | 乾式保護材 製造所の仕様による・ | | | 防水保護のれんがの種類 ※市販品のレンガ又は市販品のレンガ形コンクリートブロック | | | 保護コンクリート仕上り平たんき種別 ・a種 ・b種 ・c種 [3. 3. 5][B. 1. 4][表8. 1. 5] | | | 仕上塗装(P2A, M3D, POD, P0D1, M3D1, M4D1, 工法) ※種類および使用量は製造所の仕様による | | | 施工標識 ※設ける ・設けけない | | |
| | 防水改修工法の種類 | 施工箇所 | 新規防水層の種別 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アスファルトの種類 ※3種 ・ | 押え金物 ※アルミニウム製(L-30x15x2.0程度) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 脱気装置 ・製造所の指定する製品 ・ステンレス製 | 設置数量 ()箇所 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 改修用ドレン ※設ける ()箇所 ※銅製 ・鉛製 ・設けけない [3. 2. 5] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋根保護防水断熱工法に用いる断熱材 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 材質 ※押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA(スキン層付き) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 厚さ(mm) ※35 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 材質 ※JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 厚さ(mm) ※35 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 乾式保護材 製造所の仕様による・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 防水保護のれんがの種類 ※市販品のレンガ又は市販品のレンガ形コンクリートブロック | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 保護コンクリート仕上り平たんき種別 ・a種 ・b種 ・c種 [3. 3. 5][B. 1. 4][表8. 1. 5] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 仕上塗装(P2A, M3D, POD, P0D1, M3D1, M4D1, 工法) ※種類および使用量は製造所の仕様による | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施工標識 ※設ける ・設けけない | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 名称 | 特記仕様書(改修) 令和4年版 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 縮尺 | - | 設計年月 | 令和 年月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所 一級愛知県知事登録(いー27)第7016号 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|----------------------------|--|---|
| ※産業廃棄物税 | ※暴力団等不当介入に関する事項 | 2. 暴力団等による不当介入を受けたときの義務 |
| 本工事は産業廃棄物税相当分が計上されていないため、 | 1. 契約の解除 | (1) 不当介入には、断固拒否するとともに、速やかに警察へ通報並びに業務発注所へ報告し、警察への捜査協力を行うこと。 |
| 請負者が本工事により生じた産業廃棄物が、課税対象とな | 四日市市の締結する契約等からの暴力団等排除措置要綱(平成20年四日市市告示第28号) | (2) 契約の履行において、不当介入を受けたことにより、業務遂行に支障が生じたり、納期等に遅れが生じるおそれがあるときは、業務発注所と協議を行うこと。 |
| った場合には、翌年度に産業廃棄物納税証明書等を添付 | 第3条又は第4条の規定により、四日市市建設工事等入札参加資格停止基準に基づく | (3) (1)(2)の義務を怠ったときは、四日市市建設工事等入札参加資格停止基準に基づく入札参加資格停止等の措置を講ずる。 |
| して、本工事により生じた産業廃棄物税相当分を請求する | 入札参加資格停止措置を受けたときは、契約を解除することができる。 | |
| ことができる。 | | |

③章 防水改修工事

3 改質アスファルトシート防水 [表3.1.1][3.4.2~3][表3.4.1~3]
防水改修工の種類 施工箇所 新規防水層の種類(厚さmm) 仕上げ塗料等
仕上げ塗料の使用量 ※製造所の仕様による
脱気装置 ・製造所の指定する製品 ・ステンレス製 設置数量 ()箇所
屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材 ・製造所の指定する製品
※JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材
・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号
・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号
施工標識 ※設ける ・設けない

4 合成高分子系ルーフィングシート防水 [表3.1.1][3.5.2~3][表3.5.1~2]
防水改修工の種類 施工箇所 新規防水層の種類(厚さmm) 仕上げ塗料等
仕上げ塗料の使用量 ※製造所の仕様による
絶縁用シートの材質 ※発泡ポリエチレンシート
脱気装置 ・製造所の指定する製品 ・ステンレス製 設置数量 ()箇所
機械固定工法に用いる断熱材 ※次のいずれかによる
※JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材
・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号
・押出法ポリスチレンフォーム断熱材の1種b、2種b又は3種b
接着工法に用いる断熱材
※JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材
・ポリエチレンフォーム断熱材
改修用ドレン ※設ける ()箇所 ・設けない
※製造所の指定する製品 ・銅製 ・鉛製
施工標識 ※設ける ・設けない

④章 外壁改修工事

5 塗膜防水 [表3.1.1][3.6.2~3][表3.6.1]
防水改修工の種類 施工箇所 新規防水層の種類 仕上げ塗料等
仕上げ塗料の使用量 ※製造所の仕様による
既存塗膜防水層表面の仕上げ塗料の除去(LX工法) ・除去する
脱気装置 ・設けない ・設ける
施工標識 ※設ける ・設けない

3 ひび割れ部改修工法
・樹脂注入工法 (・モルタル面 ・躯体コンクリート面) [4.1.4][4.2.5]
注入工法の種類 ひび割れ幅(mm) 注入口間隔(mm) 注入量(cc/m) 備考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
0.2以上~1.0未満 ※200~300 ※
・手動式エポキシ樹脂注入工法
0.2以上~0.3未満 ※50~100 ※40
0.3以上~0.5未満 ※100~200 ※70
・機械式エポキシ樹脂注入工法
0.5以上~1.0未満 ※150~250 ※130
注入材料 [4.2.4]
※建築補修用注入エポキシ樹脂(JIS A 6024低粘度形又は中粘度形)
検査(コア抜取り) ・行わない
※行う(抜取り部の補修方法:)
・Uカットシール材充填工法 [4.1.4][4.2.4][4.2.6]
充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系シーリング材
・可とう性エポキシ樹脂
ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない
・シール工法 [4.1.4][4.2.4][4.2.7]
シール材料 ・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂
※充填工法 [4.1.4][4.2.4][4.2.8]
充填材料 ・ポリマーセメントモルタル(・モルタル面 ・コンクリート面 ・CB面)
・エポキシ樹脂モルタル()
・モルタル塗替え工法(改修標識4.3.5(5)による)

4 欠損部改修工法
5 浮き部改修工法 [4.1.4][4.3.10~16][表4.4.3~4]
改修工法の種類 アンカーピンの本数(本/m²) 注入口の箇所数(箇所/m²) 充填率(モルタルを撤去しない場合) 一般部 指定部 一般部 指定部 注入量
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ※16 ※25 ※25ml
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ※13 ※20 ※12 ※20 ※25ml
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ※13 ※20 ※12 ※20 ・25ml ※50ml
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 ※25ml
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 ※9 ※16 ※25ml
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ※9 ※16 ※9 ※16 ※50ml
※狭幅部におけるアンカーピン本数は、幅中央に5本/mとする
アンカーピン [4.2.4]
材質 ※ステンレス SUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの
注入口付アンカーピン [4.2.4]
材質 ※ステンレス SUS304、呼び径外径6mm

6 既存塗膜等の除去及び下地処理 [4.5.4][表4.5.4~7]
工法 処理範囲 下地面の補修
・サンダー工法 ※既存仕上面全体 ・ひび割れ部改修工法
・高圧水洗工法 ※既存仕上面全体 ・浮き部改修工法
・塗膜はく離剤工法 ※既存仕上面全体 ・欠損部改修工法
・水洗い工法 ※上記処理範囲以外の既存仕上面全体

7 仕上塗材仕上げ [4.1.4][4.2.4][表4.2.4~5]
種類 呼び名 仕上げの形状
○薄付け仕上塗材 ○外装薄塗材E ・可とう形外装薄塗材E ・防水形外装薄塗材E
○複層仕上塗材 ・複層塗材CE ・可とう形複層塗材CE ・複層塗材E
○複層塗材RE ・防水形複層塗材CE ・防水形複層塗材E
防水形の増塗材 ・行う
・可とう形改修用仕上塗材 ※可とう形改修塗材E ・可とう形改修塗材RE
・平たん状 ・さざ波状 ※ゆず肌状
上塗材 ・アクリル ・ウレタン
※シリコン ・ふっ素
外観 ・吹付 ※ローラー
仕上げ ※薄付け ・厚付け

⑤章 建具改修工事

8 設計数量
外壁部位 種類 工法 数量 備考
・コンクリート打放し面 ・ひび割れ ※Uカットシール材充填工法
・欠損部 ※エポキシ樹脂モルタル充填工法
・モルタル塗り仕上げ面 ・ひび割れ ※Uカットシール材充填工法
・自動式低圧エポキシ樹脂注入工法
・欠損部 ※充填工法
・浮き部 ※アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
※上記数量については、現場調査を行い報告書を作成し、提出する。尚、数量の10%を超える増減が生じた場合は協議の上、契約変更を行う事ができる。
①改修工法 ・かぶせ工法 ○撤去工法(・引き抜き工法 ○はつり工法)
2 見本の製作等 ・建具見本の製作 ・特殊な建具の仮組
3 アルミニウム製建具 外部に面する建具(フロントサッシは除く)
種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施工箇所
・A種 S-4 A-3 W-4 ※70 ※図示
・B種 S-5 ※100
・C種 S-6 A-4 W-5 ・70 ・100
表面処理 ※BB-1種 ・BB-2種(※'ロウ'系 ・ブラック ・スチール)
内部建具 表面処理 ※AC-1又はBB-1種 ・AC-2又はBB-2種(※'ロウ'系 ・ブラック ・スチール)
4 網戸 防虫網
網の種類 ※ステンレス(SUS316)製 ・合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製
形式 ※可動式 ・固定式
5 樹脂製建具 外部に面する建具(フロントサッシは製造所の仕様による)
種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施工箇所
・A種 S-4 A-4 W-4 ・70 ※図示
・B種 S-5 W-5 ・100
・C種 S-6
・防音ドアセット及び防音サッシの適用 種別 ・T-A種 ・T-B種
・断熱ドアセット及び断熱サッシの適用 種別 ・H-A種 ・H-B種 ・H-C種
簡易気密型ドア ○使用する ※使用しない
品質規格 ※改修標識表5.5.1による
・製造所標準仕様による
簡易気密型ドア ・使用する ※使用しない
表面仕上げ ※H工仕上げ ・鏡面仕上げ
曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ
簡易気密型ドア ・使用する ※使用しない
材料の含水率
※A種
・B種
マスターキー ・製作する ○製作しない(既存マスターキーに合わせる)
モノロック ゴール() 美和ロック()
シリンドー箱錠 ゴール() 美和ロック()
シリンドー本締り錠 ゴール() 美和ロック()
ドアクローザー ダイハツディーゼル機器(大島機工、ニッカナ)
日本ドアチェック製造、美和ロック、リヨービ
フロアヒンジ 大島機工(ニッカナ、美和ロック)、日本ドアチェック製造、リヨービ
ヒンジクローザー 大島機工(ニッカナ、美和ロック)、日本ドアチェック製造、リヨービ、デンセイオートテック
押板、取手 樹建工業、ユニオン
11 自動ドア開閉装置 開閉方法 ※引き戸 ・多機能トイレ用引き戸
センサーの種類 ・光線センサー ・熱線センサー
12 自閉式上吊り引戸装置 品質規格 ※改修標識5.10.31による
・製造所標準仕様による

事業名 令和4年度 公共下水道事業
工事名 磯津第1ポンプ場耐震補強工事
工事場所 四日市市大字塩浜地内
名称 特記仕様書(改修2) 令和4年版
縮尺 - 設計年月 令和 年月
職種 設計者 (株)NJS
事業主体 四日市市 図面番号 D-2

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
一級愛知県知事登録(いー27)第7016号
一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

5章 建具改修工事

| | |
|--------------|--|
| 13 重量シャッター | <p>種類 ・管理用シャッター ・外壁用防火シャッター [5.11.2][表5.11.1]</p> <p>・屋内用防火シャッター ・屋内用防煙シャッター</p> <p>開閉機能 ※上部電動式(手動併用) ・上部手動式 [5.11.2]</p> <p>スラット 材質 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・溶融亜鉛めっき鋼板 [5.11.3]</p> <p>形状 ※インターロッキング形 ・オーバーラッピング形 [5.11.2]</p> <p>シャッターケース(防火・防煙以外のもの) ・設ける ・設けない</p> <p>危害防止機構 ・障害物感知装置(自動閉鎖型)</p> <p>耐風圧性能 () N/m² (一般重量・外壁用防火のもの)</p> |
| 14 軽量シャッター | <p>開閉形式 ※手動式 ・上部電動式(手動併用) [5.12.2][表5.12.1]</p> <p>スラット 材質 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・ [5.12.3]</p> <p>形状 ・インターロッキング形 ・オーバーラッピング形 [5.12.4]</p> <p>耐風圧性能 () N/m²</p> |
| 15 その他のシャッター | <p>・オーバーヘッドドア</p> <p>・リンググリルシャッター</p> |
| ⑯ ガラス | 種類・厚さ ※ 建具表による [5.14.2] |
| ⑰ ガラスの留め材 | <p>種別(区分は図示による) [5.14.2]</p> <p>※シーリング材(SR-1、ソロン系、9030G) ・ガasket</p> |
| 18 ガラス用フィルム | <p>品質は、JIS A5759による</p> <p>※ガラス飛散防止フィルム 種類(・第2種 ・) 張り面(※内張 ・外張)</p> <p>性能値 ※層間変位試験に適合するもの(B法)</p> |

⑥章内装改修工事

| ①改修範囲 | <p>既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井、壁、床の改修範囲 [6.1.3]</p> <p>※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ○図示による範囲</p> <p>天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲</p> <p>※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ○図示による範囲</p> <p>天井の撤去に伴う取合い部の壁面の改修範囲</p> <p>※既存のまま ○図示による範囲</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|-----------------------------|-------|-------|------|---------|-----------------------------|--------------|-------------------------|--------------------------|---------|--------|------|-------------|--|--|--|-----------|--|--|--|--------|--|--|--|
| ②既存床の撤去並びに下地補修 | <p>ビニル床シート等の撤去 ※仕上げ材のみ(接着剤とも) [6.2.2]</p> <p>・下地モルタルとも(※図示の範囲 ・除去範囲全て)</p> <p>改修後の床の清掃範囲 ※改修箇所の室内 ・図示</p> <p>合成樹脂塗床の除去 ・機械的除去工法 ・目荒工法</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③既存壁の撤去並びに下地補修 | <p>間仕切り壁撤去に伴う他の構造体の補修 [4.3.10][6.3.2]</p> <p>※図示 ・モルタル塗り(塗り厚25mmを超える場合の補強 ・行う ・行わない)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 木下地等 | <p>表面の仕上げ 機械加工 ・A種 ・B種 ・C種 [6.5.1][表6.5.1]</p> <p>手加工 ・H-A種 ・H-B種 ・H-C種 [6.5.1][表6.5.2]</p> <p>木材の含水率 ※A種 ・B種 [6.5.2][表6.5.3]</p> <p>木材の品質 ※改修標準仕6.5.2による ・市販品 [6.5.2][表6.5.4]</p> <p>樹種 構造材 ※杉 ・松 ・ひのき</p> <p>造作材 ※杉 ・松 ・ひのき</p> <p>防蟻防蟻処理 ※行わない ・行う(箇所一)</p> <p>木材保存(木材の防蟻・防蟻処理)剤は、監督職員の承諾するものとする。</p> <p>※9.0mm未満の合板上張り留め付けはタッカー留めとする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 集成材等 | <p>集成材又は単板積層材の材質 [6.5.2]</p> <p>ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種</p> <table border="1"> <tr> <th>品名</th> <th>規格・品質</th> <th>芯材の種類</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・造作用集成材</td> <td>※1等 ・2等</td> <td>・たも ・なら ・しおじ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・化粧ばり造作用集成材</td> <td>※1等 ・2等</td> <td>・単一針葉樹</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・化粧ばり構造用集成材</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・造作用単板積層材</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・直交集成材</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | 品名 | 規格・品質 | 芯材の種類 | 施工箇所 | ・造作用集成材 | ※1等 ・2等 | ・たも ・なら ・しおじ | | ・化粧ばり造作用集成材 | ※1等 ・2等 | ・単一針葉樹 | | ・化粧ばり構造用集成材 | | | | ・造作用単板積層材 | | | | ・直交集成材 | | | |
| 品名 | 規格・品質 | 芯材の種類 | 施工箇所 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・造作用集成材 | ※1等 ・2等 | ・たも ・なら ・しおじ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・化粧ばり造作用集成材 | ※1等 ・2等 | ・単一針葉樹 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・化粧ばり構造用集成材 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・造作用単板積層材 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・直交集成材 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑥接着剤 | <p>※木工事に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 [6.5.3]</p> <p>※壁紙、ビニル床タイル、ビニル床シート、幅木に使用する接着剤の [6.8.2][6.14.2]</p> <p>ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 床板張り | <p>フローリング及び縁甲板張り床 [表6.5.10]</p> <table border="1"> <tr> <th>下張り用床板</th> <th>※無し</th> <th>・有り</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※合板張り ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・</td> </tr> <tr> <th>床板</th> <th>※単層フローリング(標準仕19.5.2)による</th> <th>ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種</th> </tr> <tr> <td></td> <td>・縁甲板</td> <td>※ひのき</td> </tr> </table> | 下張り用床板 | ※無し | ・有り | | | ※合板張り ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・ | 床板 | ※単層フローリング(標準仕19.5.2)による | ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 | | ・縁甲板 | ※ひのき | | | | | | | | | | | | |
| 下張り用床板 | ※無し | ・有り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ※合板張り ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 床板 | ※単層フローリング(標準仕19.5.2)による | ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・縁甲板 | ※ひのき | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| ⑧軽量鉄骨天井下地 | <p>野縁等の種類 屋内(※19形 ・25形) 屋外(※25形 ・19形) [6.6.2][表6.6.1]</p> <p>既存の埋込みインサート ・使用する ○使用しない [6.6.4]</p> <p>あと施工アンカーの引抜き試験 ・行う ○行わない</p> <p>耐震補強 ・行う(図示)</p> <p>屋外軒天井及びピロティ天井補強 ※図示</p> <p>スタッドの高さが5mを超える場合 ※図示</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|---|---------------------------------|-----------|------|---------|----------|-----------|-------------|------------|-----------|--------------|-----------|--|---------|---------------|---|---|-------|----------|----|-----|---------|--------|---------|-------|------------|------|----------|--------|---------------|----|---|--|-----------------|----|--------|---------|------|---------|-----------|------------|------|---------------------------------|------------|---|---------------------------------|-----------------|---|------------|--|--|--|--|----|----|----|----|----------------|----------|-------------------|------|-----------|--|-----------|-------|--------------|--|--|--|
| 9 軽量鉄骨壁下地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑩ビニル床シート | <p>工法 ※熱溶接工法 ・突付け(施工箇所) [6.8.2~3]</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>JISの記号</th> <th>色柄</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>※発泡層のないもの</td> <td>※FS</td> <td>・無地 ※マーブル柄</td> <td>・2.5 ※2.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・発泡層のあるもの</td> <td></td> <td>※柄物 ・無地</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>接着材 ※改修標準仕6.8.1による ・エポキシ樹脂系</p> <p>[6.8.2]</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>JISの記号</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>※単層ビニル床タイル</td> <td>TT</td> <td>※2.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・複層ビニル床タイル</td> <td>FT</td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・コンポジションビニル床タイル</td> <td>KT</td> <td>・</td> <td></td> </tr> </table> <p>接着材 ※改修標準仕6.8.1による ・エポキシ樹脂系</p> <p>[6.8.2]</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>性能</th> </tr> <tr> <td>※単層ビニル床タイル</td> <td>※2.0</td> <td>体積抵抗値 1.0x10⁹ Ω以下又は</td> </tr> <tr> <td>・複層ビニル床タイル</td> <td>・</td> <td>漏えい抵抗値 1.0x10¹⁰ Ω以下</td> </tr> <tr> <td>・コンポジションビニル床タイル</td> <td>・</td> <td></td> </tr> </table> | 種類 | JISの記号 | 色柄 | 厚さ(mm) | 備考 | ※発泡層のないもの | ※FS | ・無地 ※マーブル柄 | ・2.5 ※2.0 | | ・発泡層のあるもの | | ※柄物 ・無地 | | | ・ | | | | | 種類 | JISの記号 | 厚さ(mm) | 備考 | ※単層ビニル床タイル | TT | ※2.0 | | ・複層ビニル床タイル | FT | ・ | | ・コンポジションビニル床タイル | KT | ・ | | 種類 | 厚さ(mm) | 性能 | ※単層ビニル床タイル | ※2.0 | 体積抵抗値 1.0x10 ⁹ Ω以下又は | ・複層ビニル床タイル | ・ | 漏えい抵抗値 1.0x10 ¹⁰ Ω以下 | ・コンポジションビニル床タイル | ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 種類 | JISの記号 | 色柄 | 厚さ(mm) | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ※発泡層のないもの | ※FS | ・無地 ※マーブル柄 | ・2.5 ※2.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・発泡層のあるもの | | ※柄物 ・無地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 種類 | JISの記号 | 厚さ(mm) | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ※単層ビニル床タイル | TT | ※2.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・複層ビニル床タイル | FT | ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・コンポジションビニル床タイル | KT | ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 種類 | 厚さ(mm) | 性能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ※単層ビニル床タイル | ※2.0 | 体積抵抗値 1.0x10 ⁹ Ω以下又は | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・複層ビニル床タイル | ・ | 漏えい抵抗値 1.0x10 ¹⁰ Ω以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・コンポジションビニル床タイル | ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 ビニル床タイル | <p>視覚障害者用床タイル [6.8.2]</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>寸法(mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・塩化ビニル製</td> <td>※300×300</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・レジンコンクリート製</td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・磁器又はせっ器質タイル</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | 種類 | 寸法(mm) | 施工箇所 | ・塩化ビニル製 | ※300×300 | | ・レジンコンクリート製 | ・ | | ・磁器又はせっ器質タイル | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 種類 | 寸法(mm) | 施工箇所 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・塩化ビニル製 | ※300×300 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・レジンコンクリート製 | ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・磁器又はせっ器質タイル | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 帯電防止ビニル床タイル | <p>高さ(mm) ※60 ・75 ・100 ○図示</p> <p>・織じゅうたん [6.9.2~3][表6.9.1~2]</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>バイル形状</th> <th>色柄等</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・A種</td> <td>・カットバイル</td> <td>※無地</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・B種</td> <td>・ループバイル</td> <td>・柄物(標準品)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td>・カット、ループバイル併用</td> <td>・</td> <td></td> </tr> </table> <p>耐電性 ※人体帯電圧3kV以下 ・</p> <p>・タフテッドカーペット [6.9.2~3][表6.9.2]</p> <table border="1"> <tr> <th>バイル形状</th> <th>バイル長(mm)</th> <th>工法</th> <th>帯電性</th> </tr> <tr> <td>・カットバイル</td> <td>※5~7</td> <td>※全面接着工法</td> <td>人体帯電圧</td> </tr> <tr> <td>・ループバイル</td> <td>※4~6</td> <td>・グリッパー工法</td> <td>※3kV以下</td> </tr> <tr> <td>・カット、ループバイル併用</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>耐電性 ※人体帯電圧3kV以下 ・</p> <p>・タイルカーペット [6.9.2~3][表6.9.2]</p> <table border="1"> <tr> <th>バイル形状</th> <th>種類</th> <th>寸法(mm)</th> <th>総厚さ(mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・ループバイル</td> <td>※第一種 ・第二種</td> <td>※500×500</td> <td>※6.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・カットバイル</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・カット、ループ併用</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>・下敷き材 種類 ※第二種二号 厚さ 8.0mm [6.10.3][表6.10.4~8]</p> <p>・弾性ウレタン塗床材 ※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ</p> <p>・エポキシ樹脂塗床材 ※薄膜流しのべ仕上げ(※平滑 ・防滑)</p> <p>・厚膜流しのべ仕上げ(※平滑 ・防滑)</p> <p>・樹脂モルタル仕上げ(※平滑 ・防滑)</p> <p>ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 [6.11.2~7][表6.11.1~4]</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>樹種</th> <th>工法</th> <th>塗装</th> </tr> <tr> <td>※天然木化粧複合フローリング</td> <td>※なら ・ひのき</td> <td>※釘止め工法(・A種・B種・C種)</td> <td>※塗装品</td> </tr> <tr> <td>・単層フローリング</td> <td></td> <td>・接着剤併用釘留め</td> <td>・無塗装品</td> </tr> <tr> <td>・モザイクパーケット張り</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種</p> | 種別 | バイル形状 | 色柄等 | 備考 | ・A種 | ・カットバイル | ※無地 | | ・B種 | ・ループバイル | ・柄物(標準品) | | ・C種 | ・カット、ループバイル併用 | ・ | | バイル形状 | バイル長(mm) | 工法 | 帯電性 | ・カットバイル | ※5~7 | ※全面接着工法 | 人体帯電圧 | ・ループバイル | ※4~6 | ・グリッパー工法 | ※3kV以下 | ・カット、ループバイル併用 | ・ | | | バイル形状 | 種類 | 寸法(mm) | 総厚さ(mm) | 施工箇所 | ・ループバイル | ※第一種 ・第二種 | ※500×500 | ※6.5 | | ・カットバイル | | | | | ・カット、ループ併用 | | | | | 種別 | 樹種 | 工法 | 塗装 | ※天然木化粧複合フローリング | ※なら ・ひのき | ※釘止め工法(・A種・B種・C種) | ※塗装品 | ・単層フローリング | | ・接着剤併用釘留め | ・無塗装品 | ・モザイクパーケット張り | | | |
| 種別 | バイル形状 | 色柄等 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・A種 | ・カットバイル | ※無地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・B種 | ・ループバイル | ・柄物(標準品) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・C種 | ・カット、ループバイル併用 | ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| バイル形状 | バイル長(mm) | 工法 | 帯電性 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・カットバイル | ※5~7 | ※全面接着工法 | 人体帯電圧 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・ループバイル | ※4~6 | ・グリッパー工法 | ※3kV以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・カット、ループバイル併用 | ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| バイル形状 | 種類 | 寸法(mm) | 総厚さ(mm) | 施工箇所 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・ループバイル | ※第一種 ・第二種 | ※500×500 | ※6.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・カットバイル | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・カット、ループ併用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 種別 | 樹種 | 工法 | 塗装 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ※天然木化粧複合フローリング | ※なら ・ひのき | ※釘止め工法(・A種・B種・C種) | ※塗装品 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・単層フローリング | | ・接着剤併用釘留め | ・無塗装品 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・モザイクパーケット張り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 誘導用及び注意喚起用床材 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑭ビニル幅木 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 カーペット敷き | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 16 合成樹脂塗床 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 17 フローリング張り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 18 畳敷き | <p>種別 ・A種 ・B種 ・C種 ※D種(KT-III) [6.12.2][表6.12.1]</p> <p>[6.13.2][表6.13.1]</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>JISの記号</th> <th>厚さ(mm)、規格等</th> </tr> <tr> <td>・硬質毛モセメント板</td> <td>HW</td> <td>・15 ・20 ・25 ・</td> </tr> <tr> <td>・普通毛モセメント板</td> <td>NW</td> <td>・15 ・20 ・25 ・</td> </tr> <tr> <td>・けい酸カルシウム板</td> <td>0.8FK</td> <td>無石棉 ※6 ・8 ・</td> </tr> <tr> <td>○ロックウール化粧吸音板</td> <td>DR</td> <td>※フットハイブ(※9(不燃) ○12 ・)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・凹凸ハイブ(※12(不燃) ・19 ・)</td> </tr> <tr> <td>・せっこうボード</td> <td>GB-R</td> <td>※12.5(不燃) ・9.5(準不燃)</td> </tr> <tr> <td>○不燃積層せっこうボード</td> <td>GB-NC</td> <td>9.5(不燃) 化粧無(下地張り用) 化粧有(トラバチ模様)</td> </tr> <tr> <td>・強化せっこうボード</td> <td>GB-F</td> <td>・12.5(不燃) ・15.0(不燃)</td> </tr> <tr> <td>・シージング石こうボード</td> <td>GB-S</td> <td>・12.5(不燃)</td> </tr> <tr> <td>・化粧せっこうボード</td> <td>GB-D</td> <td>・12.5(不燃) ・9.5(準不燃)</td> </tr> <tr> <td>・せっこうラスボード</td> <td>GB-L</td> <td>・9.5</td> </tr> <tr> <td>・メラミン樹脂化粧板</td> <td></td> <td>JIS K 6903による 厚さ1.2</td> </tr> <tr> <td>・パーティクルボード</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・化粧けい酸カルシウム板</td> <td>0.8FK</td> <td>※6</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>合板類、繊維板、パーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種</p> <p>軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 ※適用する ・適用しない</p> | 種類 | JISの記号 | 厚さ(mm)、規格等 | ・硬質毛モセメント板 | HW | ・15 ・20 ・25 ・ | ・普通毛モセメント板 | NW | ・15 ・20 ・25 ・ | ・けい酸カルシウム板 | 0.8FK | 無石棉 ※6 ・8 ・ | ○ロックウール化粧吸音板 | DR | ※フットハイブ(※9(不燃) ○12 ・) | | | ・凹凸ハイブ(※12(不燃) ・19 ・) | ・せっこうボード | GB-R | ※12.5(不燃) ・9.5(準不燃) | ○不燃積層せっこうボード | GB-NC | 9.5(不燃) 化粧無(下地張り用) 化粧有(トラバチ模様) | ・強化せっこうボード | GB-F | ・12.5(不燃) ・15.0(不燃) | ・シージング石こうボード | GB-S | ・12.5(不燃) | ・化粧せっこうボード | GB-D | ・12.5(不燃) ・9.5(準不燃) | ・せっこうラスボード | GB-L | ・9.5 | ・メラミン樹脂化粧板 | | JIS K 6903による 厚さ1.2 | ・パーティクルボード | | | ・化粧けい酸カルシウム板 | 0.8FK | ※6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|--------------------------------|----------------|------------|------------|------|---------------|--------------|-----------|---------------|------------|--------------|----------------|--------------|----------|------------------------|------|----------|------------------------|----------|----------|---------------------|--------------|-------|--------------------------------|------------|------|---------------------|--------------|------|-----------|------------|----------|---------------------|------------|------|------|------------|---|---------------------|------------|---|---|--------------|-------|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|--|--|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|--|--|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 種類 | JISの記号 | 厚さ(mm)、規格等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・硬質毛モセメント板 | HW | ・15 ・20 ・25 ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・普通毛モセメント板 | NW | ・15 ・20 ・25 ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・けい酸カルシウム板 | 0.8FK | 無石棉 ※6 ・8 ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ロックウール化粧吸音板 | DR | ※フットハイブ(※9(不燃) ○12 ・) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・凹凸ハイブ(※12(不燃) ・19 ・) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・せっこうボード | GB-R | ※12.5(不燃) ・9.5(準不燃) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○不燃積層せっこうボード | GB-NC | 9.5(不燃) 化粧無(下地張り用) 化粧有(トラバチ模様) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・強化せっこうボード | GB-F | ・12.5(不燃) ・15.0(不燃) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・シージング石こうボード | GB-S | ・12.5(不燃) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・化粧せっこうボード | GB-D | ・12.5(不燃) ・9.5(準不燃) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・せっこうラスボード | GB-L | ・9.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・メラミン樹脂化粧板 | | JIS K 6903による 厚さ1.2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・パーティクルボード | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・化粧けい酸カルシウム板 | 0.8FK | ※6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑰せっこうボードの目地処理 | <p>目地処理の種類等 [6.13.3][表6.13.5]</p> <p>・縫目処理工法 施工場所()</p> <p>・突付け工法 施工場所()</p> <p>・目遣し工法 施工場所()</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 21 壁紙張り | <p>[6.14.3]</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>壁紙の種類</th> <th>防火性能</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td>※量産加工 ・</td> <td>・不燃 ・準不燃 ・難燃</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・不燃 ・準不燃 ・難燃</td> <td></td> </tr> </table> <p>モルタル及びプラスター面の下地調整 ・RA種 ※RB種 ・RC種 [表7.3.4]</p> <p>石こうボード及びその他ボード面の下地調整 ・RA種 ※RB種 ・RC種 [表7.3.7]</p> <p>ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種</p> <p>タイルの種類 [6.16.3]</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">形状寸法(mm)</th> <th rowspan="2">用途による区分</th> <th colspan="2">耐凍害性</th> <th colspan="2">色調</th> <th colspan="2">うわぐすり</th> <th colspan="2">役物</th> </tr> <tr> <th>無</th> <th>有</th> <th>標準</th> <th>特注</th> <th>無釉</th> <th>施釉</th> <th>無</th> <th>有</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・屋内 ・壁</td> <td>※</td> <td>・</td> <td>※</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・屋内 ・壁</td> <td>※</td> <td>・</td> <td>※</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・屋内 ・壁</td> <td>※</td> <td>・</td> <td>※</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・屋内 ・壁</td> <td>※</td> <td>・</td> <td>※</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>タイルの見本焼き ※行わない ・行う(※外装タイル ・)</p> <p>内装タイル ・改良積上げ張り [6.16.3][表6.16.4]</p> <p>※壁タイル接着剤張り [6.16.4][表6.16.6]</p> | 施工箇所 | 壁紙の種類 | 防火性能 | 備考 | | ※量産加工 ・ | ・不燃 ・準不燃 ・難燃 | | | | ・不燃 ・準不燃 ・難燃 | | 施工箇所 | 形状寸法(mm) | 用途による区分 | 耐凍害性 | | 色調 | | うわぐすり | | 役物 | | 無 | 有 | 標準 | 特注 | 無釉 | 施釉 | 無 | 有 | | | ・屋内 ・壁 | ※ | ・ | ※ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | | | ・屋内 ・壁 | ※ | ・ | ※ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | | | ・屋内 ・壁 | ※ | ・ | ※ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | | | ・屋内 ・壁 | ※ | ・ | ※ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ |
| 施工箇所 | 壁紙の種類 | 防火性能 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ※量産加工 ・ | ・不燃 ・準不燃 ・難燃 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・不燃 ・準不燃 ・難燃 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施工箇所 | 形状寸法(mm) | 用途による区分 | 耐凍害性 | | 色調 | | うわぐすり | | 役物 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 無 | 有 | 標準 | 特注 | 無釉 | 施釉 | 無 | 有 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・屋内 ・壁 | ※ | ・ | ※ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・屋内 ・壁 | ※ | ・ | ※ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・屋内 ・壁 | ※ | ・ | ※ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・屋内 ・壁 | ※ | ・ | ※ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 23 セルフレベリング | <p>セルフレベリング材の種類 ・せっこう系 ※セメント系 [6.17.2][表6.17.1]</p> <p>※厚み(mm程度)</p> <p>(標準19.9.2~3)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>施工箇所</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>品質等</th> </tr> <tr> <td>・押出法</td> <td>※2種b</td> <td>※25</td> <td>※ノンフロンのもの</td> </tr> <tr> <td>ポリスチレンフォーム</td> <td>※3種b</td> <td>※25</td> <td>・特定フロンを使用しないもの</td> </tr> <tr> <td>保温板</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・現場発泡断熱材</td> <td>※断熱材補修部分</td> <td></td> <td>ノンフロンタイプ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・一般部</td> <td>※15</td> <td>・HFCタイプ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>難燃性・3級 ・2級</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・難燃材料相当品</td> </tr> </table> <p>ロックウール、グラスウール、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種</p> | 種類 | 施工箇所 | 厚さ(mm) | 品質等 | ・押出法 | ※2種b | ※25 | ※ノンフロンのもの | ポリスチレンフォーム | ※3種b | ※25 | ・特定フロンを使用しないもの | 保温板 | | | | ・現場発泡断熱材 | ※断熱材補修部分 | | ノンフロンタイプ | | ・一般部 | ※15 | ・HFCタイプ | | | | 難燃性・3級 ・2級 | | | | ・難燃材料相当品 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 種類 | 施工箇所 | 厚さ(mm) | 品質等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・押出法 | ※2種b | ※25 | ※ノンフロンのもの | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ポリスチレンフォーム | ※3種b | ※25 | ・特定フロンを使用しないもの | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 保温板 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・現場発泡断熱材 | ※断熱材補修部分 | | ノンフロンタイプ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・一般部 | ※15 | ・HFCタイプ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 難燃性・3級 ・2級 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ・難燃材料相当品 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 24 断熱材 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
一級愛知県知事登録(いー27)第7016号
一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

| | |
|------|------------------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 |
| 名称 | 特記仕様書(改修3) 令和4年版 |
| 縮尺 | - |
| 設計年月 | 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 D-3 |

⑥章 内装改修工事

| | | | | | | |
|--|-----------------|---|---------------------|---------------------------------|---------------------------|---------------------|
| 25 | フリーアクセスフロア | (標20.2.2) | | | | |
| | | 施工箇所 | 仕上り高 | 耐震性能 | 耐荷重性能 ・3000N ・5000N | |
| | | 表面仕上げ材 ・帯電防止床タイル ・タイルカーペット | | | | |
| | | スロープ及びボーダー ※製造所の標準仕様 図示 | | | | |
| | | 26 | 可動間仕切 | (標20.2.3) | | |
| | | | | 構造形式 | ハ'林部の総厚さ(mm) | 表面材種 厚さ(mm) |
| | | | | ※パネル式 ・スタッド式 ・スタッドパネル式 | | ※鋼板 (※0.6 - 0.8) |
| | | | | 表面仕上げ ※メラミン樹脂又は アクリル樹脂焼付け | | |
| | | 遮音性 ・あり () ・なし | | | | |
| | | 27 | 移動間仕切り | 操作方法 ・手動式 ・電動式 ・部分電動式 (標20.2.4) | | |
| パネル表面材 () 遮音性 () パネル及び圧着装置の操作方法 () | | | | | | |
| 28 | トイレブース | パネル表面材 ※高圧メラミン樹脂系化粧板(アルミ製コーナーエッジ付き) (標20.2.5) ・ポリエステル樹脂系化粧板(アルミ製コーナーエッジ付き) | | | | |
| | | 脚部 (ステン製) ※幅木タイプ ・脚金物タイプ | | | | |
| 29 | 階段滑り止め | 材種 ※ステンレス製ビニルタイヤ入り (標20.2.6) | | | | |
| | | 寸法 ※幅 35mm ・ 取付け工法 ※接着工法 ・埋込み工法 (標20.2.8) | | | | |
| 30 | 黒板及び ホワイトボード | 種類 | | | | |
| | | ・黒板 | ※ホーロー ※焼付け | ※緑 ・黒 | | |
| | | ・ホワイト ボード | ※ホーロー | ※白 | | |
| | | 備考 ・平面 ・曲面 | | | | |
| 31 | ブラインド | ・既存再使用する(養生方法) ([2.3.1][5.1.6]) | | | | |
| | | ・新設する (標20.2.12) | | | | |
| | | 形式 | 種類 | スラットの材種・幅(mm) | | |
| | | ※横型 | ※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式 | ※アルミニウム合金 ※25 | | |
| 32 | ロールスクリーン | 材種・品質 () (標20.2.13) | | | | |
| | | 操作方法 () | | | | |
| 33 | カーテン | ・既存再使用する(養生方法) ([2.3.1][5.1.6]) | | | | |
| | | ・新設する (標20.2.14) | | | | |
| | | 施工箇所 | 名称・品質 | ひだの種類 | | |
| | | | | ・箱ひだ等 ・片ひだ | | |
| 34 | 点検口 | 防火加工 消防庁認定の ① とする | | | | |
| | | カーテンレール ・アルミニウム製 ※ステンレス製 ※C型又はD型 カーテンきれ地のはぎれ ※半幅未満は使用しない ・一幅未満は使用しない 暗幕用カーテンの重なりは300mm以上とする。なお、重ねか所は下記による。 ・両端 ・上部 ※召合わせ | | | | |
| 35 | 流し台ユニット | 天井点検口 ※アルミニウム製 (※縦線タイプ ・目地タイプ) | | | | |
| | | 床点検口 ※アルミニウム製 ・ステンレス製 受け枠() | | | | |
| | | 種類 | 寸法 | 適用内容 | | |
| | | 流し台 | ※1200 ・1500 ・ | トラップ付 | | |
| コンロ台 | | ※600 ・700 ・ | バックガード付 | | | |
| 規格・品質等 ※優良住宅部品 | | | | | | |

⑦章 塗装改修工事

| | | | | | |
|------------------------------------|----------------|---------------------------------------|----------------|------------------------------|----------------|
| ① | 材料一般 | ○屋内の壁及び天井の塗装仕上げは、防火材料とする。 ([7.1.3]) | | | |
| | | ・次の箇所を除き防火材料とする。() | | | |
| | | 建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 | | | |
| | | ② | 下地調整 | RB種の場合の既存塗膜の除去範囲 ([7.2.1]) | |
| | | | | 下地調整 ([表7.2.1~7]) | |
| | | | | 下地面の種類 | 下地調整の種類 |
| | | | | 木部 | ・RA種 ※RB種 ・RC種 |
| | | 鉄鋼面 | ・RA種 ※RB種 ・RC種 | | |
| | | 亜鉛めっき面 | ・RA種 ※RB種 ・RC種 | | |
| | | モルタル、せっこうプラスター面 | ・RA種 ※RB種 ・RC種 | | |
| コンクリート及びALCパネル面 | ・RA種 ※RB種 ・RC種 | | | | |
| せっこうボード、その他ボード面 | ・RA種 ※RB種 ・RC種 | | | | |
| 既存モルタル下地面等のひび割れ部の補修 ([表7.2.4~6]) | | | | | |
| ○行わない ・行う(補修範囲及び補修方法は図示) | | | | | |

| | | | |
|--|-----------------------------------|--|--|
| ③ | 素地ごしらえ | [7.3.1~7] [表7.3.1~7] | |
| | | 素地面の種類 | |
| | | 種別 | 備考 |
| | | 木部 | ・A種 ・B種 不透明塗料塗りの場合はA種 透明塗料塗りの場合はB種 |
| | | 鉄鋼面 | ・A種 ・B種 ※C種 8節[耐候性塗料塗り(DP)]の場合は、 B種とする |
| | | 亜鉛めっき面 | ・A種 ・B種 |
| | | モルタル、せっこうプラスター面 | ・A種 ※B種 |
| | | コンクリート及びALCパネル面 | ・A種 ※B種 8節[耐候性塗料塗り(DP)]の場合は、 コンクリート及び押出形成セメント版面による |
| | | コンクリート及び押出形成セメント版面 | ・A種 ・B種 |
| | | せっこうボード、その他ボード面 | ・A種 ・B種 せっこうボードの目地工法が継目処理工法 の場合はA種、その他の場合はB種とする |
| ④ | 錆止め塗料塗り | 塗料種類 ([7.4.2]) | |
| | | 鉄鋼面 ※A種 () ・B種 ・C種 ・D種 ・E種 ([表7.4.1]) 仕上げEP-Gの場合 ・A種 () ※B種 亜鉛めっき鋼面 ※A種 ・B種 ([表7.4.2]) 仕上げEP-Gの場合 ・A種 () ※C種 | |
| ⑤ | 合成樹脂調合 ペイント塗り(SOP) | 錆止め塗料塗り ([表7.4.3~4]) | |
| | | 鉄鋼面塗り替えの場合の種類 ・A種 ・B種 ※C種 | |
| | | 亜鉛めっき面の塗りの種類 ・A種 ・B種 ※C種 | |
| | | 亜鉛めっき面EP-G塗り替えの場合の種類 ・A種 ・B種 ※C種 | |
| 新規鉄鋼面、亜鉛めっき面の塗りの種類 ※標準仕18.3.3による | | | |
| ⑥ | アクリル樹脂系非水 分散形塗料(NAD) | 塗り工法 ([7.5.1~4] [表7.5.1~3]) | |
| | | 下地の種類 | |
| | | 木部 | ※1種 ・2種 新規(屋外 ※A種・B種 屋内 A種※B種) 塗替え(※B種) |
| | | 鉄鋼面 | ※1種 ・2種 ・A種 ※B種 ・C種 |
| 亜鉛めっき面 | ※1種 ・2種 ※改修標準仕7.4.5による | | |
| ⑦ | 耐候性塗料塗り(DP) | 塗り工法 ([7.2.5~6]) | |
| | | 亜鉛めっき面 ([7.2.5~6]) | |
| | | 塗り工法の種類 ・A種 ※B種 ([7.7.2] [表7.7.1]) | |
| | | 塗り工法の種類 ・A種 ※B種 ([7.2.2] [表7.2.1]) ~ ([7.2.7] [表7.2.7]) | |
| ⑧ | つや有合成樹脂 エマルジョン ペイント塗り(EP-G) | 鉄鋼面 工法は、表7.8.1 ([7.8.2] [表7.8.1]) | |
| | | ○亜鉛めっき面 工法は、表7.8.2 ([7.8.3] [表7.8.2]) | |
| | | 上塗り種類 ○ JISK5659 (1級) ふっ素系樹脂塗料 ・ JISK5659 (2級) シリコン系樹脂塗料 ・ JISK5659 (3級) ポリウレタン系樹脂塗料 | |
| | | ・コンクリート面、押出成型セメント版面 ([7.8.4] [表7.8.3]) 工法は、表7.8.3 種類は(・A-1種 ・A-2種 ・B-1種 ・B-2 ・C-1種 ・C-2種) | |
| ⑨ | 合成樹脂エマルシヨ ンペイント塗り(EP) | 上塗り種類 ・ JISK5658 主要原料 ふっ素樹脂(1級) ・ JISK5658 主要原料 シリコン樹脂(2級) ・ JISK5658 主要原料 ポリウレタン樹脂(3級) ([7.9.2~5] [表7.9.1~4]) | |
| | | 下地の種類 | |
| | | コンクリート、モルタル、せっこうプラスター、 その他ボード面 | 新規(・A種 ・B種) 塗替え(※B種) |
| | | 木部 | 新規(※A種) 塗替え(※B種) |
| 鉄鋼面 | 新規(・A種 ・B種) 塗替え(※B種) | | |
| 亜鉛めっき鋼面 | 新規(※A種) 塗替え(※B種) | | |
| 塗り工法の種類 ・A種 ※B種 ・C種 ([7.10.2] [表7.10.1]) | | | |
| ⑩ | ウレタン樹脂 ワニス塗り(IC) | 塗り工法の種類 ・A種 ※B種 ([7.11.2] [表7.11.1]) | |
| | | 塗料の種類 ※1液形 ・2液形 着色剤の種類 ・油性顔料着色剤 ・溶剤形顔料着色剤 | |
| ⑪ | オイルステイン塗り (OS) | 木部 工法は改修標準仕7.12.11による ([7.12.2] [表7.12.1]) | |
| | | 工法 ・A種 ※B種 ([7.13.2] [表7.13.1]) | |

⑧章 耐震改修工事

| | | | | | | |
|--|-------------------|--|---|--|--|--|
| ① | 鉄筋の種類 | [8.2.1] [表8.2.1] | | | | |
| | | 種類の記号・ | 径 | | | |
| | | ○ S D295A | ※ D16以下 | | | |
| | | ○ S D345 | ※ D19以上 | | | |
| | | 2 | 溶接金網 | 網目の形状 (※ 150x150 ・ 100x100 ・ 50x50) ([8.2.2]) | | |
| | | | | 鉄線の径 (mm) (※ 6.0 ・ 3.2) | | |
| | | ③ | 鉄筋の材料試験 | ※JIS規格品については径の異なるごとに1t未満の場合は規格証明書の提出を省略することができる。 ([8.2.3]) | | |
| | | | | 鉄筋の継手方法 ([8.3.4] [表8.3.3]) | | |
| | | ④ | 継手及び定着 | ○径D19mm以上の柱、梁の主筋はガス圧接、その他は重ね継手 | | |
| | | | | ○重ね継手 | | |
| 継手位置 ※標準仕各部配筋参考図による ○図示 ([8.3.4]) | | 定着長さ ※改修仕[表8.3.4]による ○図示 ([8.3.4] [表8.3.4]) | | | | |
| ⑤ | 帯筋組立の形 | ※各部配筋参考図1.1による ○図示 ([8.3.4]) | | | | |
| | | ※標準仕各部配筋参考図4節による ○図示 ([8.3.7]) | | | | |
| ⑦ | ガス圧接 | 圧接部の確認試験 ([8.3.8]) | | | | |
| | | ※超音波探傷試験 ・引張試験 | | | | |
| ⑧ | コンクリートの 種類及び強度 | コンクリートの種類 ※普通コンクリート ・軽量コンクリート ([8.1.3]) | | | | |
| | | 普通コンクリートの種類 ※I類 ・II類 ([8.1.3] [表8.1.1]) | | | | |
| | | 仕上りの平たんさ種別 ・a種 ・b種 ・c種 ([8.1.4] [表8.1.5]) | | | | |
| | | 普通コンクリートの設計基準強度 ([8.1.4]) | | | | |
| 設計基準強度F _o | | 施工箇所 | | | | |
| ※21 (N/mm ²) | | 躯体全て | | | | |
| ・ | | | | | | |
| 軽量コンクリートの設計基準強度 ([8.1.3~4] [8.9.1~2] [表8.9.1]) | | | | | | |
| 設計基準強度F _o (N/mm ²) | | 気乾単位容積質量 (t/m ³) | | | | |
| ※21 (N/mm ²) | | ※1.9程度 | | | | |
| ・ | | ※1種 | | | | |
| ⑨ | コンクリートの材料 | ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ([8.2.5] [表8.2.3]) | | | | |
| | | ・高炉セメントB種 適用箇所 () | | | | |
| | | ・フライアッシュセメントB種 適用箇所 () | | | | |
| | | ・アルカリシリカ反応による区分 ※A ・フェロニッケルスラグ細骨材は使用しない | | | | |
| ⑩ | モルタル及び グラウト材 | ([8.2.6] [表8.12]) | | | | |
| | | グラウト材 ※無収縮グラウト材 (圧縮強度 45N/mm ² 以上) | | | | |
| | | 太平洋プレユロックス(太平洋マテリアル) マスターフロー-540グラウト(BASFボソリス) ノンシュリンクライトグラウト(ABC商会) デンカ プレタスコン TYPE-1(電気化学工業) 社団法人 公共建築協会の評価を受けているもの | | | | |
| | | 柱底等の均しモルタル ※無収縮モルタル ・モルタル 太平洋プレユロックス(太平洋マテリアル) マスターフロー-870グラウト(BASFボソリス) ノンシュリンクライトグラウト(ABC商会) デンカ プレタスコン TYPE-1(電気化学工業) 社団法人 公共建築協会の評価を受けているもの | | | | |
| ⑪ | 無筋コンクリート | ([8.11.1~3]) | | | | |
| | | 種類 | 設計基準強度F _o (N/mm ²) | スランプ (cm) | | |
| | | ※普通コンクリート | ※18 | ※15又は18 | | |
| | | 粗骨材の最大寸法 | ※25 | 適用箇所 | | |
| 1F配管室、機械搬入室、 除塵機室、 2F電動機室、 3F監視室、電気室 | | | | | | |

| | | | |
|------|------------------|---------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 特記仕様書(改修4) 令和4年版 | | |
| 縮尺 | - | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | 設計者 | (株) NJS | |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-4 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
一級愛知県知事登録(いー27)第7016号
一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

⑧ 章 耐震改修工事

| | | | |
|---|---|---|--|
| ⑫ 鋼骨管理強度 | 構造体強度補正值 (S) [8. 2. 5] [表8. 2. 4] (普通ポルトランドセメント) | | |
| | 打設期間 | 補正值(N/mm2) 備考 | |
| | 2/25~7/ 7 9/ 7~11/22 | 3.0 | |
| | 11/23~2/24 | 6.0 | |
| | 7/ 8~9/ 6 | 6.0 | |
| | 曇中コンクリート | | |
| | ⑬ コンクリートの試験 | ※コンクリートの強度試験の試験回数は、下記による。 [8. 8. 2~3] 20m ³ 以下の場合は試験については、監督職員の指示による。 20~50m ³ の場合は任意の一車より試料を採取し、各3個供試体を作成する。 50m ³ 以上は 改修標仕8. 8. 3による。 | |
| | | ⑭ 型枠 | |
| | 打ち出し仕上げの種別 [8. 1. 4] | | |
| | 種別 | 施工箇所 | |
| | ・A種 | | |
| | ※B種 | 壁 | |
| ・C種 | | | |
| 外部に面するコンクリート打ち出し仕上げの打増し ・20 ※図示 [8. 7. 8] | | | |
| 15 鉄骨製作工場 | ・監督職員の承諾する工場 [8. 1. 5] ・(社)全国鉄構工業協会、(株)日本鉄骨評価センター認定工場(下記認定グレード以上) (・S ・H ・M ・R ・J) | | |
| 16 鉄骨工作区 | 施工管理技術者 ・配置する ・配置しない [8. 1. 6] ※高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等は、 国土交通省大臣官房官庁営繕部「建築鉄骨設計基準」による。 | | |
| 17 溶接管理技術者 | ・配置する ・配置しない [8. 15. 2] | | |
| 18 鋼材 | 鋼材の材質、規格は下表による。 [8. 2. 8] | | |
| | 材質 | 品名又は使用箇所 規格 | |
| | | ※JISの規格品 | |
| | | ※JISの規格品 | |
| | | ※JISの規格品 | |
| 19 高力ボルト | ※トルシア形高力ボルト ・JIS形高力ボルト ・溶融亜鉛めっき高力ボルト [8. 2. 9] 径() | | |
| | すべり係数試験 ・実施する ※実施しない [8. 14. 2] 試験方法()、試験片の摩擦面の状態() | | |
| 20 鋼材の材料試験 | ※JIS規格品については種類の異なるごとに1t未満の場合は規格証明書の提出を省略することができる。 [8. 2. 13] | | |
| 21 溶接施工 | エンドタブの種類 ※鋼製タブ [8. 15. 7] 代替タブを使用する場合は、セラミックスタブとし、以下の書類を提出し、監督職員の承諾を得ること。 ・セラミックスタブの使用実績 ・AIW検定協会の代替エンドタブ技量認定資格者または日本エンドタブ協会によるエンドタブ施工講習(溶接技能者・固形タブ・A級)修了者の資格証 ・鉄骨製作工場における施工実績 | | |
| 22 溶接部の試験 | エンドタブの切断 ・行う() ・行わない スカラップ ※改良型スカラップ 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ※行う(9mm以上) ・行わない [8. 15. 12] 試験箇所数 耐震プレース ※改修標仕8. 15. 12による ・ その他 ※標仕7. 6. 12(4)による ・ | | |
| 23 錆止め塗料 | ・鉄骨造の鉄部錆止め塗料の種類は、下記とする。 [8. 17. 3] ・JIS K 5625 ・JIS K 5674 ・DP塗装の場合 JIS K 5552 + JIS K 5551(2回) 耐火被覆材の接着する面の塗装 ・行う ※行わない | | |
| 24 耐火被覆材 | [8. 18. 2~7] | | |
| | 種別 | 所要性能及び適用構造部位 | |
| ・耐火材 | 吹付け | ・乾式吹付けロックウール | |
| | | ・半乾式吹付けロックウール ・湿式ロックウール | |
| ・耐火板張り | | | |
| | | ・ラス張りモルタル塗り ・耐火塗料 | |
| ⑮ 既存コンクリート面の目荒し | 適用範囲 [8. 21. 3] [8. 22. 3] ※既存コンクリートとの打継ぎ面 ※既存コンクリートとモルタル又はグラウト材充填部の接合面 ・ 目荒らしの範囲 ※柱、梁面 打継ぎ面又は接合面全体の3/4以上 ※壁面 打継ぎ面又は接合面全面の1/3程度 ・ 目荒らしの程度 ※平均深さ5~10mmで最大深さ15mm程度の凹部を施す | | |

| | |
|-----------------|---|
| ⑯ あと施工アンカーの材料 | ・金属拡張アンカー [8. 2. 4] ※接着系アンカー 接着剤の材質及びカプセルの種類 (ガラス管タイプ) 日本デコラックス(株) ケミカルアンカーR、RSタイプ 旭化成ジオテック(株) ARケミカルセッターSUPER LL AP 日本ヒルティ(株) HVU-G/E A もしくは同等品以上 接合筋の種類 ※鉄筋コンクリート用棒鋼(D16以上SD345) ・全ねじボルト |
| ⑰ あと施工アンカーの施工 | 施工管理技術者 ※置く ・置かない [8. 12. 2] |
| ⑱ あと施工アンカーの穿孔 | 穿孔前の埋込み配管等の探査 [8. 12. 4] 範囲 ○あと施工アンカー施工部分全て ・図示 方法 ○探査機により探査し、配管等の位置の墨出しを行う。 ・はつり出しによる 穿孔方法 ○低騒音、低振動工法とする(工法については、監督員の承諾を得ること) |
| ⑲ あと施工アンカーの確認試験 | 施工確認試験 [8. 12. 5] [8. 12. 7] ※全数打音試験を行う。 ○引張試験は増設壁又は鉄骨プレス1箇所あたり1本とし、引張荷重は設計強度の2/3以上とする。場所については監督職員の指示による。 |
| ⑳ 既存構造体との取り合い | グラウト材の品質管理 [8. 21. 9] [8. 22. 7] ※圧縮強度試験を行う(3日、28日、封かん養生) ※コンシステンシー試験を行う。 |

⑨ 章 環境配慮改修工事

| | |
|------------------|---|
| ① 一般事項 | 労働安全衛生法第28条第1項の規定に基づく技術上の指針(建築物等の解体等の作業及び労働者が石綿等にばく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿ばく露防止に関する記述上の指針)を遵守すること。 ・アスベスト除去に伴う官公署等への届出申請を行うこと。 石綿障害予防規則及び大気汚染防止法の各規定に基づく官公署等への届出等を行うこと。 ・石綿含有事前調査結果の都道府県知事及び労働基準監督署への報告を行うこと。 ・事前調査結果及び特定粉塵排出等作業の掲示を行うこと。 ・アスベスト除去に伴う作業計画の作成を行うこと。 ・アスベスト除去完了に伴う発注者への報告を書面にて行うこと。 |
| 2 アスベスト含有建材の処理工事 | アスベスト含有吹付け材の封じ込め処理 ・行う ・行わない [9. 1. 1] アスベスト含有吹付け材の囲い込み処理 ・行う ・行わない アスベスト含有建材除去後の仕上げ ・行う ・行わない 施工箇所及び工法 ※図示 |
| 3 アスベストの含有調査 | 分析による確認 ・行う(下表による) ・行わない |
| | 材 料 名 調査方法 1材料あたりの試料数 |
| | ※定性分析(3 ・) ※定量分析(※3 ・) |
| | ※定性分析(3 ・) ※定量分析(※3 ・) |
| | ※定性分析(3 ・) ※定量分析(※3 ・) |
| 4 アスベスト含有吹付け材の除去 | アスベスト含有吹付け材の有無 ・有 ・無 [9. 1. 3] 除去吹付け材()含有場所() 吹付けアスベストの施工数量調査 ※行う アスベスト粉じん濃度測定 ※行う |
| | 表9. 1. 1 アスベスト粉じん濃度測定 |
| | 測定時期 測定名称 測定場所 測定点(各施工箇所ごと) 備考 |
| 処理作業前 | 測定1 処理作業室内 各2点又は3点 (注)1 |
| | 測定2 施行区画周辺又は、敷地境界 計2点 大気 |
| 処理作業中 | 測定3 処理作業室内 各2点又は3点 (注)1 |
| | 測定4 排気装置の入口 1点 空気の流れを確認 |
| | 測定5 集じん・排気装置の排出口 1点 (注)2 |
| 処理作業後(隔離シート撤去前) | 測定6 施行区画周辺又は、敷地境界 4方向各1点 - |
| | 測定7 処理作業室内 各2点又は3点 (注)1 |
| | 測定8 施行区画周辺又は、敷地境界 4方向各1点 大気 |
| | (注)1. 各施工箇所ごとの室内積が50m ³ 以下までは2点、300m ³ 以下までは3点とする。 300m ³ を超えるものは、監督職員と協議する。 (注)2. 集じん・排気装置の性能確認 |

| | | | | |
|--|---|------------------------------|--------------------|----------|
| 5 アスベスト含有仕上塗材の除去 | 表9. 1. 2 アスベスト粉じん濃度測定方法 | | | |
| | | 測定 3 | 測定1, 2, 4, 6, 7, 8 | 測定 5 |
| | 計数機器 | 位相差顕微鏡 | | |
| | メンブレンフィルタの直径 | 25mm | | 47mm |
| | 試料の吸引流量 | 1l/min | 5l/min | 10l/min |
| | 試料の吸引時間 | 5 min | 120 min | 210 min |
| | 試料の透明化 | アセトントリアセチン法又は、シュウ酸ジエチル法 | | |
| | 計数条件 | 総アスベスト繊維数 | 200本又は視野数50視野 | |
| | 計数アスベスト | 直径3µm未満、長さ5µm以上、長さと同径比3: 1以上 | | |
| | 定量限界 | 50 f/l | 0. 5 f/l | 0. 3 f/l |
| | 作業場の負圧隔離養生 ※行う 除去工法 ※除去工法については、工法に関する資料を監督職員に提出し、承諾を得ること。 処分方法 ・埋立処分の場合は、特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場の一定の場所で埋立処分する。 ・中間処理の場合は、都道府県知事等から処置許可を受けた溶融施設において溶融又は環境大臣の認定を受けた無害化処理施設において無害化処理を行う。 | | | |
| | アスベスト含有仕上塗材の除去(除去工法、養生、粉じん飛散防止措置、呼吸用保護具・保護衣等)については、「建築物の改修、解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針」による。 アスベスト含有仕上塗材の有無 ・有 ・無 除去仕上塗材()含有場所() 撤去の範囲 ・全面撤去 ・図示による 除去工法(原則湿潤化し、下記工法とする) ・水洗い工法 ・手工具ケレン工法 ・集じん装置付高圧水洗工法 ・集じん装置付超高圧水洗工法 ・超音波ケレン工法 ・剥離材併用高圧水洗工法 ・剥離材併用超高圧水洗工法 ・剥離材併用手工具ケレン工法 ・剥離材併用超音波ケレン工法 ・集塵装置付ディスクグラインダーケレン工法 上記工法によらない場合は監督職員と協議の上、承諾を得ること。 除去工法の試験施工 ・行う ※行わない 作業場の隔離及び養生 「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」による。 ・隔離養生不要 ・隔離養生必要(負圧不要) ・その他() 処分方法 ・埋立処分の場合は、特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場の一定の場所で埋立処分する。 ・中間処理の場合は、都道府県知事等から処置許可を受けた溶融施設において溶融又は環境大臣の認定を受けた無害化処理施設において無害化処理を行う | | | |
| 6 アスベスト含有保温材等の除去 | アスベスト含有保温材の有無 ・有 ・無 [9. 1. 4] 除去保温材()含有場所() 作業場の隔離 ※行う ・ ・埋立処分の場合は、特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場の一定の場所で埋立処分する。 ・中間処理の場合は、都道府県知事等から処置許可を受けた溶融施設において溶融又は環境大臣の認定を受けた無害化処理施設において無害化処理を行う | | | |
| ⑦ アスベスト含有成形板の除去 | アスベスト含有成形板の有無 ○有 ・無 [9. 1. 5] 除去成形板(ケイカル板)含有場所(3F監視室) 作業場の養生 ・行う ○行わない ※石綿含有ケイカル板第一種の除去は、隔離養生(負圧不要)を行う | | | |
| ⑧ 特記事項 | ※本工事に配置管理させる者(有資格者) ※特定化学物質等作業主任者(H18. 3. 31以前の講習修了者) 又は石綿作業主任者(H18. 4. 1以降の講習修了者) | | | |
| | 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| | 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| | 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| | 名称 | 特記仕様書(改修5) 令和4年版 | | |
| | 縮尺 | - | 設計年月 令和 年月 | |
| | 工種 | 設計者 | (株)NJS | |
| | 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 D-5 | |
| 株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所 一級愛知県知事登録(いー27)第7016号 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊 | | | | |

個人情報の取り扱いに関する事項
 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう）を含む。）を取り扱う場合においては、下記条文を遵守すること。

(基本事項)

第1 この契約による工事の施工者（以下「乙」という。）は、この契約による工事を施工するに当たり、個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。以下同じ。）を取り扱う際には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。

(施工者の義務)

第2 乙及びこの契約による工事に従事している者又は従事していた者（以下「乙の従事者」という。）は、当該工事を施工するに当たり、個人情報を取り扱うときは、四日市市個人情報保護条例（平成11年四日市市条例第25号。以下「条例」という。）第11条に規定する義務を負う。

2 乙は、この契約による工事において個人情報が適正に取り扱われるよう乙の従事者を指揮監督しなければならない。

(秘密の保持)

第3 乙及び乙の従事者は、この契約による工事を施工するに当たって知り得た個人情報を当該工事を施工するために必要な範囲を超えて使用し、又は他人に知らせてはならない。

2 乙は、乙の従事者が在職中及び退職後においても、前項の規定を遵守するように必要な措置を講じなければならない。

3 前2項の規定は、この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

(適正な管理)

第4 乙は、この契約による工事に係る個人情報の漏えい、滅失又は改ざんの防止その他の個人情報の適正な管理のために必要な措置を講じなければならない。

2 乙は、個人情報の適正な管理のため、管理責任者を置くものとする。

3 管理責任者は、個人情報を取り扱う工事の従事者を必要な者に限定し、これらの従事者に対して、個人情報の管理方法等について適正な指導管理を行わなければならない。

4 四日市市（以下「甲」という。）は、必要があると認めるときは、個人情報の管理状況等に関し、乙に対して報告を求め、又は乙の作業場所を実地に調査することができるものとする。この場合において、甲は乙に必要な改善を指示することができるものとし、乙は、その指示に従わなければならない。

(収集の制限)

第5 乙及び乙の従事者は、この契約による工事を施工するために、個人情報を収集するときは、当該工事を施工するために必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により収集しなければならない。

(再提供の禁止)

第6 乙は、あらかじめ甲の承諾があった場合を除き、この契約による工事に係る個人情報を第三者に再提供してはならない。

2 乙は、前項の承諾により再提供する場合は、再提供先における個人情報の適正な取り扱いのために必要な措置を講じなければならない。

3 前項の場合において、乙は、再提供先と本注意事項に準じた個人情報の取り扱いに関する契約を交わすものとする。

(複写、複製の禁止)

第7 乙及び乙の従事者は、あらかじめ甲の指示又は承諾があった場合を除き、この契約による工事を施工するに当たって、甲から提供された個人情報が記録された資料等（以下「資料等」という）を複写し、又は複製してはならない。

(持ち出しの禁止)

第8 乙及び乙の従事者は、あらかじめ甲の指示又は承諾があった場合を除き、資料等（複写又は複製したものを含む。第9において同じ。）を契約書に指定された作業場所から持ち出してはならない。

2 甲及び乙は、乙が前項の指示又は承諾により資料等を持ち出す場合、その内容、期間、持ち出し先、輸送方法等を書面により確認するものとする。

3 前項の場合において、乙は、資料等に施錠又は暗号化等を施して関係者以外の者がアクセスできないようにするとともに、資料等を善良なる管理者の注意をもって保管又は管理し、漏えい、滅失及びびき損の防止その他適切な管理を行わなければならない。

(資料等の返還)

第9 乙は、この契約による工事を施工するに当たって、甲から提供された個人情報が記録された資料等を、当該工事の終了後速やかに甲に返還、又は引き渡さなければならない。ただし、甲の指示により廃棄、又は消去する場合を除く。

2 前項の廃棄又は消去は、次の各号に定めるほか、他に漏えいしないよう適切な方法により行うものとする。

(1) 紙媒体 シュレッダーによる毀断
 (2) 電子媒体 データ完全消去ツールによる無意味なデータの上書き、もしくは媒体の破砕

3 乙は、第6の規定により甲の承諾を得てこの契約による工事に係る個人情報を第三者に再提供したときは、当該工事の終了後速やかに当該第三者から資料等を回収のうえ甲に返還し、又は引き渡さなければならない。ただし、甲の指示により、乙又は第三者が資料等を廃棄し、又は消去する場合を除く。

4 前項ただし書の規定により、第三者が資料等を廃棄し、又は消去する場合においては、乙は、当該資料等が廃棄、又は消去されたことを直接確認しなければならない。

(研修・教育の実施)

第10 乙は、乙の従事者に対し、個人情報の重要性についての認識を深めるとともに、この契約による工事における個人情報の適正な取り扱いに資するための研修・教育を行うものとする。

(罰則等の周知)

第11 乙は、条例第44条、第45条、第47条及び第48条に規定する罰則適用について、乙の従事者に周知するものとする。

(苦情の処理)

第12 乙は、この契約による工事の施工に当たって、個人情報の取り扱いに関して苦情があったときは、適切かつ迅速な処理に努めるものとする。

(事故発生時における報告)

第13 乙は、この個人情報取扱注意事項に違反する事故が生じ、又は生じるおそれがあることを知ったときは、速やかに甲に報告し、甲の指示に従うものとする。

(契約解除及び損害賠償)

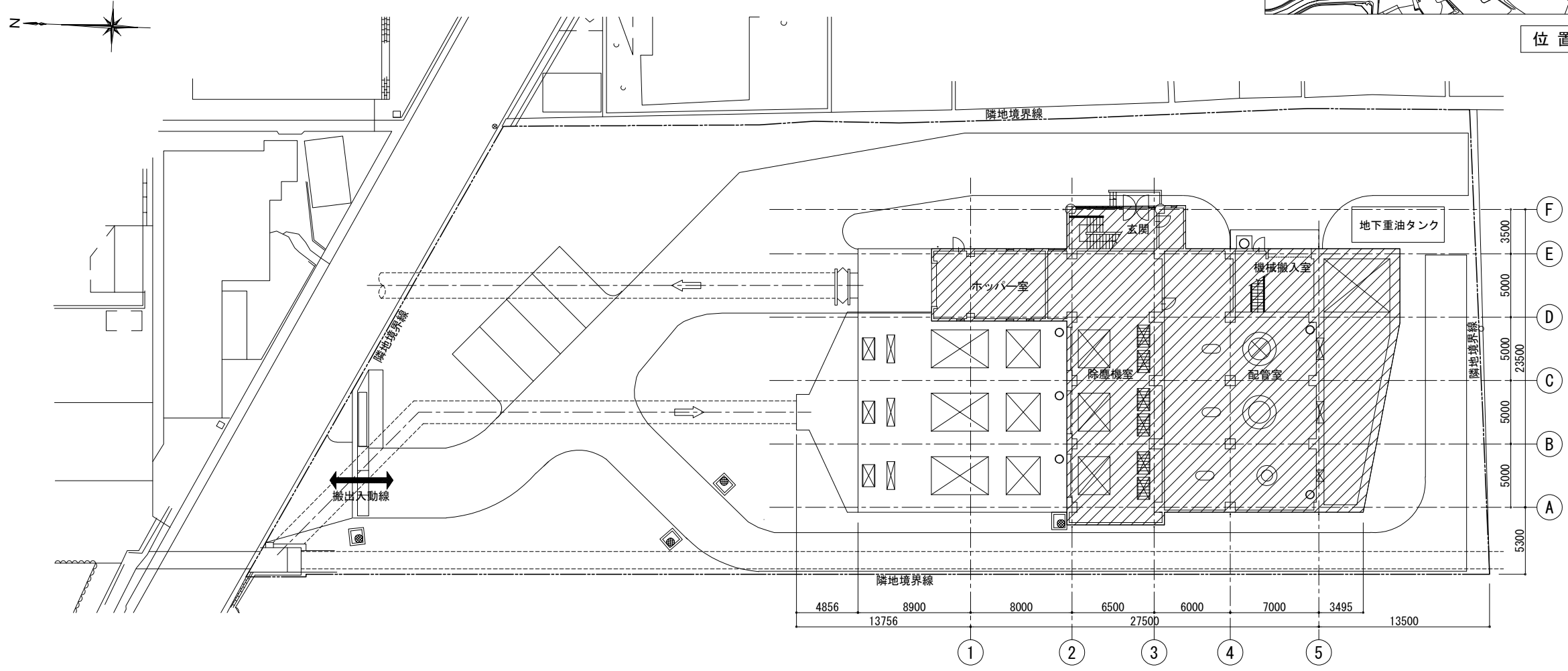
第14 甲は、乙又は乙の従事者がこの個人情報取扱注意事項に違反していると認めるときは、契約の解除及び損害賠償の請求をすることができる。

| | | | |
|------|------------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 特記仕様書（改修6） 令和4年版 | | |
| 縮尺 | - | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-6 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録（いー27）第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊



位置図





一般平面図 S=1/200

今回対象施設

| | | | |
|------|----------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 位置図・一般平面図 | | |
| 縮尺 | 1/200 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-7 |



株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (イ-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

| 内部仕上表 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|----------|----------------------------------|-------------------------------------|---------|---------|--------|------------------|--------|---------|---------|--------|--------------------|--------------|---------|---------|--|--|-------------------|--------------------|-----------------------|----------|---------|---------------------|-----------------------|---------------|------|--------------------|---|----------|---------|------|
| 階 | 改修別 | 室名 | 床 | | | | | 幅木 | | | | | 腰壁 | | | | | 壁 | | | | | 天井 | | | | | 備考 | | | | |
| | | | 下地 | 仕上 | 詳細番号 | 改修内容 | 部 | 下地 | 仕上 | 高さ | 詳細番号 | 改修内容 | 部 | 下地 | 仕上 | 高さ | 詳細番号 | 改修内容 | 部 | 柱型仕上 | 詳細番号 | 改修内容 | 部 | 下地 | 仕上 | 高さ | 詳細番号 | | 改修内容 | 部 | 梁型仕上 | 詳細番号 |
| 水路階 | 改修前 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 改修後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 一階 | 改修前 | 配管室 | <C> C | Cコテ仕上 無筋C t.200 (PM) | — | 一部 B | C | モルタル塗り | 100 | — | 一部 B | C | モルタル塗り | 1200 | — | 一部 B | C | C打放し (C) (A通のみ剛体多孔質吸音材) | — | F | C打放し (C) | — | F | C | C打放し (C) | 直天 | — | F | C打放し (C) | — | F | |
| | 改修後 | 配管室 | <C> C | C直均し仕上 無筋C t.200 | 1-01-3 | 一部 b | C | モルタル塗り | 100 | 2-11-7 | 一部 b | C | モルタル塗り | 1200 | 2-02-12 | 一部 b | C | C打放し (B) | 2-02-7 | 一部 b | 既存のまま | — | f | C | 既存のまま | 直天 | — | f | 既存のまま | — | f | |
| | 改修前 | 除塵機室 | <C> C | Cコテ仕上 (A) 無筋C t.100 | — | 一部 B | C | モルタル塗り | 100 | — | 一部 B | C | モルタル塗り | — | — | — | — | C | C打放し (C) | — | F | C打放し (C) | — | F | C | C打放し (C) | 直天 | — | F | C打放し (C) | — | F |
| | 改修後 | 除塵機室 | <C> C | C直均し仕上 無筋C t.100 | 1-01-3 | 一部 b | C | モルタル塗り | 100 | 2-11-7 | 一部 b | C | モルタル塗り | — | — | — | — | C | C打放し (B) | 2-02-7 | 一部 b | 既存のまま | — | f | C | 既存のまま | 直天 | — | f | 既存のまま | — | f |
| | 改修前 | ホッパー室 | <C> C | 表面強化材 Cコテ仕上 (A) 無筋C t.200~300 | — | F | C | モルタル塗り | 100 | — | F | C | モルタル塗り | 2000 2100 | — | F | C | 外装薄塗材 (E) C打放し (C) | — | F | 外装薄塗材 (E) C打放し (C) | — | F | C | 外装薄塗材 (E) C打放し (C) | 直天 | — | F | 外装薄塗材 (E) C打放し (C) | — | F | |
| | 改修後 | ホッパー室 | <C> C | 既存のまま | — | f | C | 既存のまま | — | — | f | C | 既存のまま | — | — | f | C | 既存のまま | — | f | 既存のまま | — | f | C | 既存のまま | 直天 | — | f | 既存のまま | — | f | |
| | 改修前 | 玄関ホール | <C> C | 磁器質タイル100角 | — | 一部 B | C | ステンレス製 | 200 | — | 一部 B | C | モルタル塗り | — | — | — | C | 複層塗材 (RE) モルタル塗り | — | 一部 B | 複層塗材 (RE) モルタル塗り | — | 一部 B | C | RB (凹凸) GB | 4FLより 2700 | — | F | 複層塗材 (RE) モルタル塗り (通のみモルタル塗りの 上印) | — | 一部 B | |
| | 改修後 | 玄関ホール | <C> C | 磁器質タイル100角 | 1-01-6 | 一部 b | C | 磁器質タイル | 200 | 2-01-2 | 一部 b | C | モルタル塗り | — | — | — | C | 複層塗材 (RE) モルタル塗り 複層塗材 (RE) C打放し (B) | 2-02-12 2-02-7 | 一部 b 一部 d | 複層塗材 (RE) モルタル塗り | 2-02-12 | 一部 b | C | 既存のまま | 直天 | — | f | 複層塗材 (RE) モルタル塗り (通のみモルタル塗りの 上印) | 2-02-12 | 一部 b | |
| | 改修前 | 倉庫 | <C> C | モルタル塗り | — | 一部 B | C | モルタル塗り | — | — | 一部 B | C | モルタル塗り | 2100 | — | 一部 B | C | 外装薄塗材 (E) C打放し (C) | — | 一部 B | 外装薄塗材 (E) C打放し (C) | — | 一部 B | C | 外装薄塗材 (E) C打放し (C) | 直天 | — | F | 外装薄塗材 (E) C打放し (C) | — | 一部 B | |
| | 改修後 | 倉庫 | <C> C | モルタル塗り | 1-01-1 | 一部 b | C | モルタル塗り | 100 | 2-11-7 | 一部 b | C | モルタル塗り | 2100 | 2-02-12 | 一部 b | C | 外装薄塗材 (E) C打放し (B) | 2-02-7 | 一部 b | 外装薄塗材 (E) C打放し (C) | 2-02-7 | 一部 b | C | 既存のまま | 直天 | — | f | 外装薄塗材 (E) C打放し (C) | 3-01-11 | 一部 b | |
| 改修前 | 機械搬入室 | <C> C | 表面強化剤 Cコテ仕上 無筋C t.200~250 | — | 一部 B | C | モルタル塗り | 100 150 | — | 一部 B | C | モルタル塗り | 2FL +1100 まで | — | 一部 B | C | 軽量骨材吹付 C打放し (C) (軽量骨材吹付 剛体多孔質吸音材張 り) | — | 一部 B | 軽量骨材吹付 C打放し (C) | — | 一部 B | C | 軽量骨材吹付 木毛セメント板打込 | 直天 | — | F | 軽量骨材吹付 C打放し (C) | — | 一部 B | | |
| 改修後 | 機械搬入室 | <C> C | 表面強化剤 C直均し仕上 無筋C t.200~250 | 1-01-3 | 一部 b | C | モルタル塗り | 100 | 2-11-7 | 一部 b | C | モルタル塗り | 2FL +1100 まで | 2-02-12 | 一部 b | C | 軽量骨材吹付 C打放し (C) (軽量骨材吹付 剛体多孔質吸音材張 り) | — | 一部 b | 軽量骨材吹付 C打放し (C) | — | 一部 b | C | 既存のまま | 直天 | — | f | 軽量骨材吹付 C打放し (C) | — | 一部 b | | |
| 二階 | 改修前 | 除塵機室吹抜 | | | | | | | | | | | | | | | C | C打放し (C) | — | F | C打放し (C) | — | F | C | C打放し (C) | 直天 | — | F | C打放し (C) | — | F | |
| | 改修後 | 除塵機室吹抜 | | | | | | | | | | | | | | | C | C打放し (B) | 2-02-7 | 一部 b | 既存のまま | — | f | C | 既存のまま | 直天 | — | f | 既存のまま | — | f | |
| | 改修前 | 電動機室 | C | 床用塗料 Cコテ仕上 無筋C t.300 (PM) | — | 一部 B | C | <モルタル塗り> (PM) | 100 | — | 一部 B | C | モルタル塗り | 1100 | — | 一部 B | C | 軽量骨材吹付 剛体多孔質吸音板 | — | 一部 B | 軽量骨材吹付 C打放し (C) | — | 一部 B | C | — | 直天 | — | F | 軽量骨材吹付 C打放し (C) | — | 一部 B | |
| | 改修後 | 電動機室 | C | 床用塗料 C直均し仕上 無筋C t.300 | 1-01-3 | 一部 b | C | モルタル塗り | 100 | 2-11-7 | 一部 b | C | モルタル塗り | 1100 | 2-02-12 | 一部 b | C | 軽量骨材吹付 剛体多孔質吸音板 | 図示 | 一部 b | 軽量骨材吹付 C打放し (C) | 2-02-7 | 一部 b | C | — | 直天 | — | F | 軽量骨材吹付 C打放し (C) | 3-01-11 | 一部 b | |

凡例  : 今回改修対象を示す。
 : 表示仕上材はアスベスト含有材であるため適切な撤去方法を実施すること。

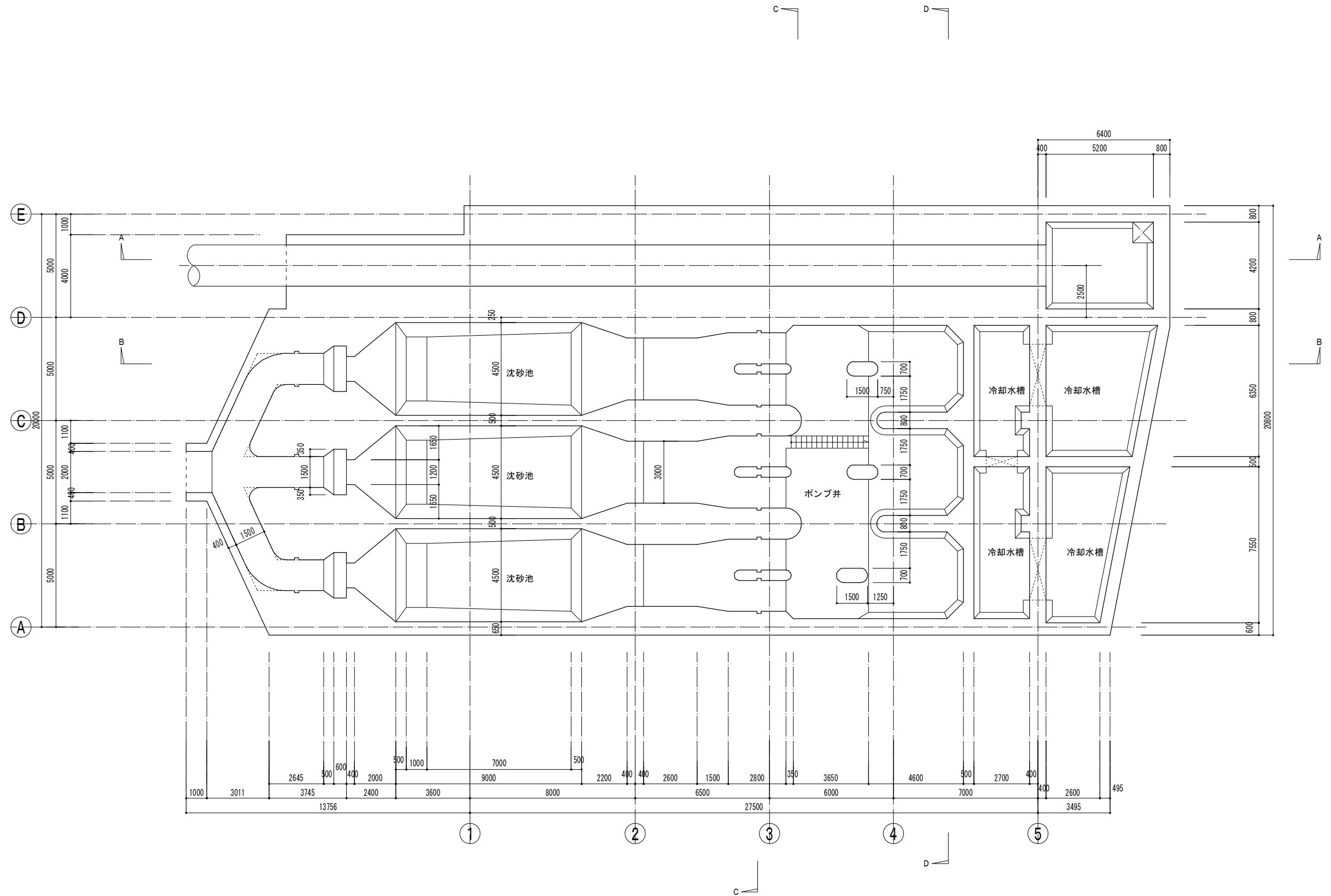
| 改修後の 仕上材料の 厚さ | 材料名 | | 種別 | 壁(m/m) | 天井(m/m) | 備考 | 材料名 | | 種別 | 壁(m/m) | 天井(m/m) | 備考 | 工事区分 略号 | 改修前 | | 改修後 | | 事業主体 | 四日市市 図面番号 |
|---------------------|-------|-------|------|--------|-----------------|------------------|-------|----|---------|--------|---------|----|------------|------------|-------------|-------------|--|------|--------------|
| | GB-R | GB(N) | | | | | GB(W) | DR | | | | | | A | B | C | D | | |
| | GB-R | 仕上 | 12.5 | 12.5 | NM-8619 | けい酸カルシウム板(タイプ2) | 12 | 10 | NM-8578 | | | | <> (C) | 土木工事 | A: 仕上撤去 | a: 仕上新設 | 株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所 一級愛知県知事登録(い-27)第7016号 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊 | 四日市市 | |
| | GB(N) | 下地 | 12.5 | | | 押出法ポリスチレンフォーム保温材 | 25 | 25 | | | | | <> (AM) | 建築機械設備工事 | B: 図示の仕上撤去 | b: 図示の仕上新設 | | | |
| | GB(W) | 下地 | 9.5 | 9.5 | NM-8613 又は同等 | 壁紙 | | | | | | | <> (AE) | 建築電気設備工事 | C: 下地共撤去 | c: 下地共新設 | | | |
| | DR | | 12 | 12 | 不燃(個別認定) | | | | | | | | <> (PM) | プラント機械設備工事 | D: 図示の下地共撤去 | d: 図示の下地共新設 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | <> (PE) | プラント電気設備工事 | E: 下地の調整 | e: 塗装の塗り替え | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | F: 既存のまま | f: 既存のまま | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | O: 今回工事 | o: 今回工事 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | X: 次回工事 | x: 次回工事 | | | |

| 内部仕上表 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-----|------------|----|----------------------------------|--------|------|----------|--------------------|-----|------------------|------|----|--------|------|---------|--------------------|------------|--|--------------------|------------|--------------------|--------|---------------------|--------|------------------------------|------|------|------|----------|------|------|------|------|
| 階 | 改修別 | 室名 | 床 | | | | | | 腰壁 | | | | | | 壁 | | | | | | 天井 | | | | | | 備考 | | | | | | |
| | | | 下地 | 仕上 | 詳細番号 | 改修内容 | 下地 | 仕上 | 高さ | 詳細番号 | 改修内容 | 下地 | 仕上 | 高さ | 詳細番号 | 改修内容 | 下地 | 仕上 | 高さ | 詳細番号 | 改修内容 | 柱型仕上 | 詳細番号 | 改修内容 | 下地 | 仕上 | | 高さ | 詳細番号 | 改修内容 | 梁型仕上 | 詳細番号 | 改修内容 |
| 三階 | 改修前 | 廊下 | C | ビニル床シート | — | 一部 B | M | ビニル巾木 | 75 | — | 一部 D | — | — | — | — | C | E.P.モルタル塗り | — | 一部 B | E.P.モルタル塗り | — | 一部 B | S | GB (T) | 2500 | — | 一部 D | — | — | — | — | — | |
| | 改修後 | 廊下 | C | ビニル床シート | 1-01-4 | 一部 b | M | ビニル巾木 | 75 | 2-11-1 | 一部 d | — | — | — | C | E.P.-G.C打放し (B) | 2-02-7 | 一部 b | E.P.-G.モルタル塗り | 2-02-12 | 一部 b | S | GB-N0t9.5 | 2500 | 3-01-2 | 一部 d | — | — | — | — | — | | |
| | 改修前 | 監視室 | C | 床用塗料 モルタル塗り 無筋C t:270 (PE) | — | 一部 B | M > (PE) | <ビニル巾木> (PE) | 75 | — | 一部 F | — | — | — | C | E.P.モルタル塗り | — | 一部 B | E.P.モルタル塗り | — | 一部 B | S | RB | 2700 | — | 一部 F | — | — | — | — | — | — | |
| | 改修後 | 監視室 | C | 床用塗料 モルタル塗り 無筋C t:270 (PE) | 1-01-1 | 一部 b | M | 既存のまま | 75 | — | 一部 f | — | — | — | C | E.P.-G.C打放し (B) | 2-02-7 | 一部 d | E.P.-G.モルタル塗り | 2-02-12 | 一部 b | S | 既存のまま | 2700 | — | 一部 f | — | — | — | — | — | — | |
| | 改修前 | 電動機室 吹抜 | | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | C | 軽量骨材吹付 剛体多孔質吸音板 | — | 一部 D | 軽量骨材吹付 C打放し (C) | — | 一部 B | C | 軽量骨材吹付 木毛セメント板打込 | 直天 | — | 一部 F | — | — | — | — | — | — | |
| | 改修後 | 電動機室 吹抜 | | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | C | 軽量骨材吹付 剛体多孔質吸音板 | 図示 | 一部 d | 軽量骨材吹付 C打放し (C) | 2-02-7 | 一部 b | S | 既存のまま | — | — | 一部 f | — | — | — | — | — | — | |
| | 改修前 | 電気室 | C | 床用塗料 モルタル塗り 無筋C t:270 (PE) | — | 一部 B | M | <ビニル巾木> (PE) | 75 | — | 一部 D | — | — | — | C | E.P.モルタル塗り | — | 一部 D | E.P.モルタル塗り | — | 一部 B | S | GB (T) | 2700 | — | 一部 D | — | — | — | — | — | — | |
| | 改修後 | 電気室 | C | 床用塗料 モルタル塗り 無筋C t:270 (PE) | 1-01-1 | 一部 b | M | ビニル巾木 | 75 | 2-11-1 | 一部 d | — | — | — | C | E.P.-G.C打放し (B) | 2-02-7 | 一部 d | E.P.-G.モルタル塗り | — | 一部 b | S | GB-N0t9.5 | 2700 | 3-01-2 | 一部 d | — | — | — | — | — | — | |
| 四階 | 改修前 | 換気機械室 | C | モルタル塗り | — | 一部 B | C | モルタル塗り | 100 | — | 一部 B | C | モルタル塗り | 2100 | — | 一部 B | C | 軽量骨材吹付 C打放し (C) | — | 一部 D | 軽量骨材吹付 C打放し (C) | — | 一部 B | C | 軽量骨材吹付 木毛セメント板打込 | 直天 | — | 一部 F | — | — | — | — | |
| | 改修後 | 換気機械室 | C | モルタル塗り | 1-01-1 | 一部 b | C | モルタル塗り C打放し (B) | 100 | 2-11-7 2-02-7 | 一部 b | C | モルタル塗り | 2100 | 2-02-12 | 一部 b | C | グラスウール吸音材 t:50 (ガラスクロス押え) 軽量骨材吹付 C打放し (C) | 2-02-13 2-02-7 | 一部 d | 軽量骨材吹付 C打放し (C) | 2-02-7 | 一部 b | S | 既存のまま | — | 一部 f | — | — | — | — | — | |
| | 改修前 | AD | C | モルタルコテ仕上 (A) | — | 一部 B | C | モルタル塗り | 100 | — | 一部 B | C | モルタル塗り | — | — | 一部 D | C | グラスウール吸音材 t:50 (ガラスクロス押え) C打放し (C) | — | 一部 D | C打放し (C) | — | 一部 F | C | グラスウール吸音材 t:50 (ガラスクロス押え) | 直天 | — | 一部 F | C打放し (C) | — | 一部 F | — | — |
| | 改修後 | AD | C | モルタル塗り | 1-01-1 | 一部 b | C | モルタル塗り C打放し (B) | 100 | 2-11-7 2-02-7 | 一部 b | C | モルタル塗り | — | — | 一部 d | C | グラスウール吸音材 t:50 (ガラスクロス押え) 既存のまま | 2-02-13 | 一部 d | 既存のまま | — | 一部 f | S | 既存のまま | — | 一部 f | — | — | — | — | — | — |

凡例  : 今回改修対象を示す。
 : 表示仕上材はアスベスト含有材であるため適切な撤去方法を実施すること。

| 改修後の 仕上材料の 厚さ | 材料名 | | 種別 | 壁(m/m) | 天井(m/m) | 備考 | 材料名 | | 種別 | 壁(m/m) | 天井(m/m) | 備考 | 工事区分 略号 | 改修前 | | 改修後 | | 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-10 |
|---------------------|--------|-------|--------|--------|---------|------------------|------------------|----|------------|--|--|----|------------|-----|--|-----|--|----------------------------|------|------|------|
| | GB-R | GB(N) | GB(NT) | GB(W) | DR | けい酸カルシウム板(タイプ2) | 押出法ポリスチレンフォーム保温材 | 壁紙 | 工事内容 凡例 | A: 仕上撤去 B: 図示の仕上撤去 C: 下地共撤去 D: 図示の下地共撤去 E: 下地の調整 F: 既存のまま O: 今回工事 □: 次回工事 | a: 仕上新設 b: 図示の仕上新設 c: 下地共新設 d: 図示の下地共新設 e: 塗装の塗り替え f: 既存のまま ○: 今回工事 □: 次回工事 | | | | | | | | | | |
| | GB-R | 仕上 | 12.5 | 12.5 | NM-8619 | けい酸カルシウム板(タイプ2) | 12 | 10 | NM-8578 | | | | | | | | | 株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所 | 四日市市 | | |
| | GB(N) | 下地 | 12.5 | | | 押出法ポリスチレンフォーム保温材 | 25 | 25 | | | | | | | | | | 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号 | 四日市市 | | |
| | GB(NT) | | | 9.5 | | | | | | | | | | | | | | 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊 | 四日市市 | | |
| | GB(W) | | | 9.5 | | | | | | | | | | | | | | | 四日市市 | | |
| | DR | | | 12 | | | | | | | | | | | | | | | 四日市市 | | |

| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 内部仕上表(2) | | |
| 縮尺 | | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-10 |



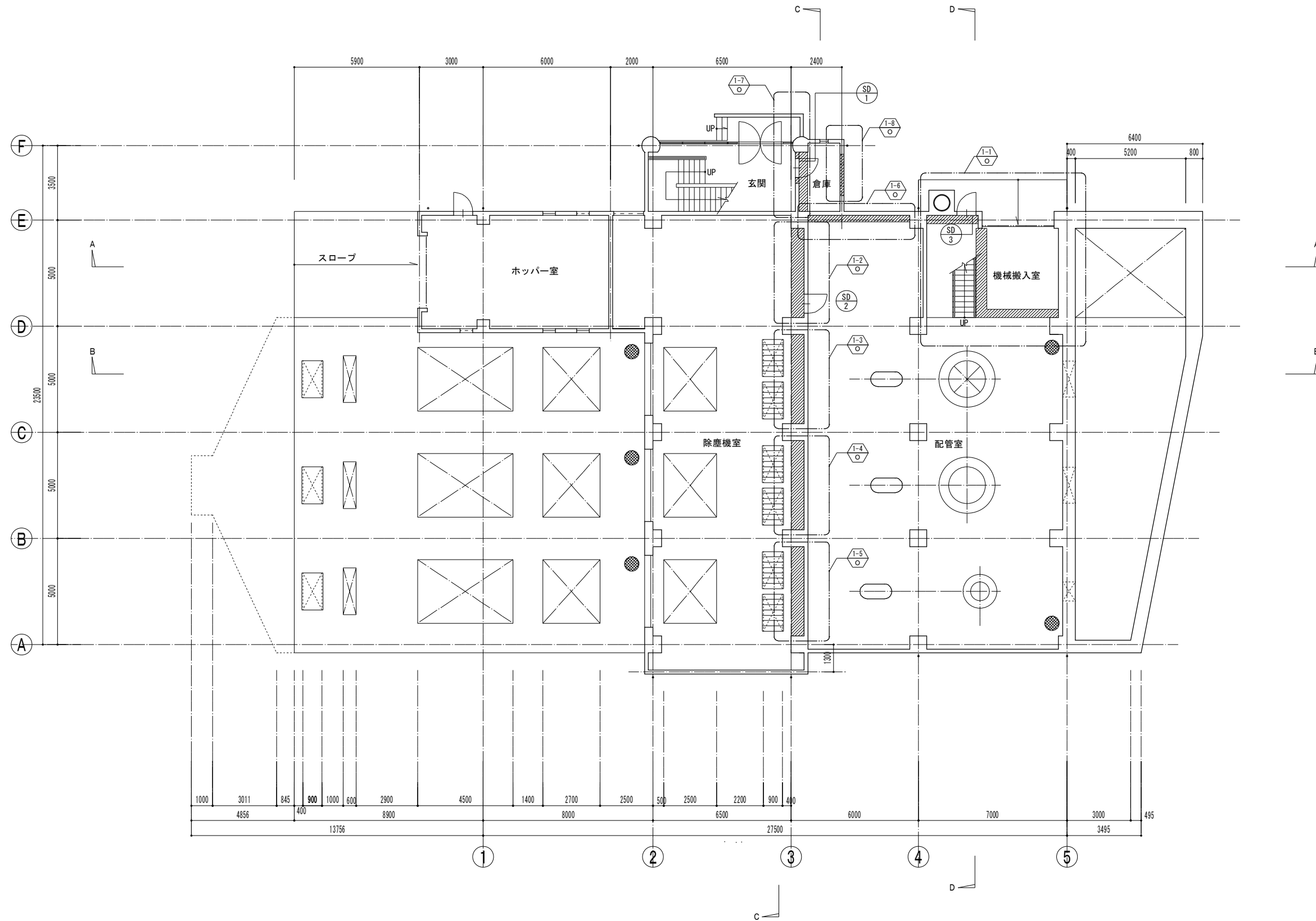
改修前・後 沈砂池・ポンプ井 平面図 1:100

| | | | |
|------|--------------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修前・後 沈砂池・ポンプ井 平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-11 |

株式会社NJS古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修前

| 凡例 | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 改修工事範囲を示す |
| 2 | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「O」は改修前（既存）を表す |
| 3 | 撤去建具の建具符号を表す |
| 4 | 撤去する範囲を示す |

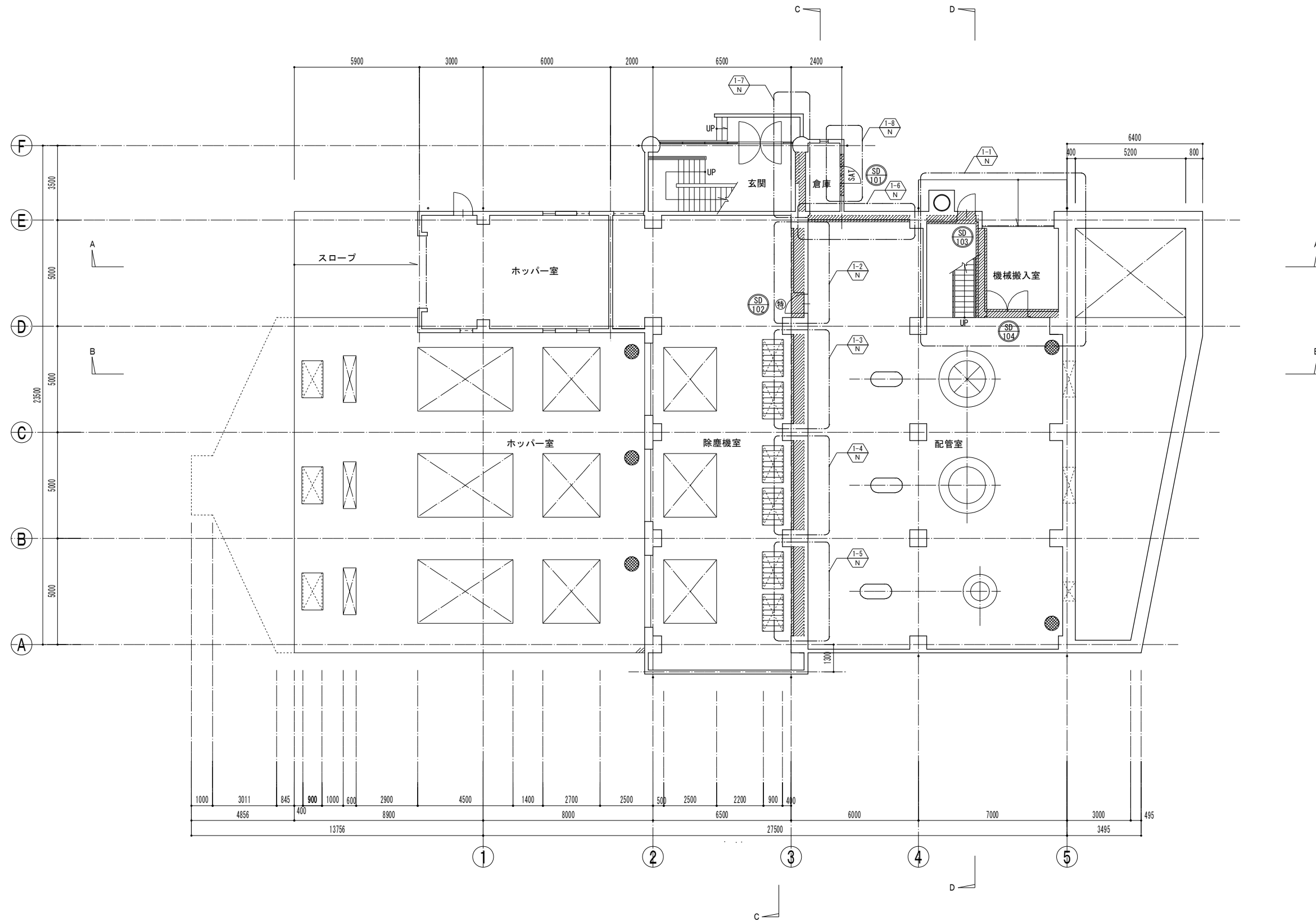


改修前 1階平面図 1:100

| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修前 1階平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-12 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修後



| 凡例 | | |
|----|-----|-------------------------------------|
| 1 | | 改修工事範囲を示す |
| 2 | | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「N」は改修後（新設）を表す |
| 3 | | 新設建具の建具符号を表す |
| 4 | | 新設範囲を示す |
| 5 | SAT | 簡易気密ドア |
| 6 | | 特定防火設備 |

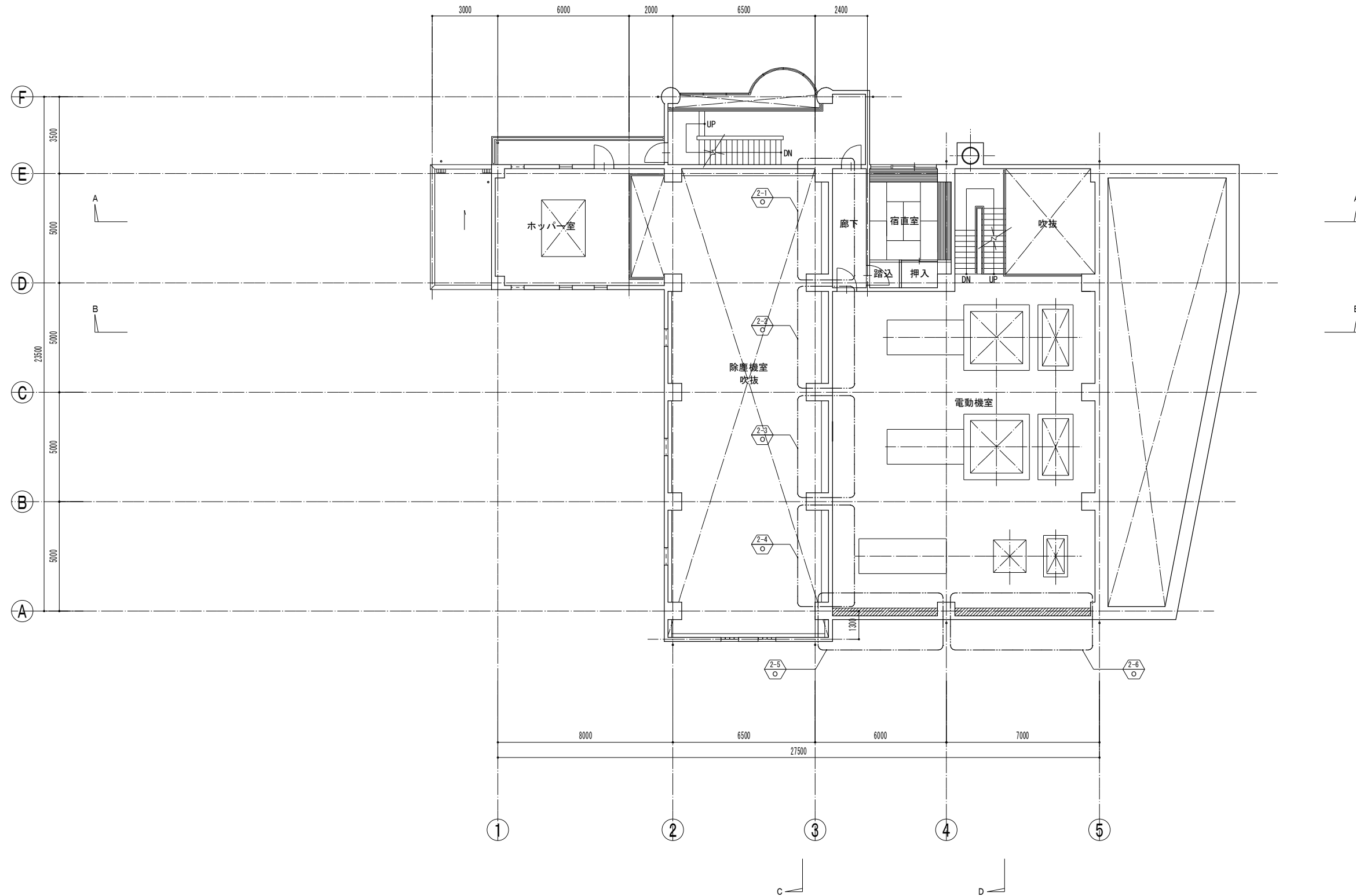
改修後 1階平面図 1:100

| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修後 1階平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-13 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修前

| 凡例 | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 改修工事範囲を示す |
| 2 | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「O」は改修前（既存）を表す |
| 3 | 撤去建具の建具符号を表す |
| 4 | 撤去する範囲を示す |



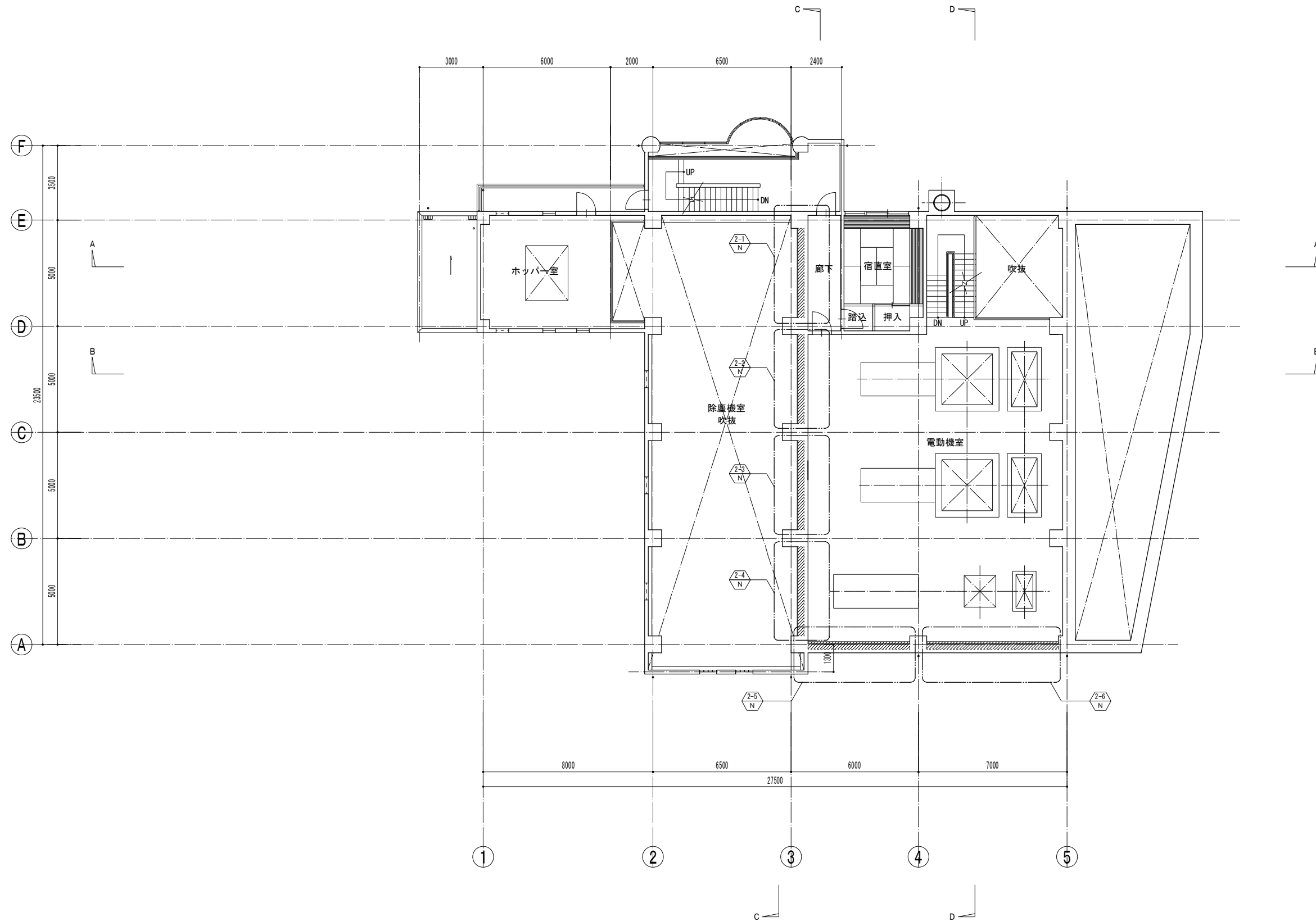
改修前 2階平面図 1:100

| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修前 2階平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-14 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修後

| 凡例 | | |
|----|-----|-------------------------------------|
| 1 | | 改修工事範囲を示す |
| 2 | | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「N」は改修後（新設）を表す |
| 3 | | 新設建具の建具符号を表す |
| 4 | | 新設範囲を示す |
| 5 | SAT | 簡易気密ドア |



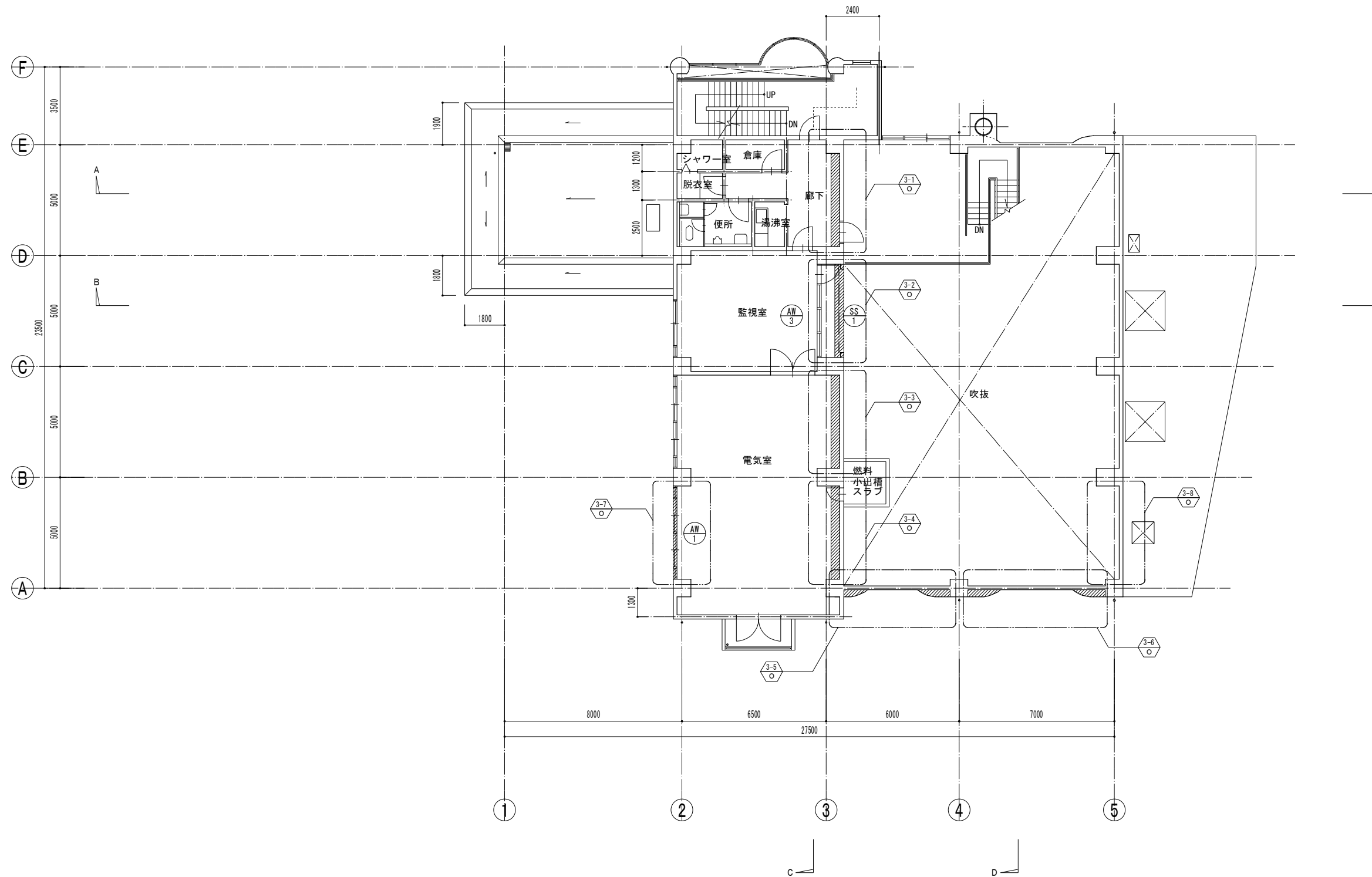
改修後 2階平面図 1:100

| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修後 2階平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-15 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修前

| 凡例 | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 改修工事範囲を示す |
| 2 | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「O」は改修前（既存）を表す |
| 3 | 撤去建具の建具符号を表す |
| 4 | 撤去する範囲を示す |



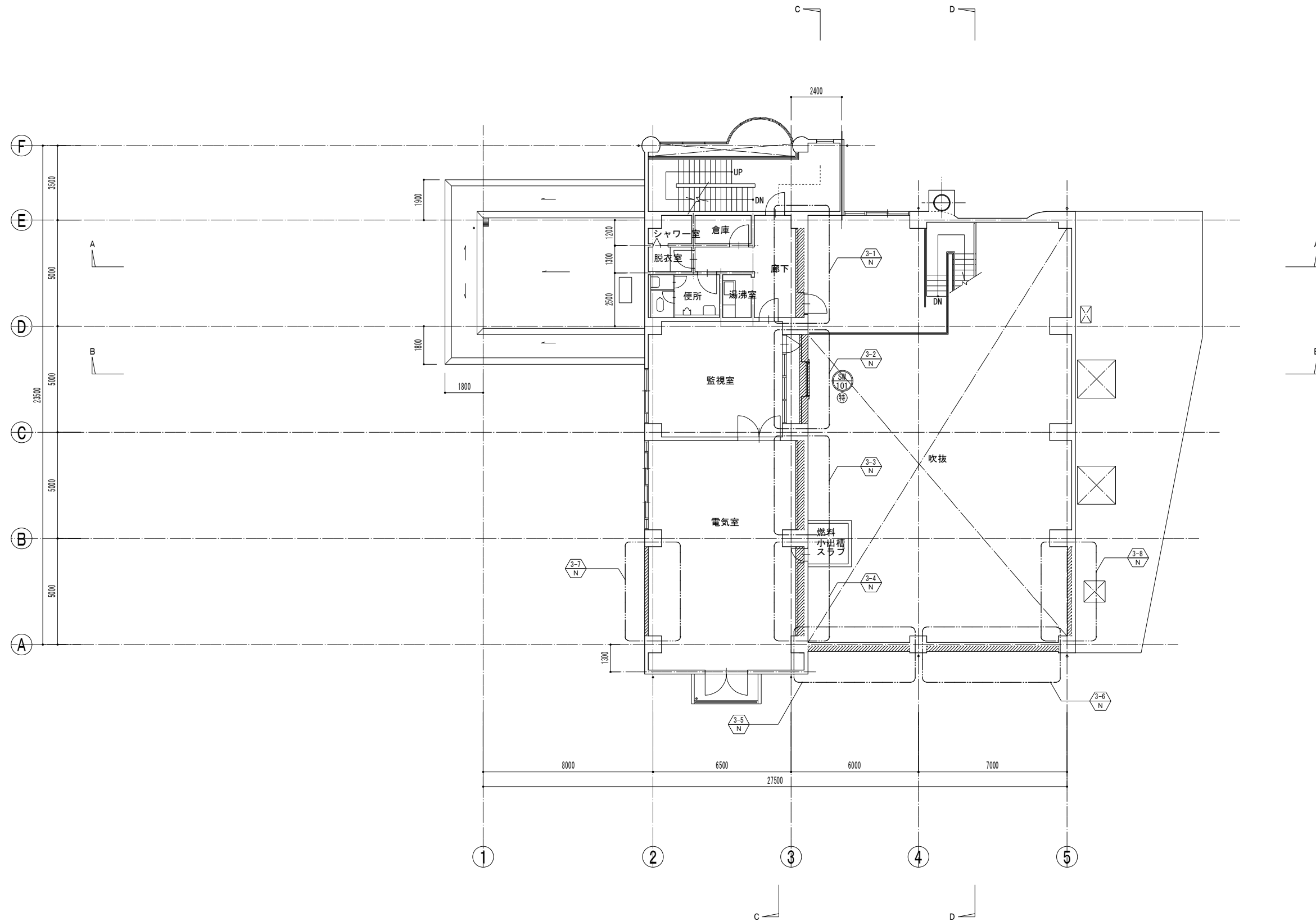
改修前 3階平面図 1:100

| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修前 3階平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-16 |

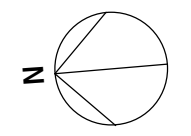
株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修後

| 凡例 | | |
|----|-----|-------------------------------------|
| 1 | | 改修工事範囲を示す |
| 2 | | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「N」は改修後（新設）を表す |
| 3 | | 新設建具の建具符号を表す |
| 4 | | 新設範囲を示す |
| 5 | SAT | 簡易気密ドア |
| 6 | | 特定防火設備 (認定番号 EA-0223) |



改修後 3階平面図 1:100

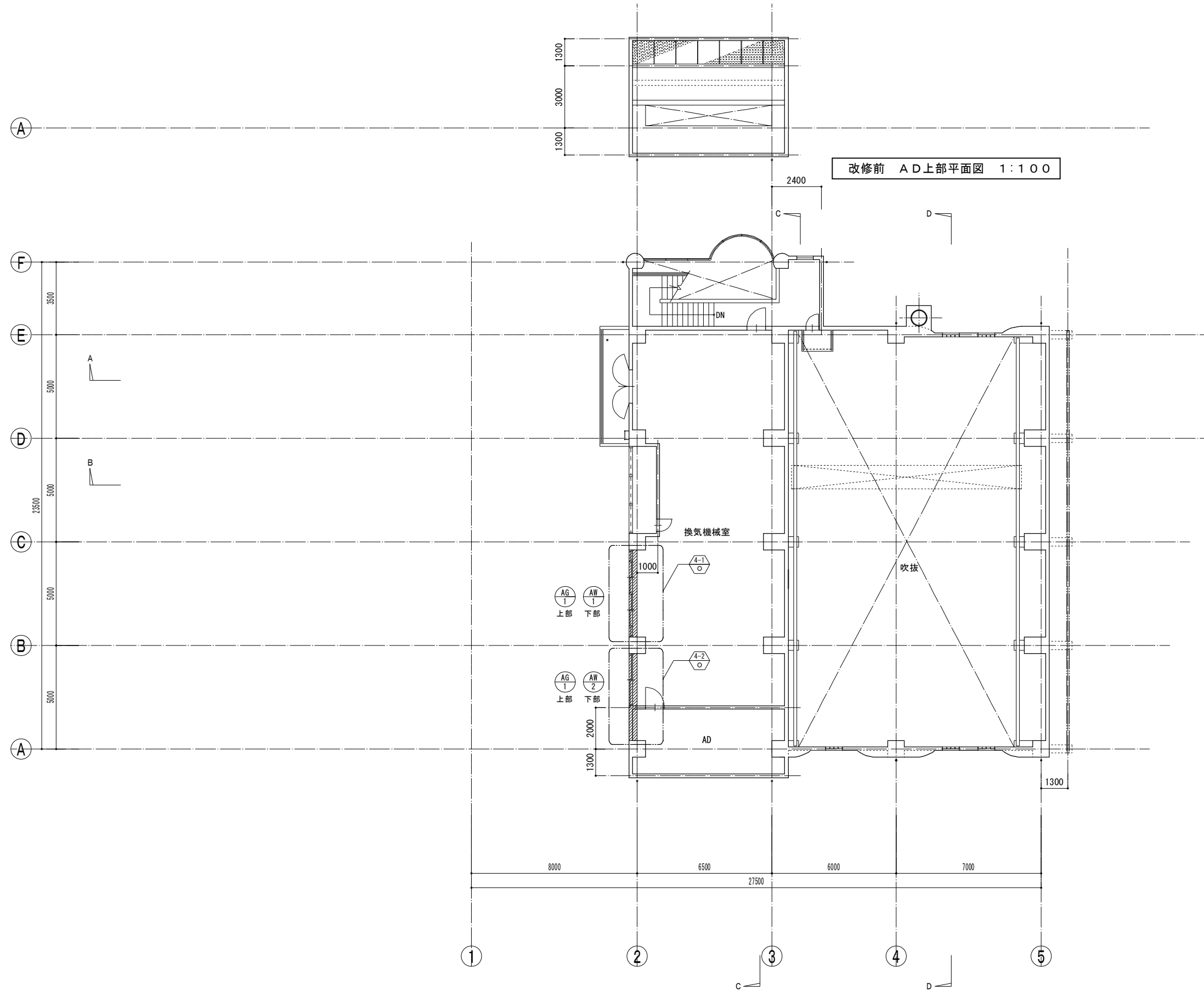


| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修後 3階平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-17 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修前

| 凡例 | | |
|----|--|-------------------------------------|
| 1 | | 改修工事範囲を示す |
| 2 | | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「O」は改修前（既存）を表す |
| 3 | | 撤去建具の建具符号を表す |
| 4 | | 撤去する範囲を示す |



改修前 AD上部平面図 1:100

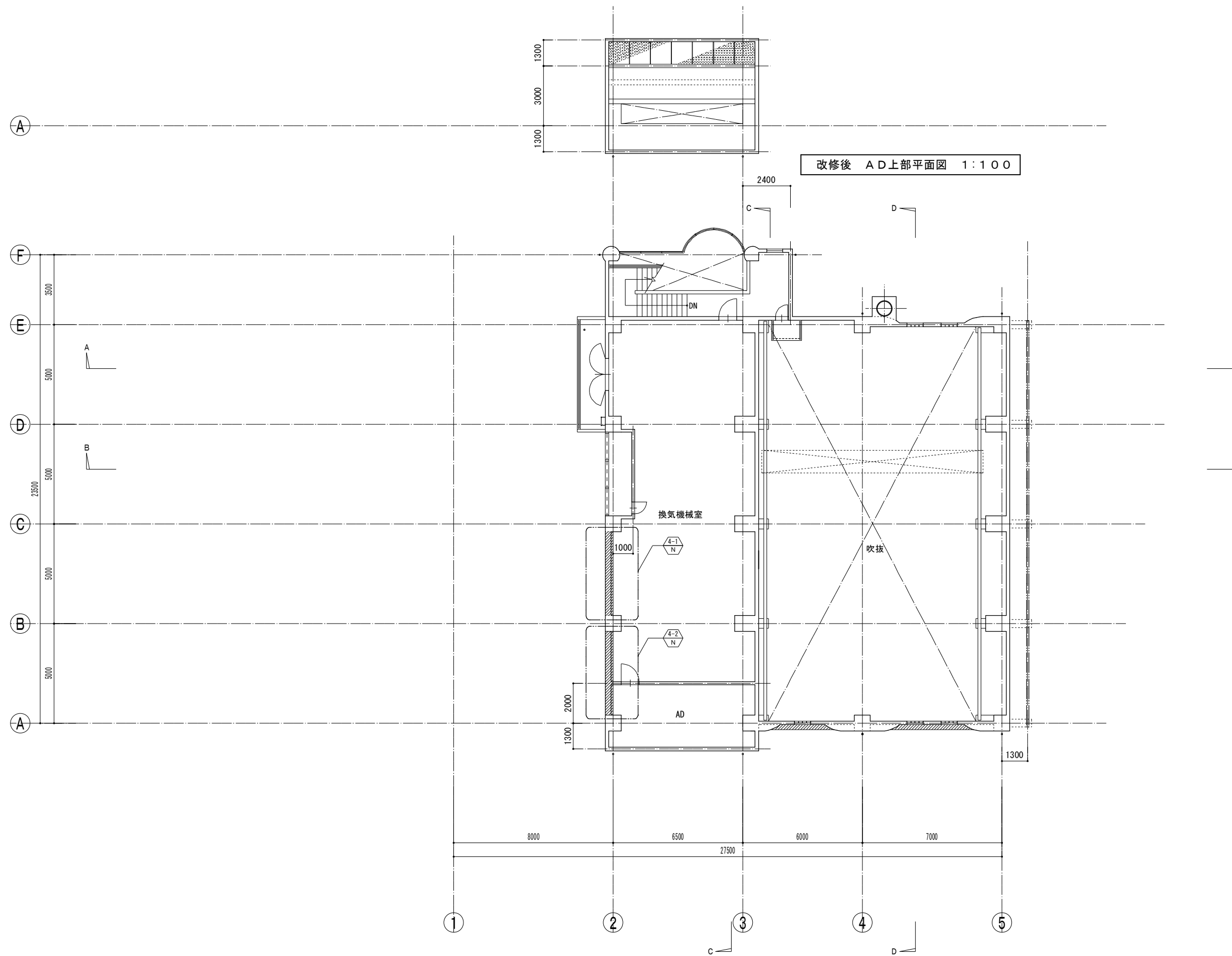
改修前 4階平面図 1:100

| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修前 4階平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-18 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修後

| 凡例 | | |
|----|-----|-------------------------------------|
| 1 | | 改修工事範囲を示す |
| 2 | | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「N」は改修後（新設）を表す |
| 3 | | 新設建具の建具符号を表す |
| 4 | | 新設範囲を示す |
| 5 | SAT | 簡易気密ドア |

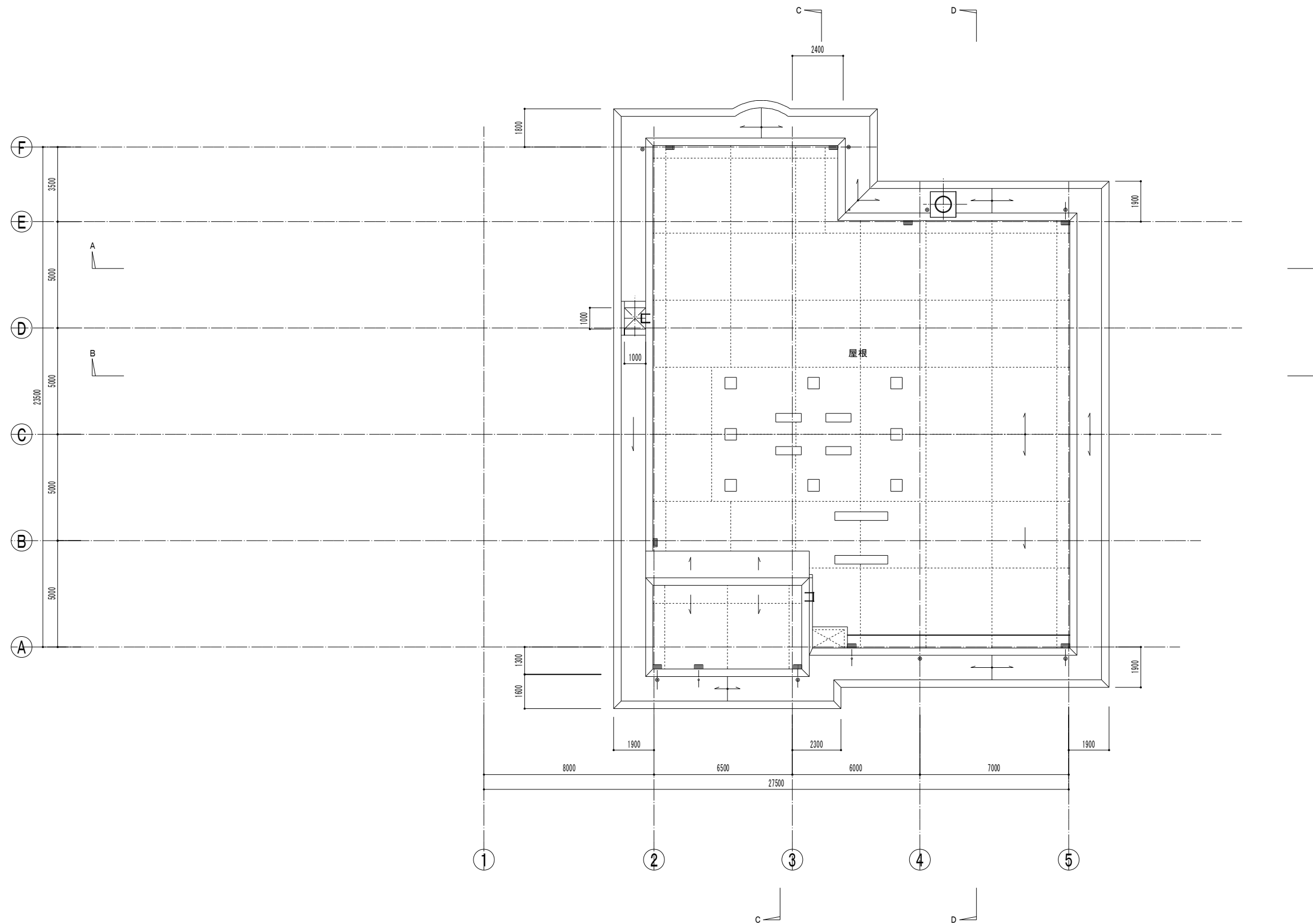


改修後 AD上部平面図 1:100

改修後 4階平面図 1:100

| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修後 4階平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-19 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊



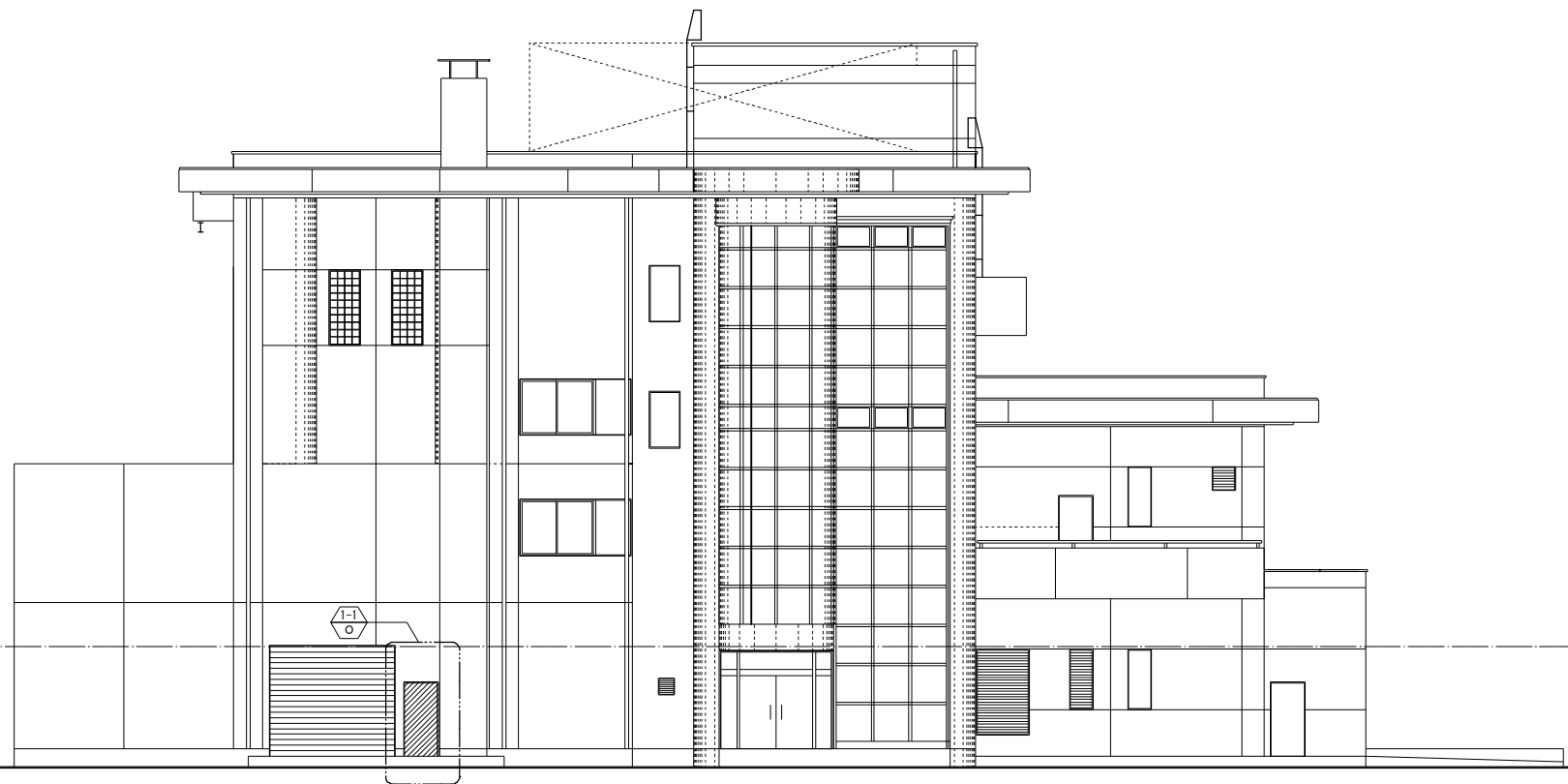
改修前・後 屋根伏図 1:100

| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修前・後 屋根伏図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-20 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録(い-27)第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

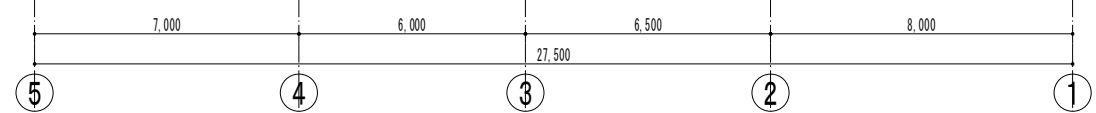
改修前

| | |
|-----------|------------|
| ▽パラベット天端 | TP +18.550 |
| ▽RSL (水下) | TP +17.900 |
| 4.000 | |
| 4.200 | |
| ▽4FL | TP +13.900 |
| 3.300 | |
| ▽3FL | TP +9.700 |
| 3.300 | |
| ▽2FL | TP +6.400 |
| ▽浸水レベル | TP +5.000 |
| 4.000 | |
| 3.300 | |
| ▽1FL | TP +2.400 |
| ▽GL | TP +1.700 |
| 700 | |



| 凡例 | | |
|----|---|-------------------------------------|
| 1 | ○ | 改修工事範囲を示す |
| 2 | ⊗ | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「O」は改修前（既存）を表す |
| 3 | ⊙ | 撤去建具の建具符号を表す |
| 4 | ▨ | 撤去する範囲を示す |

| | |
|-----------|------------|
| ▽パラベット天端 | TP +12.400 |
| △RSL (水下) | TP +11.900 |
| 5.300 | |
| 10.700 | |
| ▽パラベット天端 | TP +7.100 |
| △RSL (水下) | TP +6.600 |
| ▽浸水レベル | TP +5.000 |
| 4.600 | |
| 3.300 | |
| ▽1FL | TP +2.000 |
| △GL | TP +1.700 |
| 300 | |



改修前 東立面図 1:100

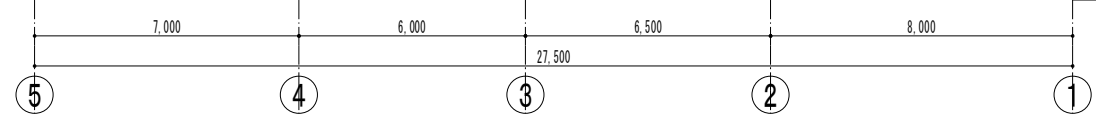
改修後

| | |
|-----------|------------|
| ▽パラベット天端 | TP +18.550 |
| ▽RSL (水下) | TP +17.900 |
| 4.000 | |
| 4.200 | |
| ▽4FL | TP +13.900 |
| 3.300 | |
| ▽3FL | TP +9.700 |
| 3.300 | |
| ▽2FL | TP +6.400 |
| ▽浸水レベル | TP +5.000 |
| 4.000 | |
| 3.300 | |
| ▽1FL | TP +2.400 |
| ▽GL | TP +1.700 |
| 700 | |



| 凡例 | | |
|----|---|-------------------------------------|
| 1 | ○ | 改修工事範囲を示す |
| 2 | ⊗ | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「N」は改修後（新設）を表す |
| 3 | ⊙ | 新設建具の建具符号を表す |
| 4 | ▨ | 新設範囲を示す |

| | |
|-----------|------------|
| ▽パラベット天端 | TP +12.400 |
| △RSL (水下) | TP +11.900 |
| 5.300 | |
| 10.700 | |
| ▽パラベット天端 | TP +7.100 |
| △RSL (水下) | TP +6.600 |
| ▽浸水レベル | TP +5.000 |
| 4.600 | |
| 3.300 | |
| ▽1FL | TP +2.000 |
| △GL | TP +1.700 |
| 300 | |



改修後 東立面図 1:100

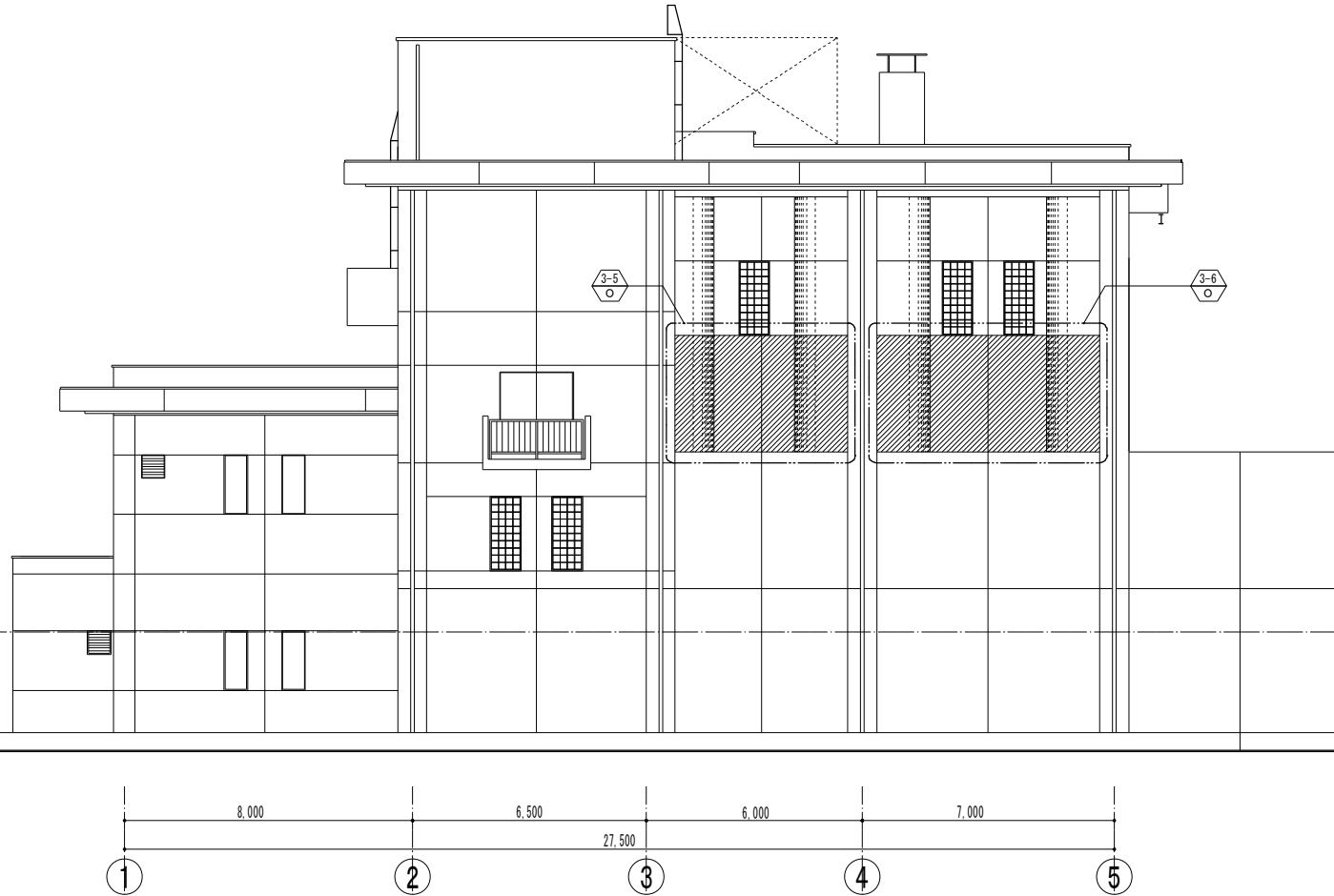
| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修前・後 東立面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 平成 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-21 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修前

| 凡例 | | |
|----|--|-------------------------------------|
| 1 | | 改修工事範囲を示す |
| 2 | | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「O」は改修前（既存）を表す |
| 3 | | 撤去建具の建具符号を表す |
| 4 | | 撤去する範囲を示す |

| | | |
|---|----------|------------|
| ▽ | パラペット天端 | TP +12.400 |
| △ | RSL (水下) | TP +11.900 |
| ▽ | パラペット天端 | TP + 7.100 |
| △ | RSL (水下) | TP + 6.600 |
| ▽ | 浸水レベル | TP + 5.000 |
| ▽ | 1FL | TP + 2.000 |
| △ | GL | TP + 1.700 |



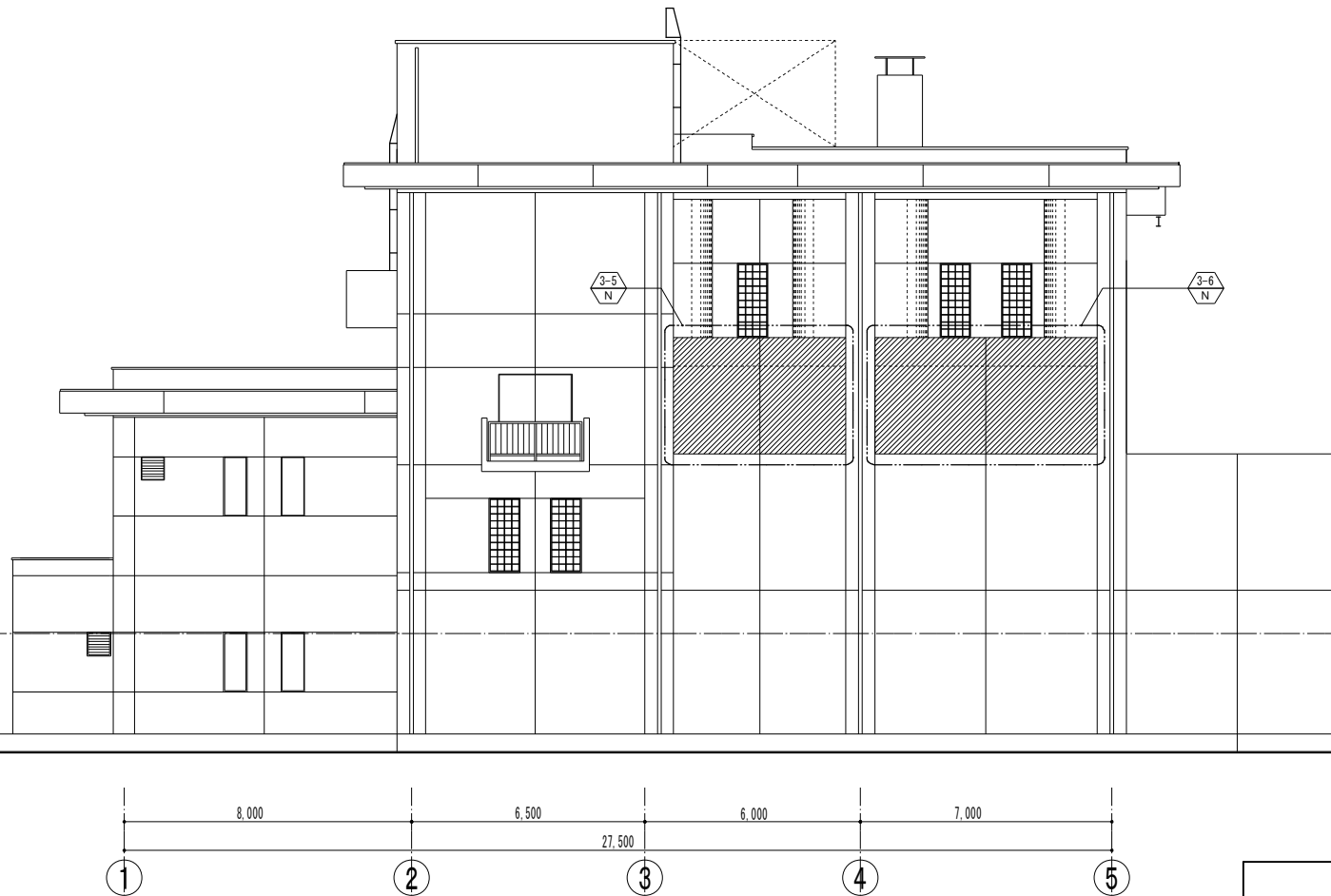
| | | |
|---|----------|------------|
| ▽ | パラペット天端 | TP +18.550 |
| ▽ | RSL (水下) | TP +17.900 |
| ▽ | 4FL | TP +13.900 |
| ▽ | 3FL | TP + 9.700 |
| ▽ | 2FL | TP + 6.400 |
| ▽ | 浸水レベル | TP + 5.000 |
| ▽ | 1FL | TP + 2.400 |
| ▽ | GL | TP + 1.700 |

改修前 西立面図 1:100

改修後

| 凡例 | | |
|----|--|-------------------------------------|
| 1 | | 改修工事範囲を示す |
| 2 | | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「N」は改修後（新設）を表す |
| 3 | | 新設建具の建具符号を表す |
| 4 | | 新設範囲を示す |

| | | |
|---|----------|------------|
| ▽ | パラペット天端 | TP +12.400 |
| △ | RSL (水下) | TP +11.900 |
| ▽ | パラペット天端 | TP + 7.100 |
| △ | RSL (水下) | TP + 6.600 |
| ▽ | 浸水レベル | TP + 5.000 |
| ▽ | 1FL | TP + 2.000 |
| △ | GL | TP + 1.700 |



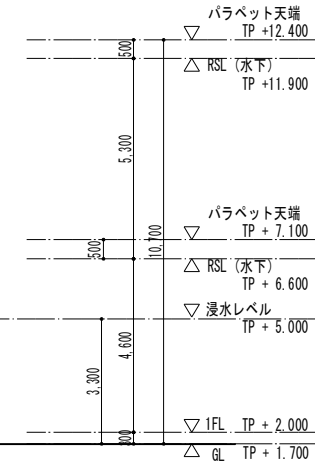
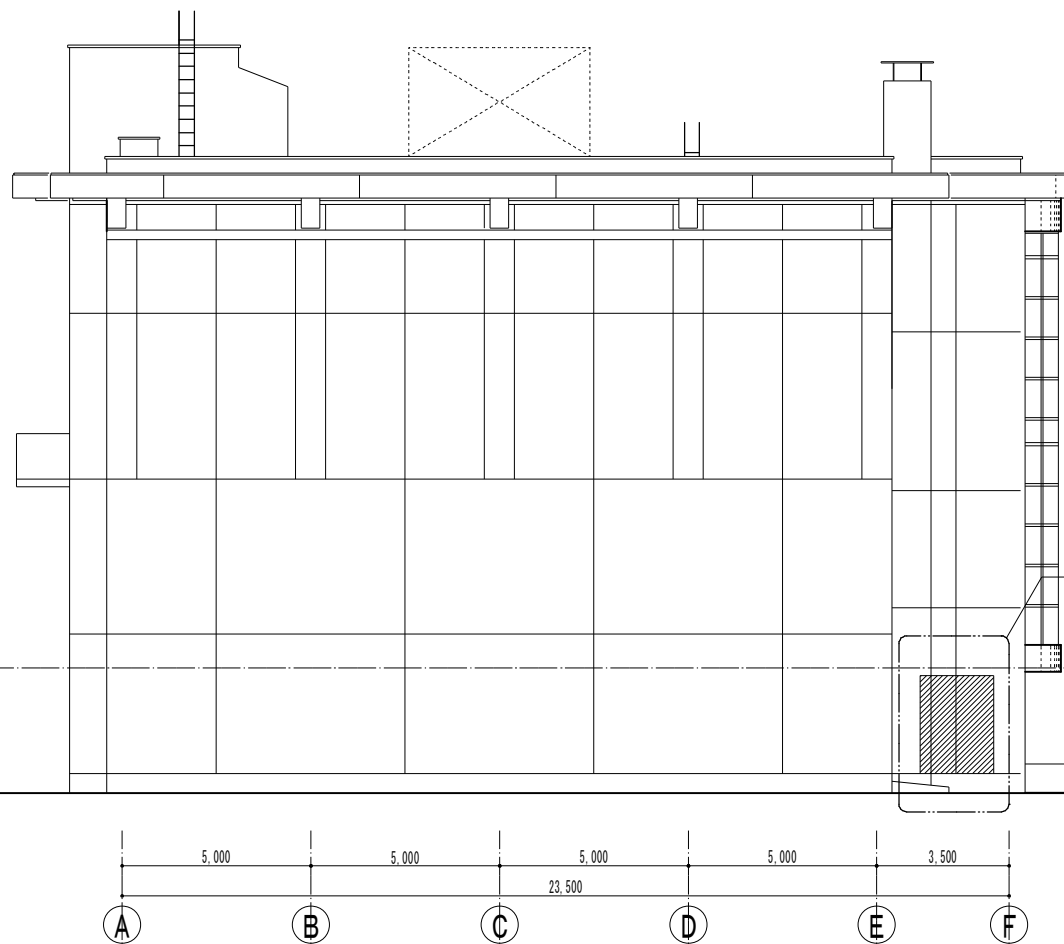
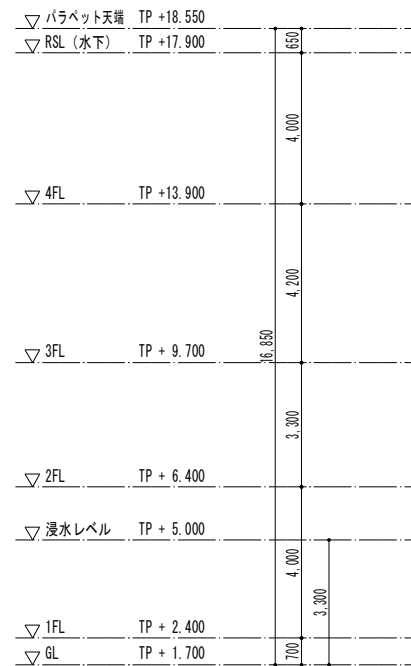
| | | |
|---|----------|------------|
| ▽ | パラペット天端 | TP +18.550 |
| ▽ | RSL (水下) | TP +17.900 |
| ▽ | 4FL | TP +13.900 |
| ▽ | 3FL | TP + 9.700 |
| ▽ | 2FL | TP + 6.400 |
| ▽ | 浸水レベル | TP + 5.000 |
| ▽ | 1FL | TP + 2.400 |
| ▽ | GL | TP + 1.700 |

改修後 西立面図 1:100

| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修前・後 西立面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 平成 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-22 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

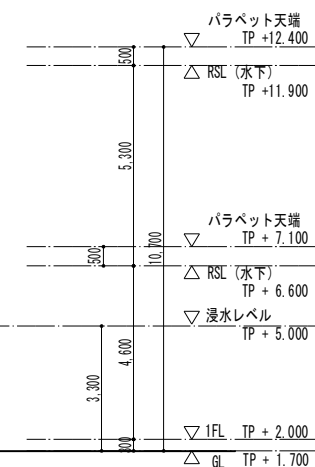
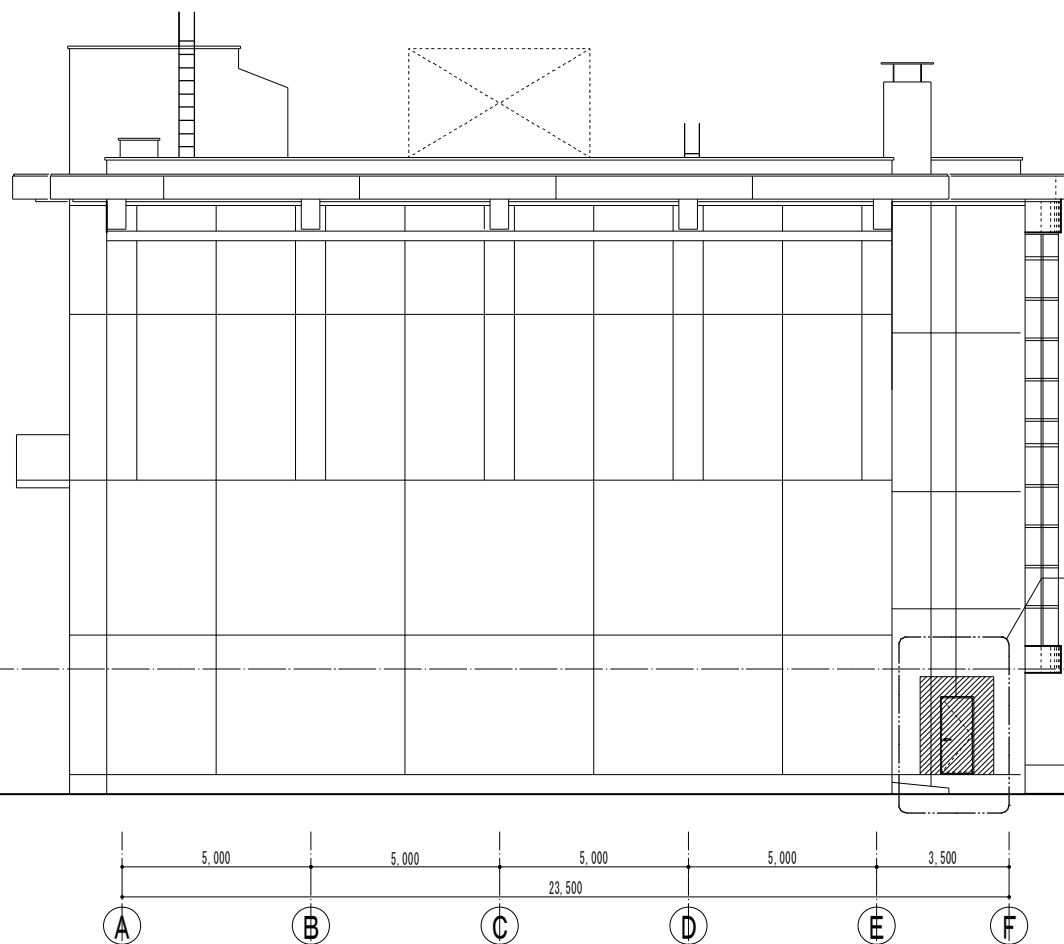
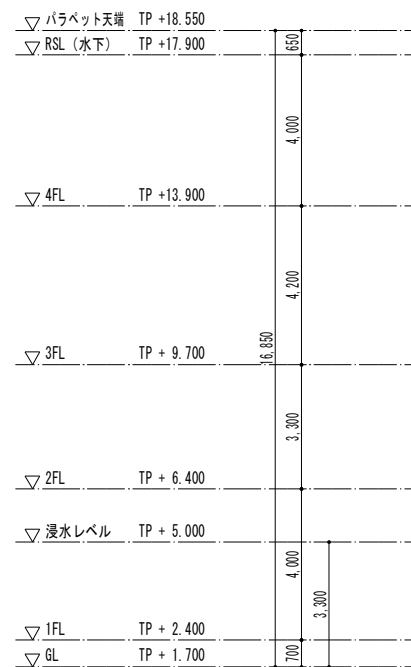
改修前



| 凡例 | | |
|----|--|-------------------------------------|
| 1 | | 改修工事範囲を示す |
| 2 | | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「O」は改修前（既存）を表す |
| 3 | | 撤去建具の建具符号を表す |
| 4 | | 撤去する範囲を示す |

改修前 南立面図 1:100

改修後



| 凡例 | | |
|----|--|-------------------------------------|
| 1 | | 改修工事範囲を示す |
| 2 | | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「N」は改修後（新設）を表す |
| 3 | | 新設建具の建具符号を表す |
| 4 | | 新設範囲を示す |

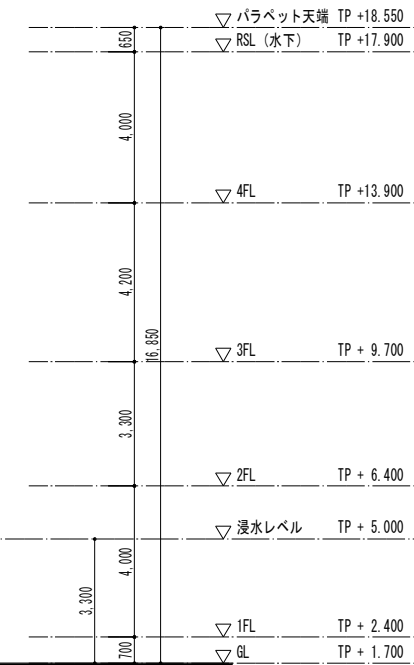
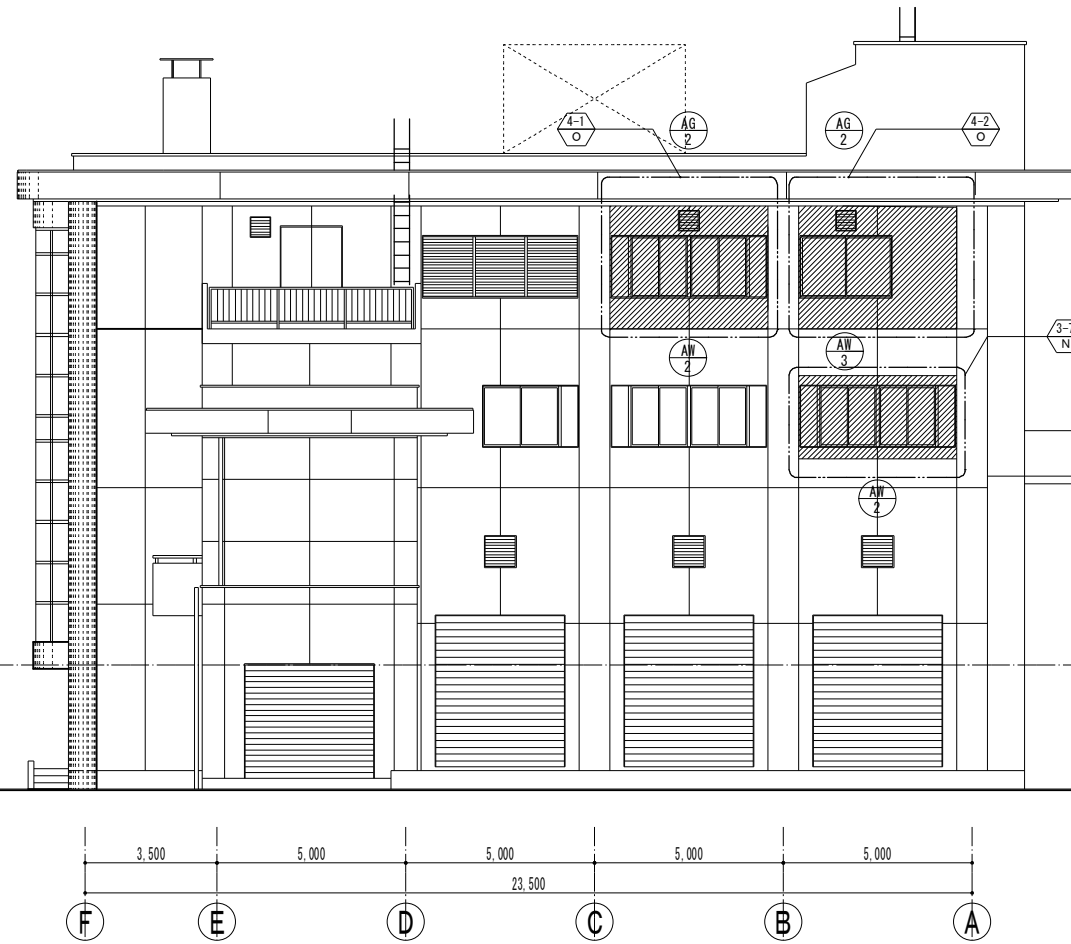
改修後 南立面図 1:100

| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修前・後 南立面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 平成 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-23 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修前

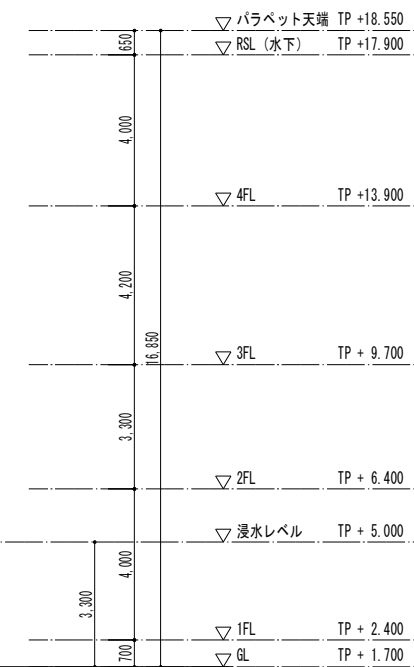
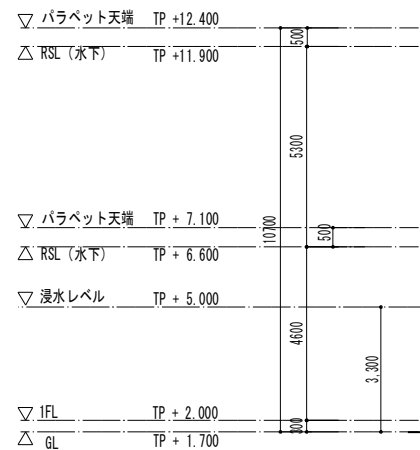
| 凡例 | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 改修工事範囲を示す |
| 2 | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「O」は改修前（既存）を表す |
| 3 | 撤去建具の建具符号を表す |
| 4 | 撤去する範囲を示す |



改修前 北立面図 1:100

改修後

| 凡例 | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 改修工事範囲を示す |
| 2 | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「N」は改修後（新設）を表す |
| 3 | 新設建具の建具符号を表す |
| 4 | 新設範囲を示す |

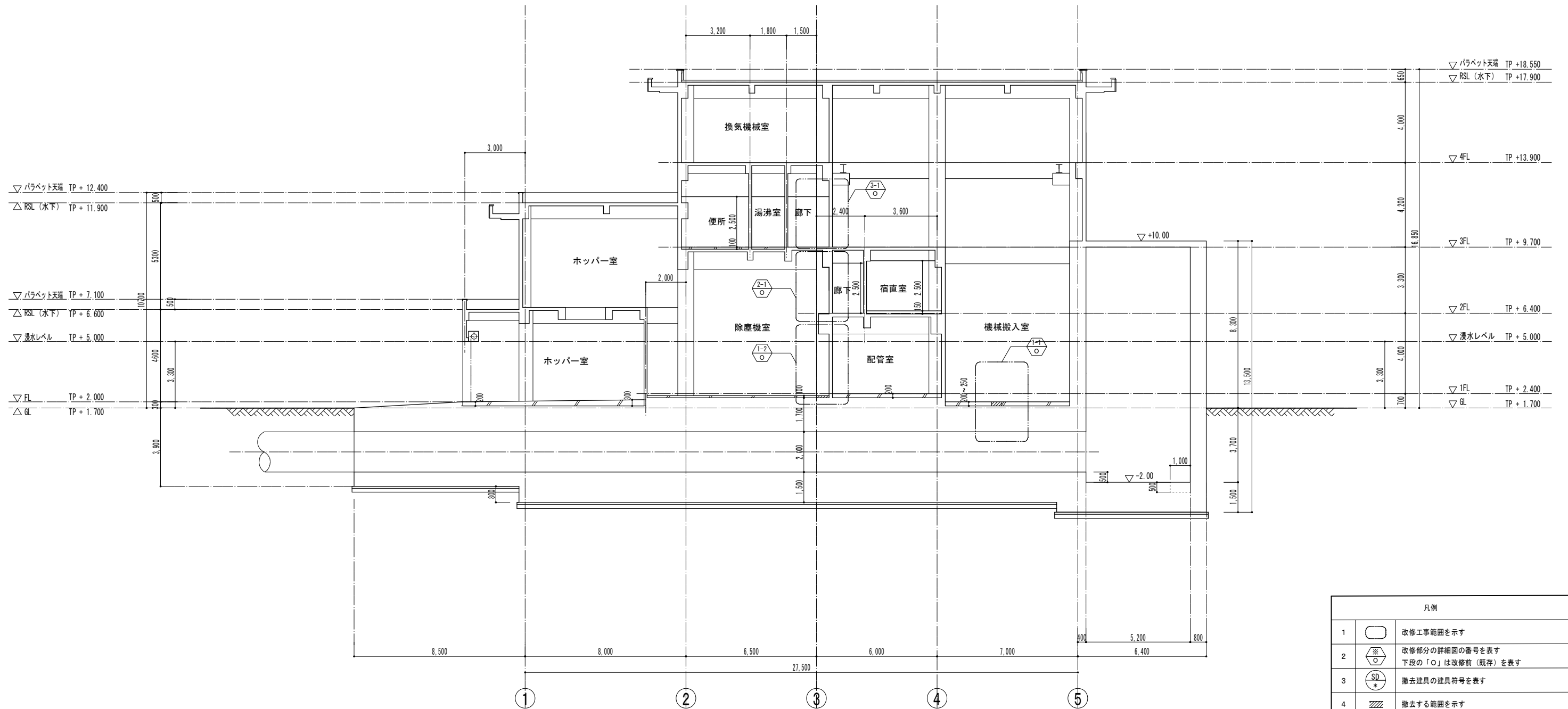


改修後 北立面図 1:100

| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修前・後 北立面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 平成 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-24 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修前



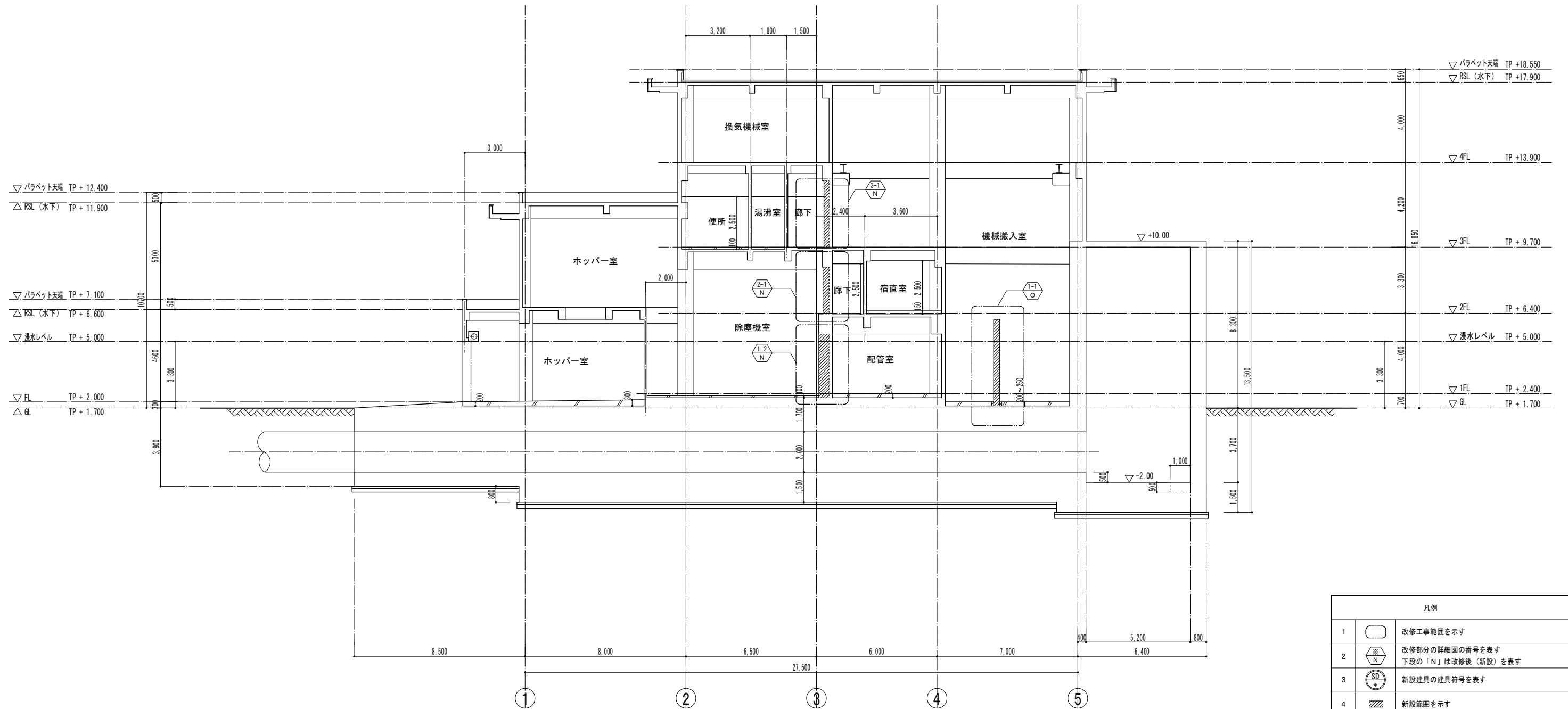
改修前 A-A断面図 1:100

| 凡例 | | |
|----|--|-------------------------------------|
| 1 | | 改修工事範囲を示す |
| 2 | | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「○」は改修前（既存）を表す |
| 3 | | 撤去建具の建具符号を表す |
| 4 | | 撤去する範囲を示す |

| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修前 A-A断面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 平成 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-25 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修後



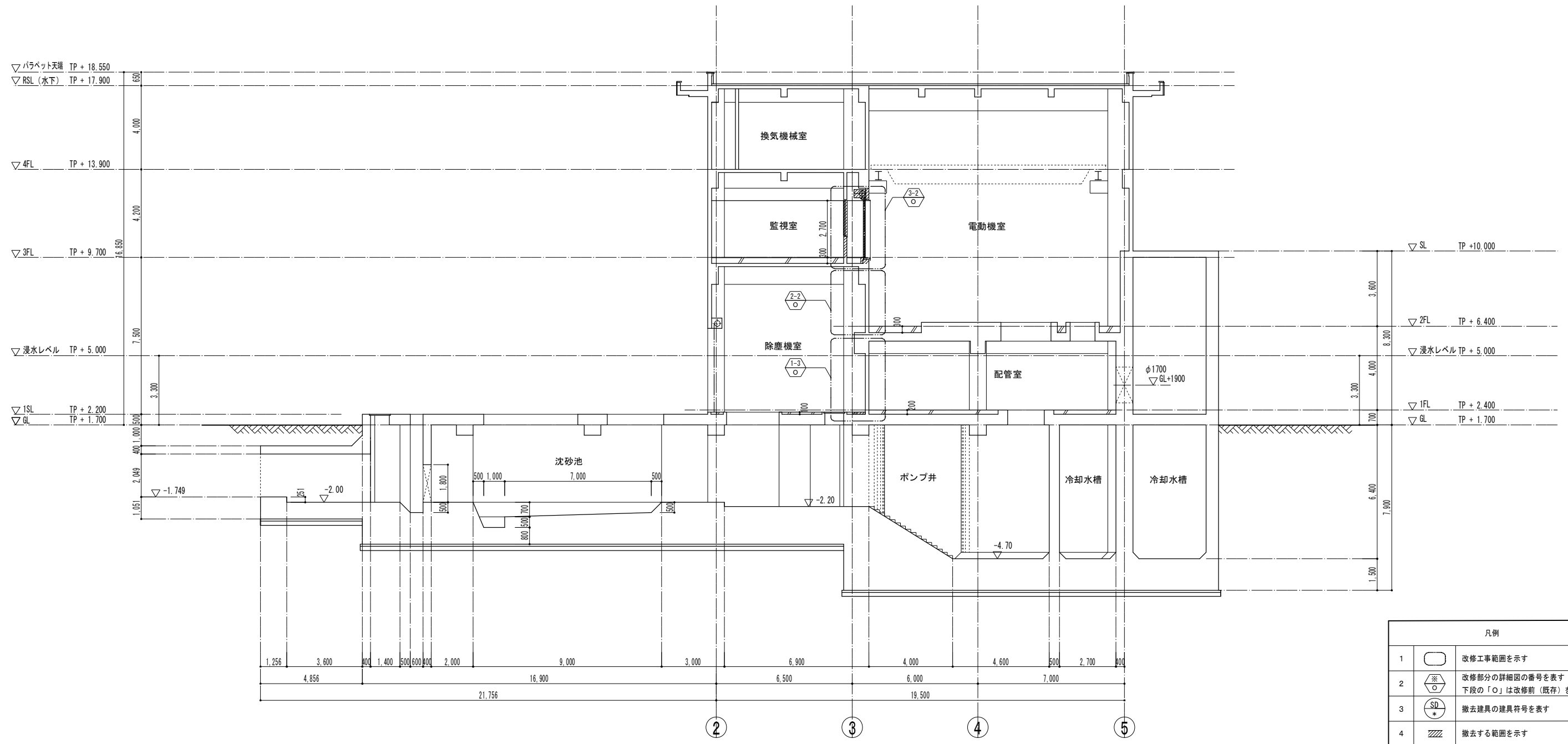
改修後 A-A断面図 1:100

| 凡例 | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 改修工事範囲を示す |
| 2 | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「N」は改修後（新設）を表す |
| 3 | 新設建具の建具符号を表す |
| 4 | 新設範囲を示す |

| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修後 A-A断面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 平成 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-26 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修前



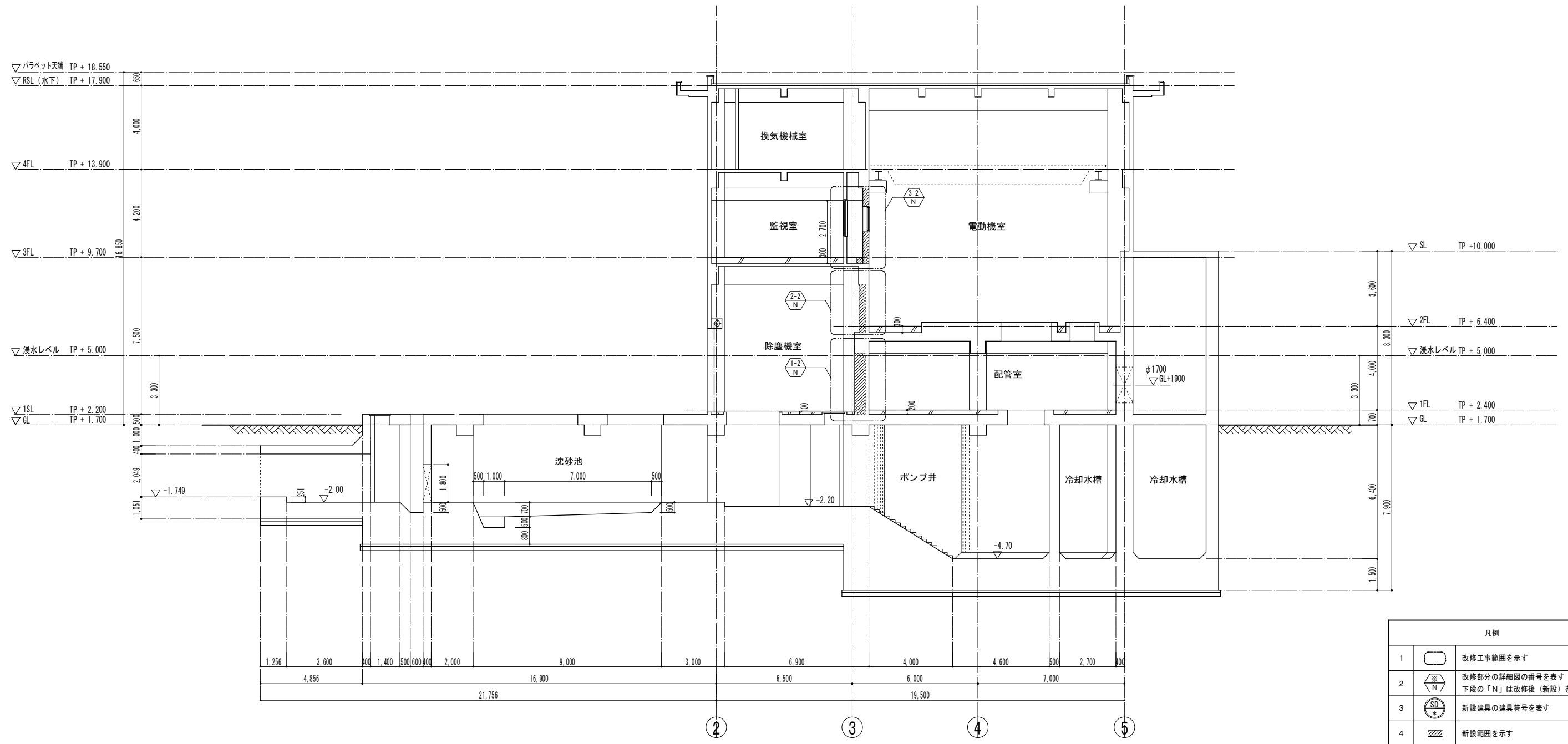
改修前 B-B断面図 1:100

| 凡例 | | |
|----|--|-------------------------------------|
| 1 | | 改修工事範囲を示す |
| 2 | | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「○」は改修前（既存）を表す |
| 3 | | 撤去建具の建具符号を表す |
| 4 | | 撤去する範囲を示す |

| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修前 B-B断面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 平成 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-27 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録(い-27)第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修後



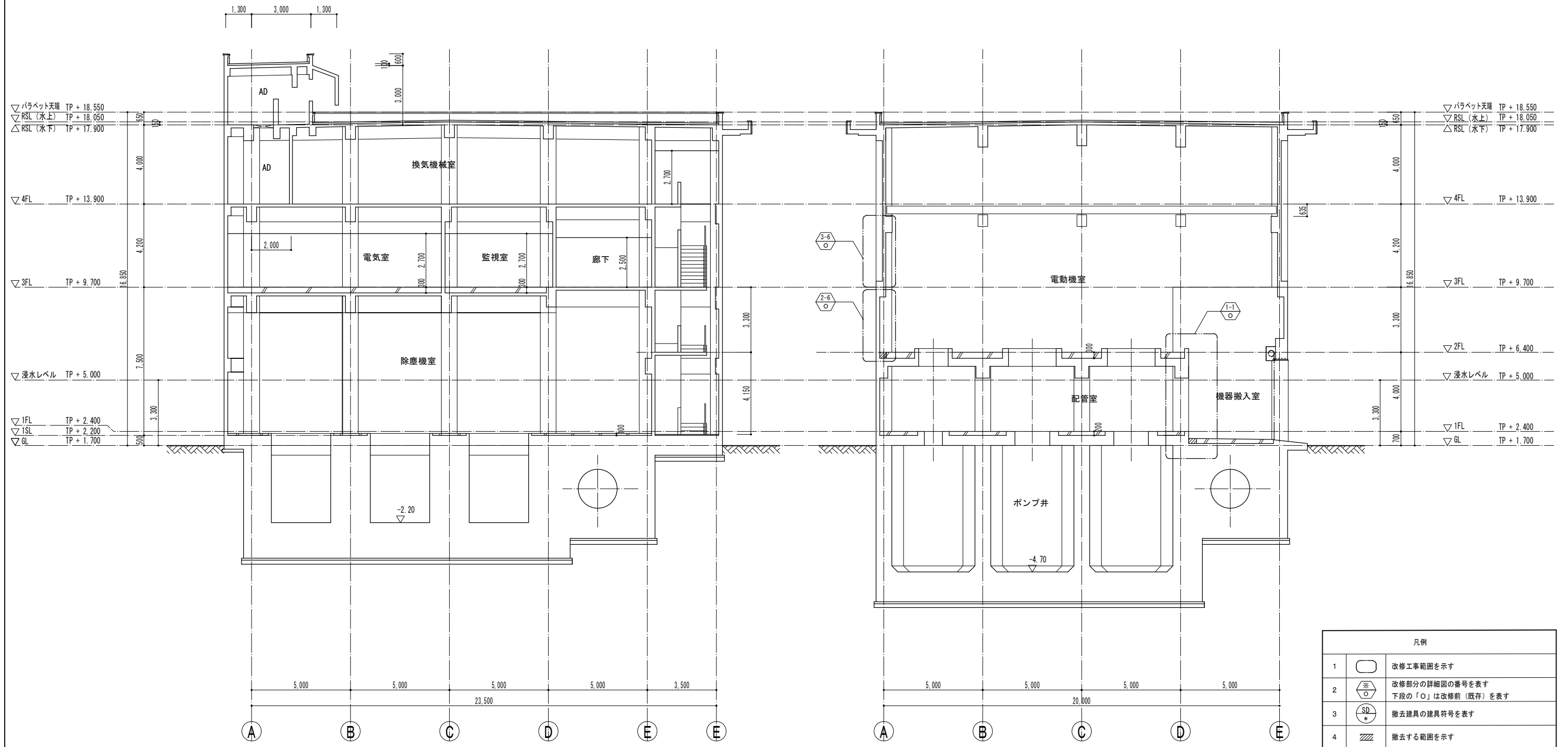
| 凡例 | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 改修工事範囲を示す |
| 2 | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「N」は改修後（新設）を表す |
| 3 | 新設建具の建具符号を表す |
| 4 | 新設範囲を示す |

改修後 B-B断面図 1:100

| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修後 B-B断面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 平成 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-28 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修前



改修前 C-C断面図 1:100

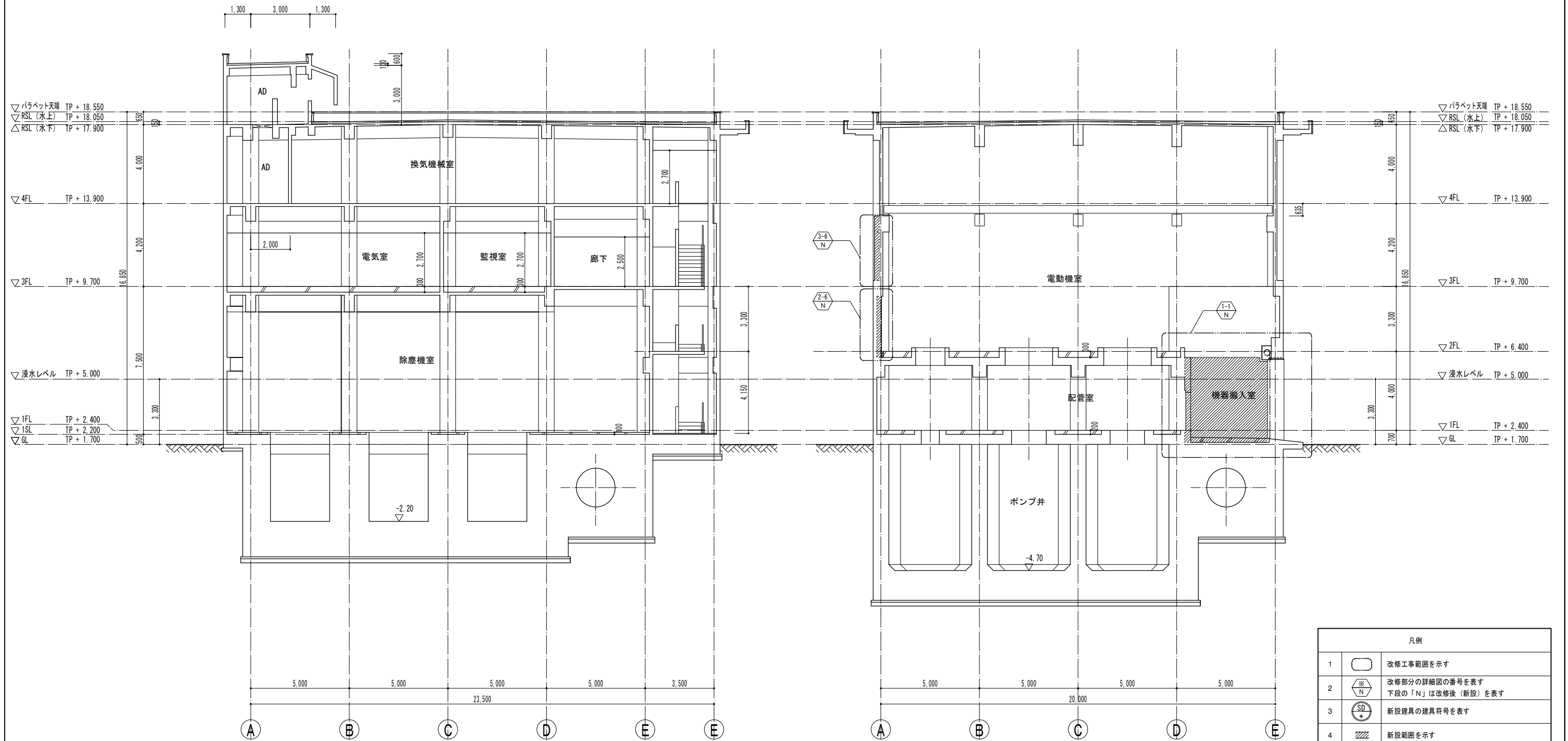
改修前 D-D断面図 1:100

| 凡例 | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 改修工事範囲を示す |
| 2 | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「O」は改修前（既存）を表す |
| 3 | 撤去建具の建具符号を表す |
| 4 | 撤去する範囲を示す |

| | | | |
|------|--------------------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修前 C-C断面図 改修前 D-D断面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 平成 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-29 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修後



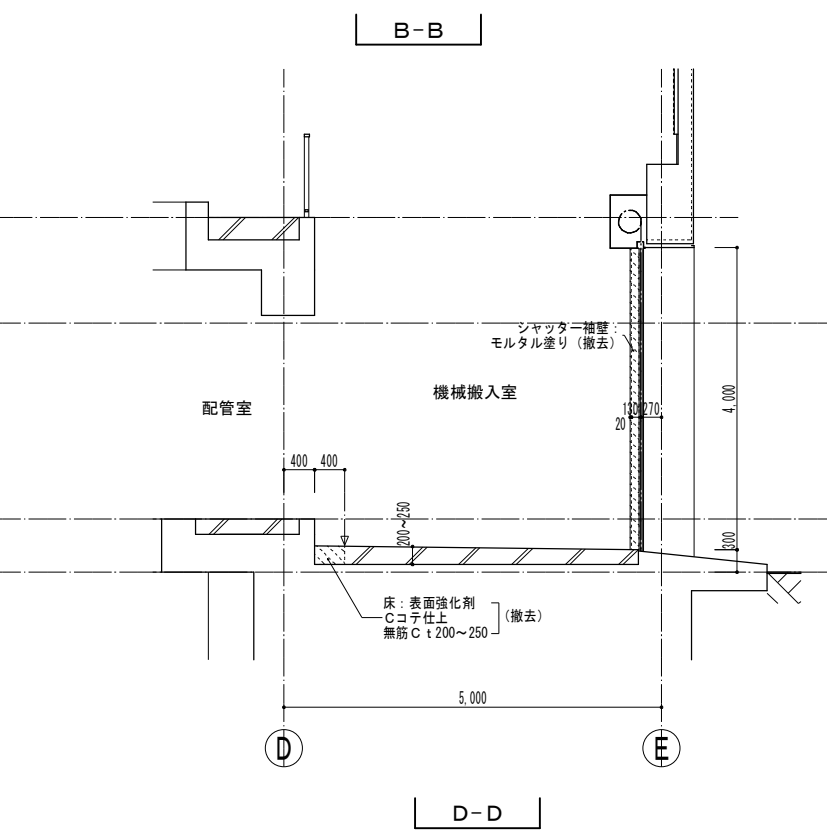
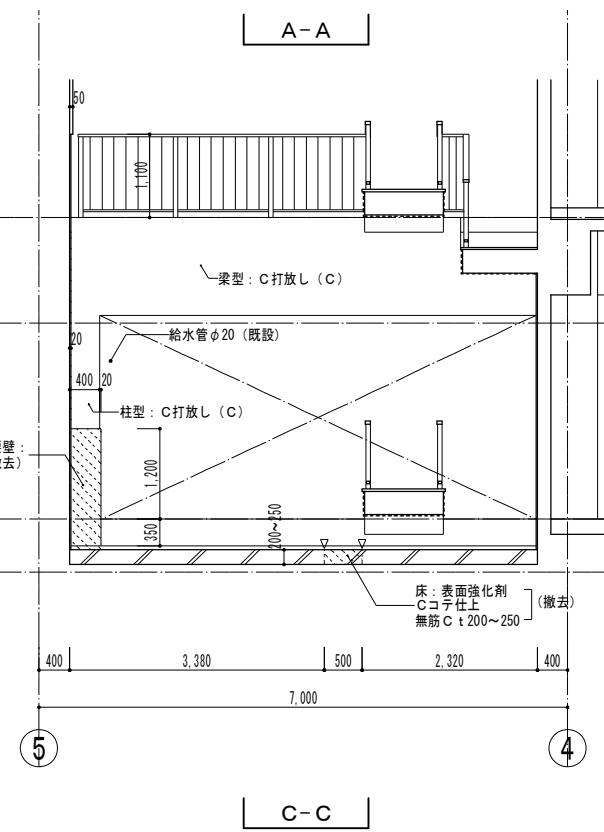
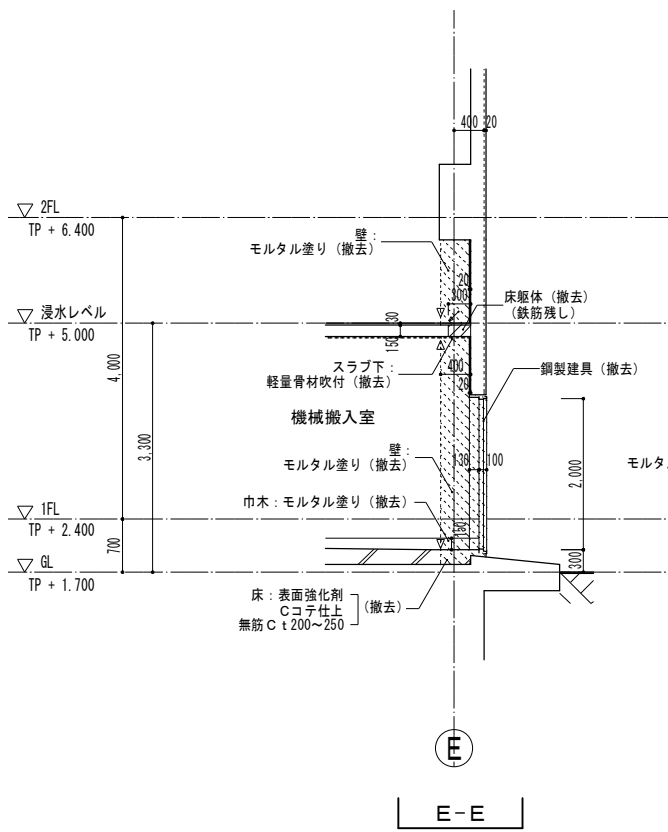
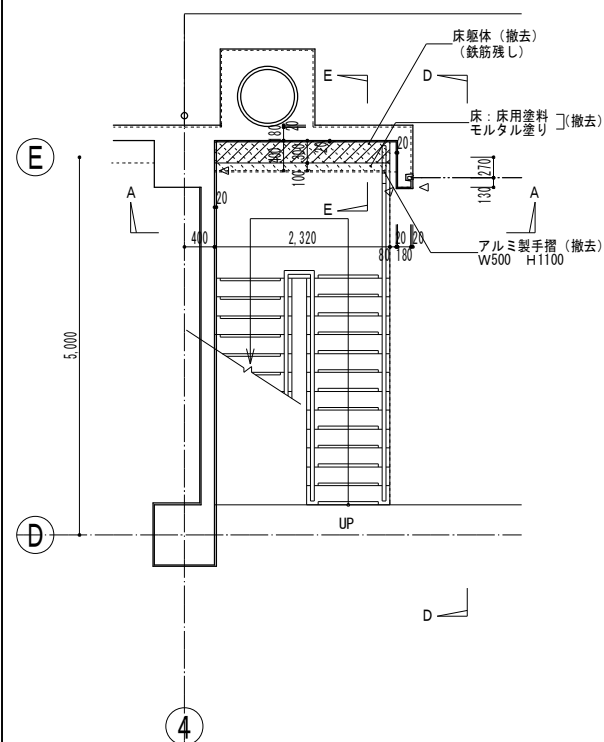
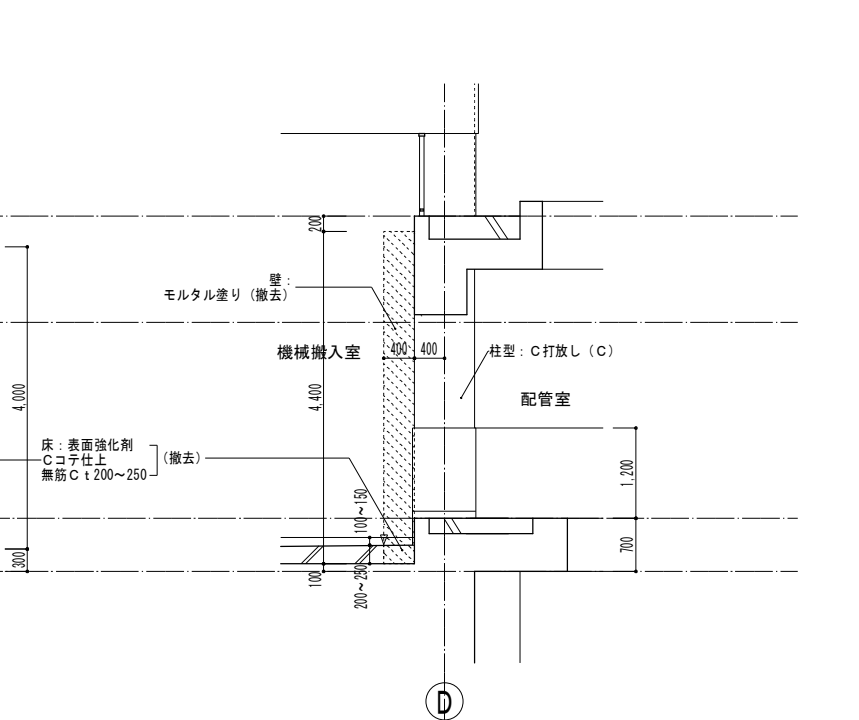
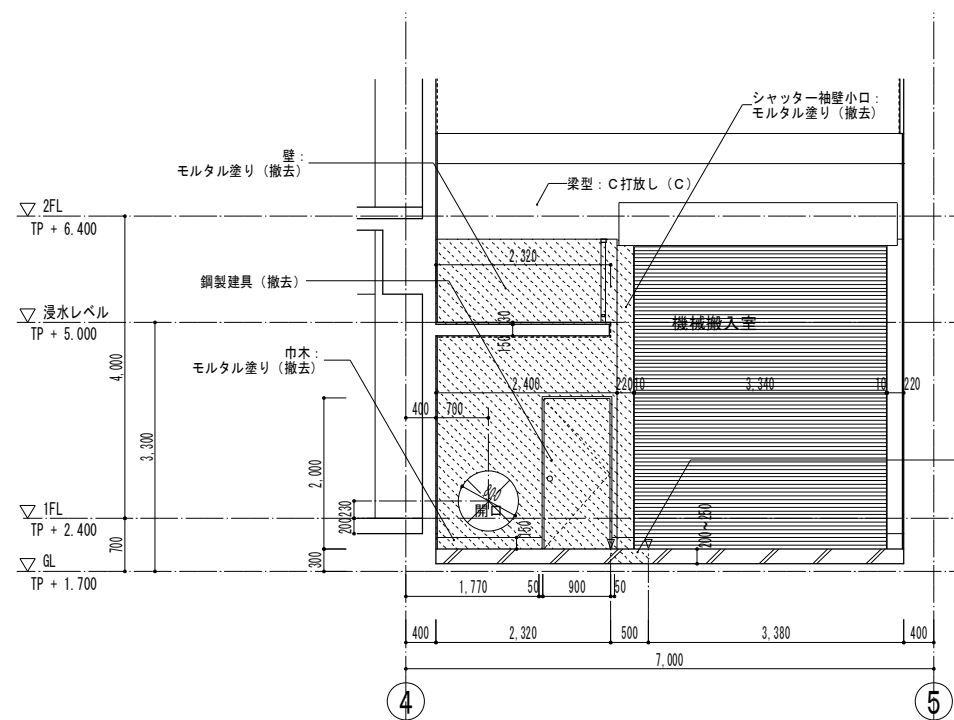
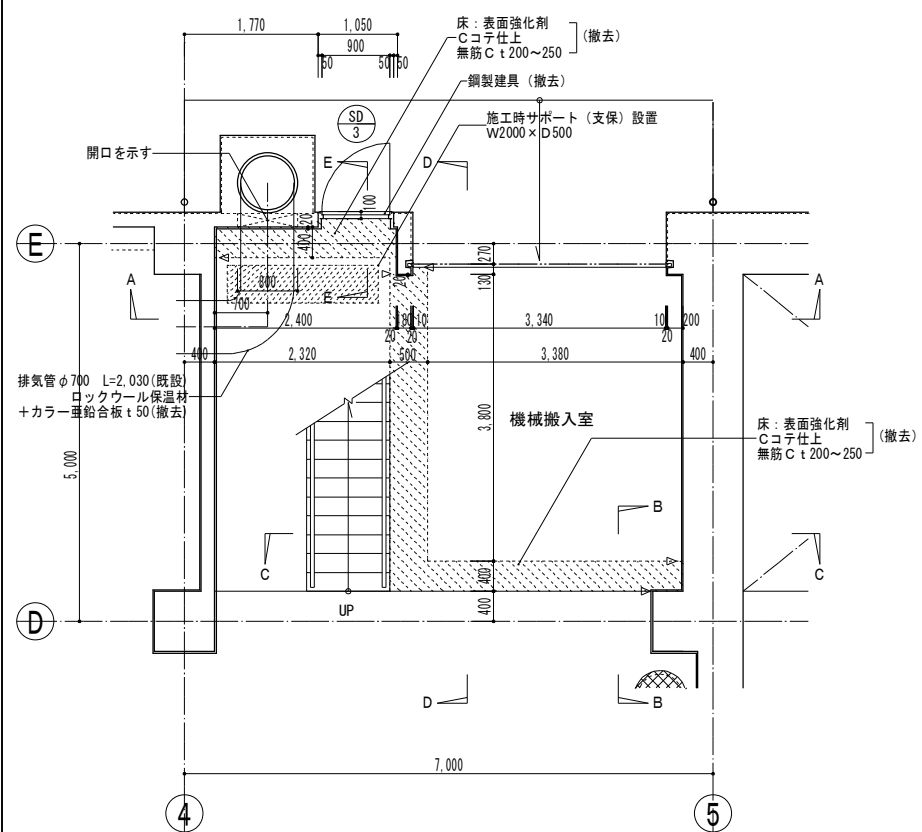
改修後 C-C断面図 1:100

改修後 D-D断面図 1:100

| 凡例 | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 改修工事範囲を示す |
| 2 | 改修部分の詳細図の番号を表す 下段の「N」は改修後（新設）を表す |
| 3 | 新設建具の建具符号を表す |
| 4 | 新設範囲を示す |

| | |
|------|--------------------------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 |
| 名称 | 改修後 C-C断面図 改修後 D-D断面図 |
| 縮尺 | 1/100 |
| 設計年月 | 平成 年 月 |
| 工種 | 設計者 (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 D-30 |

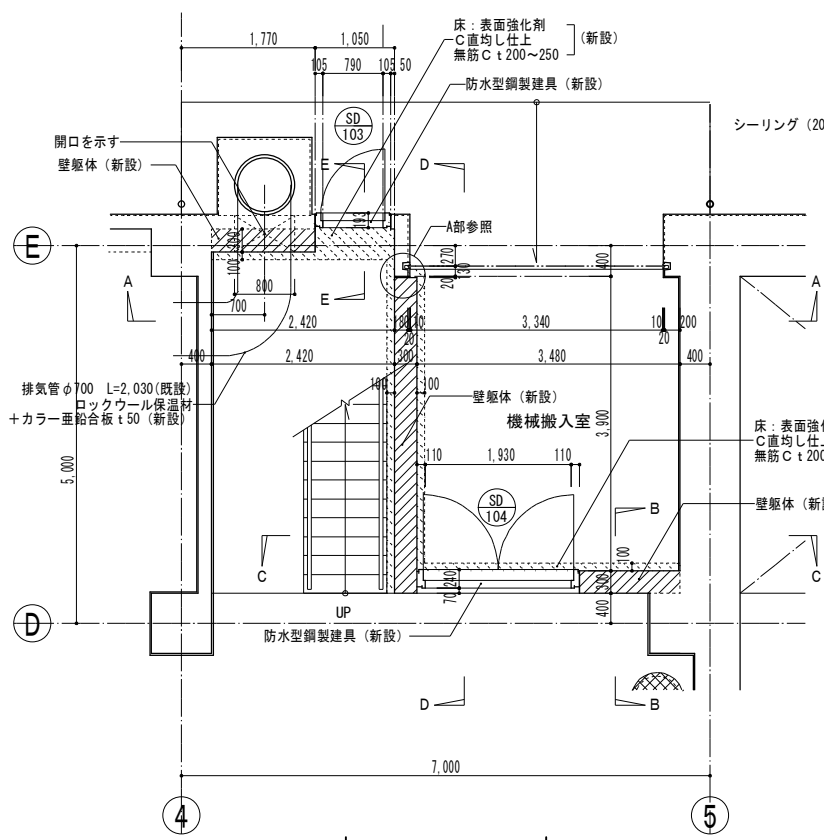
株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊



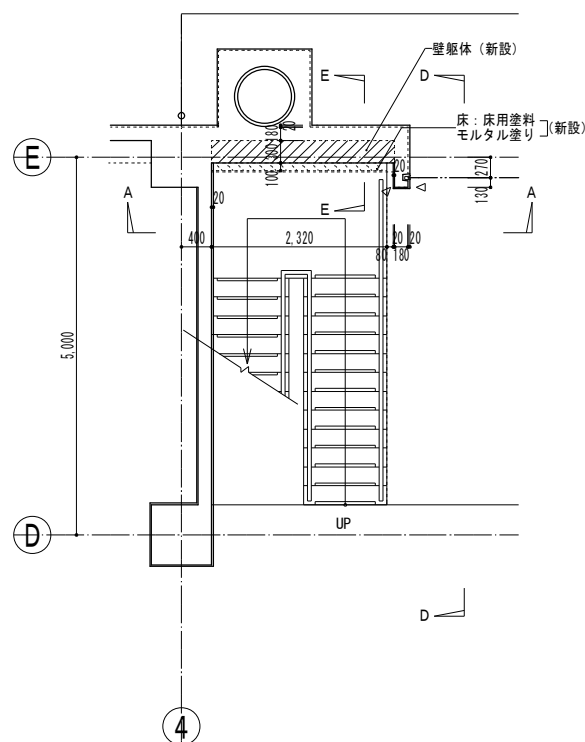
凡例
 特記なき限り
 [斜線] 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋残し)
 [点線] 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋共撤去)
 [白] 部分は仕上の撤去範囲を示す。
 △ 表示部はカッターによる切断位置を示す。
 ▽ 表示部はカッターによる仕上材切断位置を示す。

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

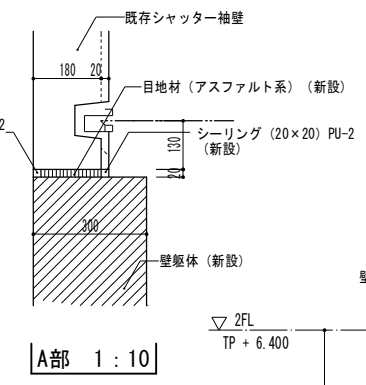
| | | | |
|------|-------------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 1階平面・断面・展開詳細図 (1) | | |
| 縮尺 | 1/50 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-31 |



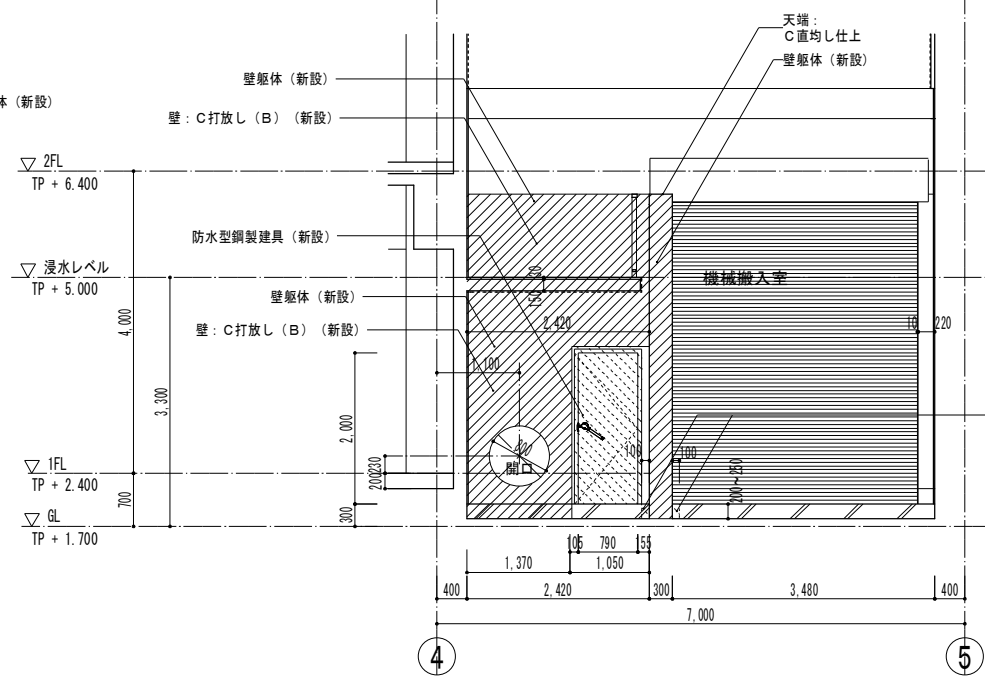
1階平面詳細図



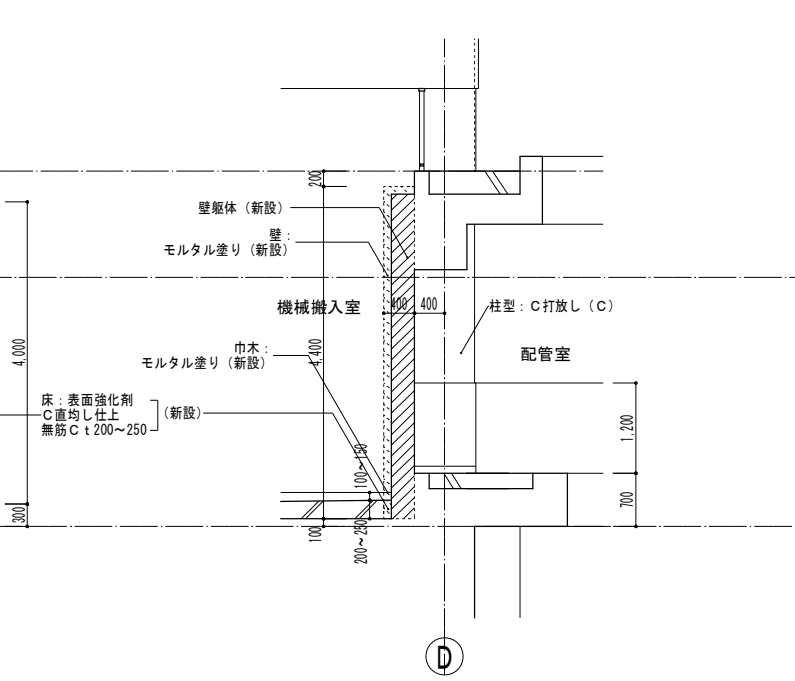
1階上部平面詳細図



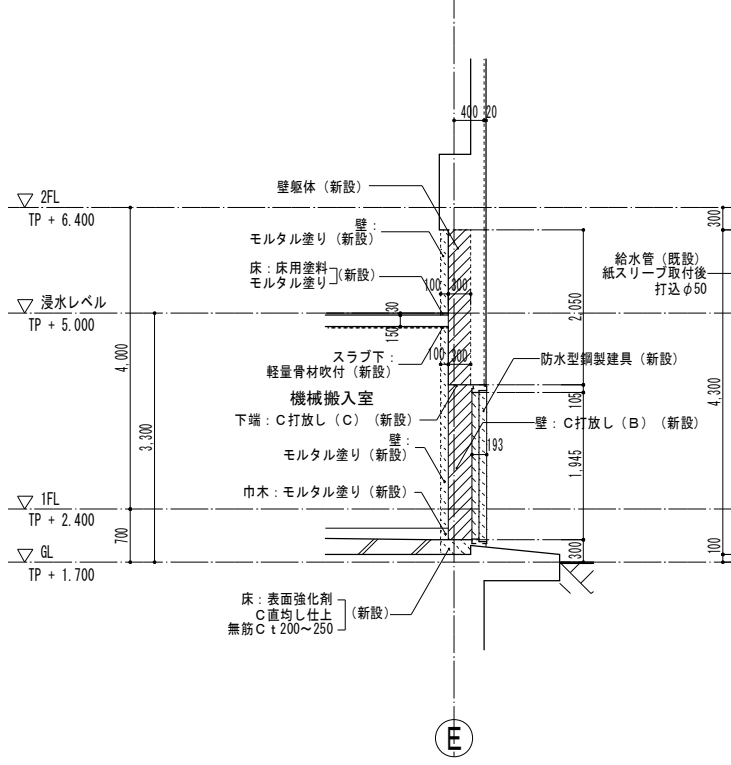
A部 1:10



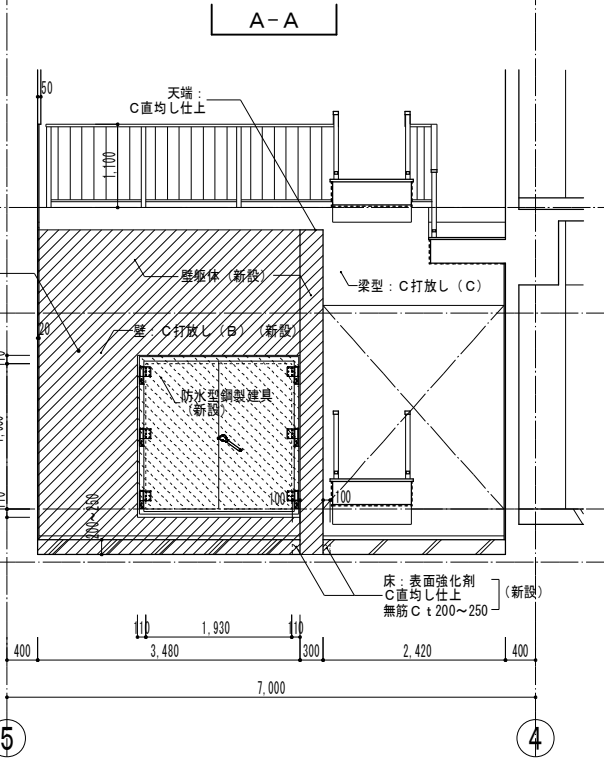
A-A



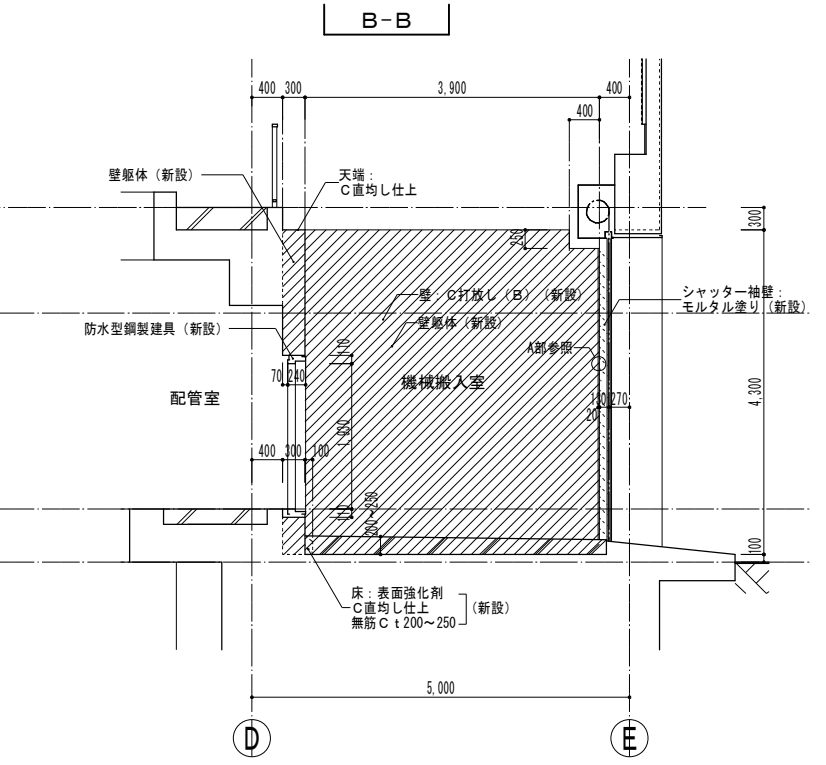
B-B



E-E



C-C

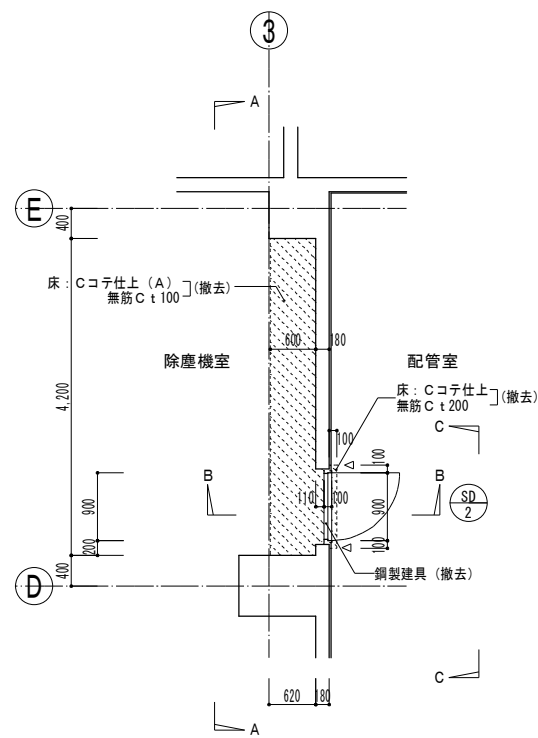


D-D

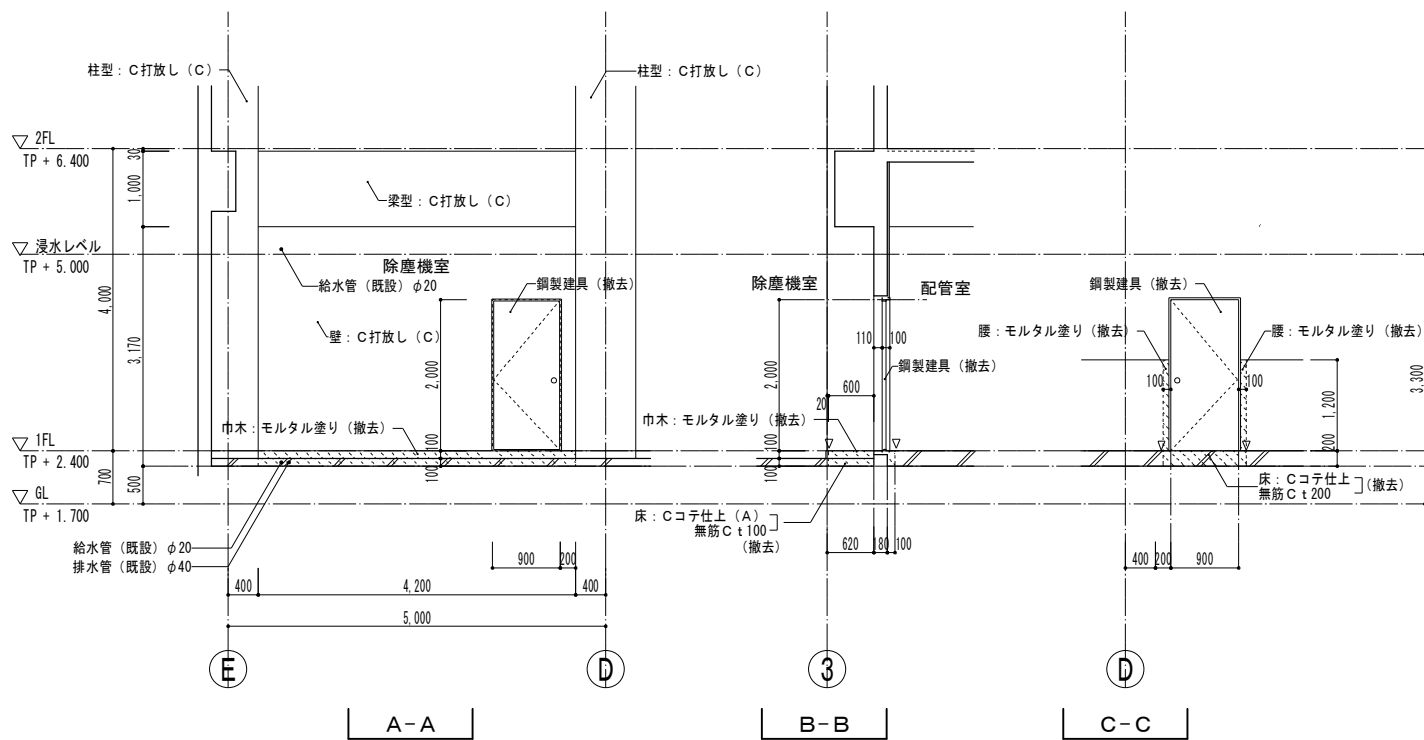
凡例
 特記なき限り 部分は躯体の新設範囲を示す。
 部分は仕上の新設範囲を示す。
 新設壁打継目地: 2-02-8 (20×15) (PU-2) を示す。

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

| | |
|------|-------------------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 |
| 名称 | 1階平面・断面・展開詳細図 (2) |
| 縮尺 | 1/50 |
| 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | 設計者 (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 D-32 |



平面詳細図

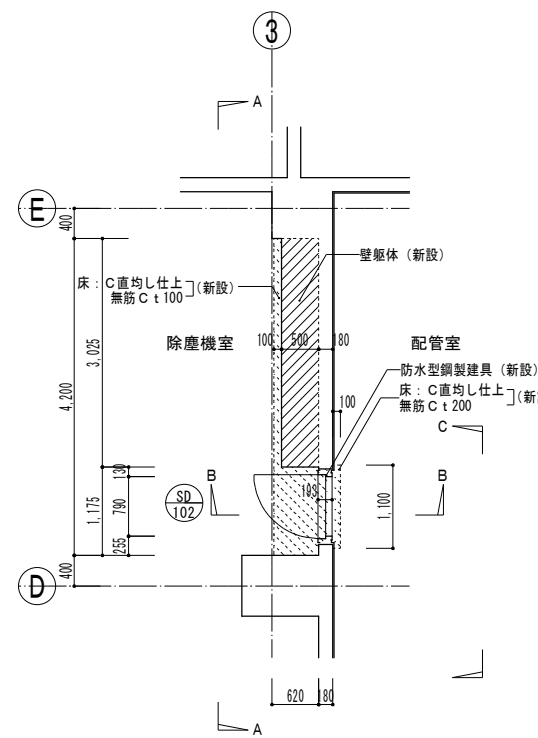


A-A

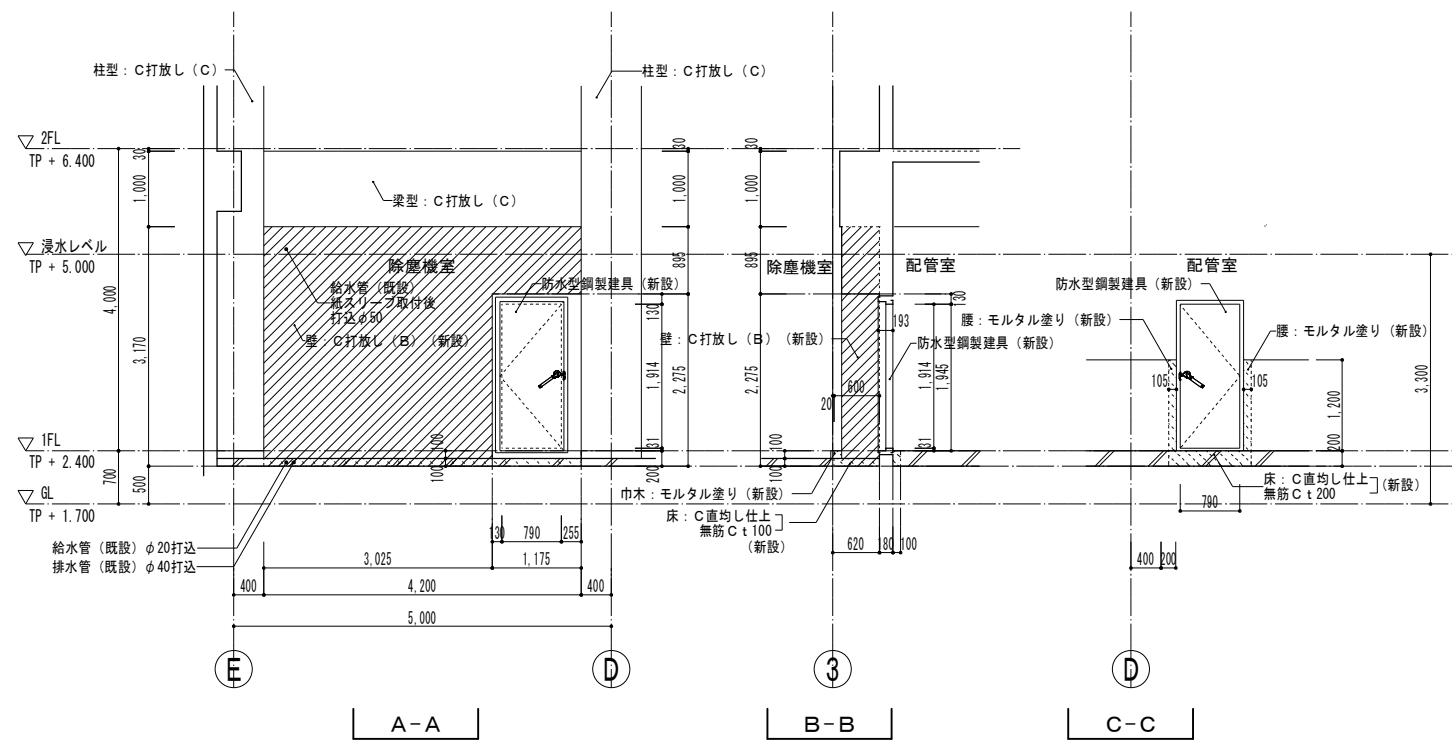
B-B

C-C

凡例
 特記なき限り 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋残し)
 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋共撤去)
 部分は仕上の撤去範囲を示す。
 △ 表示部はカッターによる切断位置を示す。
 ▽ 表示部はカッターによる仕上材切断位置を示す。



平面詳細図



A-A

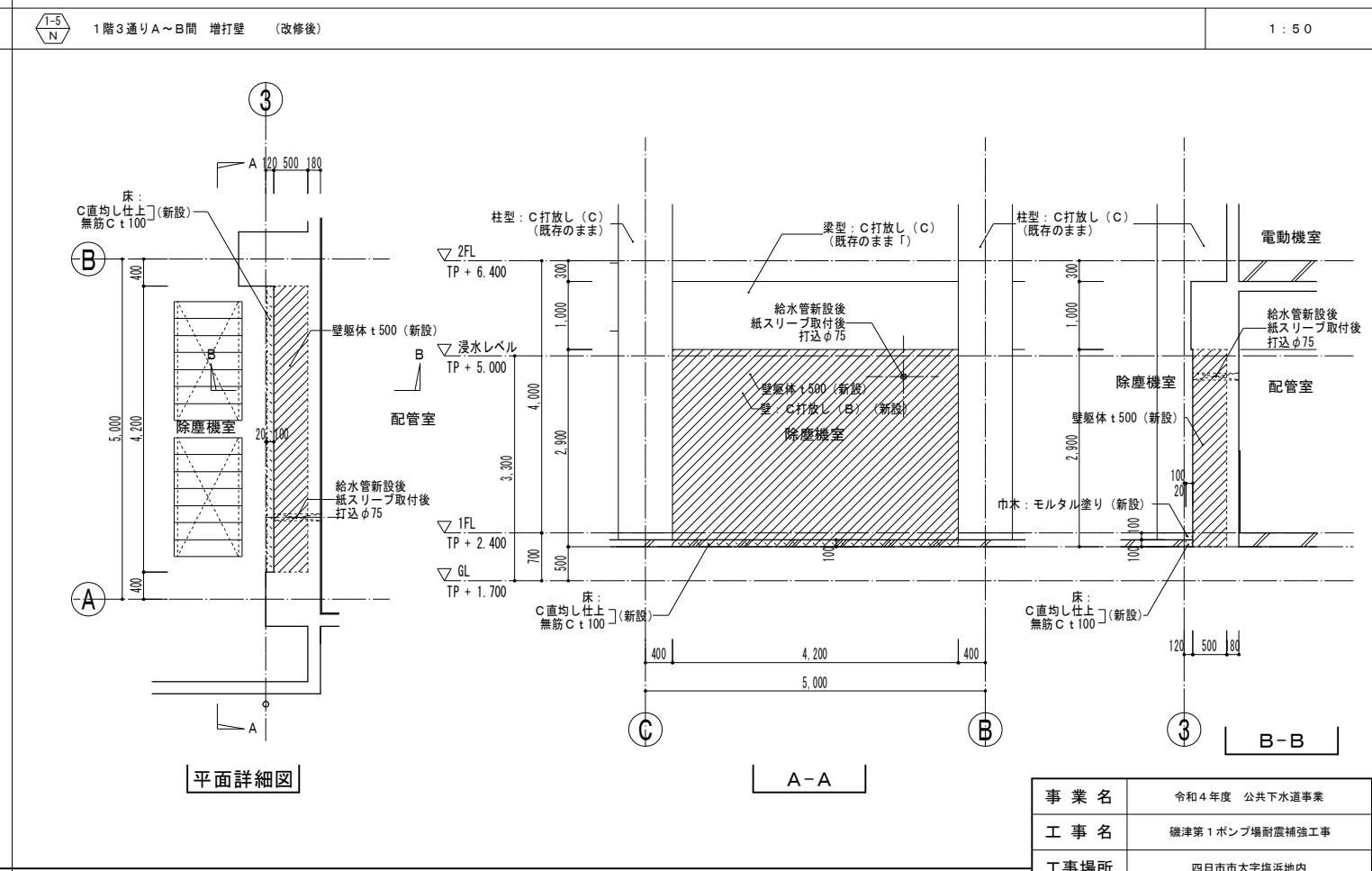
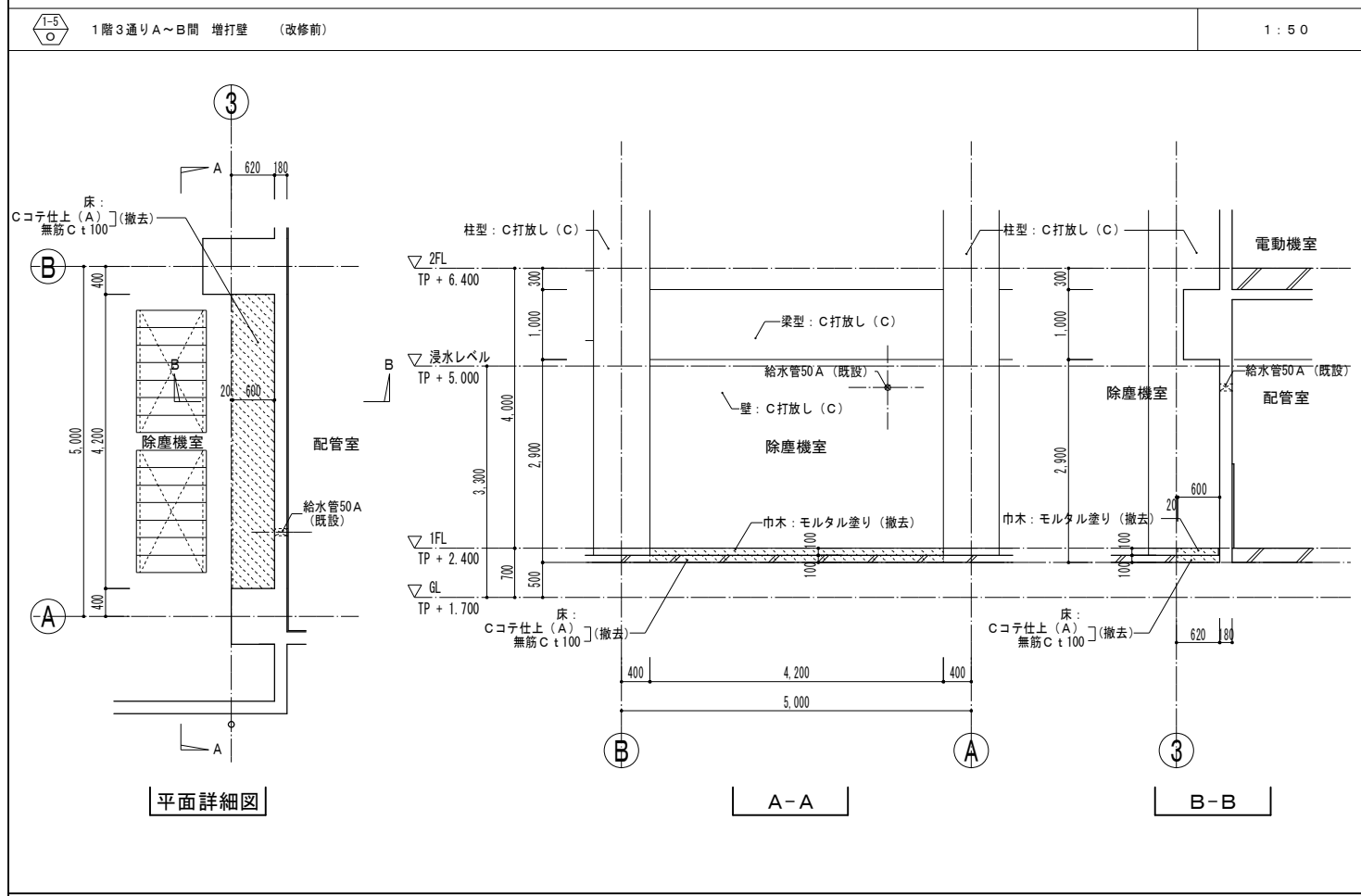
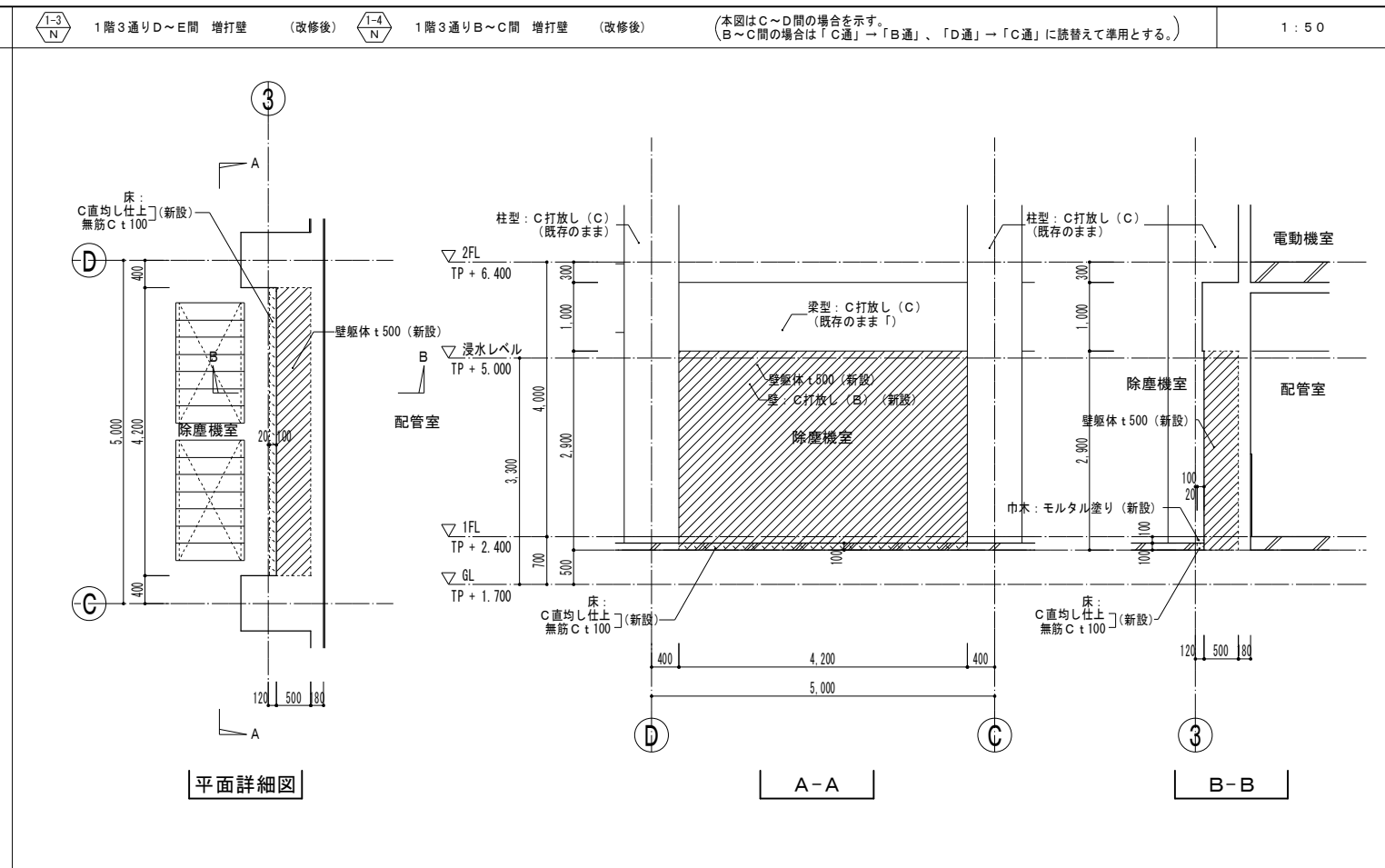
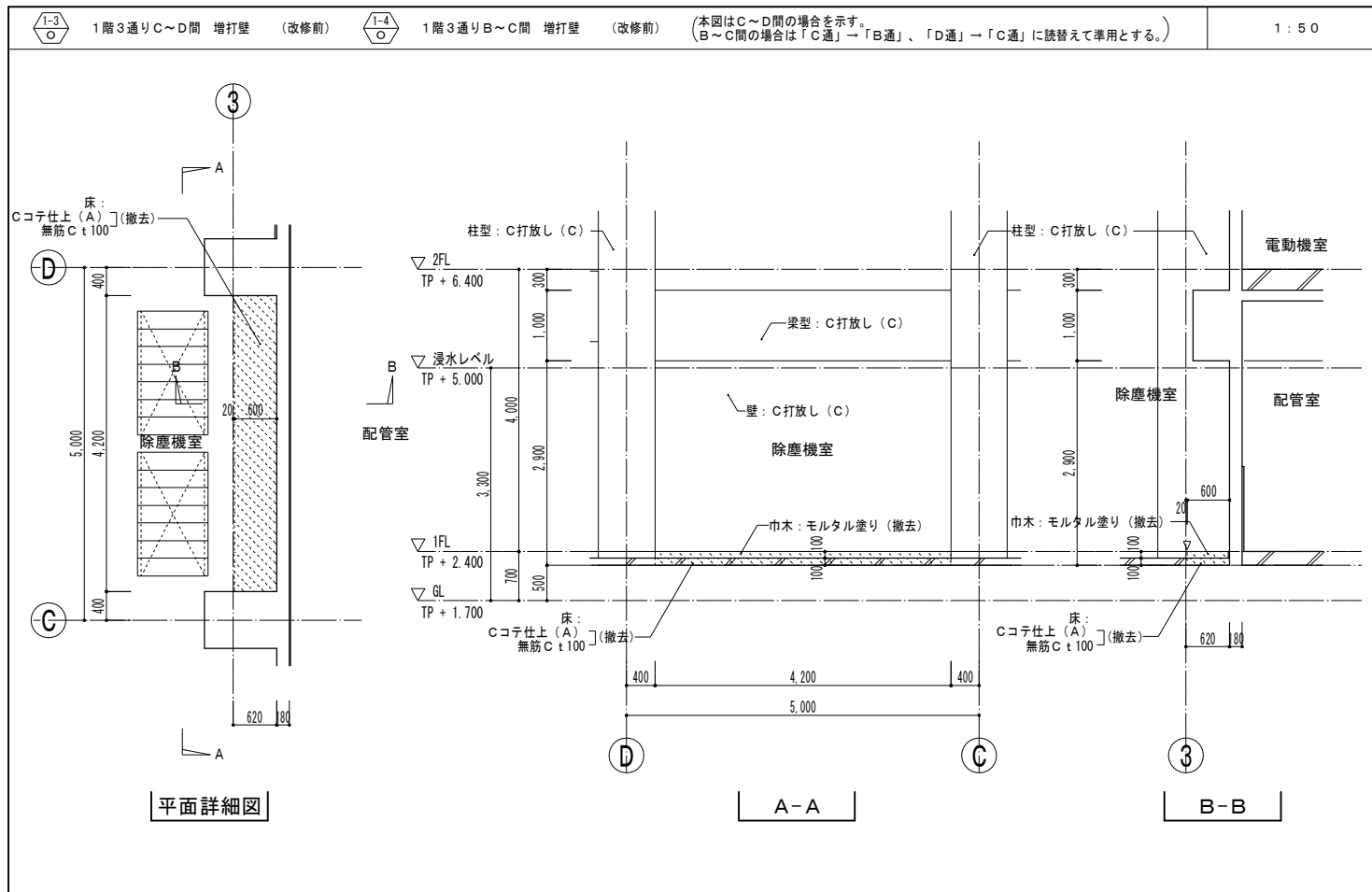
B-B

C-C

凡例
 特記なき限り 部分は躯体の新設範囲を示す。
 部分は仕上の新設範囲を示す。
 ▽ 新設壁打継目地: 2-02-8 (20×15) (PU-2) を示す。

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録(い-27)第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

| | | | |
|------|------------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 1階平面・断面・展開詳細図(3) | | |
| 縮尺 | 1/50 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-33 |

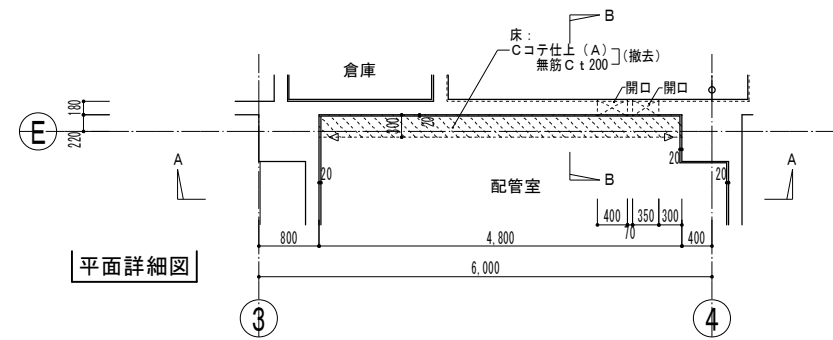


凡例
 特記なき限り 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋残し)
 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋共撤去)
 部分は仕上の撤去範囲を示す。
 △ 表示部はカッターによる切断位置を示す。
 ▽ 表示部はカッターによる仕上材切断位置を示す。

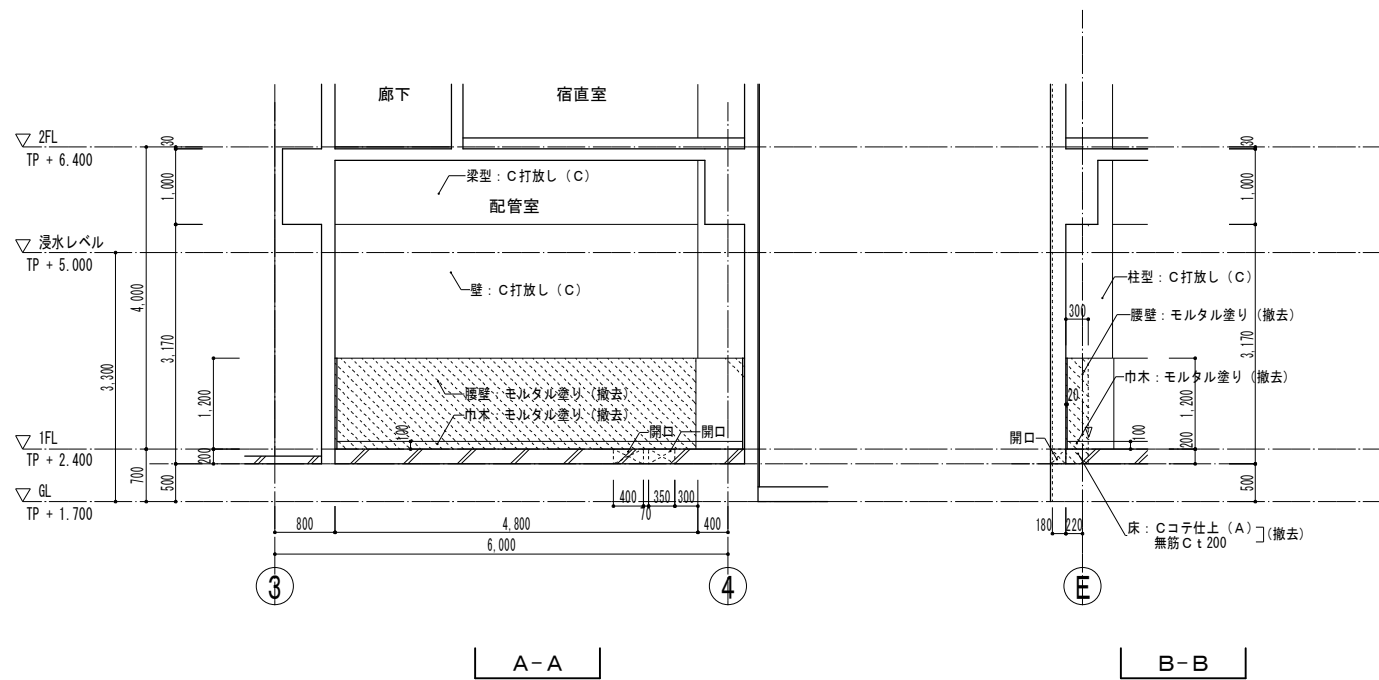
凡例
 特記なき限り 部分は躯体の新設範囲を示す。
 部分は仕上の新設範囲を示す。
 ▽ 新設壁打継目地: 2-02-8 (20×15) (PU-2) を示す。

| | |
|------|------------------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 |
| 名称 | 1階平面・断面・展開詳細図(4) |
| 縮尺 | 1/50 設計年月 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 D-34 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録(い-27)第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊



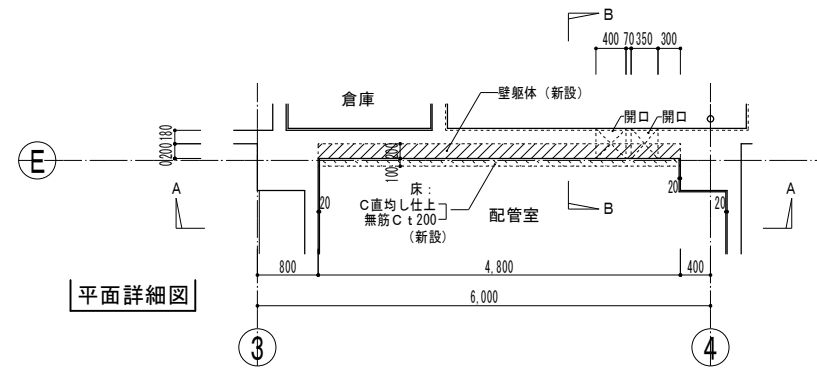
平面詳細図



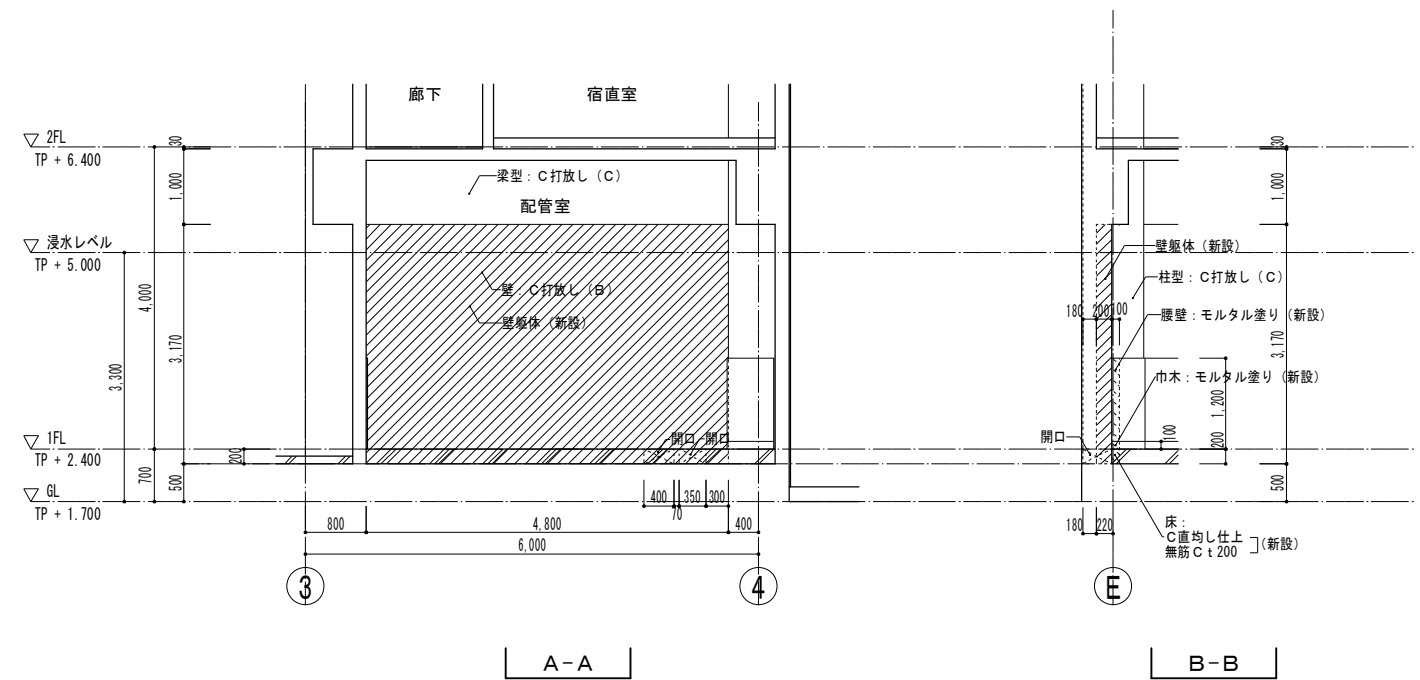
A-A

B-B

凡例
 特記なき限り 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋残し)
 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋共撤去)
 部分は仕上の撤去範囲を示す。
 △ 表示部はカッターによる切断位置を示す。
 ▽ 表示部はカッターによる仕上材切断位置を示す。



平面詳細図



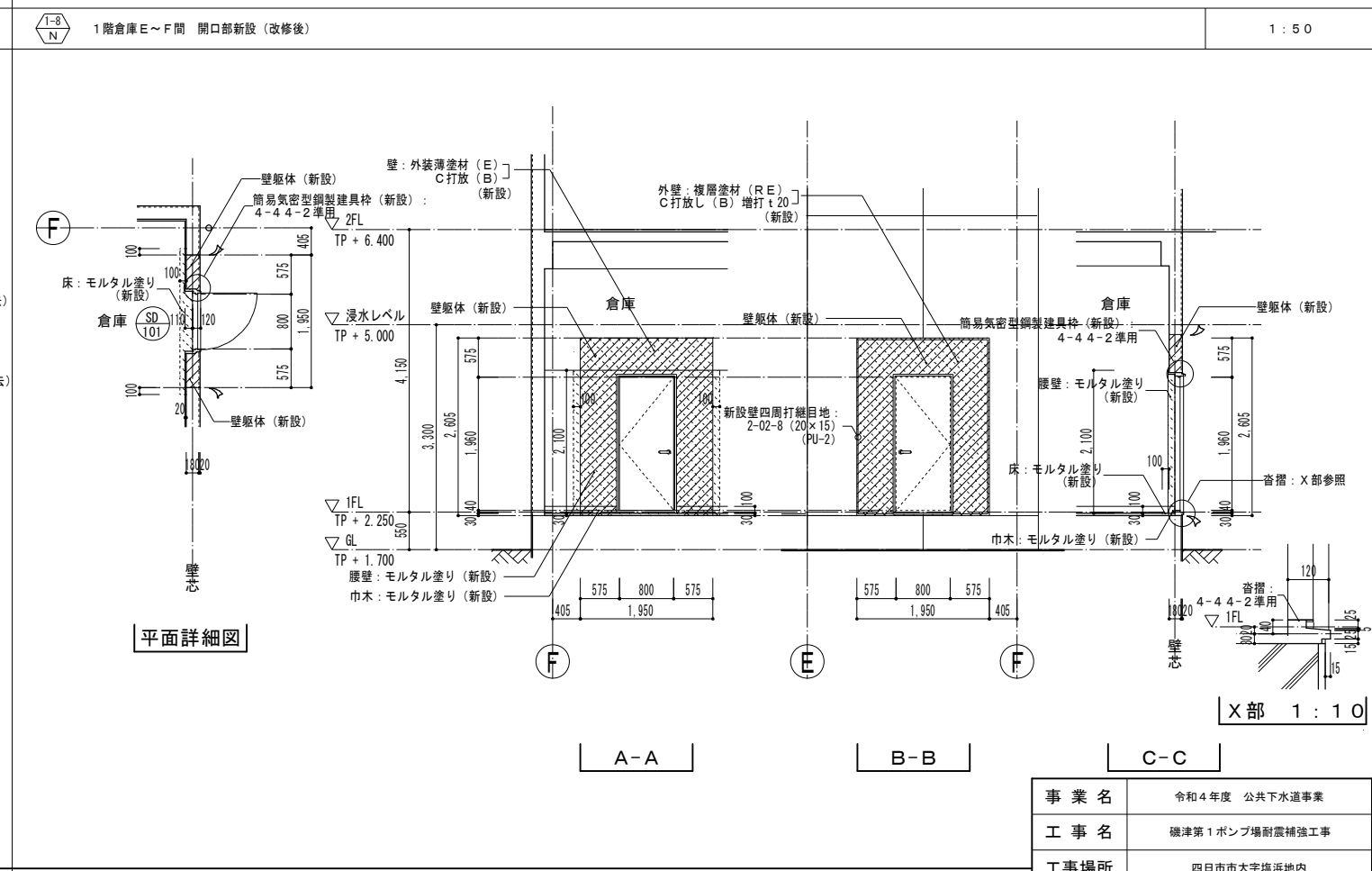
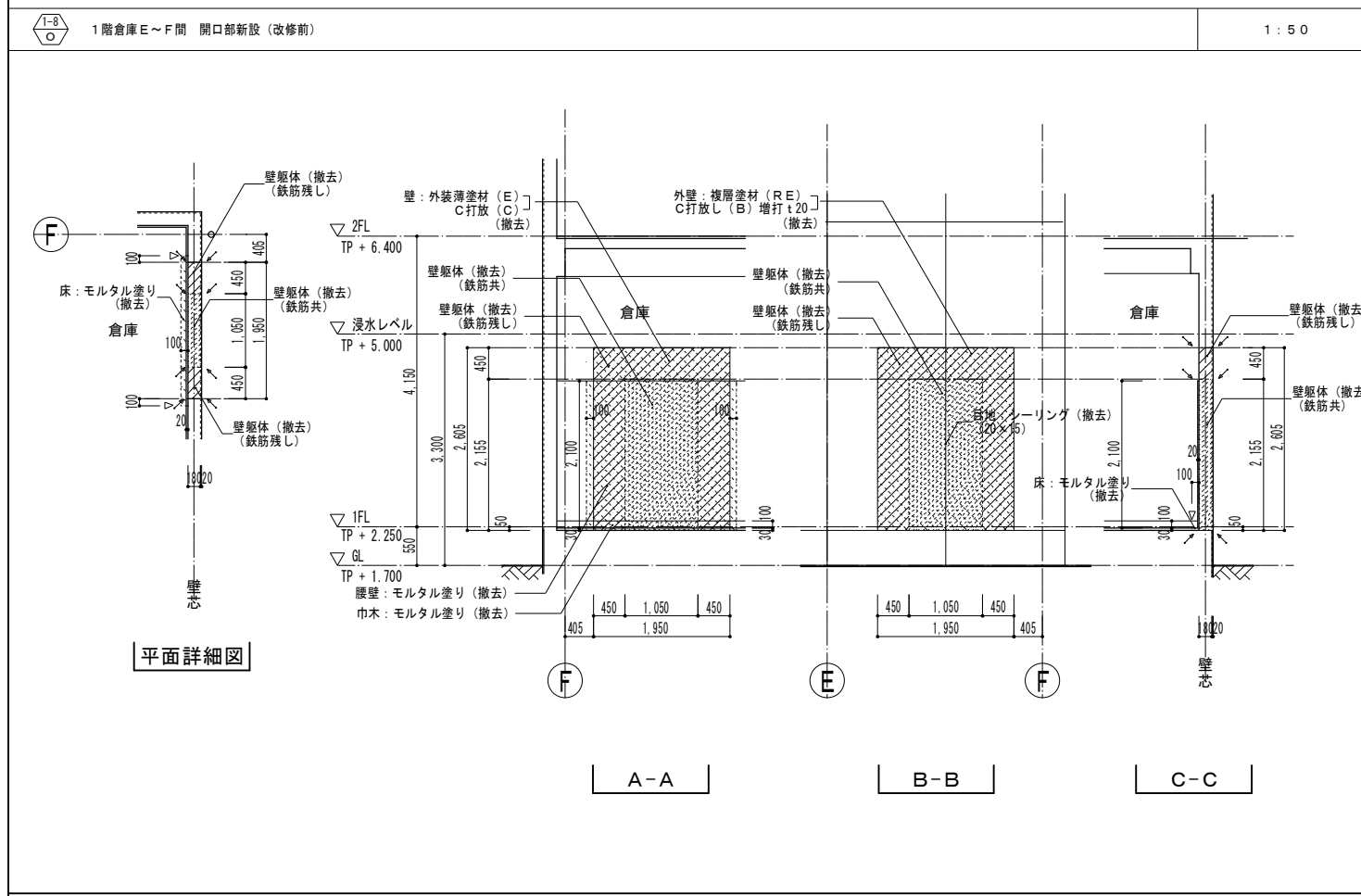
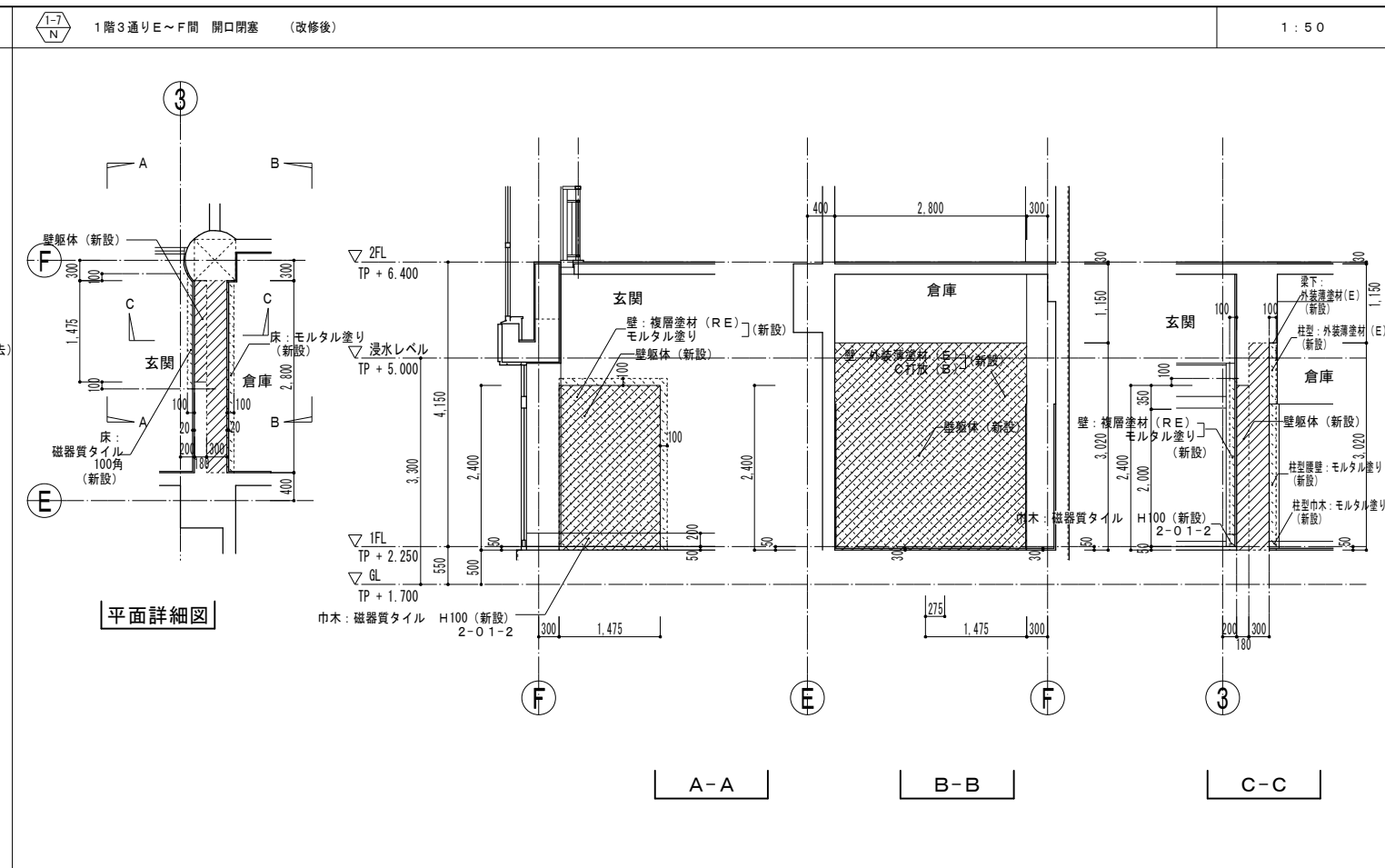
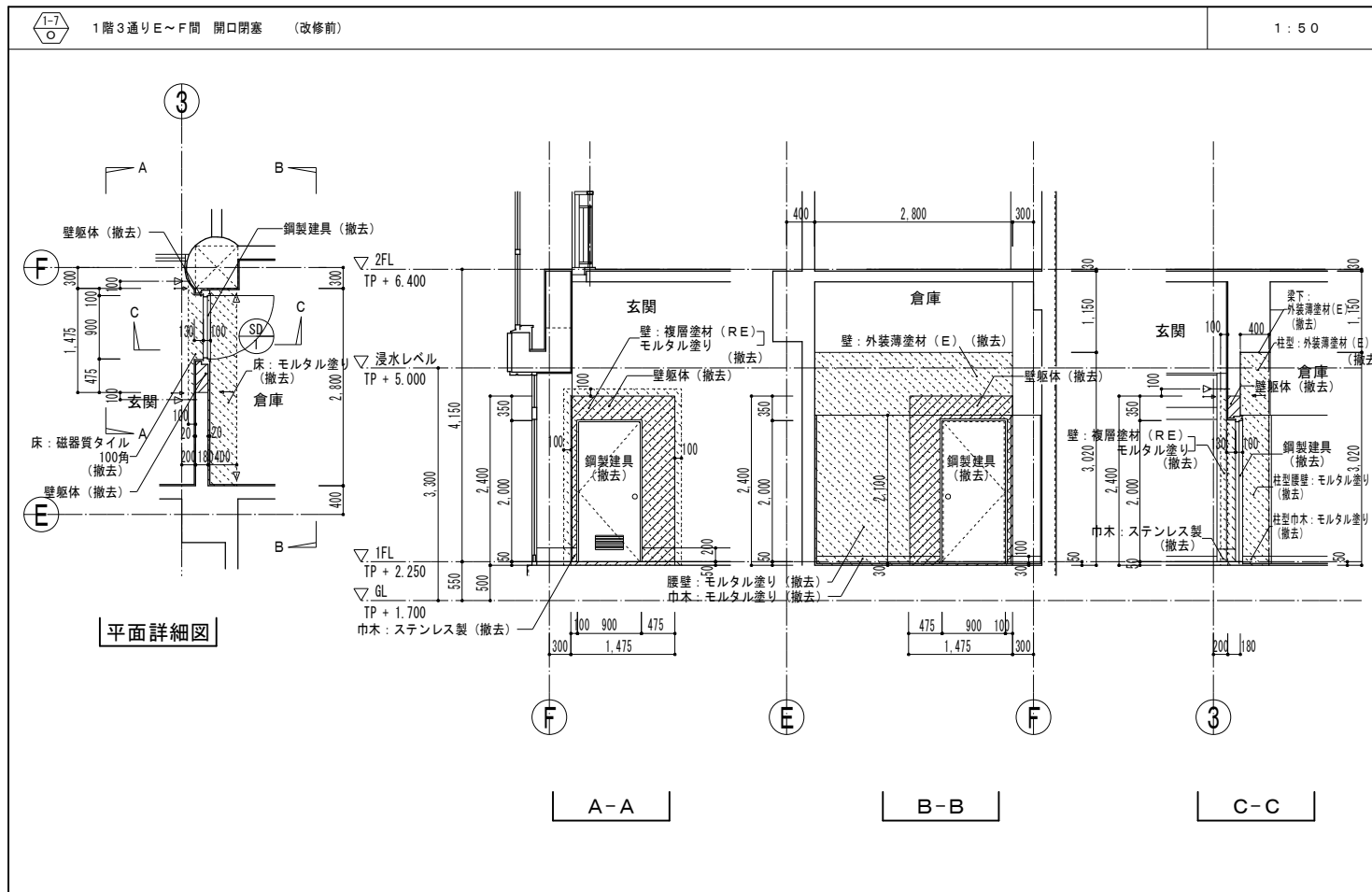
A-A

B-B

凡例
 特記なき限り 部分は躯体の新設範囲を示す。
 部分は仕上の新設範囲を示す。
 △ 新設壁打継目地: 2-02-8 (20×15) (PU-2) を示す。

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

| | | | |
|------|------------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 1階平面・断面・展開詳細図(5) | | |
| 縮尺 | 1/50 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-35 |

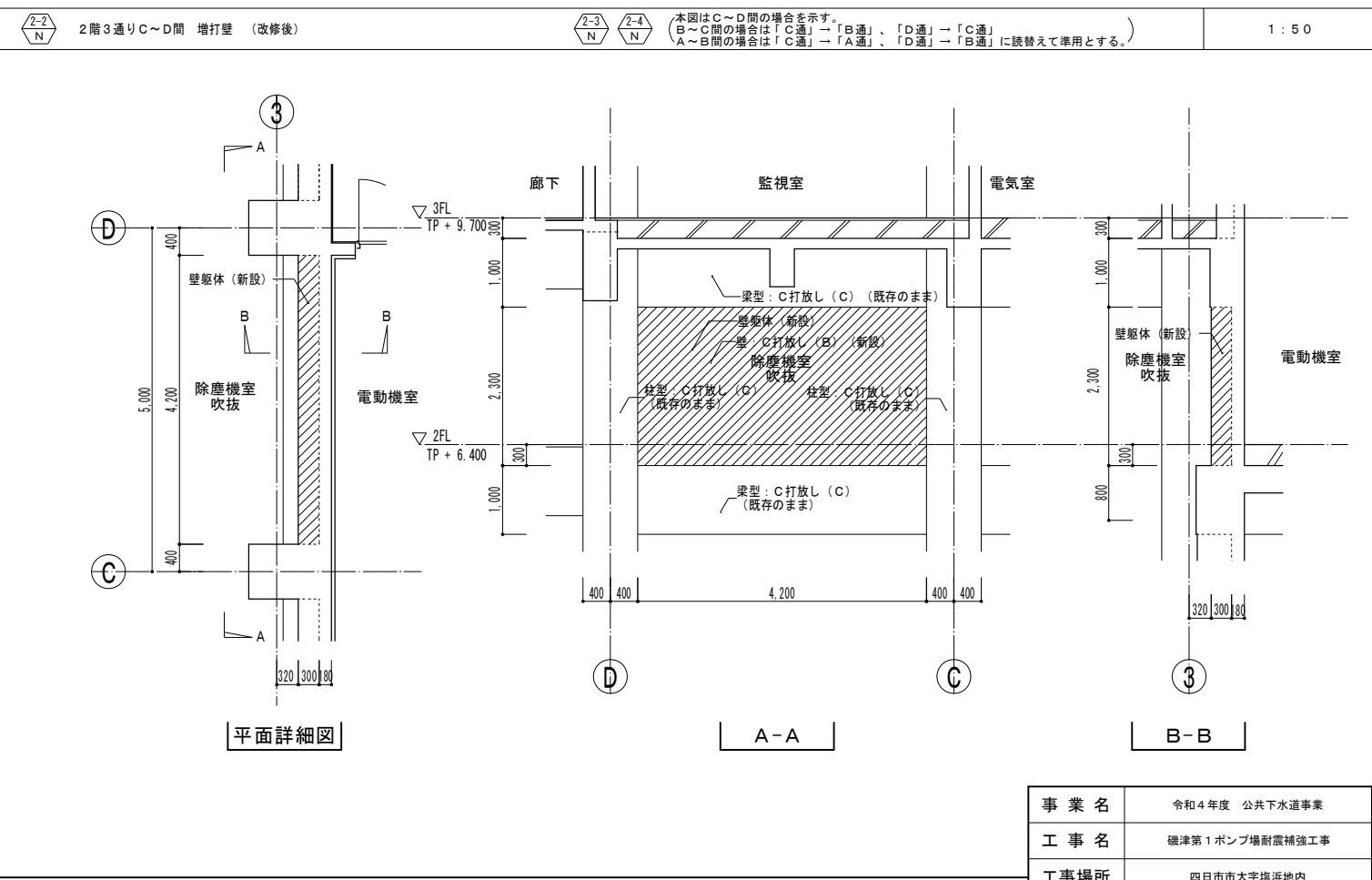
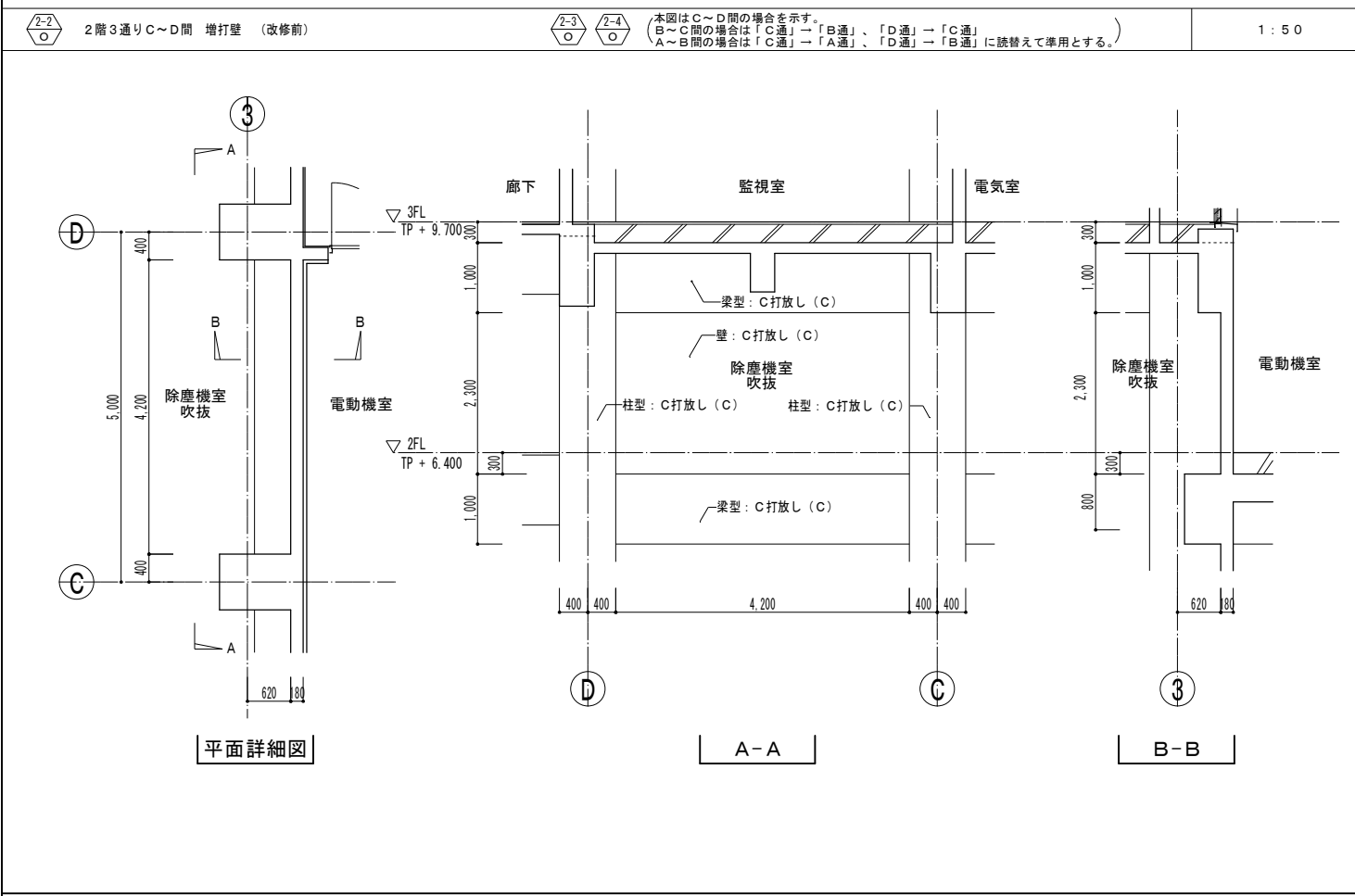
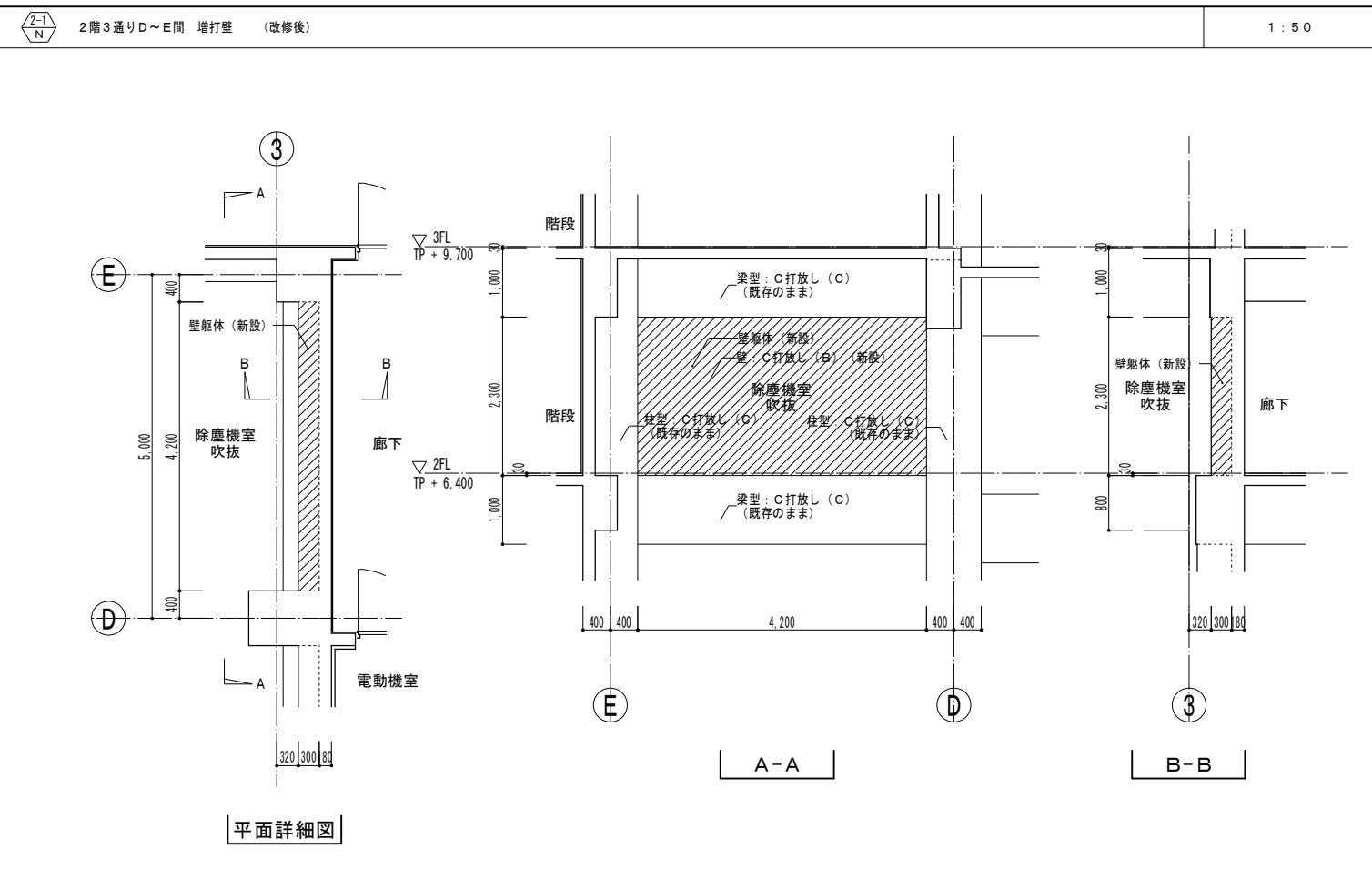
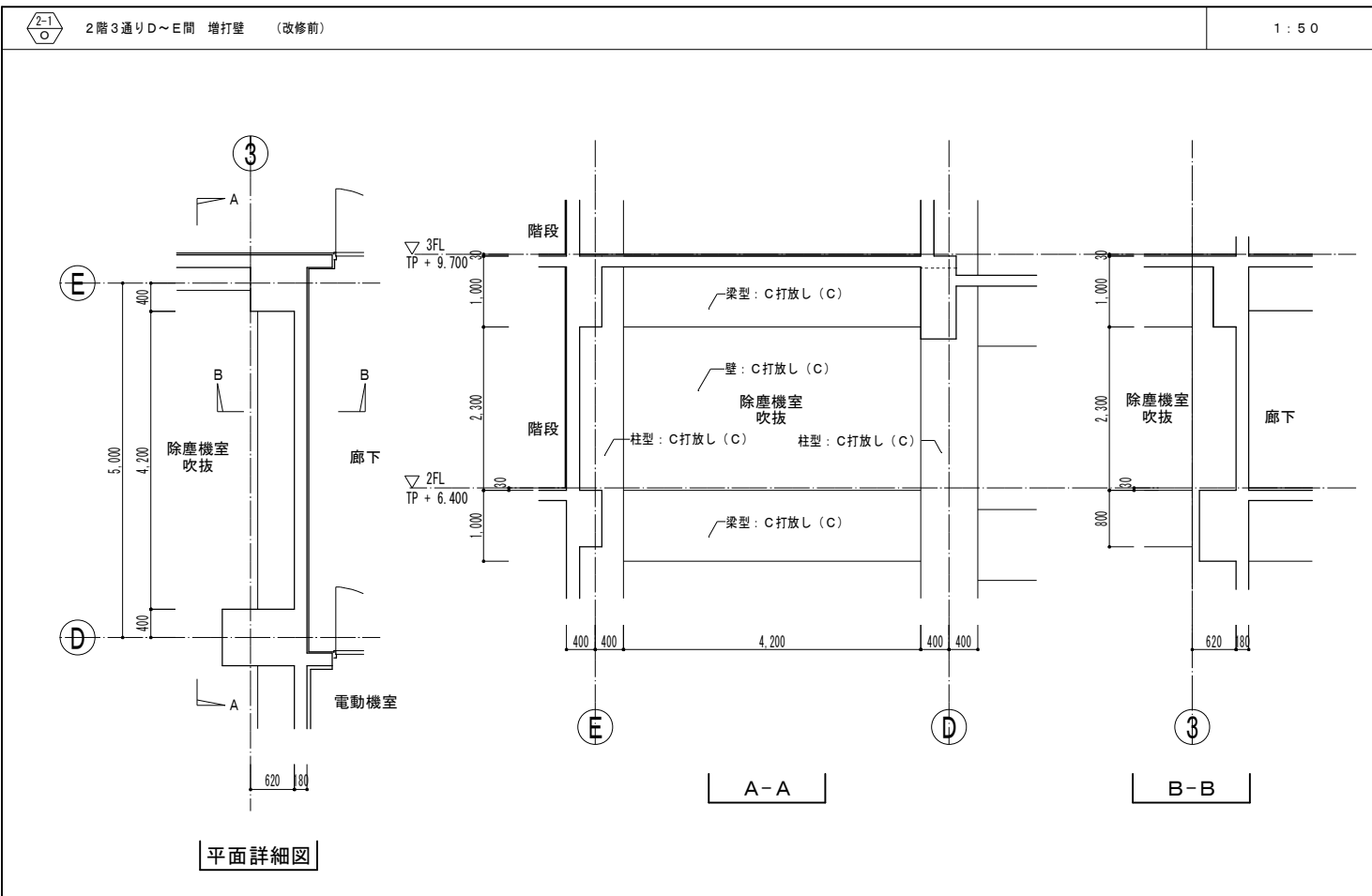


凡例
 特記なき限り
 [斜線] 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋残し)
 [点線] 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋共撤去)
 [白] 部分は仕上の撤去範囲を示す。
 < 表示部はカッターによる切断位置を示す。
 > 表示部はカッターによる仕上材切断位置を示す。

凡例
 特記なき限り
 [斜線] 部分は躯体の新設範囲を示す。
 [点線] 部分は仕上の新設範囲を示す。
 < 新設壁打継目地: 2-02-8 (20×15) (PU-2) を示す。

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

| | | | |
|------|-------------------|---------|-------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 1階平面・断面・展開詳細図 (6) | | |
| 縮尺 | 1/50 | 設計年月 | 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 | (株) NJS | |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-36 |

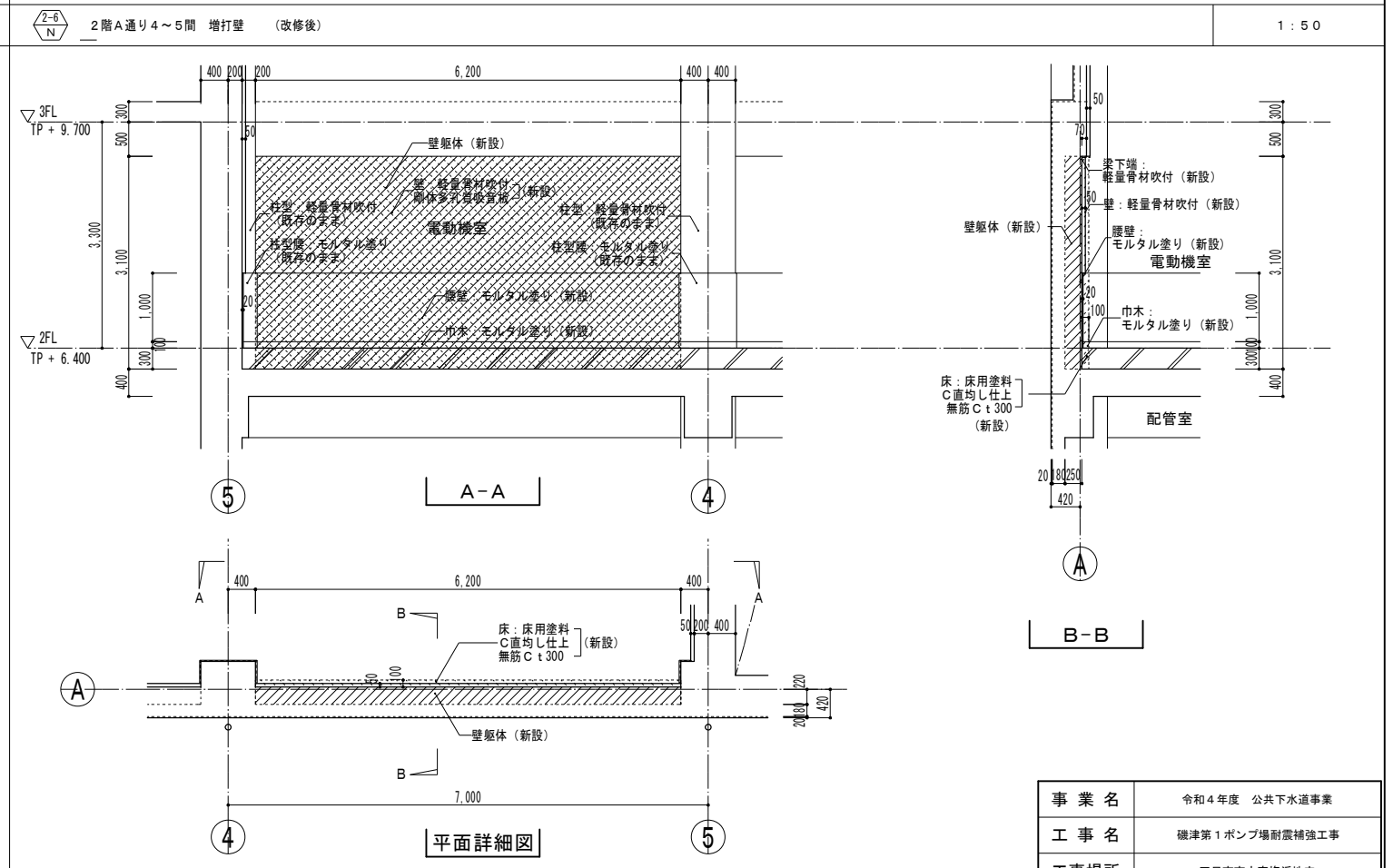
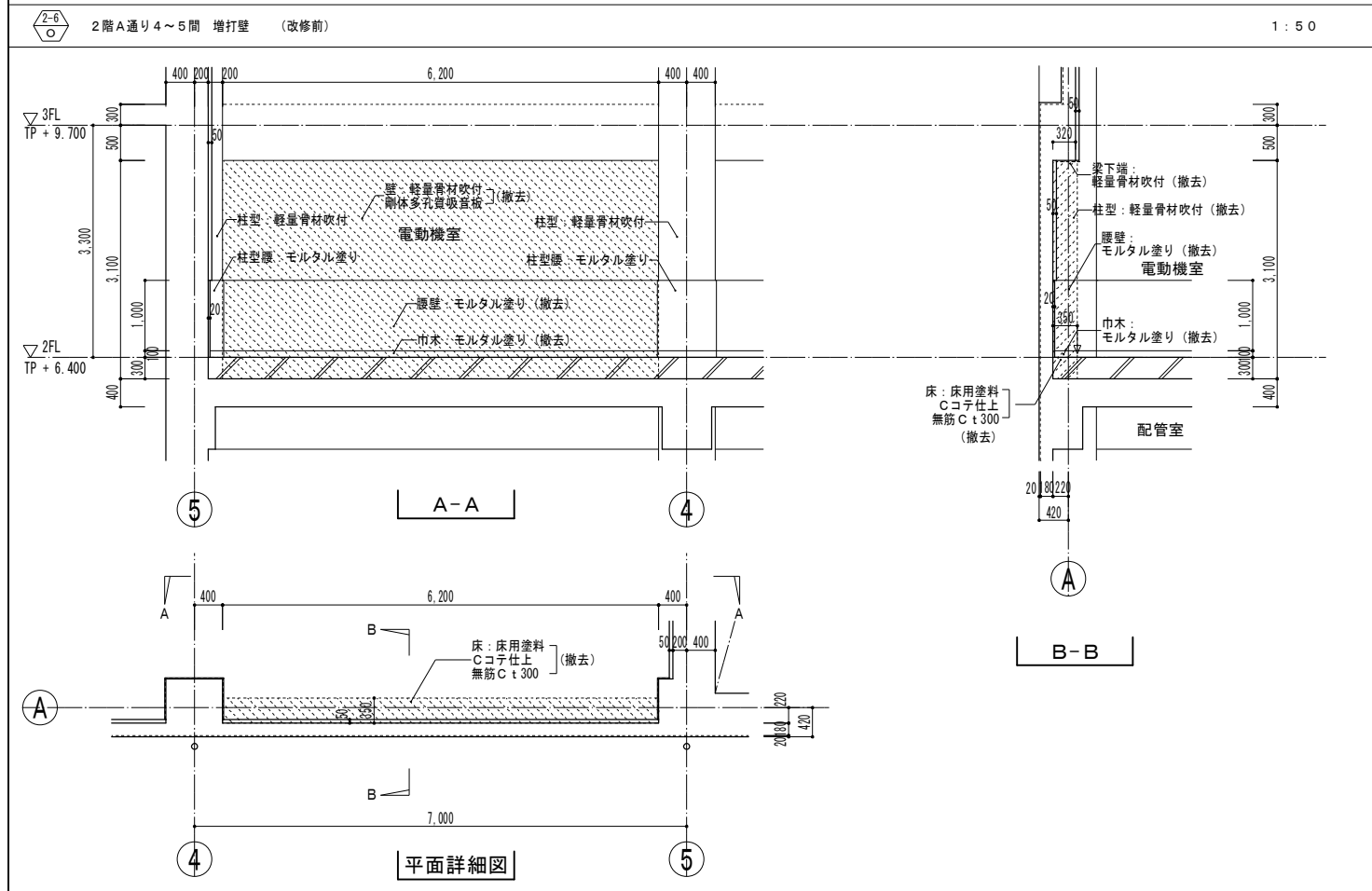
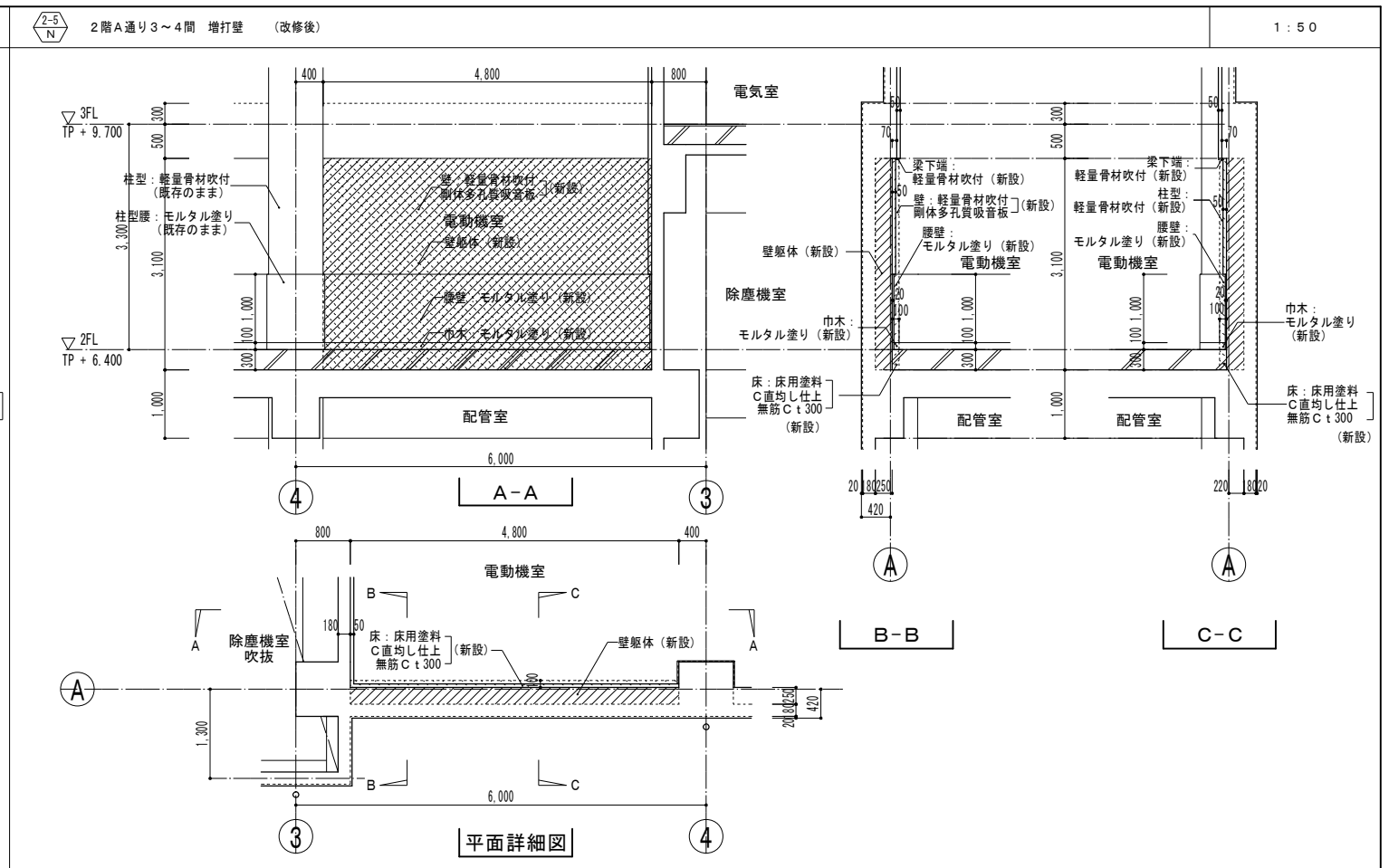
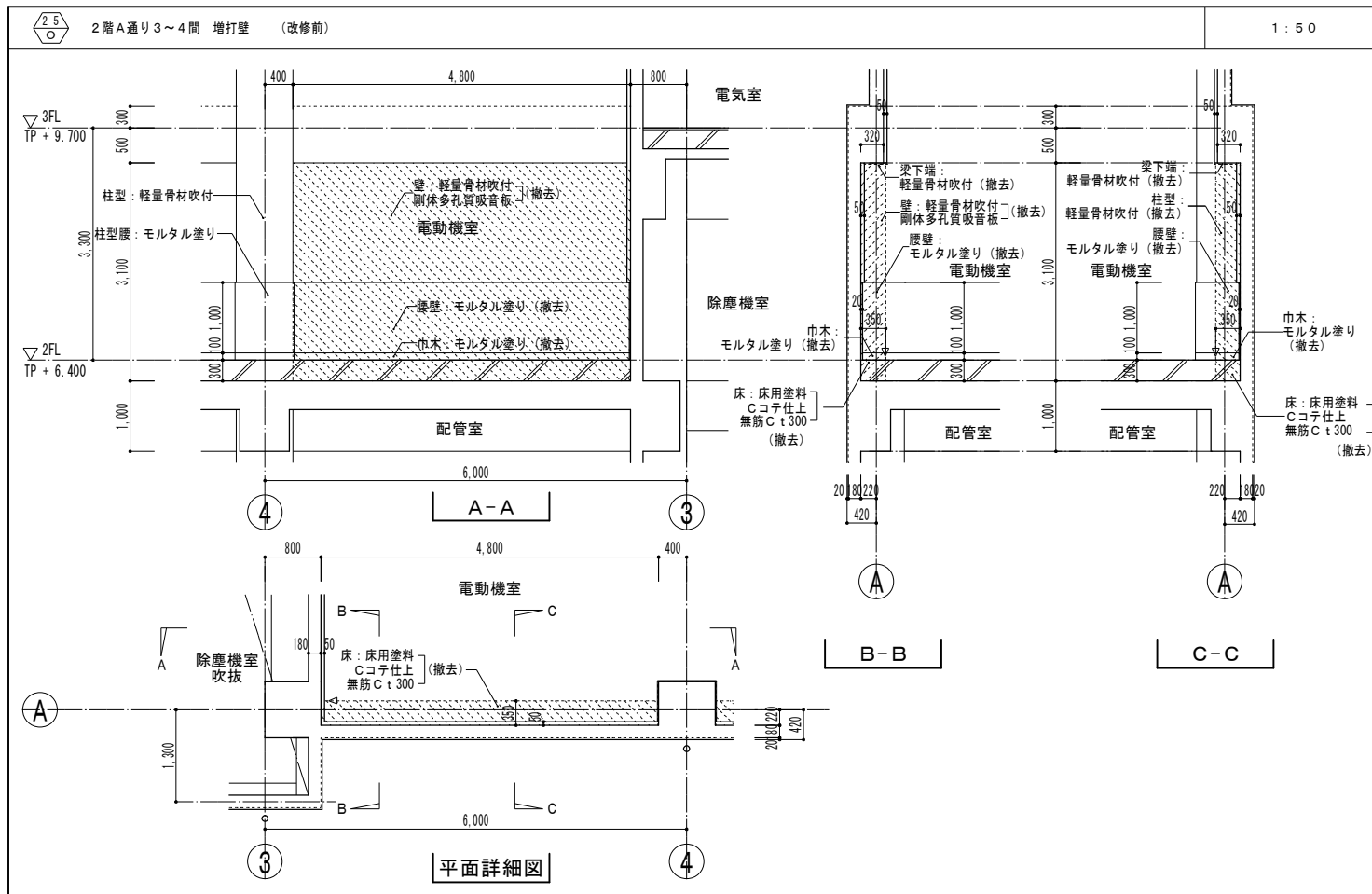


凡例
 特記なき限り 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋残し)
 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋共撤去)
 部分は仕上の撤去範囲を示す。
 表示部はカッターによる切断位置を示す。
 表示部はカッターによる仕上材切断位置を示す。

凡例
 特記なき限り 部分は躯体の新設範囲を示す。
 部分は仕上の新設範囲を示す。
 新設壁打継目地: 2-02-8 (20×15) (PU-2) を示す。

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

| | | | |
|------|-------------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 2階平面・断面・展開詳細図 (1) | | |
| 縮尺 | 1/50 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-37 |

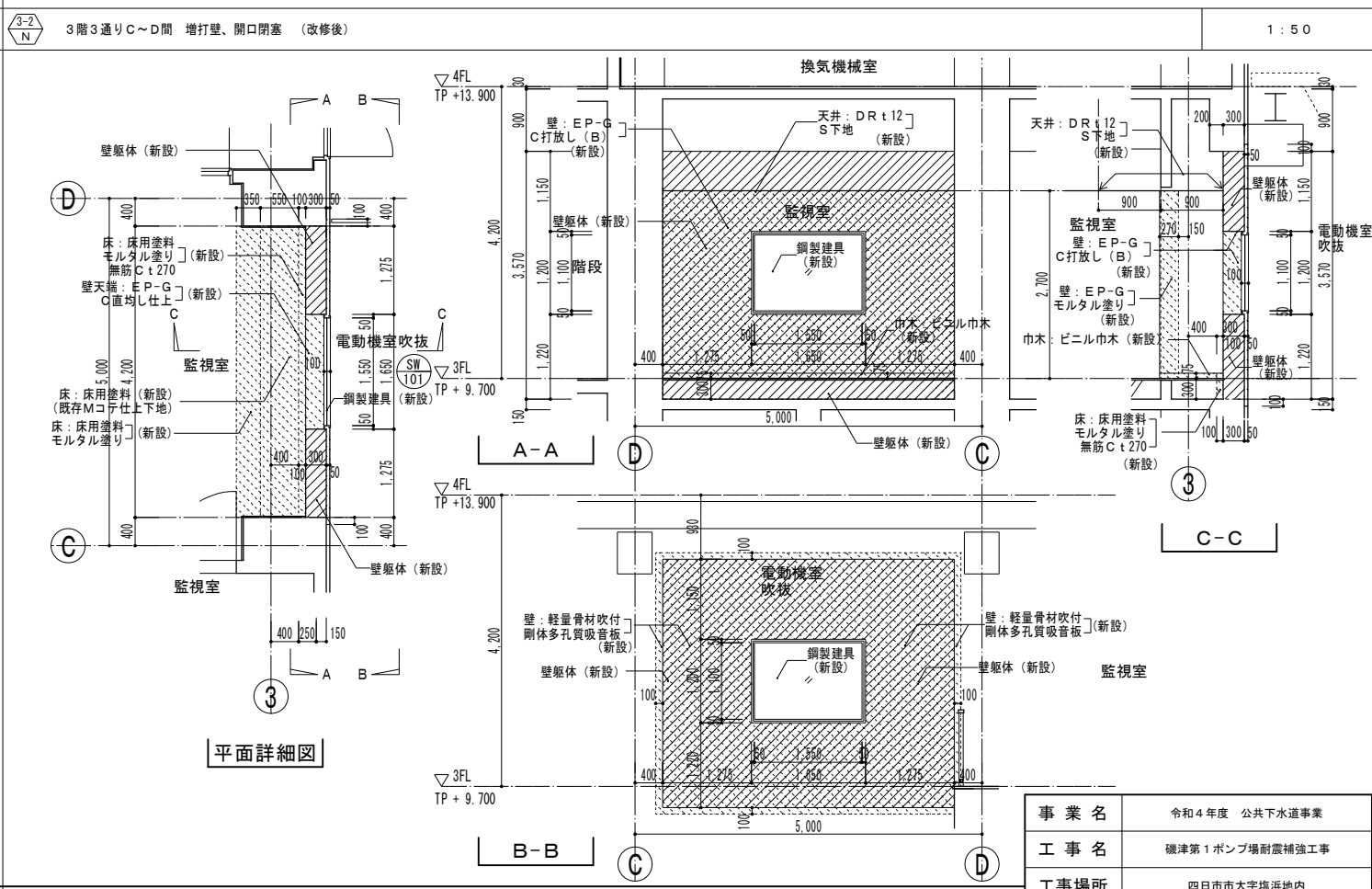
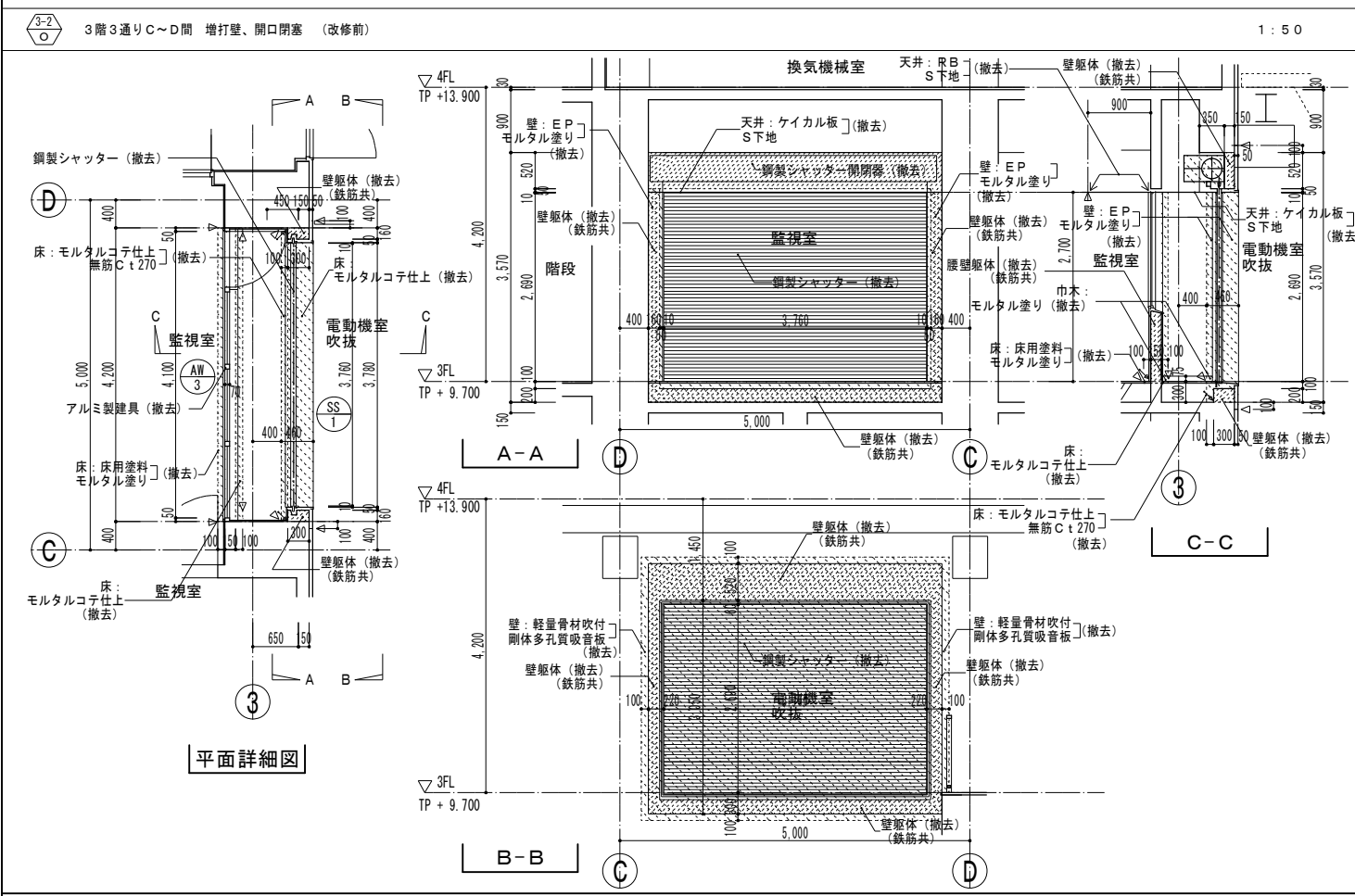
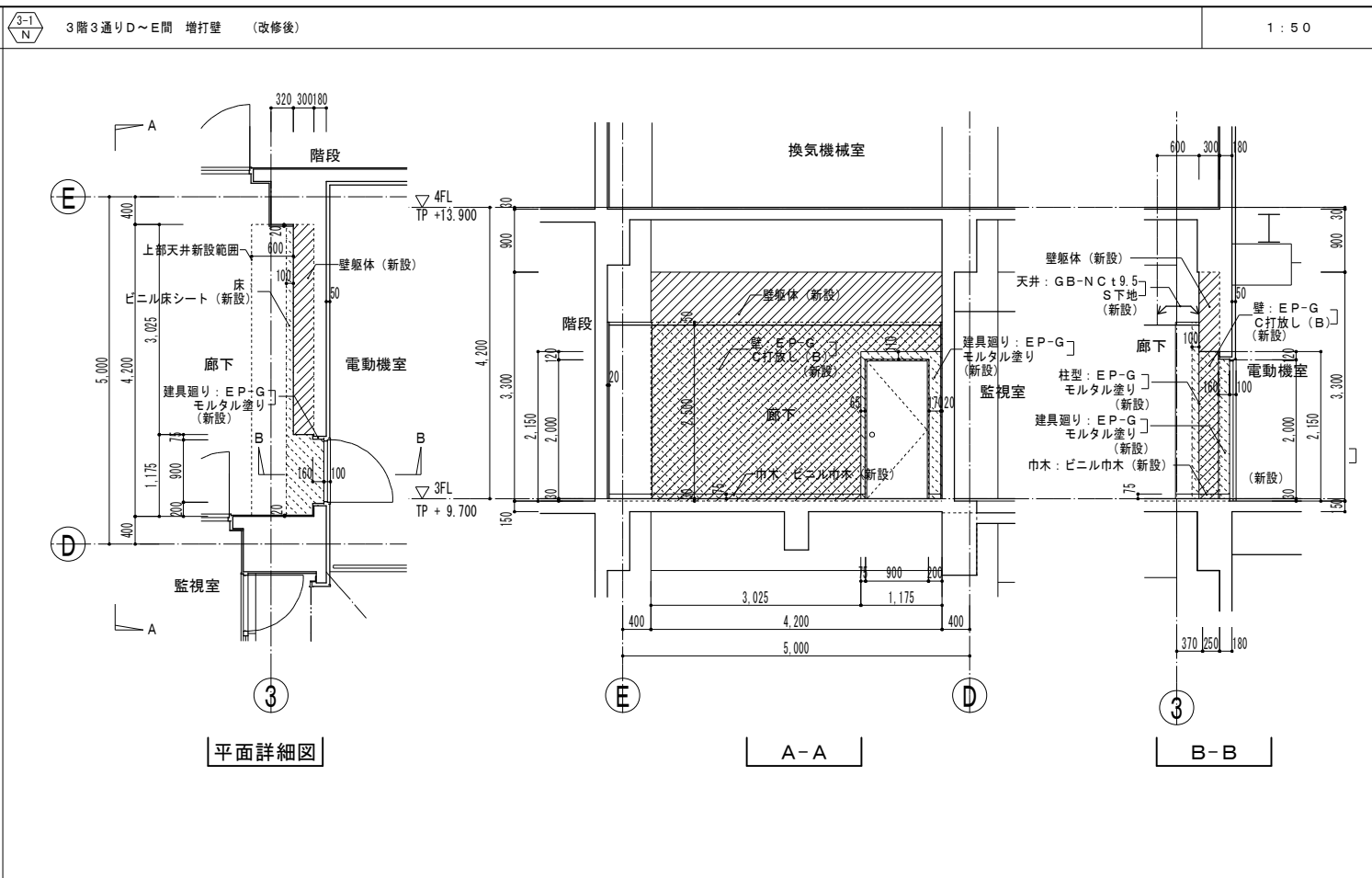
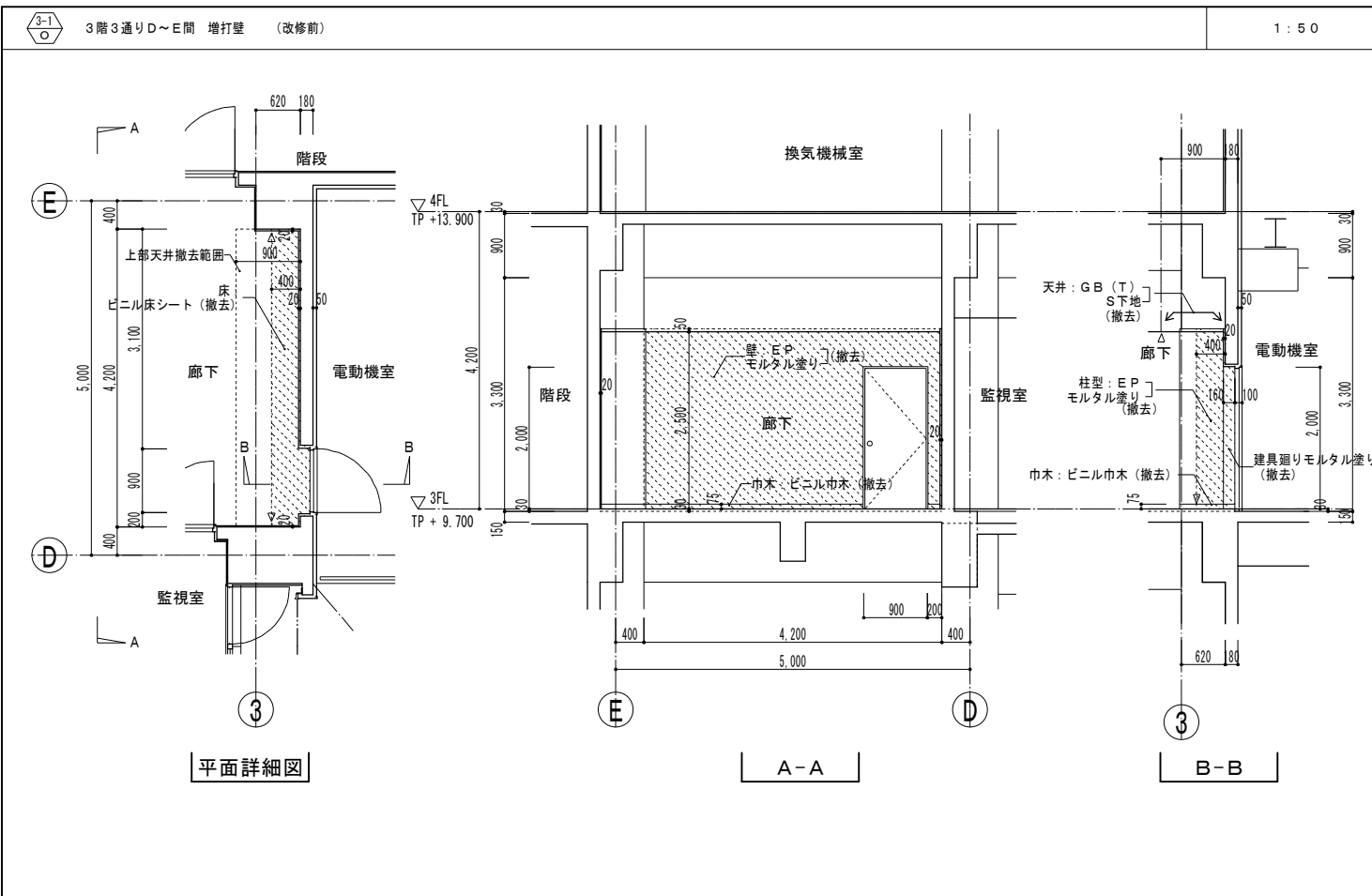


凡例
 特記なき限り 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋残し)
 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋共撤去)
 部分は仕上の撤去範囲を示す。
 △ 表示部はカッターによる切断位置を示す。
 ▽ 表示部はカッターによる仕上材切断位置を示す。

凡例
 特記なき限り 部分は躯体の新設範囲を示す。
 部分は仕上の新設範囲を示す。
 △ 新設壁打継目地: 2-02-8 (20×15) (PU-2) を示す。

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録(い-27)第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

| | | | |
|------|------------------|--------|-------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 2階平面・断面・展開詳細図(2) | | |
| 縮尺 | 1/50 | 設計年月 | 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 | (株)NJS | |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-38 |

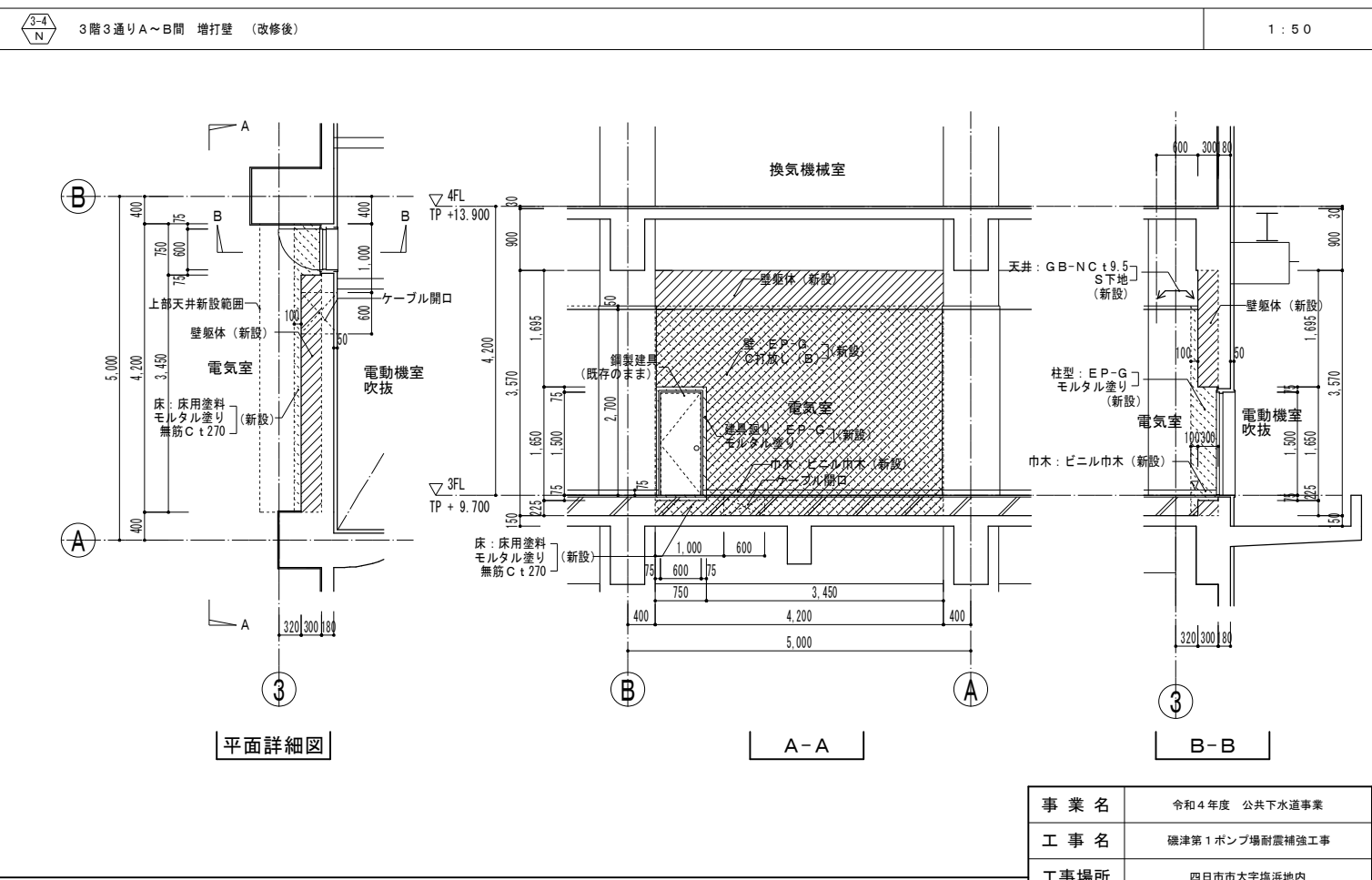
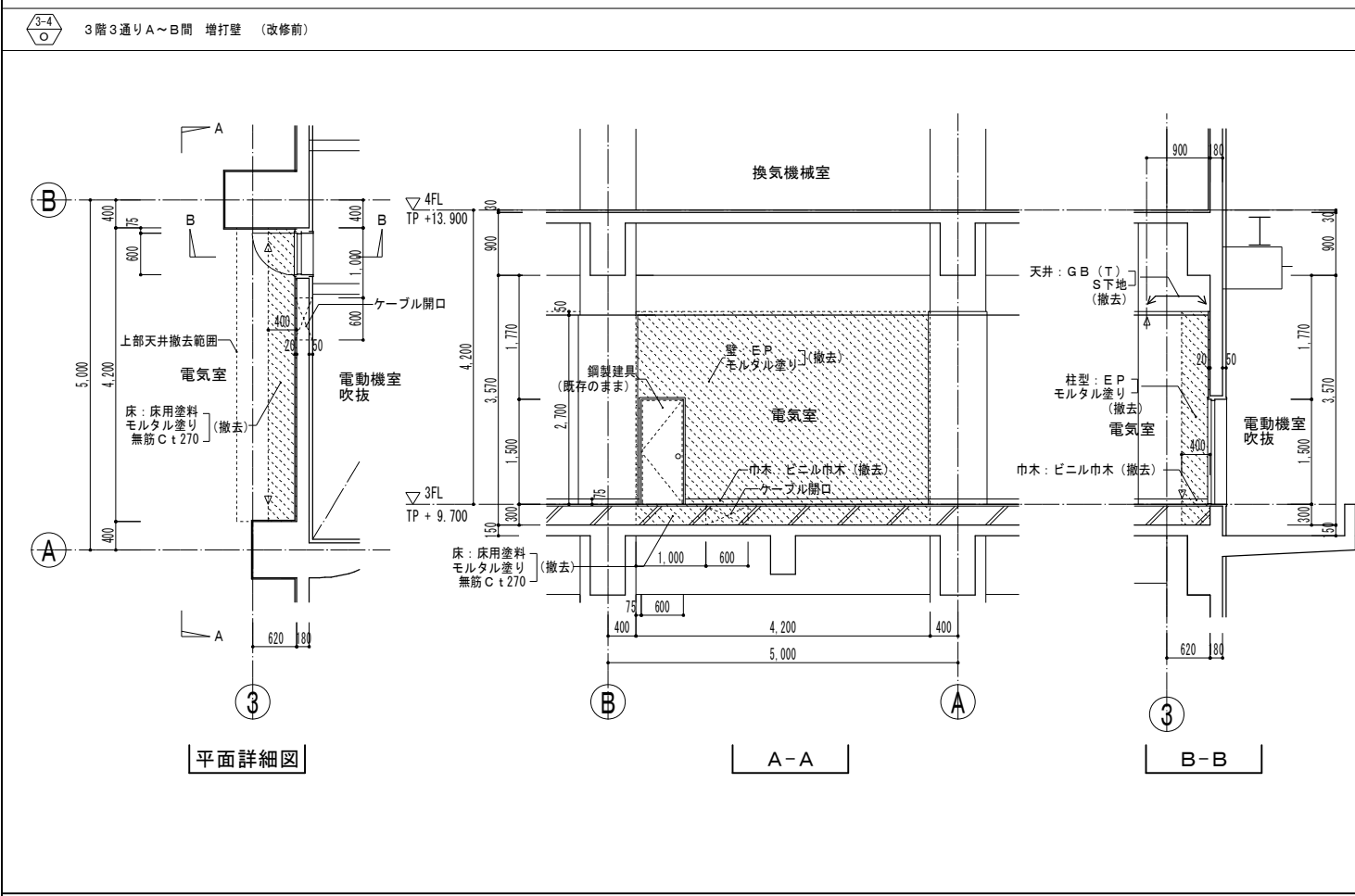
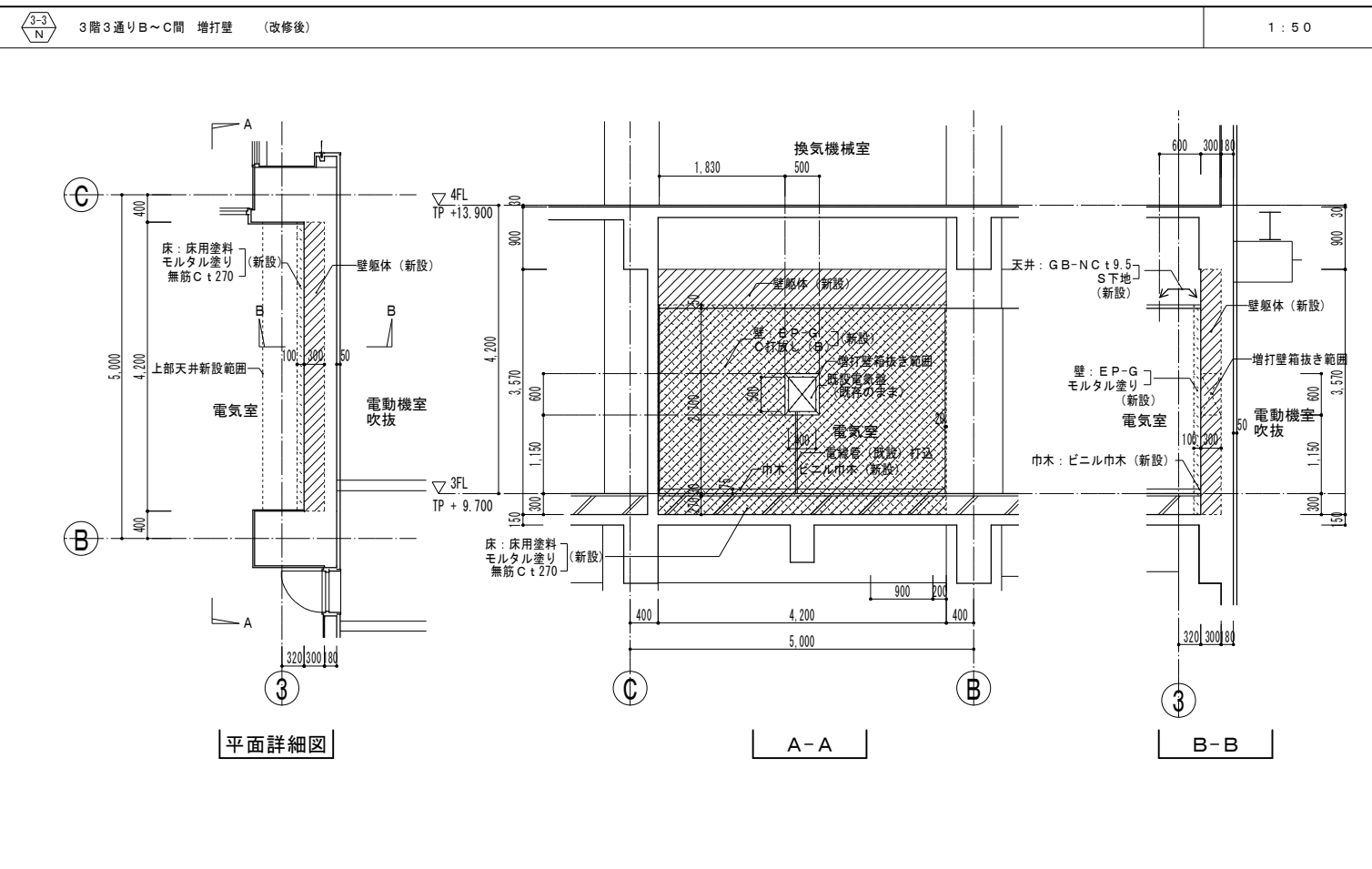
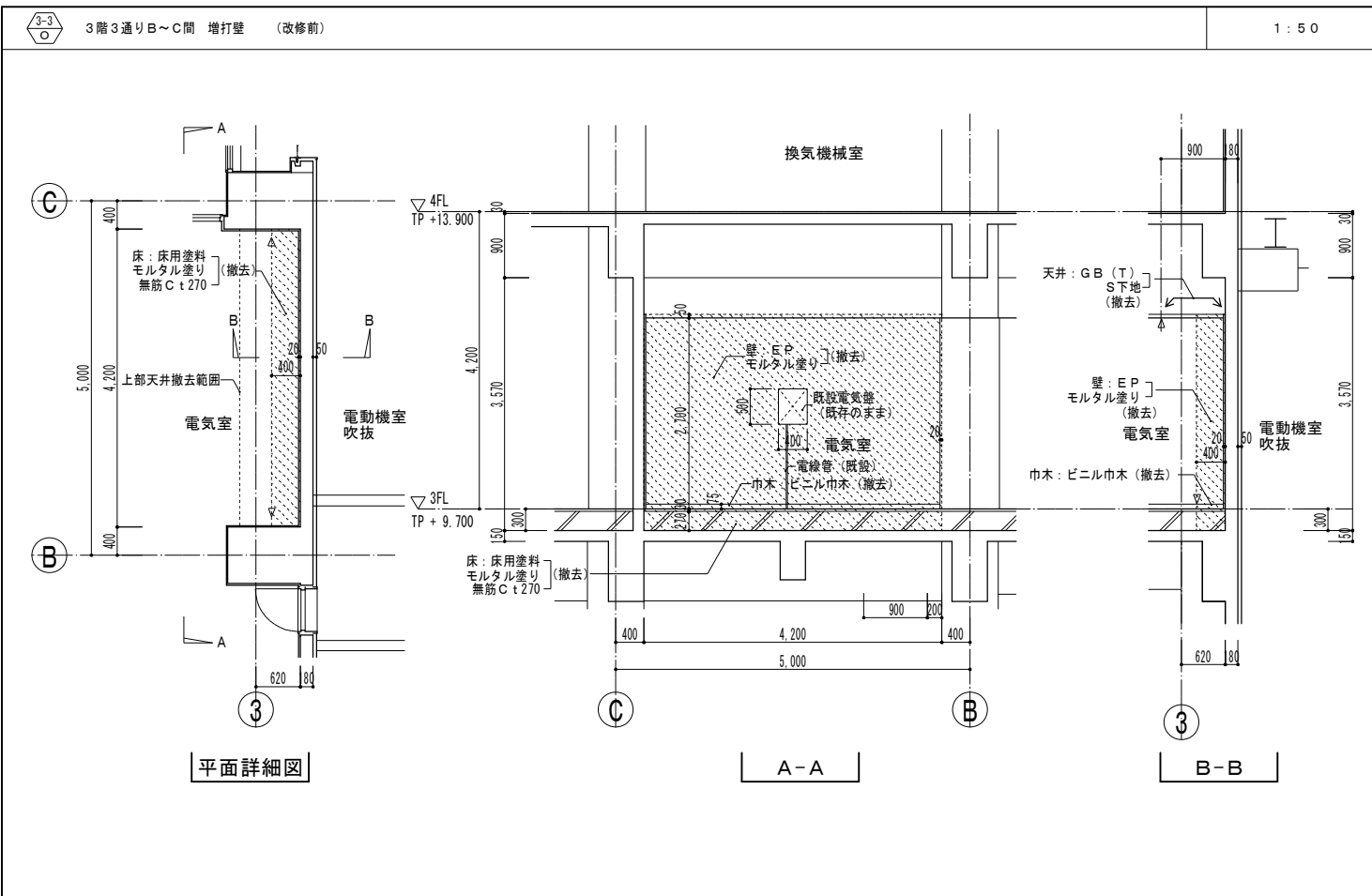


凡例
 特記なき限り 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋残し)
 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋共撤去)
 部分は仕上の撤去範囲を示す。
 △ 表示部はカッターによる切断位置を示す。
 ▽ 表示部はカッターによる仕上材切断位置を示す。

凡例
 特記なき限り 部分は躯体の新設範囲を示す。
 部分は仕上の新設範囲を示す。
 △ 新設壁打継目地: 2-02-8 (20×15) (PU-2) を示す。

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

| | |
|------|-------------------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 |
| 名称 | 3階平面・断面・展開詳細図 (1) |
| 縮尺 | 1/50 設計年月 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 D-39 |

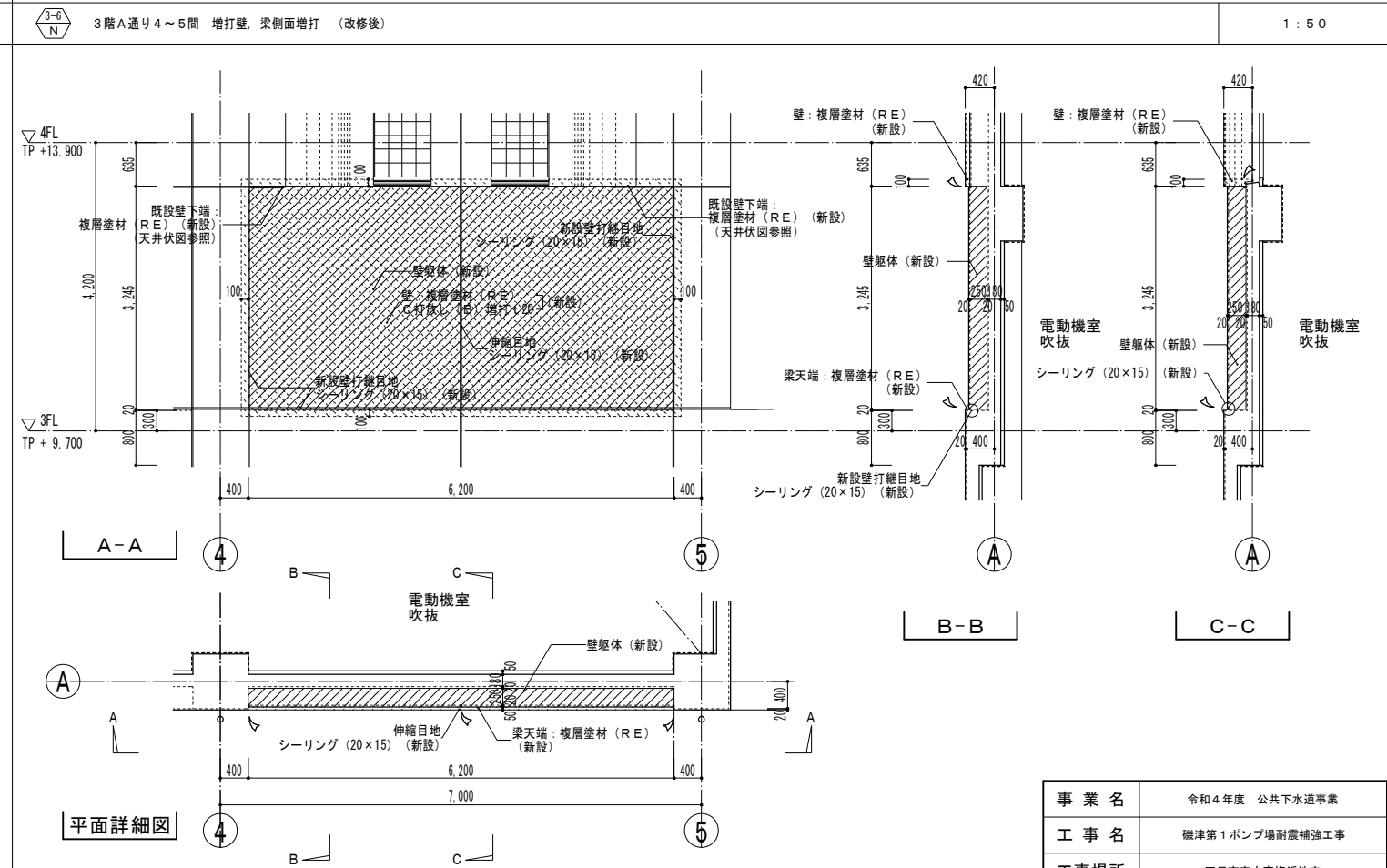
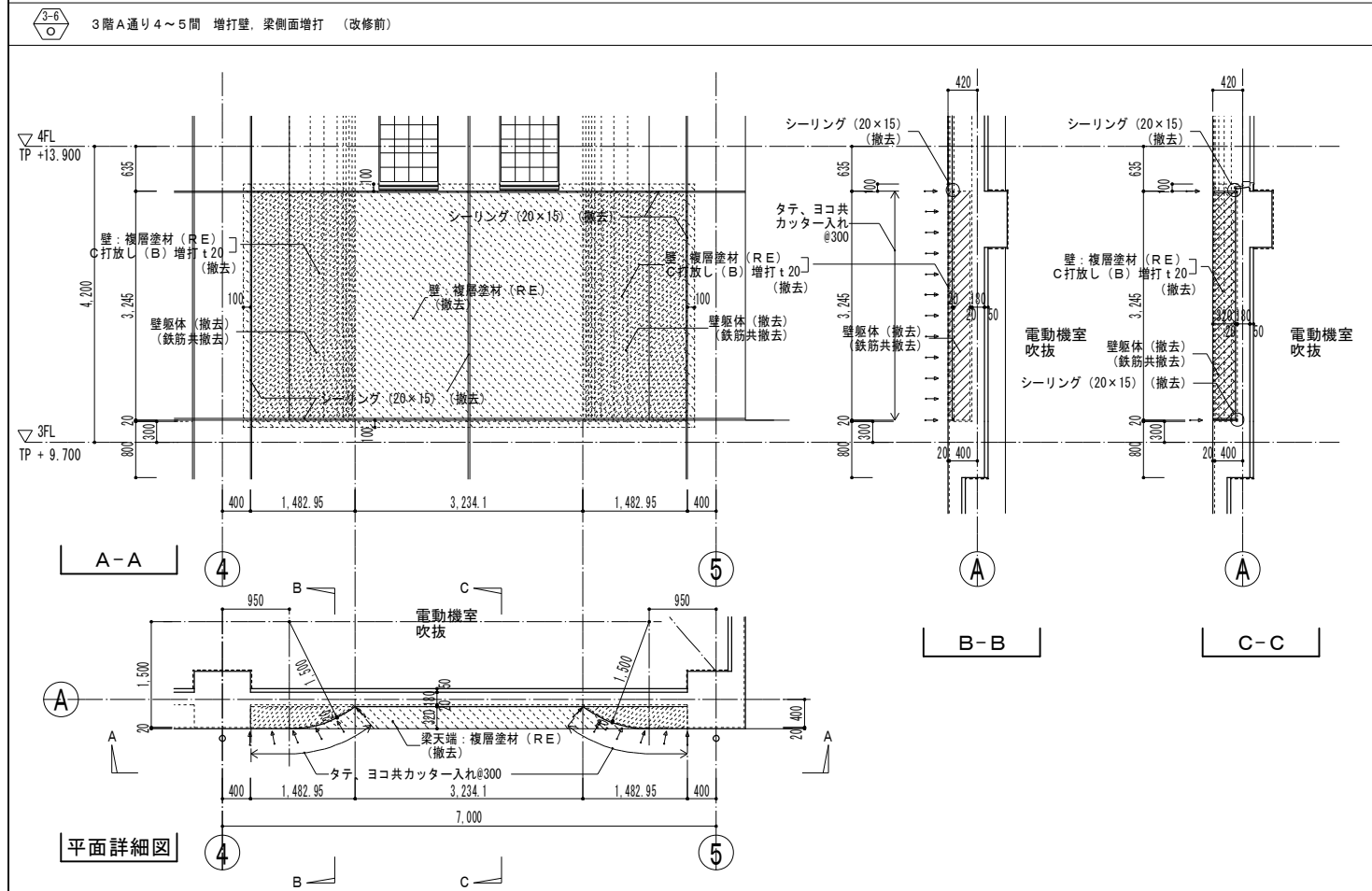
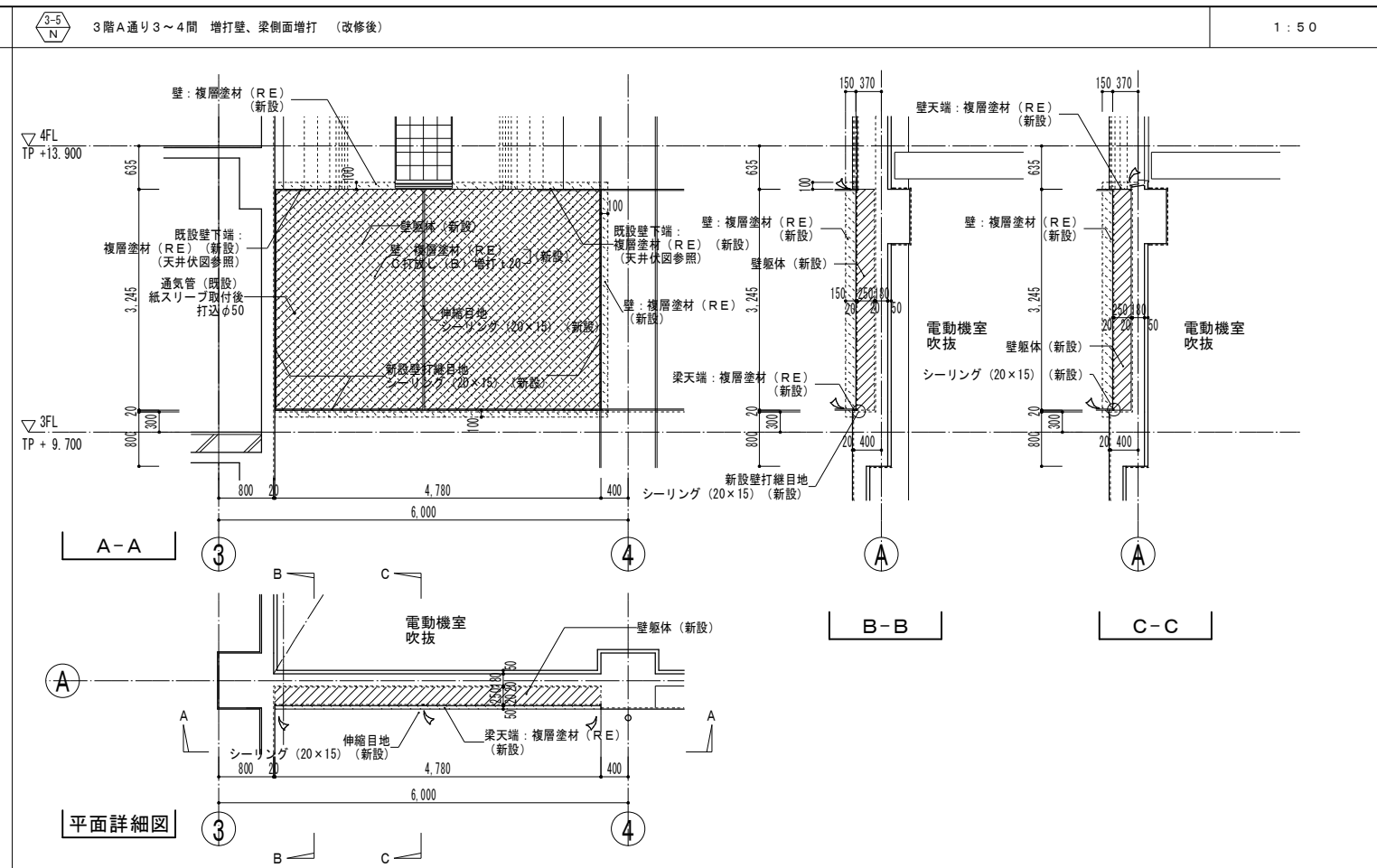
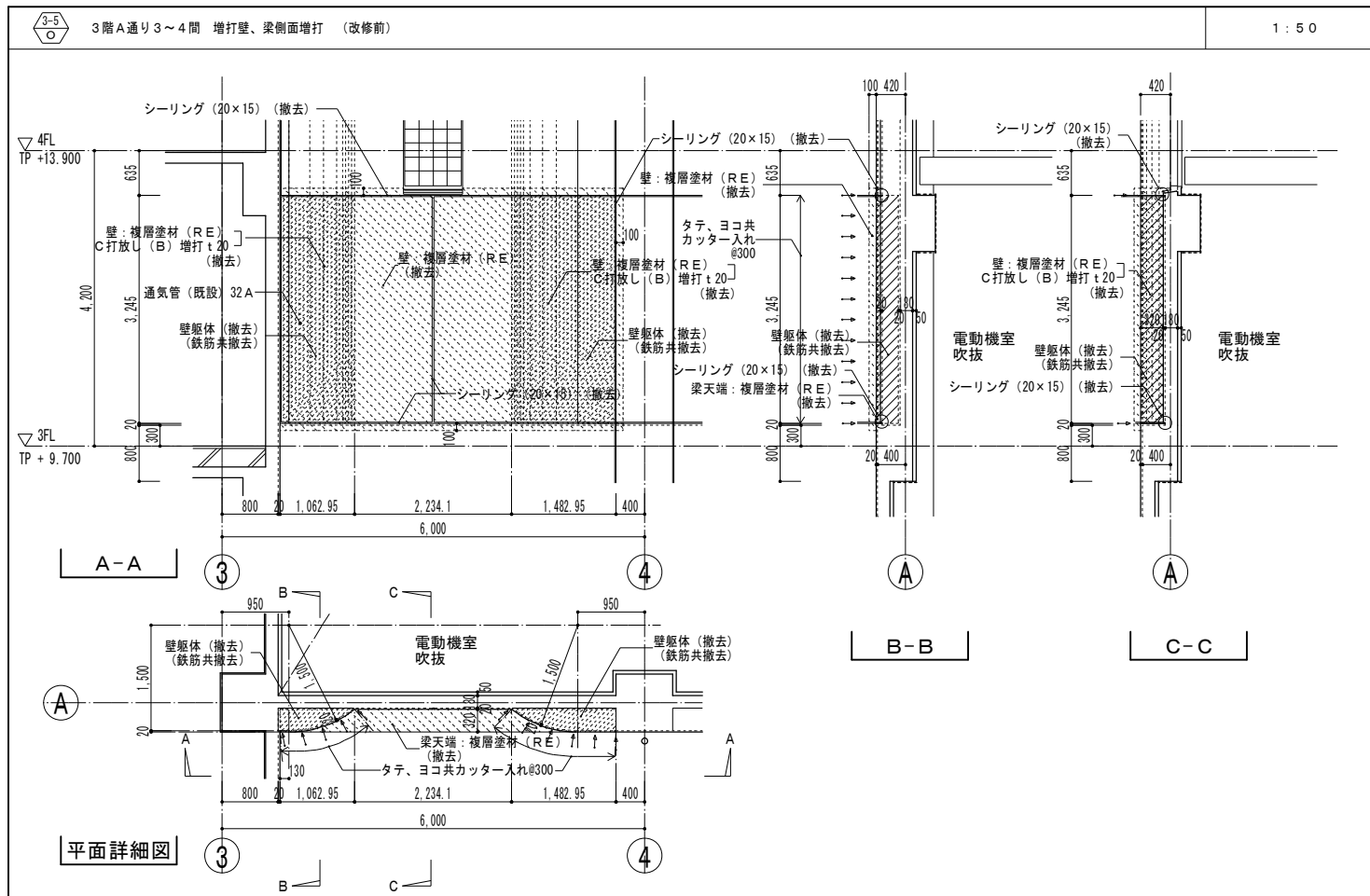


凡例
 特記なき限り 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋残し)
 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋共撤去)
 部分は仕上の撤去範囲を示す。
 △ 表示部はカッターによる切断位置を示す。
 ▽ 表示部はカッターによる仕上材切断位置を示す。

凡例
 特記なき限り 部分は躯体の新設範囲を示す。
 部分は仕上の新設範囲を示す。
 △ 新設壁打継目地: 2-02-8 (20×15) (PU-2) を示す。

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

| | |
|------|-------------------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 |
| 名称 | 3階平面・断面・展開詳細図 (2) |
| 縮尺 | 1/50 設計年月 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 D-40 |

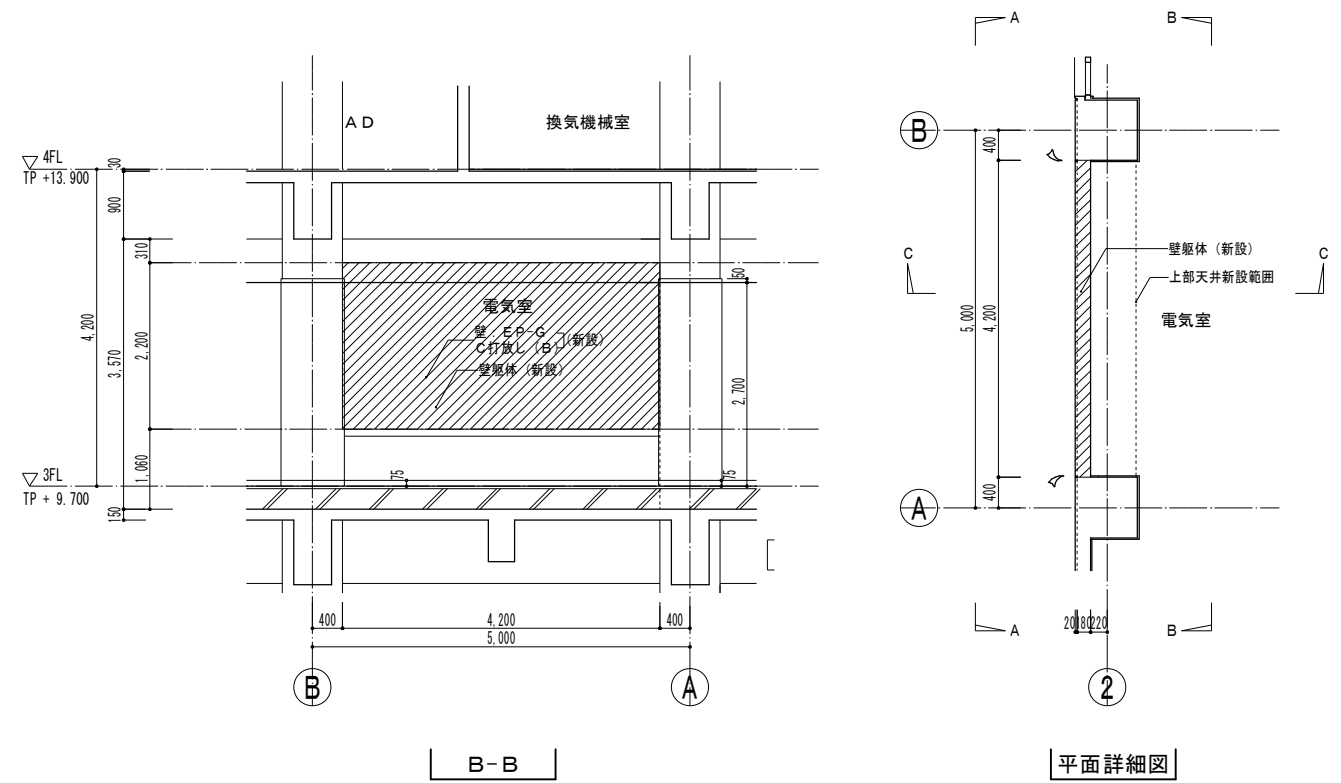
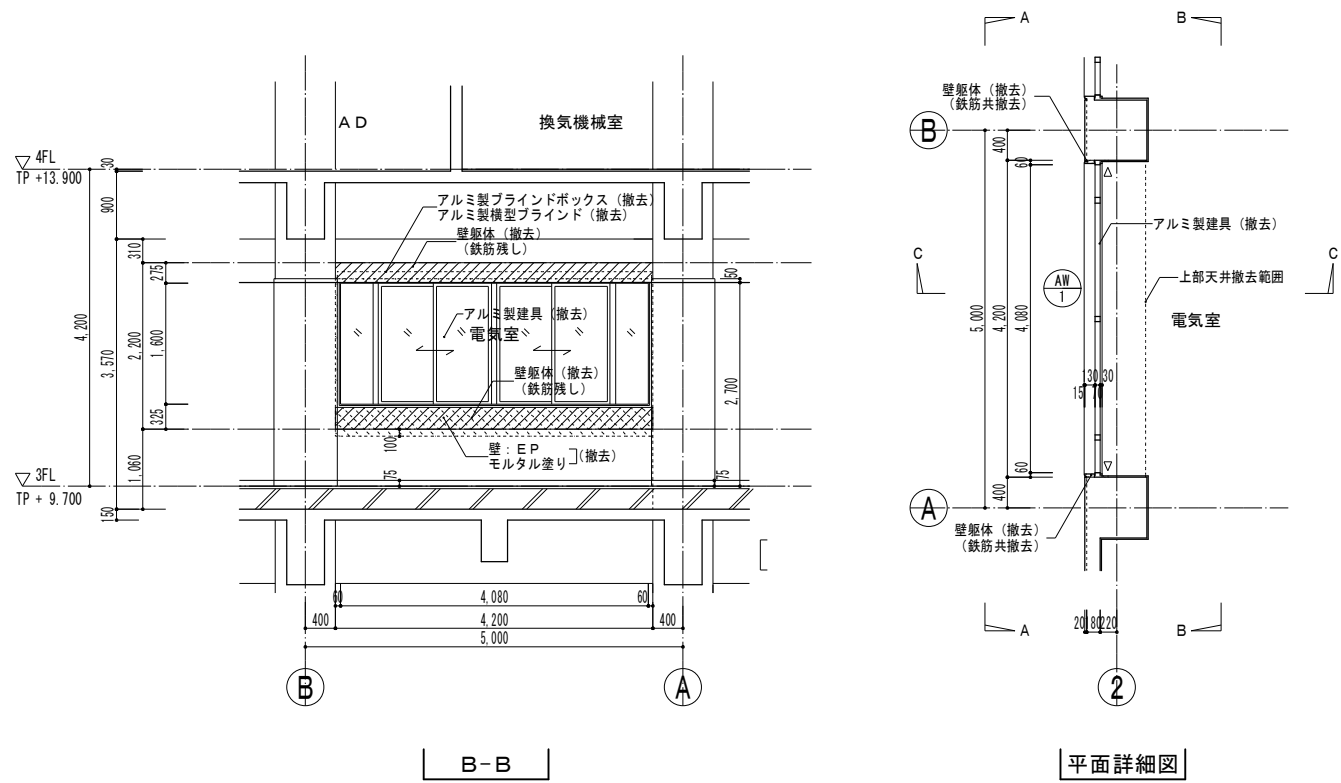
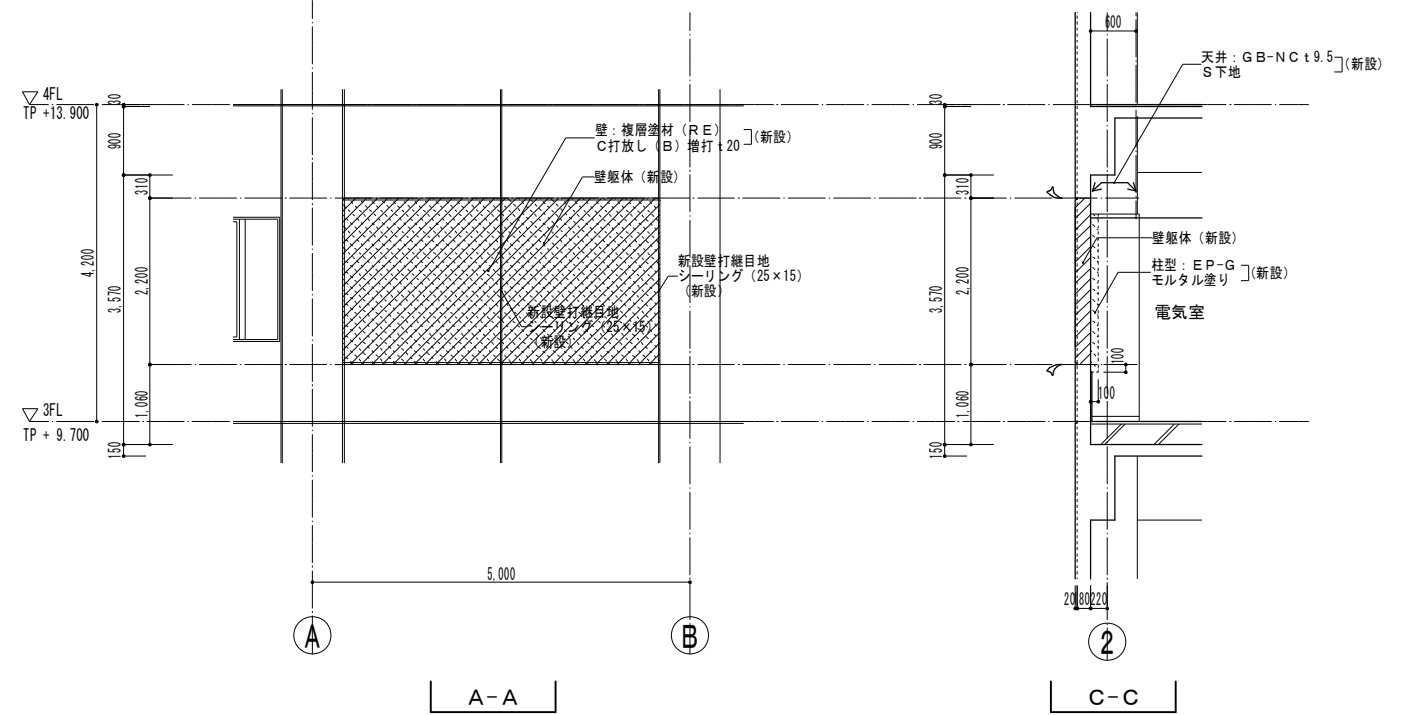
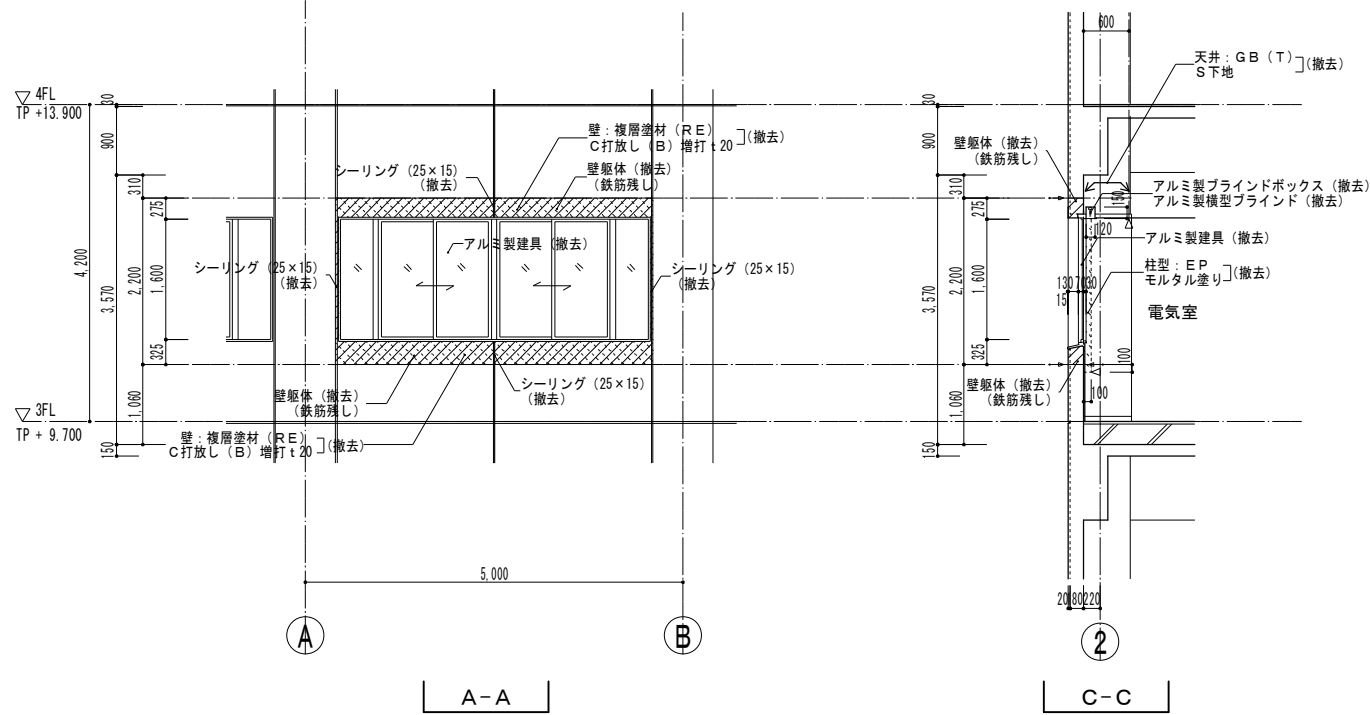


凡例
 特記なき限り 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋残し)
 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋共撤去)
 部分は仕上の撤去範囲を示す。
 △ 表示部はカッターによる切断位置を示す。
 ▽ 表示部はカッターによる仕上材切断位置を示す。

凡例
 特記なき限り 部分は躯体の新設範囲を示す。
 部分は仕上の新設範囲を示す。
 △ 新設壁打継目地、伸縮目地: 2-02-8 (20x15) (PU-2) を示す。

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

| | |
|------|-------------------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 |
| 名称 | 3階平面・断面・展開詳細図 (3) |
| 縮尺 | 1/50 |
| 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | 設計者 (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 D-41 |

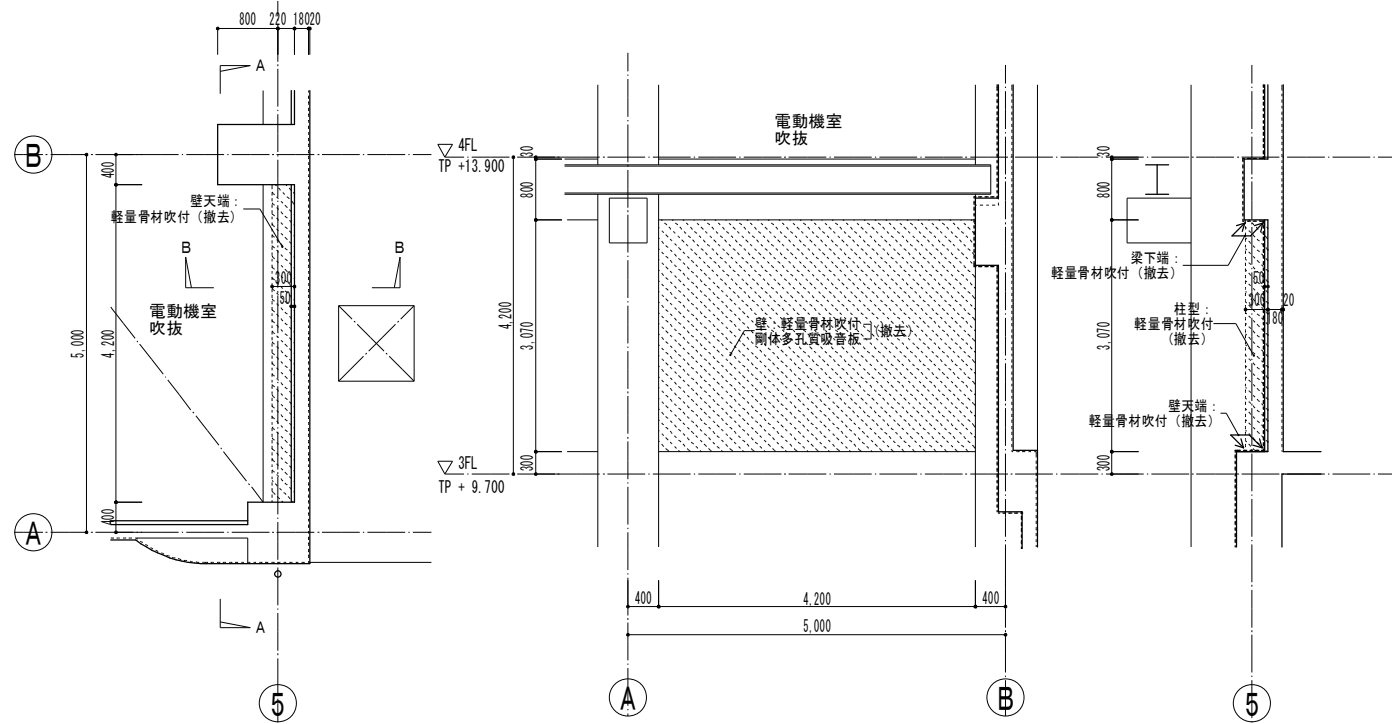


凡例
 特記なき限り 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋残し)
 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋共撤去)
 部分は仕上の撤去範囲を示す。
 △ 表示部はカッターによる切断位置を示す。
 ▽ 表示部はカッターによる仕上材切断位置を示す。

凡例
 特記なき限り 部分は躯体の新設範囲を示す。
 部分は仕上の新設範囲を示す。
 △ 新設壁打継目地、新設壁伸縮目地: 2-02-8 (20x15) (PU-2)を示す。

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

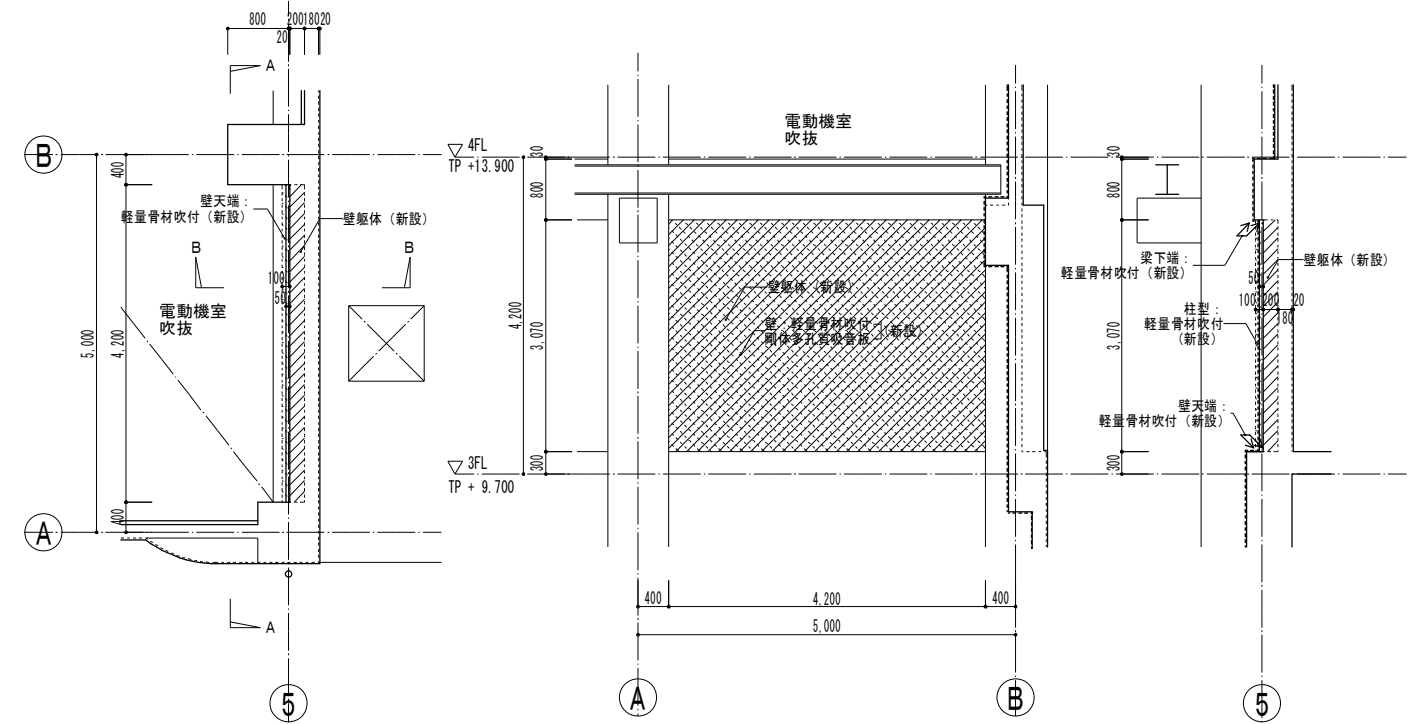
| | | | |
|------|-------------------|--------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 3階平面・断面・展開詳細図 (4) | | |
| 縮尺 | 1/50 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | 設計者 | (株)NJS | |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-42 |



平面詳細図

A-A

B-B



平面詳細図

A-A

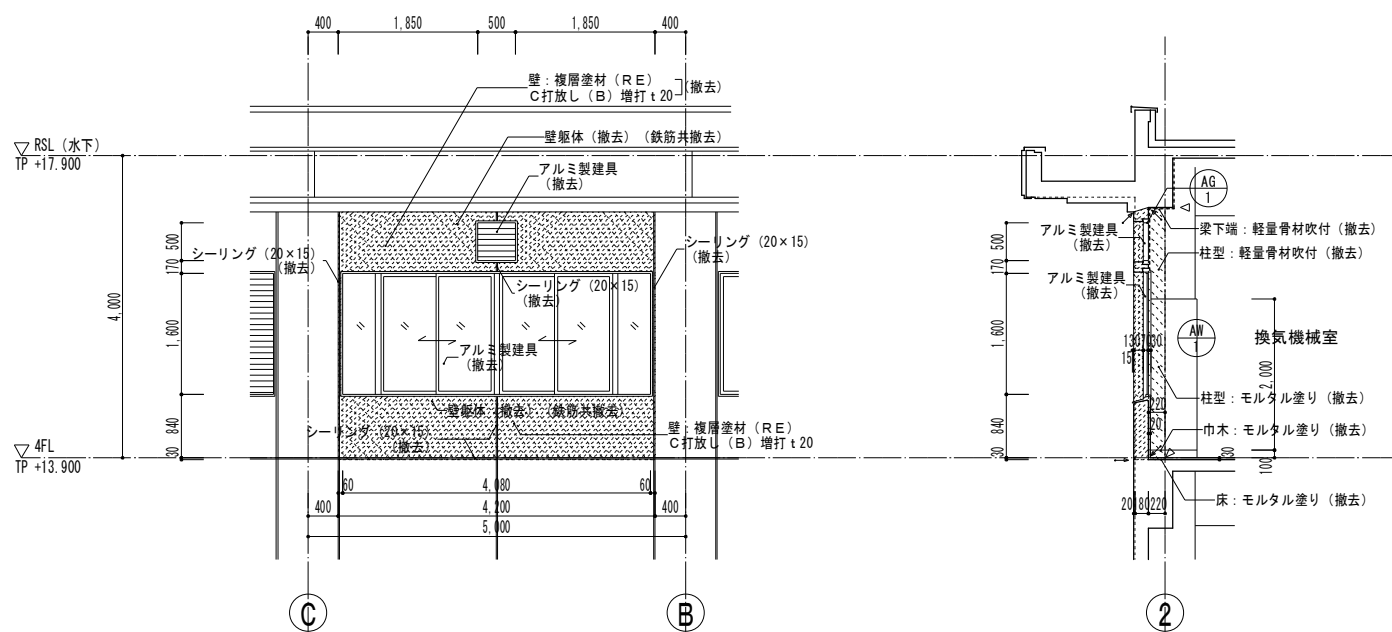
B-B

凡例
 特記なき限り 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋残し)
 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋共撤去)
 部分は仕上の撤去範囲を示す。
 △ 表示部はカッターによる切断位置を示す。
 ▽ 表示部はカッターによる仕上材切断位置を示す。

凡例
 特記なき限り 部分は躯体の新設範囲を示す。
 部分は仕上の新設範囲を示す。
 △ 新設壁打継目地、新設壁伸縮目地: 2-02-8 (20×15) (PU-2) を示す。

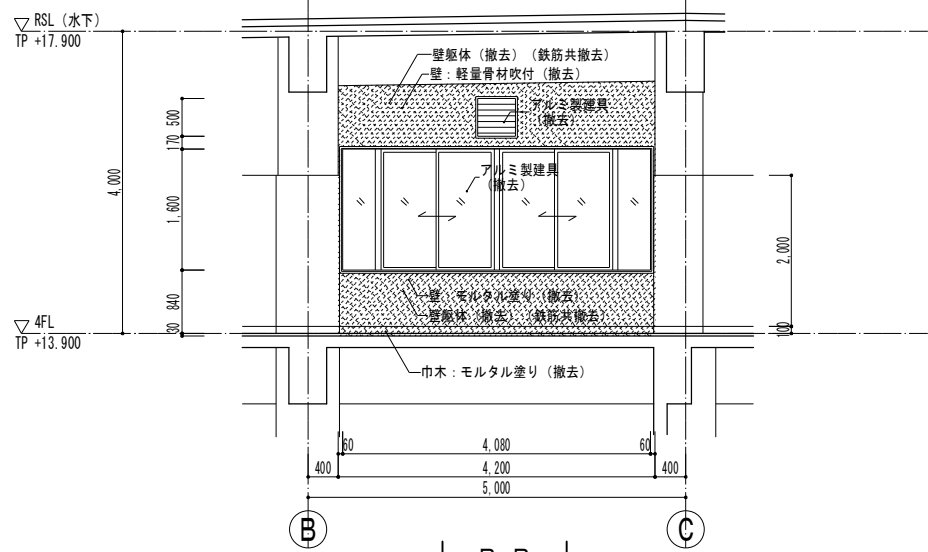
株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

| | | | |
|------|-------------------|---------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 3階平面・断面・展開詳細図 (5) | | |
| 縮尺 | 1/50 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | 設計者 | (株) NJS | |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-43 |

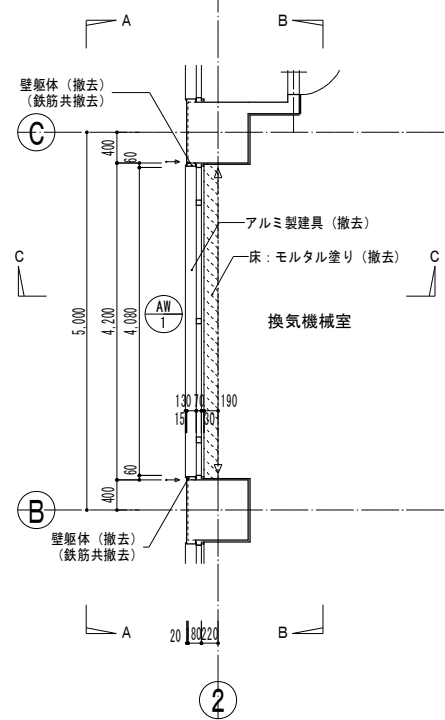


A-A

C-C

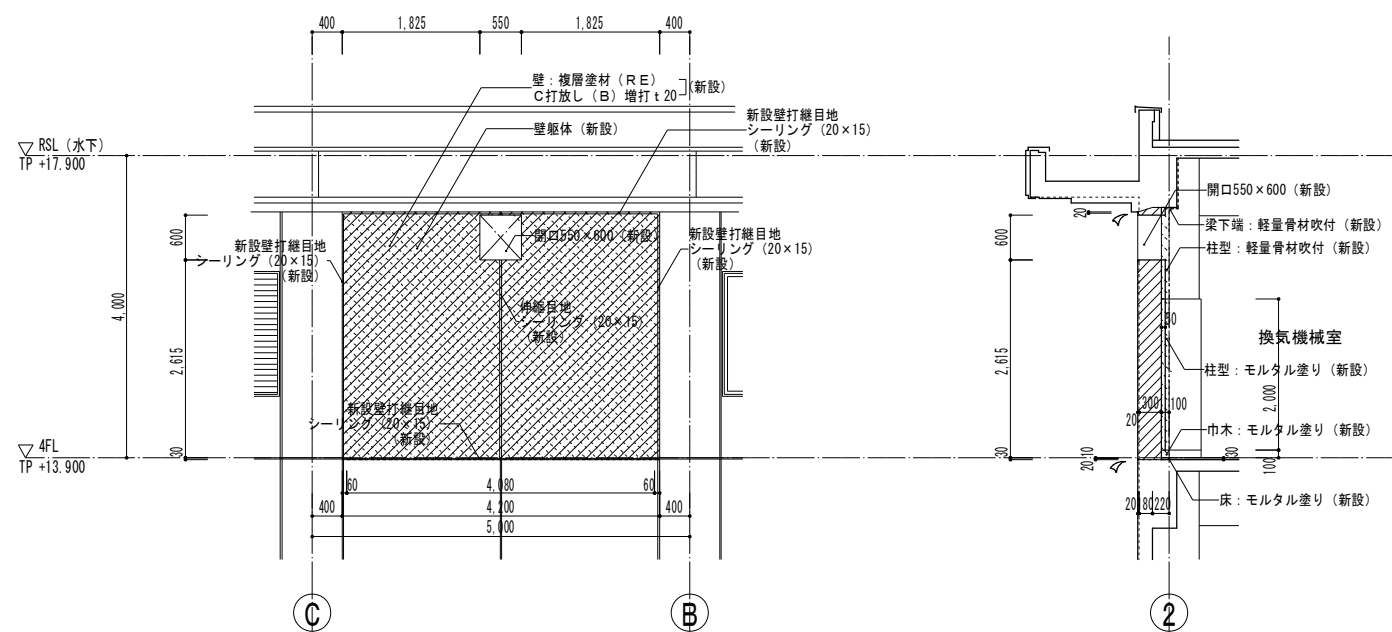


B-B



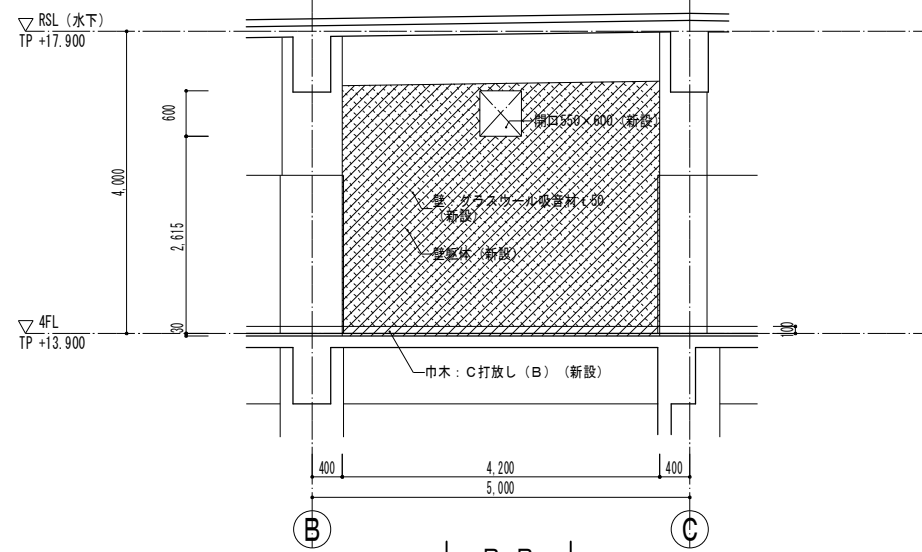
平面詳細図

凡例
 特記なき限り 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋残し)
 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋共撤去)
 部分は仕上の撤去範囲を示す。
 △ 表示部はカッターによる切断位置を示す。
 ▽ 表示部はカッターによる仕上材切断位置を示す。

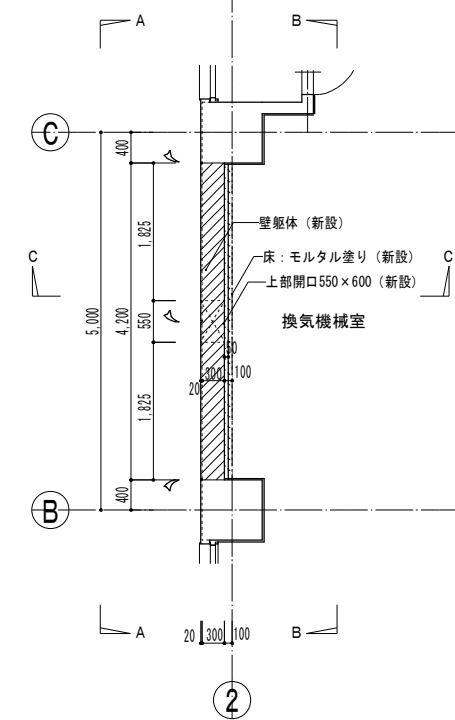


A-A

C-C



B-B

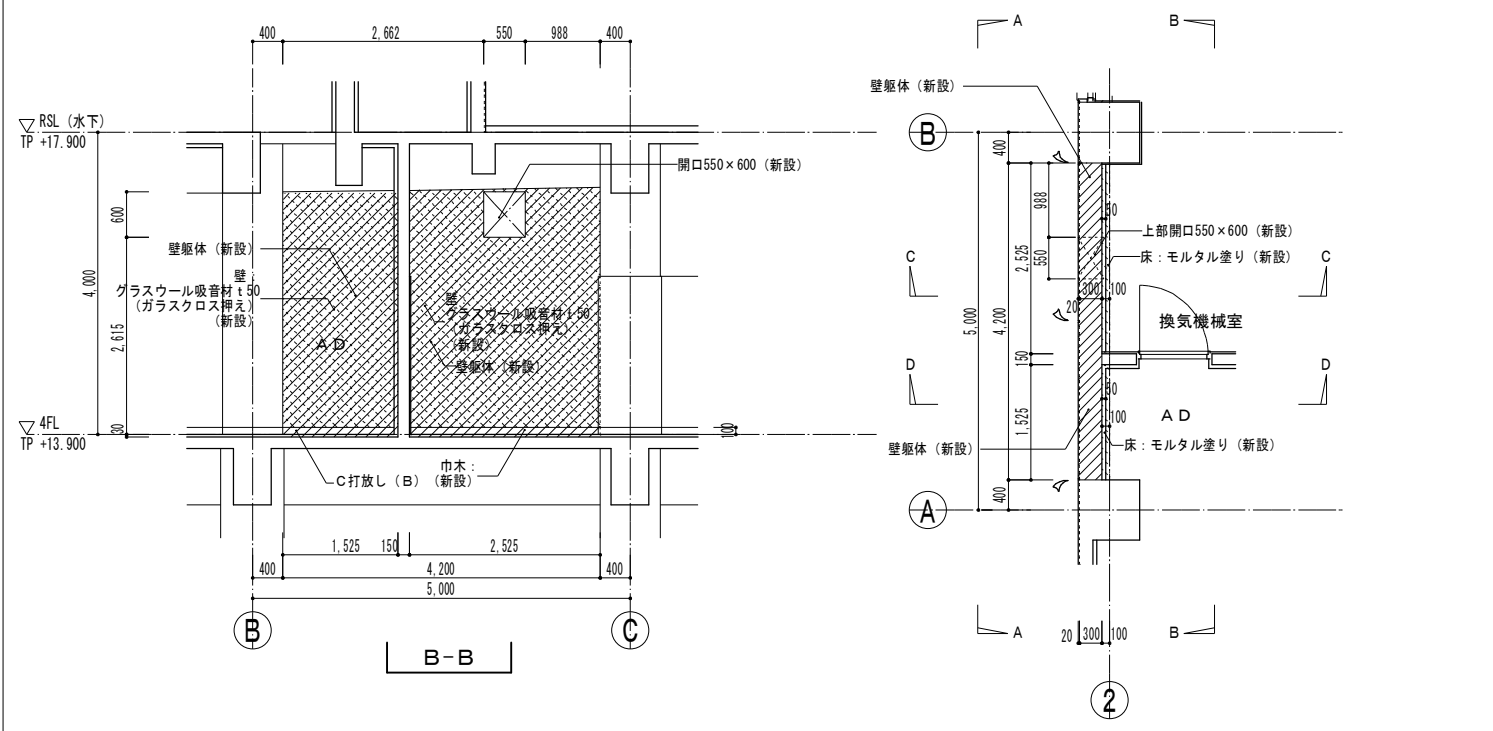
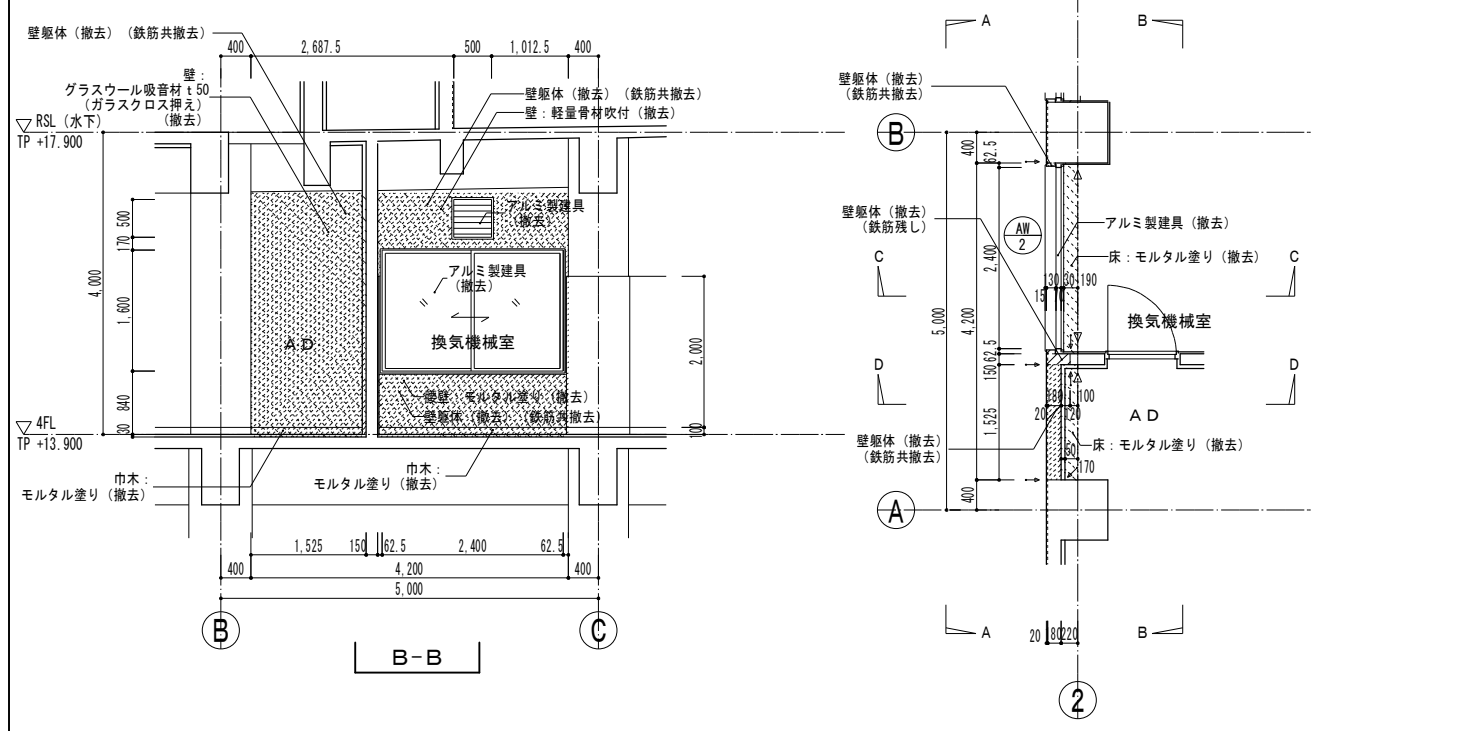
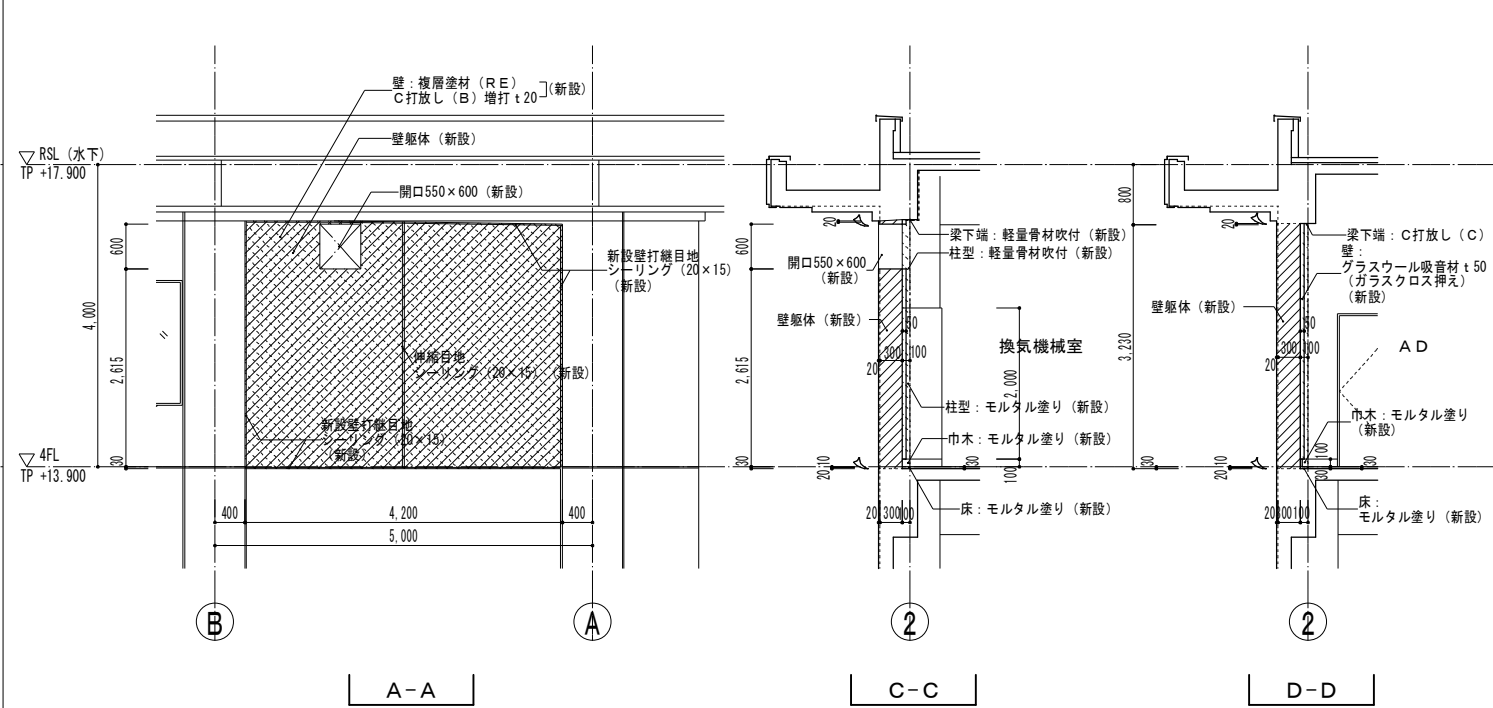
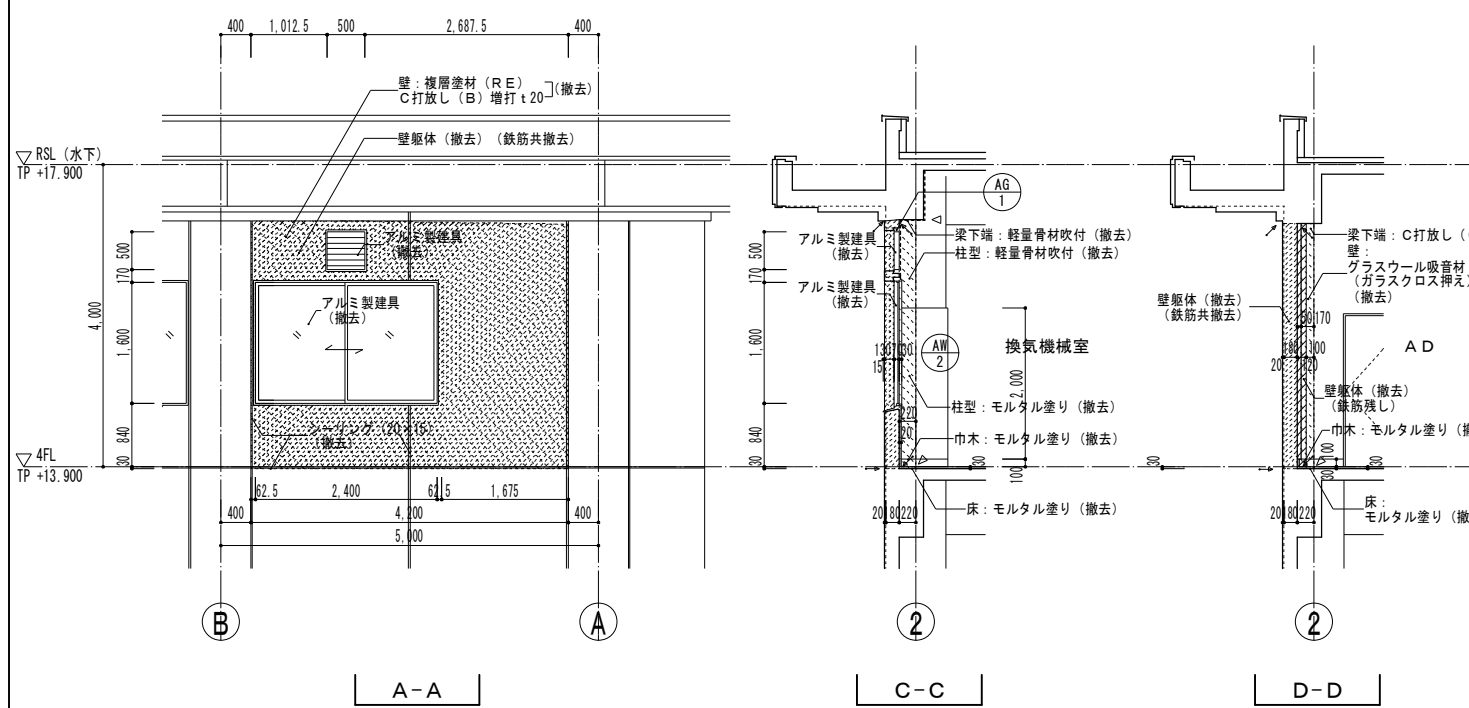


平面詳細図

凡例
 特記なき限り 部分は躯体の新設範囲を示す。
 部分は仕上の新設範囲を示す。
 △ 新設壁打継目地、新設壁伸縮目地: 2-02-8 (20x15) (PU-2) を示す。

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

| | | | |
|------|-------------------|--------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 4階平面・断面・展開詳細図 (1) | | |
| 縮尺 | 1/50 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | 設計者 | (株)NJS | |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-44 |



平面詳細図

平面詳細図

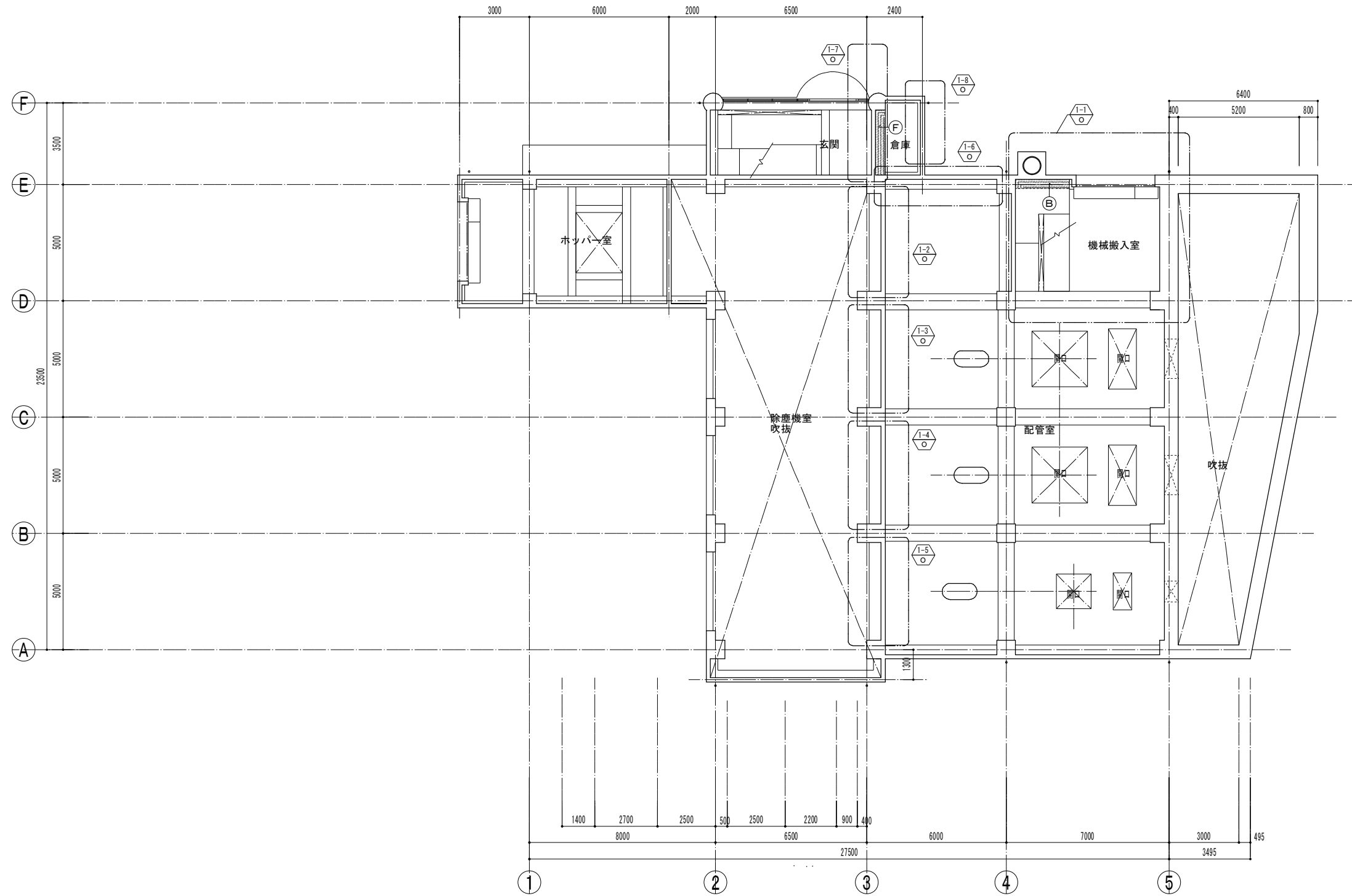
凡例
特記なき限り
[斜線] 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋残し)
[点線] 部分は躯体の撤去範囲を示す。(鉄筋共撤去)
[白] 部分は仕上の撤去範囲を示す。
△ 表示部はカッターによる切断位置を示す。
▽ 表示部はカッターによる仕上材切断位置を示す。

凡例
特記なき限り
[斜線] 部分は躯体の新設範囲を示す。
[点線] 部分は仕上の新設範囲を示す。
△ 新設壁打継目地、新設壁伸縮目地: 2-02-8 (20×15) (PU-2) を示す。

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

| | | | |
|------|-------------------|---------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 4階平面・断面・展開詳細図 (2) | | |
| 縮尺 | 1/50 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | 設計者 | (株) NJS | |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-45 |

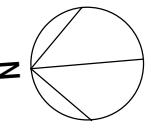
改修前



| 天井伏図・凡例 | | |
|---------|-----------------------------|--------------|
| 符号 | 仕上 | 下地 |
| Ⓐ | 複層塗材 (R E) 〕 (撤去) モルタル塗り | C (既存のまま) |
| Ⓑ | 軽量骨材吹付 (撤去) | C (既存のまま) |
| Ⓒ | GB (T) (撤去) | S (撤去) |
| Ⓓ | ケイカル板 (撤去) | S (撤去) |
| Ⓔ | RB (撤去) | S (撤去) |
| Ⓕ | 外装薄塗材 (E) (撤去) | C (既存のまま) |

※ 特記無き限り既存のまま

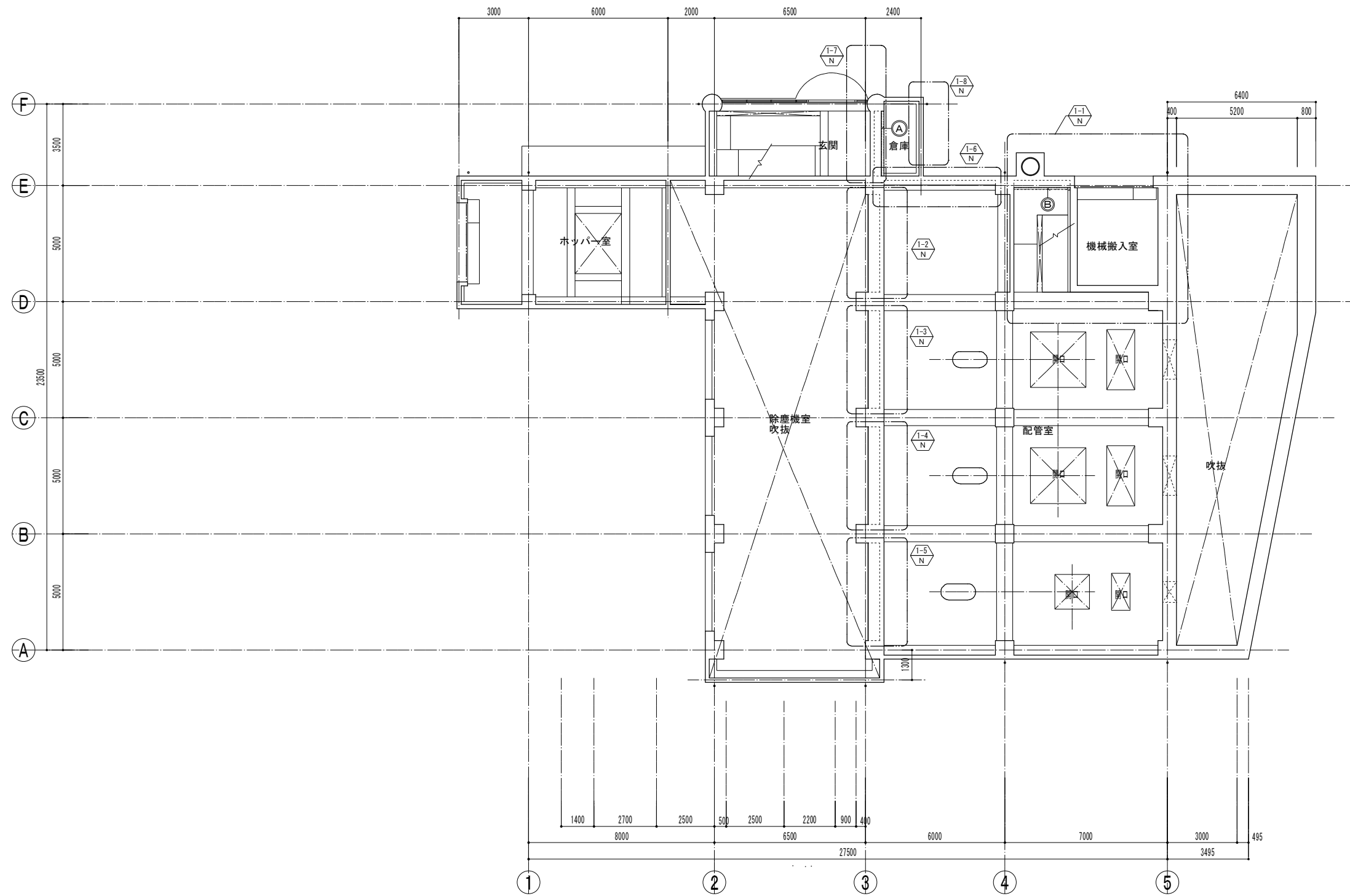
改修前 1階天井伏図 1:100



| | | | |
|------|----------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修前 1階天井伏図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-46 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修後



| 天井伏図・凡例 | | |
|---------|----------------------------|--------|
| 符号 | 仕上 | 下地 |
| Ⓐ | 外装薄塗材 (E) (新設) | C (既存) |
| Ⓑ | 軽量骨材吹付 (新設) | C (既存) |
| Ⓒ | GB-NC t 9.5 (新設) | S (新設) |
| Ⓓ | 複層塗材 (RE) (新設) | C (既存) |
| ☒ | 天井点検口 (新設) 下地補強 3-4-2-2 | |

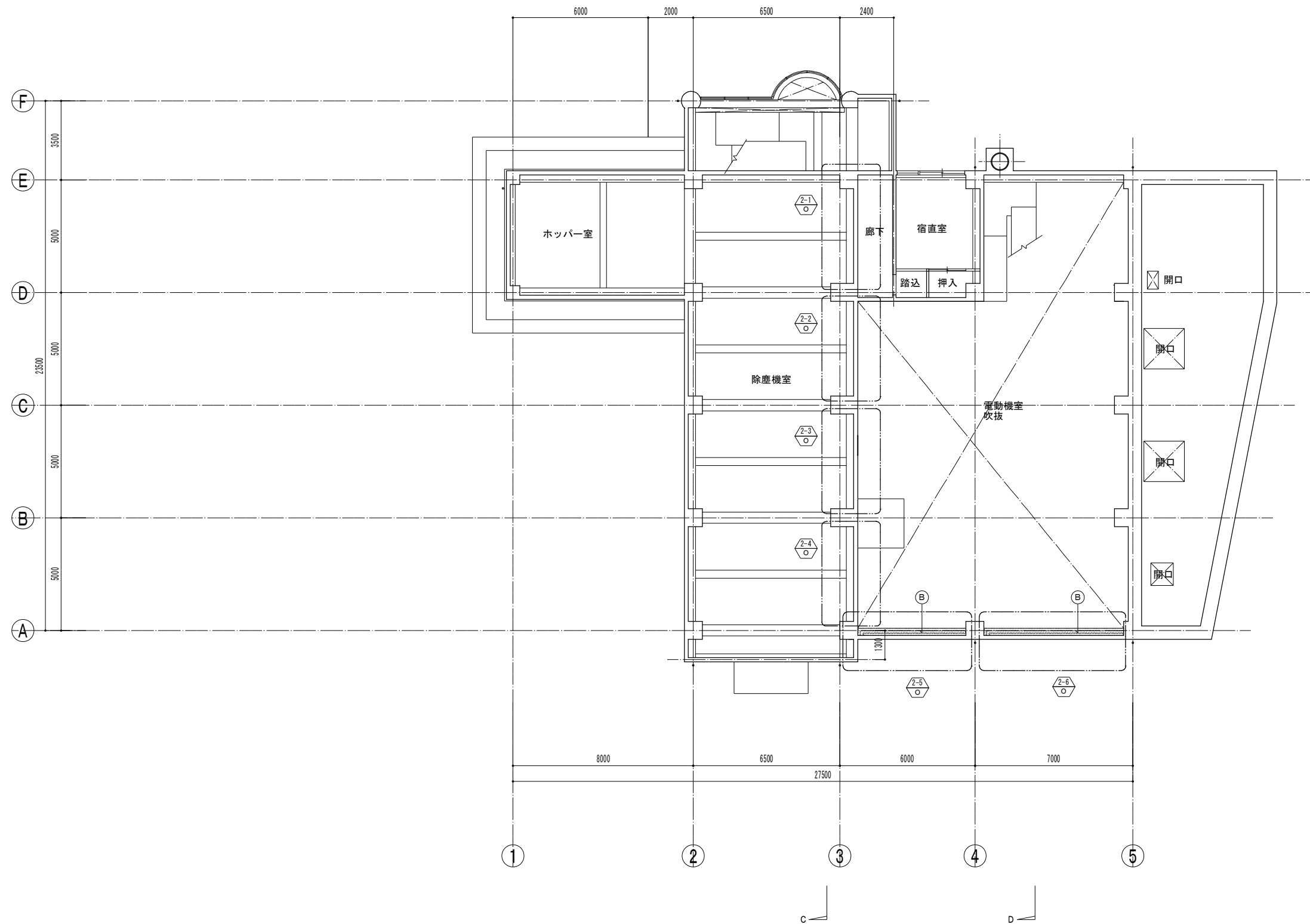
※ 特記無き限り既存のまま

改修後 1階天井伏図 1:100

| | | | |
|------|----------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修後 1階天井伏図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-47 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修前



| 符号 | 仕上 | 下地 |
|-----|----------------------------|--------------|
| (A) | 複層塗材 (RE)] (撤去) モルタル塗り | C (既存のまま) |
| (B) | 軽量骨材吹付 (撤去) | C (既存のまま) |
| (C) | GB (T) (撤去) | S (撤去) |
| (D) | ケイカル板 (撤去) | S (撤去) |
| (E) | RB (撤去) | S (撤去) |
| (F) | 外装薄塗材 (E) (撤去) | C (既存のまま) |

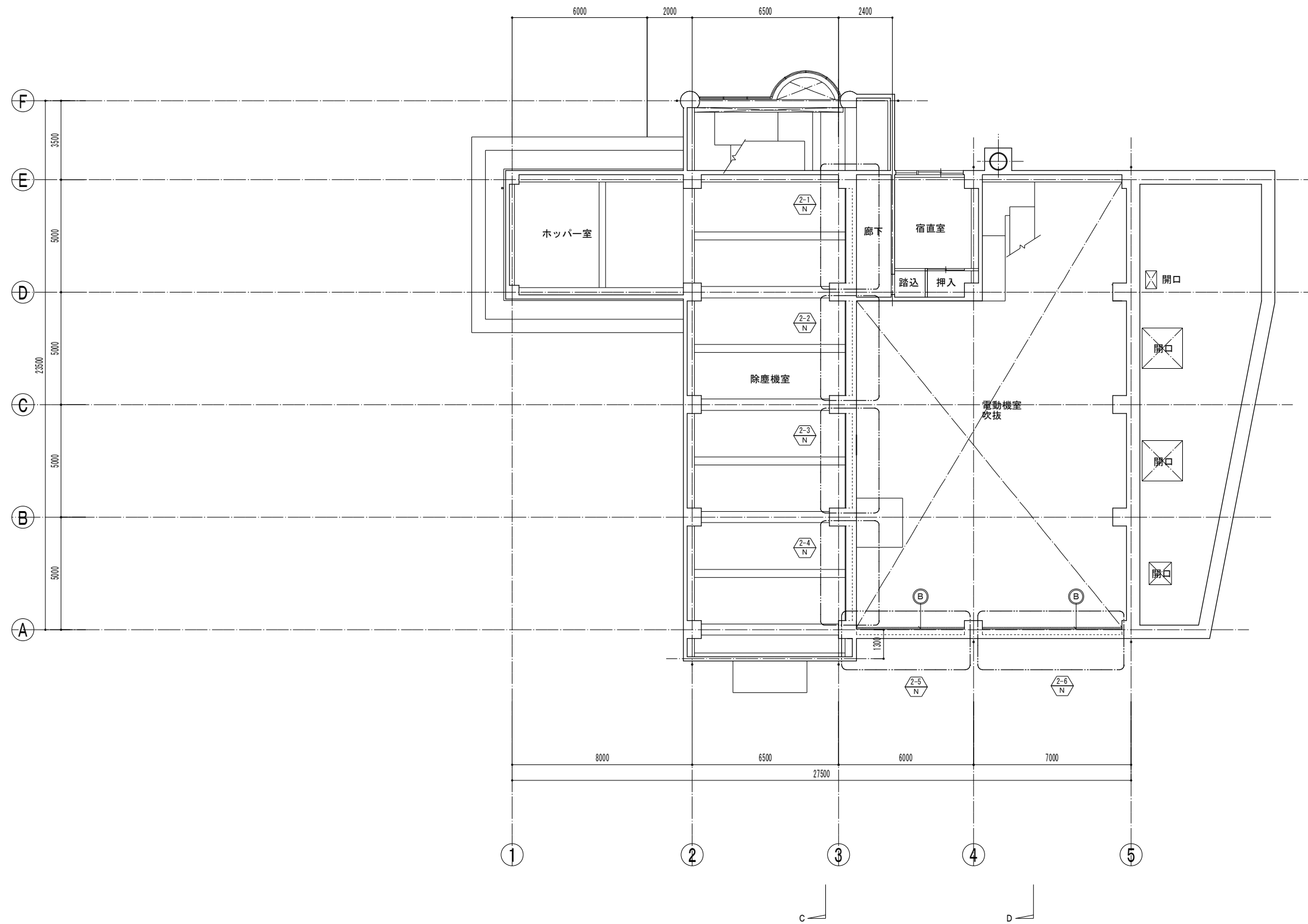
※ 特記無き限り既存のまま

改修前 2階天井伏図 1:100

| | | | |
|------|----------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修前 2階天井伏図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-48 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修後



| 天井伏図・凡例 | | |
|---------|----------------------------|--------|
| 符号 | 仕上 | 下地 |
| Ⓐ | 外装薄塗材 (E) (新設) | C (既存) |
| Ⓑ | 軽量骨材吹付 (新設) | C (既存) |
| Ⓒ | GB-NC t9.5 (新設) | S (新設) |
| Ⓓ | 複層塗材 (RE) (新設) | C (既存) |
| ☒ | 天井点検口 (新設) 下地補強 3-4 2-2 | |

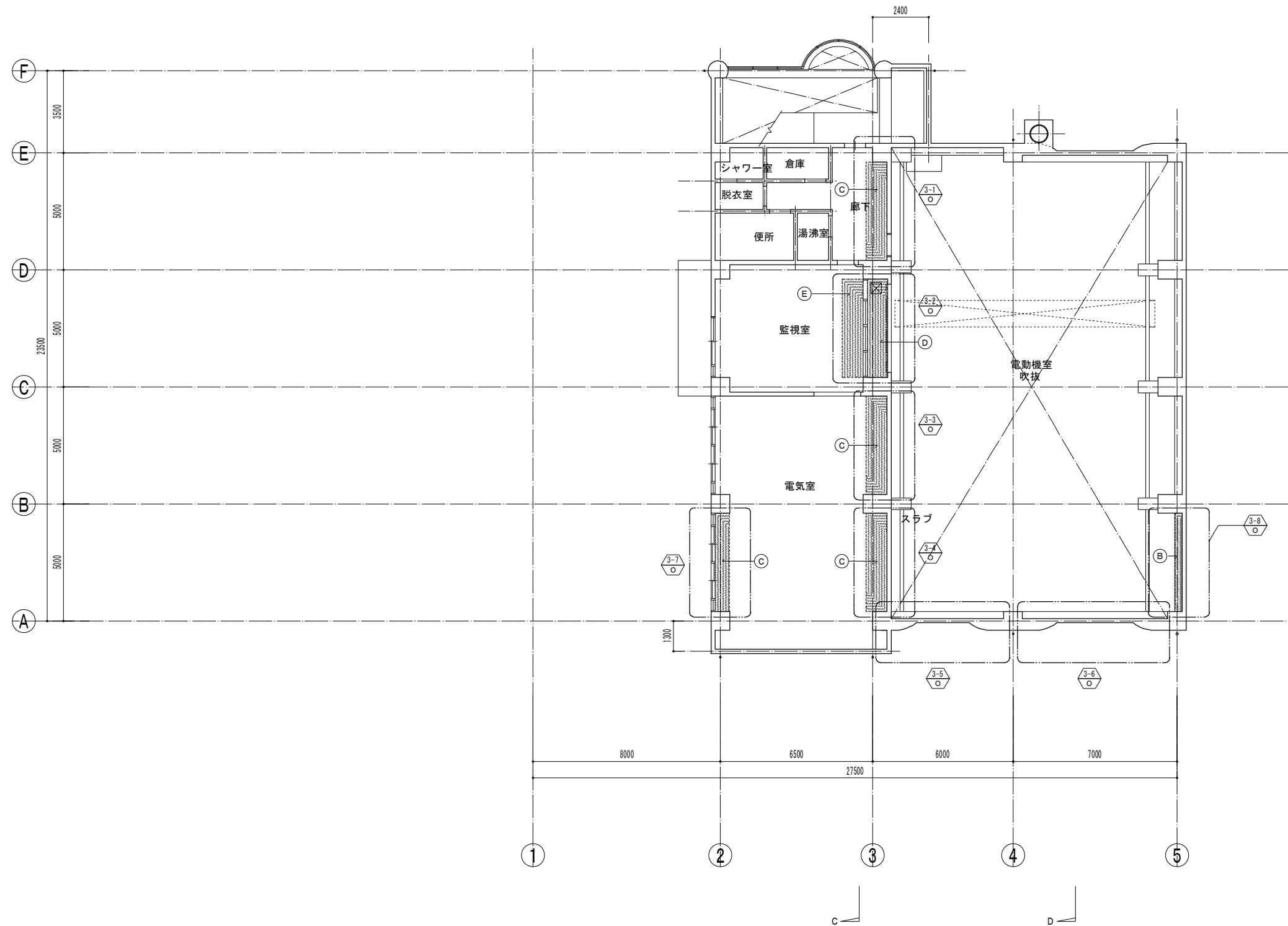
※ 特記無き限り既存のまま

改修後 2階天井伏図 1:100

| | | | |
|------|----------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修後 2階天井伏図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-49 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修前



| 符号 | 仕上 | 下地 |
|-----|----------------------------|--------------|
| (A) | 複層塗材 (RE)] (撤去) モルタル塗り | C (既存のまま) |
| (B) | 軽量骨材吹付 (撤去) | C (既存のまま) |
| (C) | GB (T) (撤去) | S (撤去) |
| (D) | ケイカル板 (撤去) | S (撤去) |
| (E) | RB (撤去) | S (撤去) |
| (F) | 外装薄塗材 (E) (撤去) | C (既存のまま) |

※ 特記無き限り既存のまま

改修前 3階天井伏図 1:100

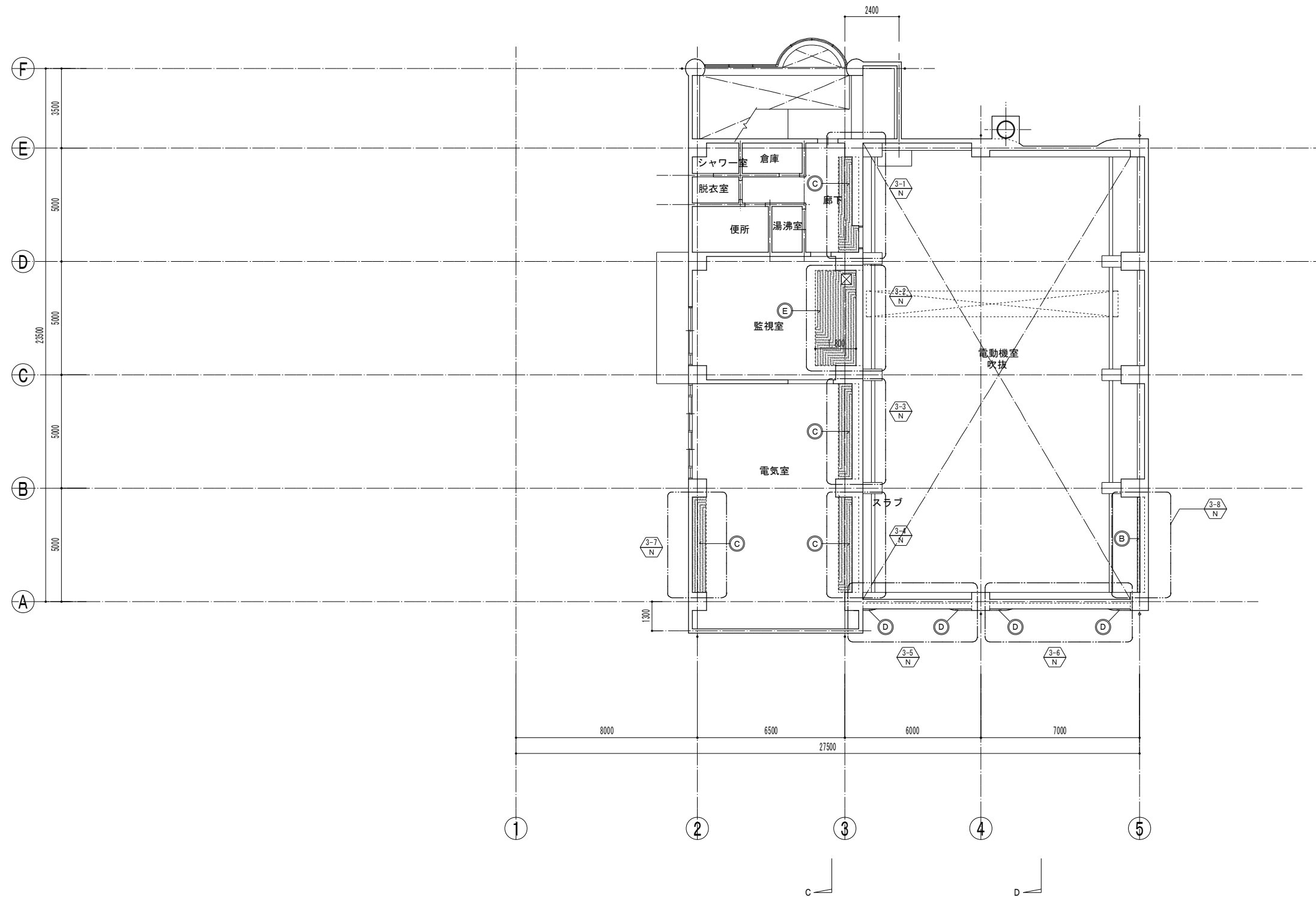
| | | | |
|------|----------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修前 3階天井伏図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-50 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修後

| 天井伏図・凡例 | | |
|---------|--------------------------|--------|
| 符号 | 仕上 | 下地 |
| Ⓐ | 外装薄塗材 (E) (新設) | C (既存) |
| Ⓑ | 軽量骨材吹付 (新設) | C (既存) |
| Ⓒ | GB-NC t9.5 (新設) | S (新設) |
| Ⓓ | 複層塗材 (RE) (新設) | C (既存) |
| ☒ | 天井点検口 (新設) 下地補強 3-4-2 | |

※ 特記無き限り既存のまま

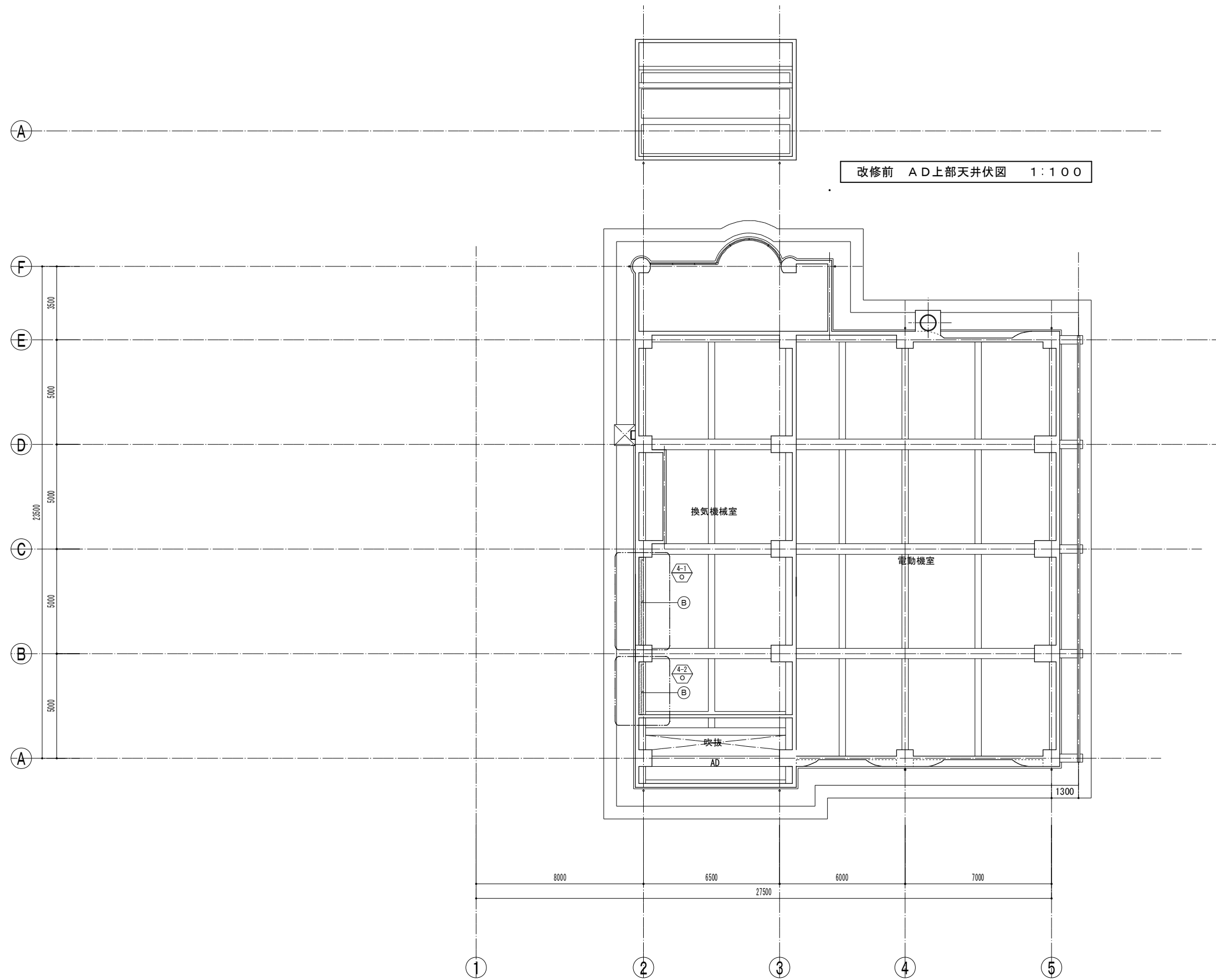


改修後 3階天井伏図 1:100

| | | | |
|------|----------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修後 3階天井伏図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-51 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修前



改修前 AD上部天井伏図 1:100

改修前 4階天井伏図 1:100

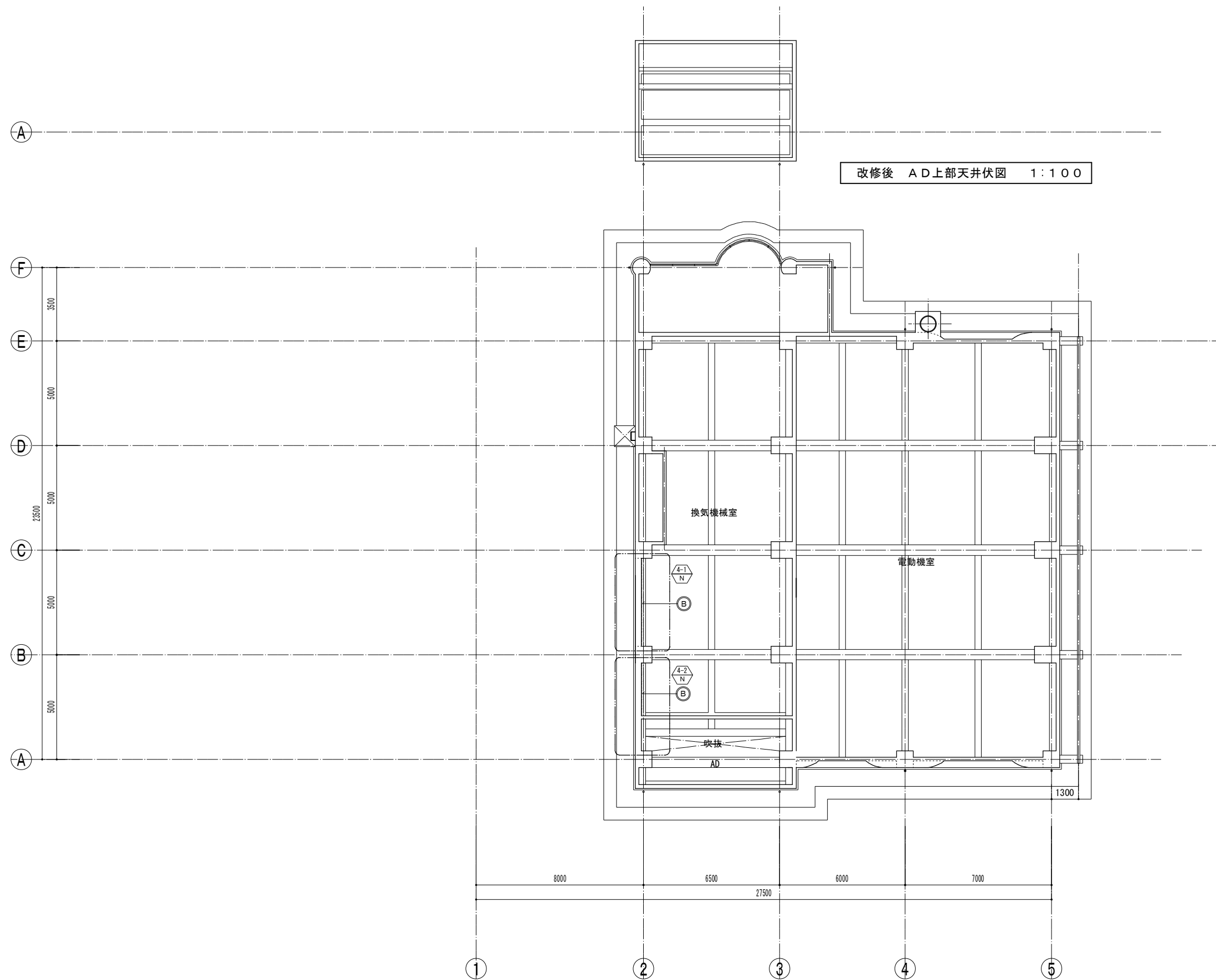
| 符号 | 仕上 | 下地 |
|----|----------------------------|--------------|
| Ⓐ | 複層塗材 (RE) 〕 (撤去) モルタル塗り | C (既存のまま) |
| Ⓑ | 軽量骨材吹付 (撤去) | C (既存のまま) |
| Ⓒ | GB (T) (撤去) | S (撤去) |
| Ⓓ | ケイカル板 (撤去) | S (撤去) |
| Ⓔ | RB (撤去) | S (撤去) |
| Ⓕ | 外装薄塗材 (E) (撤去) | C (既存のまま) |

※ 特記無き限り既存のまま

| | | | |
|------|----------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修前 4階天井伏図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-52 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修後



改修後 4階天井伏図 1:100

| 符号 | 仕上 | 下地 |
|----|----------------------------|--------|
| Ⓐ | 外装薄塗材 (E) (新設) | C (既存) |
| Ⓑ | 軽量骨材吹付 (新設) | C (既存) |
| Ⓒ | GB-NC t.9.5 (新設) | S (新設) |
| Ⓓ | 複層塗材 (RE) (新設) | C (既存) |
| ☒ | 天井点検口 (新設) 下地補強 3-4-2-2 | |

※ 特記無き限り既存のまま

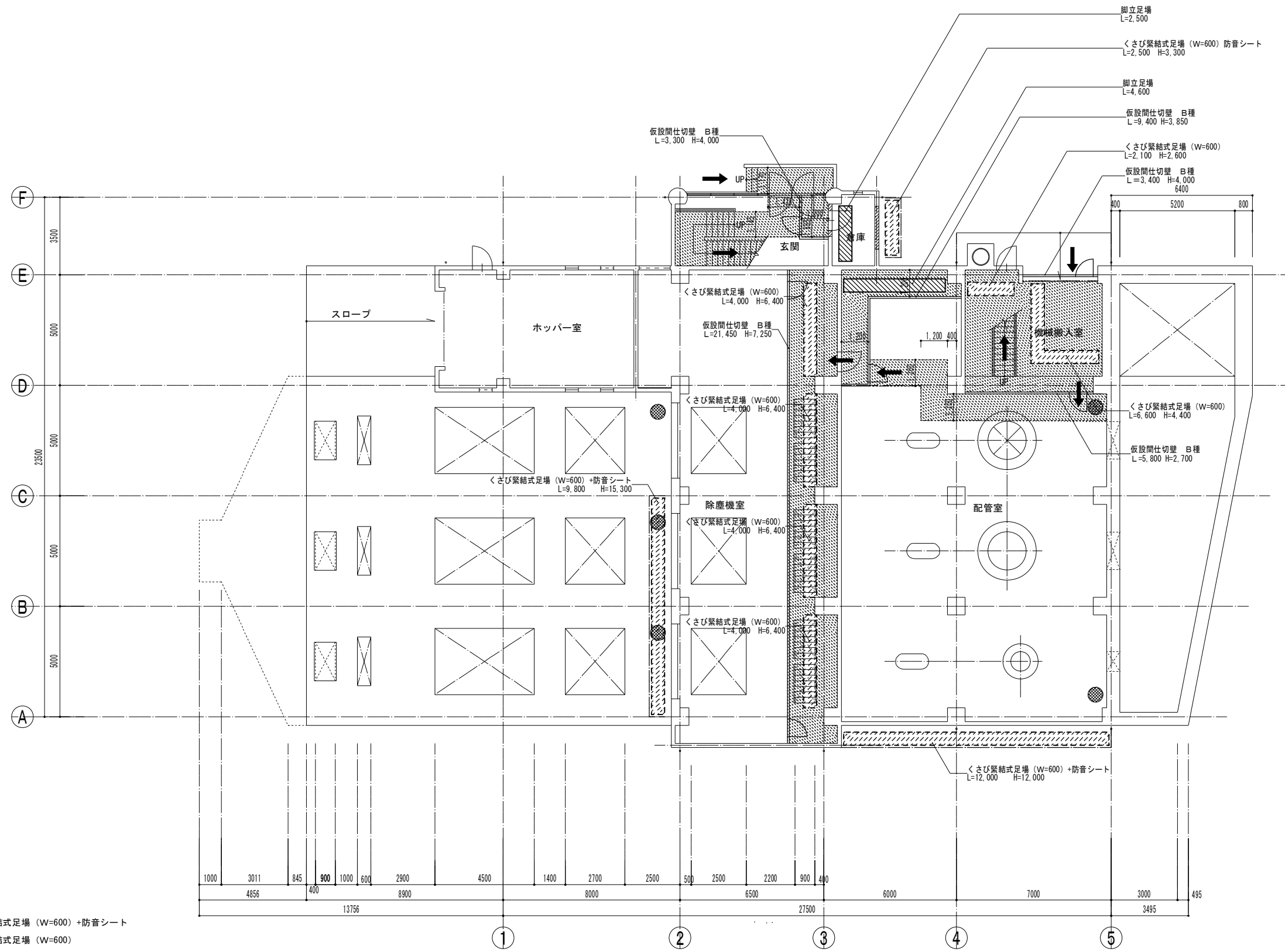
| | | | |
|------|----------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 改修後 4階天井伏図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-53 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

| 撤去建具表 | | | | | | | | | | | |
|----------|-------------------------|---------|-------------------------|-------------|---------------------|---------------------|-------------------------------------|-------------|---|---|---|
| 符号・名称・個数 | SD1 片開きフラッシュドア (ガラリ付) 1 | 1-7 O | SD2 片開きフラッシュドア 1 | 1-2 O | SD3 片開きフラッシュドア 1 | 1-1 O | SS1 電動重量シャッター 1 | 3-2 O | | | |
| 場所 | 1F:玄関 | | 1F:除塵機室 | | 1F:機械搬入室 | | 3F:監視室 | | | | |
| 仕上(枠共) | OP | | OP | | VAP | | OP | | | | |
| 建具 | 見込 (ランマ) | 40 | | 40 | | 40 | | - | | | |
| | 硝子 (ランマ) | - | | - | | - | | - | | | |
| | ガラリ | 400x200 | | - | | - | | - | | | |
| 建具枠 | 見込 | 100 | - | 100 | - | 100 | - | - | - | - | - |
| | 取合 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | 番摺 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| 建具金物 | DC、PH、本締り付モノロック | | DC(ストップなし)、PH、本締り付モノロック | | PH、DC、シリンダー本締り錠 | | 座板、マグサ、ガイドレール:ステンレス製 シャッターケース:鋼製 | | | | |
| その他 | 枠、番摺共撤去 | | 甲種防火戸 枠、番摺共撤去 | | 枠、番摺共撤去 | | 煙感連動式 全て撤去 | | | | |
| 形状・寸法 | | | | | | | | | | | |
| 符号・名称・個数 | AW1 両軸はめ殺し付引き違い窓 2 | 3-7 O | 4-1 O | AW2 はめ殺し窓 1 | 4-2 O | AW3 はめ殺し窓(片開きドア付) 1 | 3-2 O | AG1 固定ガラリ 2 | | | |
| 場所 | 3F:電気室 4F:換気機械室 | | 4F:換気機械室 | | 3F:監視室 | | 4F:換気機械室=2 | | | | |
| 仕上(枠共) | 無着色陽極酸化塗装複合皮膜(B-1種) | | 無着色陽極酸化塗装複合皮膜(B-1種) | | 無着色陽極酸化塗装複合皮膜(B-1種) | | 無着色陽極酸化塗装複合皮膜(B-1種) | | | | |
| 建具 | 見込 (ランマ) | - | | - | | - | | - | | | |
| | 硝子 (ランマ) | N t 6、8 | | N t 6、8 | | P t 5 | | - | | | |
| | ガラリ | - | | - | | - | | - | | | |
| 建具枠 | 見込 | 70 | - | 70 | - | 70 | - | - | - | - | - |
| | 取合 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | 番摺 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| 建具金物 | クレセント、網戸 | | クレセント、網戸 | | DC、本締りモノロック | | ステンレス製防虫網 枠共撤去 | | | | |
| その他 | 枠共撤去 | | 枠共撤去 | | 枠共撤去 | | 枠共撤去 | | | | |
| 形状・寸法 | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|---|--|------|---------|---|---|---|---|---|---|-----------|-----|-----|-------|----|-----|--------------|--------------|--------------|-----|---------------|---|---|---|------|----------------|-------|--------|--------|
| 共通事項 | 1. 特記なき限り外部はシリンダ箱錠(内部サムターン)とし内部は本締り付モノロックとする。但し、押板、押棒の場合は、シリンダ本締りとする。 | 8. 特記なき限り内部建具ガラリはI型とする。(枠廻り詳細による。) | 建具略号 | アルミニウム製 | A | D | A | A | A | G | オーバーヘッドドア | 紙障子 | ふすま | シャッター | 網戸 | ガラリ | I型 開口率30% | ロ型 開口率30% | ハ型 開口率30% | 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | | | | | | | |
| | 2. パイプスペース、ダクトスペースの点検扉の鍵はシリンダ本締り錠(特記なき限り同一キー)とする。 | 9. 特記なき限り網戸の見込みは40mmとする。 | | 鋼製 | S | D | S | W | S | G | S | O | D | | | | | | | | S | S | | | 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | | |
| | 3. 便所等の施設を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。 | 10. 防火戸の位置は建具配置図による。 | | 鋼製重量 | L | D | | | | | | | | | | | | | | | L | S | | | 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | | |
| | 4. AH、FHを除きDCの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止め(防火戸を除く)をつける。壁仕上げボード類等の場合は床付とする。(但し、通行に支障のあるものは除く。) | 11. 特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行なわないものとする。 | | ステンレス製 | S | S | S | S | S | S | S | S | S | S | S | | | | | | S | S | S | S | S | 名称 | 撤去建具表 | | |
| | 5. 特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網付とする。 | 12. SSD下地力骨等は全てSUSとする。 | | 木製 | W | D | W | W | W | G | | P | H | | | | | | | | | | | | | 縮尺 | 1/50 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| | 6. アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から1,500以内とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 工種 | 設計者 | (株)NJS | |
| | 7. 大型、気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-54 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
一級愛知県知事登録(い-27)第7016号
一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊



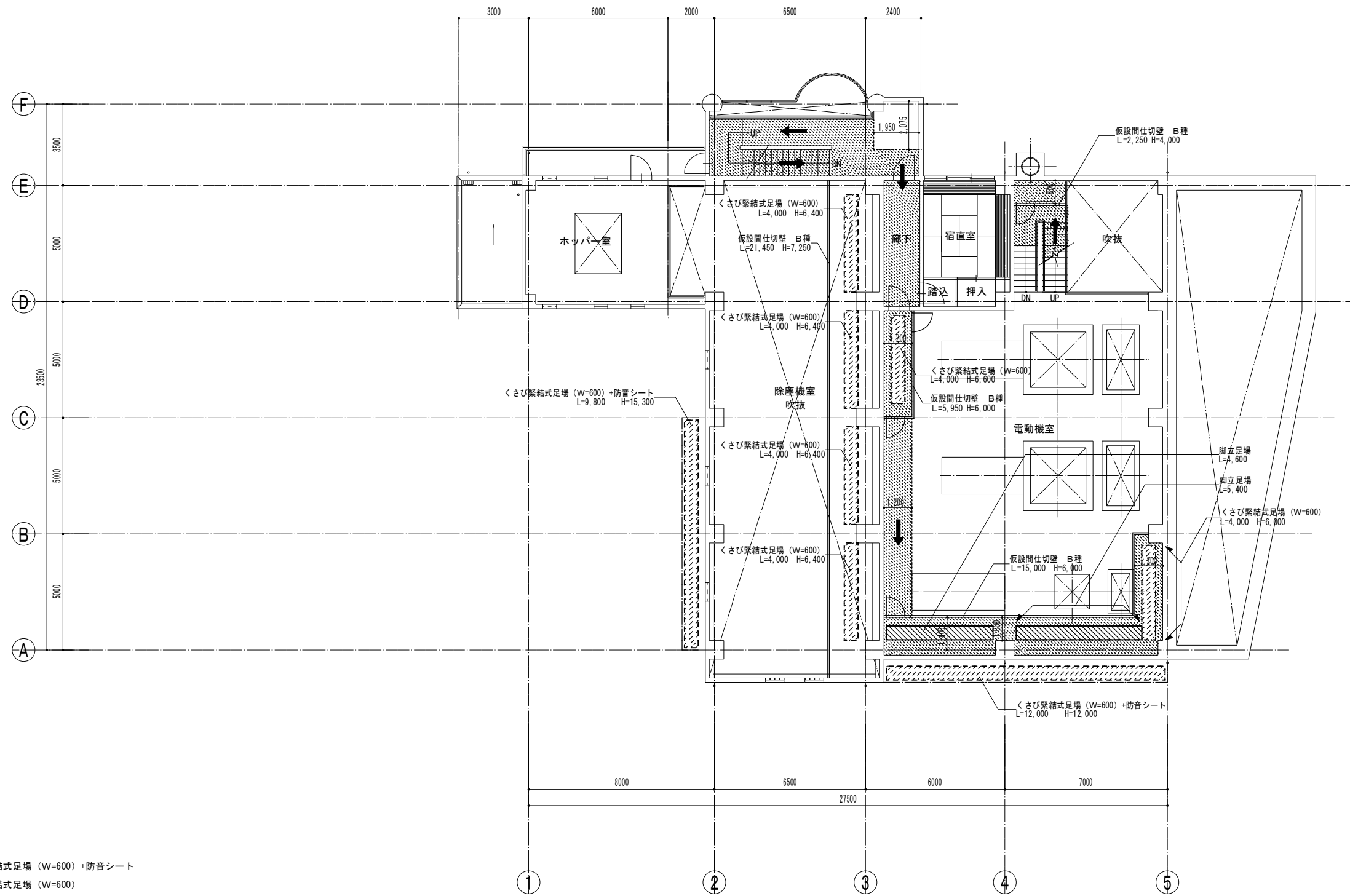
- くさび緊結式足場 (W=600) +防音シート
- くさび緊結式足場 (W=600)
- 脚立足場
- 仮設間仕切壁 B種 (不燃)
(軽量鉄骨壁下地+片面石こうボード)
- 作業ヤード+床養生シート
- 工事用動線

注記
 本図は参考図とし仮設間仕切り、足場等は現場監督員と調整のこと。
 仮設間仕切りは気密性を確保するため、継目、床、天井部にテープを貼ること。
 特記なき限り仮設間仕切内の設備機器等はシートにより養生のこと。
 内部什器類は、工事に支障のある部分は同室内で移動し、元に戻すこと。

1階仮設計画平面図 (参考図) 1:100

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

| | | | |
|------|-----------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 1階仮設計画平面図 (参考図) | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-56 |



- くさび緊結式足場 (W=600) +防音シート
- くさび緊結式足場 (W=600)
- 脚立足場
- 仮設間仕切壁 B種 (不燃)
(軽量鉄骨壁下地+片面石こうボード)
- 作業ヤード+床養生シート
- 工事用動線

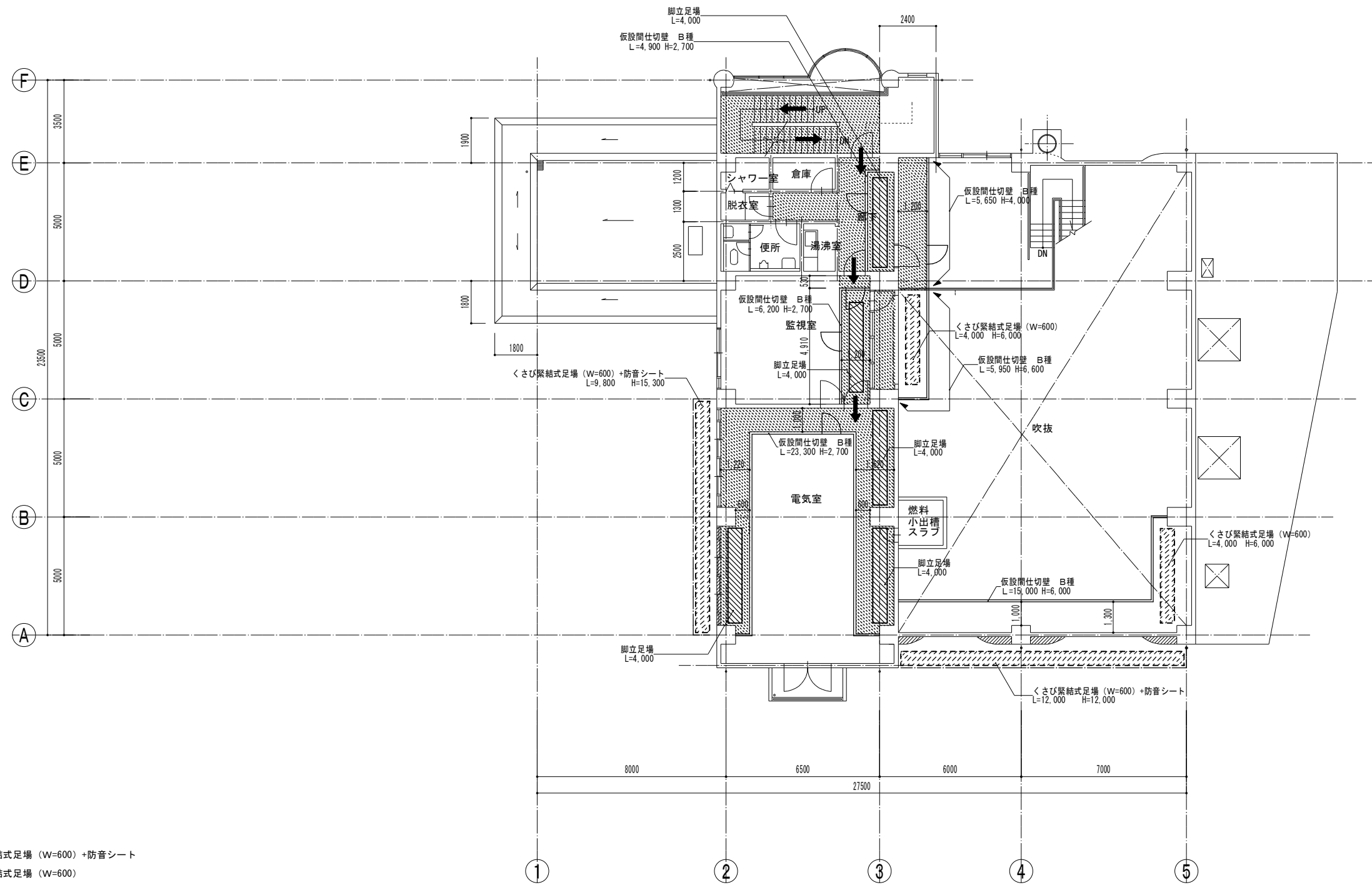
注記

本図は参考図とし仮設間仕切り、足場等は現場監督員と調整のこと。
 仮設間仕切りは気密性を確保するため、継目、床、天井部にテープを貼ること。
 特記なき限り仮設間仕切内の設備機器等はシートにより養生のこと。
 内部什器類は、工事に支障のある部分は同室内で移動し、元に戻すこと。

2階仮設計画平面図 (参考図) 1:100

| | | | |
|------|-----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 2階仮設計画平面図 (参考図) | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-57 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

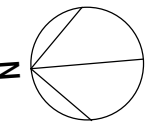


- かさび緊結式足場 (W=600) +防音シート
- かさび緊結式足場 (W=600)
- 脚立足場
- 仮設間仕切壁 B種 (不燃)
(軽量鉄骨壁下地+片面石こうボード)
- 作業ヤード+床養生シート
- 工事用動線

注記

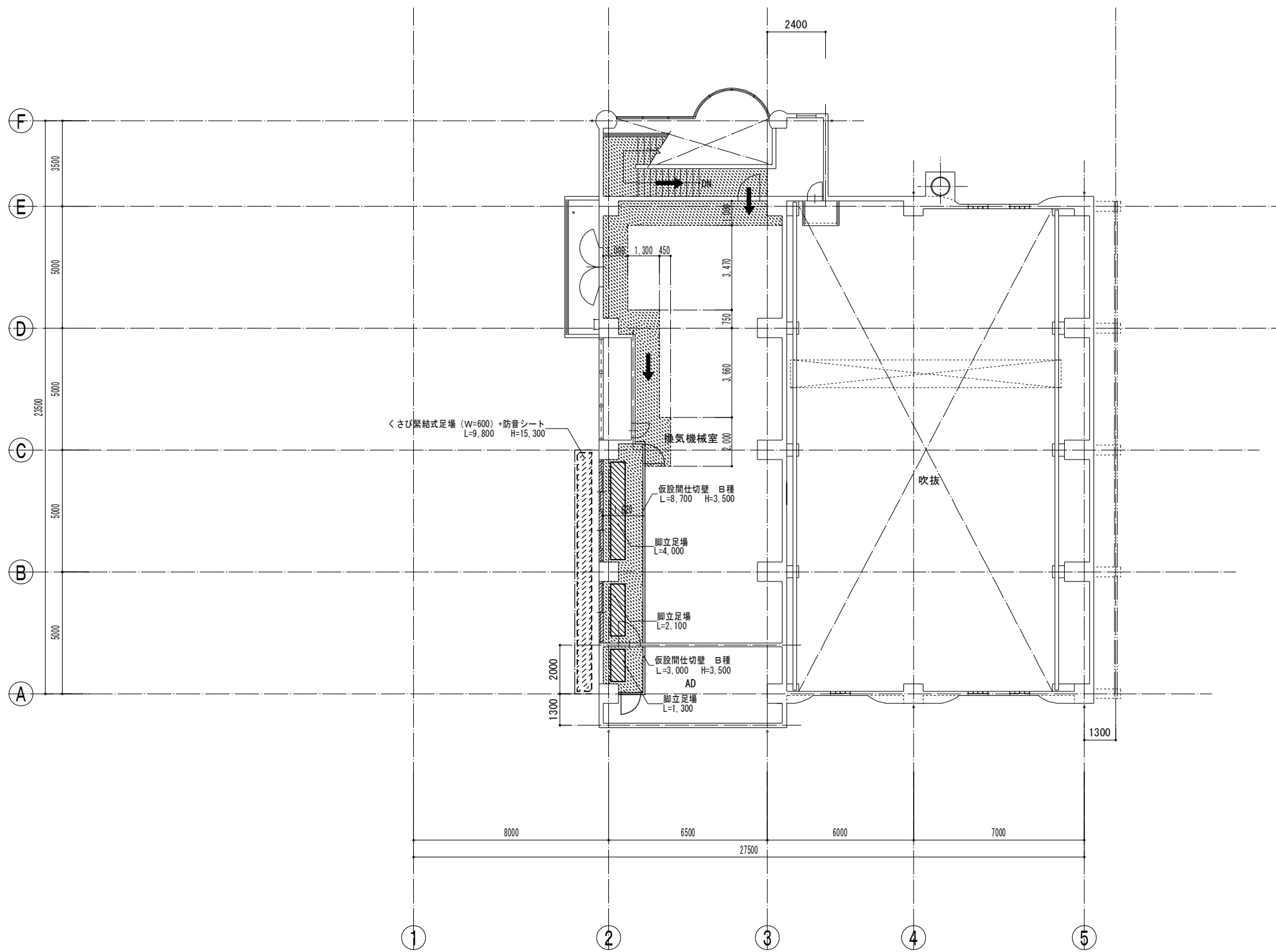
本図は参考図とし仮設間仕切り、足場等は現場監督員と調整のこと。
 仮設間仕切りは気密性を確保するため、継目、床、天井部にテープを貼ること。
 特記なき限り仮設間仕切内の設備機器等はシートにより養生のこと。
 内部什器類は、工事に支障のある部分は同室内で移動し、元に戻すこと。

3階仮設計画平面図 (参考図) 1:100



| | | | |
|------|-----------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 3階仮設計画平面図 (参考図) | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-58 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊



4階仮設計画平面図(参考図) 1:100

- くさび緊結式足場 (W=600) + 防音シート
- くさび緊結式足場 (W=600)
- 脚立足場
- 仮設間仕切壁 B種 (不燃)
(軽量鉄骨壁下地+片面石こうボード)
- 作業ヤード+床養生シート
- 工事用動線

注記
 本図は参考図とし仮設間仕切り、足場等は現場監督員と調整のこと。
 仮設間仕切りは気密性を確保するため、継目、床、天井部にテープを貼ること。
 特記なき限り仮設間仕切内の設備機器等はシートにより養生のこと。
 内部什器類は、工事に支障のある部分は同室内で移動し、元に戻すこと。

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年度 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 4階仮設計画平面図(参考図) | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | D-59 |

構造細目共通図(複合構造物)

＜平成30年版＞

※本図面は(一社)全国上下水道コンサルタント協会が著作権を有するものである。使用にあたっては、上記協会への使用願いの提出と、配布番号の記載が必要である。特外右下の【協会員番号】と【配布番号】の記載が無い図面は無効とする。

1 特記事項

1.1 適用範囲

- (1) 本構造細目共通図は、下水道施設における処理場、ポンプ場の複合構造物に適用する。
- (2) 土木工事と建築工事の区分は図面による。
- (3) 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づきものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

| | | | |
|------|--|---|---|
| 土木工事 | 1) 土木工事特記仕様書 2) 土木工事共通仕様書 3) コンクリート標準示方書・施工編 4) コンクリート標準示方書・設計編 | 全国上下水道コンサルタント協会 国土交通省中部地方整備局 土木学会 土木学会 | (別紙による。) (令和4年版) (2017年版) (2017年版) |
| 建築工事 | 1) 建築工事特記仕様書 2) 建築工事一般仕様書 3) 公共建築工事標準仕様書(建築工事編) | (別紙による。) (平成27年版) 国土交通省大臣官房官庁業務部 | (別紙による。) (令和4年版) |

- (4) 項目は、○印のついたものを適用する。○印のない場合は、※印のあるものを適用する。○印と※印のある場合は、共に適用する。

1.2 鉄筋の仕様

鉄筋の種類及び継手は1.2.1表による。

| 種類 | 種別 | 径 | |
|-------|----------------------------|----------------------------------|--------------------|
| | | 土木 | 建築 |
| 鉄筋の種類 | SD295A | — | ※D16以下 |
| | ※SD345 ・SD390 ・SD490 | ※D13以上 | — |
| | SD345 | — | ※D19以上 |
| 鉄筋の継手 | 重ね継手 | 下記以外 | — |
| | ガス圧接 | ※D19以上の柱、梁主筋 ※D16以上の増設端の床、壁鉄筋 | ※D19以上、D29以下の柱、梁主筋 |
| | 機械式継手 | ・図面による。 | — |

1.3 コンクリートの仕様

コンクリートは1.3.1表による。

| 分類 | コンクリート種別 | 設計基準強度(N/mm ²) | スラブ(㎝) | セメントの種類 |
|----|----------|----------------------------|--------|--|
| 土木 | 鉄筋コンクリート | ※普通コンクリート ・30 | ※12 | ※高炉セメントB ・普通ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント |
| 建築 | 鉄筋コンクリート | 地上 | ※24 | ※18 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB |
| | | 地下基礎、基礎梁 | ※24 | ※15 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB |
| 土木 | 無筋コンクリート | ※普通コンクリート | ※18 | ※高炉セメントB ・普通ポルトランドセメント |
| 建築 | 無筋コンクリート | ※普通コンクリート | ※18 | ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB |

注1: 無筋コンクリートには均しコンクリート、捨てコンクリートを含む。

1.4 砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリート

砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリートの厚さは1.4.1表による。

| 部位 | 種別 | 厚さ(㎜) |
|------|----------|-------|
| 土木工事 | 砂利または砕石 | ※200 |
| | 均しコンクリート | ※100 |
| 建築工事 | 砂利または砕石 | ※60 |
| | 捨てコンクリート | ※50 |

2 共通事項

2.1 記号及び符号

設計図中で使用する記号及び符号は、2.1.1表及び2.1.2表を標準とする。

| 区分 | 径 | D10 | D13 | D16 | D19 | D22 | D25 | D29 | D32 |
|----|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 建築 | ● | × | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 土木 | ○ | × | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

●又は○は建築による。

2.1.2表 一般凡例

| 記号・番号 | 内容 | ※印の説明及び注意事項 |
|---------|-------------|--|
| F※ | フーチング断面種別 | ※番号 |
| ※1C※2 | 柱断面種別 | ※1 階数 ※2 その階の番号 |
| ※1G※2 | 大梁断面種別 | ※1 階数、地中大梁はFとする ※2 その階の番号 X方向1, 2, 3- - - Y方向A, B, C- - - |
| CG※ | 片持大梁断面種別 | ※番号、階別区分はしない |
| ※1B※2 | 小梁断面種別 | ※1 地中小梁のみFとする ※2 階別区分はしない 地中小梁を除く |
| CB※ | 片持小梁断面種別 | ※番号、階別区分はしない |
| ※1W※2 | 壁配筋種別 | ※1 E:耐震壁、K:階段壁 D:土圧、水圧を受ける壁 階別区分はしない ※2 壁厚(㎝) |
| ※1S※2※3 | 床版配筋種別 | ※1 片持床版のみCとする ※2 床版厚(㎝) ※3 配筋種別(英大文字) 階別区分はしない |
| ※1K※2 | 階段の配筋種別 | ※1 A:片持床版形 B:二辺固定床版形 ※2 配筋種別(数字) 階別区分はしない |
| CB※ | コンクリートブロック壁 | ※壁厚(㎝) |
| /// | 打ち増し範囲 | |
| /// | 梁・床版の上がり下がり | 一般には基準FLよりの+、-に 応じた凡例により表示 |
| (※) | 床版積載荷重 | 積載荷重の値(kN/m ²) |
| STP | あばら筋、スターラップ | 梁、基礎梁、小梁 |
| HOOP | 帯筋、帯鉄筋、フープ | 柱 |
| S.HOOP | スパイラル筋、らせん筋 | 柱 |
| 幅止筋 | 幅止め筋 | 柱、梁、壁 |
| 組立筋 | 組立て筋 | 床版、底版 |

(用語の定義)
・床版とは、常時荷重及び地震時荷重を負担する主部材をいう。壁式構造のボックスカルバートやラーメン構造の頂版や底版がある。
・スラブとは、常時荷重のみを負担する梁に支持される副部材をいう。

2.2 一般注意事項

- (1) 設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。

3 土木工事

3.1 鉄筋の折曲げ加工

鉄筋の折曲げ加工は、3.1.1表及び3.1.2表を標準とする。

- (1) Dは、折曲げ内法直径を示す。
- (2) dは、鉄筋直径(呼び名)を示す。

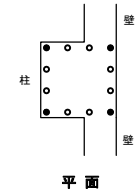
| 位置 | 曲げ角度 | 折曲げ図及び折曲げ後の余長 | 曲げ内法直径 | 使用箇所 |
|-------|-------------|------------------------|--------|--------------------|
| 定着末端部 | 180° | 4d以上かつ60mm以上 | 5d以上 | 定着末端部 |
| | 135° | 6d以上かつ60mm以上 | 5d以上 | スターラップ、帯鉄筋、フープ筋等 |
| | 90° | 12d以上 | 5d以上 | |
| 末端部 | 90° 135° | 4d以上 | 5d以上 | 梁 壁 床版 底版 |
| | 90° | 100mm (真筋) 直交方向に90° | 5d以上 | |
| 中間部 | 90° | 5d以上 | 5d以上 | あばら筋、帯筋 スパイラル筋 |
| | θ<90° | 10d以上 | 10d以上 | 折曲げ鉄筋 |

| 位置 | 曲げ角度 | 折曲げ図 | 曲げ内法直径 | 使用箇所 |
|-----|------|------|--------|---------|
| 最上階 | 90° | | 20d以上 | ラーメン隅角部 |
| 一般階 | 90° | | 5d以上 | |

3.2 異形鉄筋の末端部

異形鉄筋の末端部には、3.2.1表によりフックを設ける。

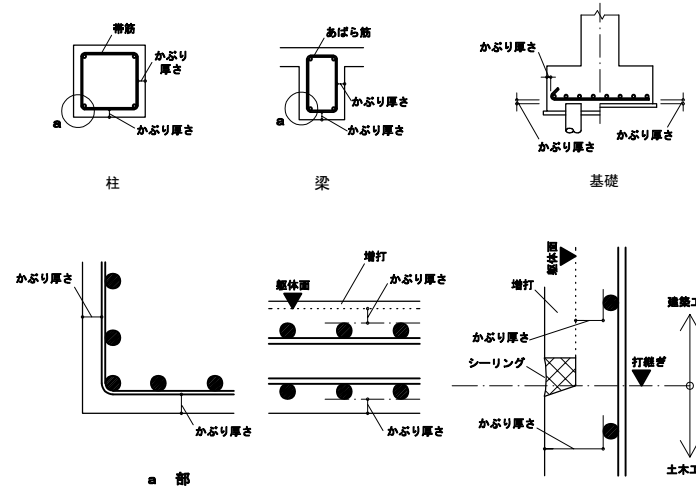
| 部位 | 継手方式 | | 備考 |
|-------|---------------|------|---|
| | 重ね継手 | 圧接継手 | |
| 柱 | 四隅の主筋 | — | 1) 最上階の柱頭 3.2.1 図参照 3.8.1 図参照 |
| | 上下階の柱断面が異なる場合 | — | 1) 下階の柱主筋を引き通す事が出来ない柱頭部 3.2.1 図参照 3.8.2 図参照 |
| | 帯筋(HOOP) | — | 1) 末端部 2) 継手部 3.9.1 図参照 |
| 梁 | あばら筋(STP) | — | 1) 末端部 2) 継手部 1) 末端部 3.12.1 図参照 |
| 杭基礎 | 独立フーチング基礎の底版筋 | — | 1) 末端部 2) 継手部 1) 末端部 3.25.1 図参照 |
| 煙突の鉄筋 | — | — | 1) 末端部 2) 継手部 1) 末端部 壁の一部となる場合を含む |
| 幅止め筋 | — | — | — 3.1.1 表参照 |



3.2.1図 異形鉄筋の末端部

3.3 鉄筋のかぶり及び間隔

- 3.3.1 かぶり厚さ
かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋を除く)の外側から躯体面までの距離(3.3.1図)をいう。鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚に許容誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。



3.3.1図 鉄筋のかぶり厚さ

3.3.2 最小かぶり厚さ

- 最小かぶり厚さは、3.3.1表による。床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、均しコンクリートの厚さを含まない。

3.3.1表 鉄筋の最小かぶり厚さ(㎜)

※ 通常の施工の場合

| 環境 | 部位 | 床版・スラブ・梁 | 柱・壁 | 底版・フーチング |
|--------|----|----------|-----|----------|
| 大気中 | — | 50 | 50 | — |
| 水中・土中等 | — | 50 | 70 | 70 |

・ 塩害対策地域の施工の場合

| 対策区分 | 環境 | 部位 | 床版・スラブ・梁 | 柱・壁 | 底版・フーチング |
|---------|--------|----|----------|-----|----------|
| I | 大気中 | — | 70 | 70 | — |
| | 水中・土中等 | — | 70 | 70 | 70 |
| II, III | 大気中 | — | 50 | 70 | — |
| | 水中・土中等 | — | 50 | 70 | 70 |

- 1: 部位により最小かぶり厚さの判断が困難な場合は、監督職員の指示を得る。
- 2: 杭基礎の底版・フーチング下階筋のかぶり厚さは、7.杭基礎の補強を参照する。

[注] 梁: 大梁、小梁、基礎梁、片持梁をいう。

| | |
|------|-------------------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 |
| 名称 | 構造細目共通図(複合構造物)(1) |
| 縮尺 | - 設計年月 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 S-01 |

3 土木工事

3.4 鉄筋相互のあき

3.4.1 梁・壁・床版

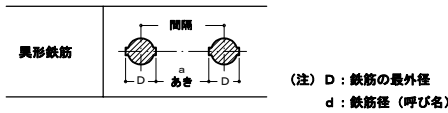
鉄筋相互のあきは、下記(1)、(2)、(3)の最大値以上とする。

- (1) 粗骨材の最大寸法の4/3倍
- (2) 最小のあき25mm
- (3) 隣り合う鉄筋の平均径(呼び名の数値)の1.5倍

3.4.2 柱

鉄筋相互のあきは、下記(1)、(2)、(3)の最大値以上とする。

- (1) 粗骨材の最大寸法の4/3倍
- (2) 最小のあき40mm
- (3) 隣り合う鉄筋の平均径(呼び名の数値)の1.5倍



3.4.1図 鉄筋のあき

3.4.1表 鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧

| 鉄筋径 (mm) | 鉄筋相互のあき: a | | | | | 最小鉄筋間隔 |
|----------|-------------------------|---------------------|-----------|-------|-------|--------|
| | (1) | (2) | (3) | (梁) | (柱) | |
| 鉄筋径 d | 粗骨材径 × 4/3 倍 | 最小あき | 鉄筋径 × 1.5 | a + D | a + D | |
| D13 | 33mm 粗骨材最大径 25mm の場合 | あき: 25mm 柱: 40mm | 20mm | 47mm | 54mm | |
| D16 | | | 24mm | 51mm | 58mm | |
| D19 | | | 29mm | 54mm | 61mm | |
| D22 | | | 33mm | 58mm | 65mm | |
| D25 | | | 38mm | 66mm | 68mm | |
| D29 | | | 44mm | 77mm | 77mm | |

3.5 鉄筋の継手及び定着

3.5.1 継手長さ及び定着長の基本

(1) 鉄筋の重ね継手長さは3.5.1表、定着の長さは3.5.2表による。

- ① 本表の適用は、鉄筋種類SD345、鉄筋径D13~D32とする。
- ② 定着長は折曲げ加工後の直線部分で確保する。
- ③ 壁、床版、底版の主鉄筋の中心間隔が100mm未満の場合は、別途図示による。

3.5.1表 鉄筋の重ね継手長さ

| 鉄筋の種類 | 鉄筋径 | 設計基準強度 | S [∞] d [∞] : 重ね継手長さ | | | |
|-------|---------|--------------------------------------|--|----------------|-------|-------|
| | | | 鉄筋中心間隔200mm以上 | 100mm以上200mm未満 | フックなし | フックあり |
| SD345 | D16以下 | 24以上 27未満 (N/mm ²) | 40・d | 30・d | 50・d | 40・d |
| | D19~D22 | | 45・d | 35・d | 60・d | 50・d |
| | D25~D32 | | 50・d | 40・d | 65・d | 55・d |

3.5.2表 鉄筋の定着長さ

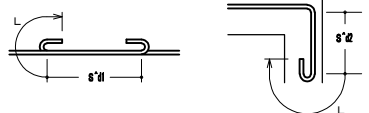
| 鉄筋の種類 | 鉄筋径 | 設計基準強度 | S [∞] d [∞] : 定着長さ | | S [∞] d [∞] : 定着長さ | |
|-------|---------|--------------------------------------|--------------------------------------|-------|--------------------------------------|-------|
| | | | フックなし | フックあり | フックなし | フックあり |
| SD345 | D16以下 | 24以上 27未満 (N/mm ²) | 40・d | 30・d | 35・d | 25・d |
| | D19~D22 | | 50・d | 40・d | 40・d | 30・d |
| | D25~D32 | | 60・d | 50・d | 45・d | 35・d |

(2) S[∞]d[∞], S[∞]d[∞], S[∞]d[∞]の適用区分を以下に記す。

- S[∞]d[∞]: (最上層)大梁上端、基礎梁上端、床版(壁構造)、床版上端(ラーメン構造)、底版。
- S[∞]d[∞]: 柱、壁、(中間層)大梁上端、大梁下端、床版下端(ラーメン構造)、基礎梁下端。
- S[∞]d[∞]: 小梁、スラブ(地震力を受けない部材)。

- (3) 径が異なる鉄筋の継手長さは、細い鉄筋の径による。
- (4) 継手は相互にずらすことを原則とする。

(5) フックのある場合の継手長さ及び定着長には、3.5.1図に示すようにフック部分Lを含まない。

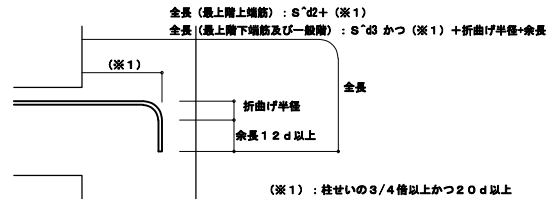


3.5.1図 フックのある場合の継手及び定着要領

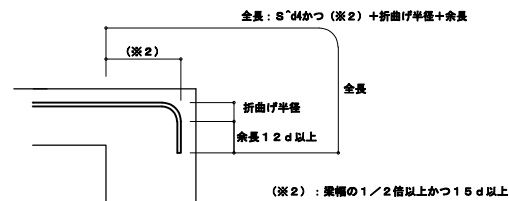
3.5.2 継手の特記事項

- (1) 継手は極力応力の小さい位置に設ける。
- (2) 異なる径の鉄筋をガス圧接する場合、鉄筋径の差が5mmを超える圧接をしてはならない。

3.5.3 梁主筋の柱内定着



3.5.2図 梁主筋の柱内定着要領

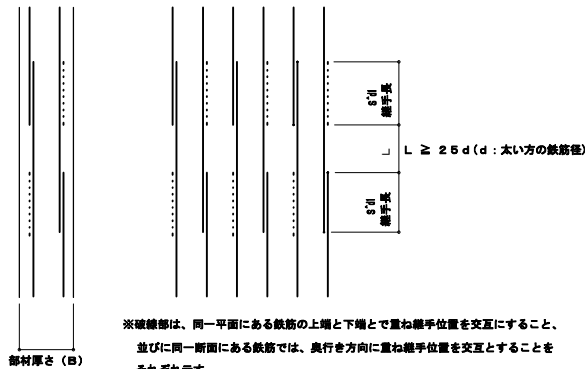


3.5.3図 小梁及びスラブ上端筋の梁内折曲げ定着要領

3.6 隣り合う継手の位置

3.6.1 鉄筋の重ね継手

- (1) 同一断面での継手は軸方向に相互にずらす。
- (2) ずらす距離(L)は、太いほうの鉄筋径の2.5倍以上とする。
- (3) 前記(2)を確保できない場合等は、監督職員の承諾を得て、ガス圧接継手又は機械式継手工法を採用することができる。
- (4) 継手部の鉄筋のあきは、粗骨材の最大寸法以上とする。

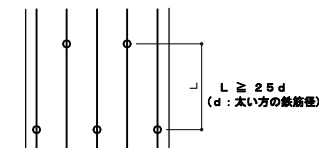


3.6.1図 重ね継手工法

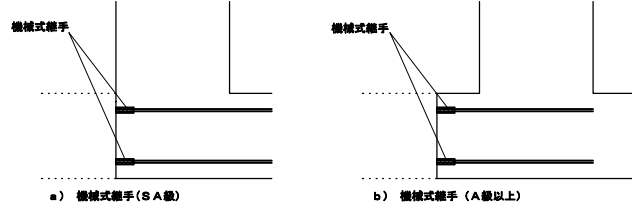
3.6.2 鉄筋のガス圧接および機械式継手

鉄筋のガス圧接継手及び機械式継手は「鉄筋定着・継手指針[2007年版]」(土木学会)による。機械式継手は、ねじふし鉄筋継手工法とする。また、ねじふし鉄筋工法以外の機械式継手を採用する場合は、監督職員の承諾を得ること。

- (1) 同一断面での継手は軸方向に相互にずらす。
- (2) ガス圧接の場合のずらす距離(L)は、太いほうの鉄筋径の2.5倍以上とする。
- (3) 機械式継手の場合のずらす距離(L)は、太いほうの鉄筋径の2.5倍以上とする。
- (4) 機械式継手をイモ継ぎ部を使用する場合は、継手性能はSA級かつ継手信頼度をI種とする。なお、3.6.3図 b)に示すように、隅角部から継手位置まで必要な離間を確保した場合はA級を選定することができる。詳細は「鉄筋定着・継手指針[2007年版]」(土木学会)による。



3.6.2図 ガス圧接継手工法及び機械式継手工法

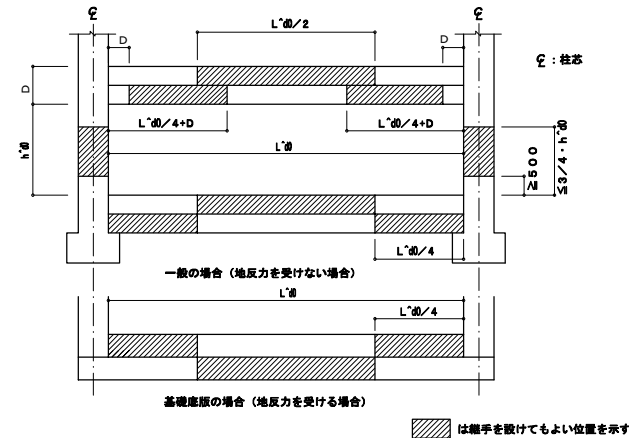


3.6.3図 機械式継手におけるイモ継ぎ位置

3.7 継手及び圧接中心位置(柱、大梁)

継手及び圧接中心位置は図面にない場合は、3.7.1図による。

- (1) 柱の継手及び圧接中心位置は、梁上端から50cm以上、150cm以下かつ3/4h[∞]d[∞](h[∞]d[∞]は柱の内法高さ)以下とする。
- (2) 梁の継手及び圧接中心位置は下記による。
上端筋 中央: L[∞]d[∞]/2以内
下端筋 両端: 柱面より梁せい(D)以上離し、L[∞]d[∞]/4を加えた範囲以内
- (3) 通常の応力と異なる場合の継手位置は、3.7.1図によらず図面による。

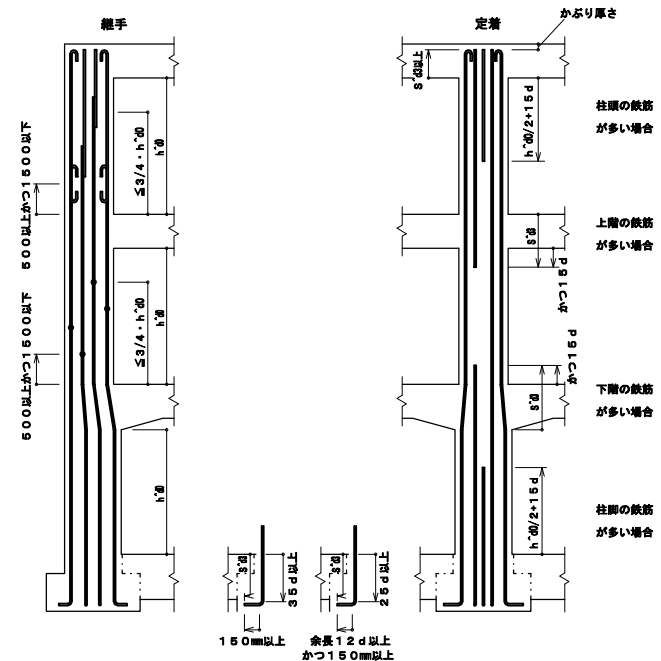


3.7.1図 継手及び圧接中心位置

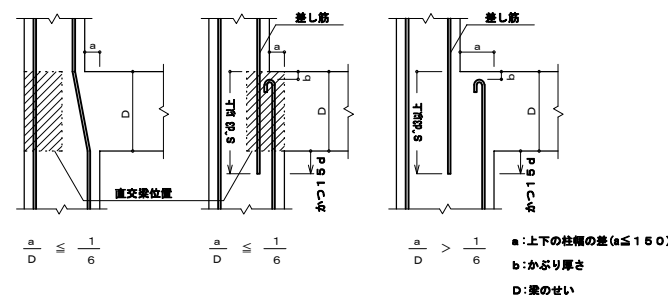
3.8 柱筋の継手及び定着

3.8.1 一般事項

- (1) 継手長さはS[∞]d[∞]とし、定着及び余長は、3.8.1図による。
- (2) 柱頭定着長さS[∞]d[∞]が確保出来ない場合は、図面による。
- (3) 上下の柱断面が異なる場合の柱主筋の折曲げ及び定着は、3.8.2図による。
- (4) 柱頭定着長さ25d(余長12d以上)または35dが確保出来ない場合は、図面による。



3.8.1図 柱主筋の継手、定着及び余長

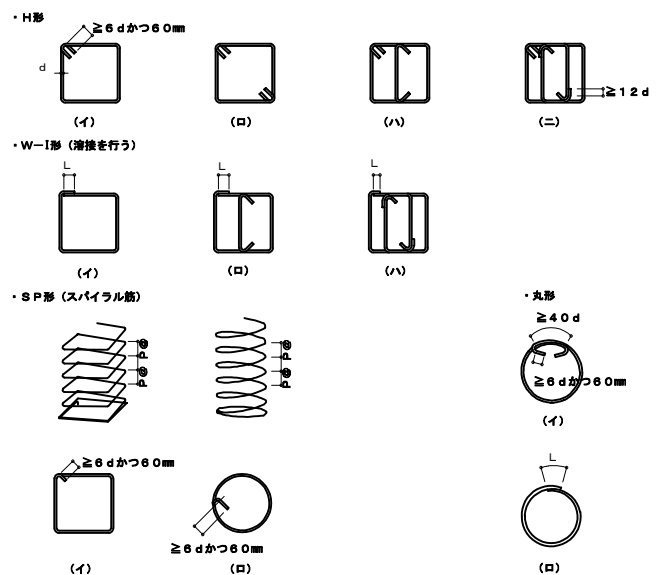


3.8.2図 上下の柱断面が異なる柱主筋の折曲げ及び定着

3.9 帯筋の形状

(1) 帯筋の形状は、3.9.1図とし、種別は図面による。図面になければ下記による。

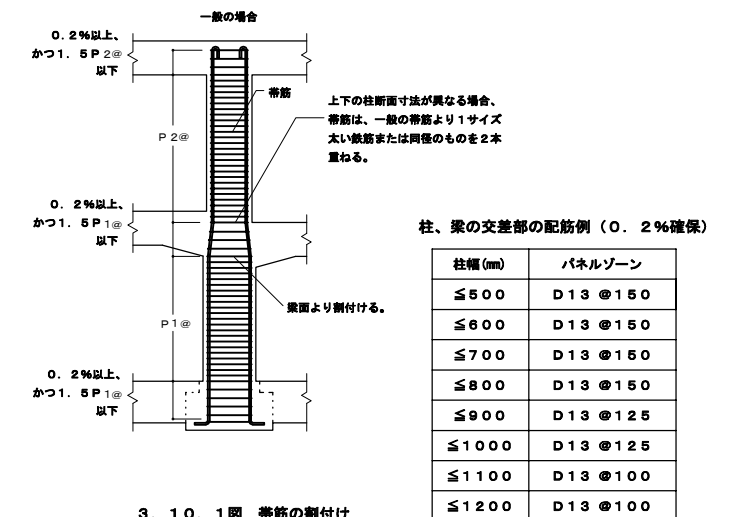
- (a) H形とする。
- (b) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
- (c) 溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とし、組立前に行う。
- (d) S P形において、柱頭及び柱脚の端部は、1.5巻以上の添巻きを行う。



3.9.1図 帯筋組立の形

3.10 帯筋の割付け

- (1) フック及び継手の位置は交互とする。
- (2) 帯筋の割付けは、3.10.1図による。ただし、図面にある場合は図面による。
- (3) 柱、梁の交差部(パネルゾーン)の帯筋のせん断補強比は、0.2%以上を確保し、補強筋間隔は1.5P以下とする。



3.10.1図 帯筋の割付け

*1.5P[∞]d[∞]、1.5P[∞]d[∞]のピッチは150mm以下とする。

| 柱幅(mm) | パネルゾーン |
|--------|-----------|
| ≤500 | D13 @ 150 |
| ≤600 | D13 @ 150 |
| ≤700 | D13 @ 150 |
| ≤800 | D13 @ 150 |
| ≤900 | D13 @ 125 |
| ≤1000 | D13 @ 125 |
| ≤1100 | D13 @ 100 |
| ≤1200 | D13 @ 100 |

| | |
|------|-------------------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 |
| 名称 | 構造細目共通図(複合構造物)(2) |
| 縮尺 | - 設計年月 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 S-02 |

3 土木工事

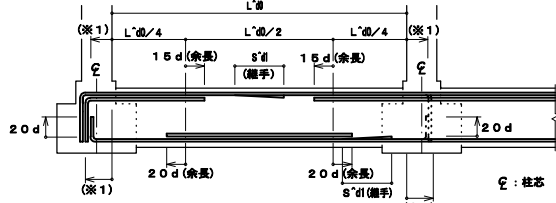
3.13 基礎梁及び底版の継手及び定着

3.13.1 一般事項

- (1) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は柱内に定着する。やむを得ず梁内に定着する場合は、3.11.1図に準ずる。
- (2) 梁筋を柱内に定着する場合は、3.11.1(3)による。
- (3) 柱幅<梁幅の場合の定着は、3.13.3図による。
- (4) 印は、継ぎ手及び余長を示す。
- (5) 破線は柱内定着の場合を示す。
- (6) 図内(※1)は、3.11.1による。

3.13.2 基礎梁の場合

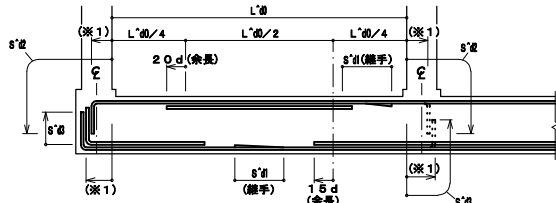
(1) 基礎梁の継手及び定着



3.13.1 図 主筋の継手、定着及び余長(その1)

3.13.3 連続基礎及びべた基礎の場合

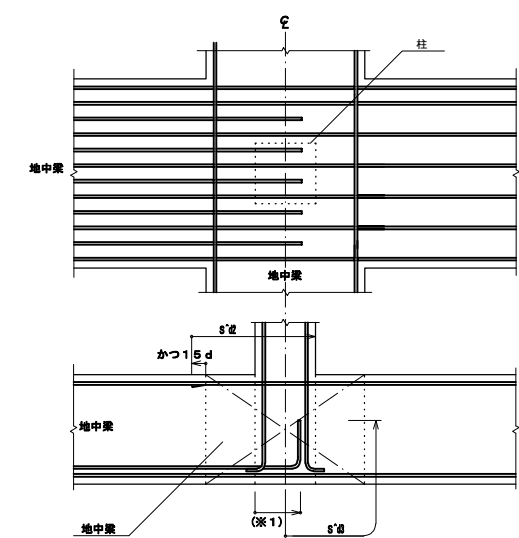
(1) 柱幅<梁幅の場合



3.13.2 図 主筋の継手、定着及び余長(その2)

(2) 柱幅<梁幅の場合

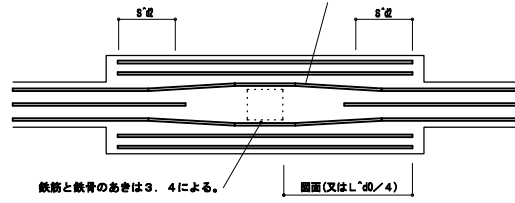
(a) 交差部のスターラップを設ける場合は、図面による。



3.13.3 図 主筋の継手、定着及び余長(その3)

3.13.4 梁形を設けない場合の基礎底版

(1) 鉄骨造のBOX柱等が埋め込まれる場合の端部と中央部の断面の異なる場合 配筋を曲げ差し筋とする。



3.13.4 図 主筋の継手、定着及び余長(その4)

3.14 小梁及び片持梁の配筋要領

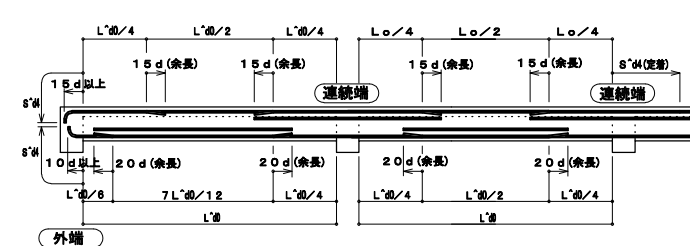
3.14.1 一般事項

- (1) 図面にない事項は大梁、梁のあばら筋、及び基礎梁の項に準ずる。
- (2) 印は、余長位置を示す。

3.14.2 小梁

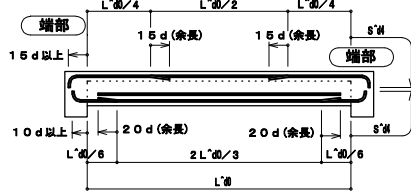
梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長が取れない場合、斜めにしてもよい。

(1) 連続小梁の場合



3.14.1 図 小梁主筋の継手、定着及び余長(その1)

(2) 単独小梁の場合

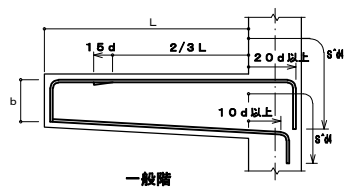


3.14.2 図 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)

3.14.3 片持梁筋の定着

(1) 先端に小梁がない場合

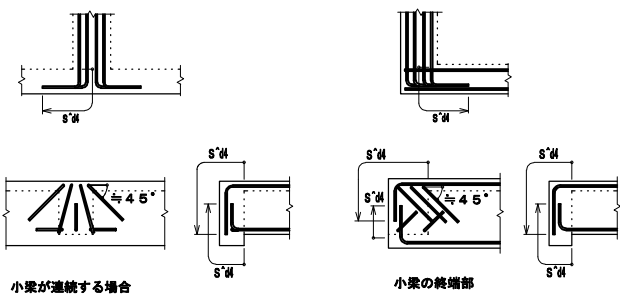
- a. 先端の折曲げの長さbは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。
- b. 梁筋を引き通さない場合は、取り合い部材に定着する。ただし、柱に取り合う場合は、全数を引き通すことができる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。



3.14.3 図 片持梁主筋の定着及び余長(先端に小梁がない場合)

(2) 先端に小梁がある場合

- a. 上端筋は、先端小梁内に斜めに定着する。
- b. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
- c. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

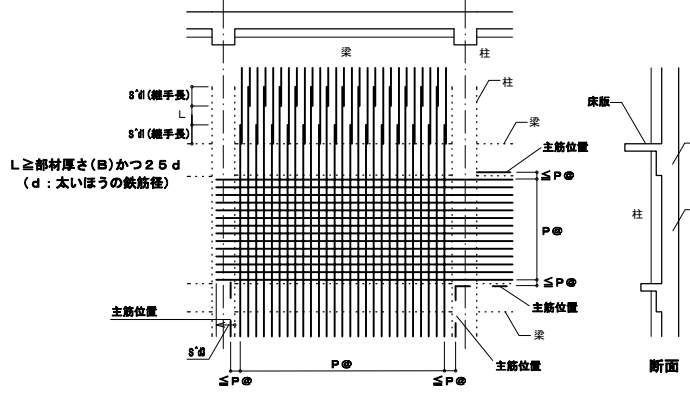


3.14.4 図 片持梁主筋の定着

3.15 壁の配筋要領

3.15.1 一般事項

- (1) 壁配筋の継手長さを s^*d_1 、定着の長さは、 s^*d_2 とする。
- (2) 土圧及び水圧などを受ける壁及び耐震壁として、図面に示されたものは、継手長さを s^*d_1 、定着長さを s^*d_2 とする。
- (3) 幅止め筋は、縦、横ともD13-@1000mmを標準とする。
- (4) 一般部壁筋は、3.15.1図によることとし、隣接する壁の鉄筋と重ね継手を設ける場合は、3.6項に従うものとする。



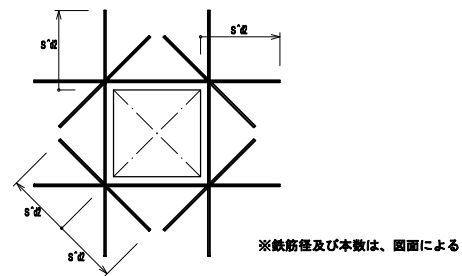
3.15.1 図 壁の配筋

3.15.2 耐震壁の開口

- (1) 耐震壁等の開口は、図面以外は設けてはならない。
- (2) やむを得ず開口をあける場合は、構造上安全であることを構造計算によって確認すること。

3.15.3 壁開口部の補強

(1) 壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、3.15.2図を標準とする。



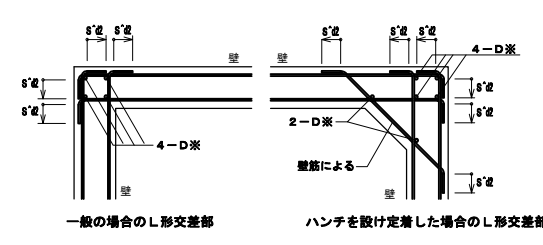
3.15.2 図 壁開口部の補強要領

(2) 開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。

3.15.4 壁の交差部及び端部

(1) 壁と壁の交差部は、3.15.3図による。

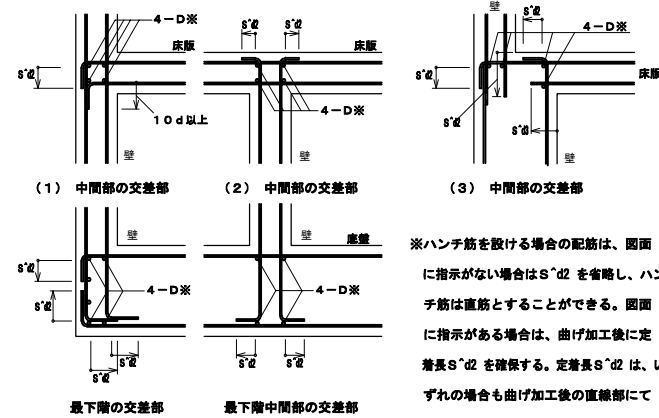
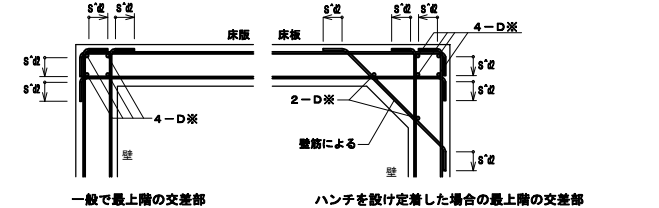
a. 交差部補強筋径D※はD16以上、かつ壁配力筋と同径とする。



3.15.3 図 壁と壁の交差部及び端部の配筋

(2) 壁と床版の交差部は3.15.4図による。

a. 交差部補強筋径D※はD16以上、かつ壁配力筋と同径とする。



3.15.4 図 壁と床の交差部及び端部の配筋

※3.15.4図は、柱梁構造の場合である。地下階が壁式構造の場合は、構造細目共通図(土木構造物)(2)の「6.1.4 壁と床版・底版の交差部」を参照のこと。

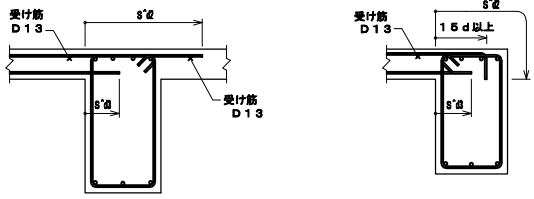
| | |
|------|-------------------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 |
| 名称 | 構造細目共通図(複合構造物)(4) |
| 縮尺 | - 設計年月 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 S-04 |

3 土木工事

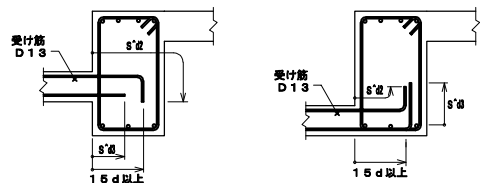
3.18 床の配筋要領

3.18.1 一般事項

- 鉄筋の継手長さは、 $S^{\cdot}d1$ とする。
- ラーメン構造の床版の定着長さ及び受け筋は、3.18.1図による。ただし、引き通すことができない場合は、3.18.2図、3.18.3図により梁内に定着する。なお、スラブ筋の場合は、3.18.1図～3.18.3図の定着長さ $S^{\cdot}d2$ 、 $S^{\cdot}d3$ を、 $S^{\cdot}d4$ と読み替える。
- 基礎梁と床版を一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合の補強は図面による。図面になければ3.20.5図による。



3.18.1 図 床版筋の定着長さ及び受け筋 (その1)

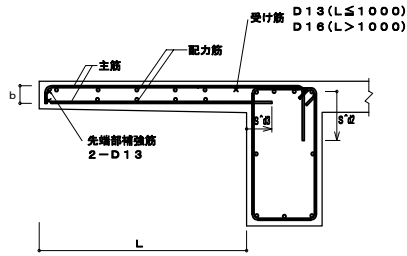


一般床版

3.18.3 図 床版筋の定着長さ及び受け筋 (その3)

3.18.2 片持床版

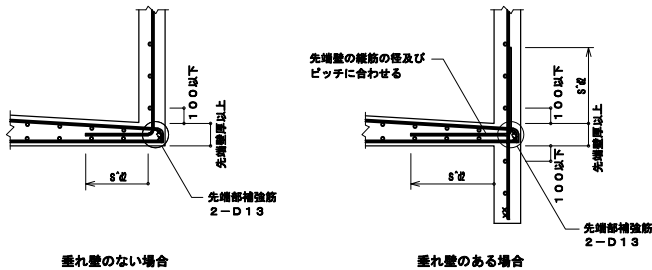
(1) 片持床版の配筋



- ※片持スラブの場合は、3.18.4図及び3.18.5図の定着長さ $S^{\cdot}d2$ 、 $S^{\cdot}d3$ を、 $S^{\cdot}d4$ と読み替える。
- ※先端の折り曲げ長さ b は、片持部材の厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
- ※床版に段差のない場合は、主筋を引き通して床版またはスラブに定着してもよい。

3.18.4 図 片持床版の配筋

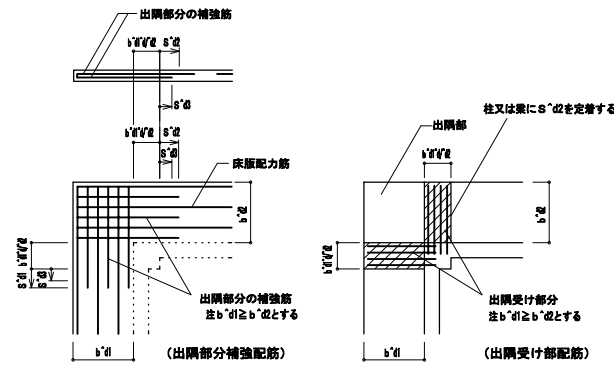
(2) 先端に小梁がなく壁に取り付く場合



3.18.5 図 先端に壁が付く場合の配筋

3.18.3 出隅部の配筋方法

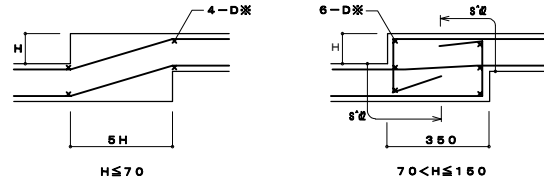
- 補強の配筋は図面による。配筋方法は、3.18.6図による。特記にない場合は、 $D13@100$ ダブル程度とする。
- 出隅受け部分(図のハッチ部分)の配筋は、図面(幅は $b^{\cdot}d1/2$ とする)による。
- 片持スラブの場合は、3.18.6図の定着長さ $S^{\cdot}d2$ 、 $S^{\cdot}d3$ を、 $S^{\cdot}d4$ と読み替える。



3.18.6 図 片持床版出隅部の補強配筋

3.18.4 段差床版の補強

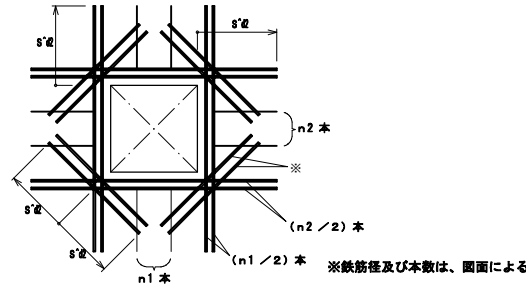
- 同一床版に段差がある場合、3.18.7図の補強を行う。ただし、 $H > 150$ の場合は、小梁を設ける事を原則とする。
- 段差スラブの場合は、3.18.7図の定着長さ $S^{\cdot}d2$ 、 $S^{\cdot}d3$ を、 $S^{\cdot}d4$ と読み替える。



3.18.7 図 段差のある床版の補強配筋

3.18.5 床版及びスラブ開口部の補強

- 開口の最大径 ≤ 700 の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には、斜め方向に主筋径以上の鉄筋2本を上下筋の内側に配筋する(3.18.8図)。開口の最大径 > 700 の場合は図面による。

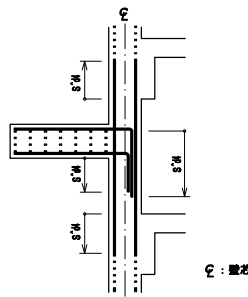


3.18.8 図 床版及びスラブ開口部の補強配筋

- 開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋を出来る場合は、補強筋を省略することができる。

3.19 階段の配筋要領

- 壁配筋は、図面による。
- 階段主筋は、壁の中心線を越えてから緩に曲げ降ろす。

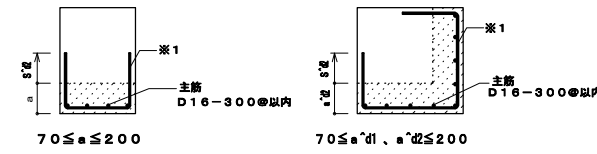


3.19.1 図 片持スラブ形階段配筋の定着

3.20 柱及び梁の増し打ち要領

3.20.1 柱

- 増し打ちコンクリートの補強は、3.20.1図による。ただし、 $a < 70$ の場合は補強は行わない。

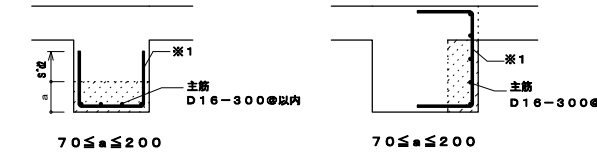


- ※1. 帯筋と同径・同ピッチとする。
- 3.20.1 図 柱の増し打ち補強配筋

- 増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合を除く。
- 増し打ち部分の帯筋の定着長さは、 $S^{\cdot}d2$ 以上とする。
- 増し打ち部分主筋の定着、重ね長さは、柱の主筋による。

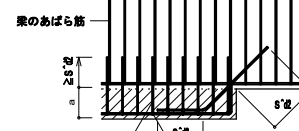
3.20.2 梁

- 増し打ちコンクリートの補強は、3.20.2図による。ただし、 $a < 70$ の場合、補強は行わない。



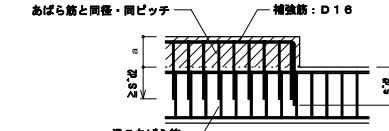
- ※1. あばら筋と同径・同ピッチとする。
- 3.20.2 図 梁の増し打ち補強配筋

- 増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合を除く。
- 増し打ち部分のあばら筋の定着長さは、 $S^{\cdot}d2$ 以上とする。
- 増し打ち部分の主筋の定着、重ね長さは、梁の主筋による。
- 梁の上下の増し打ちが途中で終わる場合。



3.20.3 図 梁の上下の増し打ち補強配筋 (途中で終わる場合)

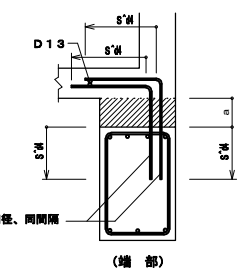
(6) 梁の側面の増し打ちが途中で終わる場合。



3.20.4 図 梁の側面の増し打ち補強配筋 (途中で終わる場合)

3.20.3 土間スラブの打継ぎ補強

- 基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合。

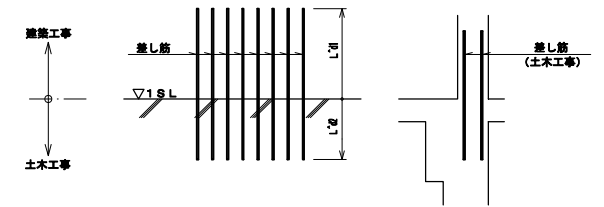


3.20.5 図 土間スラブの打継ぎ補強配筋 (ダブル)

3.21 土木部分と建築部分の取り合い

3.21.1 壁筋の取り合い

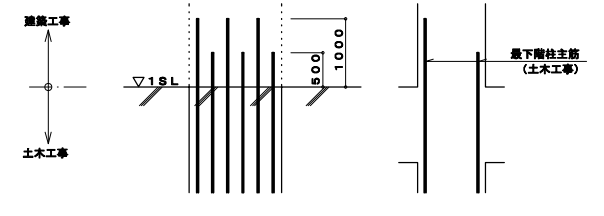
- 差し筋の仕様は建築工事仕様とする。(径は図面による)
- $L^{\cdot}d1$ 及び $L^{\cdot}d2$ は 4.5.1表による。



3.21.1 図 壁筋の取り合い差し筋

3.21.2 柱主筋の取り合い

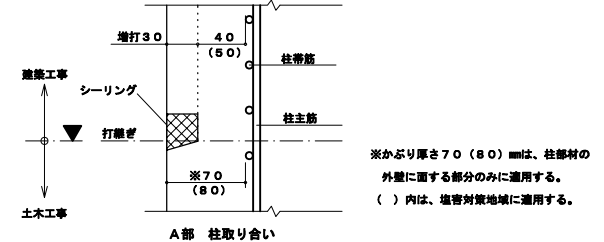
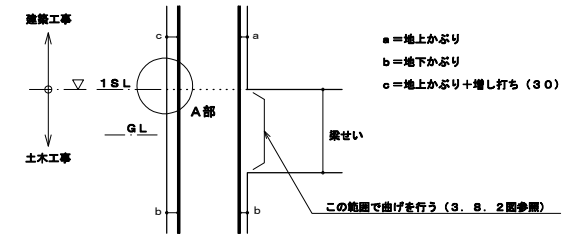
- 最上部の柱主筋は、1階建築部分の柱断面に応じ、3.21.2図の圧接位置まで延ばすこと。



3.21.2 図 柱主筋の取り合い差し筋

3.21.3 柱主筋かぶり厚の取り合い

- 土木工事の外壁に面する柱主筋のかぶりは、3.3.1表によらず、3.21.3図による。



3.21.3 図 柱主筋かぶり厚の取り合い

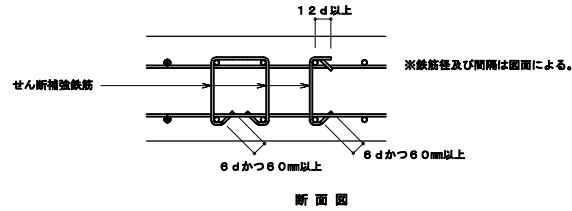
| | | | |
|------|-------------------|--------|-------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 構造細目共通図(複合構造物)(5) | | |
| 縮尺 | - | 設計年月 | 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 | (株)NJS | |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | S-05 |

3 土木工事

3.2.3 せん断補強鉄筋

3.2.3.1 底版、床版

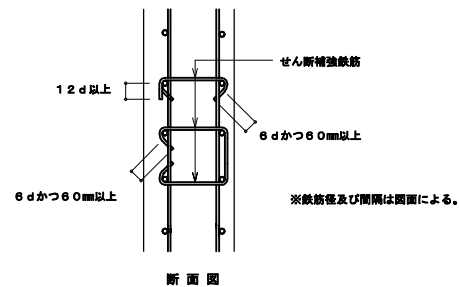
(1) 底版、床版のせん断補強要領は3.2.3.1図及び3.2.3.3図による。



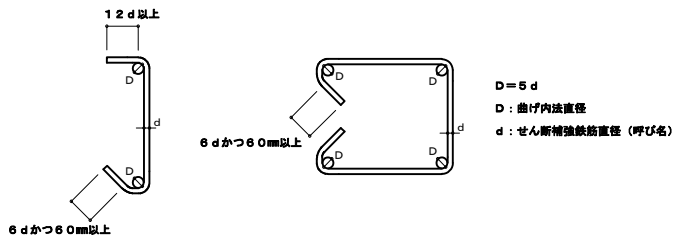
3.2.3.1図 底版、床版のせん断補強要領図

3.2.3.2 壁

(1) 壁のせん断補強要領は3.2.3.2図及び3.2.3.3図による。



3.2.3.2図 壁のせん断補強要領図

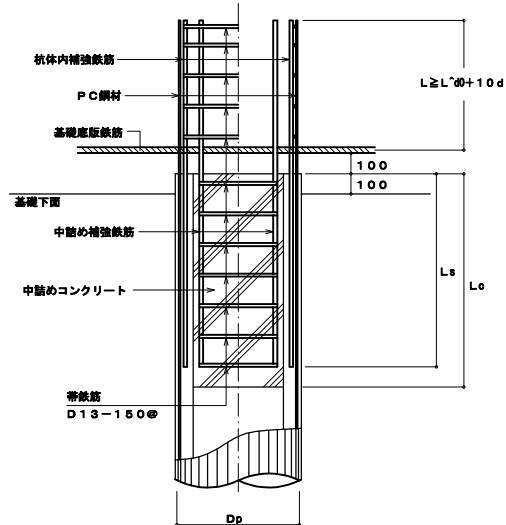


3.2.3.3図 せん断補強加工要領図

3.2.4 杭基礎の補強

3.2.4.1 一般事項

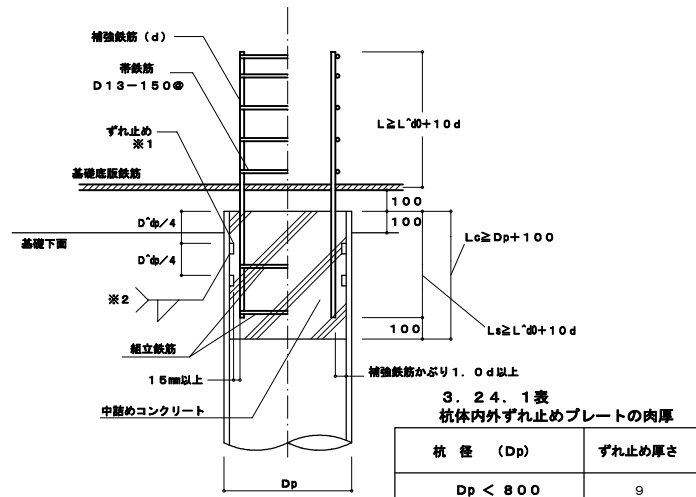
- 補強鉄筋にSD390またはSD490を用いる場合、中詰めコンクリート及び補強鉄筋が定着する基礎底版コンクリートの設計基準強度を30N/mm²以上とする。
- 鉄筋種別、径・本数は、図面による。
- 杭基礎の補強鉄筋の定着長L⁰dは、主筋の材質がSD345およびSD390では35d以上、SD490では41d以上とする。
- 杭頭補強鉄筋が底版厚より長くなる場合は、3.2.4.6図による。
- 杭体内補強鉄筋は必要に応じ配置する。



| 杭頭処理形態 | Type B | |
|------------|--------|--|
| カットオフする場合 | 鉄筋 | $L_s \geq 50\phi + L^0d + 10d$ |
| | コンクリート | $L_c \geq 2.5Dp + 100$, かつ $50\phi + L^0d + 10d +$ (かぶり100) |
| カットオフしない場合 | 鉄筋 | $L_s \geq L^0d + 10d$ |
| | コンクリート | $L_c \geq 2.5Dp + 100$, かつ $L^0d + 10d +$ (かぶり100) |

注1. ϕ は、PC鋼材径とする。

3.2.4.1図 PHC杭の杭頭補強



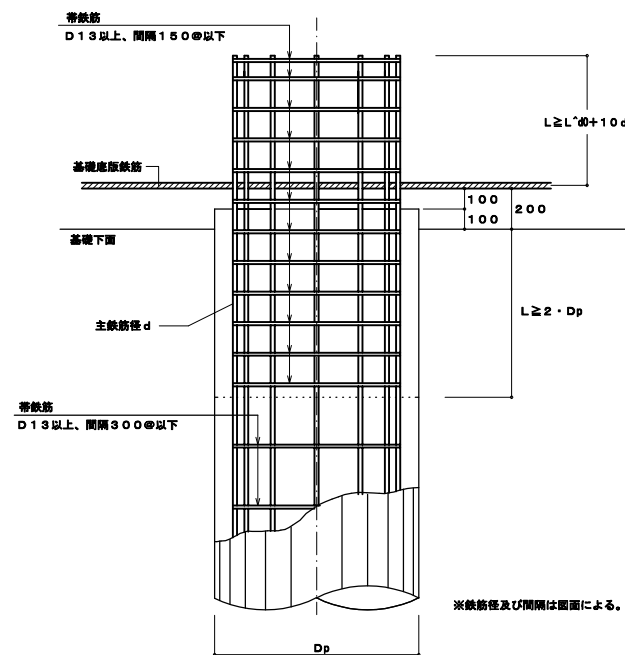
※1: ずれ止めの大きさは、3.2.4.1表による。
※2: 全周埋め込み内挿接

3.2.4.1表
杭体内外ずれ止めプレートの肉厚

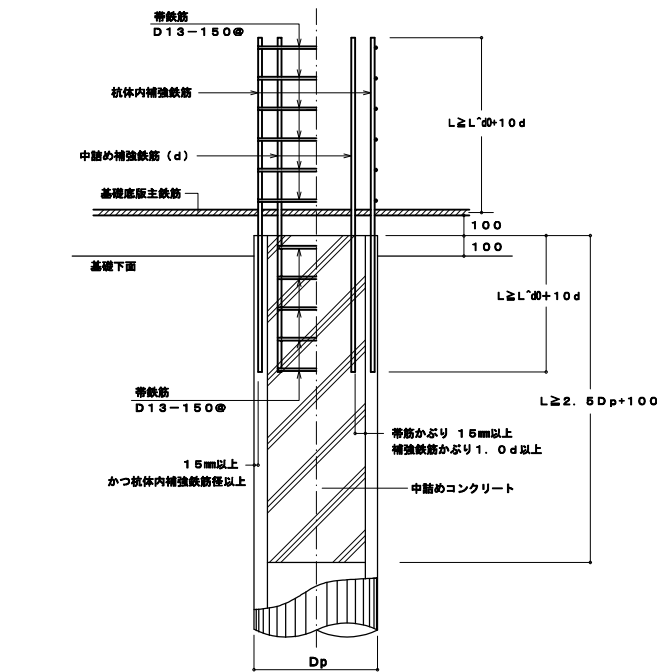
| 杭径 (Dp) | ずれ止め厚さ |
|-----------------------|--------|
| $Dp < 800$ | 9 |
| $800 \leq Dp < 1200$ | 12 |
| $1200 \leq Dp < 1500$ | 16 |

※材質はSS400

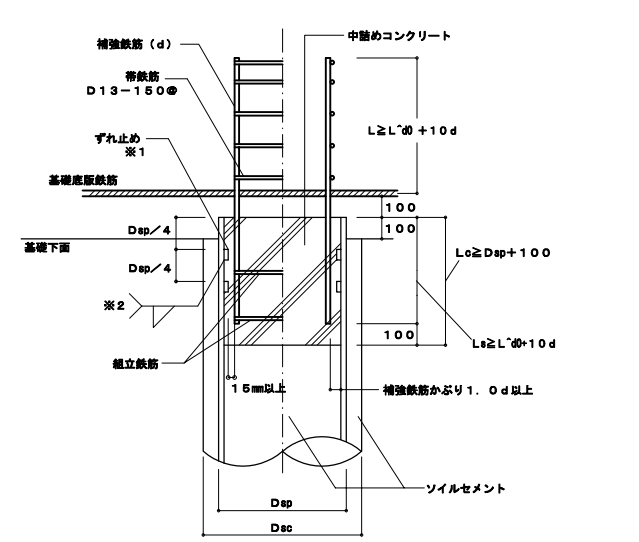
3.2.4.2図 鋼管杭の杭頭補強



3.2.4.3図 場所打ち杭の杭頭補強

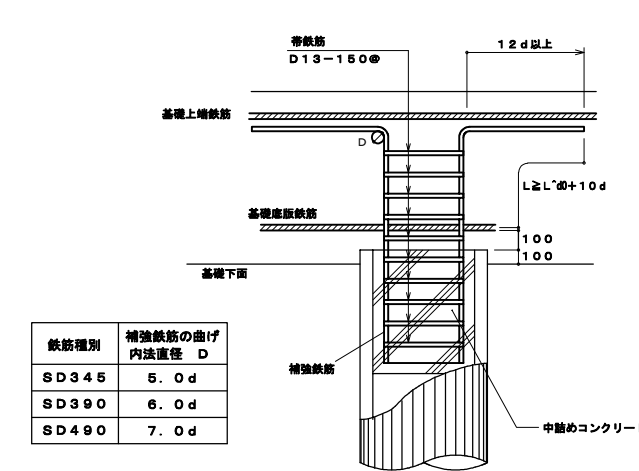


3.2.4.4図 SC杭の杭頭補強



※1: ずれ止めの大きさは、3.2.4.1表による。
※2: 全周埋め込み内挿接

3.2.4.5図 鋼管ソイルセメント杭の杭頭補強

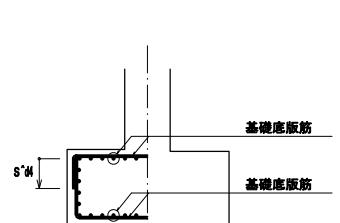


3.2.4.6図 杭頭補強鉄筋が底版厚より長くなる場合の杭頭補強

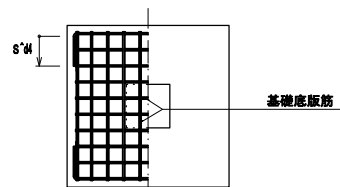
3.2.5 独立基礎の補強

3.2.5.1 フーチングの補強

(1) 補強方法は図面による。



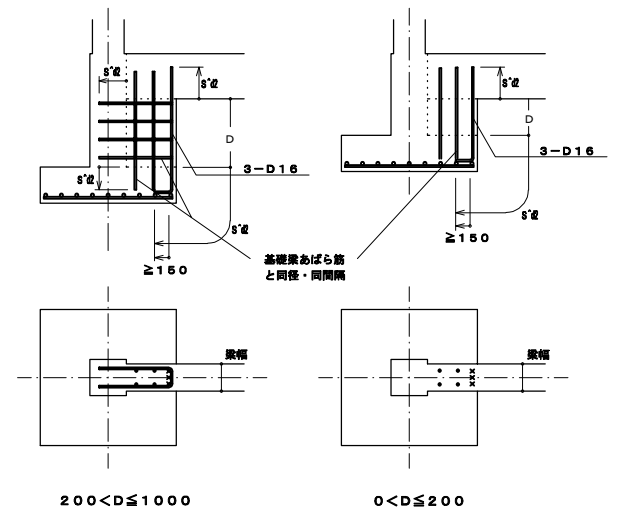
※d: 鉄筋直径(呼び名)



3.2.5.1図 独立基礎の補強配筋

(2) 基礎底版筋の配筋は、図面による。

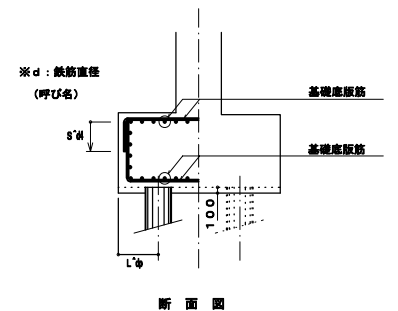
3.2.5.2 基礎接合部の補強



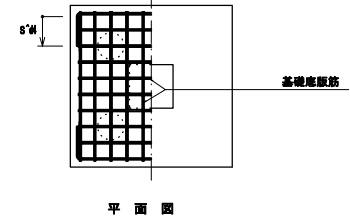
3.2.5.2図 基礎接合部の補強配筋

3.2.5.3 杭基礎の場合のフーチング配筋方法

- 杭基礎の場合のフーチング配筋方法は、3.2.5.3図とする。
- 杭頭処理の方法は、3.2.4項に基づくものとする。
- 杭芯とフーチング外端面との距離(L⁰d)は、場所打ち杭、打込み杭、埋め込み杭は1.0D(Dは杭径)以上とする。



断面図



平面図

3.2.5.3図 杭基礎の場合のフーチング配筋方法

| | | | |
|------|-------------------|--------|-------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | 構造細目共通図(複合構造物)(6) | | |
| 縮尺 | - | 設計年月 | 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 | (株)NJS | |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | S-06 |

3 土木工事

3.2.6 耐震補強

3.2.6.1 適用範囲

- 本構造細目共通図は、下水道施設における処理場、ポンプ場の土木構造物の耐震補強に適用する。
- 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づきものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

| | | |
|--------------------------------------|-----------------|----------|
| 1) 土木工事特記仕様書 | 全国上下水道コンサルタント協会 | (別紙による。) |
| 2) 土木工事共通仕様書 | 国土交通省中部地方整備局 | (令和4年版) |
| 3) コンクリート標準示方書・施工編 | 土木学会 | (2012年版) |
| 4) コンクリート標準示方書・構造性能調査編 | 土木学会 | (2002年版) |
| 5) 官庁施設の総合耐震診断・改修基準及び同解説 | 建築安全センター | (平成8年版) |
| 6) 鉄筋定着・継手指針 | 土木学会 | (2007年版) |
| 7) 2001年 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針・同解説 | 日本建築防災協会 | (2001年版) |
| 8) あと施工アンカー連続補強設計・施工指針 | 国土交通省 | (2006年版) |

3.2.6.2 鉄筋の仕様及び継手

鉄筋の種類及び継手は3.2.6.1表による。

3.2.6.1表 鉄筋の種類及び継手

| 種類 | 種別 | 径 |
|-------|---------|-----------------------------------|
| 鉄筋の種類 | ※SD345 | ※D13以上 |
| 鉄筋の継手 | 重ね継手 | 下記以外 |
| | ※1)ガス圧接 | ・D19以上の柱、梁主鉄筋 ・D16以上の増設端の床・壁鉄筋 |
| | フレア溶接 | ・D13以上 |
| | 機械式継手 | ・図面による |

※1) 既存の鉄筋種別がSR235、295及びSD295Aの場合は、SD材との継手にガス圧接を使用してはならない。

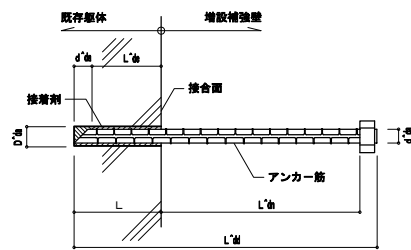
3.2.6.3 鉄筋の継手長さ及び定着長

SD345以外の鉄筋との継手長さ・定着長については図面による。

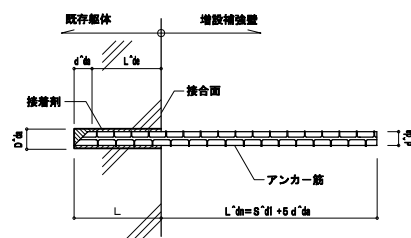
3.2.6.4 あと施工アンカー（接着系）

- アンカー径は、D13以上、D22以下とする。
- アンカーの打設は、増設壁が接合する四周の柱、梁に行うことを原則とする。
- アンカーの埋め込み・定着長さを3.2.6.2表に示す。

(ナット付き)



(ナットなし)



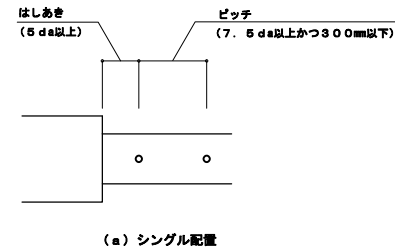
L: コンクリートの穿孔深さ、または接着系アンカーの埋め込み長さ
 $L'de$: アンカーの有効埋め込み長さ
 $L'dl$: アンカー筋の全長
 $L'dn$: 有効定着長さ
 $D'de$: 既存コンクリート躯体への穿孔径
 $d'de$: アンカー軸部の直径、アンカー筋の呼び名
 $S'dl$: 補強筋との継手長さ

3.2.6.1図 あと施工アンカー埋め込み・定着図

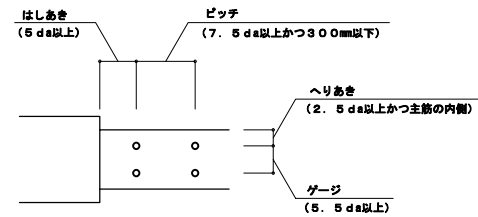
3.2.6.2表 あと施工アンカー埋め込み・定着長さ

| 区分 | 位置 | 用途 | 長さ | 備考 |
|--------------------|-------|---------|---------------------|----------------|
| 有効埋め込み長 ($L'de$) | 一般部 | 曲げモーメント | $1.2 \cdot da$ | 先端形状45° カット |
| | | せん断力 | $7 \cdot da$ | |
| | 開口補強部 | 曲げモーメント | $1.2 \cdot da$ | |
| | | せん断力 | $1.0 \cdot da$ | |
| 有効定着長 ($L'dn$) | 一般部 | - | $2.0 \cdot da$ | ナットあり |
| | 開口補強部 | - | $S'dl + 5 \cdot da$ | ナットなし |

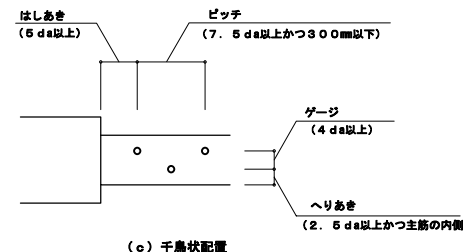
(あと施工アンカーの位置と間隔)



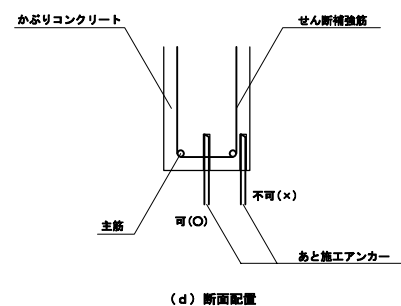
(a) シングル配置



(b) ダブル配置



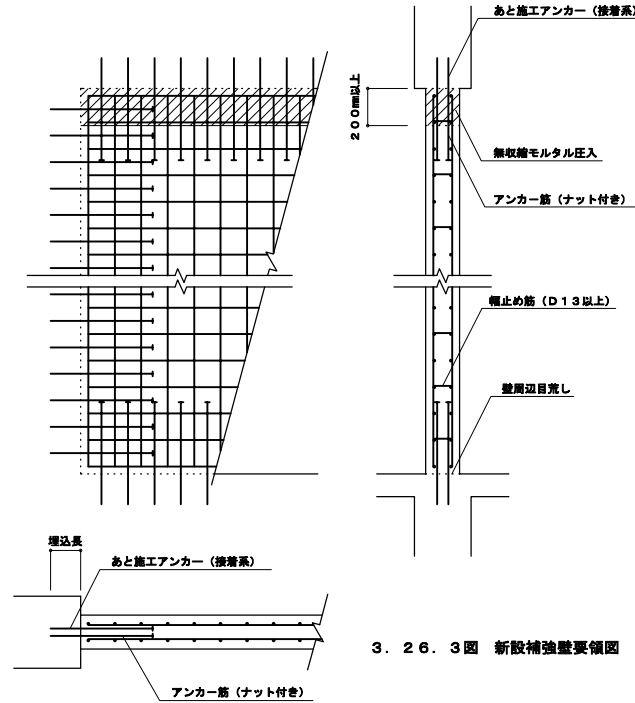
(c) 千鳥状配置



3.2.6.2図 あと施工アンカー配置図

3.2.6.5 新設補強壁

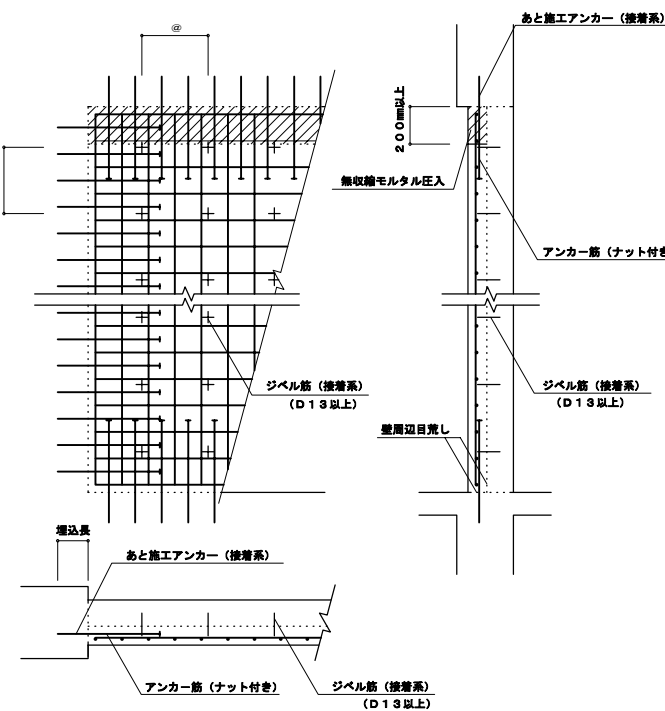
- 新設補強壁の配筋は3.2.6.3図を標準とする。
- 新設部と接する既存の壁面には目荒しを施す。
- あと施工アンカーは接着系とし、開口補強部を除き、アンカー筋はナット付きとする。
- 新設壁の頂部200mm以上は、無収縮モルタル圧入とする。



3.2.6.3図 新設補強壁要領図

3.2.6.6 増打ち補強壁ほか

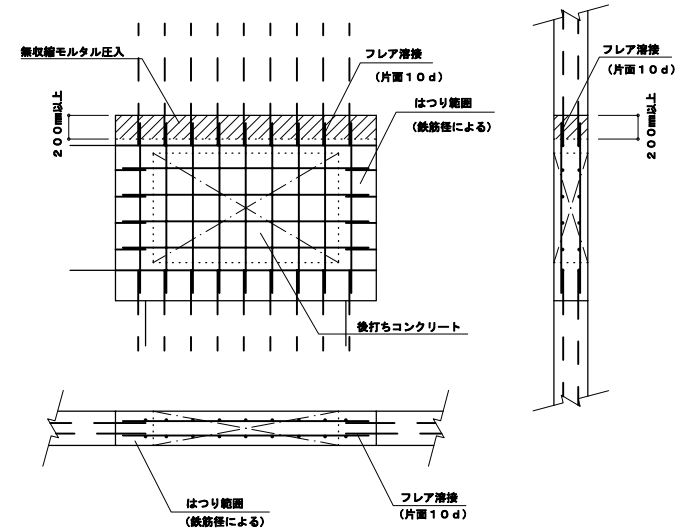
- 増打ち補強壁の配筋は3.2.6.4図を標準とする。
- あと施工アンカーは接着系とし、開口補強部を除き、アンカー筋はナット付きとする。
- 増打ち部と接する既存の壁面を目荒しするほか、新旧の壁面にジベル筋を設けるものとし、配置間隔は図面による。
- 増打ち部の頂部200mm以上は、無収縮モルタル圧入とする。
- 梁下端部や垂れ壁下端部の施工では、コンクリートのフリーディングや沈下を考慮して、打継目が一体となるように留意する。



3.2.6.4図 増打ち補強壁要領図

3.2.6.7 開口閉塞

- 既存壁と増設壁との接合は、開口周囲のコンクリートをはつり、鉄筋同士をフレア溶接で行う。
- 閉塞部分が既存梁、柱と接する部位は全てあと施工アンカーで接合する。
- 閉塞部分の頂部200mm以上は、無収縮モルタル圧入とする。

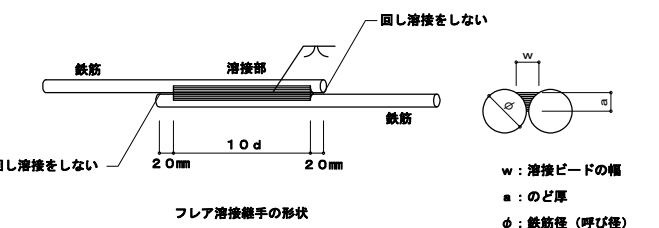


| 壁の鉄筋径 | はつり幅 |
|-------|------|
| D13 | 200 |
| D16 | 200 |
| D19 | 300 |
| D22 | 300 |
| D25 | 300 |

3.2.6.5図 開口閉塞要領図

3.2.6.8 フレア溶接

- 特記なき鉄筋のフレア溶接の継手形状を3.2.6.6図に示す。（詳細は「鉄筋定着・継手指針[2007年版]」(土木学会)による。）
- 継手長さは鉄筋径の10倍とし、回し溶接は行わない。



3.2.6.6図 フレア溶接継手形状

| | |
|------|-------------------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 |
| 名称 | 構造細目共通図(複合構造物)(7) |
| 縮尺 | - 設計年月 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 S-07 |

4 建築工事

4.1 鉄筋の折曲げ加工

鉄筋の折曲げ加工は、4.1.1表及び4.1.2表を標準とする。

- (1) Dは、折曲げ内法直径を示す。
- (2) dは、鉄筋直径（呼び名）を示す。

4.1.1表 鉄筋の折曲げ形状及び寸法（末端部）

| 曲げ角度 | 折曲げ図 | 折曲げ内法直径 (D) | | | 使用箇所 |
|-------------|------|---------------|---------|---------|----------------------------|
| | | SD295A, SD345 | | | |
| | | D16以下 | D19~D25 | D29~D38 | |
| 180° | | 3d以上 | 4d以上 | | 柱、梁の主筋 D16以上の鉄筋 |
| 135° | | 3d以上 | 4d以上 | | D13以下の鉄筋 あばら筋、帯筋、スパイラル筋 |
| 90° | | 3d以上 | 4d以上 | | T形及びL形梁の あばら筋 |
| 135° 90° | | 3d以上 | 4d以上 | | 90°、135° 幅止め筋 |

- (注) 1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。
2. 90°未満の折曲げの内法直径は図示による。

4.1.2表 鉄筋の折曲げ形状及び寸法（中間部）

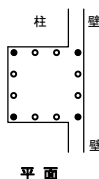
| 曲げ角度 | 折曲げ図 | 折曲げ内法直径 (D) | | | 使用箇所 |
|-------|------|---------------|---------|---------|-------------------|
| | | SD295A, SD345 | | | |
| | | D16以下 | D19~D25 | D29~D38 | |
| 90°以下 | | 3d以上 | 4d以上 | - | あばら筋、帯筋 スパイラル筋 |
| | | 4d以上 | 6d以上 | 8d以上 | その他の鉄筋 |

4.2 異形鉄筋の末端部

異形鉄筋の末端部には、4.2.1表によりフックを設ける。

4.2.1表 フックを設ける位置

| 部位 | 継手方式 | | 備考 |
|----|---------------|------------------|---|
| | 重ね継手 | 圧接継手 | |
| 柱 | 四隅の主筋 | — | 1) 最上層の柱頭部 4.2.1 図の●印 4.7.1 図参照 |
| | 上下層の柱断面が異なる場合 | — | 1) 下層の柱主筋を引き通すことができない柱頭部 4.2.1 図の●印 4.7.2 図参照 |
| | 帯筋 (HOOP) | 1) 末端部 2) 継手部 | 1) 末端部 |
| 梁 | あばら筋 (STP) | 1) 末端部 2) 継手部 | 1) 末端部 4.11.1 |
| | 煙突の鉄筋 | 1) 末端部 2) 継手部 | 1) 末端部 壁の一部となる場合を含む 図参照 |
| | 幅止め筋 | — | 4.1.1 表参照 |



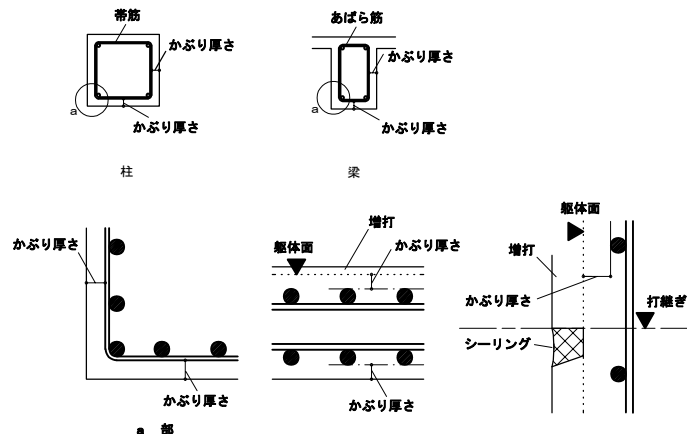
4.2.1図 異形鉄筋の末端部

4.3 鉄筋のかぶり及び間隔

4.3.1 かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋（幅止め筋、組立筋を除く）の外側から躯体面までの距離（4.3.1図）をいう。

鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚さに許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。



4.3.1図 鉄筋のかぶり厚さ

4.3.2 最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、4.3.1表による。

- (1) 床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。
- (2) 柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保して最小かぶり厚さを定める。
- (3) 溶接金網にも適用する。

4.3.1表 鉄筋の最小かぶり厚さ (mm)

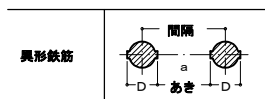
| 構造部分の種類 | 埋設区分 | | |
|-------------|------------|----------------|----|
| | ※ 通常の施工の場合 | ・ 埋設対策を必要とする場合 | |
| 一般 | 床、耐力壁以外の壁 | 30 | 40 |
| | 柱、梁、耐力壁 | 40 | 50 |
| | 底版 | 40 | 50 |
| 土、水に接する部分 | 柱、梁、床、壁 | 40 | 50 |
| | 底版、基礎 | 60 | 70 |
| 煙突等高温を受ける部分 | 60 | 70 | |

1: 打継目地部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。
2: 仕上なしの場合を標準とする。

4.4 鉄筋相互のあき

鉄筋相互のあきは、下記の最大値のもの以上とする。ただし、機械式継手及び溶接継手のあきは、図面による。

- (1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
- (2) 最小のあき25mm
- (3) 異形鉄筋の直径（呼び径）の1.5倍以上



(注) D: 鉄筋の最外径 d: 鉄筋直径（呼び名）

4.4.1図 鉄筋のあき

4.4.1表 鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧

| 鉄筋径 (mm) | 鉄筋径 (mm) | 鉄筋相互のあき: a | | | 最小鉄筋間隔 a+D |
|----------|----------|---------------|----------|-------------|------------|
| | | (1) 粗骨材径×1.25 | (2) 最小あき | (3) 鉄筋径×1.5 | |
| D10 | 11 | 31mm | 25mm | 15mm | 42mm |
| D13 | 14 | | | 20mm | 45mm |
| D16 | 18 | | | 24mm | 49mm |
| D19 | 21 | | | 29mm | 52mm |
| D22 | 25 | | | 33mm | 58mm |
| D25 | 28 | | | 38mm | 66mm |
| D29 | 33 | | | 44mm | 77mm |

粗骨材最大径25mmの場合

4.5 鉄筋の継手及び定着

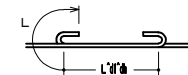
4.5.1 鉄筋の重ね継手

- (1) 鉄筋の重ね継手及び定着の長さは、4.5.1表による。
- (2) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (3) 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。

4.5.1表 鉄筋の重ね継手の長さ

| 鉄筋の種類 | コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²) | $L^{\wedge}dl$ (フックなし) | | $L^{\wedge}db$ (フックあり) | |
|--------|--|------------------------|----------------|------------------------|----------------|
| | | $L^{\wedge}dl$ | $L^{\wedge}db$ | $L^{\wedge}db$ | $L^{\wedge}db$ |
| SD295A | 24 27 | 35d | 25d | 35d | 25d |
| | 30 | 35d | 25d | 35d | 25d |
| SD345 | 24 27 | 40d | 30d | 40d | 30d |
| | 30 | 35d | 25d | 35d | 25d |

- (注) 1. $L^{\wedge}dl$, $L^{\wedge}db$: フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合の $L^{\wedge}db$ は、4.5.1図に示すようにフック部分Lを含まない。



4.5.1図

4.5.2 継手の特記事項

- (1) 継手は、極力応力の小さい位置に設ける。
- (2) 異径径の鉄筋をガス圧接する場合は、鉄筋径の直近の範囲内とする。

4.5.3 鉄筋の定着

- (1) 鉄筋の定着の長さは、4.5.2表による。

4.5.2表 鉄筋の定着の長さ

| 鉄筋の種類 | コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²) | フックなし | | | | | | フックあり | | | |
|--------|--|----------------|-----|----------------|-----|----------------|-----|----------------|-----|----------------|--|
| | | $L^{\wedge}dl$ | | $L^{\wedge}db$ | | $L^{\wedge}db$ | | $L^{\wedge}db$ | | $L^{\wedge}db$ | |
| | | 小梁 | スラブ | 小梁 | スラブ | 小梁 | スラブ | 小梁 | スラブ | | |
| SD295A | 24, 27 | 35d | 30d | 20d | 10d | かつ 150mm以上 | 25d | 20d | 10d | — | |
| | 30 | 35d | 30d | | | | 25d | 20d | | | |
| SD345 | 24, 27 | 40d | 35d | 20d | 10d | かつ 150mm以上 | 30d | 25d | 10d | — | |
| | 30 | 35d | 30d | | | | 25d | 20d | | | |

- (注) 1. $L^{\wedge}dl$, $L^{\wedge}db$: 2. 以外の直線定着の長さ及びフックありの長さ
2. $L^{\wedge}db$, $L^{\wedge}db$: 割製破壊の恐れのない箇所への直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ
3. $L^{\wedge}db$: 小梁及びスラブの下端筋の直線定着長さ（基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く。）
なお、片持小梁及び片持スラブの場合は20d及び10dを25d以上とする。
4. $L^{\wedge}db$: 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5. フックありの定着の場合は、4.5.2図(イ)に示すようにフック部分bを含まない。また中間部での折曲げは行わない。

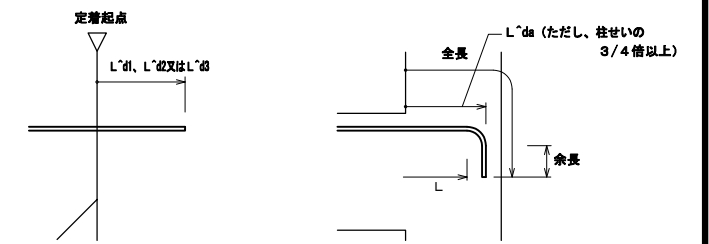
4.5.4 定着の方法

定着の方法は4.5.2図による。

なお、(口)折曲げ定着の梁主筋の柱内折曲げ定着において、仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、4.5.2表のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を4.5.2表に示すフックなし定着長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを4.5.3表に示す長さのみ込ませる。

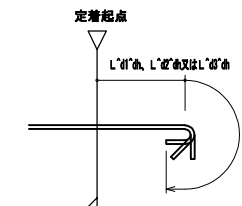
- (注) 1. $L^{\wedge}da$, $L^{\wedge}db$ は、4.5.3表の鉄筋の投影定着長さを示し、下記の条件を満たすものとする。

- ・ 梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上
- ・ 小梁主筋の大梁内定着においては、原則として大梁幅の1/2倍以上
- ・ スラブの梁内定着においては、原則として梁幅の1/2倍以上

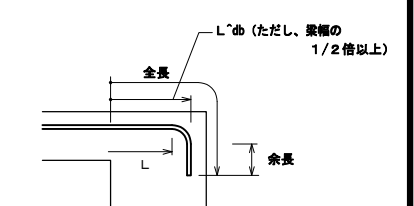


フックなし

梁主筋の柱内曲げ定着



フックあり



小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着

(イ) 直線定着

(口) 折曲げ定着

4.5.2図 定着の方法

4.5.3表 鉄筋の投影定着長さ

| 鉄筋の種類 | コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²) | $L^{\wedge}da$ | $L^{\wedge}db$ |
|--------|--|----------------|----------------|
| SD295A | 24 27 | 16d | 16d |
| | 30 | 16d | 16d |
| SD345 | 24 27 | 20d | 16d |
| | 30 | 16d | 16d |

- (注) 1. $L^{\wedge}da$: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持ちスラブを含む。）
2. $L^{\wedge}db$: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）

| | |
|------|-------------------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 |
| 名称 | 構造細目共通図(複合構造物)(8) |
| 縮尺 | - 設計年月 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 S-08 |

4 建築工事

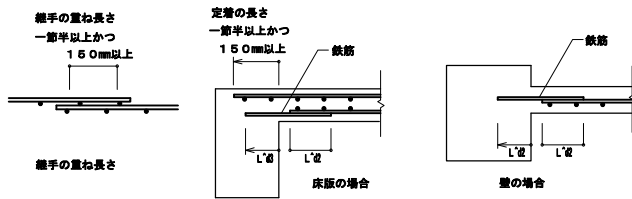
4.5.5 隣り合う継手の位置及び定着

隣り合う継手の位置は、4.5.4表により、a寸法を守ること。
ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合を除く。

4.5.4表 隣り合う継手の位置

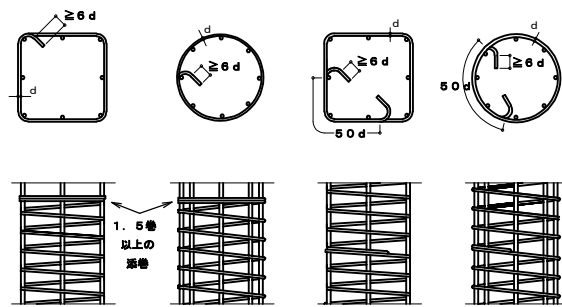
| 条件 | 重ねる場合 | 離す場合 |
|------|--------------|---------------------|
| 重ね継手 | フック有りの場合 | $a \geq 0.5L'd$ |
| | フックなしの場合 | $a \geq 0.5L'd$ |
| 圧接継手 | | $a \geq 400mm$ |

(1) 溶接金網の継手及び定着



4.5.3図 溶接金網の継手及び定着要領

(2) スパイラル筋の継手及び定着



4.5.4図 スパイラル筋の継手及び定着要領

4.6 柱筋の継手位置

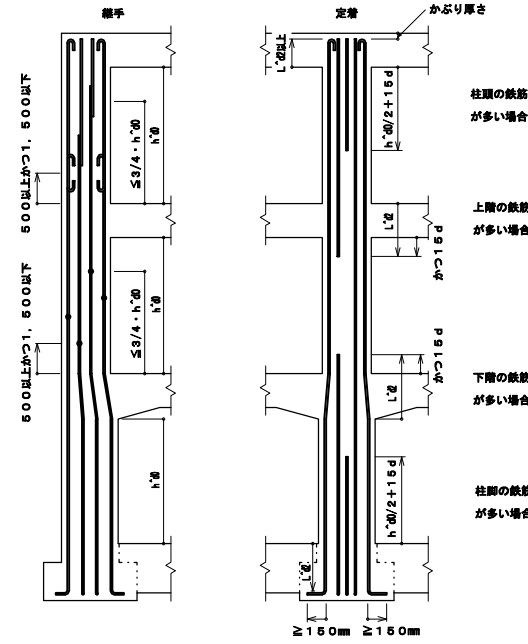
4.6.1 継手及び圧接中心位置

(1) 柱の継手及び圧接中心位置は、梁上端から50cm以上、150cm以下かつ $3/4 h'd$ ($h'd$ は柱の内法高さ) 以下とする。

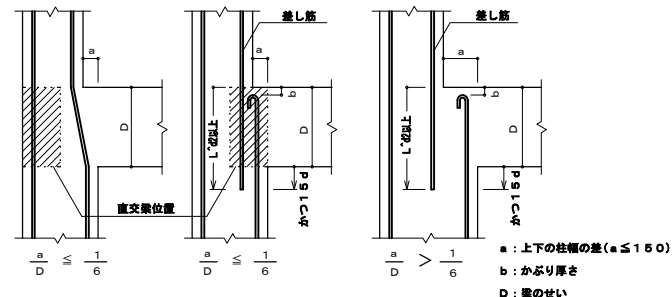
4.7 柱筋の継手及び定着

4.7.1 隣り合う継手の位置及び定着

- 継手長さは $L'd$ とし、定着及び余長は、4.7.1図による。
- 柱頭定着長さ $L'd$ が確保出来ない場合は、図面による。
- 上下の柱断面が異なる場合の柱主筋の折曲げ及び定着は、4.7.2図による。



4.7.1図 柱主筋の継手、定着及び余長

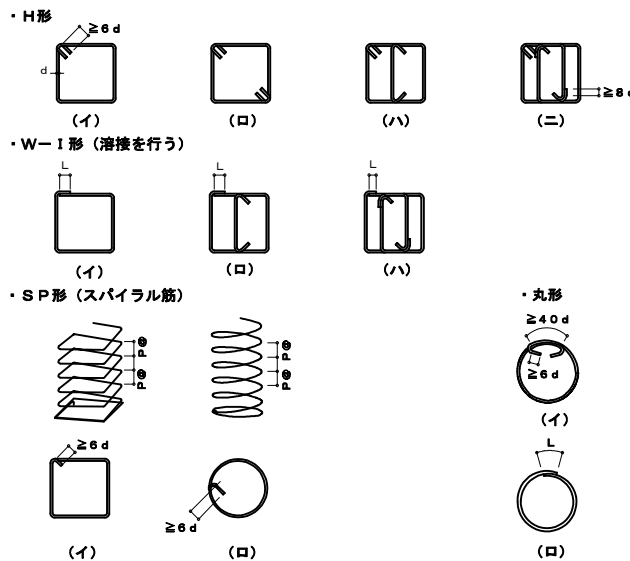


4.7.2図 上下の柱断面が異なる柱主筋の折曲げ及び定着

4.8 帯筋

4.8.1 帯筋の形状

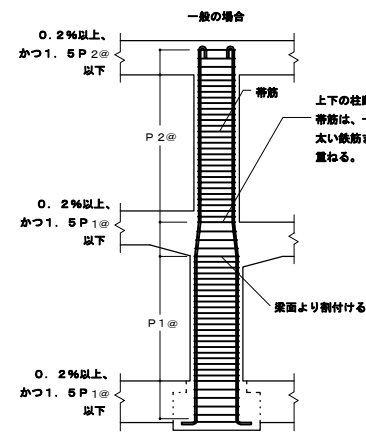
- 帯筋の形状は、4.8.1図とし、種別は図面による。図面になければ下記による。
 - H形を標準とする。
 - H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
 - 溶接する場合の溶接長さ L は、両面フレア溶接の場合は $5d$ 以上、片面フレア溶接の場合は $10d$ 以上とし、組立前に行う。
 - SP形において、柱頭及び柱脚の端部は、1.5巻以上の添巻きを行う。



4.8.1図 帯筋組立の形

4.9 帯筋の割付け

- フック及び継手の位置は交互とする。
- 帯筋の割付けは、4.9.1図による。ただし、図面にある場合は図面による。
- 柱、梁の交差部(パネルゾーン)の帯筋のせん断補強比は、0.2%以上を確保し、補強筋間隔 $\leq 1.5P$ とする。



4.9.1図 帯筋の割付け

柱、梁の交差部の配筋例(0.2%確保)

| 柱幅(mm) | パネルゾーン |
|-------------|-----------|
| ≤ 500 | D10 @ 125 |
| ≤ 600 | D10 @ 100 |
| ≤ 700 | D10 @ 100 |
| ≤ 800 | D13 @ 150 |
| ≤ 900 | D13 @ 125 |
| ≤ 1000 | D13 @ 125 |
| ≤ 1100 | D13 @ 100 |
| ≤ 1200 | D13 @ 100 |

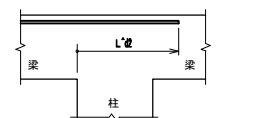
※1.5P'd、1.5P'd2のピッチは150mm以下とする。

4.10 大梁筋の継手及び定着

4.10.1 大梁(基礎梁以外の大梁に限る)主筋の継手、定着及び余長

(1) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項

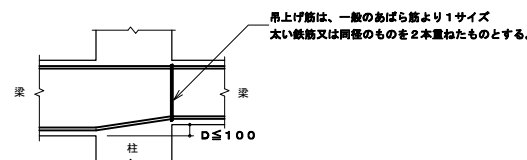
- 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことが出来ない場合は、b.により柱内に定着することができる。
ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、4.10.1図による。



4.10.1図 梁主筋の梁内定着

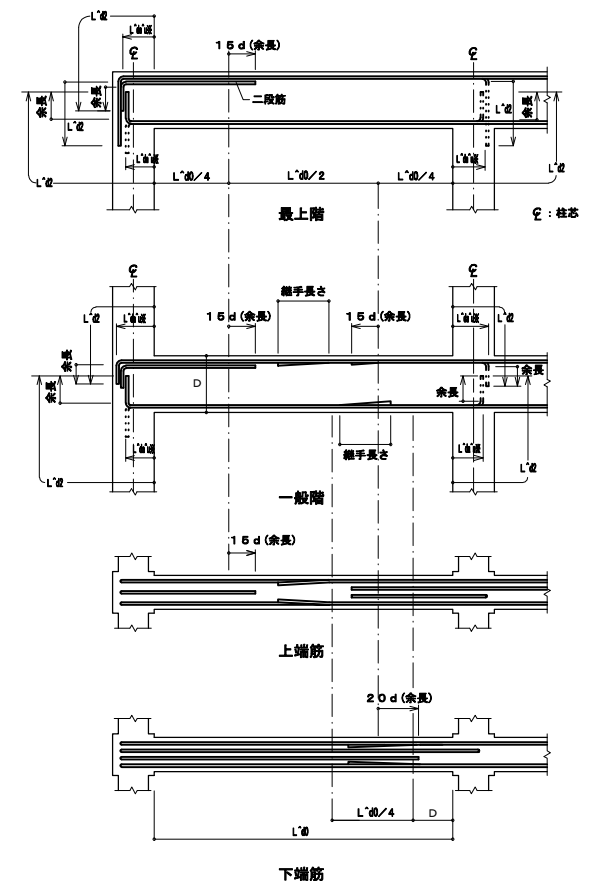
- 梁主筋を、柱内に折曲げて定着する場合は次による。
なお、定着の方法は、4.5.4による。
上端筋：曲げ下ろす。
下端筋：原則として曲げ上げる。

- 段違い梁は4.10.2図による。



4.10.2図 段違い梁

4.10.2 ハンチのない場合



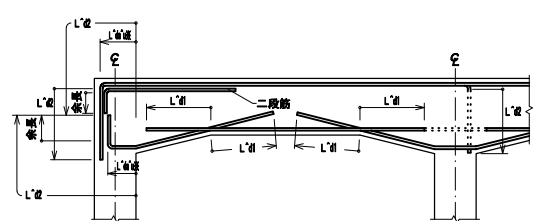
(注) 1. 継手中心位置は次による。

- 上端筋：中央 $L'd/2$ 以内
- 下端筋：柱面より $L'd/4$ 以上離し、 $L'd/4$ を加えた範囲以内
- 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。
- 印は、継手及び余長を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。

4.10.3図 大梁の重ね継手、定着及び余長

4.10.3 ハンチのある場合

(1) 最上層の場合



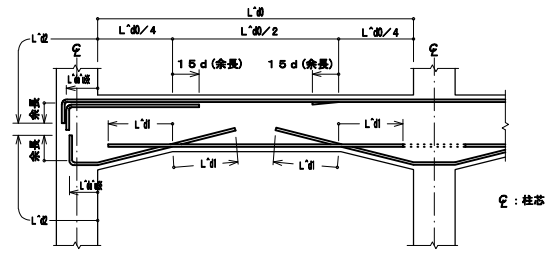
※ L_a は、原則として、4.5.3表の数値かつ柱せいの $3/4$ 倍以上とする。

4.10.4図 ハンチのある大梁の定着及び余長(最上層)

| | |
|------|-------------------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 |
| 名称 | 構造細目共通図(複合構造物)(9) |
| 縮尺 | - 設計年月 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 S-09 |

4 建築工事

(2) 一般階の場合

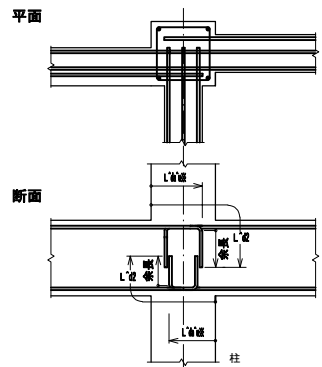


4.10.5 図 ハンチのある大梁の定着及び余長 (一般階)

- (注) 1. 4.2 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。
 2. 印は、継手及び余長を示す。
 3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、.....のように引き通すことができる。
 4. 破線は、梁内定着の場合を示す。
 ※ Lは、原則として、4.5.3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

4.10.4 水平段差のある場合

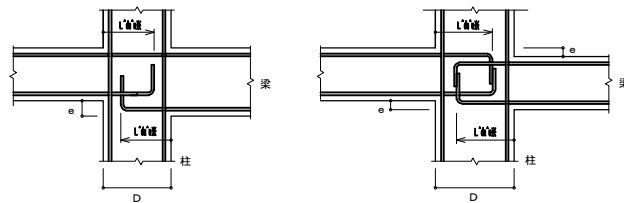
(1) 水平段差のある場合



- ※ Lは、原則として、4.5.3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。
 4.10.6 図 大梁の定着及び余長 (水平段差のある場合)

4.10.5 鉛直段差 (e) のある場合

(1) e/D ≤ 1/6 の場合

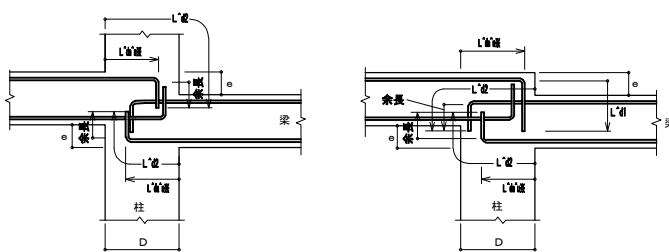


定着の長さは、4.10.2図に準ずる

- ※ Lは、原則として、4.5.3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

4.10.7 図 鉛直段差梁 (その1)

(2) e/D > 1/6 の場合



- 一般階
 最上階
 ※ Lは、原則として、4.5.3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

4.10.8 図 鉛直段差梁 (その2)

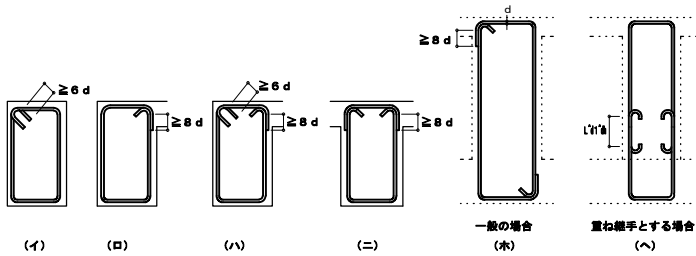
4.11 梁のあばら筋、腹筋及び幅止め筋

4.11.1 一般事項

- (1) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
 (2) 壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、L/2とする。
 (3) 土圧、水圧を受ける梁は、図面による。
 (4) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1000mmピッチ程度とする。

4.11.2 あばら筋組立の形及びフックの位置

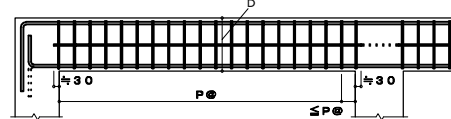
- (1) 形は、4.11.1図(イ)を標準とする。
 ただし、(イ)によることが出来ない場合は、下記の方法による事が出来る。
 a. 床版が片側に付く場合は、(ロ)又は(ハ)
 b. 床版が両側に付く場合は、(ロ)～(ニ)
 (2) フックの位置
 a. (イ)の場合は交互とする。
 b. (ロ)の場合 床版が片側に付く場合は床版の付く側
 床版が両側に付く場合は交互
 c. (ハ)の場合は床版の付く側を90°折曲げ、8d確保する。
 d. (ホ) (ヘ)の場合は梁の上下にスラブが付く場合でかつ、梁せいが1.5m以上の場合に適用する事ができる。(基礎梁)



4.11.1 図 あばら筋組立の形及びフックの位置

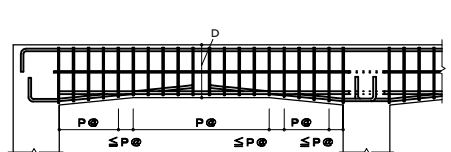
4.11.3 あばら筋の割付け

(1) 間隔が一樣でハンチのない場合



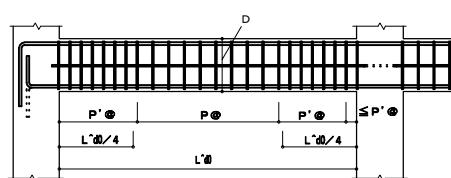
- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割付ける。
 2. 図中のPは、特記されたあばら筋の間隔を示す。
 4.11.2 図 あばら筋の割付け (その1)

(2) 間隔が一樣でハンチのある場合



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割付ける。
 2. 図中のPは、特記されたあばら筋の間隔を示す。
 4.11.3 図 あばら筋の割付け (その2)

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合



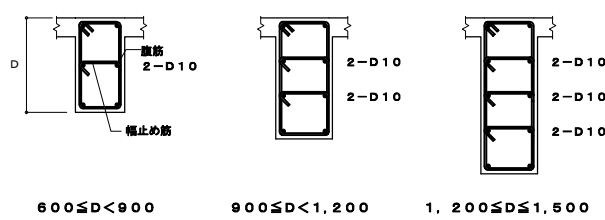
- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割付ける。
 2. 図中のP、P'は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

4.11.4 図 あばら筋の割付け (その3)

4.11.4 腹筋及び幅止め筋

(1) 一般の梁

a) 腹筋及び幅止め筋



4.11.5 図 腹筋及び幅止め筋

(2) 特殊な梁

腹筋及び幅止め筋は、図面による。

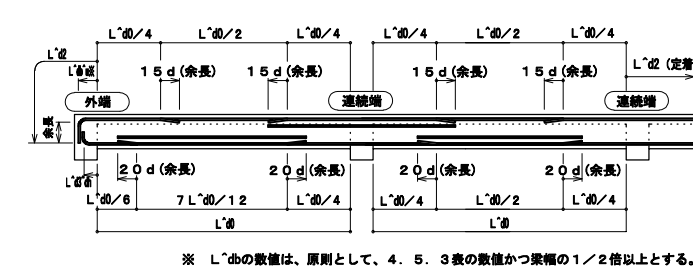
4.12 小梁及び片持梁の配筋要領

4.12.1 一般事項

- (1) 図面にない事項は、大梁、梁のあばら筋の項に準ずる。
 (2) 印は、継手及び余長を示す。

4.12.2 小梁

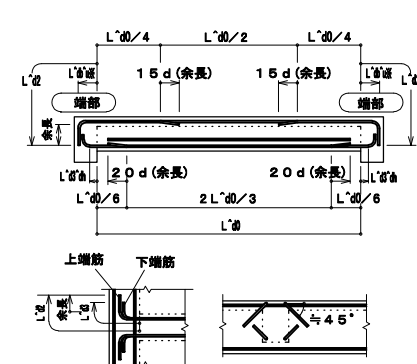
(1) 連続小梁の場合



- ※ Lは、原則として、4.5.3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。

4.12.1 図 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その1)

(2) 単独小梁の場合



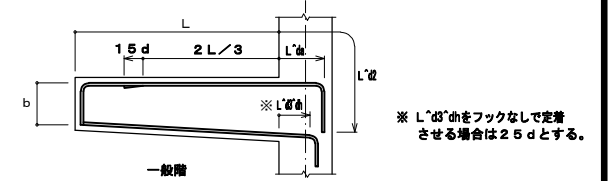
4.12.2 図 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その2)

- (注) 1. 印は、継手及び余長を示す。
 2. 梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。
 ※ Lは、原則として、4.5.3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。

4.12.3 片持梁筋の定着

(1) 先端に小梁のない場合

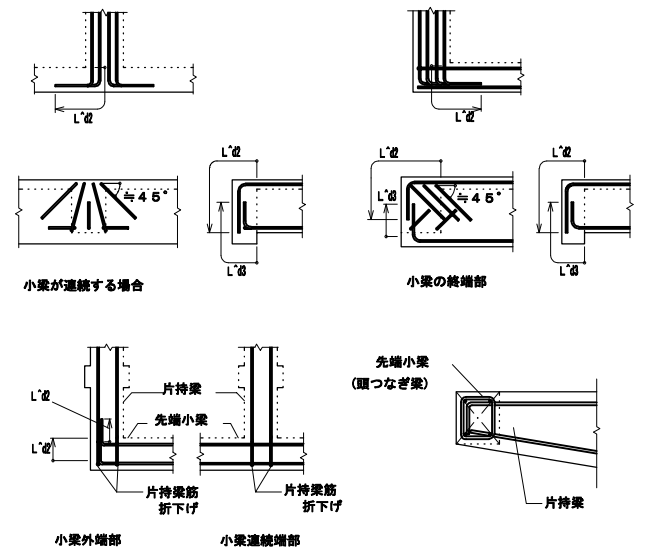
- a. 先端の折曲げの長さbは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。
 b. 梁筋を引き通さない場合は、取り合い部材に定着する。ただし、柱に取り合う場合は、全数を引き通すことができる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。



4.12.3 図 片持梁主筋の定着及び余長 (先端に小梁のない場合)

(2) 先端に小梁がある場合

- a. 上端筋は、先端小梁内に斜めに定着する。
 b. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
 c. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。



4.12.4 図 片持梁主筋の定着

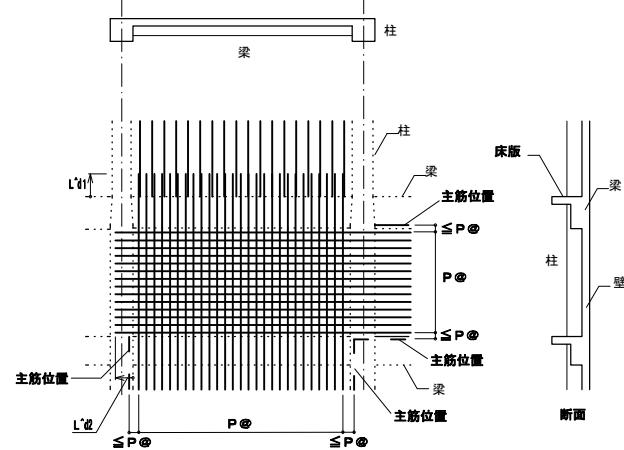
| | |
|------|--------------------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 |
| 名称 | 構造細目共通図(複合構造物)(10) |
| 縮尺 | - 設計年月 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 S-10 |

4 建築工事

4. 1.3 壁の配筋要領

4. 1.3.1 一般事項

- (1) 壁配筋の継手の長さは $L^{\wedge}d1$ 、及び定着の長さは、 $L^{\wedge}d2$ とする。
- (2) 土圧及び水圧などを受ける壁及び耐震壁として、図面に示されたものは、継手長さを $L^{\wedge}d1$ 、定着長さを $L^{\wedge}d2$ とする。ただし、耐力壁の重ね継手の長さは $4.0d$ とし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。
- (3) 幅止め筋は、縦、横ともD10-@1000を標準とする。
- (4) 一般部壁筋は、4. 1.3. 1図による。



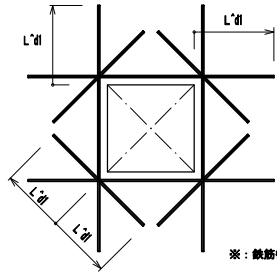
4. 1.3. 1 図 壁の配筋

4. 1.3.2 耐震壁の開口

- (1) 耐震壁等の開口は、図面以外は設けてはならない。
- (2) やむを得ず開口をあける場合は、H19国土交通省告示593号の規定を満足することを構造計算によって確認すること。

4. 1.3.3 壁開口部の補強

- (1) 壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、4. 1.3. 3図を標準とする。

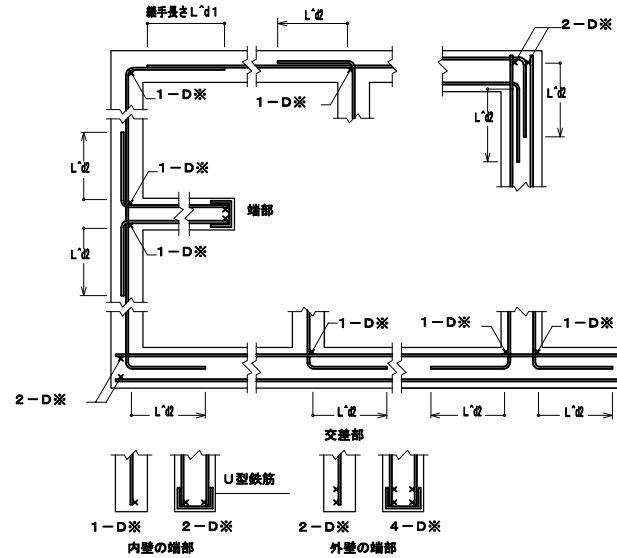


4. 1.3. 3 図 壁開口部の補強の定着長さ

- (2) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。

4. 1.3.4 壁の交差部及び端部

- 壁と壁の交差部は、4. 1.3. 4図による。
- a. 交差部補強筋D※はD13以上、かつ壁主筋と同径とする。
- b. 壁の端部にU型鉄筋を使用する場合の径及び間隔は、壁筋と同径及び同間隔とする。

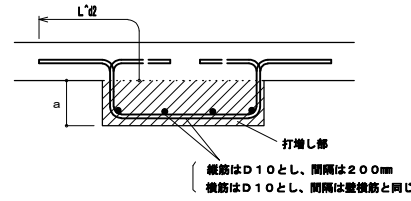


4. 1.3. 4 図 壁の交差部及び端部の配筋

※壁構造の場合は、「壁構造配筋指針・同解説」（建築学会）に基づき図面による。

4. 1.4 壁の打増し要領

- コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記によるほか、配管等での壁の打増し補強筋は、4. 1.4. 1図による。
- 打増し厚さのaが50mm以上、200mm以下に適用する。
- 200mmを超える場合は、特記による。

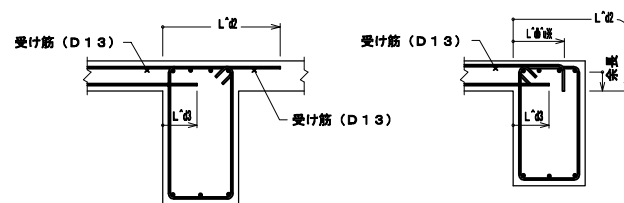


4. 1.4. 1 図 壁の打増し補強配筋

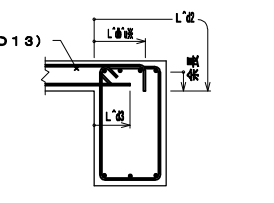
4. 1.5 床の配筋要領

4. 1.5.1 一般事項

- (1) 鉄筋の継手長さは、 $L^{\wedge}d1$ とする。
- (2) 定着長さ及び受け筋は、4. 1.5. 1図による。ただし、引き通すことができない場合は、4. 1.5. 2図、4. 1.5. 3図により梁内に定着する。
- (3) 基礎梁と床版を一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合の補強は図面による。

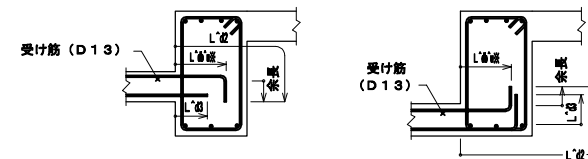


4. 1.5. 1 図 スラブラスの定着長さ及び受け筋（その1）



4. 1.5. 2 図 スラブラスの定着長さ及び受け筋（その2）

※ $L^{\wedge}d$ の数値は、原則として、6. 3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。

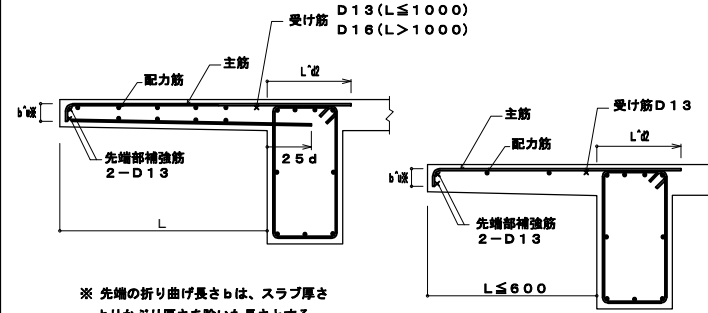


※原則として $L^{\wedge}d$ は、4. 5. 3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。

4. 1.5. 3 図 スラブラスの定着長さ及び受け筋（その3）

4. 1.5.2 片持スラブ

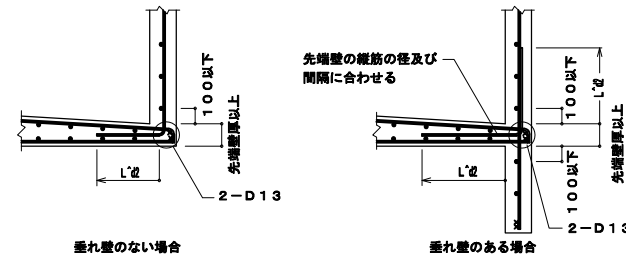
(1) 片持スラブの配筋



※先端の折り曲げ長さbは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

4. 1.5. 4 図 片持スラブの配筋

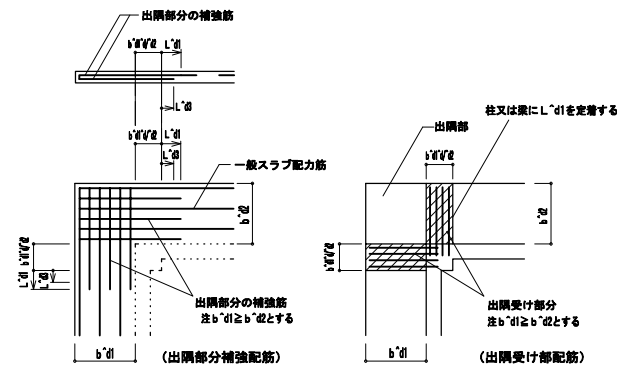
(2) 先端に小梁がなく壁が取り付け付く場合



4. 1.5. 5 図 先端に壁が付く場合の配筋

4. 1.5.3 出隅部の配筋方法

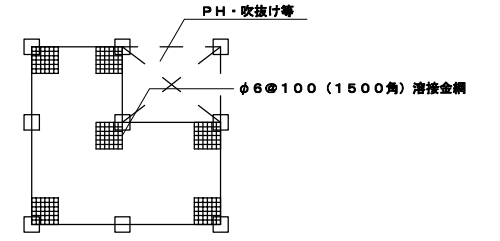
- (1) 補強の配筋は図面による。配筋方法は、4. 1.5. 6図による。特記にない場合は、D10@100ダブルとする。
- (2) 出隅受け部分（図のハッチ部分）の配筋は、図面（幅は $b^{\wedge}d1/2$ とする）による。



4. 1.5. 6 図 片持スラブ出隅部の補強配筋

4. 1.5.4 地上部最上階の屋根床版

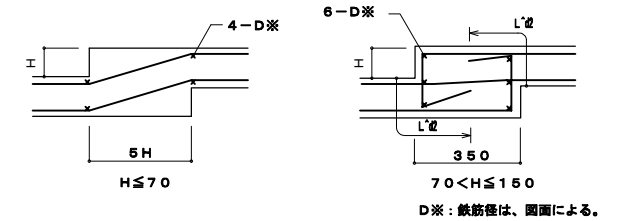
- (1) 出隅及び入隅部分には、4. 1.5. 7図により、補強筋（溶接金網）を上端筋の下側に配筋する。
- (2) 陸屋根、勾配屋根共通とする。



4. 1.5. 7 図 出隅及び入隅部分の補強配筋

4. 1.5.5 段差床版の補強

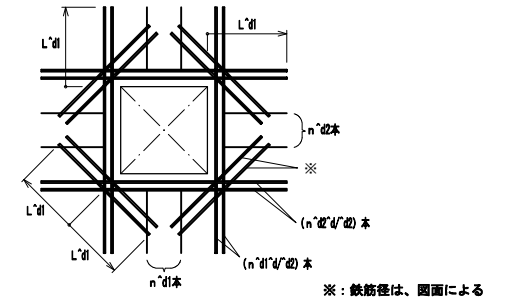
- (1) 同一床版に段差がある場合、4. 1.5. 8図の補強を行う。ただし、 $H > 150$ の場合は、小梁を設ける事を原則とする。



4. 1.5. 8 図 段差のある床版の補強配筋

4. 1.5.6 床版開口部の補強

- (1) 開口の最大径 ≤ 700 の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には、斜め方向に主筋径以上の鉄筋2本を上下筋の内側に配筋する。（4. 1.5. 9図）開口の最大径 > 700 の場合は図面による。



4. 1.5. 9 図 床版開口部の補強配筋

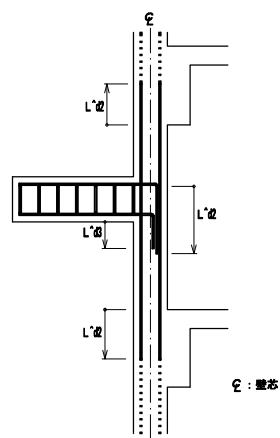
- (2) 床版開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強筋を省略することができる。

| | |
|------|--------------------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 |
| 名称 | 構造細目共通図(複合構造物)(11) |
| 縮尺 | - 設計年月 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 S-11 |

4 建築工事

4.17 階段の配筋要領

- (1) 壁配筋は、図面による。
- (2) 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に曲げ下ろす。

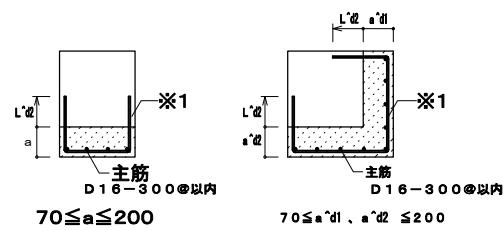


4.17.1 図 片持スラブ形階段配筋の定着

4.18 柱及び梁の増し打ち要領

4.18.1 柱

- (1) 増し打ちコンクリートの補強は、4.18.1図による。ただし、 $a < 70\text{mm}$ の場合、補強は行わない。



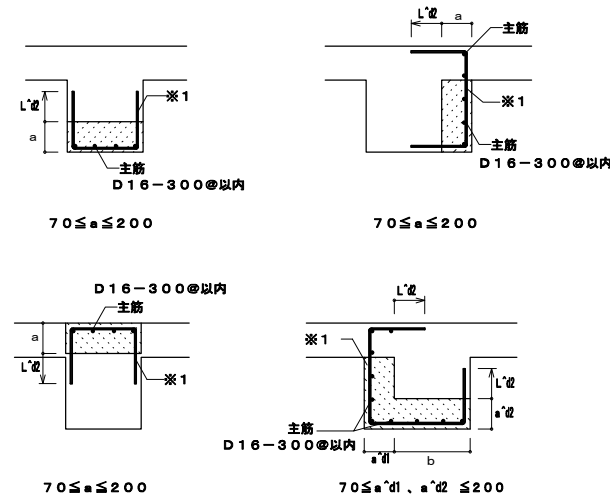
※1. 帯筋と同径・同材質・同ピッチとする。

4.18.1 図 柱の増し打ち補強配筋

- (2) 増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合を除く。
- (3) 増し打ち部分の帯筋の定着長さは、 $L^d/2$ 以上とする。
- (4) 増し打ち部分主筋の定着、重ね長さは、柱の主筋による。

4.18.2 梁

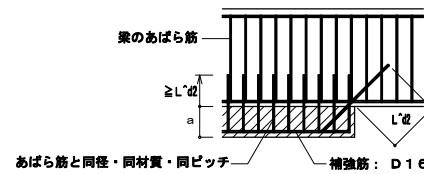
- (1) 増し打ちコンクリートの補強は、4.18.2図による。ただし、 $a < 70\text{mm}$ の場合、補強は行わない。



※1. あばら筋と同径・同材質・同ピッチとする。

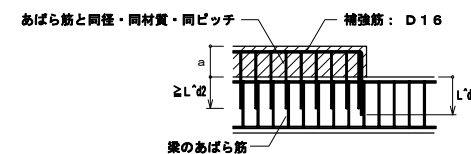
4.18.2 図 梁の増し打ち補強配筋

- (2) 増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合を除く。
- (3) 増し打ち部分のあばら筋の定着長さは、 $L^d/2$ 以上とする。
- (4) 増し打ち部分の主筋の定着、重ね長さは、梁の主筋による。
- (5) 梁の上下の増し打ちが途中で終わる場合



4.18.3 図 梁の上下の増し打ち補強配筋 (途中で終わる場合)

- (6) 梁の側面の増し打ちが途中で終わる場合



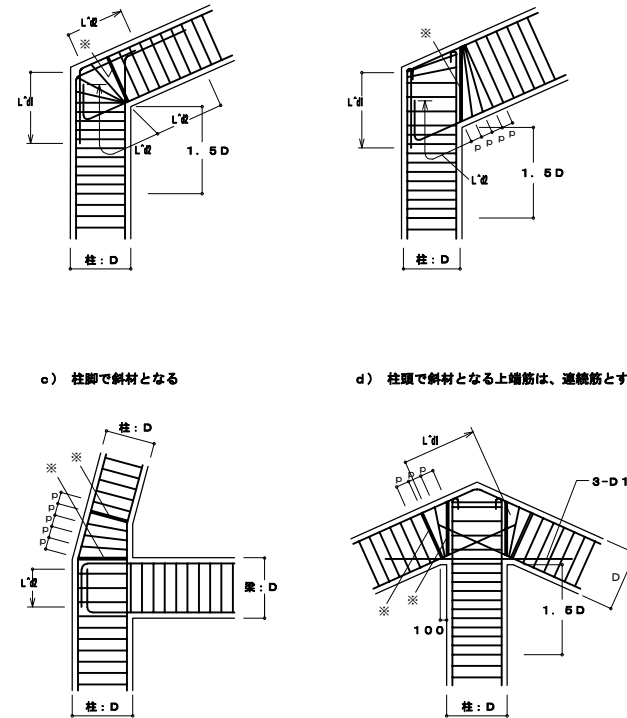
4.18.4 図 梁の側面の増し打ち補強配筋 (途中で終わる場合)

4.19 勾配屋根の取り合い

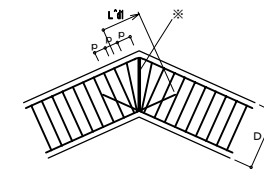
4.19.1 斜め柱・斜め梁の取り合い

- (1) ※印の鉄筋は、同径以上とし、かつダブル巻きとする。
- (2) 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、またはダブル巻きとし $\phi 100$ 以下とする。
- (3) 柱の取合い部における斜め梁のせん断補強筋中心間隔は、当該梁部材のせん断補強筋中心間隔p以下とする。

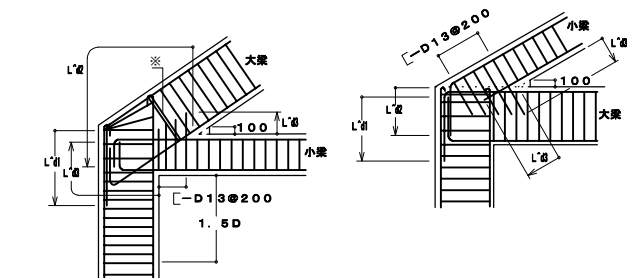
- a) 柱幅と斜材 (柱又は梁) 幅が同一
- b) 柱幅と斜材幅異なる
- c) 柱脚で斜材となる
- d) 柱頭で斜材となる上端筋は、連続筋とする。



- e) 梁が斜材となる上端筋は、連続筋とする。



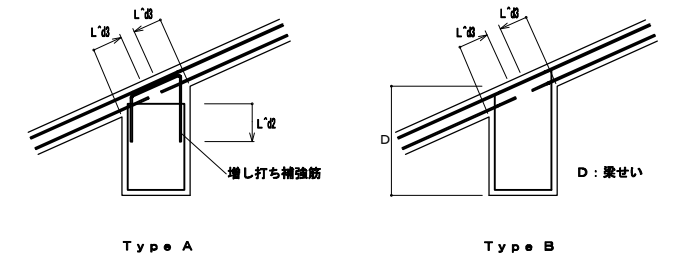
- f) 斜め大梁に小梁が接する場合
柱筋は a), b) に倣う。
- g) 大梁に斜め小梁が接する場合



4.19.1 図 斜め柱・斜め梁の取り合い配筋

4.19.2 梁と床版の取り合い

- 増し打ち補強要領は、4.19.2図による。

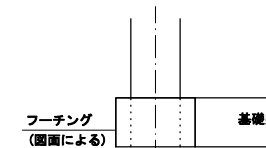


4.19.2 図 梁と床版の取り合い配筋

4.19.3 円柱の取り合い



- 1) 柱頭部で柱芯に梁が取り付く場合
- 2) 柱頭部で柱外面に梁が取り付く場合

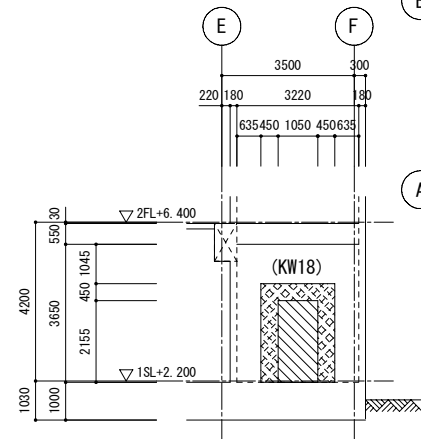
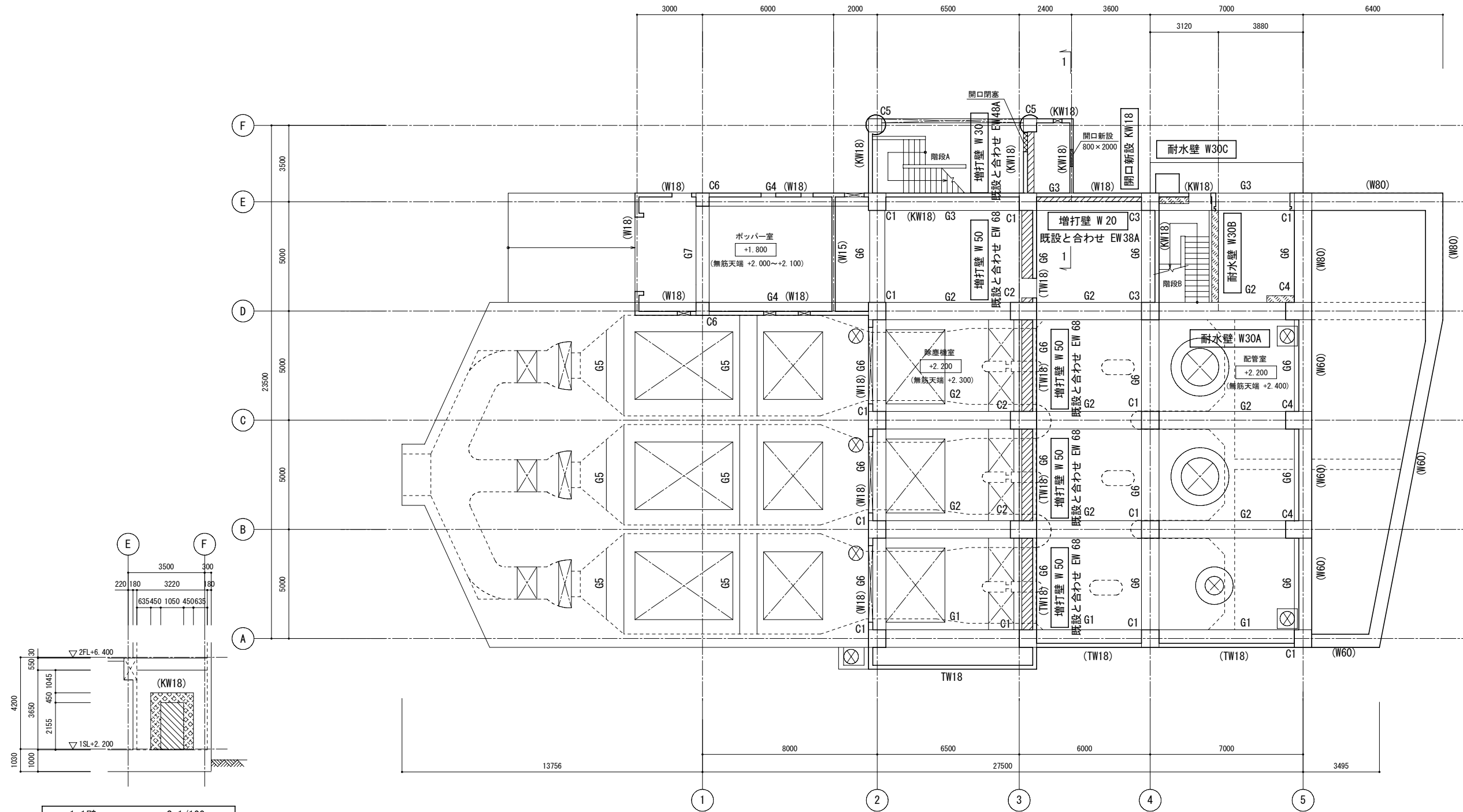


- 3) 柱脚部の円柱と基礎との取合い

4.19.3 図 円柱の取り合い配筋

| | |
|------|--------------------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 |
| 名称 | 構造細目共通図(複合構造物)(12) |
| 縮尺 | - 設計年月 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 S-12 |

ポンプ棟 補強範囲図(1)



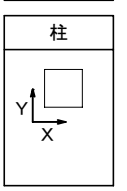
1-1壁 S=1/100

1階伏図 S=1/100

- 注) 特記なき限り
- ()内は、既設壁符号を示す。
 - は、鉄筋コンクリート撤去範囲(既設鉄筋撤去)を示す。
 - は、鉄筋コンクリート撤去範囲(既設鉄筋残し)を示す。

- 注) 特記なき限り
- 床レベルはSLを示す。
 - ()内は、既設壁符号を示す。
 - は、壁増打補強範囲を示す。
 - は、開口閉塞を示す。
 - は、開口新設範囲を示す。
 - は、耐水壁築造範囲を示す。

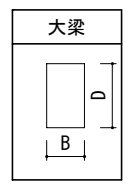
柱 凡例



柱リスト

| 階 | 符号 | Dx × Dy |
|---|----|------------|
| 1 | C1 | 800 × 800 |
| | C2 | 1200 × 800 |
| | C3 | 800 × 800 |
| | C5 | 600 × 600 |

大梁 凡例

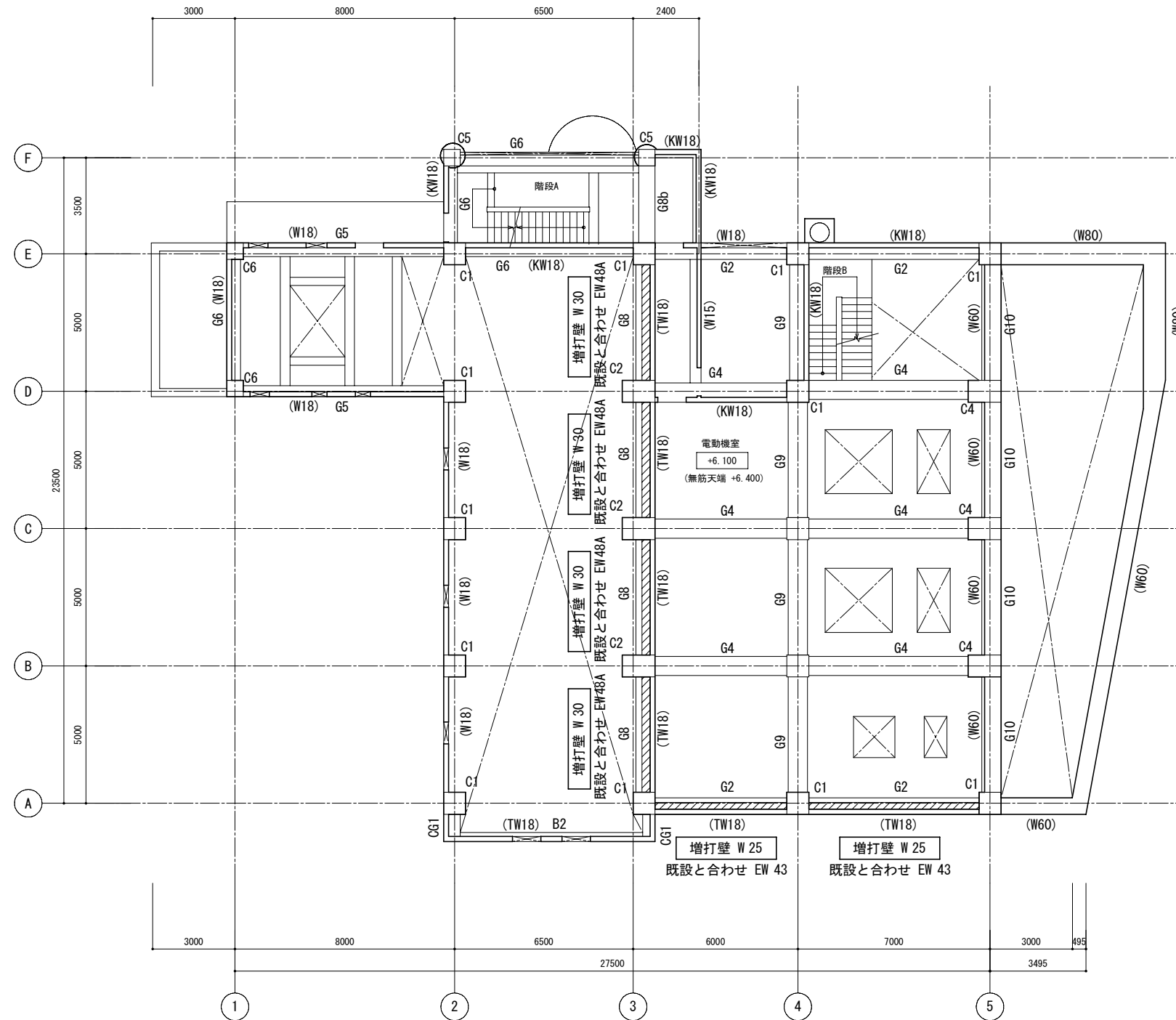


大梁リスト

| 階 | 符号 | B × D |
|---|----|------------|
| 1 | G1 | 800 × 1100 |
| | G3 | 800 × 1100 |
| | G6 | 800 × 1000 |

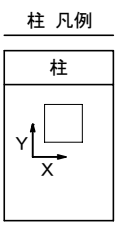
| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | ポンプ棟 補強範囲図(1) | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | S-14 |

ポンプ棟 補強範囲図(2)



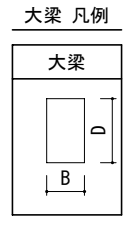
2階伏図 S=1/100

- 注) 特記なき限り
- 床レベルはSLを示す。
 - ()内は、既設壁符号を示す。
 - ////は、壁増打補強範囲を示す。



柱リスト

| 階 | 符号 | Dx × Dy |
|---|----|------------|
| 2 | C1 | 800 × 800 |
| | C2 | 1200 × 800 |

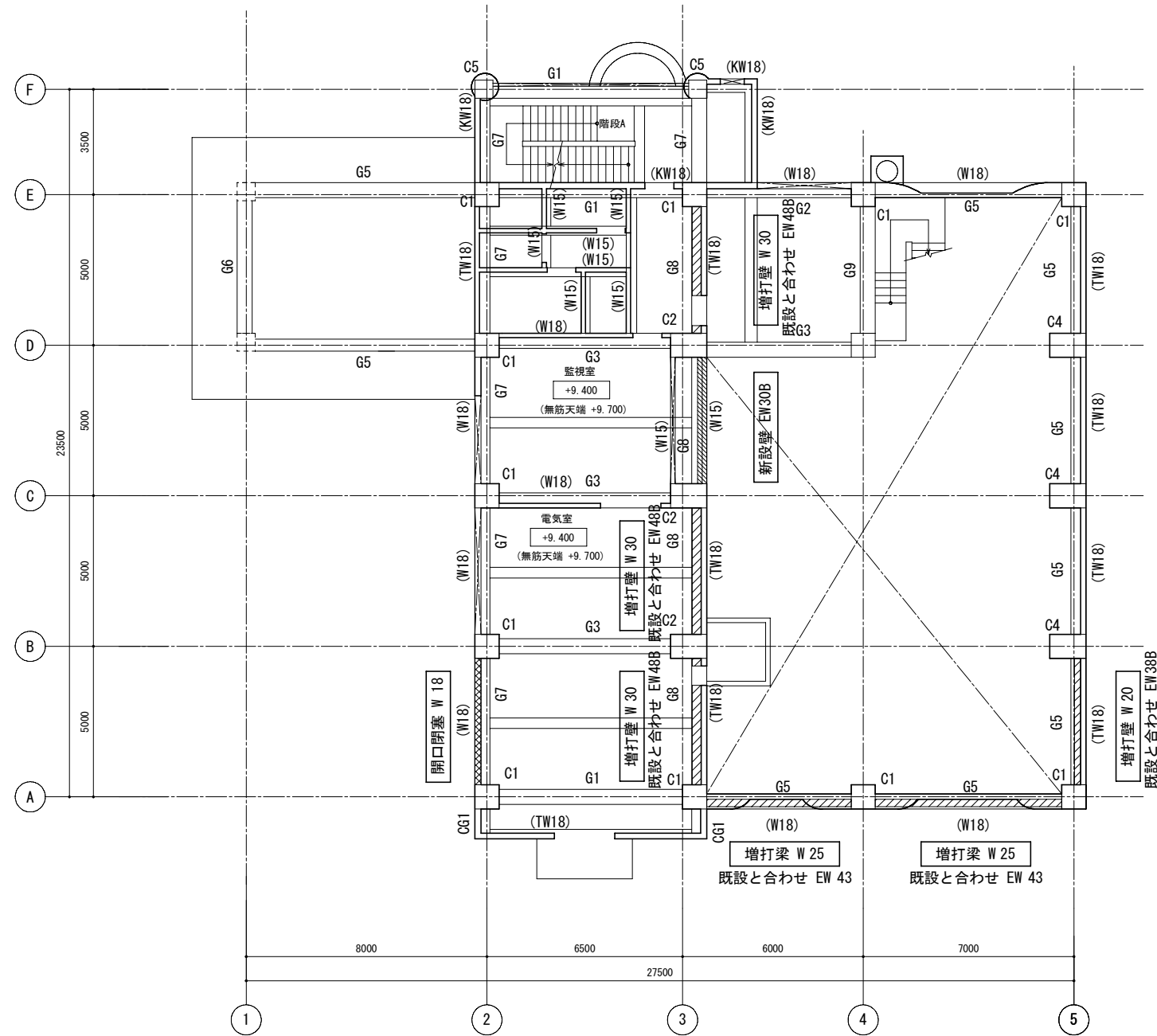


大梁リスト

| 階 | 符号 | B × D |
|---|----|------------|
| 2 | G2 | 600 × 1000 |
| | G8 | 700 × 1000 |

| | | | |
|------|----------------|---------|-------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | ポンプ棟 補強範囲図(2) | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 | (株) NJS | |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | S-15 |

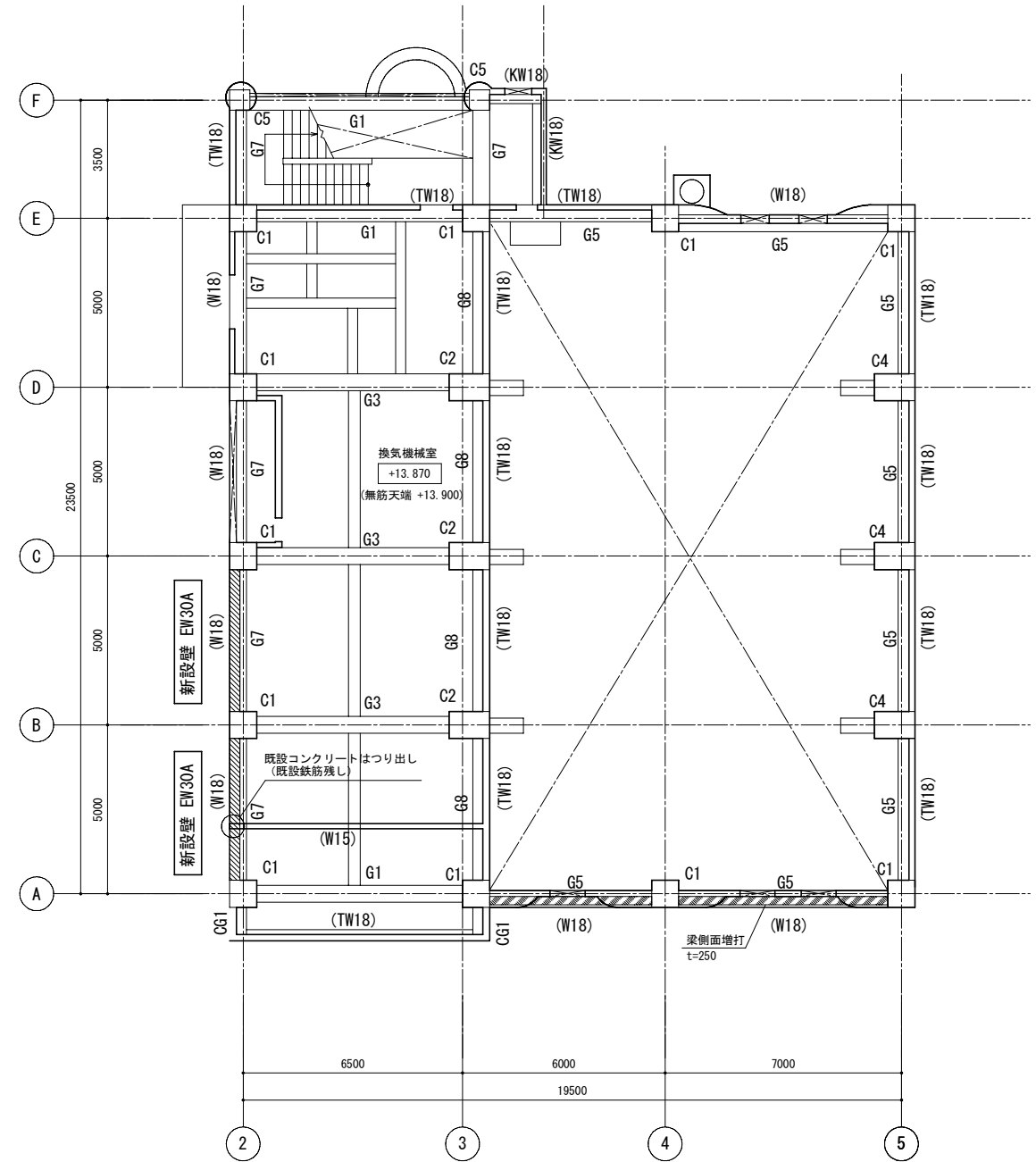
ポンプ棟 補強範囲図(3)



3階伏図 S=1/100

注) 特記なき限り

1. 床レベルはSLを示す。
2. ()内は、既設壁符号を示す。
3. は、壁増打補強範囲を示す。
4. は、開口閉塞を示す。
5. は、壁新設範囲を示す。

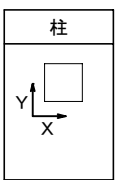


4階伏図 S=1/100

注) 特記なき限り

1. 床レベルはSLを示す。
2. ()内は、既設壁符号を示す。
3. は、壁新設範囲を示す。
4. は、梁側面増打範囲(t=250)を示す。

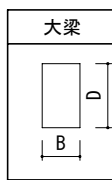
柱 凡例



柱リスト

| 階 | 符号 | Dx × Dy |
|---|----|------------|
| 3 | C1 | 800 × 800 |
| 3 | C2 | 1200 × 800 |
| 3 | C4 | 1200 × 800 |
| 4 | C1 | 800 × 800 |

大梁 凡例

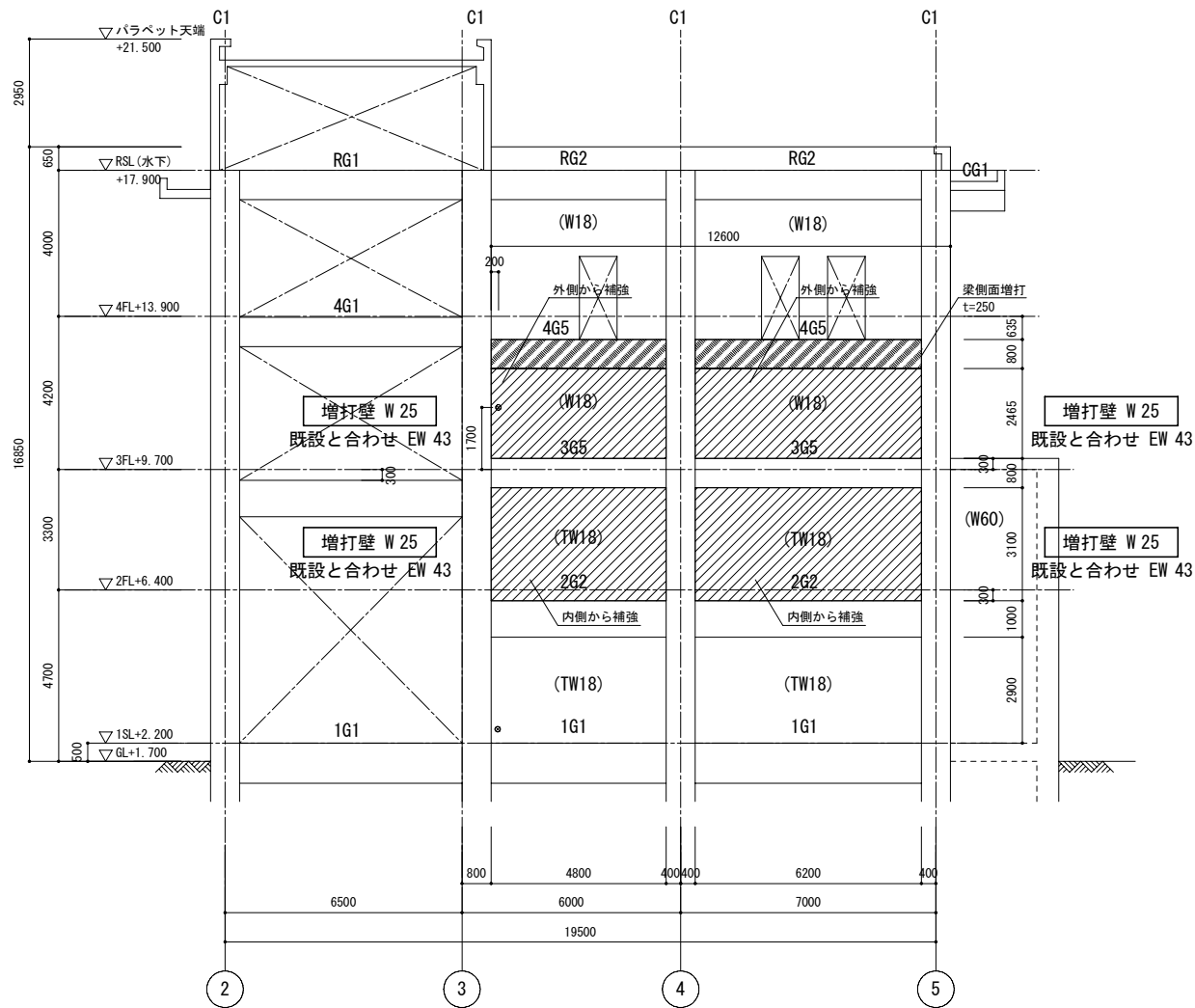


大梁リスト

| 階 | 符号 | B × D |
|---|----|------------|
| 3 | G5 | 500 × 800 |
| 3 | G7 | 500 × 1000 |
| 3 | G8 | 500 × 1000 |
| 4 | G5 | 500 × 800 |
| 4 | G7 | 500 × 900 |

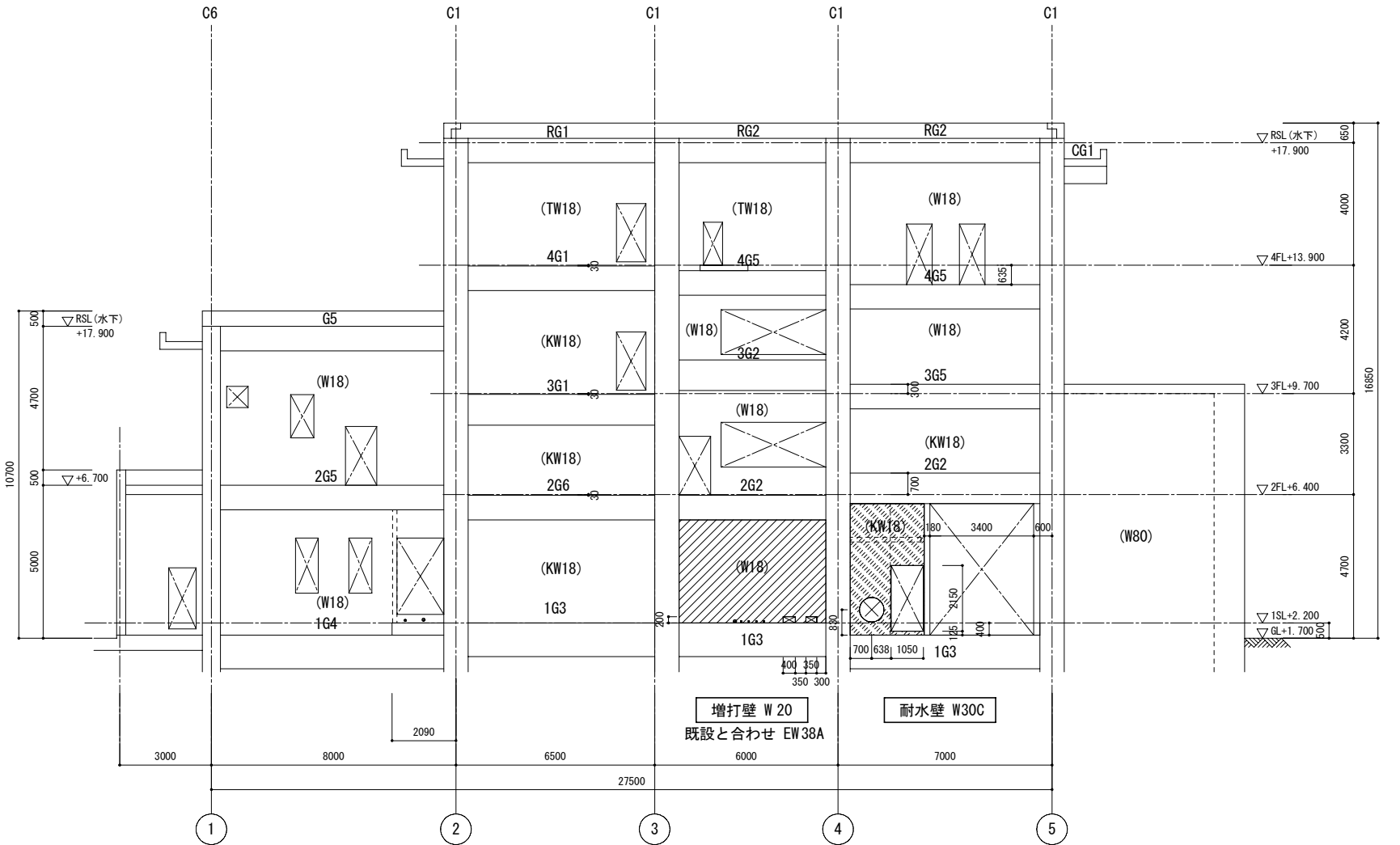
| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | ポンプ棟 補強範囲図(3) | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | S-16 |

ポンプ棟 補強範囲軸組図(1)



A通軸組図 S=1/100

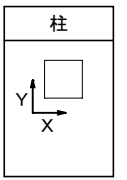
- 注) 特記なき限り
- ()内は、既設壁符号を示す。
 - 斜線は、壁増打補強範囲を示す。
 - 縦線は、梁側面増打範囲 (t=250) を示す。



E通軸組図 S=1/100

- 注) 特記なき限り
- ()内は、既設壁符号を示す。
 - 斜線は、壁増打補強範囲を示す。
 - 縦線は、耐水壁築造範囲を示す。

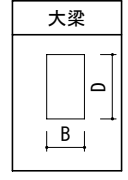
柱 凡例



柱リスト

| 階 | 符号 | Dx × Dy |
|---|----|-----------|
| 1 | C1 | 800 × 800 |
| 2 | C1 | 800 × 800 |
| 3 | C1 | 800 × 800 |

大梁 凡例

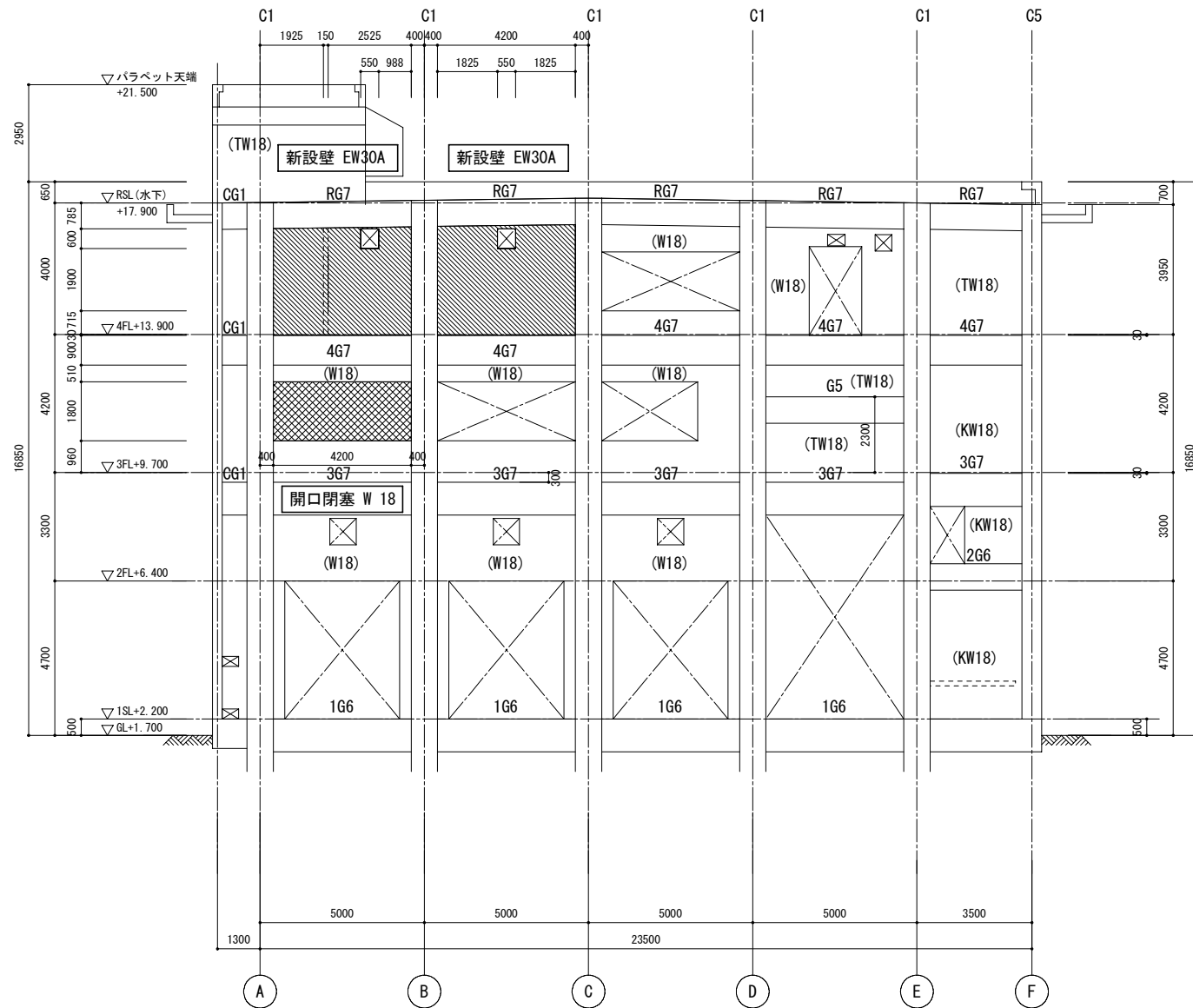


大梁リスト

| 階 | 符号 | B × D |
|---|----|------------|
| 1 | G1 | 800 × 1100 |
| | G3 | 800 × 1100 |
| 2 | G2 | 600 × 1000 |
| 3 | G5 | 500 × 800 |
| 4 | G5 | 500 × 800 |

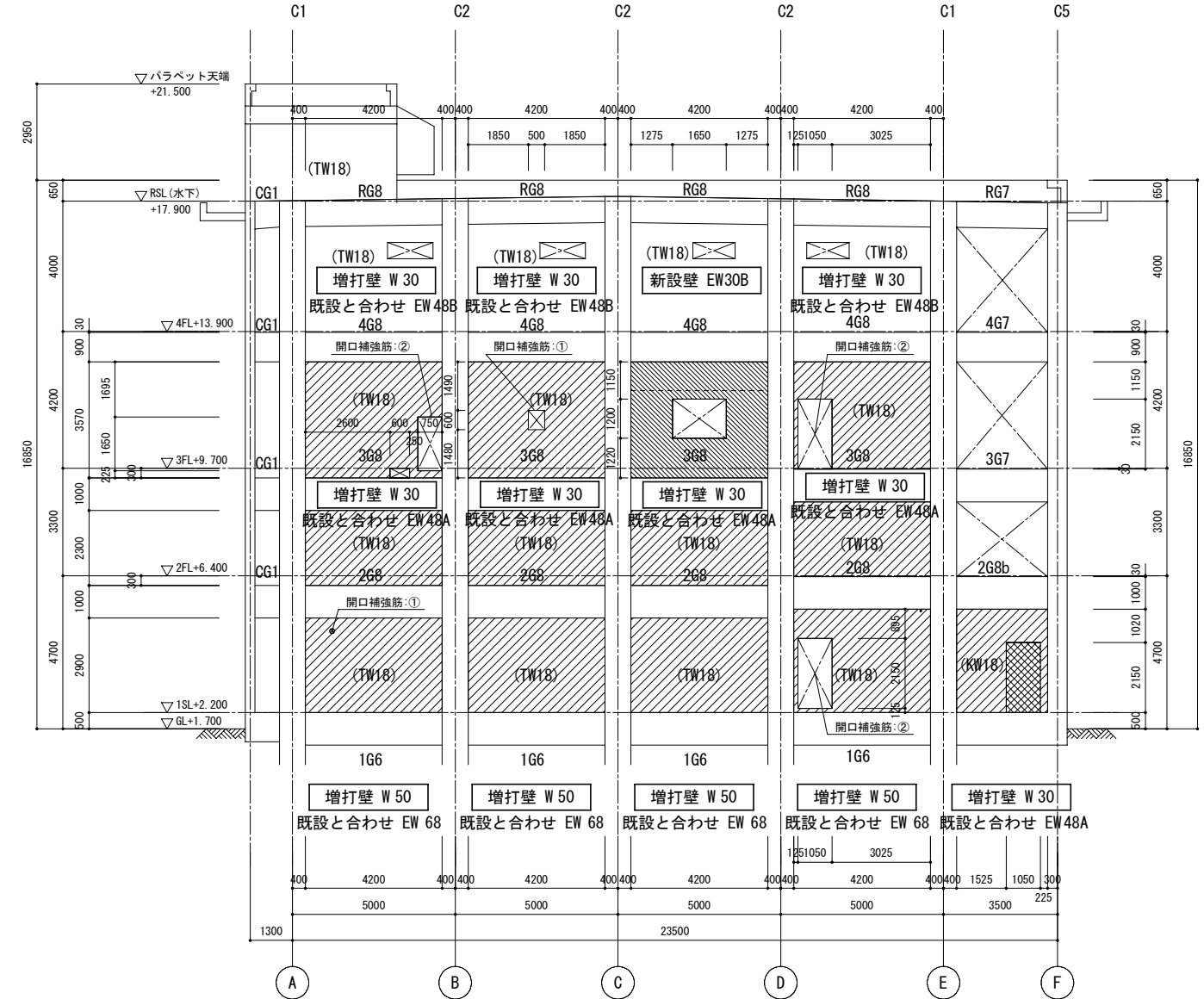
| | | | |
|------|-----------------|---------|-------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 機津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | ポンプ棟 補強範囲軸組図(1) | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 | (株) NJS | |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | S-17 |

ポンプ棟 補強範囲軸組図(2)



2通軸組図 S=1/100

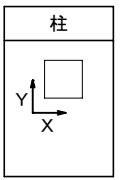
- 注) 特記なき限り
- ()内は、既設壁符号を示す。
 - XXXXは、開口閉塞を示す。
 - XXXXは、壁新設範囲を示す。



3通軸組図 S=1/100

- 注) 特記なき限り
- ()内は、既設壁符号を示す。
 - XXXXは、壁増打補強範囲を示す。
 - XXXXは、開口閉塞を示す。
 - XXXXは、壁新設範囲を示す。

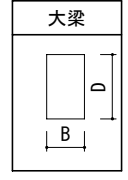
柱 凡例



柱リスト

| 階 | 符号 | Dx × Dy |
|---|----|------------|
| 1 | C1 | 800 × 800 |
| | C2 | 1200 × 800 |
| | C5 | 600 × 600 |
| 2 | C1 | 800 × 800 |
| | C2 | 1200 × 800 |
| 3 | C1 | 800 × 800 |
| | C2 | 1200 × 800 |
| 4 | C1 | 800 × 800 |

大梁 凡例

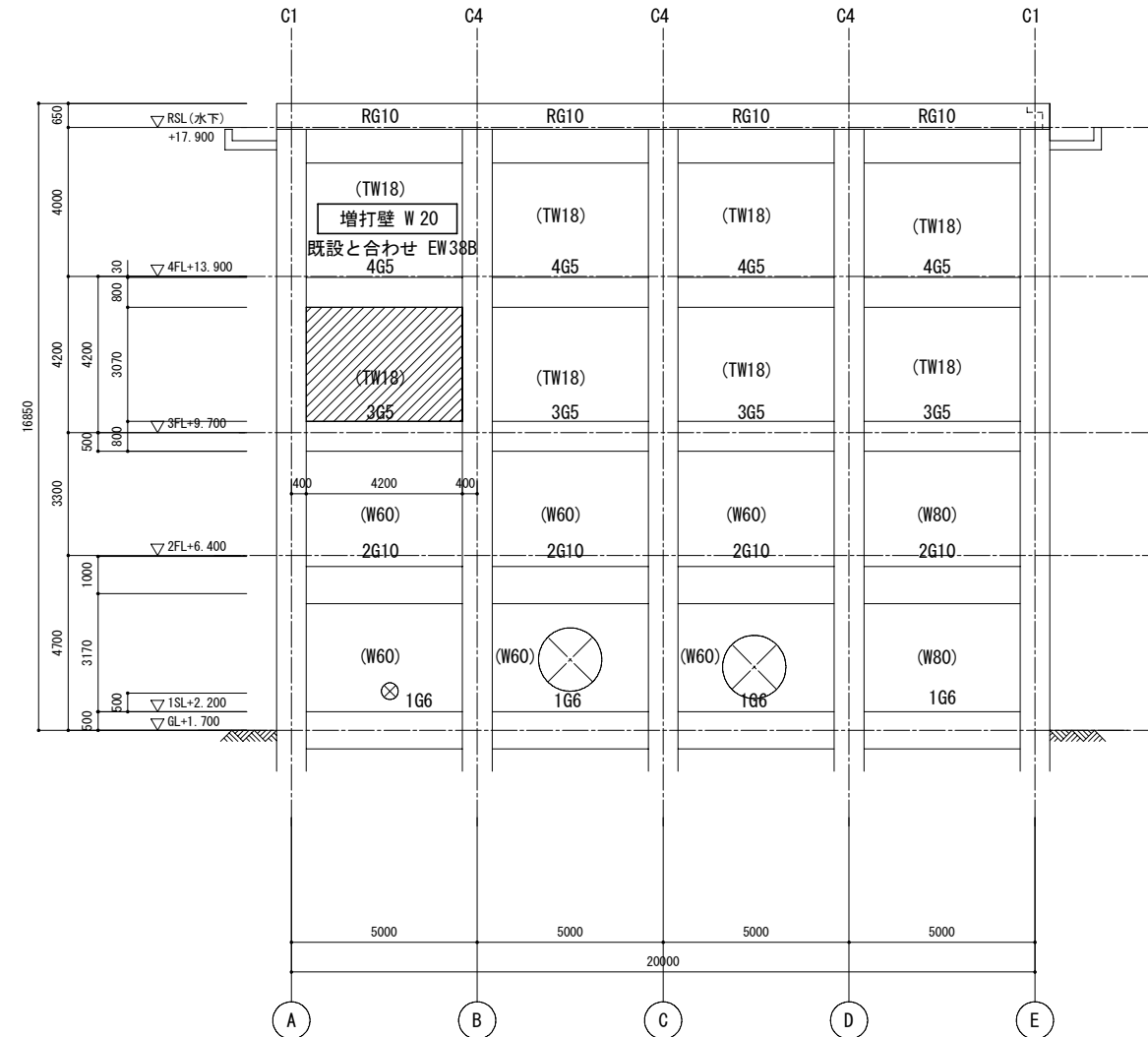


大梁リスト

| 階 | 符号 | B × D |
|---|----|------------|
| 1 | G6 | 800 × 1000 |
| | G8 | 700 × 1000 |
| 3 | G7 | 500 × 1000 |
| | G8 | 500 × 1000 |
| 4 | G7 | 500 × 900 |
| | G8 | 500 × 900 |
| R | G7 | 500 × 800 |

| | |
|------|------------------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 |
| 名称 | ポンプ棟 補強範囲軸組図(2) |
| 縮尺 | 1/100 設計年月 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 S-18 |

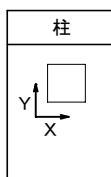
ポンプ棟 補強範囲軸組図(3)



5通軸組図 S=1/100

- 注) 特記なき限り
 1. ()内は、既設壁符号を示す。
 2. 斜線は、壁増打補強範囲を示す。

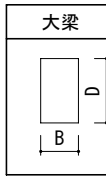
柱 凡例



柱リスト

| 階 | 符号 | Dx × Dy |
|---|----|------------|
| 3 | C1 | 800 × 800 |
| | C4 | 800 × 1200 |

大梁 凡例



大梁リスト

| 階 | 符号 | B × D |
|---|----|-----------|
| 3 | G5 | 500 × 800 |
| 4 | G5 | 500 × 800 |

| | | | |
|------|-----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | ポンプ棟 補強範囲軸組図(3) | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | S-19 |

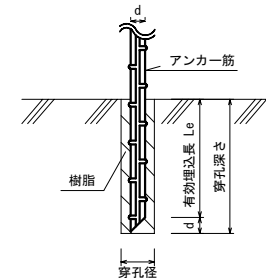
ポンプ棟 補強部材リスト

特記事項

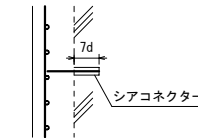
1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
2. 鉄筋コンクリートの設計基準強度は21N/mm²とする。
3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)とする。
4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm²とする。
5. 幅止筋を1m2当り、1本 (D10) 入れること。

補強部材リスト(壁増打) S=1/30

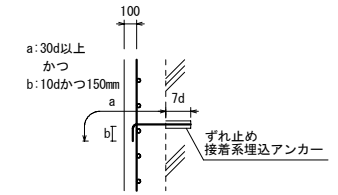
| 符号 | EW38A (増打W20) | EW38B (増打W20) | EW43 (増打W25) | EW48A (増打W30) | EW48B (増打W30) | EW68 (増打W50) |
|------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|------------------|
| 断面 | | | | | | |
| 縦筋 | D10 # 200(ダブル) | D10 # 200(ダブル) | D13 # 200(ダブル) | D19 # 200(ダブル) | D19 # 200(ダブル) | D22 # 200(ダブル) |
| 横筋 | D10 # 200(ダブル) | D10 # 200(ダブル) | D13 # 200(ダブル) | D19 # 200(ダブル) | D19 # 200(ダブル) | D22 # 200(ダブル) |
| 開口補強筋 ① | 縦 | 4-D13 | - | 4-D13 | - | 4-D13 |
| | 横 | 4-D13 | - | 4-D13 | - | 4-D13 |
| | 斜め | 2-D13 | - | 2-D13 | - | 2-D13 |
| 開口補強筋 ② | 縦 | - | - | - | 4-D16 | 4-D16 |
| | 横 | - | - | - | 4-D16 | 4-D16 |
| | 斜め | - | - | - | 4-D16 | 4-D16 |
| 接着系アンカー | D16#150(シングル)ナット付 | D19#200(シングル)ナット付 | D19#150(シングル)ナット付 | D22#175(ダブル)ナット付 | D22#200(ダブル)ナット付 | D22#175(ダブル)ナット付 |
| 割裂補強筋 | φ6-径 120 (スパイラル筋) | φ6-径 120 (スパイラル筋) | φ6-径 150 (スパイラル筋) | φ6-径 200 (スパイラル筋) | φ6-径 150 (スパイラル筋) | □ - D13 # 100 |
| シアコネクタ | D10-400×400 | D10-400×400 | D10-400×400 | D10-400×400 | D10-400×400 | D10-400×400 |
| 備考 | - | - | - | - | - | - |



接着系アンカー 施工要領図



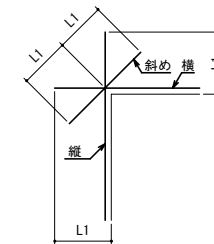
シアコネクタ要領図



ずれ止めアンカー要領図

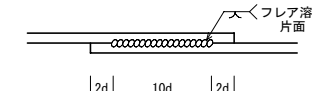
- 注) 1. アンカーは接着系とする。
2. アンカー鉄筋の長さは増打厚さの半分以上とする。

- 注) 1. アンカーは接着系とする。
2. アンカー鉄筋の長さは30d以上、増打厚さの半分以上とする。



L1の長さはSD295Aは40d
SD345は45dとする。

開口補強筋定着要領図



フレア溶接要領図

| 鉄筋径 | ピッチ | 有効埋込長 (Le) | 引張強度 (kN) | 試験強度 (kN) |
|-----------|------|------------|-----------|-----------|
| 壁アンカー筋 | | | | |
| D10 | #400 | Le=70 | 18.54 | 12.36 |
| D10 | #200 | Le=100 | 21.03 | 14.02 |
| D13 | #200 | Le=100 | 36.74 | 24.49 |
| D13 | #200 | Le=130 | 37.47 | 24.98 |
| D16 | #150 | Le=120 | 37.81 | 25.21 |
| D16 | #200 | Le=120 | 47.60 | 31.73 |
| D19 | #150 | Le=140 | 44.91 | 29.94 |
| D19 | #200 | Le=140 | 57.65 | 38.43 |
| D22 | #175 | Le=160 | 59.81 | 39.87 |
| D22 | #200 | Le=160 | 67.34 | 44.89 |
| D22 | #200 | Le=220 | 93.85 | 62.57 |
| 開口補強アンカー筋 | | | | |
| D13 | #80 | Le=130 | 22.54 | 15.03 |
| D16 | #90 | Le=160 | 31.28 | 20.85 |
| 梁アンカー筋 | | | | |
| D16 | #220 | Le=160 | 58.71 | 39.14 |

補強部材リスト(壁新設) S=1/30

| 符号 | EW30A | EW30B |
|-------|-----------------------------|-----------------------------|
| 断面 | | |
| 縦筋 | D13 # 200(ダブル) | D16 # 200(ダブル) |
| 横筋 | D13 # 200(ダブル) | D16 # 200(ダブル) |
| 開口補強筋 | 縦 | 4-D13 |
| | 横 | 4-D13 |
| | 斜め | 2-D13 |
| 接合部 | 接着系アンカー D19#200(ダブル)ナット付 | 接着系アンカー D19#200(ダブル)ナット付 |
| 割裂補強筋 | φ6-径 200 (スパイラル筋) | φ6-径 200 (スパイラル筋) |
| 備考 | - | - |

補強部材リスト(耐水壁築造) S=1/30

| 符号 | W30A | W30B | W30C |
|-------|-------------------------|---|--------------------------|
| 断面 | | | |
| 縦筋 | D13 # 200(ダブル) | D22 # 200(ダブル) | D13 # 200(シングル) |
| 横筋 | D13 # 200(ダブル) | D13 # 200(ダブル) | D13 # 200(シングル) |
| 開口補強筋 | 縦 | 4-D13 | - |
| | 横 | 4-D13 | - |
| | 斜め | 4-D13 | - |
| 接合部 | 接着系アンカー D13#200(ダブル) | 接着系アンカー 縦筋: D22#200(ダブル) 横筋: D13#200(ダブル) | 接着系アンカー D13#200(シングル) |
| 備考 | - | - | - |

補強部材リスト(開口閉塞) S=1/30

| 符号 | W18 | KW18 |
|-------|--|--|
| 断面 | | |
| 既設壁 | 縦筋: D10 # 200(ダブル) 横筋: D10 # 200(ダブル) | 縦筋: D13 # 200(ダブル) 横筋: D10 # 200(ダブル) |
| 開口閉塞 | 縦筋 | D10 # 200(ダブル) |
| | 横筋 | D10 # 200(ダブル) |
| | 接着系アンカー | D16#200(シングル)ナット付 有効埋込長Le=120 |
| 割裂補強筋 | φ6-径 100 (スパイラル筋) | φ6-径 100 (スパイラル筋) |
| 備考 | 接着系アンカー、スパイラル筋は柱・梁との接合面のみに使用 | 接着系アンカー、スパイラル筋は柱・梁との接合面のみに使用 |

| | |
|------|----------------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 |
| 名称 | ポンプ棟 補強部材リスト |
| 縮尺 | 1/30 |
| 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | 設計者 (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 S-20 |

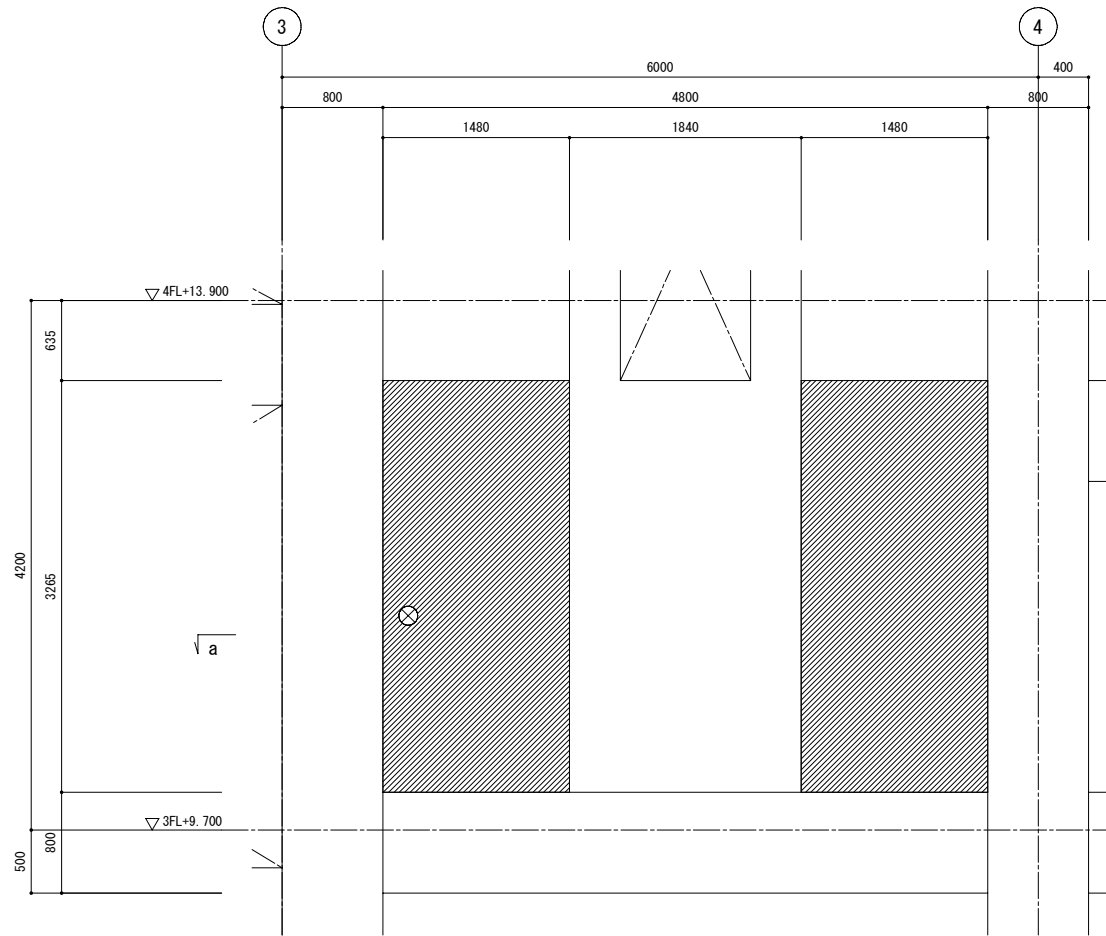
ポンプ棟 補強配筋図(1)

3階 A通/3-4通間 EW43

増打

特記事項

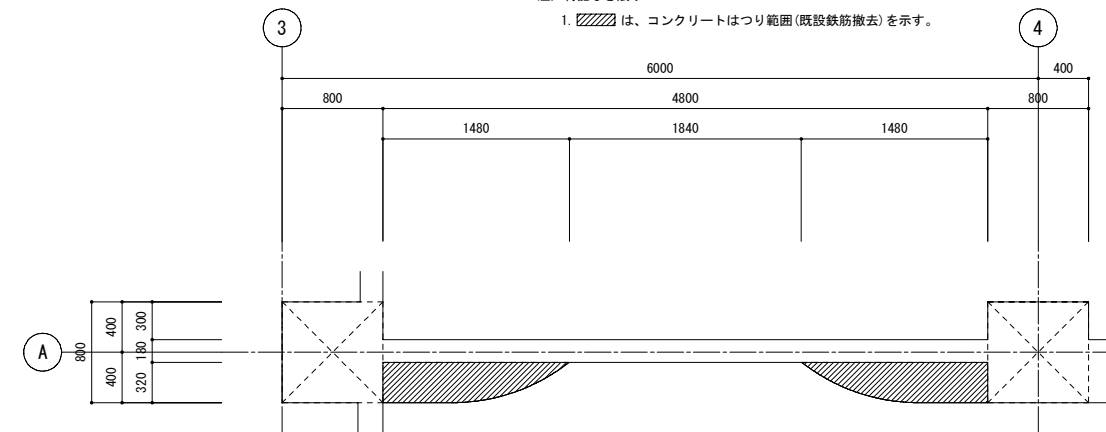
1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
2. 鉄筋コンクリートの設計基準強度は21N/mm²とする。
3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)とする。
4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm²とする。
5. 幅止筋を1m2当り、1本 (D10) 入れること。



はつり範囲要領図 S=1/30

注) 特記なき限り

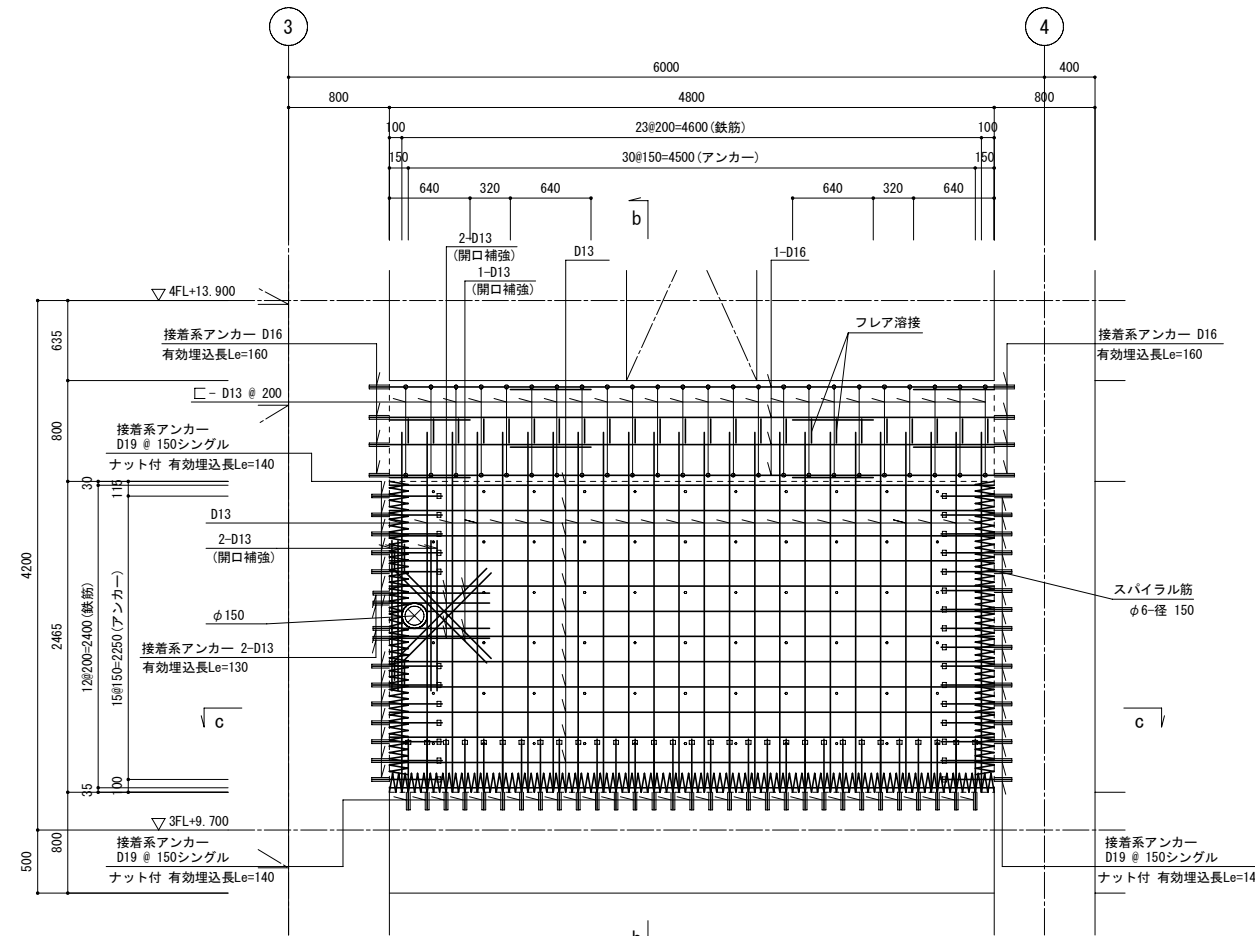
1. は、コンクリートはつり範囲 (既設鉄筋撤去) を示す。



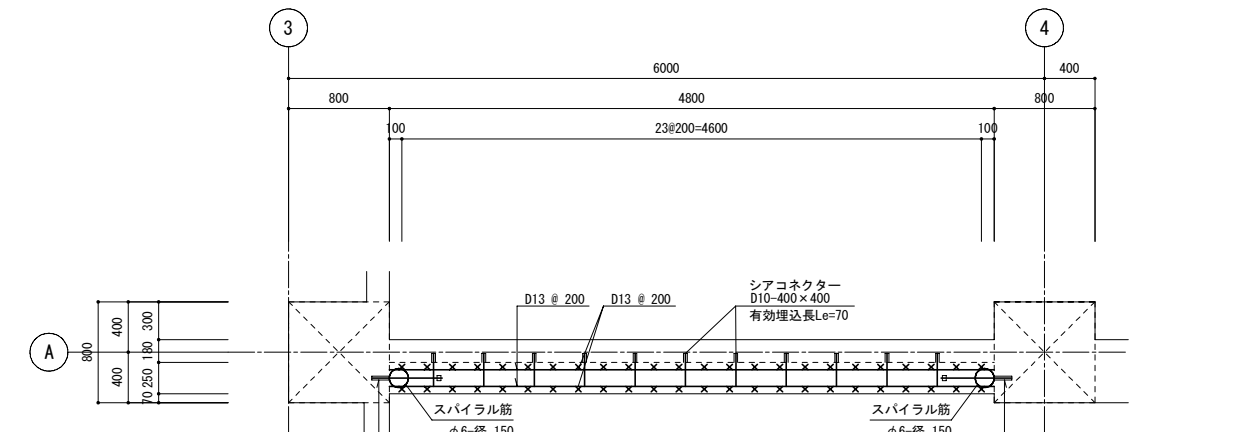
a-a断面配筋図 S=1/30

注) 特記なき限り

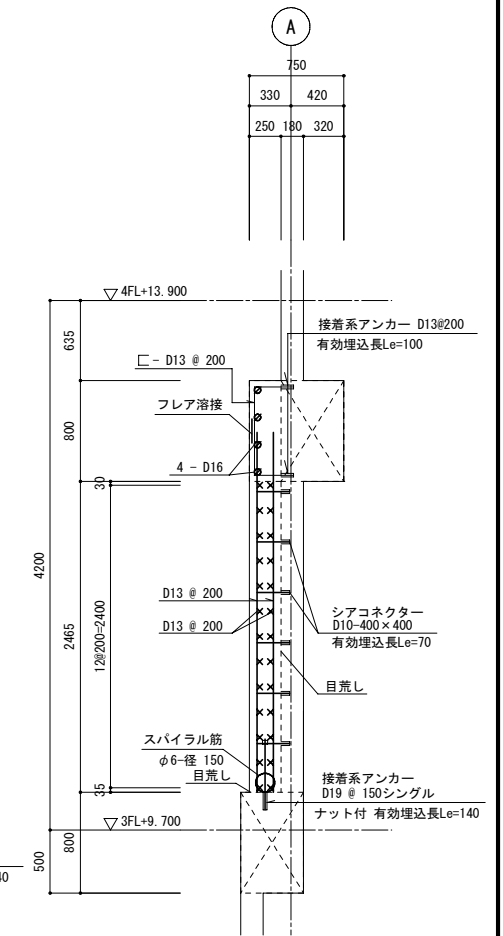
1. は、コンクリートはつり範囲 (既設鉄筋撤去) を示す。



壁配筋図 S=1/30



c-c断面配筋図 S=1/30



b-b断面配筋図 S=1/30

| | |
|------|-----------------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 |
| 名称 | ポンプ棟 補強配筋図(1) |
| 縮尺 | 1/30 設計年月 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 S-21 |

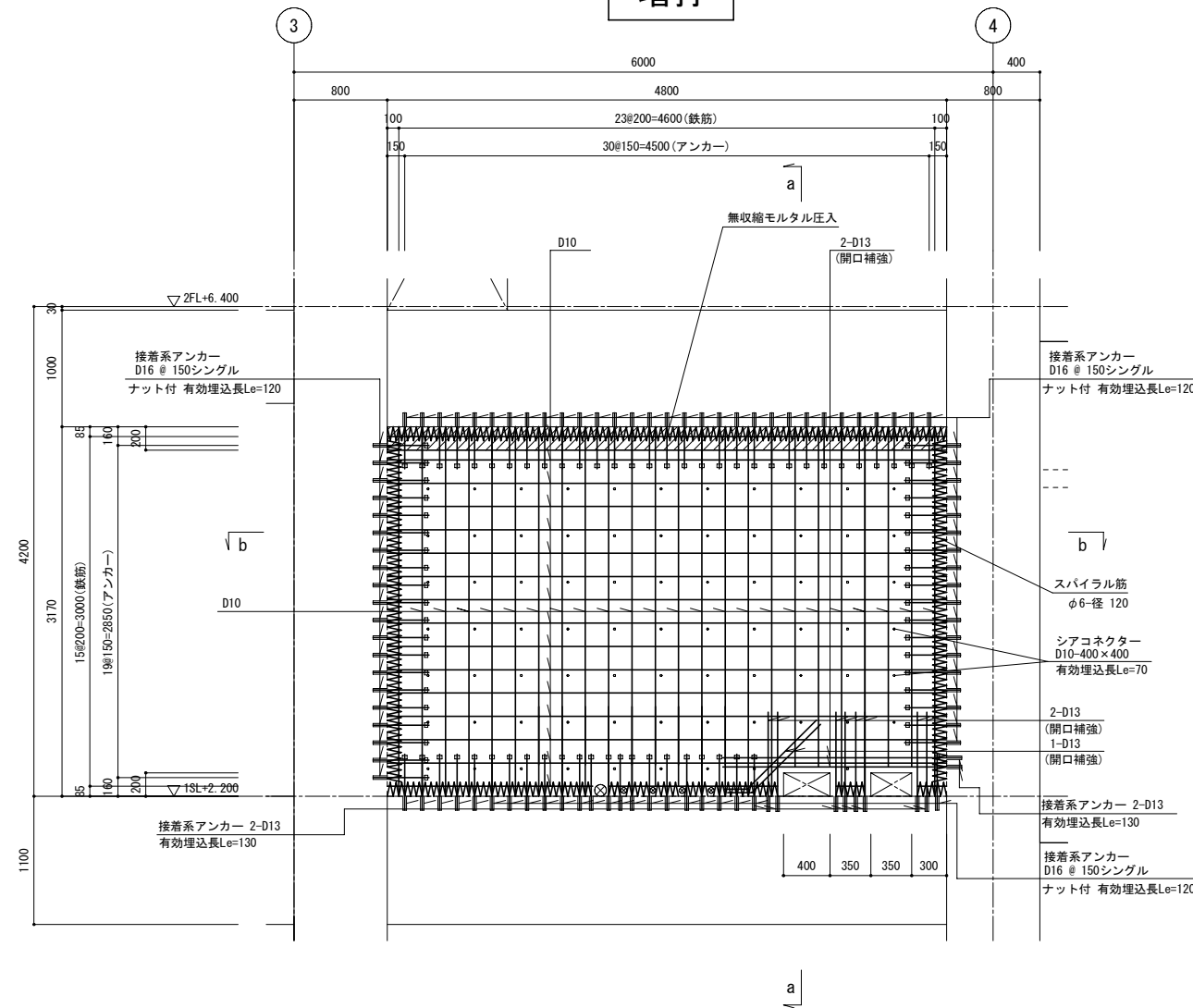
ポンプ棟 補強配筋図(2)

1階 E通/3-4通間 EW38A

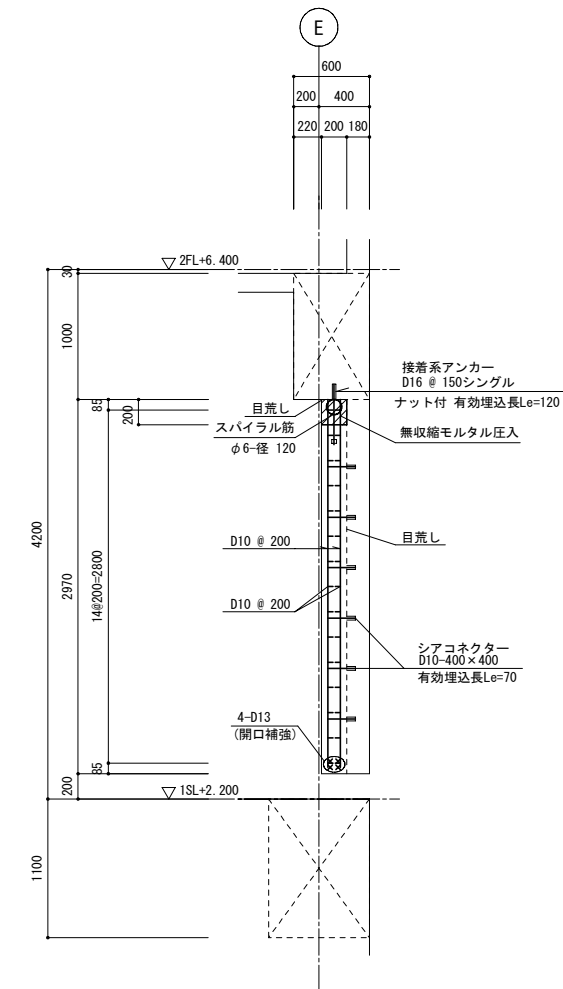
増打

特記事項

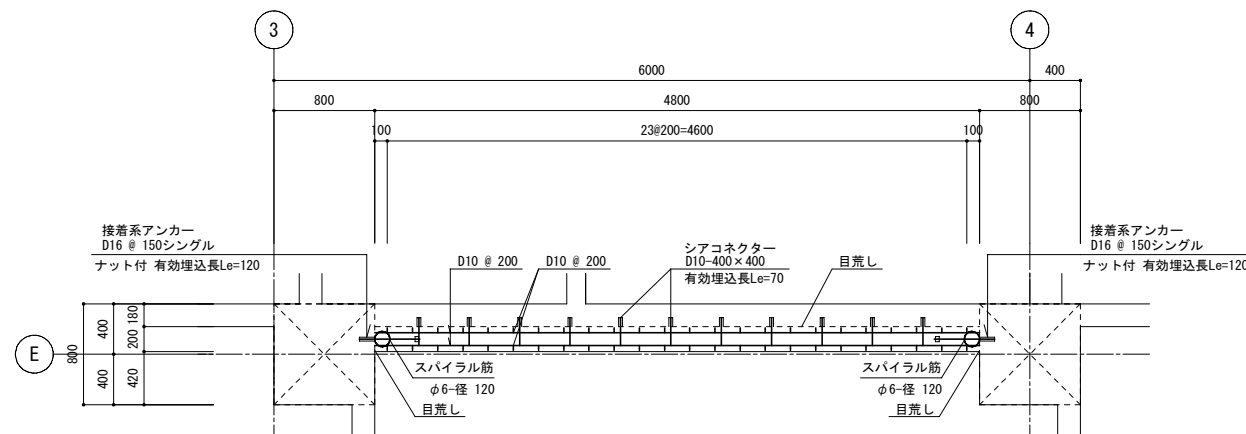
1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
2. 鉄筋コンクリートの設計基準強度は21N/mm²とする。
3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)とする。
4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm²とする。
5. 幅止筋を1m²当たり、1本(D10)入れること。



壁配筋図 S=1/30



a-a断面配筋図 S=1/30



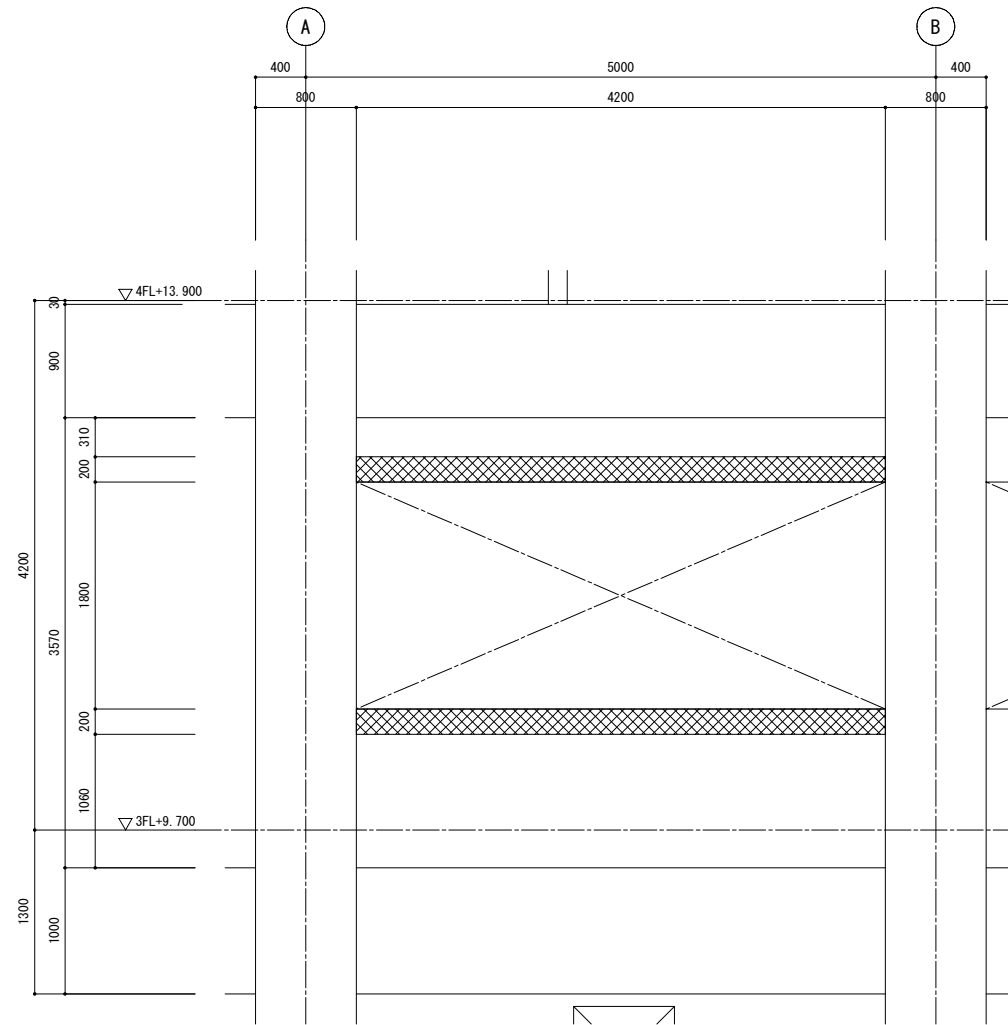
b-b断面配筋図 S=1/30

| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | ポンプ棟 補強配筋図(2) | | |
| 縮尺 | 1/30 | 設計年月 | 令和 年月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | S-22 |

ポンプ棟 補強配筋図(3)

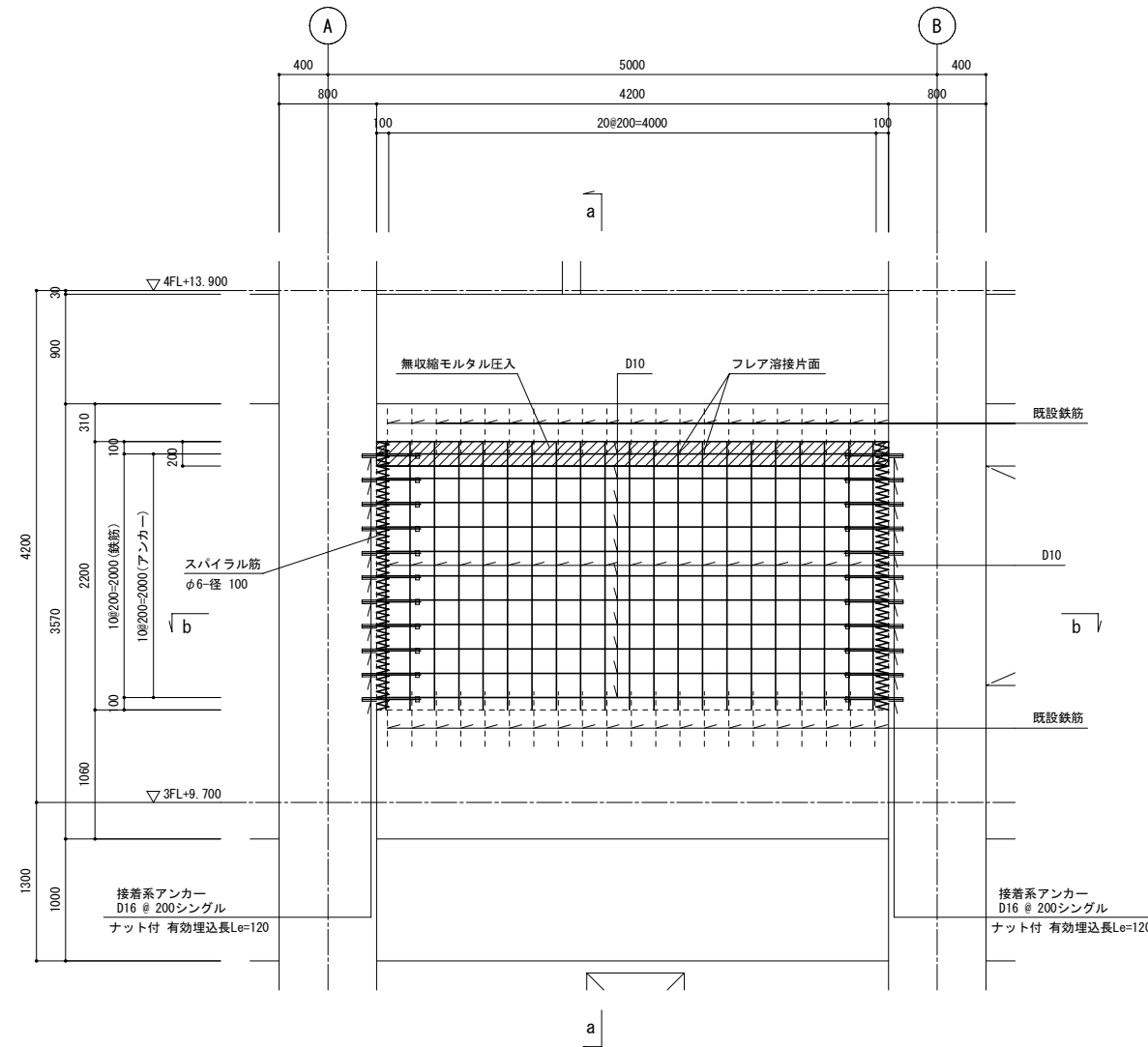
3階 2通/A-B通間 W18

開口閉塞

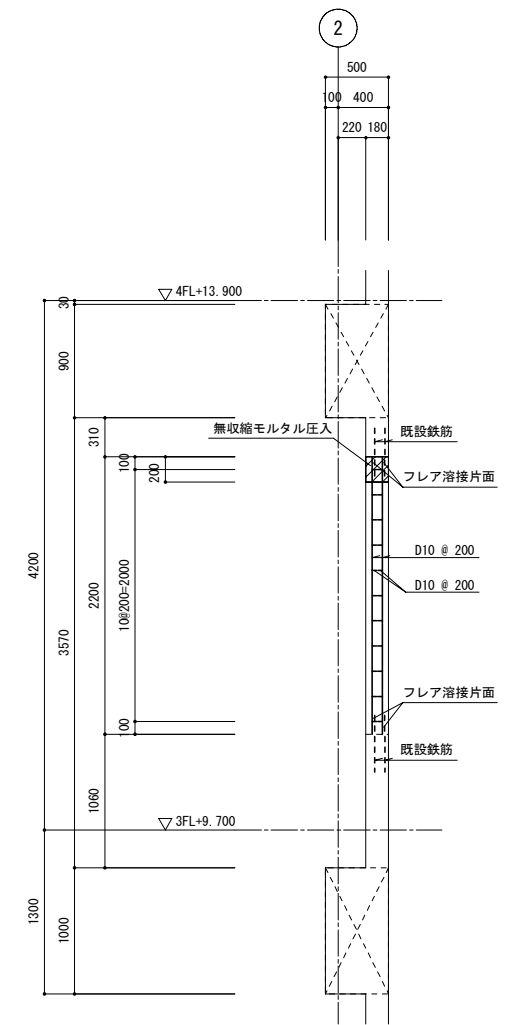


はつり範囲要領図 S=1/30

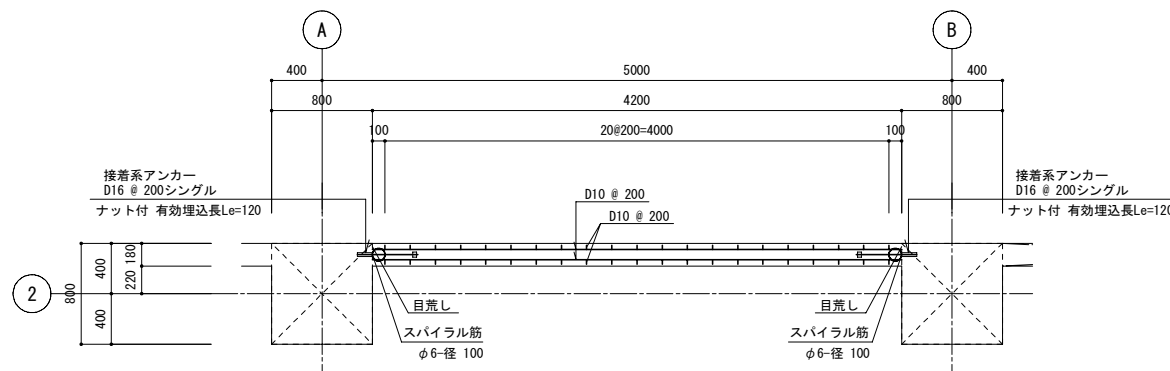
注) 特記なき限り
1. は、コンクリートはつり範囲(既設鉄筋残し)を示す。



壁配筋図 S=1/30



a-a断面配筋図 S=1/30



b-b断面配筋図 S=1/30

特記事項

1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
2. 鉄筋コンクリートの設計基準強度は21N/mm² とする。
3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上) とする。
4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm² とする。
5. 幅止筋を1m²当り、1本 (D10) 入れること。

| | | | |
|------|----------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | ポンプ棟 補強配筋図(3) | | |
| 縮尺 | 1/30 | 設計年月 | 令和 年月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | S-23 |

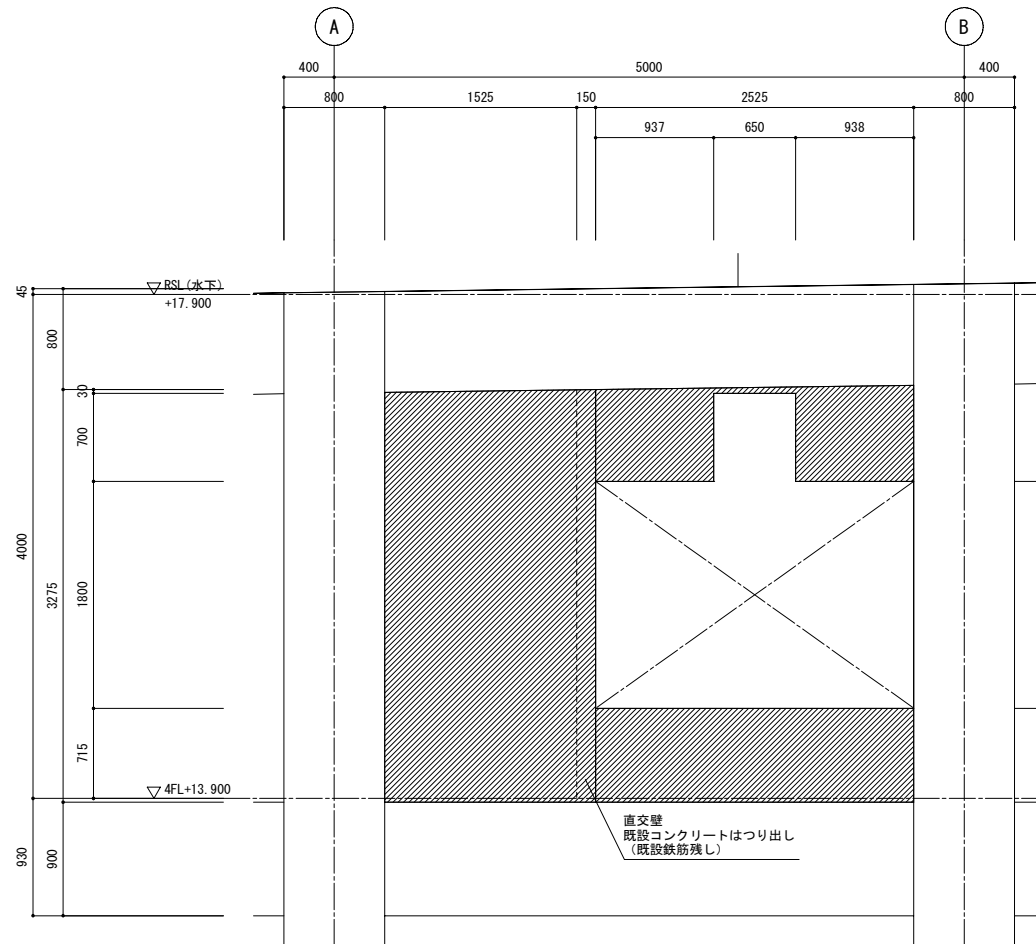
ポンプ棟 補強配筋図(4)

4階 2通/A-B通間 EW30A

特記事項

1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
2. 鉄筋コンクリートの設計基準強度は21N/mm²とする。
3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)とする。
4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm²とする。
5. 幅止筋を1m²当たり、1本 (D10) 入れること。

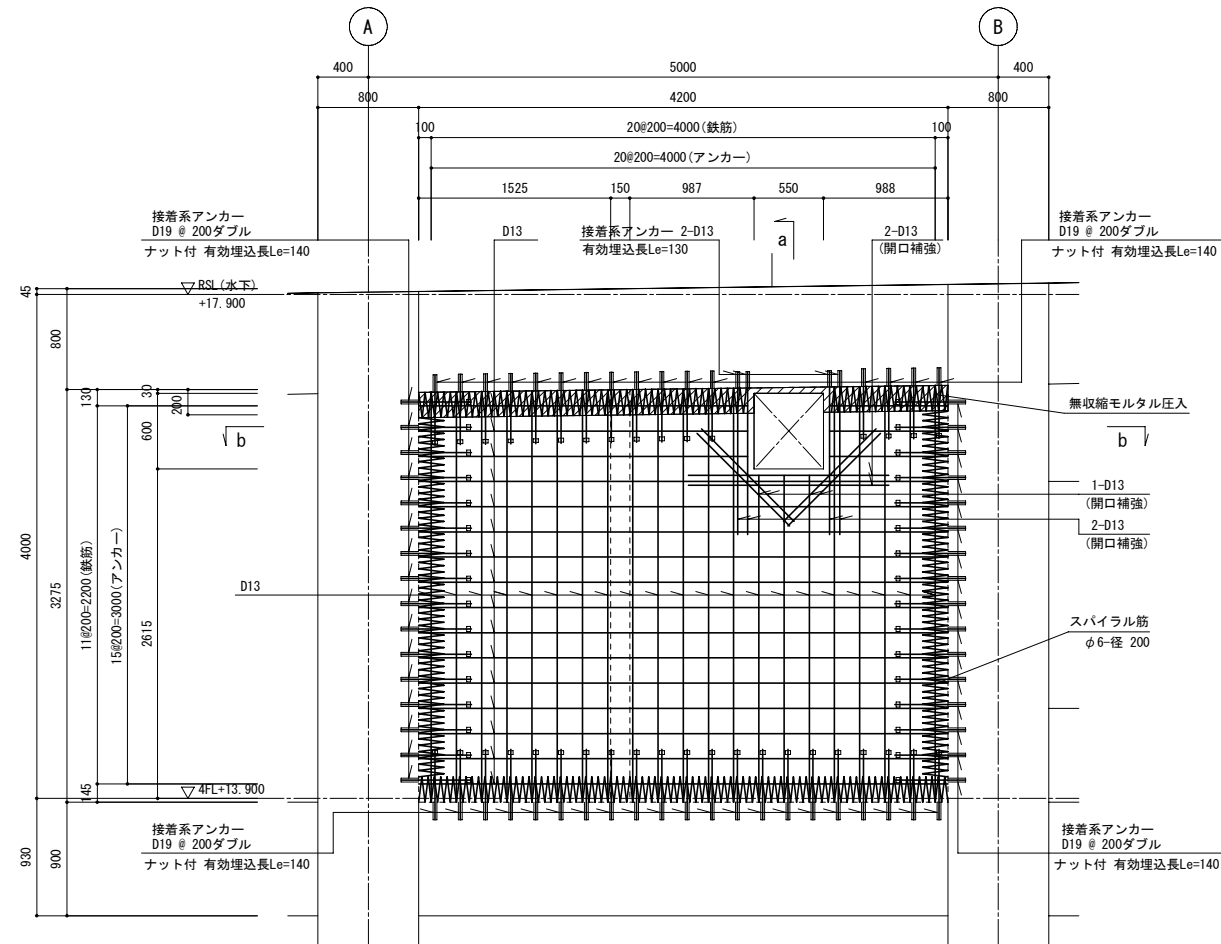
新設



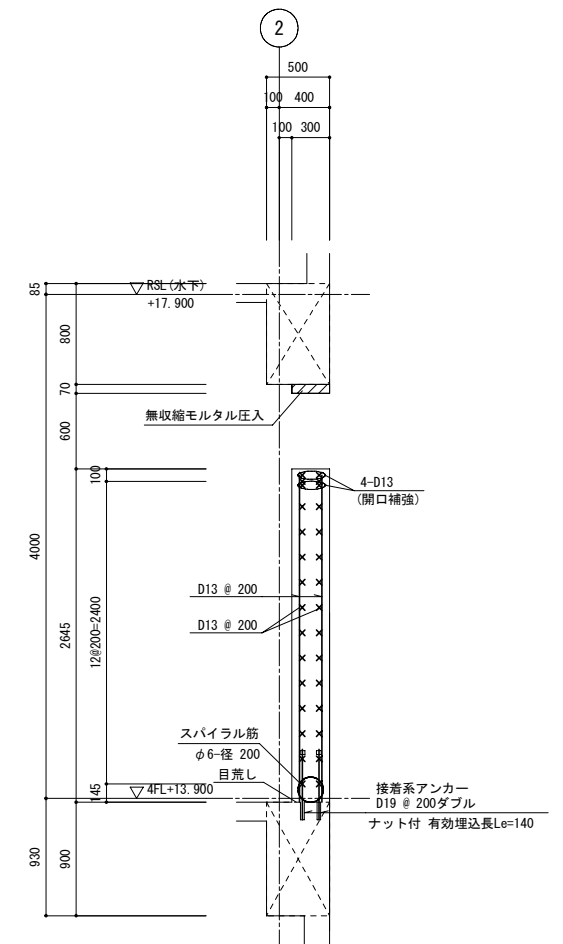
はつり範囲要領図 S=1/30

注) 特記なき限り

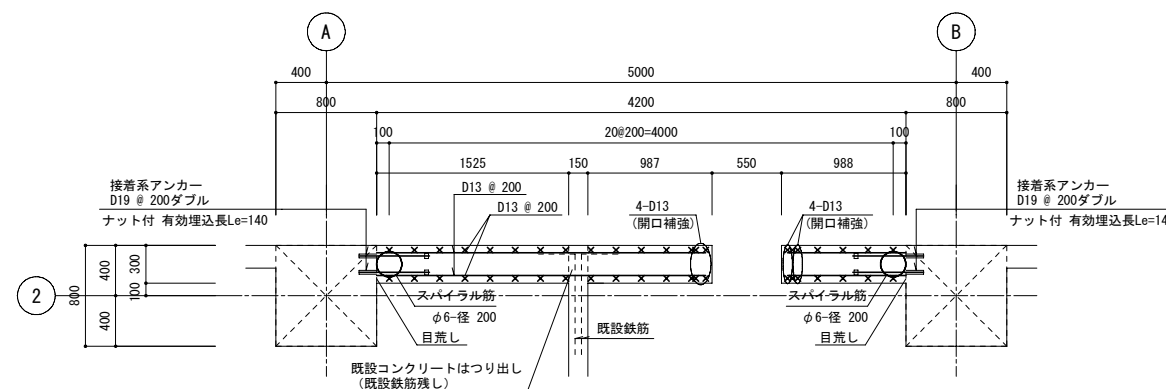
1. は、コンクリートはつり範囲 (既設鉄筋撤去) を示す。



壁配筋図 S=1/30



a-a断面配筋図 S=1/30



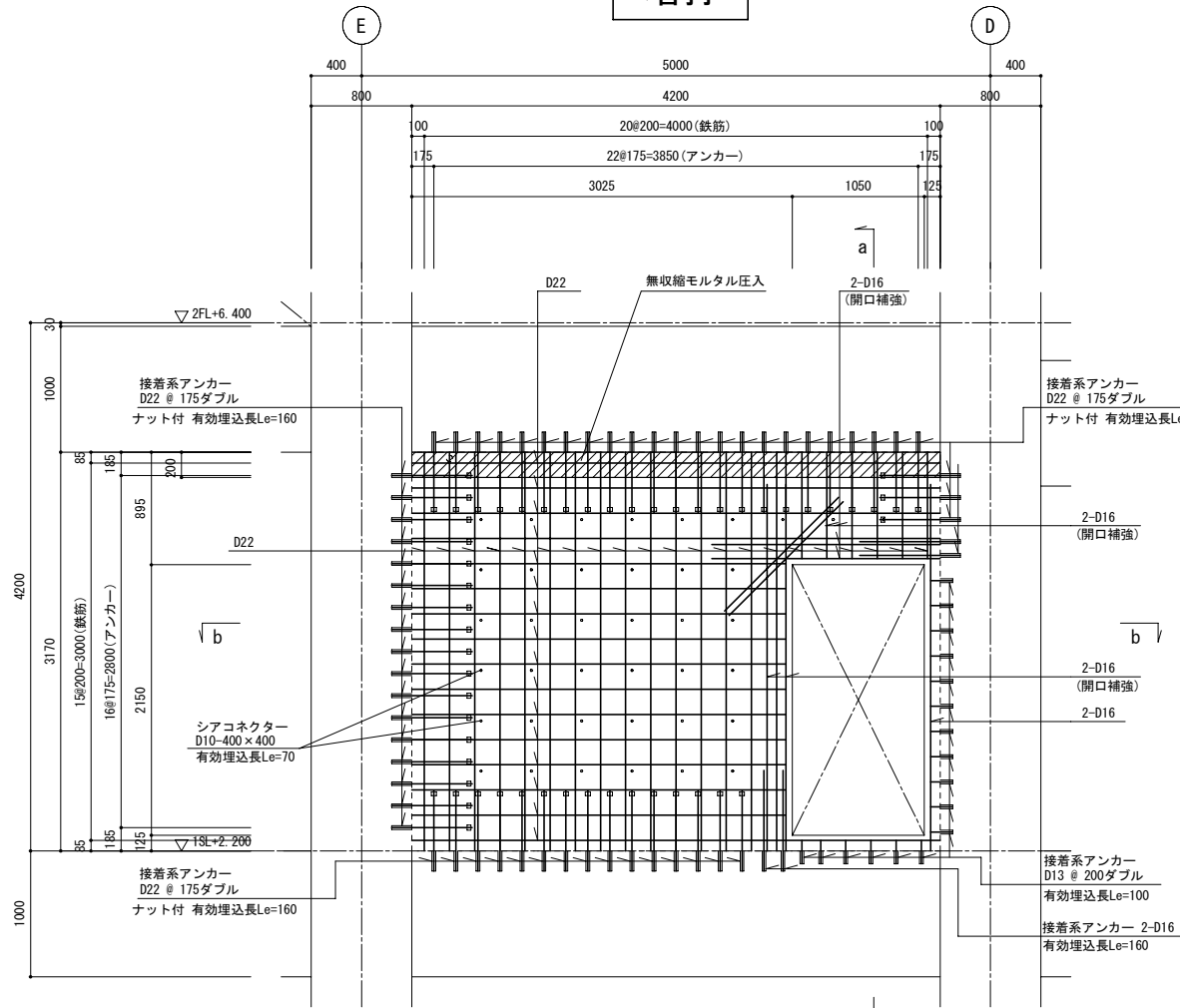
b-b断面配筋図 S=1/30

| | | | |
|------|----------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | ポンプ棟 補強配筋図(4) | | |
| 縮尺 | 1/30 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | S-24 |

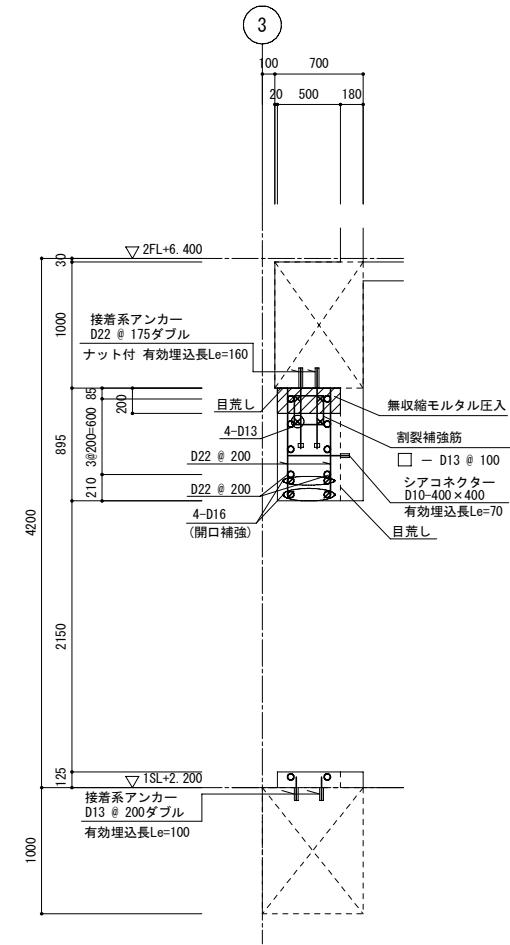
ポンプ棟 補強配筋図(5)

1階 3通/D-E通間 EW68

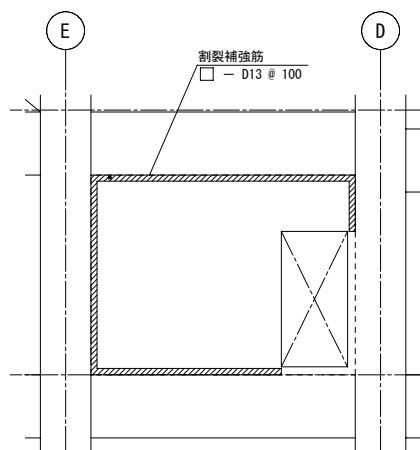
増打



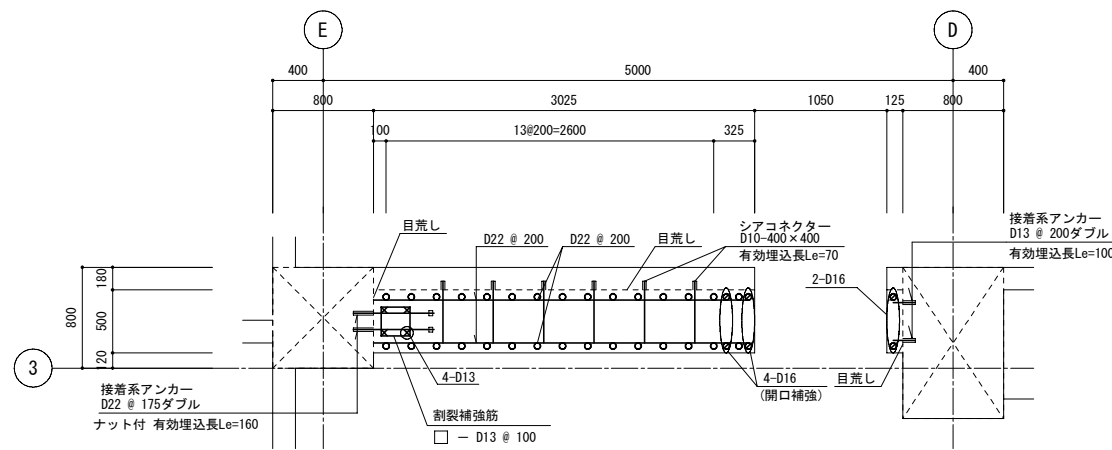
壁配筋図 S=1/30



a-a断面配筋図 S=1/30



KEY PLAN
EW68 割製補強筋位置



b-b断面配筋図 S=1/30

特記事項

1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
2. 鉄筋コンクリートの設計基準強度は21N/mm²とする。
3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)とする。
4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm²とする。
5. 幅止筋を1m²当り、1本 (D10) 入れること。

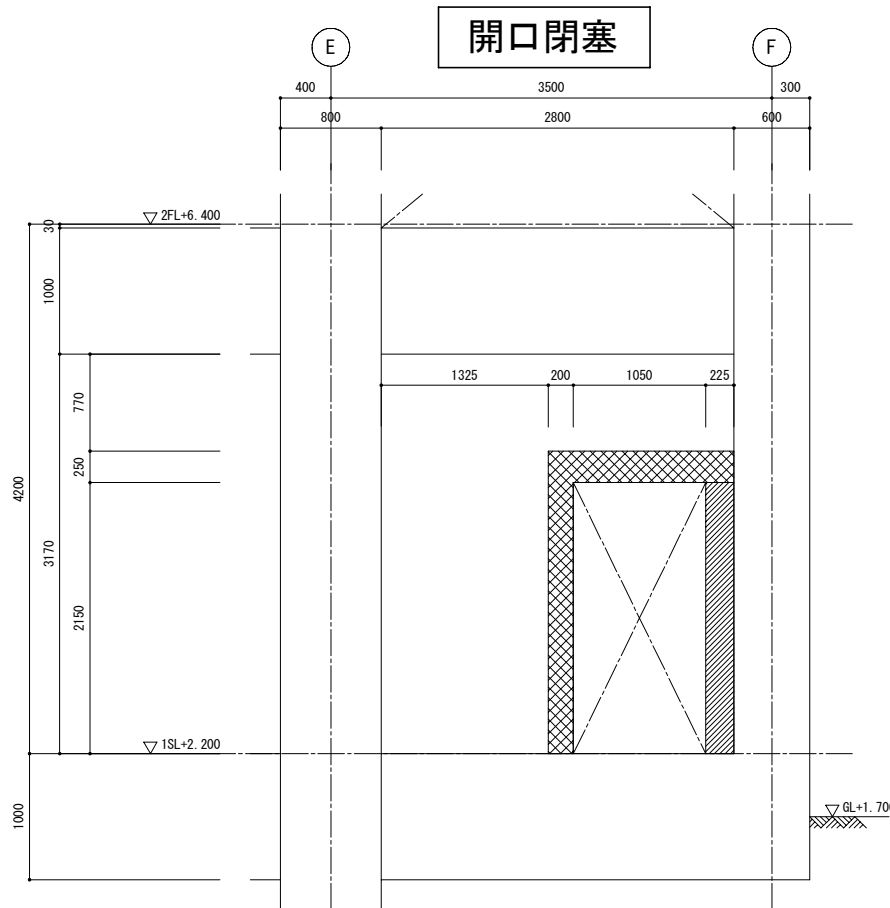
| | | | |
|------|----------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | ポンプ棟 補強配筋図(5) | | |
| 縮尺 | 1/30 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | S-25 |

ポンプ棟 補強配筋図(6)

1階 3通/E-F通間 EW48A

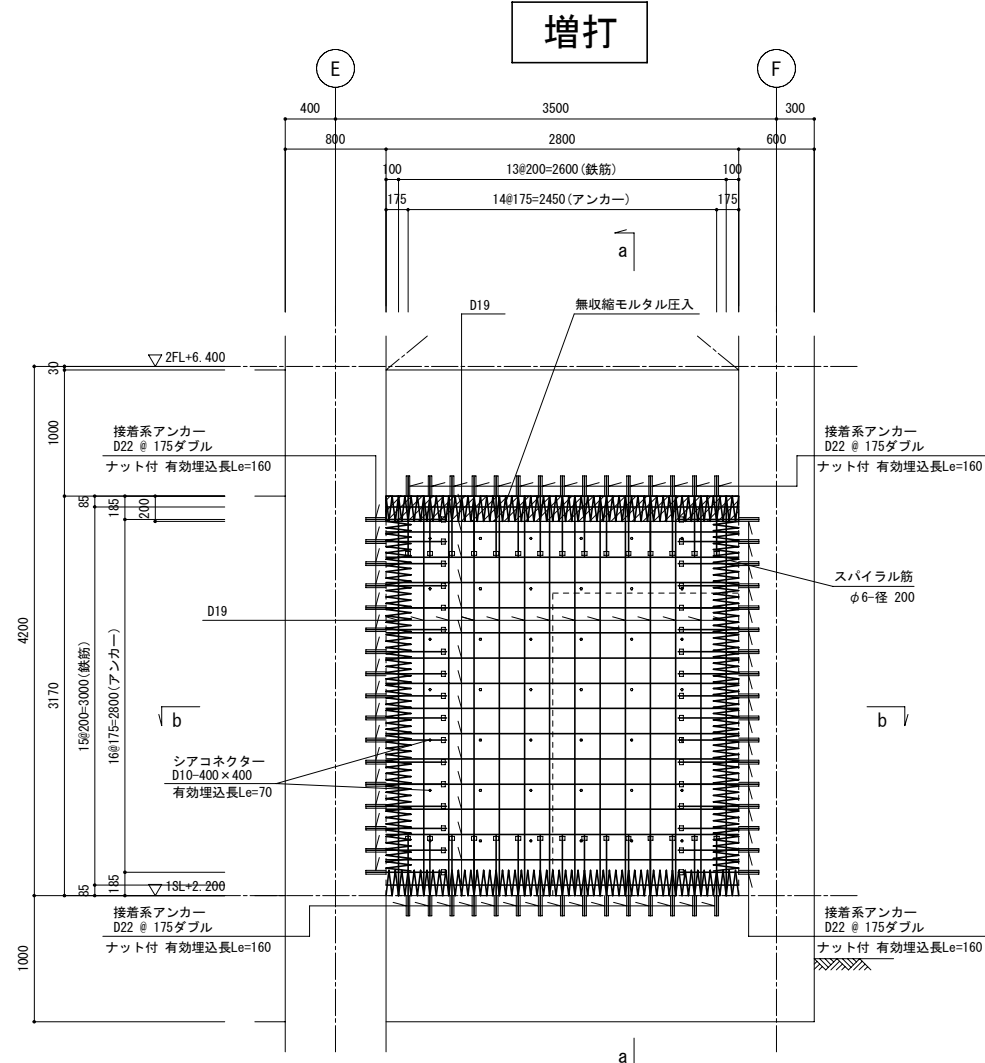
特記事項

1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
2. 鉄筋コンクリートの設計基準強度は21N/mm²とする。
3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)とする。
4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm²とする。
5. 幅止筋を1m2当り、1本(D10)入れること。

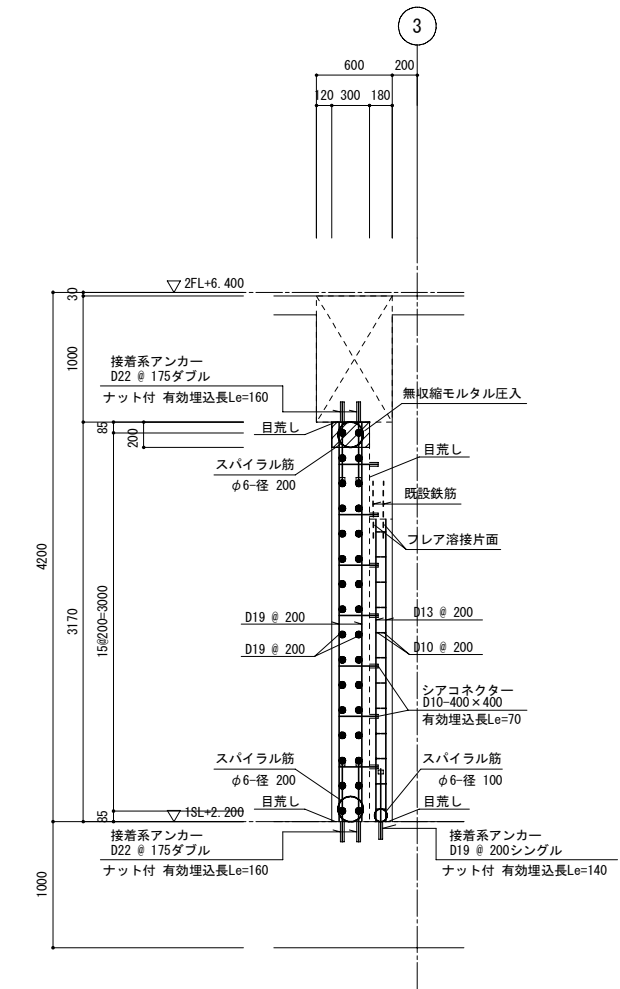


はつり範囲要領図 S=1/30

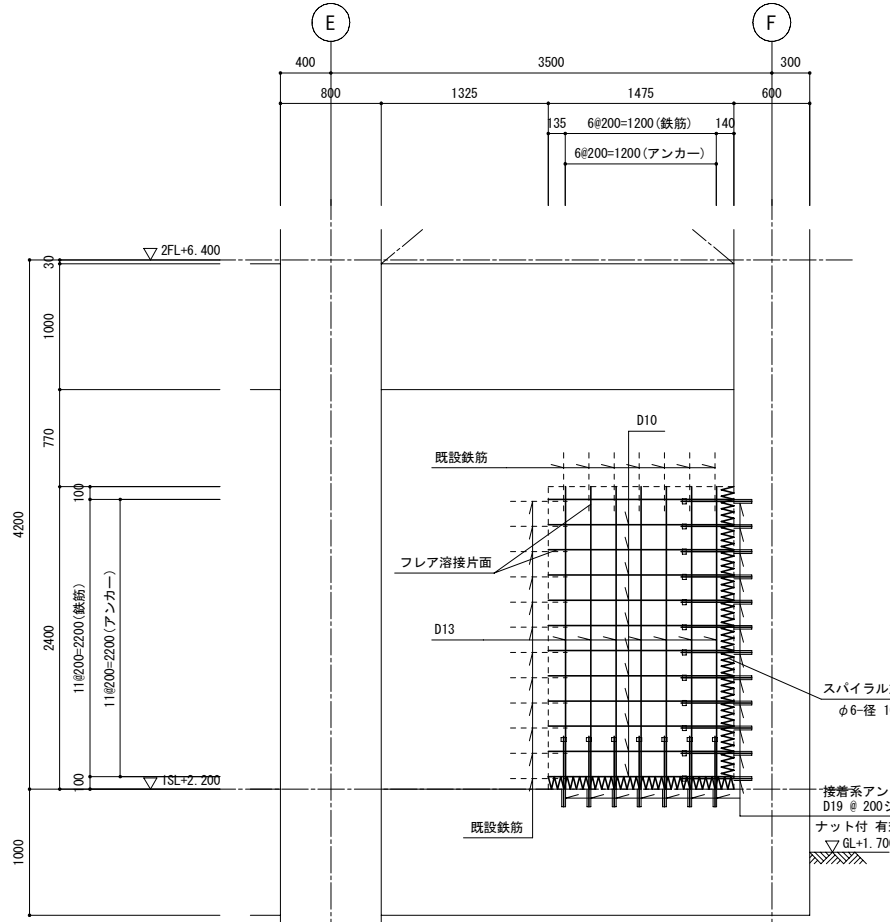
注) 特記なき限り
 1. は、コンクリートはつり範囲(既設鉄筋残し)を示す。
 2. は、コンクリートはつり範囲(既設鉄筋撤去)を示す。



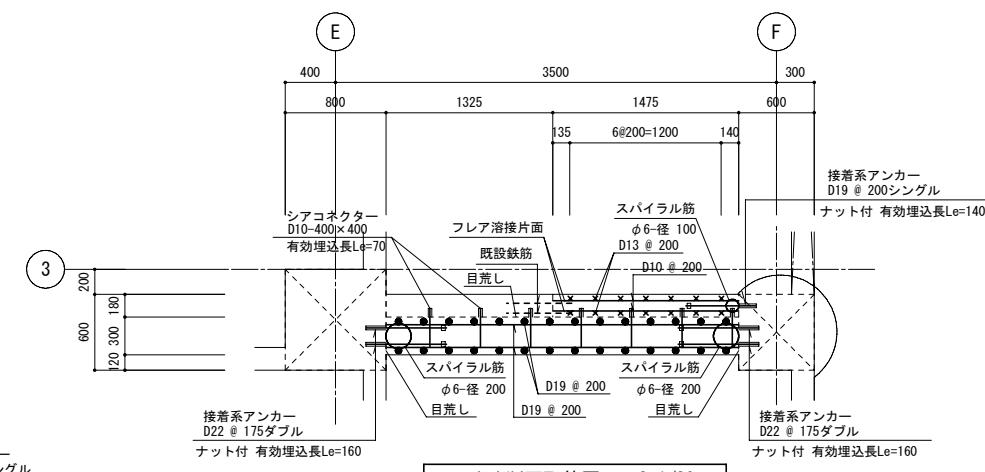
壁配筋図 S=1/30



a-a断面配筋図 S=1/30



閉塞配筋図 S=1/30



b-b断面配筋図 S=1/30

| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | ポンプ棟 補強配筋図(6) | | |
| 縮尺 | 1/30 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | S-26 |

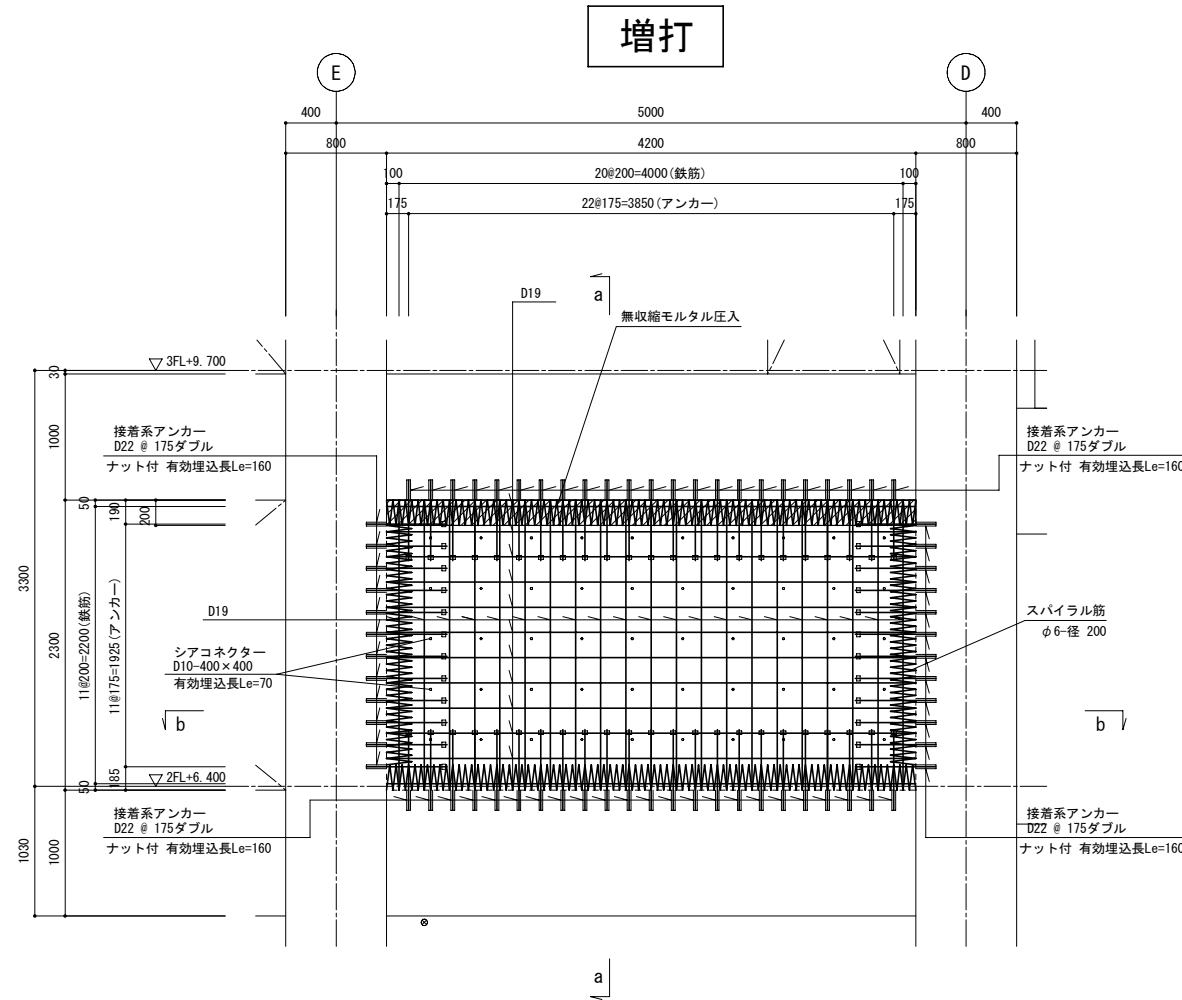
ポンプ棟 補強配筋図(7)

2階 3通/D-E通間 EW48A

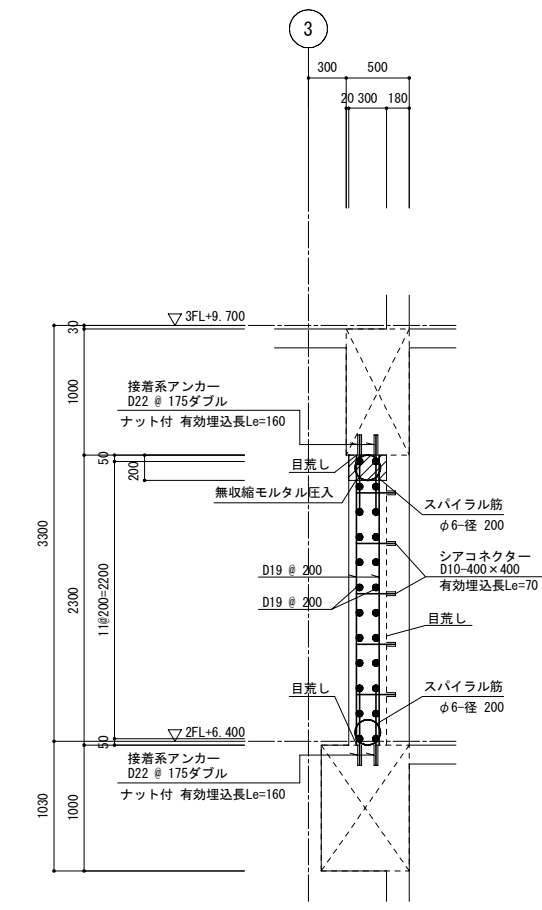
増打

特記事項

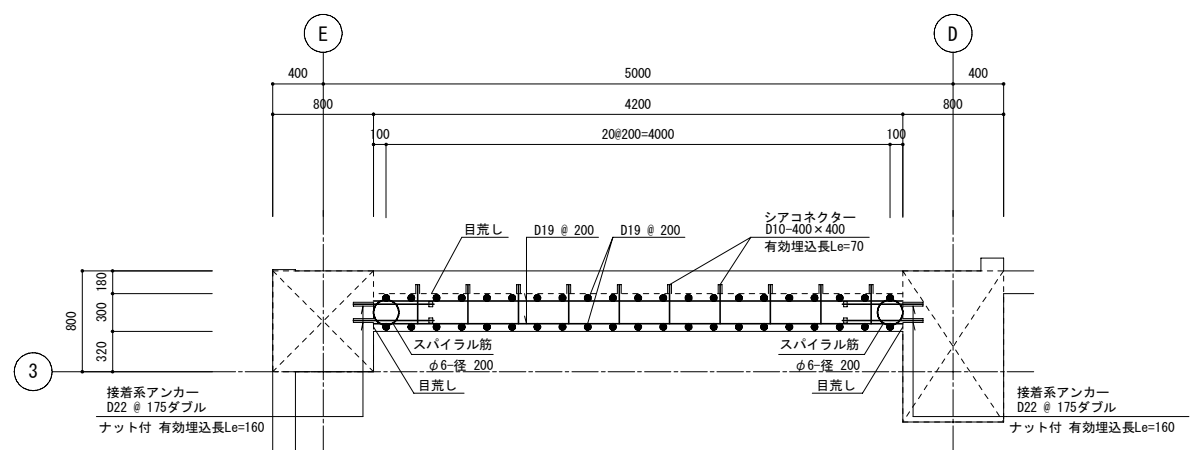
1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
2. 鉄筋コンクリートの設計基準強度は21N/mm²とする。
3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)とする。
4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm²とする。
5. 幅止筋を1m²当たり、1本 (D10) 入れること。



壁配筋図 S=1/30



a-a断面配筋図 S=1/30



b-b断面配筋図 S=1/30

| | | | |
|------|----------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | ポンプ棟 補強配筋図(7) | | |
| 縮尺 | 1/30 | 設計年月 | 令和 年月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | S-27 |

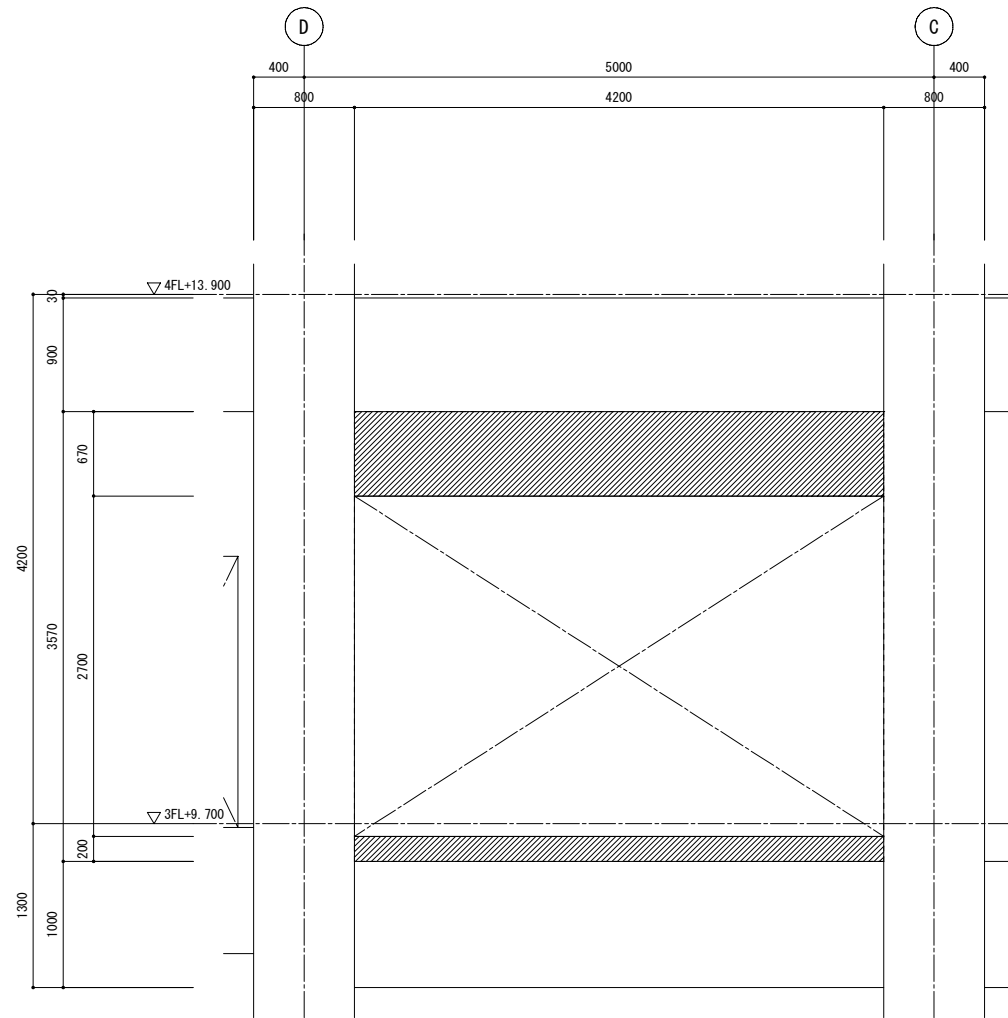
ポンプ棟 補強配筋図(8)

3階 3通/C-D通間 EW30B

新設

特記事項

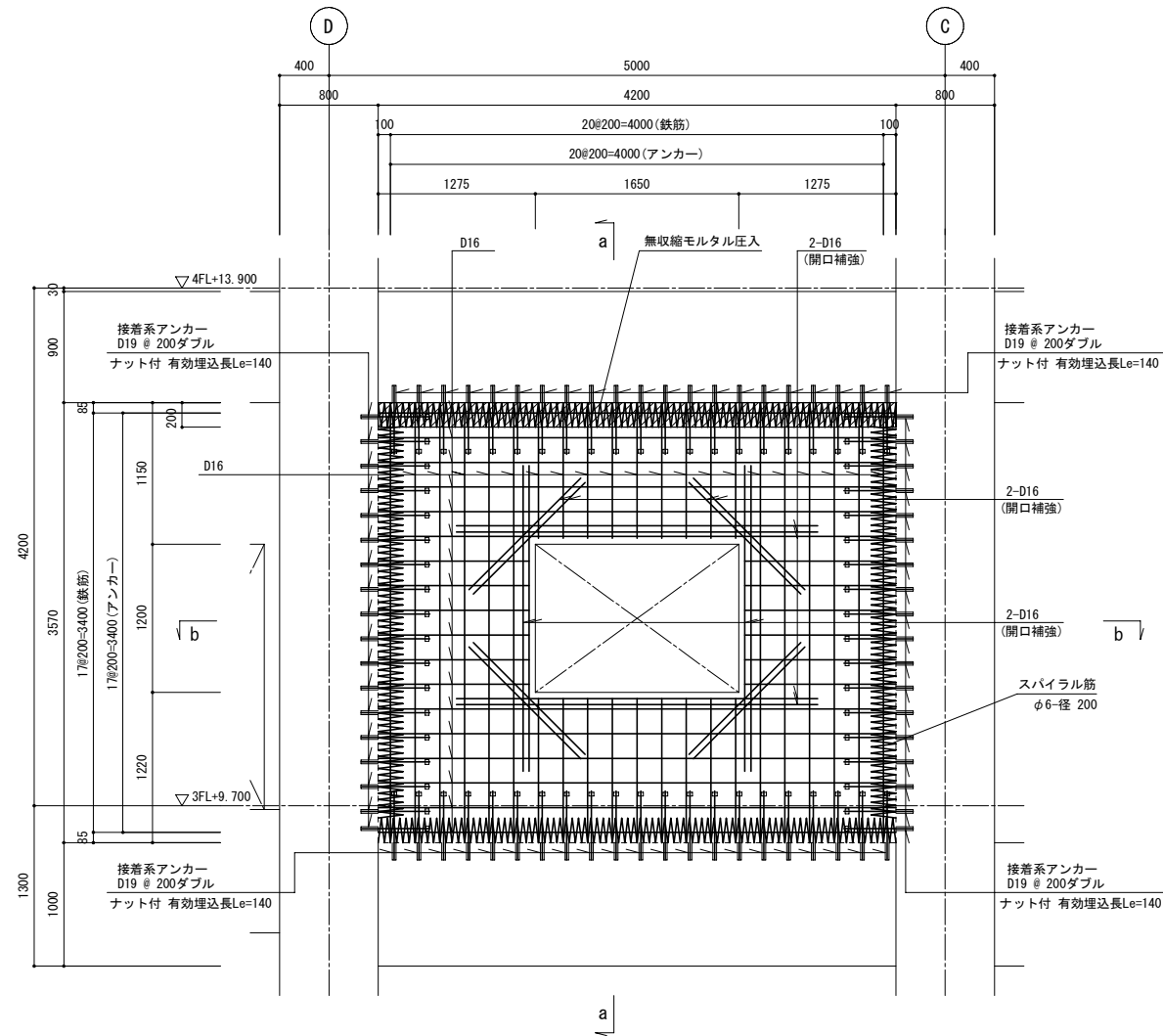
1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
2. 鉄筋コンクリートの設計基準強度は21N/mm²とする。
3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)とする。
4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm²とする。
5. 幅止筋を1m2当り、1本 (D10) 入れること。



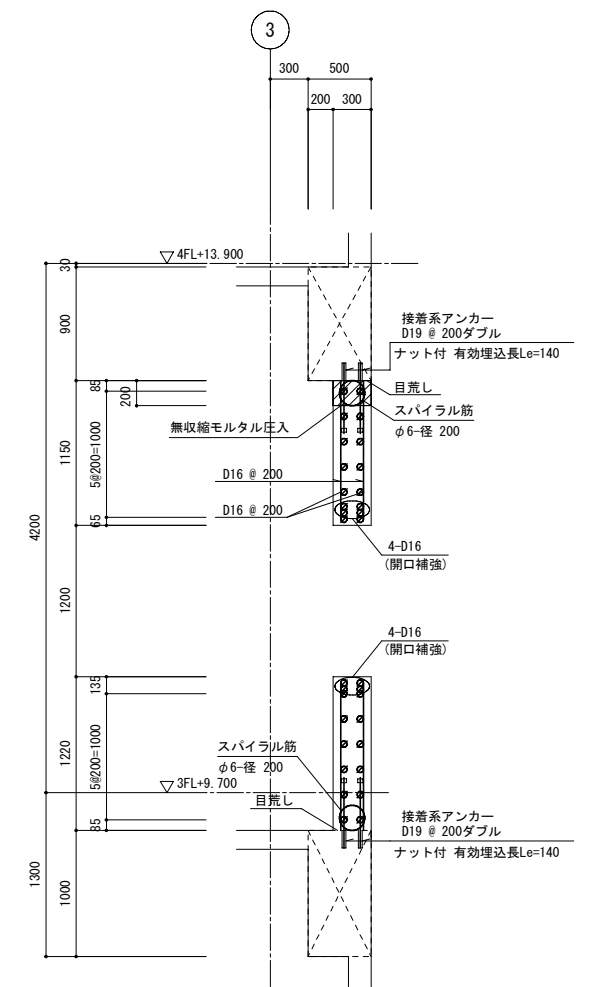
はつり範囲要領図 S=1/30

注) 特記なき限り

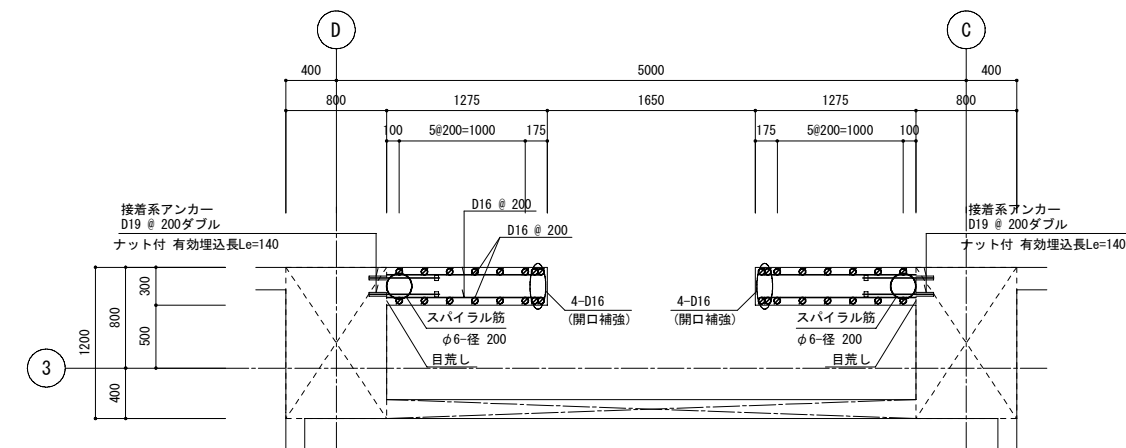
1. は、コンクリートはつり範囲(既設鉄筋撤去)を示す。



壁配筋図 S=1/30



a-a断面配筋図 S=1/30



b-b断面配筋図 S=1/30

| | | | |
|------|----------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | ポンプ棟 補強配筋図(8) | | |
| 縮尺 | 1/30 | 設計年月 | 令和 年月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | S-28 |

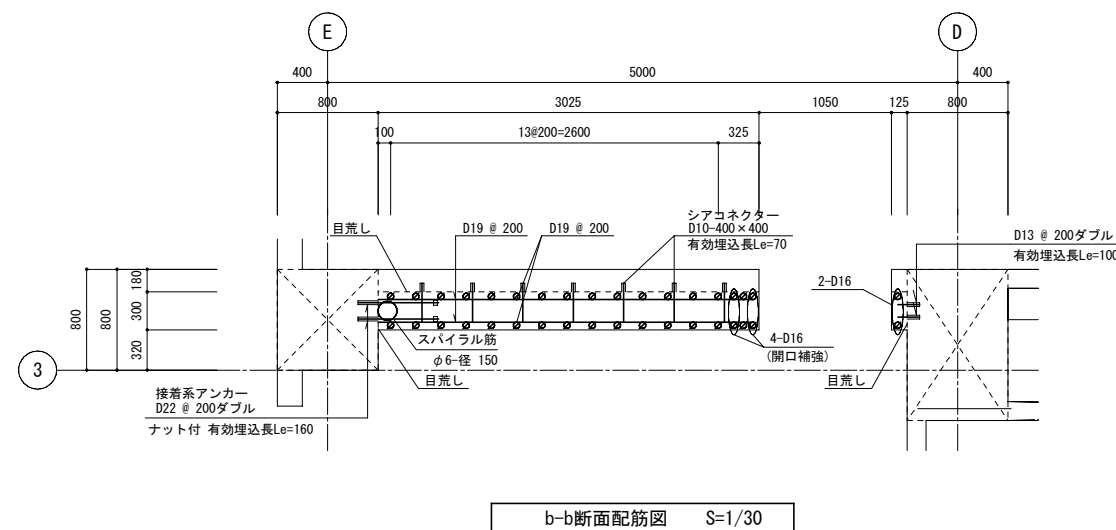
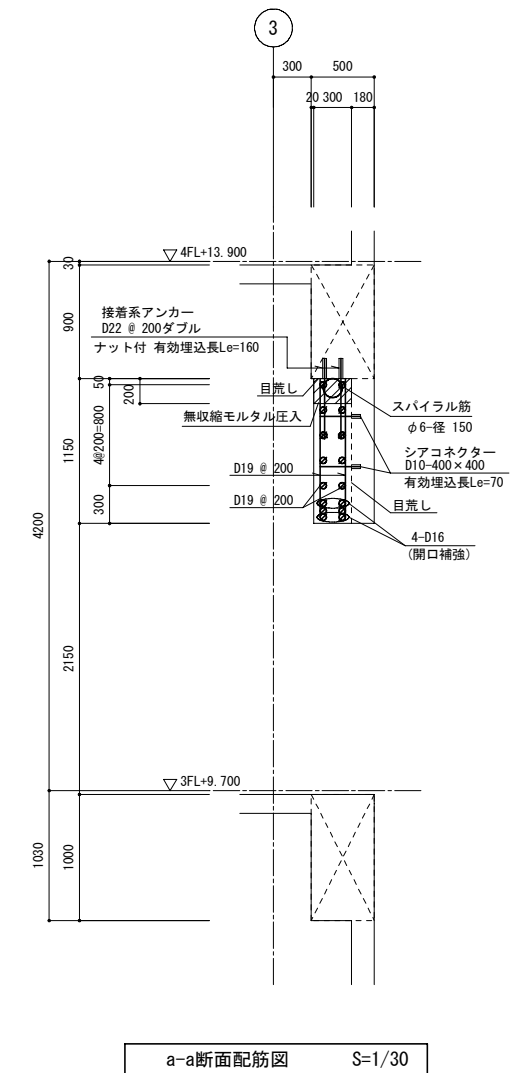
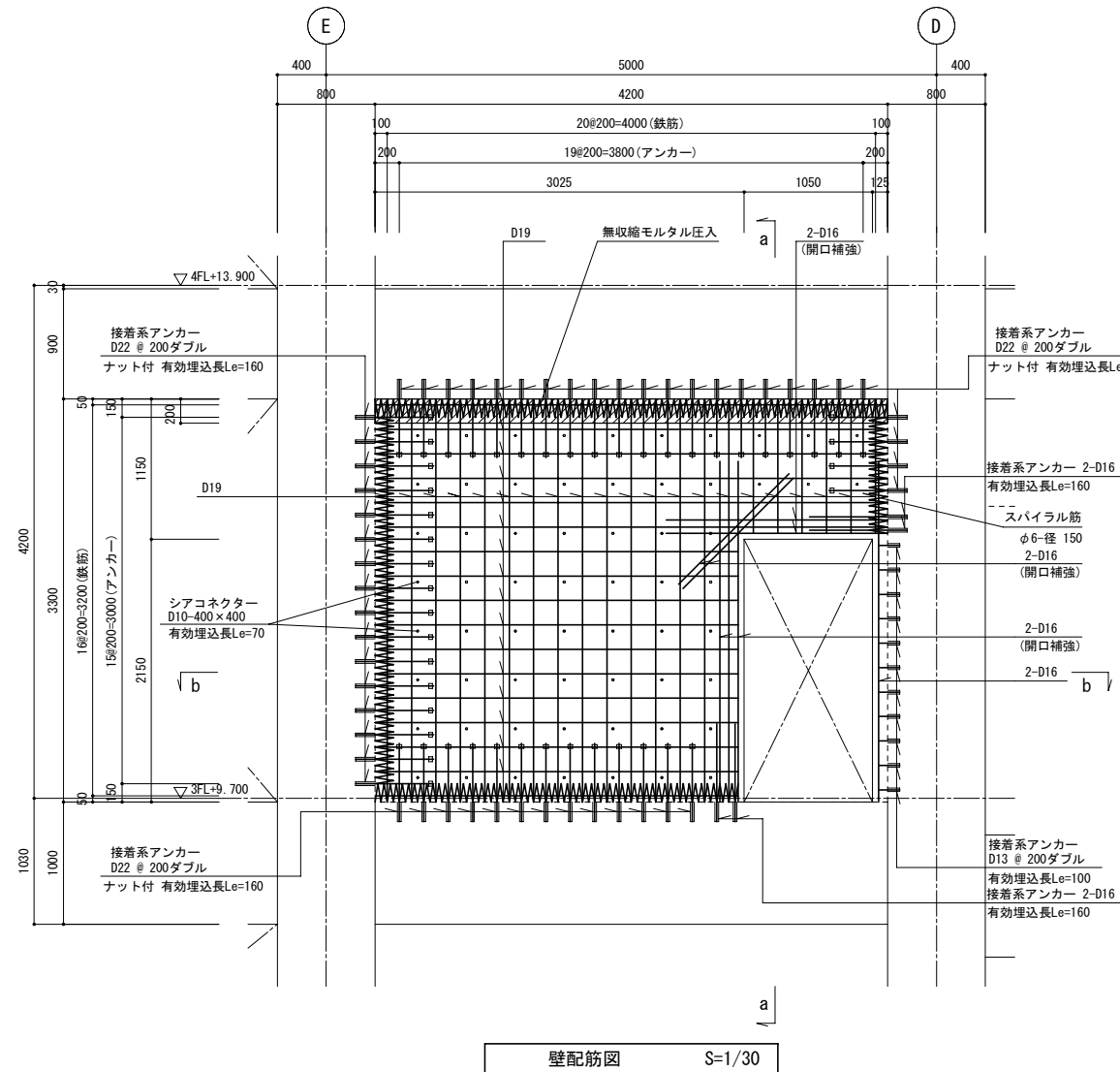
ポンプ棟 補強配筋図(9)

3階 3通/D-E通間 EW48B

増打

特記事項

1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
2. 鉄筋コンクリートの設計基準強度は21N/mm²とする。
3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)とする。
4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm²とする。
5. 幅止筋を1m²当り、1本 (D10) 入れること。

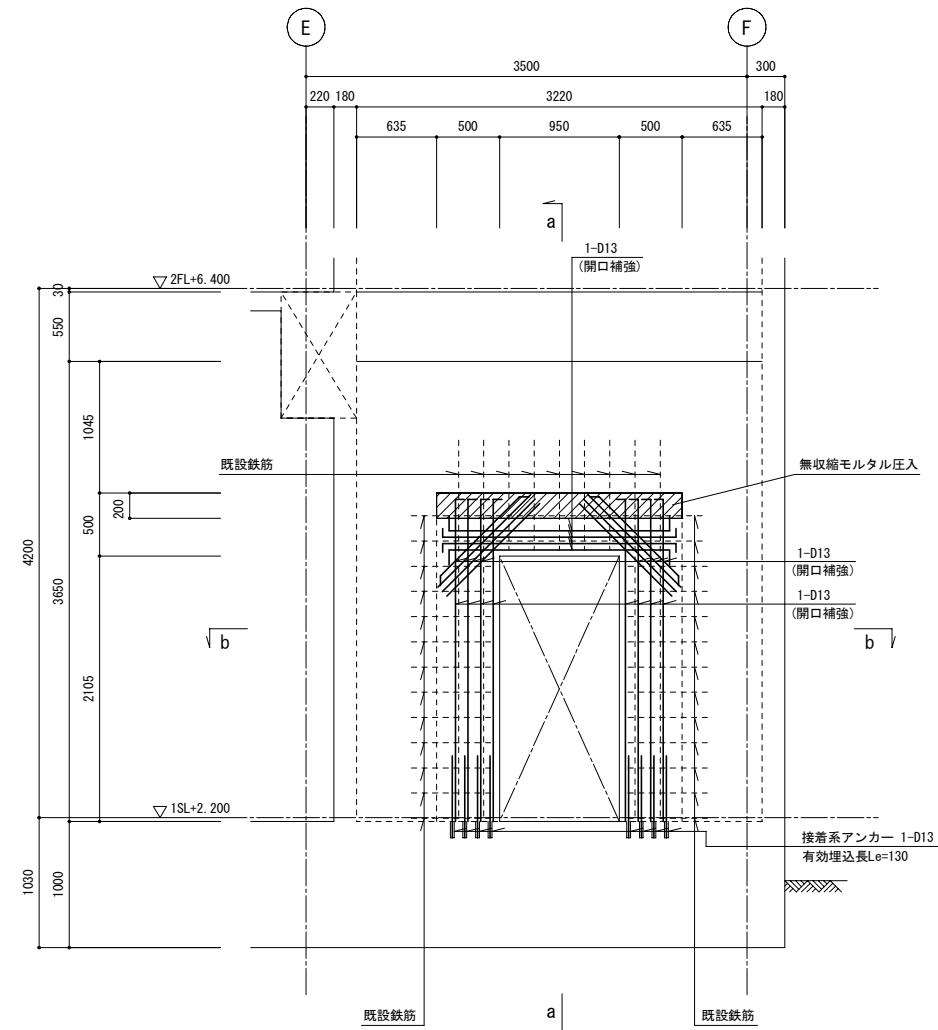


| | | | |
|------|----------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | ポンプ棟 補強配筋図(9) | | |
| 縮尺 | 1/30 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | S-29 |

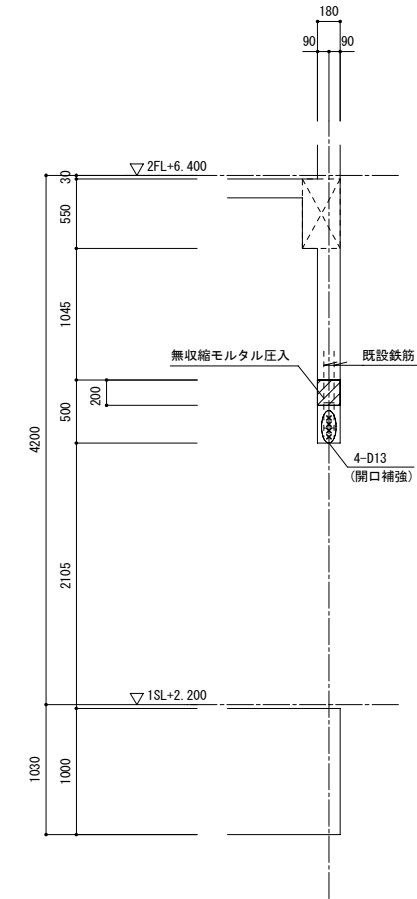
ポンプ棟 補強配筋図(10)

1階 E-F通間/3-4通間 KW18

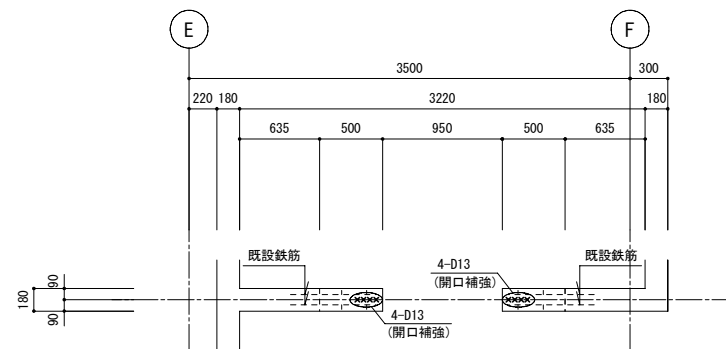
開口新設



壁配筋図 S=1/30



a-a断面配筋図 S=1/30



b-b断面配筋図 S=1/30

特記事項

1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
2. 鉄筋コンクリートの設計基準強度は21N/mm²とする。
3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)とする。
4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm²とする。
5. 幅止筋を1m²当り、1本 (D10) 入れること。

| | | | |
|------|----------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | ポンプ棟 補強配筋図(10) | | |
| 縮尺 | 1/30 | 設計年月 | 令和 年月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | S-30 |

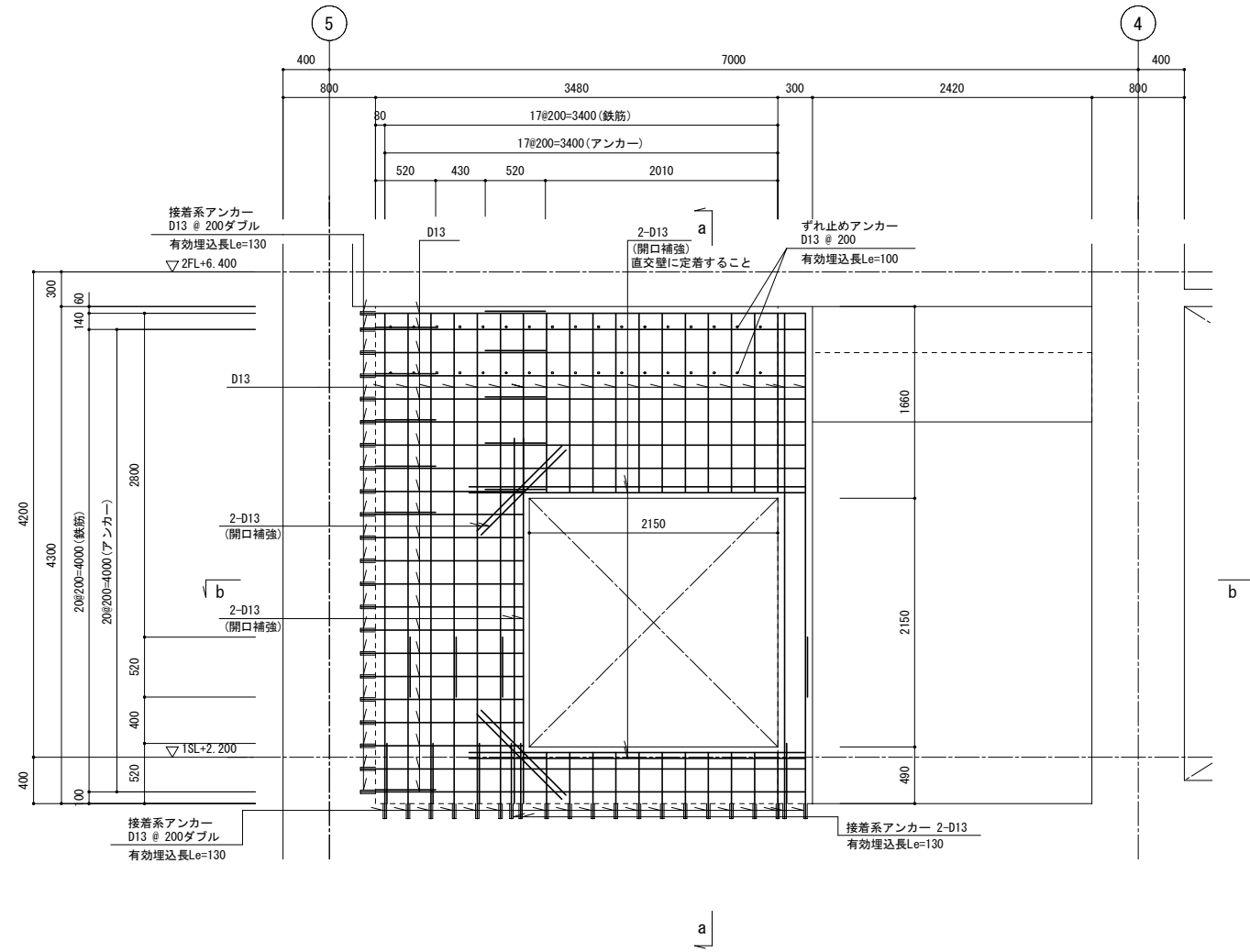
ポンプ棟 補強配筋図(11)

1階 D通/4-5通間 W30A

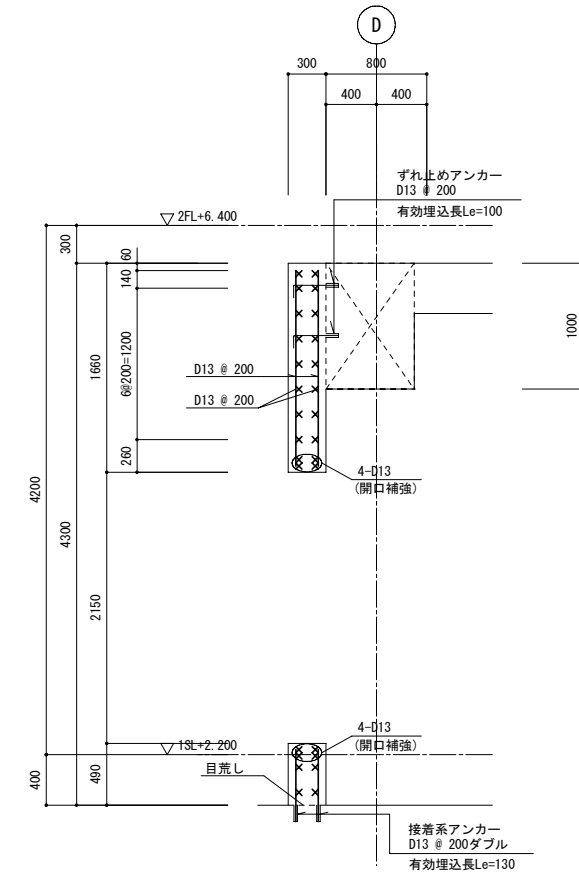
耐水壁築造

特記事項

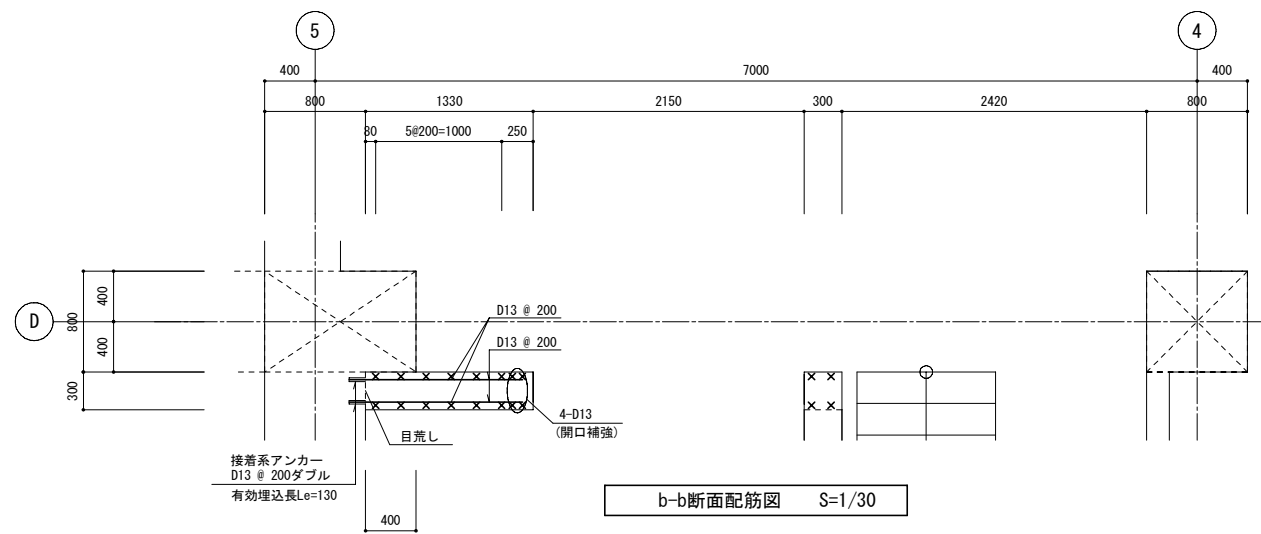
1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
2. 鉄筋コンクリートの設計基準強度は21N/mm²とする。
3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)とする。
4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm²とする。
5. 幅止筋を1m²当り、1本 (D10) 入れること。



壁配筋図 S=1/30



a-a断面配筋図 S=1/30



b-b断面配筋図 S=1/30

| | | | |
|------|----------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | ポンプ棟 補強配筋図(11) | | |
| 縮尺 | 1/30 | 設計年月 | 令和 年月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | S-31 |

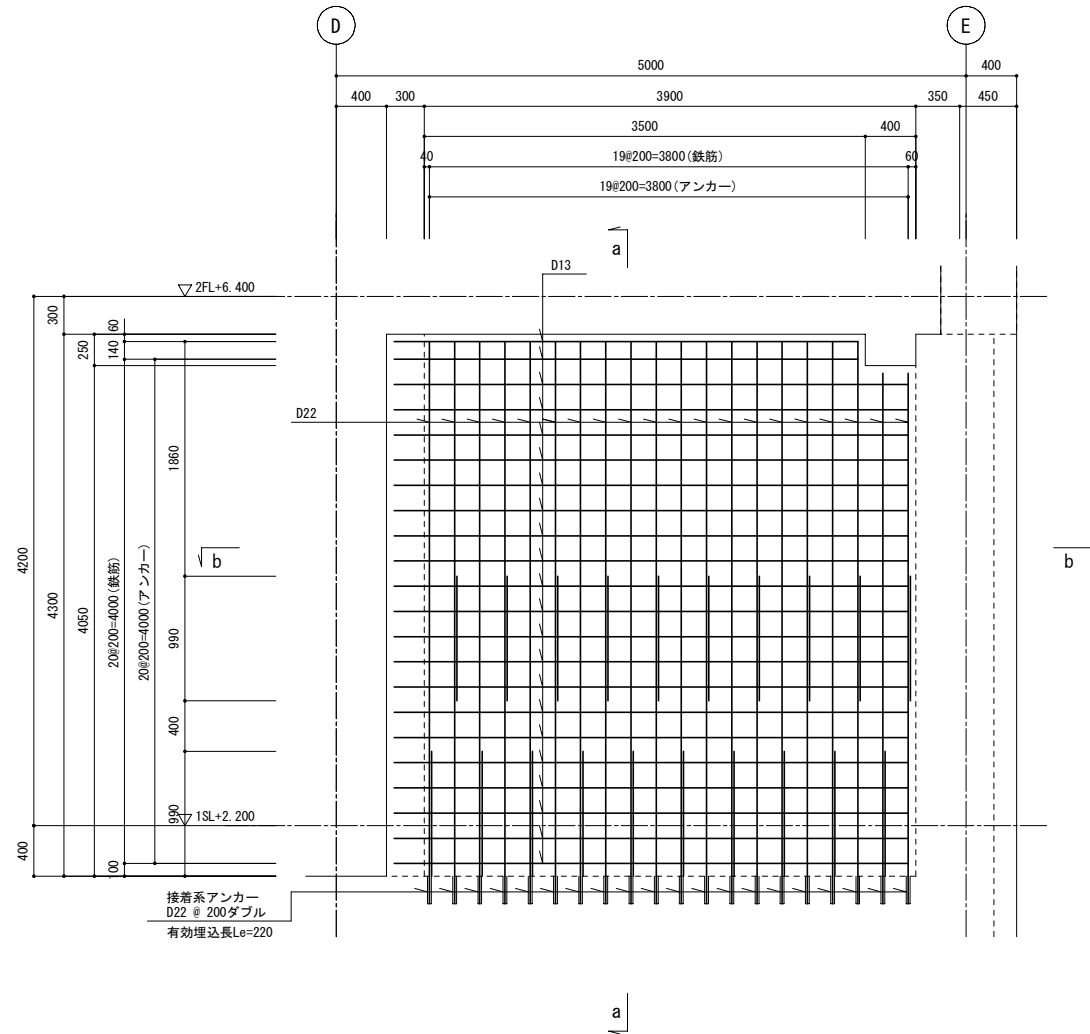
ポンプ棟 補強配筋図(12)

1階 D-E通/4-5通間 W30B

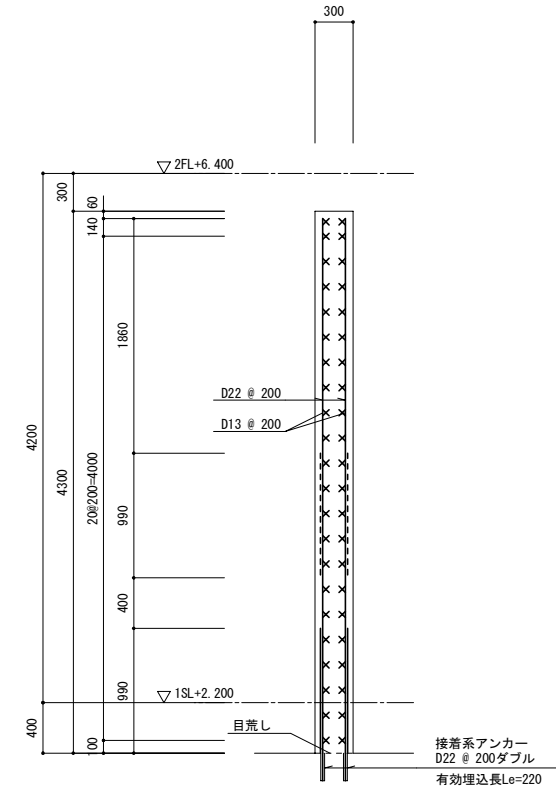
耐水壁築造

特記事項

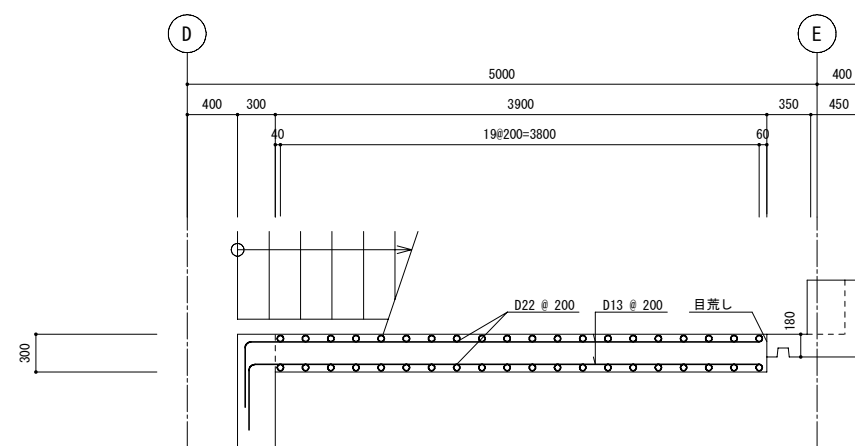
1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
2. 鉄筋コンクリートの設計基準強度は21N/mm²とする。
3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)とする。
4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm²とする。
5. 幅止筋を1m²当り、1本 (D10) 入れること。



壁配筋図 S=1/30



a-a断面配筋図 S=1/30



b-b断面配筋図 S=1/30

| | | | |
|------|----------------|---------|-------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | ポンプ棟 補強配筋図(12) | | |
| 縮尺 | 1/30 | 設計年月 | 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 | (株) NJS | |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | S-32 |

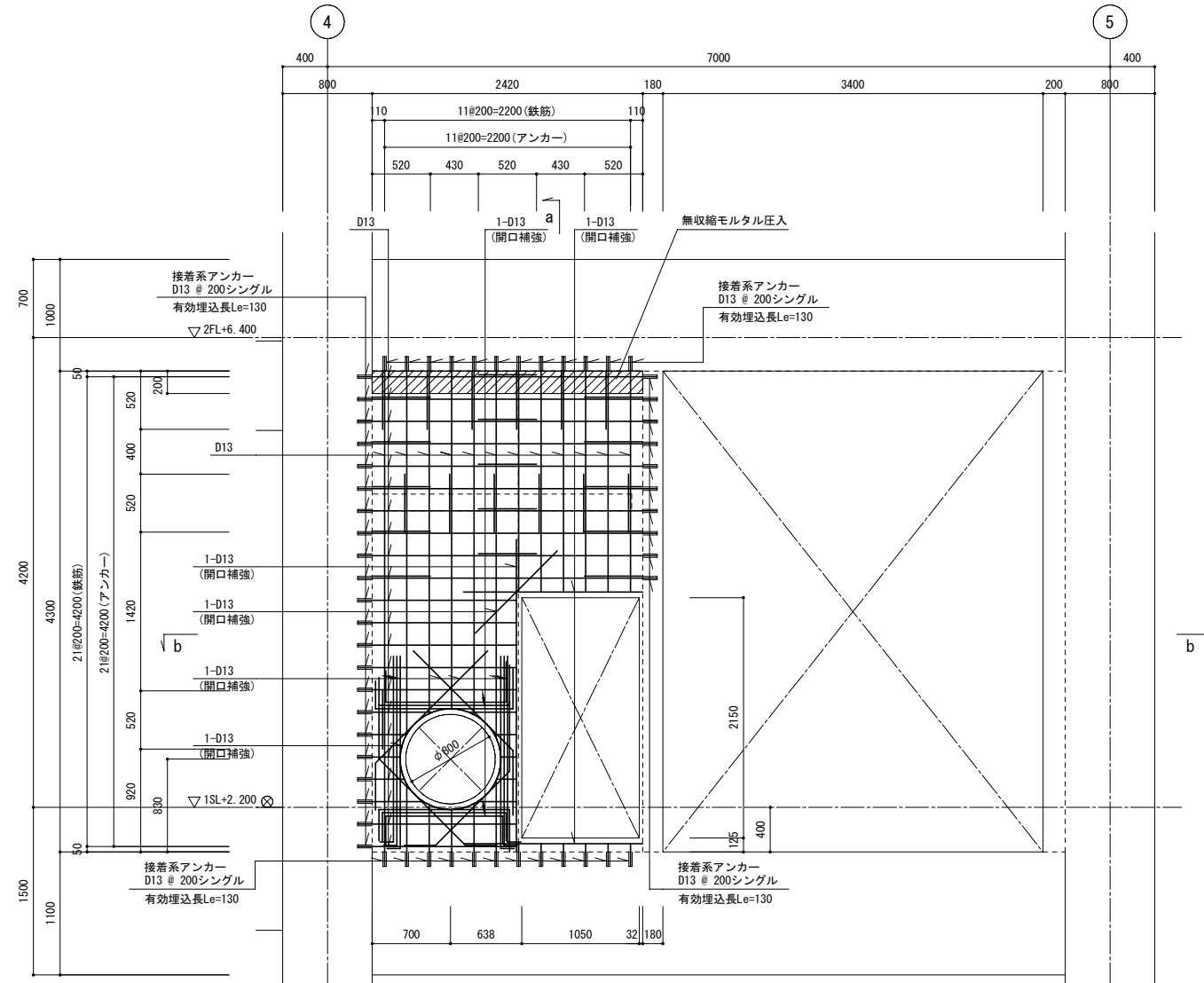
ポンプ棟 補強配筋図(13)

1階 E通/4-5通間 W30C

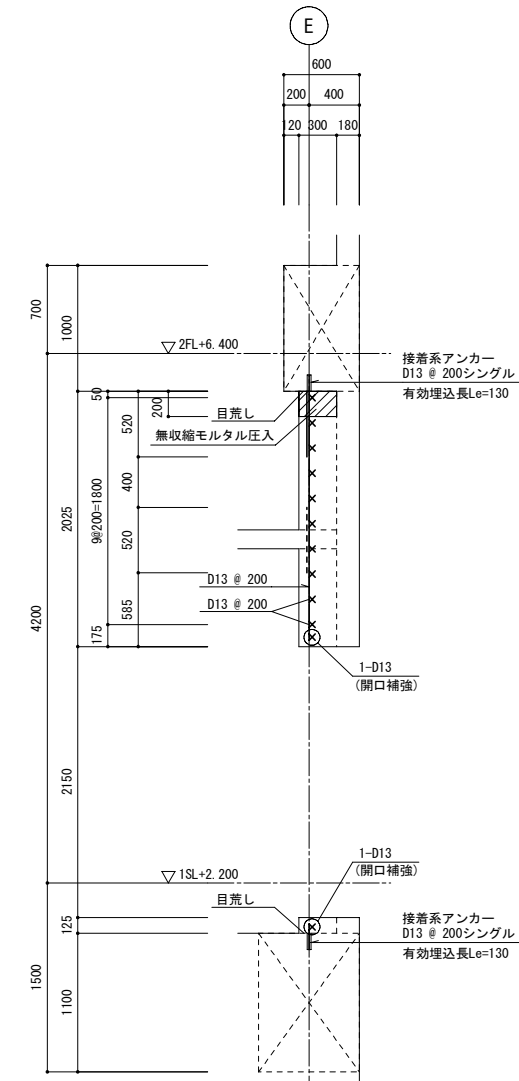
耐水壁築造

特記事項

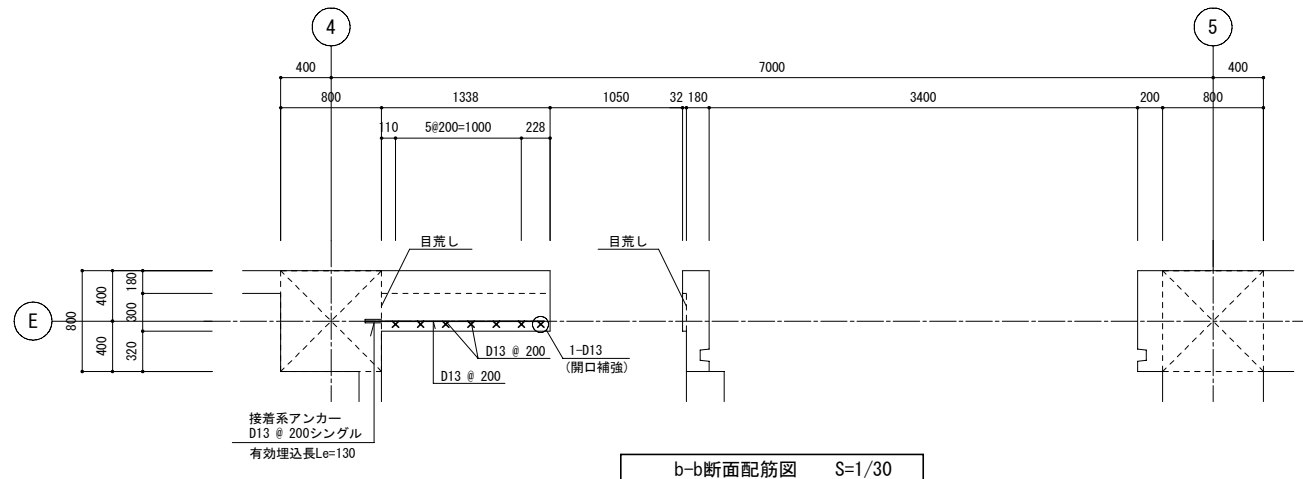
1. 既設鉄筋位置については現場にて確認のこと。
2. 鉄筋コンクリートの設計基準強度は21N/mm²とする。
3. 鉄筋は、SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)とする。
4. 無収縮モルタルの設計基準強度は30N/mm²とする。
5. 幅止筋を1m2当り、1本 (D10) 入れること。



壁配筋図 S=1/30



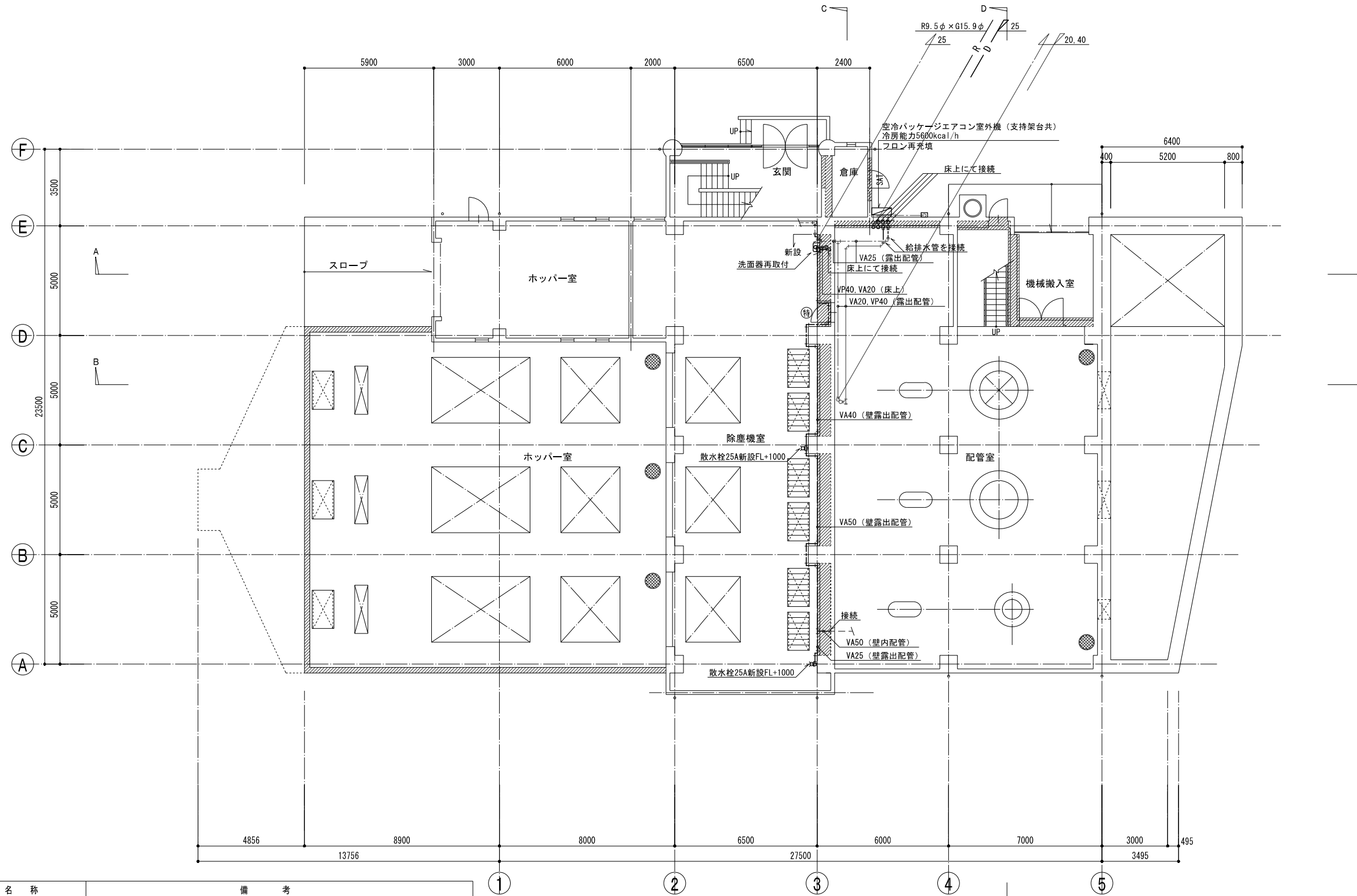
a-a断面配筋図 S=1/30



b-b断面配筋図 S=1/30

| | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市大字塩浜地内 | | |
| 名称 | ポンプ棟 補強配筋図(13) | | |
| 縮尺 | 1/30 | 設計年月 | 令和 年月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | S-33 |

改修後

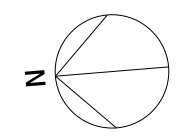


改修後 1階平面図 1:100

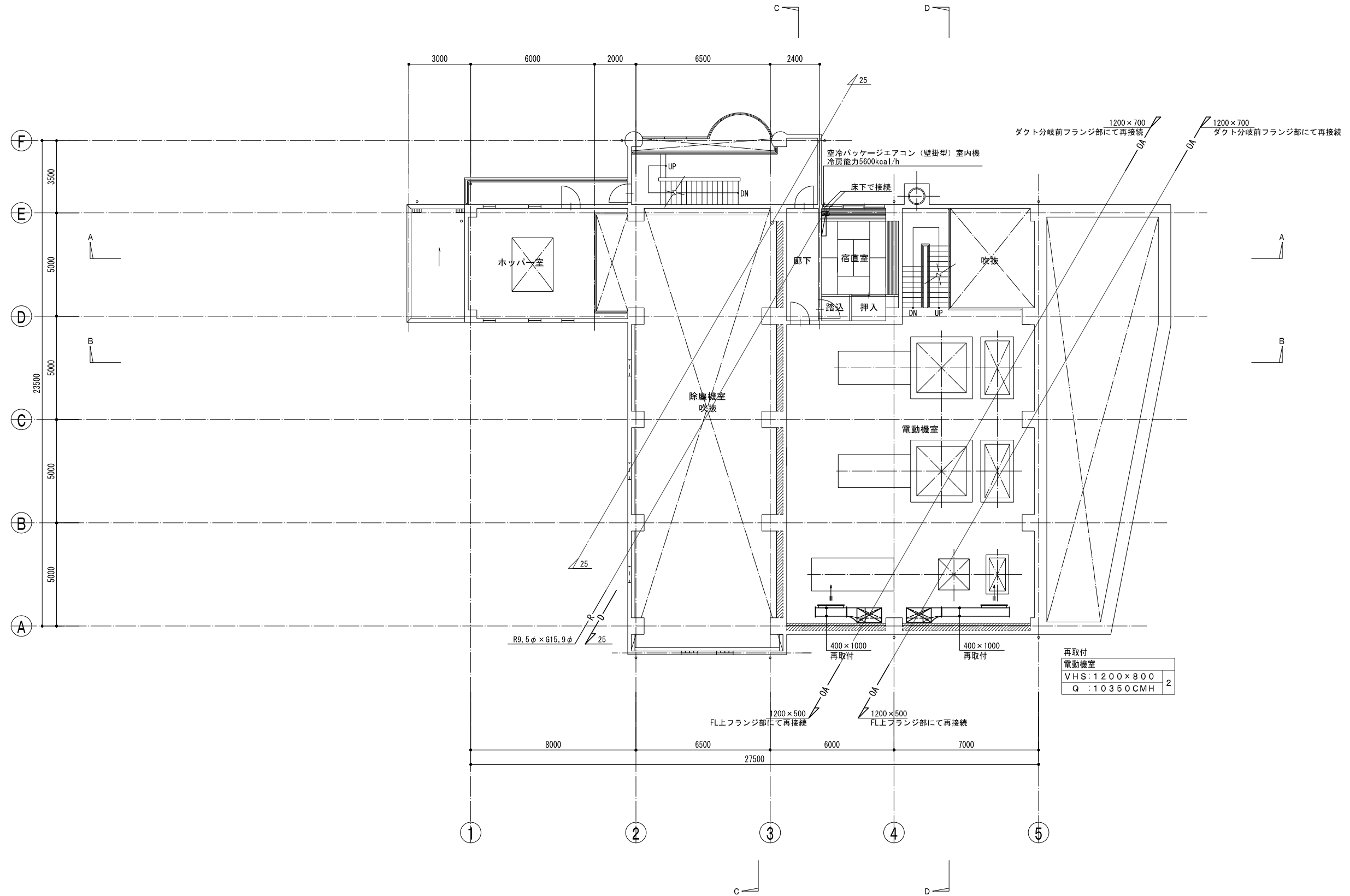
| 記号 | 名称 | 備考 |
|-----|---------|---|
| — | 給水管 | (一般) 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VA |
| — | 雑排水管 | (一般) 水道用亜鉛めっき鋼管 SGPW |
| — | | (一般、埋設) 硬質ポリ塩化ビニル管 VP |
| -R- | 冷媒管 | (一般) 冷媒用被覆銅管 (保温材付)、制御配線 (新設) EM-C EE 2" -3 C (撤去) CVV 2" -3 C |
| -D- | 空調用ドレン管 | (一般、埋設) 硬質ポリ塩化ビニル管 VP |
| ⊕ | 給水栓 | |
| ▬▬▬ | 矩形ダクト | 亜鉛鉄板製 |
| ▬▬▬ | 円形ダクト | スパイラルダクト |
| ⊗ | 有圧換気扇 | |
| × | 撤去 | |

| | | | |
|------|--------------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場 新築補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市 大字塩浜 地内 | | |
| 名称 | 建築機械設備 改修後 1階平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | AM-03 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊



改修後

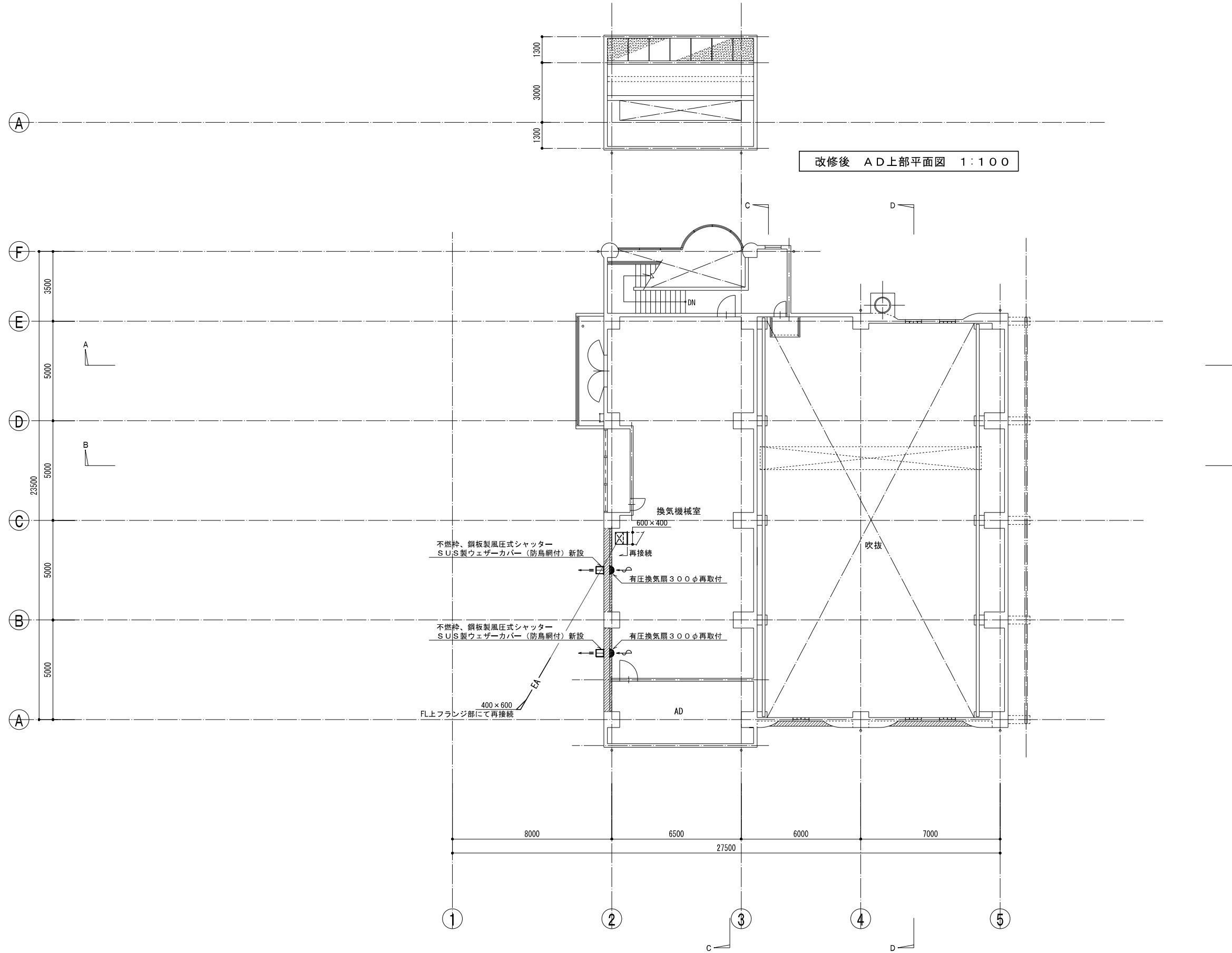


改修後 2階平面図 1:100

| | | | |
|------|--------------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場 新設補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市 大字塩浜 地内 | | |
| 名称 | 建築機械設備 改修後 2階平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | AM-04 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修後



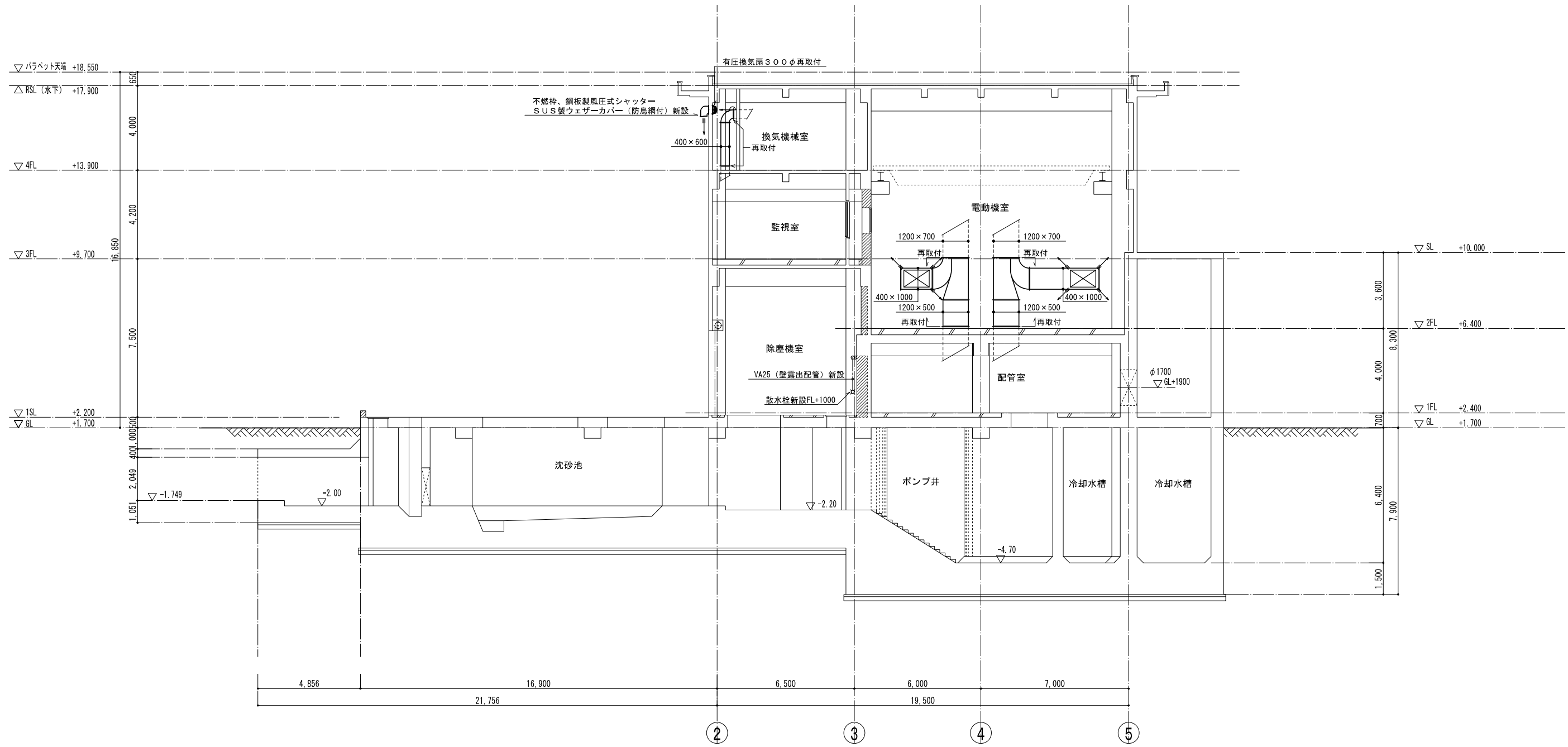
改修後 AD上部平面図 1:100

改修後 4階平面図 1:100

| | | | |
|------|--------------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場 新築補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市 大字塩浜 地内 | | |
| 名称 | 建築機械設備 改修後 4階平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | AM-05 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修後

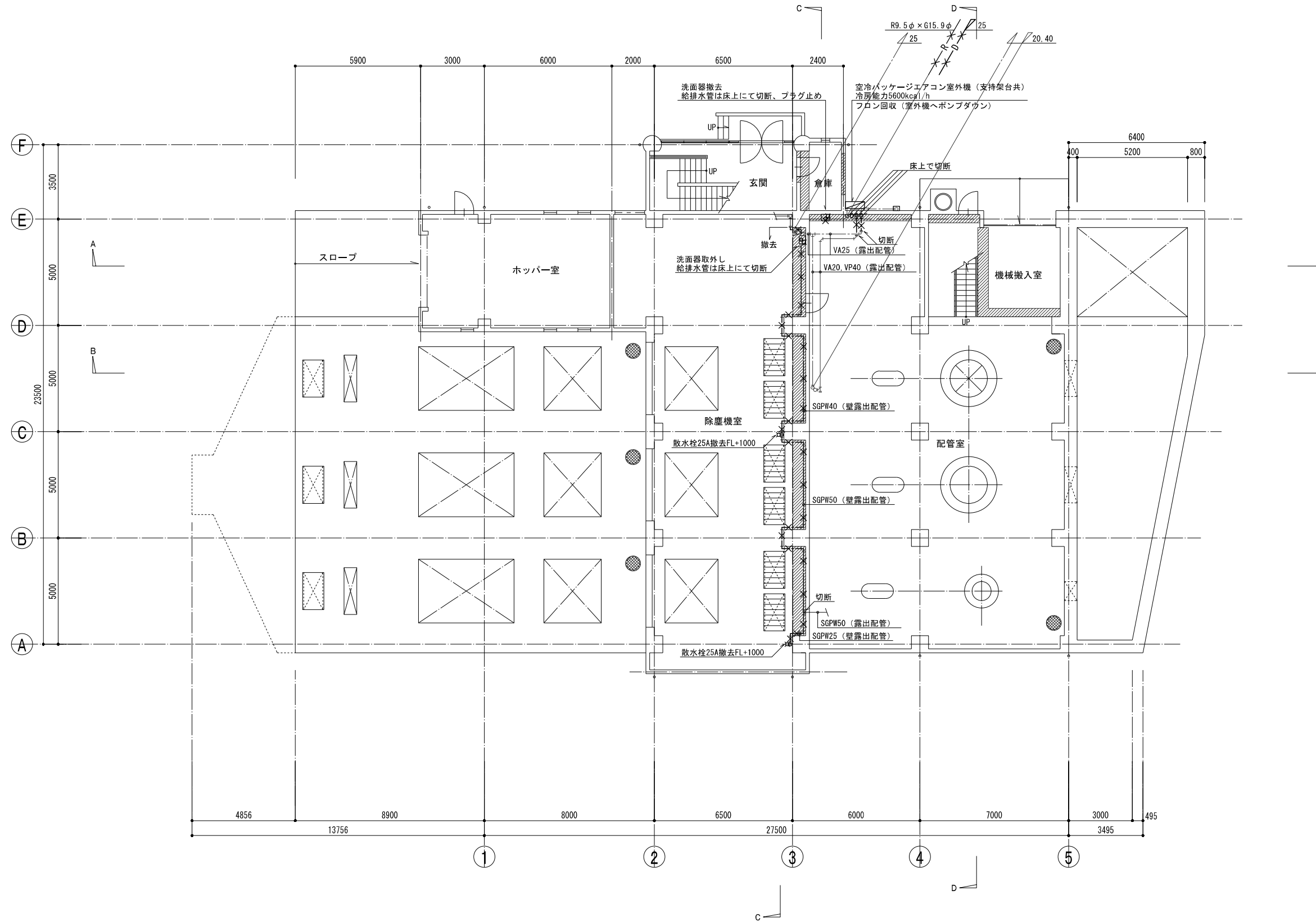


改修後 B-B断面図 1:100

| | | | |
|------|--------------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場 新設補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市 大字塩浜 地内 | | |
| 名称 | 建築機械設備 改修後 B-B断面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 平成 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | AM-06 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修前

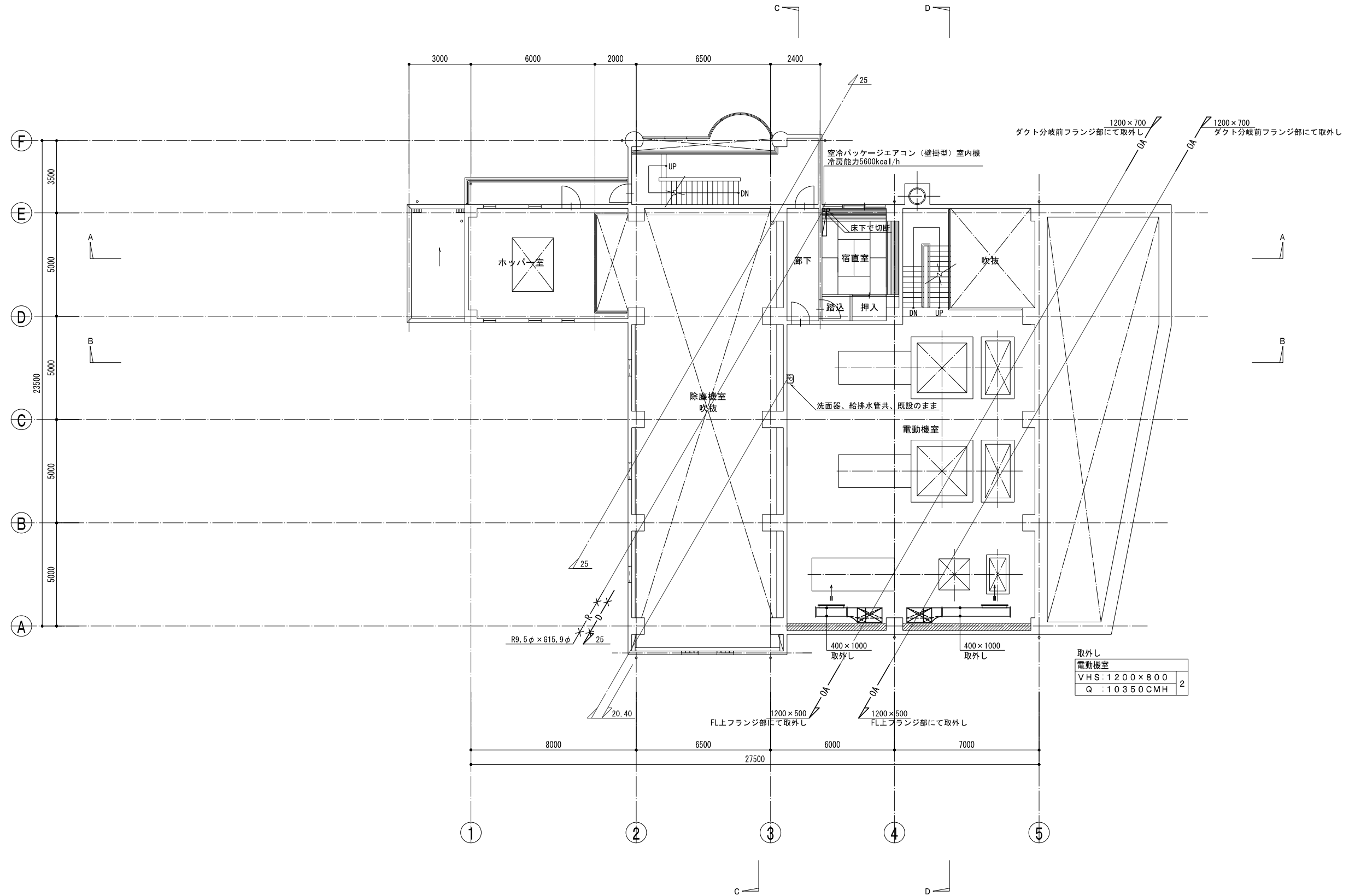


改修前 1階平面図 1:100

| | | | |
|------|------------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場 新築補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市 大字塩浜 地内 | | |
| 名称 | 建築機械設備 改修前 1階平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | AM-07 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修前

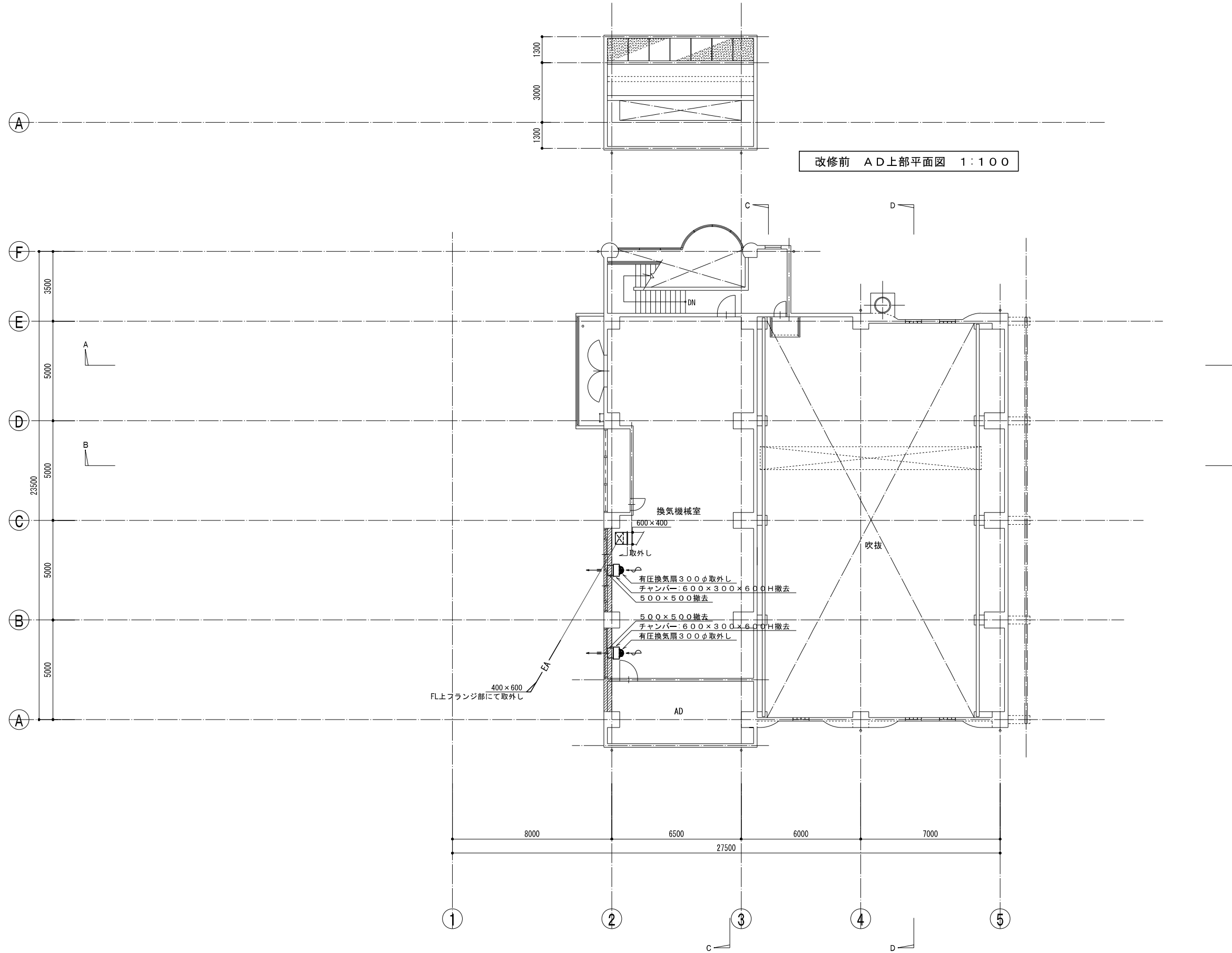


改修前 2階平面図 1:100

| | | | |
|------|--------------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場 耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市 大字塩浜 地内 | | |
| 名称 | 建築機械設備 改修前 2階平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | AM-08 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修前



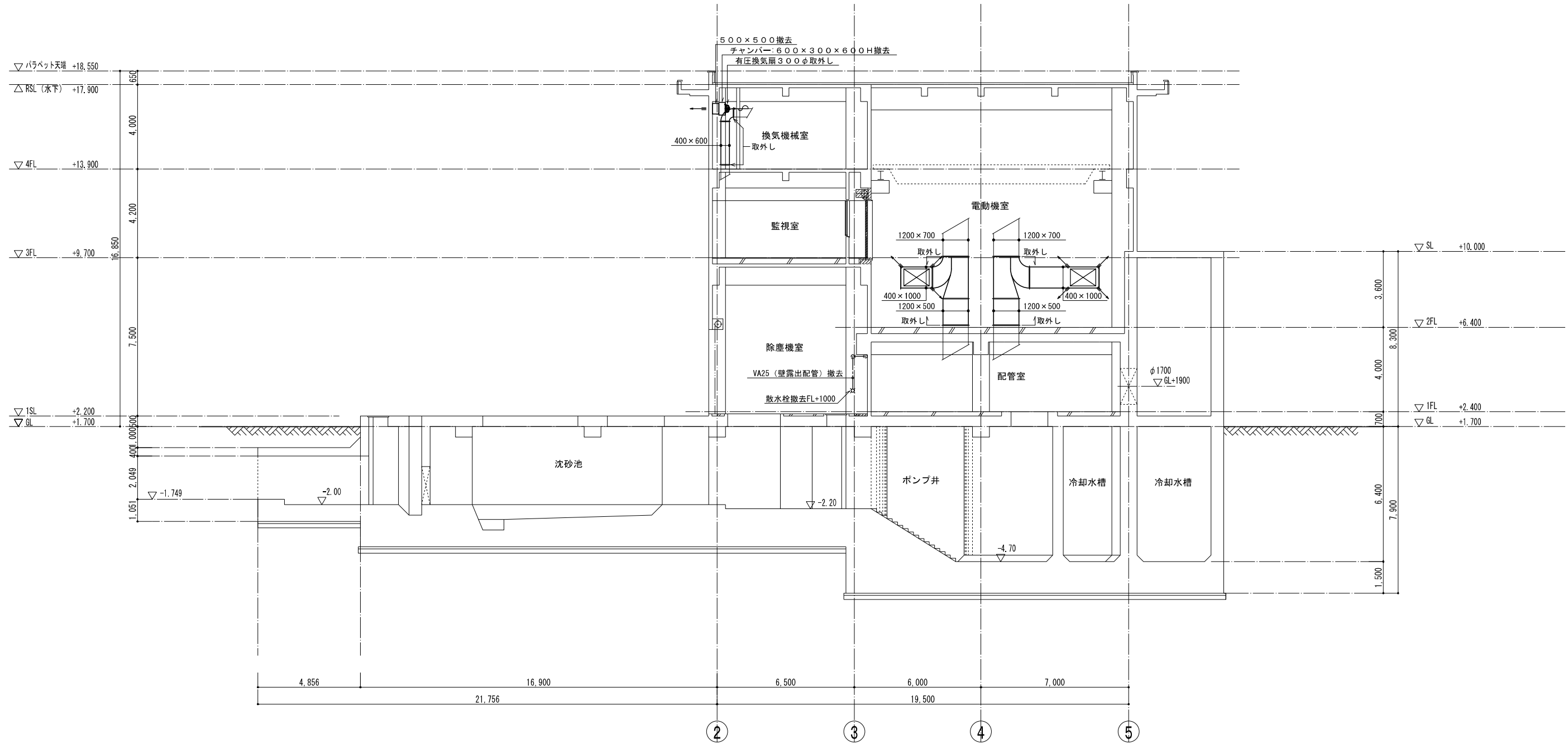
改修前 AD上部平面図 1:100

改修前 4階平面図 1:100

| | | | |
|------|--------------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場 耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市 大字塩浜 地内 | | |
| 名称 | 建築機械設備 改修前 4階平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | AM-09 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (い-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修前



改修前 B-B断面図 1:100

| | | | |
|------|--------------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場 新設補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市 大字塩浜 地内 | | |
| 名称 | 建築機械設備 改修前 B-B断面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 平成 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | AM-10 |

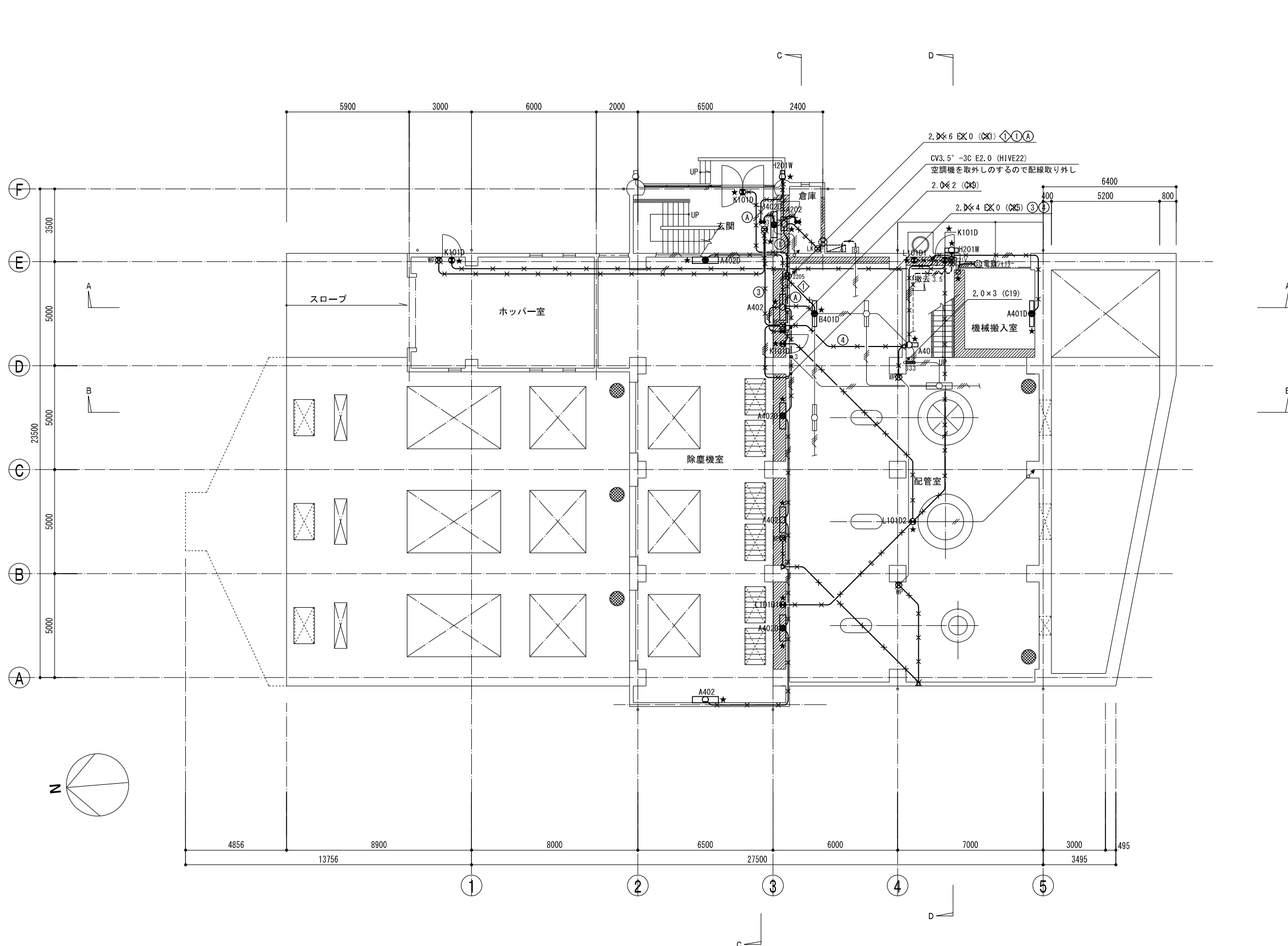
株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録(い-27)第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

| 項目 | 特記事項 | 項目 | アスベスト含有物の取り扱い | 暴力団等不当介入に関する事項 |
|--------------------------|--|------------------------|---|--|
| ㉗ 工事用電力、水等 | ○本工事に必要な工事用電力、水等の費用は市支給とし、官公署その他の関係機関への諸手續等に要する費用は、受注者の負担とする。 ただし、構内既存施設より利用可能な範囲に限る。 | 1 一般事項 | 労働安全衛生法第28条第1項の規定に基づく技術上の指針（建築物等の解体等および労働者が石綿等にばく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿ばく露防止に関する記述上の指針）を遵守すること。 ・アスベスト除去に伴う官公署等への届出申請を行うこと。 | 暴力団等不当介入に関する事項 1. 契約の解除 四日市市の締結する契約等からの暴力団等排 除措置要綱（平成20年四日市市告示第29号） 第3条又は第4条の規定により、四日市市建 設工事等人札参加資格停止基準に基き人札 参加資格停止措置を受けたときは、契約を解 除することができる。 |
| 28 産業廃棄物税 | 本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が本工事により生じた産業廃棄物税が課税対象となった場合には、翌年度に産業廃棄物税納税証明書を送付して、本工事により生じた産業廃棄物税相当分を請求する事ができる。 | 2 アスベスト含有建材の処理工事 | 石綿障害予防規則及び大気汚染防止法の各規定に基づく官公署等への届出等を行うこと。 ・石綿含有事前調査結果の都道府県知事及び労働基準監督署への報告を行うこと。 ・事前調査結果及び特定粉塵排出等作業の指示を行うこと。 ・アスベスト除去に伴う作業計画の作成を行うこと。 ・アスベスト除去完了に伴う発注者への報告を書面にて行うこと。 | 2. 暴力団等による不当介入を受けたときの義務 (1) 不当介入には、断固拒否するとともに、速やかに警察へ通報並びに業務発注所属へ報告し、警察への捜査協力を行うこと。 (2) 契約の履行において、不当介入を受けたことにより、業務遂行に支障が生じたり、納期等に遅れが生じるおそれがあるときは、業務発注所属と協議を行うこと。 (3) (1)(2)の義務を負ったときは、四日市市建設工事等人札参加資格停止基準に基きつて人札参加資格停止等の措置を講ずる。 |
| ㉘ 工事の保険 | ○建設工事保険（管理財物担保特約に加入）（保険証券の写しを提出） ○請負業者賠償責任保険（保険証券の写しを提出） 加入期間は工事着手時から工事完了日まで上記の期間を原則とする。（必要に応じて延長するものとする。） ※ 建築工事等を含む本工事全体で加入すること。 下記の制度について加入すること。 ○法定外労災補償制度（加入証明書を提出） 建設業退職金共済制度に加入し、掛金収納書を提出する。 共済証紙購入額 請負額のうち建築電気設備工事分（消費税含む）の0.5/1000以上 ただし、建設業退職金共済については請負額が500万円以上の場合とする。 ※1 他の退職金制度に加入している等、共済証紙を購入する必要がない場合は理由書の提出をもって共済証紙の購入を不要とする。 ※2 契約変更により工事価格が上昇した場合は不足分を追加購入を行うこと。 | 3 アスベストの含有調査 | アスベスト含有吹付け材の封じ込め処理 ・行方 ・行わない [9.1.1] アスベスト含有吹付け材の囲い込み処理 ・行方 ・行わない アスベスト含有建材除去後の仕上げ ・行方 ・行わない 施工箇所及び工法 ※図示 分析による確認 ・行方（下表による） ・行わない | <喫煙に関する事項> 学校敷地内はすべて禁煙とし、敷地周辺の路上においても禁煙に努めること。 <現場代理人に関する事項> 工場製作期間中等に現場代理人の常駐を解除する場合は、その期間に応じた経費の減額変更を行う。 <随時検査> 設計金額3000万円以上の工事は、四日市市検査規程第8条第6項の規程により発注者が随時検査を求めた場合、監督員の指示に従い受検すること。 |
| ㉙ 建設共済等 | ○建設業退職金共済制度（加入証明書を提出） 建設業退職金共済制度に加入し、掛金収納書を提出する。 共済証紙購入額 請負額のうち建築電気設備工事分（消費税含む）の0.5/1000以上 ただし、建設業退職金共済については請負額が500万円以上の場合とする。 ※1 他の退職金制度に加入している等、共済証紙を購入する必要がない場合は理由書の提出をもって共済証紙の購入を不要とする。 ※2 契約変更により工事価格が上昇した場合は不足分を追加購入を行うこと。 | 4 アスベスト含有吹付け材の除去 | アスベスト含有吹付け材の有無 ・有 ・無 [9.1.3] 除去吹付け材（ ）含有場所（ ） 吹付けアスベストの施工数量調査 ※行方 アスベスト粉じん濃度測定 ※行方 | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |
| ㉚ 工事実績情報の登録 | ○建設業退職金共済制度（加入証明書を提出） 建設業退職金共済制度に加入し、掛金収納書を提出する。 共済証紙購入額 請負額のうち建築電気設備工事分（消費税含む）の0.5/1000以上 ただし、建設業退職金共済については請負額が500万円以上の場合とする。 ※1 他の退職金制度に加入している等、共済証紙を購入する必要がない場合は理由書の提出をもって共済証紙の購入を不要とする。 ※2 契約変更により工事価格が上昇した場合は不足分を追加購入を行うこと。 | 5 アスベスト含有仕上塗材の除去 | 表9.1.1 アスベスト粉じん濃度測定 測定時期 測定名称 測定場所 測定点（各施工箇所ごと） 備考 処理作業前 測定1 処理作業室内 各2点又は3点 (注)1 測定2 施工区画周辺又は、敷地境界 計2点 大気 処理作業中 測定3 処理作業室内 各2点又は3点 (注)1 測定4 社内ドア・玄関入口 1点 空気の流れを確認 測定5 集じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合) 1点 (注)2 測定6 施工区画周辺又は、敷地境界 4方向各1点 - 処理作業後 (隔離ノド撤去前) 測定7 処理作業室内 各2点又は3点 (注)1 測定8 施工区画周辺又は、敷地境界 4方向各1点 大気 | (基本事項) 第1 この契約による工事の施工者（以下「乙」という。）は、この契約による工事を施工するに当たり、個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。以下同じ。）を取り扱う際には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 (施工者の義務) 第2 乙及びこの契約による工事に従事している者又は従事していた者（以下「乙の従事者」という。）は、当該工事を施工するに当たり、個人情報を取り扱うときは、四日市市個人情報保護条例（平成11年四日市市条例第25号。以下「条例」という。）第11条に規定する義務を負う。 2 乙は、この契約による工事において個人情報が適正に取り扱われるよう乙の従事者を指揮監督しなければならない。 第3 乙及び乙の従事者は、この契約による工事を施工するに当たって知り得た個人情報を当該工事を施工するために必要な範囲を超えて使用し、又は他人に知らせてはならない。 2 乙は、乙の従事者が在職中及び退職後においても、前項の規定を遵守するように必要な措置を講じなければならない。 3 前2項の規定は、この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。 (適正な管理) 第4 乙は、この契約による工事に係る個人情報の漏えい、滅失又は改ざんの防止その他の個人情報の適正な管理のために必要な措置を講じなければならない。 2 乙は、個人情報の適正な管理のため、管理責任者を置くものとする。 3 管理責任者は、個人情報を取り扱う工事の従事者に必要な者に限定し、これらの従事者に対して、個人情報の管理方法等について適正な指導管理を行わなければならない。 4 四日市市（以下「甲」という。）は、必要があると認めるときは、個人情報の管理状況等に關し、乙に対して報告を求め、又は乙の作業場所を实地に調査することができるものとする。この場合において、甲は乙に必要な改善を指示することができるものとし、乙は、その指示に従わなければならない。 (収集の制限) 第5 乙及び乙の従事者は、この契約による工事を施工するために、個人情報を収集するときは、当該工事を施工するために必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により収集しなければならない。 (再提供の禁止) 第6 乙は、あらかじめ甲の承諾があった場合を除き、この契約による工事に係る個人情報を第三者に再提供してはならない。 2 乙は、前項の承諾により再提供する場合は、再提供先における個人情報の適正な取り扱いのために必要な措置を講じなければならない。 3 前項の場合において、乙は、再提供先と本注意事項に準じた個人情報の取り扱いに関する契約を交わすものとする。 (複写・複製の禁止) 第7 乙及び乙の従事者は、あらかじめ甲の指示又は承諾があった場合を除き、この契約による工事を施工するに当たって、甲から提供された個人情報が記録された資料等（以下「資料等」という。）を複写し、又は複製してはならない。 (持ち出しの禁止) 第8 乙及び乙の従事者は、あらかじめ甲の指示又は承諾があった場合を除き、資料等（複写又は複製したものを含む。第9において同じ。）を契約書に指定された作業場所から持ち出してはならない。 2 甲及び乙は、乙が前項の指示又は承諾により資料等を持ち出す場合、その内容、期間、持ち出し先、輸送方法等を書面により確認するものとする。 3 前項の場合において、乙は、資料等に施錠又は暗号化等を施して関係者以外の者がアクセスできないようにするとともに、資料等を善良なる管理者の注意をもって保管又は管理し、漏えい、滅失及びき損の防止その他適切な管理を行わなければならない。 (資料等の返還) 第9 乙は、この契約による工事を施工するに当たって、甲から提供された個人情報が記録された資料等を、当該工事の終了後速やかに甲に返還し、又は引き渡さなければならない。ただし、甲の指示により廃棄し、又は消去する場合を除く。 2 前項の廃棄又は消去は、次の各号に定めるほか、他に漏えいしないよう適切な方法により行うものとする。 (1) 紙媒体 シュレッダーによる破断 (2) 電子媒体 データ完全消去ツールによる無意味なデータの上書き、もしくは媒体の破断 3 乙は、第6の規定により甲の承諾を得てこの契約による工事に係る個人情報を第三者に再提供したときは、当該工事の終了後速やかに当該第三者から資料等を回収のうえ甲に返還し、又は引き渡さなければならない。ただし、甲の指示により、乙又は第三者が資料等を廃棄し、又は消去する場合を除く。 4 前項ただし書の規定により、第三者が資料等を廃棄し、又は消去する場合においては、乙は、当該資料等が廃棄、又は消去されたことを直接確認しなければならない。 (研修・教育の実施) 第10 乙は、乙の従事者に対し、個人情報の重要性についての認識を深めるとともに、この契約による工事に係る個人情報の適正な取り扱いに資するための研修・教育を行うものとする。 (罰則等の周知) 第11 乙は、条例第44条、第45条、第47条及び第48条に規定する罰則適用について、乙の従事者に周知するものとする。 (苦情の処理) 第12 乙は、この契約による工事の施工に当たって、個人情報の取り扱いに関して苦情があったときは、適切かつ迅速な処理に努めるものとする。 (事故発生時における報告) 第13 乙は、この個人情報取扱注意事項に違反する事故が生じ、又は生じるおそれがあることを知ったときは、速やかに甲に報告し、甲の指示に従うものとする。 (契約解除及び損害賠償) 第14 甲は、乙又は乙の従事者がこの個人情報取扱注意事項に違反していると認めるときは、契約の解除及び損害賠償の請求をすることができる。 |
| ㉛ 監督職員事務所 | ○設けない ・設ける | 6 アスベスト含有保温材等の除去 | アスベスト含有仕上塗材の有無 ・有 ・無 [9.1.4] 除去保温材（ ）含有場所（ ） 作業場の隔離 ・行方 ・行わない 除去工法（原則湿潤化し、下記工法とする） ・水洗い工法 ・手工具ケレン工法 ・集じん装置付高圧水洗工法 ・集じん装置付超高圧水洗工法 ・超音波ケレン工法 ・射撃材併用高圧水洗工法 ・射撃材併用超高圧水洗工法 ・射撃材併用手工具ケレン工法 ・射撃材併用超音波ケレン工法 ・集塵装置付ディスクグラインダーケレン工法 上記工法によらない場合は監督職員と協議の上、承諾を得ること。 除去工法の試験施工 ・行方 ※行わない 作業場の隔離及び養生 「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策マニュアル」による。 ・隔離養生不要 ・隔離養生必要（責任不要）・その他（ ） 処分方法 ・埋立処分の場合は、特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場の一定の場所で埋立処分する。 ・中間処理の場合は、都道府県知事等から処置許可を受けた溶融施設において溶融又は環境大臣の認定を受けた無害化処理施設において無害化処理を行う | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |
| ㉜ 完成時の提出図書 | ○提出する ※提出しない ※CADデータの提出 ※提出しない ○電子ファイル（CD等）2部 ○電子データは厚さ10mm程度のケースに入れて提出すること。 電子データは、原則として、完成図書、工事写真とし、加工等が可能なデータ（図面データはDWF形式とする）とPDFデータを収録すること。 ※製本図面の提出 ※提出する ・提出しない ○部数 2部 ○体裁 A4判製本（縮小版） 縦書き製本 ※表紙記入事項は下記のとおりとする。 発注者名 工事名 工事場所 工事年度 発注者名（商号または名称のみとする） | 7 アスベスト含有成形板の除去 | アスベスト含有成形板の有無 ・有 ・無 [9.1.5] 除去成形板（ ）含有場所（ ） 作業場の隔離 ・行方 ・行わない 除去工法（原則湿潤化し、下記工法とする） ・水洗い工法 ・手工具ケレン工法 ・集じん装置付高圧水洗工法 ・集じん装置付超高圧水洗工法 ・超音波ケレン工法 ・射撃材併用高圧水洗工法 ・射撃材併用超高圧水洗工法 ・射撃材併用手工具ケレン工法 ・射撃材併用超音波ケレン工法 ・集塵装置付ディスクグラインダーケレン工法 上記工法によらない場合は監督職員と協議の上、承諾を得ること。 除去工法の試験施工 ・行方 ※行わない 作業場の隔離及び養生 「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策マニュアル」による。 ・隔離養生不要 ・隔離養生必要（責任不要）・その他（ ） 処分方法 ・埋立処分の場合は、特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場の一定の場所で埋立処分する。 ・中間処理の場合は、都道府県知事等から処置許可を受けた溶融施設において溶融又は環境大臣の認定を受けた無害化処理施設において無害化処理を行う | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |
| ㉝ 発生材の処理 | ・引渡しを要するもの ○引渡しを要するもの以外 構外搬出適切処理とする。 廃棄物管理票（マニフェスト）確認表を作成し、監督員にA票及びD票もしくはE票の確認を受けるものとする。 ・特別管理産業廃棄物（PCB使用機器） PCB使用機器は、関係法令に従い適切に処理する。 ・再使用又は再資源化を図るもの 工事記録は以下のように行うこと。 ○工事写真 工程写真 埋設部、いんべい部、施工工程、材料等 完成写真 ※撮影用具にデジタルカメラを用い、サービスサイズ程度の大きさでA4用紙に印刷し、提出する。 ※次の図書を参考とする。 国土交通省大臣官庁官庁庁舎修繕部監修「工事写真の撮り方 建築設備編」 ○工事日報、納品伝票等の写しは監督員が提出を求めた場合に提出すること。 | 8 アスベスト含有配管・接続部シール材の除去 | アスベスト含有シール材の有無 ・有 ・無 [9.1.4] 除去シール材（ ）含有場所（ ） 作業場の隔離 ・行方 ・行わない 除去工法 湿潤にて除去を行い、適法に処分する。 処分方法 ・埋立処分 ・アスベストの中間処理に適する溶融施設 ・認定を受けた無害化処理施設 | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |
| ㉞ 工事記録 | ・特別管理産業廃棄物（PCB使用機器） PCB使用機器は、関係法令に従い適切に処理する。 ・再使用又は再資源化を図るもの 工事記録は以下のように行うこと。 ○工事写真 工程写真 埋設部、いんべい部、施工工程、材料等 完成写真 ※撮影用具にデジタルカメラを用い、サービスサイズ程度の大きさでA4用紙に印刷し、提出する。 ※次の図書を参考とする。 国土交通省大臣官庁官庁庁舎修繕部監修「工事写真の撮り方 建築設備編」 ○工事日報、納品伝票等の写しは監督員が提出を求めた場合に提出すること。 | 9 特記事項 | ※本工事に配置管理させる者（有資格者） ※特定化学物質等作業主任者（H18.3.31以前の講習修了者） 又は石綿作業主任者（H18.4.1以降の講習修了者） | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |
| ㉟ 鋼製電線管 | 特記なき鋼製電線管（E19、E25、…E75）の表示は全て薄鋼電線管とする。但し、屋内箇所においては、表示されているものと同一外形のものとし、電線管（E19、E25、…E75）を使用してもよい。 | | | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |
| ㊱ 呼び線 | 長さ1m以上の入線しない電線管には、1.2mm以上のビニル被覆鉄線管を挿入する。 | | | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |
| ㊲ 再使用機器 | 取り外し再使用機器は、清掃及び絶縁測定の上、取り付ける。 ただし、絶縁劣化等使用に耐えない場合は、監督職員に報告する。 | | | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |
| 40 タンブラスイッチ | タンブラスイッチは、図面に特記なき場合、ネーム付とする。 | | | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |
| ㊳ 配線器具等 | 配線器具（スイッチ、コネクタ）の現場納り等による仕様、数量については監督職員の承諾を受けて変更してもさしつかえない。 | | | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |
| ㊴ 機器仕様 | 使用機器の製造者選定による若干の仕様の相違は、監督職員の承諾を得れば、可とする。 | | | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |
| ㊵ 合成樹脂管配線 | 合成樹脂製可とう電線管及び付属品は、P F管（単層管）の波付管以上を使用する。 | | | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |
| ㊶ 位置ボックス | 位置ボックスで金属製を使用する場合、電力用には接地を施す。 | | | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |
| 45 最上階の埋込配管 | 最上階の天井スラブへの埋込配管は、原則として避けるものとする。 | | | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |
| ㊷ 既設との取合い | 本工事施工に伴う既設設備の軽微な加工改造は、本工事とする。 | | | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |
| 47 自家発電設備の配管工事等 | 原動機、発電機と付属各機器間の燃料油、冷却水などの配管、制御用配線等は、監督員の承諾を受けて図面と多少相違してもさしつかえない。 | | | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |
| 48 地中配線の埋設深さ等 | 埋設深さは原則0.6m以上とし、それにより難い場合は監督員と協議し決定すること。 地中配管に埋設保護シート（2倍）を ・設ける | | | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |
| ㊸ 施工条件 | 電気設備の改修等のため、在来設備を一時停止させる必要がある場合は、予めその時期、停止の範囲及び工法等を施設管理者などの関係者と打ち合わせ、場内によっては停電計画等を提出し、承諾を得たうえで作業を行うものとし、施設の運営に支障を来さないよう特に注意する。 1. 施工可能日 ・土、日曜日、祝日施工有り ・指定なし ○建築工事の工事仕様書による 2. 施工可能時間帯 ・指定有り（ 時～ 時） ・指定なし ○建築工事の工事仕様書による ・その他（ ） 3. 工事施工中でも大雨等の緊急時は施設としての機能（排水）を優先するため一時中断する場合がある。 ○高さ5mを超える箇所での作業を有する場合の落下防止用具は7mH仕様を使用すること。 | | | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |
| 50 地中配線の埋設機 | 構内構路における埋設機材の材質及びその個数は、図面に記載のない場合は次による。 ・鉄製（ 箇所） ・ｺﾝｸﾘｰﾄ製（ 箇所） | | | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |
| ㊹ 資材購入及び下請業者の選定に際しての留意事項 | 資材購入及び工事の一部を下請業者にて施工する場合、業者の選定に際しては、できる限り市内業者を優先させること。 | | | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |
| 52 一般照明的照度測定 | 一般照明的照度測定を行う。照度測定箇所は、監督職員の指示による。 | | | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |
| ㊺ 施工図等の取扱い | 施工図等の著作権に関わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。 | | | 個人情報の取り扱いに関する事項 この契約による業務を行うに当たり個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取り扱う場合には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。 |

| | | | |
|------|-----------------|-----------|--------|
| 事業名 | 令和4年度公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市 大字塩浜 地内 | | |
| 名称 | 建築電気設備 特記仕様書（2） | | |
| 縮尺 | - | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | 設計者 | (株) N J S | |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | AE-02 |

株式会社NUS名古屋総合事務所一級建築士事務所
一級愛知県知事登録（いー27）第7016号
一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修前



改修前 1階平面図 1:100

凡例

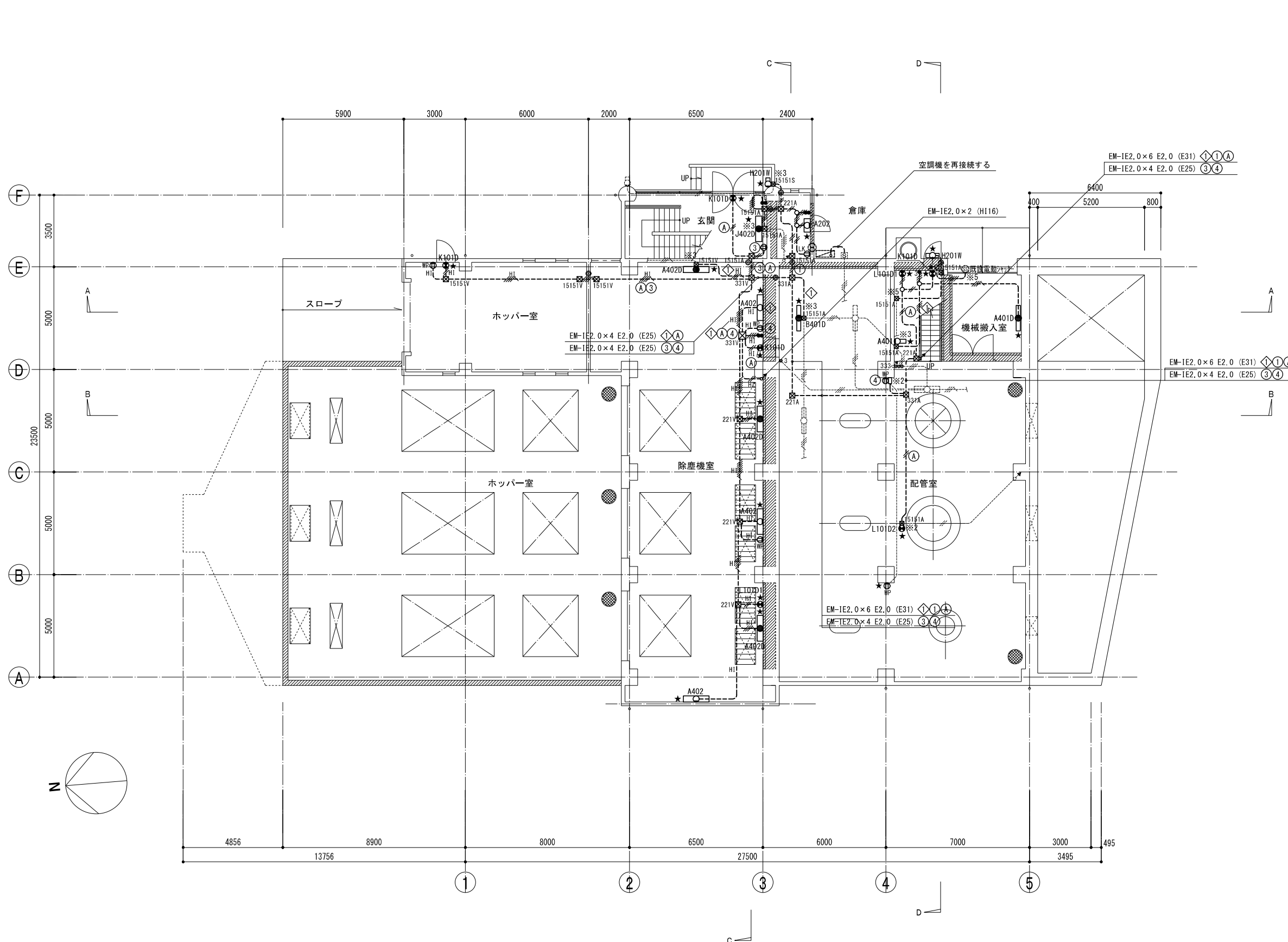
| 記号 | 名称 |
|-----|-----------------------------|
| ◻ | 分電盤 |
| ○ | 照明器具 天井付 1灯用.2灯用 |
| ◻ | 照明器具 壁付 1灯用.2灯用 |
| ◻ | 非常照明器具 兼用形 電池内蔵 |
| ◻ | 照明器具 投光器 |
| ● | 誘導灯 電池内蔵 |
| ● | 埋込スイッチ 1P15A.3W15A |
| ● | 埋込コンセント 2P15A×1.2P15A×2 |
| ● | 埋込コンセント 2P15A(接地極付)×2 |
| ● | 埋込コンセント 2P15A(抜止)×1 |
| ● | 防雨コンセント 2P15A(接地極付・抜止)×2+ET |
| ● | 換気扇(建築機械設備) |
| ◻ | 開閉器箱 |
| ◻ | 空調機(建築機械設備) |
| ◻ | シャッター(建築) |
| ◻ | シャッタースイッチ |
| ◻ | 端子盤 |
| ◻ | 電話主装置 |
| ◻ | 複合受信機 P型1級10回線 |
| ◻ | 総合盤 P型1級(露出型) |
| ◻ | 差動式漏電感知器 2種 |
| ◻ | 煙感知器 2種 |
| ◻ | 煙感知器 3種 |
| ◻ | 自動閉鎖装置 防火シャッター(建築) |
| --- | 配管配線(隠蔽) |
| --- | 配管配線(床隠蔽) |
| --- | 配管配線(露出) |
| ◻ | ジョイントボックス 中継ボックス |
| ◻ | フックボックス |
| ↑↓ | 引下げ・立上り |

- × : 撤去を示す(打込配管部分は配線のみとする)
 ★ : 取外しする機器を示す
- 配管配線凡例**
- : 2.0×2 E2.0 (C19)
 - : 2.0×3 E2.0 (C25)
 - : 2.0×4 E2.0 (C25)
 - : 2.0×5 E2.0 (C25)
 - : 2.0×6 E2.0 (C31)
 - : 2.0×8 E2.0 (C31)
 - : 2.0×2 (C19)
 - : 2.0×3 (C19)
 - : 2.0×4 (C25)
 - : AE1.2-2C (C19)
 - : AE1.2-4C (C19)
 - : HP1.2-3C (C19)
 - : HP1.2-5C (C25)
 - : HP0.9-5P (C25)
 - : HP0.9-10P (C31)
 - : 2.0×2 E2.0 (C19)
 - : 2.0×4 E2.0 (C25)
 - : 2.0×2 (C19)
 - : 2.0×2 (HIVE16)
 - : CV3.5"-2C E2.0 (HIVE22)
- 照明器具凡例**
- A401 : 蛍光灯 FL40W×1 露出(トフ)
 - A402 : 蛍光灯 FL40W×2 露出(トフ)
 - A202 : 蛍光灯 FL20W×2 露出(トフ)
 - A401D : 蛍光灯 FL40W×1 露出(トフ) 電池内蔵
 - A402D : 蛍光灯 FL40W×2 露出(トフ) 電池内蔵
 - B401D : 蛍光灯 FL40W×1 ハイ吊 電池内蔵
 - C402 : 蛍光灯 FL40W×2 露出(V形)
 - H201W : 蛍光灯 FL20W×1 屋外フラットカバー付
 - J402D : 蛍光灯 FL40W×2 階段通路誘導灯 壁付 電池内蔵
 - K101D : 蛍光灯 FL10W×1 避難口誘導灯 片面 電池内蔵
 - L101D1 : 蛍光灯 FL10W×1 通路誘導灯 片面 電池内蔵
 - L101D2 : 蛍光灯 FL10W×1 通路誘導灯 両面 ハイ付 電池内蔵
- フックボックス凡例**
- 2205 : 200×200×50 埋込
 - 221V : 200×200×100 樹脂製

| | | | |
|------|------------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市 大字塩浜 地内 | | |
| 名称 | 建築電気設備 改修前 1階平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | AE-03 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録(い-27)第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修後



凡例

| 記号 | 名称 |
|-----|-----------------------------|
| ◻ | 分電盤 |
| ○ | 照明器具 天井付 1灯用.2灯用 |
| ◻ | 照明器具 壁付 1灯用.2灯用 |
| ◻ | 非常照明器具 兼用形 電池内蔵 |
| ◻ | 照明器具 投光器 |
| ● | 誘導灯 電池内蔵 |
| ● | 埋込スイッチ 1P15A.3W15A |
| ● | 埋込コンセント 2P15A×1.2P15A×2 |
| ● | 埋込コンセント 2P15A(抜止)×1 |
| ● | 防雨コンセント 2P15A(接地極付・抜止)×2+ET |
| ● | 換気扇(建築機械設備) |
| ◻ | 開閉器箱 |
| ◻ | 空調機(建築機械設備) |
| ◻ | シャッター(建築) |
| ◻ | シャッタースイッチ |
| ◻ | 端子盤 |
| ◻ | 電話主装置 |
| ◻ | 複合受信機 P型1級10回線 |
| ◻ | 総合盤 P型1級(露出型) |
| ◻ | 差動式スポット型感知器 2種 |
| ◻ | 煙感知器 2種 |
| --- | 配管配線(隠蔽) |
| --- | 配管配線(露出) |
| --- | ケーブル配線 |
| ◻ | フック |
| ◻ | 露出スイッチボックス(配線接続・配線器具取付用) |
| ○ | 丸形露出ボックス |
| ↕ | 引下げ・立上り |
| ● | はつり補修 |

- ★ : 取外した機器の再取付を示す
- ※1 : 既設フックの前にフックを新設して既設配線と新設配線を接続する
- ※2 : 既設機器の埋込ボックスの前にボックスを新設して既設配線と新設配線を接続する、及び機器を更新する
- ※3 : 既設機器の埋込ボックスの前にボックスを新設して既設配線と新設配線を接続する、及び機器を再取付する
- ※4 : ボックスを新設して既設配線を接続する
- ※5 : 既設機器に新設配線を接続する

改修しない箇所は破線とする

配管配線凡例

| | | |
|-----|-----------------------------|--------|
| --- | EM-IE2.0×6 E2.0 (E31) | (PF22) |
| --- | EM-IE2.0×2 E2.0 (E19) | |
| --- | EM-IE2.0×3 E2.0 (E25) | |
| --- | EM-IE2.0×4 E2.0 (E25) | |
| --- | EM-IE2.0×5 E2.0 (E25) | |
| --- | EM-IE2.0×2 (E19) | |
| --- | EM-IE2.0×3 (E19) | |
| --- | EM-IE2.0×4 (E25) | |
| --- | EM-IE2.0×5 (E25) | |
| --- | EM-HP0.9-10P (E31) | |
| --- | EM-IE2.0×2 E2.0 (HIVE16) | |
| --- | EM-IE2.0×3 E2.0 (HIVE22) | |
| --- | EM-IE2.0×4 E2.0 (HIVE22) | |
| --- | EM-IE2.0×5 E2.0 (HIVE22) | |
| --- | EM-IE2.0×7 E2.0 (HIVE28) | |
| --- | EM-IE2.0×2 (HIVE16) | |
| --- | EM-IE2.0×3 (HIVE16) | |
| --- | EM-IE2.0×4 (HIVE22) | |
| --- | EM-EEF2.0-3C (壁・貫通部はE25で保護) | |
| --- | EM-AE1.2-4C (壁・貫通部はE19で保護) | |
| --- | EM-HP0.9-10P (壁・貫通部はE31で保護) | |
| --- | 天井から立下部は1種金属線びで保護 | |
| --- | 天井から立下部は1種金属線びBで保護 | |

フック凡例

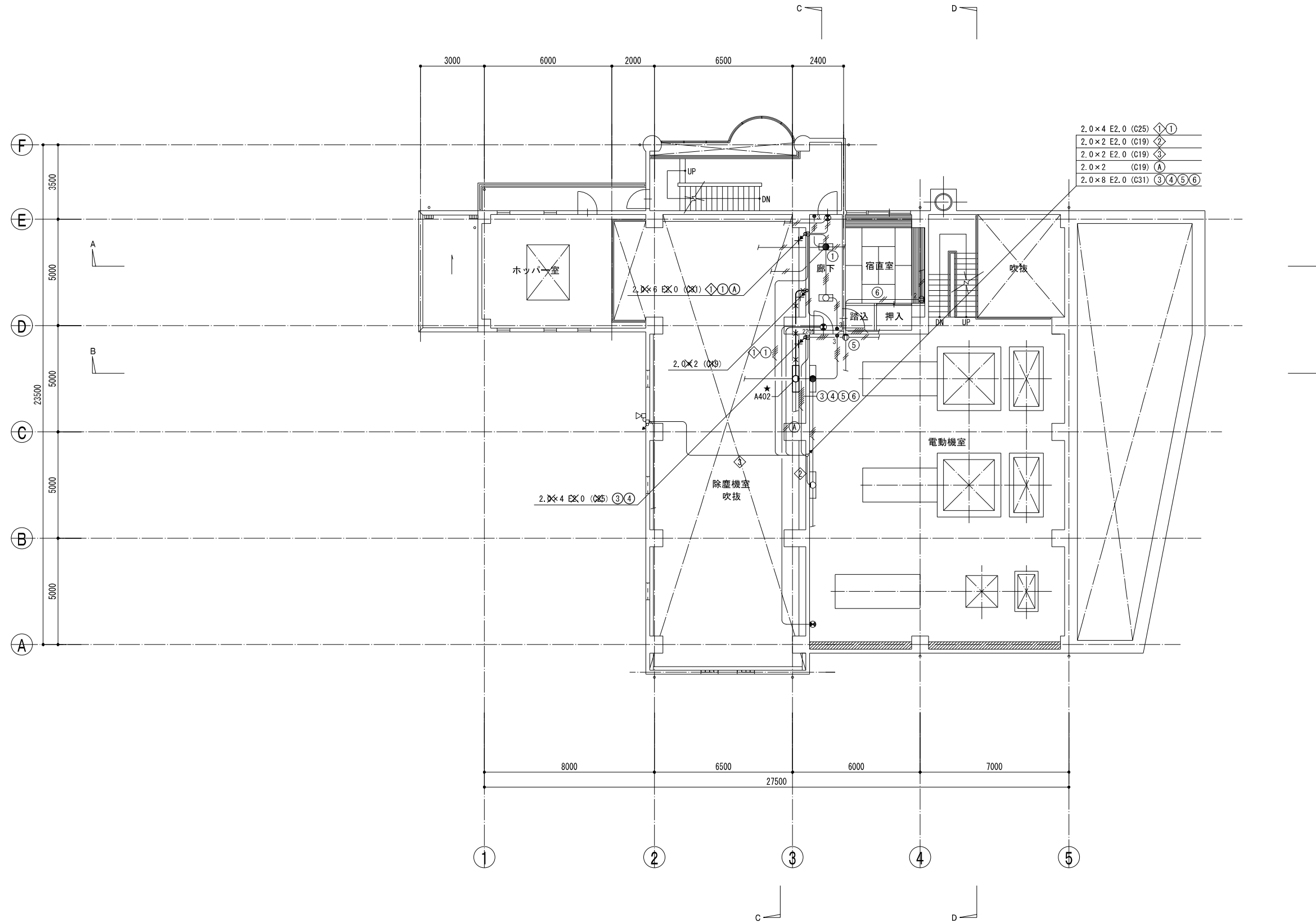
| | | |
|---|--------|---------------------|
| ◻ | 15151A | 150×150×100 鋼板製 塗装共 |
| ◻ | 221A | 200×200×100 鋼板製 塗装共 |
| ◻ | 331A | 300×200×100 鋼板製 塗装共 |
| ◻ | 15151V | 150×150×100 樹脂製 |
| ◻ | 221V | 200×200×100 樹脂製 |
| ◻ | 331V | 300×200×100 樹脂製 |
| ◻ | 15151S | 150×150×100 SUS.WP |

改修後 1階平面図 1:100

| | |
|------|------------------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市 大字塩浜 地内 |
| 名称 | 建築電気設備 改修後 1階平面図 |
| 縮尺 | 1/100 |
| 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | 設計者 (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 AE-04 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録(い-27)第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修前

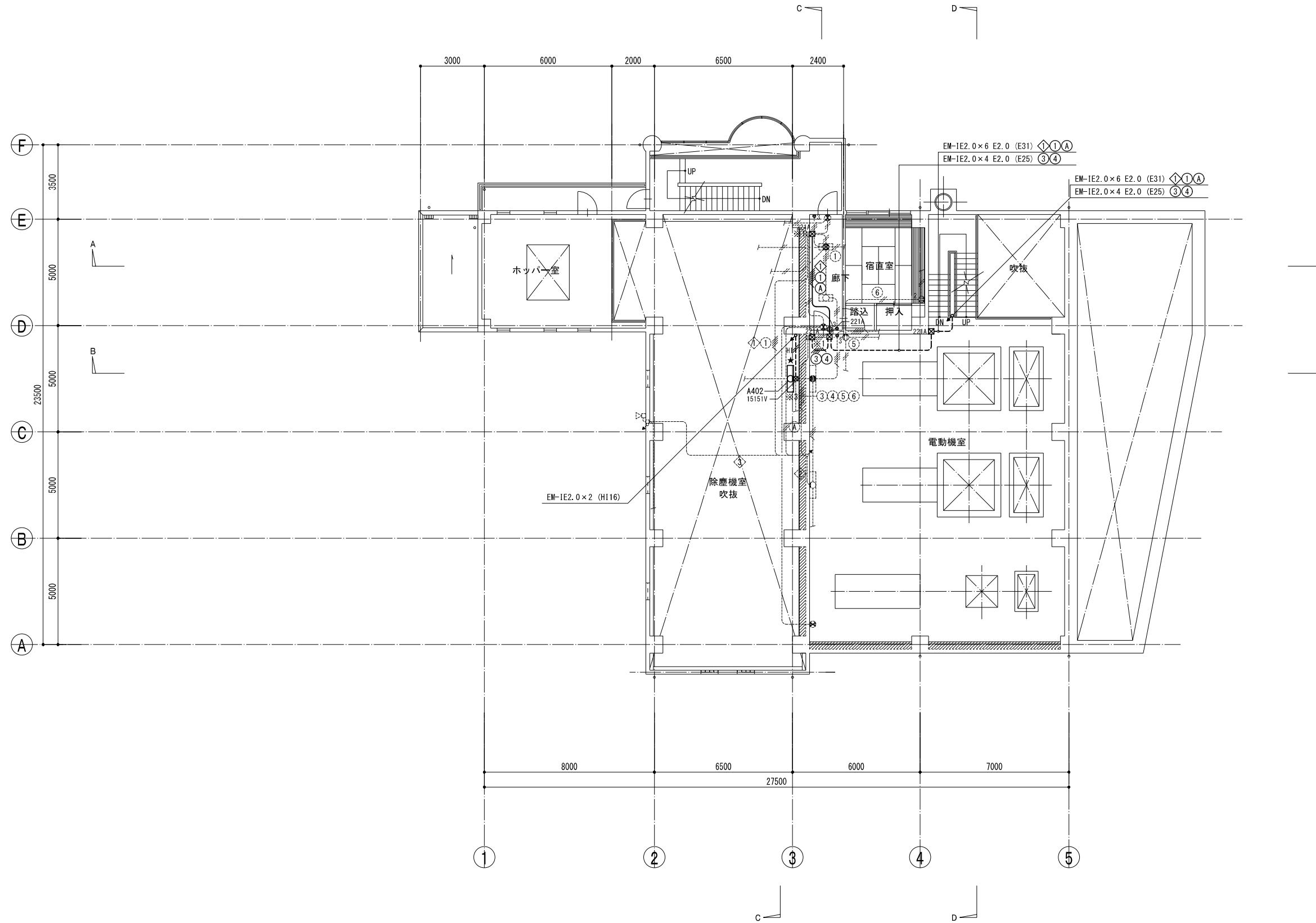


改修前 2階平面図 1:100

| | | | |
|------|------------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市 大字塩浜 地内 | | |
| 名称 | 建築電気設備 改修前 2階平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | AE-05 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録(い-27)第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修後

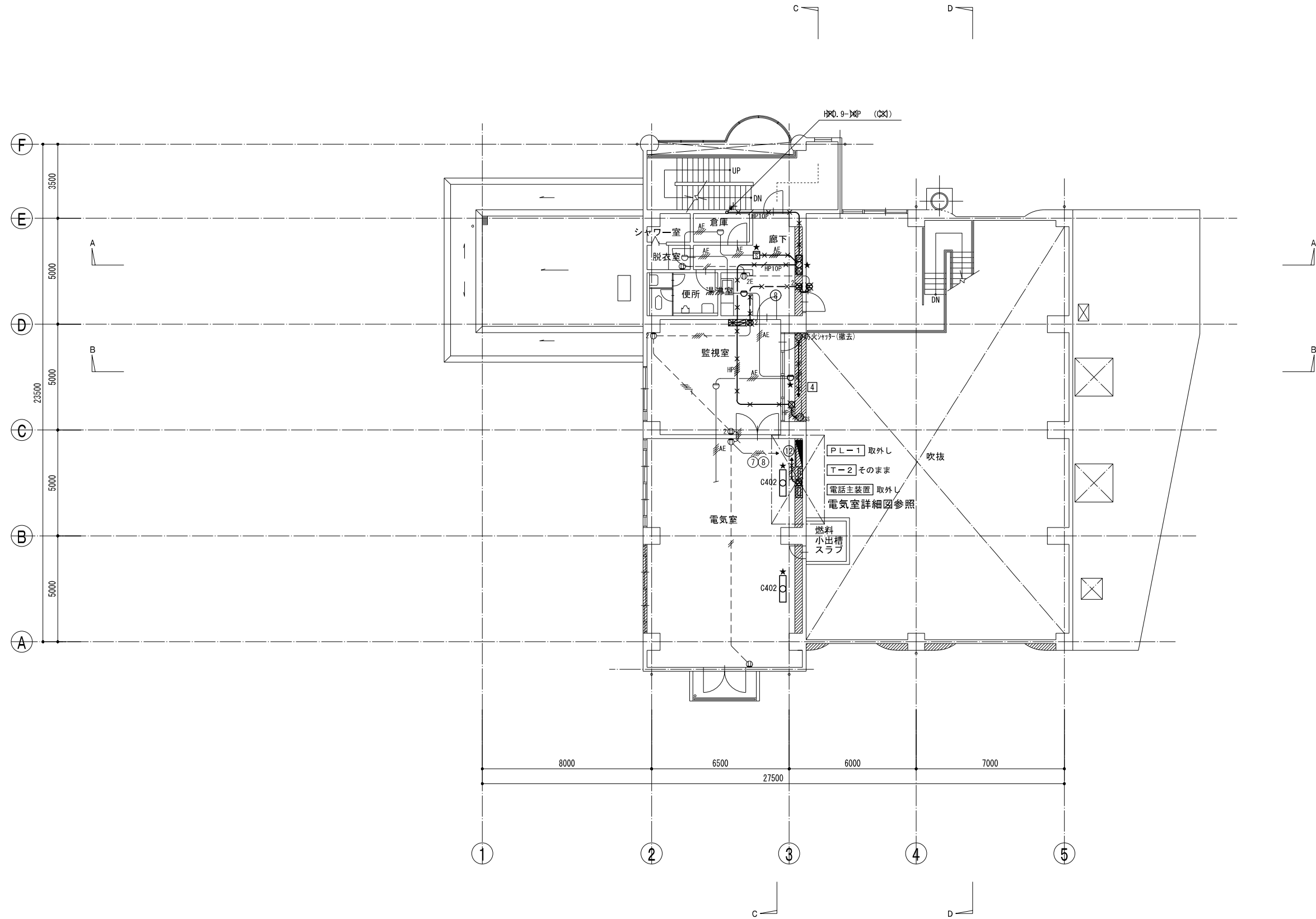


改修後 2階平面図 1:100

| | | | |
|------|------------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市 大字塩浜 地内 | | |
| 名称 | 建築電気設備 改修後 2階平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | AE-06 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録(い-27)第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修前

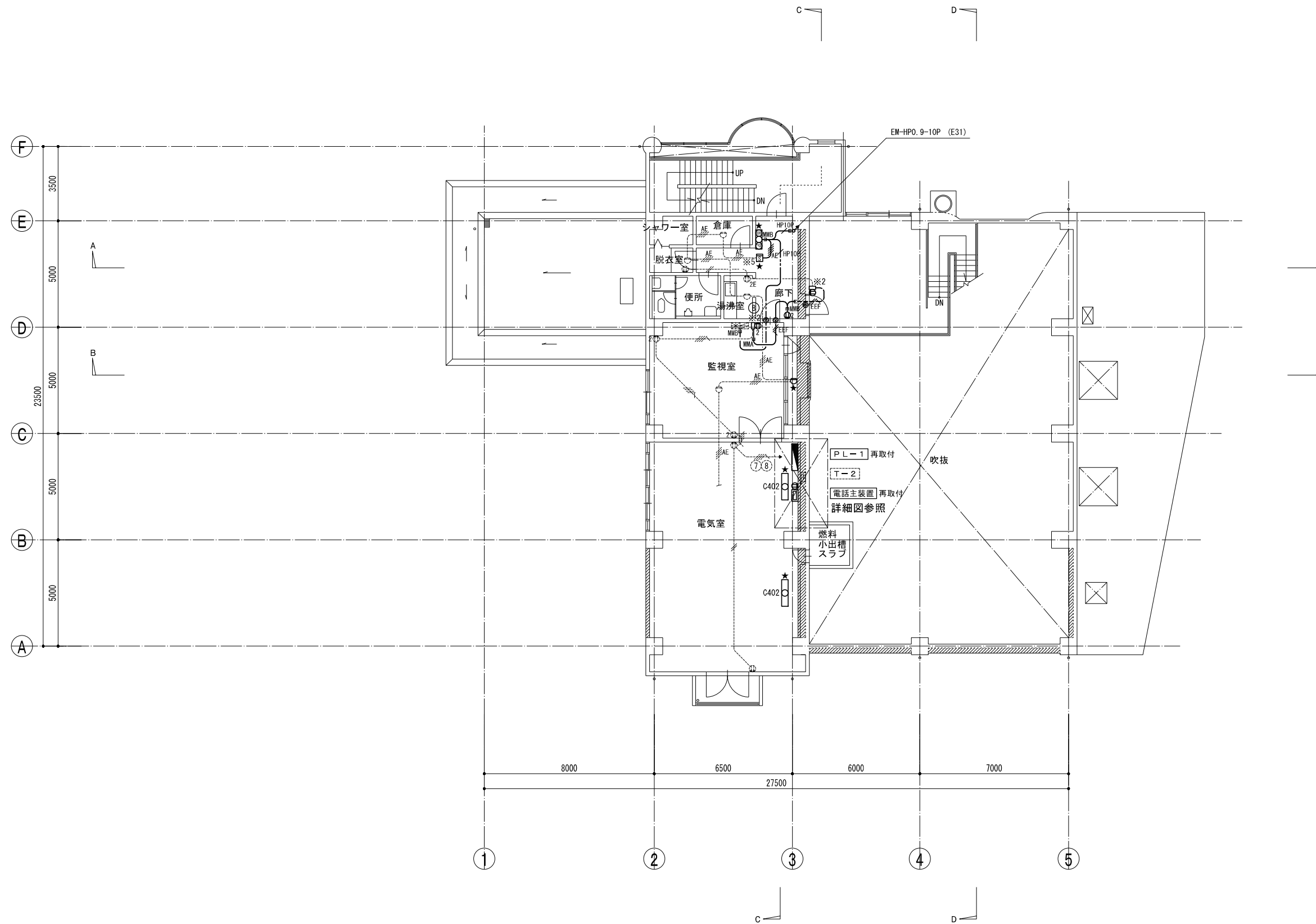


改修前 3階平面図 1:100

| | | | |
|------|------------------|------|--------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市 大字塩浜 地内 | | |
| 名称 | 建築電気設備 改修前 3階平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株)NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | AE-07 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録(い-27)第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修後

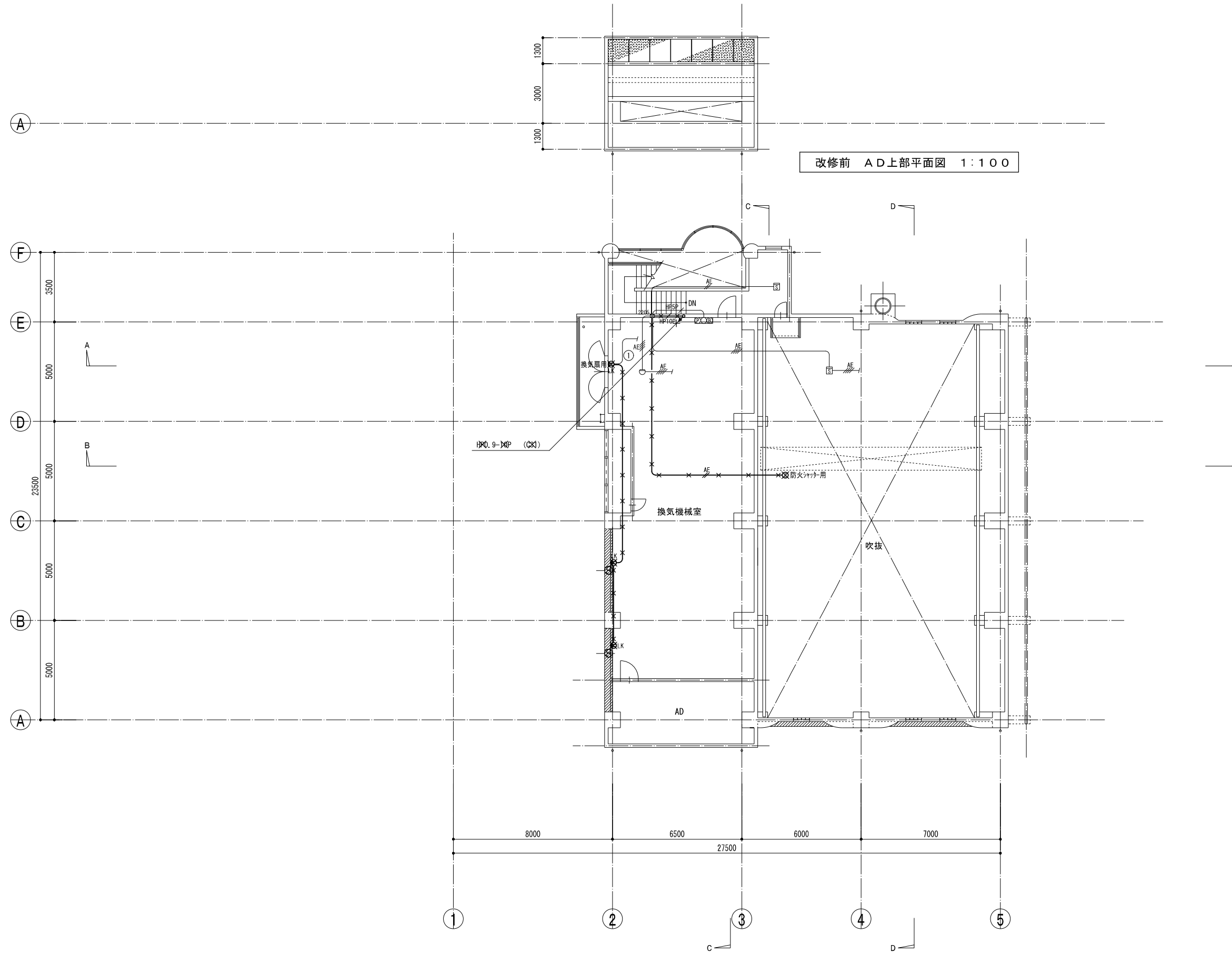


改修後 3階平面図 1:100

| | | | |
|------|------------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市 大字塩浜 地内 | | |
| 名称 | 建築電気設備 改修後 3階平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | AE-08 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (L-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修前



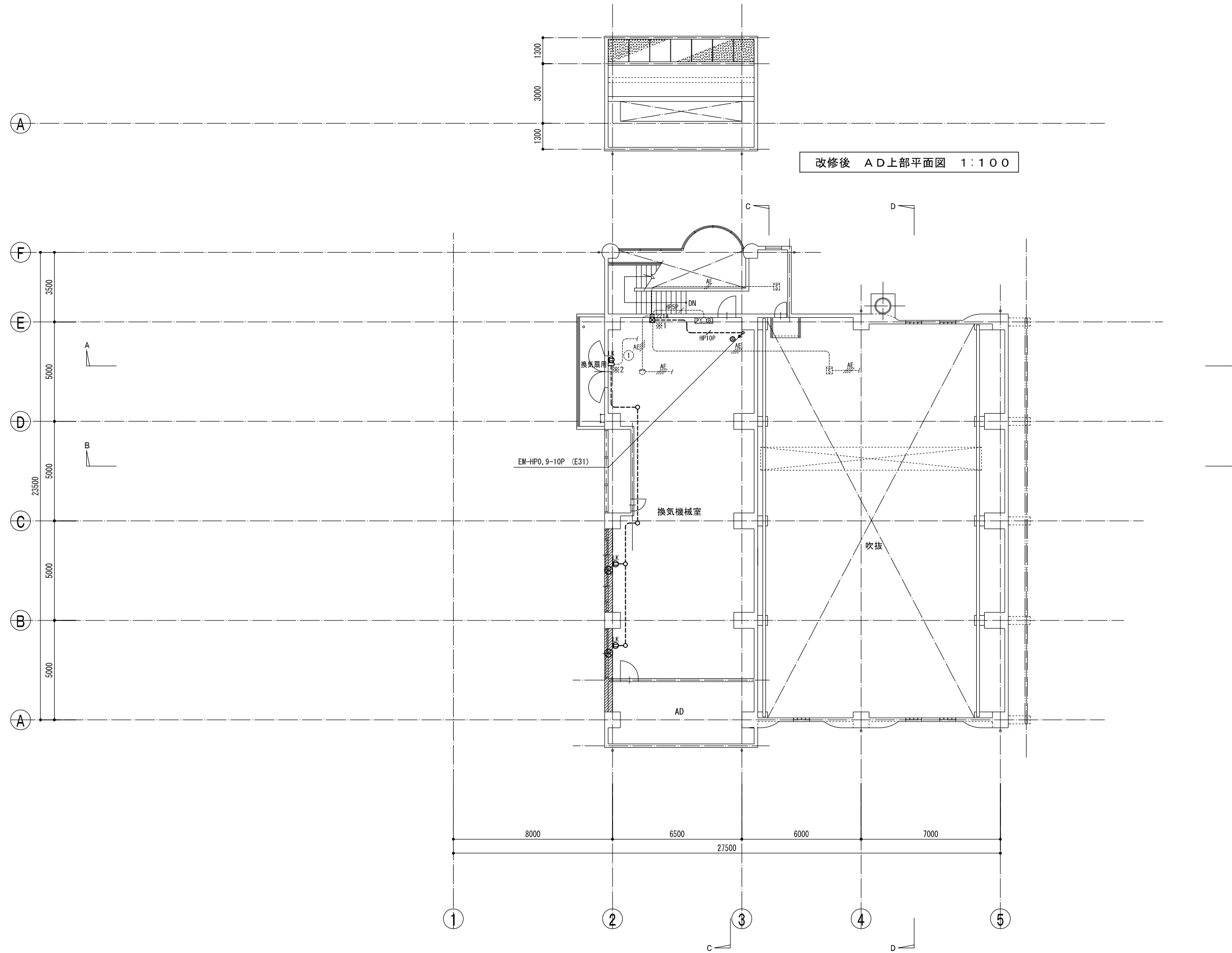
改修前 AD上部平面図 1:100

改修前 4階平面図 1:100

| | | | |
|------|------------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市 大字塩浜 地内 | | |
| 名称 | 建築電気設備 改修前 4階平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | AE-09 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (L-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修後



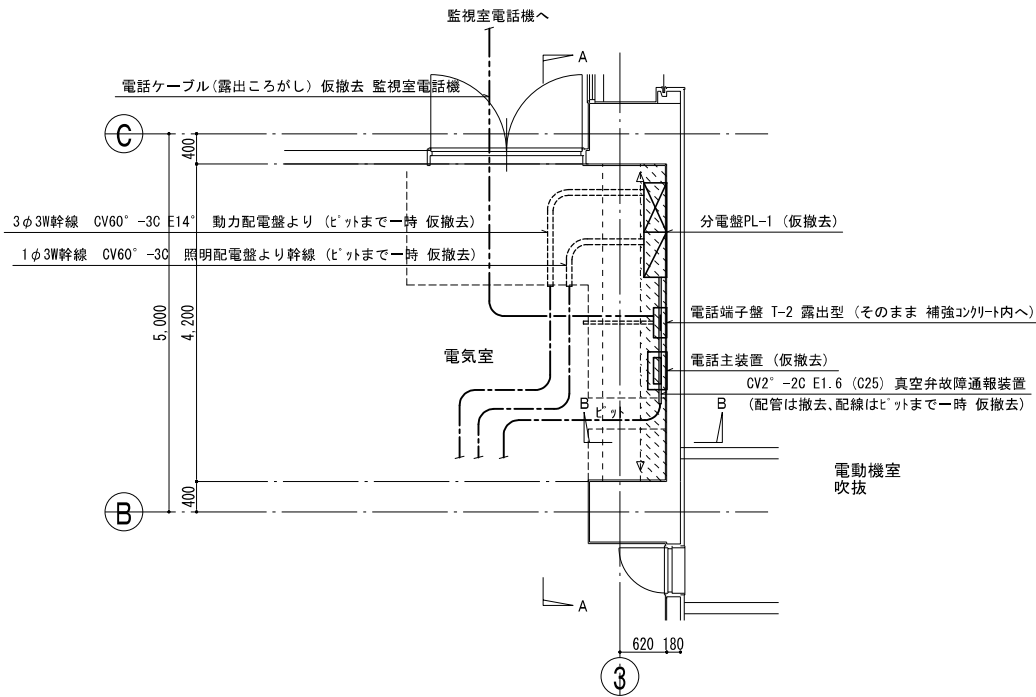
改修後 AD上部平面図 1:100

改修後 4階平面図 1:100

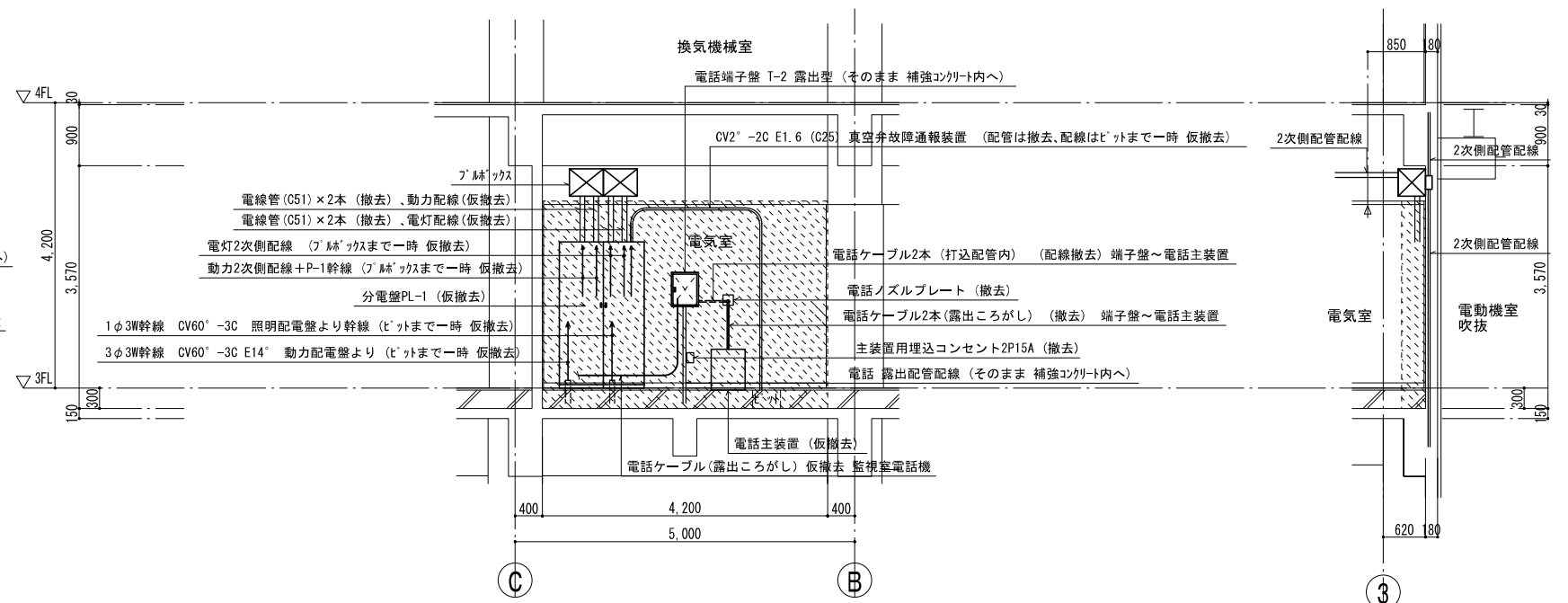
| | | | |
|------|------------------|------|---------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 | | |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 | | |
| 工事場所 | 四日市市 大字塩浜 地内 | | |
| 名称 | 建築電気設備 改修後 4階平面図 | | |
| 縮尺 | 1/100 | 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | | 設計者 | (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 | 図面番号 | AE-10 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録 (L-27) 第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

改修前(電気室詳細図)

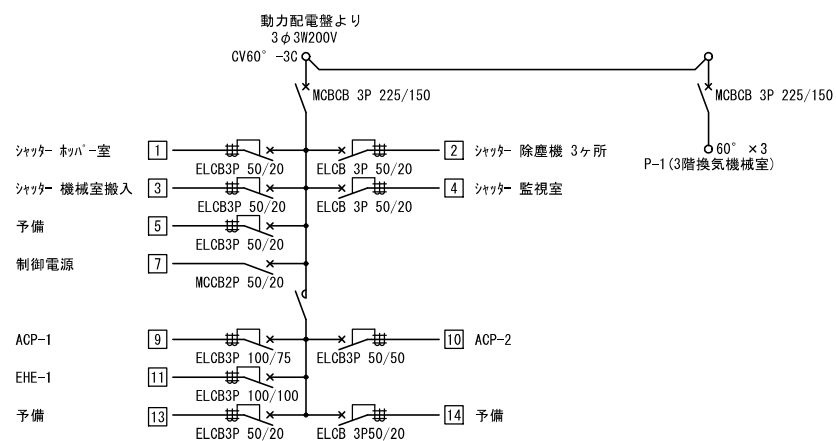


詳細図 1:50

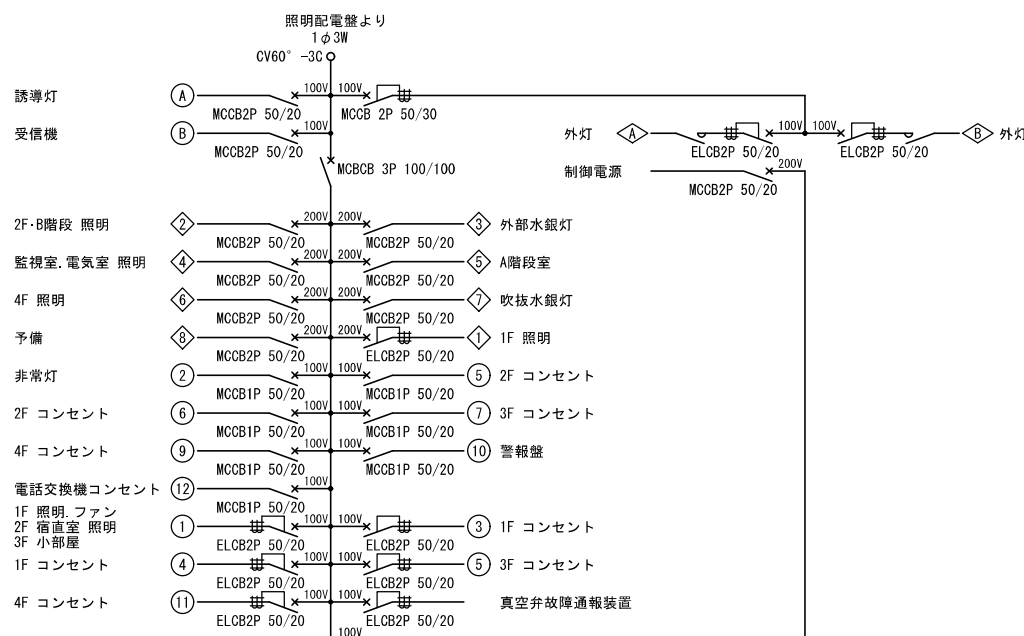


A-A

B-B



分電盤(PL-1)結線図



動力2次側配線+P-1幹線(盤~ﾌﾞﾙｯｸｽ)

| 配線 | 配管 | 備考 |
|------------------------|-----|----------|
| 60" × 3 E14" P-1 (C51) | 仮撤去 | 撤去 |
| CVV2" -2C P-1 | 仮撤去 | |
| CVV2" -10C P-1 | 仮撤去 | |
| 2.0 × 3 E2.0 1 | 仮撤去 | |
| 2.0 × 3 E2.0 2 | 仮撤去 | |
| 2.0 × 3 E2.0 2 | 仮撤去 | |
| 2.0 × 3 E2.0 2 | 仮撤去 | (C51) 撤去 |
| 2.0 × 3 E2.0 3 | 仮撤去 | |
| 2.0 × 3 E2.0 4 | 撤去 | |
| 5.5" × 3 E2.0 9 | 仮撤去 | |
| 2.0 × 3 E2.0 10 | 仮撤去 | |
| 14" × 3 E2.0 11 | 仮撤去 | |

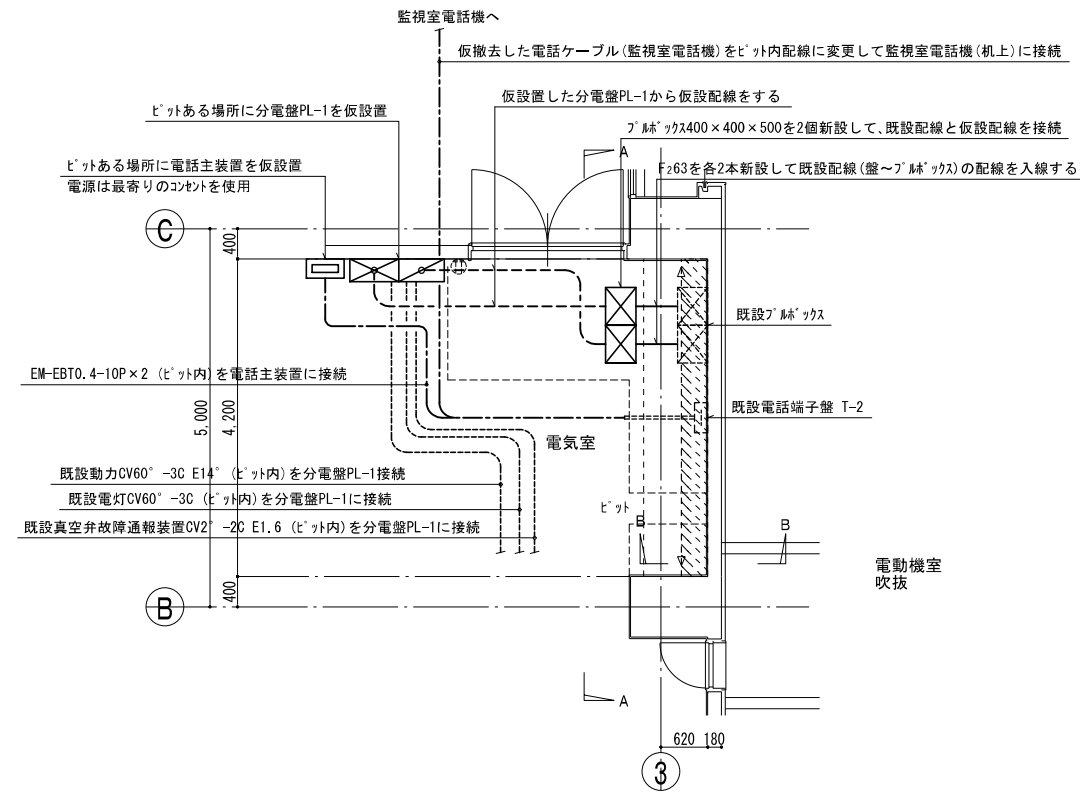
電灯2次側配線(盤~ﾌﾞﾙｯｸｽ)

| 配線 | 配管 | 備考 |
|------------------------------|-----------|----|
| 2.0 × 2 (A) | 仮撤去 | |
| 2.0 × 4 E2.0 (1) (1) | 仮撤去 | |
| 2.0 × 2 E2.0 (2) | 仮撤去 | |
| 2.0 × 2 E2.0 (3) | 仮撤去 | |
| 2.0 × 2 E2.0 (4) | 仮撤去 | |
| 2.0 × 2 E2.0 (5) | 仮撤去 | |
| 2.0 × 2 E2.0 (6) | 仮撤去 | |
| 2.0 × 2 E2.0 (7) | 仮撤去 | |
| 2.0 × 2 (2) | (C51) × 2 | 撤去 |
| 2.0 × 2 E2.0 (B) | 仮撤去 | |
| 2.0 × 8 E2.0 (3) (4) (5) (6) | 仮撤去 | |
| 2.0 × 4 E2.0 (7) (8) | 仮撤去 | |
| 2.0 × 2 (9) | 仮撤去 | |
| 2.0 × 2 E2.0 (10) | 仮撤去 | |
| 2.0 × 2 E2.0 (11) | 仮撤去 | |
| 2.0 × 2 (12) | 撤去 | |
| CV3.5" -2C (A) | 仮撤去 | |
| CV3.5" -2C (B) | 仮撤去 | |

| | |
|------|-------------------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市 大字塩浜 地内 |
| 名称 | 建築電気設備 改修前 電気室詳細図 |
| 縮尺 | 1/50 |
| 設計年月 | 令和 年月 |
| 工種 | 設計者 (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 AE-11 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
 一級愛知県知事登録(イ-27)第7016号
 一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

工事期間中仮設設備(電気室詳細図)



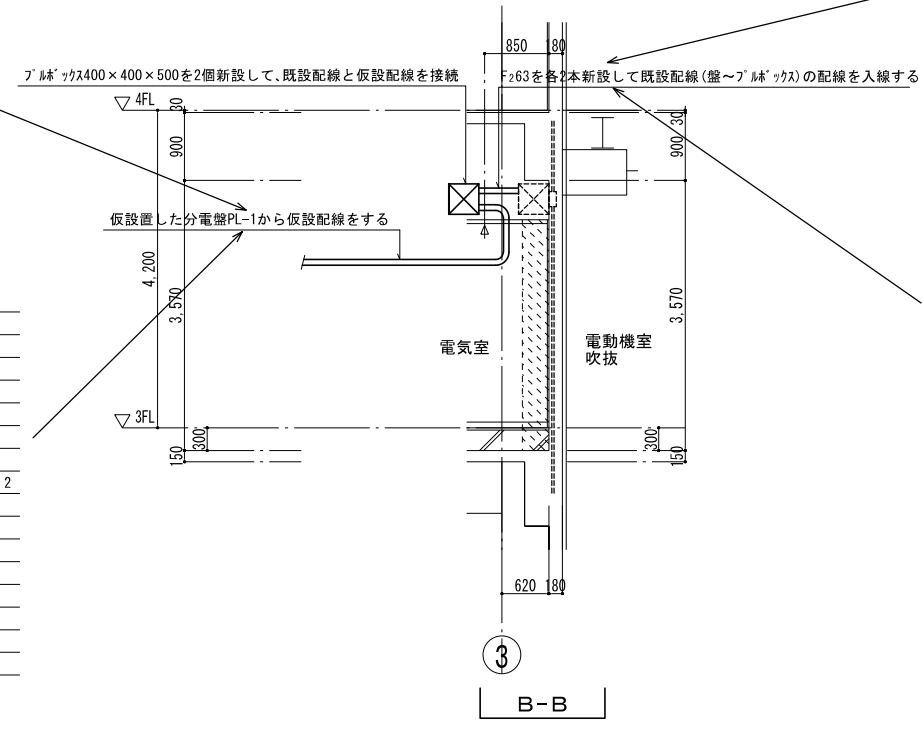
詳細図 1:50

分電盤PL-1〜フッ素ケーブル(動力)

| |
|-------------------------------|
| EM-IE 60° × 3 E14° P-1 (F263) |
| EM-OEE2° -2C P-1 |
| EM-OEE2° -10C P-1 |
| EM-IE 2.0×3 E2.0 1 |
| EM-IE 2.0×3 E2.0 2 |
| EM-IE 2.0×3 E2.0 2 (F263) |
| EM-IE 2.0×3 E2.0 3 |
| EM-IE 5.5° × 3 E2.0 9 |
| EM-IE 2.0×3 E2.0 10 |
| EM-IE 14° × 3 E2.0 11 |

分電盤PL-1〜フッ素ケーブル(電灯)

| |
|----------------------------------|
| EM-IE 2.0×2 (A) |
| EM-IE 2.0×4 E2.0 1 |
| EM-IE 2.0×2 E2.0 2 |
| EM-IE 2.0×2 E2.0 3 |
| EM-IE 2.0×2 E2.0 4 |
| EM-IE 2.0×2 E2.0 5 |
| EM-IE 2.0×2 E2.0 6 |
| EM-IE 2.0×2 E2.0 7 |
| EM-IE 2.0×2 (2) (F263) × 2 |
| EM-IE 2.0×2 E2.0 (B) |
| EM-IE 2.0×8 E2.0 (3) (4) (5) (6) |
| EM-IE 2.0×4 E2.0 (7) (8) |
| EM-IE 2.0×2 (9) |
| EM-IE 2.0×2 E2.0 (10) |
| EM-IE 2.0×2 E2.0 (11) |
| EM-IE 2.0×2 (A) |
| EM-IE 2.0×2 (B) |



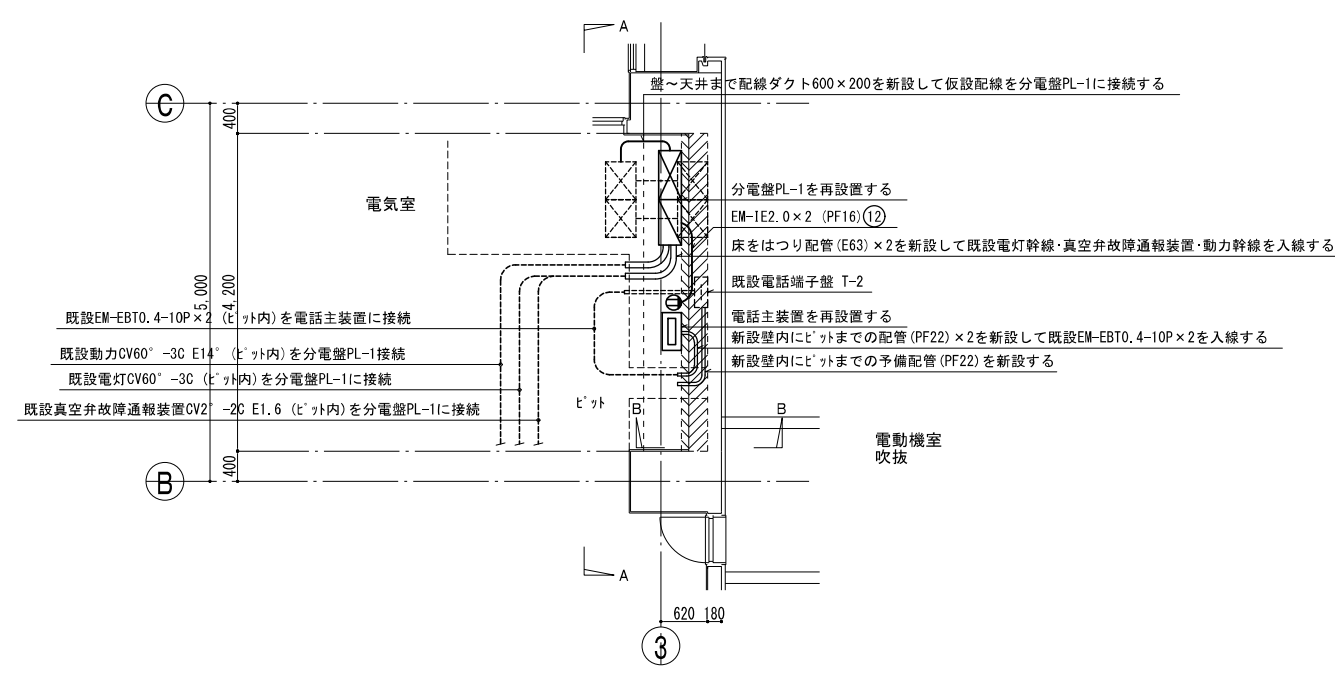
フッ素ケーブル〜既設フッ素ケーブル(動力)

| |
|----------------------------|
| 既設 60° × 3 E14° P-1 (F263) |
| 既設 CV2° -2C P-1 |
| 既設 CV2° -10C P-1 |
| 既設 2.0×3 E2.0 1 |
| 既設 2.0×3 E2.0 2 |
| 既設 2.0×3 E2.0 2 (F263) |
| 既設 2.0×3 E2.0 3 |
| 既設 5.5° × 3 E2.0 9 |
| 既設 2.0×3 E2.0 10 |
| 既設 14° × 3 E2.0 11 |

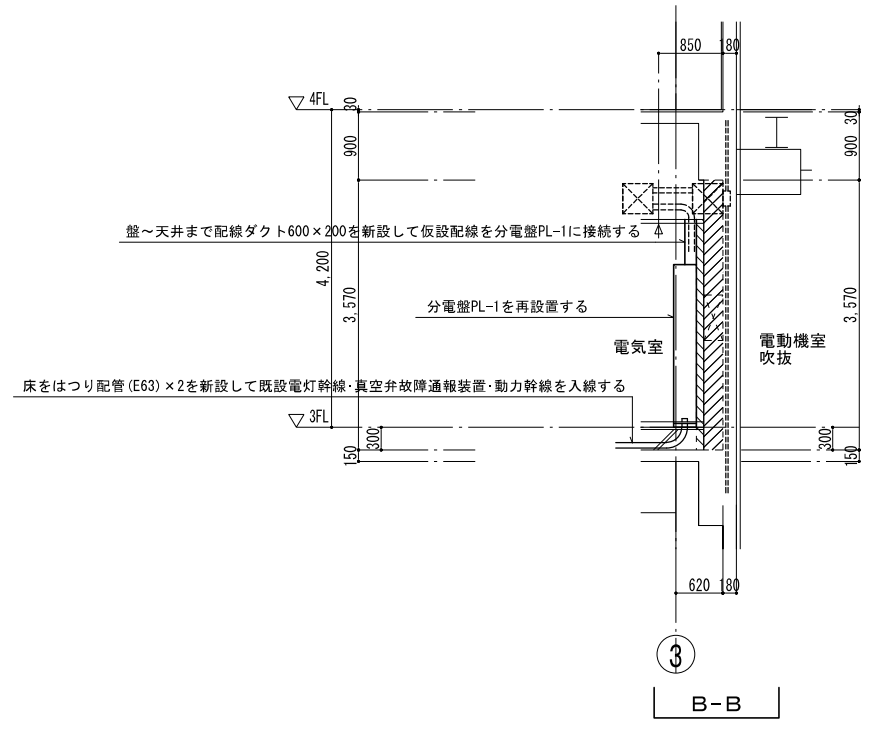
フッ素ケーブル〜既設フッ素ケーブル(電灯)

| |
|-------------------------------|
| 既設 2.0×2 (A) |
| 既設 2.0×4 E2.0 1 |
| 既設 2.0×2 E2.0 2 |
| 既設 2.0×2 E2.0 3 |
| 既設 2.0×2 E2.0 4 |
| 既設 2.0×2 E2.0 5 |
| 既設 2.0×2 E2.0 6 |
| 既設 2.0×2 E2.0 7 |
| 既設 2.0×2 (2) (F263) × 2 |
| 既設 2.0×2 E2.0 (B) |
| 既設 2.0×8 E2.0 (3) (4) (5) (6) |
| 既設 2.0×4 E2.0 (7) (8) |
| 既設 2.0×2 (9) |
| 既設 2.0×2 E2.0 (10) |
| 既設 2.0×2 E2.0 (11) |
| 既設 CV3.5° -2C (A) |
| 既設 CV3.5° -2C (B) |

改修後(電気室詳細図)



詳細図 1:50



| | |
|------|-----------------------------|
| 事業名 | 令和4年 公共下水道事業 |
| 工事名 | 磯津第1ポンプ場耐震補強工事 |
| 工事場所 | 四日市市 大字塩浜 地内 |
| 名称 | 建築電気設備 工事期間中仮設設備・改修後 電気室詳細図 |
| 縮尺 | 1/50 |
| 設計年月 | 令和 年 月 |
| 工種 | 設計者 (株) NJS |
| 事業主体 | 四日市市 図面番号 AE-12 |

株式会社NJS名古屋総合事務所一級建築士事務所
一級愛知県知事登録(イ-27)第7016号
一級建築士登録 第247519号 管理建築士 秋田豊

特例監理技術者等の配置

1. 本工事において、建設業法第26条第3項ただし書の規定の適用を受ける監理技術者（以下「特例監理技術者」という。）の配置を行う場合は、（1）～（12）の要件を全て満たさなければならない。ただし、兼務する工事は特例監理技術者の配置が可能な工事であること。（兼務する工事の発注機関に技術者の配置について確認済であること。）
 - （1） 建設業法第26条第3項ただし書による監理技術者の職務を補佐する者（以下、「監理技術者補佐」という。）を専任で配置すること。
 - （2） 監理技術者補佐は、一級施工管理技士補又は一級施工管理技士等の国家資格者、学歴や実務経験により監理技術者の資格を有するものであること。なお、監理技術者補佐の建設業法第27条の規定に基づく技術検定種目は、特例監理技術者に求める技術検定種目と同じであること。
 - （3） 監理技術者補佐は、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあること。
 - （4） 同一の特例監理技術者を配置できる工事の数は、本工事を含め同時に2件までであること。
 - （5） 低入札工事でないこと。
 - （6） 24時間体制での応急処理工や緊急巡回等が必要な工事でないこと。
 - （7） 兼務する工事の場所が特例監理技術者としての職務を適正に遂行できる範囲として、四日市市内であること。ただし、兼務する工事現場間を直線で結んだ距離が概ね10km以内である場合は、この限りではない。
 - （8） 公共工事であること。市発注工事に限らず、国・県・市町など公共機関等の発注工事も対象とする。
 - （9） 特例監理技術者は、施工における主要な会議への参加、現場の巡回及び主要な工程の立会等の職務を適正に遂行すること。
 - （10） 特例監理技術者と監理技術者補佐との間で常に連絡が取れる体制であること。
 - （11） 監理技術者補佐が担う業務等について明らかにすること。
 - （12） 現場の安全管理体制について、平成7年4月21日付基発第267号の2「元方事業者による建設現場安全管理指針」において、「統括安全衛生責任者の選任を要するときには、その事業場に専属の者とする。」とされていることから、施工体制に留意すること。
2. 本工事の監理技術者が特例監理技術者として他工事と兼務する場合は、現場代理人等選任（変更）通知書に加えて、（9）～（12）についての内容がわかる業務分担、連絡体制等を記載した施工計画書を提出すること。また、工事途中において配置を行う場合も同様とする。
3. 本工事において、特例監理技術者及び監理技術者補佐の配置を行う場合又は配置を要さなくなった場合は適切にコリンズ（CORINS）への登録を行うこと。

工事における新型コロナウイルス感染症の拡大防止措置等に関する特記仕様書

本工事における新型コロナウイルス感染症の拡大防止措置等については、以下により徹底を図るものとする。

- (1) 工事の円滑な施工確保を図る観点から、本工事の現場等のみならず関係する会社・事務所等も含め、現場状況などを勘案しつつ、アルコール消毒液の設置や不特定の者が触れる箇所の定期的な消毒、手洗い・うがいなど、感染予防の対応を徹底するとともに、すべての作業従事者等の健康管理に留意すること。
- (2) 新型コロナウイルス感染症については、特に、①密閉空間、②密集場所、③密接場面という3つの条件（以下「三つの密」という。）が同時に重なる場では、感染を拡大するリスクが高いことから、建設現場等における朝礼・点呼や現場事務所等における各種の打合せ、更衣室等における着替えや詰め所等での食事・休憩など、元請事業者をはじめ、下請事業者等の多人数が集まる場面や密室・密閉空間における作業などにおいては、他の作業従事者と一定の距離を保つことや作業場所の換気の励行など、三つの密の回避や影響を緩和するための対策に万全を期すこと。
- (3) 工事等の関係者が緊急事態措置・まん延防止等重点措置を実施すべき区域から作業等に従事する必要がある場合は、受発注者で協議を行い、感染拡大防止のための適切な対応をとること。
- (4) 感染拡大防止対策を実施するために追加で費用を要する場合は、設計変更の対象とする。ただし、感染防止については、事前に監督員と協議を行い有効な手段と認められる場合に施工計画書に記載した上で履行することを前提とする。
- (5) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、「工事の一時中止や工期の延長」が必要な場合には、監督員と協議を行うこと。
- (6) 作業従事者等が新型コロナウイルス感染症の感染者及び濃厚接触者（以下「感染者等」という。）であることが判明した場合は、速やかに監督員に報告すること。また、保健所等の指導に従い、感染者等の自宅待機などの適切な措置を講じること。

なお、感染者等であることが判明した場合は、本工事のみならず、受注者が本市と契約中の全ての工事について、一時中止の措置を行う場合がある。